

2025

TBGU シラバス

Faculty of Medical Science and Welfare
Department of Rehabilitation

医療福祉学部

リハビリテーション学科

目 次

※研究室は変更になる場合があります。

【医療福祉学部・リハビリテーション学科・理学療法専攻】

授業科目の名称 配当次 単位数 担当教員 (○印は科目代表者) ページ

2025 年度入学者用カリキュラム

基礎科目

・輝ける者	[1 通 選 2]	(○小野部 純・他)……………	1
・生命を考える	[1 前後 選 2]	(○中村 哲也・阿部 玄治・本多ふく代・大庭 みよ・秋本 和宏)…	2
・現代社会を視る	[1 前後 選 2]	(○山尾 貴則・豊田 正利・野崎 瑞樹・鑑 さやか・山川 樹・小淵 高志・黒沢 麻美・田中 茜)…	3
・生活の中の科学	[1 前後 選 2]	(○長田 俊明・沈 紅・鈴木 陽一・鈴木 伸夫・八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵・川村 広則・一條 佑介・二科 妃里・富山 正幸 相澤 康弘・古林 俊晃・家名田敏昭・浅井 仁・佐藤 秀隆・工藤 剛実 佐々木典子・高橋 るみ・深谷 碧) ……………	4
・経済・法律・世界を視る	[1 前後 選 2]	(○馬内 里美・田邊 文彦・ウォルグレイヴ イーライ)…	5
・社会活動入門	[1 前後 選 2]	(○加藤 由美・石垣 亨・石橋 千賀・他)……………	6
・データサイエンス入門	[1 前 必 2]	(○沼田 純希・黒後 裕彦・渡邊 晃久)……………	7
・医療情報科学	[1 後 選 1]	(鈴木 亮二)……………	8
・医療のための基礎数学	[1 前 選 2]	(○阿部 玄治・平山 和哉・沼田 純希)……………	9
・生活の中の物理学	[1 前 選 2]	(西澤 哲)……………	10
・生活の中の化学	[1 前 選 2]	(堂浦 克美)……………	11
・生活の中の生物学	[1 前 選 2]	(戸田 孝史)……………	12
・アカデミック・スキル演習	[1 通 必 2]	(○鈴木 博人・鈴木 誠・1 年 SA) ……………	13
・スポーツ実技	[1 前 選 1]	(○犬塚 剛・森田 清美・金田 幸夫・未定)……………	14
・心理学概論	[1 後 選 2]	(北川 公路)……………	15
・生命倫理学	[1 後 必 1]	(藤澤 宏幸)……………	16
・英語コミュニケーションⅠ	[1 前 必 1]	(○大野 朝子・大槻くるみ・フランク グッチェ・酒井 孝之)…	17
・英語コミュニケーションⅡ	[1 後 必 1]	(○大野 朝子・大槻くるみ・フランク グッチェ・酒井 孝之)…	18
・韓国語コミュニケーションⅠ	[1 前 選 1]	(李 恵慶)……………	19
・韓国語コミュニケーションⅡ	[1 後 選 1]	(李 恵慶)……………	20
・中国語コミュニケーションⅠ	[1 前 選 1]	(王 效紅)……………	21
・中国語コミュニケーションⅡ	[1 後 選 1]	(王 效紅)……………	22
・海外研修	[1 通 選 2]	(○増井三千代・立花顕一郎・王 元・鄭 舜玉)…	23
・コミュニケーション論	[1 前 選 2]	(呂本 俊亮)……………	24
・現代国語表現	[1 前 選 2]	(大泉 浩一)……………	25
・健康科学	[1 前 必 1]	(鈴木 誠)……………	26
・教育学	[1 前 選 2]	(佐々木真由美)……………	27
・哲学	[1 後 選 2]	(高山 馨)……………	28
・ジェンダー論	[1 後 選 2]	(川口かしみ)……………	29

専門基礎科目

・解剖学Ⅰ	[1 前 必 2]	(内藤 輝)……………	30
・解剖学実習	[1 前 必 1]	(○小林 武・内藤 輝・阿部 玄治・1 年次 SA) …	31
・解剖学Ⅱ	[1 後 必 2]	(内藤 輝)……………	32
・基礎運動学	[1 前 必 2]	(○鈴木 博人・藤澤 宏幸)……………	33
・身体運動学演習	[1 後 必 1]	(○鈴木 博人・藤澤 宏幸)……………	34
・生理学Ⅰ	[1 前 必 2]	(戸田 孝史)……………	35
・生理学Ⅱ	[1 後 必 2]	(戸田 孝史)……………	36
・臨床医学総論	[1 後 必 2]	(○渡邊 隆夫・沼崎 宗夫)……………	37
・リハビリテーション医学	[1 後 必 2]	(○小林 武・星 孝・阿部 玄治・沼田 純希・鋸明佳代子)…	38
・リハビリテーション概論	[1 前 選 1]	(星 孝)……………	39
・チーム医療福祉論	[1 後 必 1]	(大黒 一司)……………	40
・重度障がい者自立生活支援演習	[1・2・3・4 後 選 1]	(○本間 里美・小林 武・傍島 智子・千葉早耶香・千田 香)…	41

専門科目

・理学療法学概論	[1 前 必 2]	(藤澤 宏幸)……………	42
・理学療法学基礎演習Ⅰ	[1 前 必 1]	(○鋸明佳代子・村上 賢一・三木 千栄・高橋 一揮・阿部 玄治・沼田 純希)…	43
・理学療法学基礎演習Ⅱ	[1 後 必 1]	(○鋸明佳代子・鈴木 誠)……………	44

・理学療法評価学演習Ⅰ	[1 後 必 2]	(○小林 武・黒後 裕彦・鈴木 誠・星 孝・村上 賢一・三木 千栄 小野部 純・高橋 一揮・鈴木 博人・平山 和哉・阿部 玄治・長井 真弓 沼田 純希・釧明佳代子)	45
・基礎セミナーⅠ	[1 前 必 1]	(○沼田 純希・村上 賢一・鈴木 博人)	46
・基礎セミナーⅡ	[1 後 必 1]	(○沼田 純希・村上 賢一・鈴木 博人)	47
・夏季集中セミナー	[1 前 選 1]	(○鈴木 誠・鈴木 博人・1 年 SA)	48

2020～2024 年度入学者用カリキュラム

基礎科目

・ボランティア探求	[2 通 選 2]	(渡邊 洋一)	49
・統計解析	[1 後 必 2]	(平山 和哉)	50
・英語Ⅱ	[2 通 選 2]	(馬内 里美)	51
・憲法と法律	[2 前 選 2]	(淡路 智典)	52
・文化人類学	[2 前 選 2]	(瀬川 昌久)	53
・日本・東北文化論	[2 前 選 2]	(栗原伸一郎)	54
・日本近代史	[2 前 選 2]	(渡邊 洋一)	55
・健康科学	[2 前 選 2]	(○未定・古林 俊晃)	56
・教育学Ⅰ	[2 前 選 2]	(三塚 明彦)	57
・教育学Ⅱ	[4 後 選 2]	(一柳 貴博)	58
・地球の科学	[4 後 選 1]	(千葉 一)	59
・哲学	[4 後 選 1]	(高山 馨)	60
・生活と経済	[4 後 選 1]	(開講時指示)	61
・ジェンダー論	[4 後 選 1]	(妙木 忍)	62
・政治学	[4 後 選 1]	(王 元)	63

専門基礎科目

・運動制御論	[2 前 必 2]	(○鈴木 誠・村上 賢一・鈴木 博人)	64
・身体運動学実習	[2 前 必 1]	(○鈴木 博人・鈴木 誠・村上 賢一・小野部 純・高橋 一揮・阿部 玄治・平山 和哉)...	65
・生理学実習	[1 後 必 1]	(○小野部 純・黒後 裕彦・村上 賢一・阿部 玄治・沼田 純希)...	66
・人間生涯発達学	[2 前 必 2]	(○本多ふく代・星 孝)	67
・内部障害系病学	[2 前 必 2]	(佐藤 秀隆)	68
・神経障害系病学Ⅰ	[2 前 必 2]	(津田 丈秀)	69
・神経障害系病学Ⅱ	[2 後 必 1]	(津田 丈秀)	70
・運動器障害系病学	[2 前 必 2]	(永元 英明)	71
・精神障害系病学Ⅰ	[2 前 必 2]	(開講時指示)	72
・発達障害系病学	[2 後 必 1]	(大浦 敏博)	73
・老年期病学	[2 後 必 1]	(佐藤 秀隆)	74
・栄養学概論	[2 後 必 1]	(○小野部 純・平山 和哉・釧明佳代子)	75
・救命救急学演習	[1 後 必 1]	(渡邊 隆夫)	76
・臨床心理学	[2 前 必 2]	(北川 公路)	77
・リハビリテーション医学	[2 前 必 1]	(津田 丈秀)	78
・病態薬理学	[3 前 必 1]	(○渡邊 隆夫・津田 丈秀・佐藤 秀隆・松谷 幸子・未定)...	79
・保健医療福祉概論	[2 後 必 2]	(森田 慎二郎)	80
・専門職連携論	[3 前 必 2]	(○大黒 一司・大庭 みよ・渡邊 隆夫・伊藤 清世・博林 雅司・佐藤 尚子・土井 勝幸)...	81
・専門職連携セミナー	[3 後 選 1]	(大黒 一司)	82
・公衆衛生学	[3 前 選 1]	(吉田 裕人)	83
・医療経済論	[2 後 選 1]	(吉田 裕人)	84
・リハビリテーション心理	[3 前 選 1]	(北川 公路)	85

専門科目

・理学療法障害論	[3 前 必 2]	(黒後 裕彦)	86
・理学療法管理学	[3 後 必 2]	(○黒後 裕彦・星 孝・村上 賢一・阿部 功・坪田 朋子)...	87
・理学療法評価技術演習Ⅱ	[2 前 必 2]	(○小林 武・黒後 裕彦・鈴木 誠・星 孝・村上 賢一・三木 千栄 小野部 純・高橋 一揮・鈴木 博人・平山 和哉・阿部 玄治・長井 真弓 沼田 純希・釧明佳代子)	88
・運動動作分析演習	[2 前 必 1]	(○村上 賢一・鈴木 博人)	89
・臨床動作分析演習	[2 後 必 1]	(○村上 賢一・阿部 玄治)	90
・運動療法学演習	[2 前 必 2]	(○鈴木 誠・鈴木 博人・釧明佳代子)	91
・運動器理学療法演習Ⅰ	[2 後 必 1]	(○星 孝・阿部 玄治)	92
・運動器理学療法演習Ⅱ	[3 前 必 1]	(○小林 武・阿部 玄治・平山 和哉)	93
・運動器理学療法演習Ⅲ	[3 後 必 1]	(○小林 武・阿部 玄治・平山 和哉・塚田 雅弘)...	94

・小児理学療法演習Ⅰ	[2 後 必 1]	(鈴木 誠)……………	95
・小児理学療法演習Ⅱ	[3 前 必 1]	(○鈴木 誠・星 孝・三浦 利彦)……………	96
・神経理学療法演習Ⅰ	[2 後 必 1]	(○村上 賢一・沼田 純希)……………	97
・神経理学療法演習Ⅱ	[3 前 必 1]	(○村上 賢一・沼田 純希・高橋 一揮)……………	98
・神経理学療法演習Ⅲ	[3 後 必 1]	(○村上 賢一・沼田 純希・坂本 保夫)……………	99
・内部障害理学療法演習Ⅰ	[2 後 必 1]	(○高橋 一揮・星 孝・釧明佳代子)……………	100
・内部障害理学療法演習Ⅱ	[3 前 必 1]	(○小野部 純・高橋 一揮・釧明佳代子・山本 優一)…	101
・内部障害理学療法演習Ⅲ	[3 後 必 1]	(○高橋 一揮・釧明佳代子・小松 恵)……………	102
・総合理学療法演習	[3 後 必 1]	(○黒後 裕彦・星 孝・小野部 純・平山 和哉・小野 峰子・八瀬 央子・小泉 智枝・仙波 浩幸)…	103
・義肢装具学	[2 後 必 2]	(○黒後 裕彦・大黒 一司・西嶋 一智)……………	104
・義肢装具学実習	[3 前 必 1]	(○黒後 裕彦・阿部 玄治・大黒 一司・古瀬 亨・濱田 美穂)…	105
・物理療法学	[2 後 必 2]	(○阿部 玄治・沼田 純希・釧明佳代子)……………	106
・物理療法学実習	[3 前 必 1]	(○阿部 玄治・平山 和哉・沼田 純希・釧明佳代子)…	107
・日常生活活動演習Ⅰ	[3 前 必 1]	(○平山 和哉・三木 千栄・沼田 純希・高木 大輔・黒沢 麻美)…	108
・日常生活活動演習Ⅱ	[3 後 必 1]	(○平山 和哉・三木 千栄・沼田 純希・釧明佳代子)…	109
・地域理学療法演習Ⅰ	[3 前 必 2]	(○三木 千栄・高橋 一揮)……………	110
・地域理学療法演習Ⅱ	[3 後 必 1]	(○三木 千栄・高橋 一揮・小川 友美・八島 泰弘・今泉 美和・小野めぐみ 佐々木友也・芝崎 淳・阿部 功)……………	111
・臨床実習Ⅰセミナー	[2 後 必 1]	(○星 孝・鈴木 博人・2 年 SA)……………	112
・臨床実習Ⅰ	[2 後 必 2]	(○黒後 裕彦・小林 武・藤澤 宏幸・鈴木 誠・星 孝・村上 賢一 三木 千栄・小野部 純・高橋 一揮・鈴木 博人・平山 和哉・阿部 玄治 長井 真弓・沼田 純希・釧明佳代子)……………	113
・臨床実習Ⅱセミナー	[3 前 必 1]	(○小林 武・黒後 裕彦・鈴木 誠・星 孝・村上 賢一・三木 千栄 小野部 純・高橋 一揮・鈴木 博人・平山 和哉・阿部 玄治・長井 真弓 沼田 純希・釧明佳代子)……………	114
・臨床実習Ⅱ	[3 後 必 7]	(○黒後 裕彦・小林 武・藤澤 宏幸・鈴木 誠・星 孝・村上 賢一 三木 千栄・小野部 純・高橋 一揮・鈴木 博人・平山 和哉・阿部 玄治 長井 真弓・沼田 純希・釧明佳代子)……………	115
・地域理学療法実習	[3 後 必 1]	(○星 孝・小林 武・黒後 裕彦・藤澤 宏幸・鈴木 誠・内藤 輝 村上 賢一・三木 千栄・小野部 純・高橋 一揮・鈴木 博人・平山 和哉 阿部 玄治・長井 真弓・沼田 純希・釧明佳代子)……………	116
・臨床実習Ⅲセミナー	[4 前 必 1]	(○高橋 一揮・小林 武・黒後 裕彦・鈴木 誠・星 孝・村上 賢一 三木 千栄・小野部 純・鈴木 博人・平山 和哉・阿部 玄治・長井 真弓 沼田 純希・釧明佳代子)……………	117
・臨床実習Ⅲ	[4 前 必 11]	(○黒後 裕彦・小林 武・藤澤 宏幸・鈴木 誠・星 孝・村上 賢一 三木 千栄・小野部 純・高橋 一揮・鈴木 博人・平山 和哉・阿部 玄治 長井 真弓・沼田 純希・釧明佳代子)……………	118
・基礎セミナーⅢ	[2 前 必 1]	(○星 孝・鈴木 博人・平山 和哉)……………	119
・基礎セミナーⅣ	[2 後 必 1]	(○星 孝・鈴木 博人・平山 和哉・2 年 SA)……………	120
・地域理学療法セミナー	[3 前 選 1]	(○三木 千栄・高橋 一揮・小野部 純・平山 和哉・沼田 純希・渡邊 洋一)…	121
・スポーツ理学療法セミナー	[3 後 選 1]	(○阿部 玄治・平山 和哉・永元 英明)……………	122
・ウイメンズヘルス	[3 後 選 1]	(小野部 純)……………	123
・医学英語	[3 後 選 1]	(○三木 千栄・高橋 一揮)……………	124
・福祉住環境論	[3 前 選 2]	(○高橋 一揮・三木 千栄・一條 佑介)……………	125
・アダプテッド・スポーツ基礎実習	[3 前 選 1]	(未定)……………	126
・アダプテッド・スポーツ論	[3 後 選 2]	(未定)……………	127
・理学療法学特論	[4 通 必 2]	(○小林 武・黒後 裕彦・藤澤 宏幸・鈴木 誠・内藤 輝・星 孝 村上 賢一・三木 千栄・小野部 純・高橋 一揮・鈴木 博人・平山 和哉 阿部 玄治・長井 真弓・沼田 純希・釧明佳代子)……………	128
・理学療法学特別演習Ⅰ	[3 前 必 1]	(○村上 賢一・小野部 純)……………	129
・理学療法学特別演習Ⅱ	[4 後 必 1]	(○黒後 裕彦・藤澤 宏幸・鈴木 誠・星 孝・村上 賢一・三木 千栄 小野部 純・高橋 一揮・鈴木 博人・平山 和哉・阿部 玄治・長井 真弓 沼田 純希・釧明佳代子・吉田 裕人・山本 和恵・一條 佑介)……………	130

【医療福祉学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻】

2025 年度入学用カリキュラム

基礎科目

・輝ける者	[1 通 選 2]	(○小野部 純・他)……………	131
・生命を考える	[1 前後 選 2]	(○中村 哲也・阿部 玄治・本多ふく代・大庭 みよ・秋本 和宏)…	132
・現代社会を視る	[1 前後 選 2]	(○山尾 貴則・豊田 正利・野崎 瑞樹・鑑 さやか・山川 樹・小淵 高志・黒沢 麻美・田中 茜)…	133

・生活の中の科学	[1 前後 選 2]	(○長田 俊明・沈 紅・鈴木 陽一・鈴木 伸夫・八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵・川村 広則・一條 佑介・二科 妃里・富山 正幸 相澤 康弘・古林 俊晃・家名田敏昭・浅井 仁・佐藤 秀隆・工藤 剛実 佐々木典子・高橋 るみ・深谷 碧)	134
・経済・法律・世界を視る	[1 前後 選 2]	(○馬内 里美・田邊 文彦・ウォルグレイヴ イーライ) …	135
・社会活動入門	[1 前後 選 2]	(○加藤 由美・石垣 亨・石橋 千賀・他) …	136
・データサイエンス入門	[1 前 必 2]	(○北川 公路・渡邊 晃久) …	137
・生活の中の物理学	[1 後 選 2]	(西澤 哲) …	138
・生活の中の化学	[1 前 選 2]	(堂浦 克美) …	139
・生活の中の生物学	[1 前 選 2]	(戸田 孝史) …	140
・統計解析	[1 後 選 2]	(西澤 哲) …	141
・医療情報科学	[1 後 選 1]	(鈴木 亮二) …	142
・医療のための基礎数学	[1 前 選 1]	(西澤 哲) …	143
・アカデミック・スキル演習	[1 通 必 2]	(○本多ふく代・犬塚千賀子・矢萩 未来・野間 沙花) …	144
・スポーツ実技	[1 前 選 1]	(○犬塚 剛・森田 清美・金田 幸夫・未定) …	145
・心理学概論	[1 後 必 2]	(北川 公路) …	146
・生命倫理学	[1 後 必 1]	(高木 大輔) …	147
・英語コミュニケーションⅠ	[1 前 必 1]	(○大野 朝子・大槻くるみ・フランク グッチェ・酒井 孝之) …	148
・英語コミュニケーションⅡ	[1 後 必 1]	(○大野 朝子・大槻くるみ・フランク グッチェ・酒井 孝之) …	149
・韓国語コミュニケーションⅠ	[1 前 選 1]	(李 恵慶) …	150
・韓国語コミュニケーションⅡ	[1 後 選 1]	(李 恵慶) …	151
・中国語コミュニケーションⅠ	[1 前 選 1]	(王 效紅) …	152
・中国語コミュニケーションⅡ	[1 後 選 1]	(王 效紅) …	153
・コミュニケーション論	[1 前 選 2]	(呂本 俊亮) …	154
・現代国語表現	[1 前 選 2]	(大泉 浩一) …	155
・海外研修	[1 通 選 2]	(○増井三千代・立花顕一郎・王 元・鄭 舜玉) …	156
・健康科学	[1 前 必 1]	(鈴木 誠) …	157
・教育学	[1 前 選 2]	(佐々木真由美) …	158
・哲学	[1 後 選 2]	(高山 馨) …	159
・ジェンダー論	[1 後 選 2]	(川口かすみ) …	160
・憲法と法律	[1 前 選 2]	(淡路 智典) …	161

専門基礎科目

・解剖学Ⅰ	[1 前 必 2]	(内藤 輝) …	162
・解剖学実習	[1 前 必 1]	(○内藤 輝・首藤 和弘・高橋 由美) …	163
・解剖学Ⅱ	[1 後 必 2]	(内藤 輝) …	164
・基礎運動学	[1 前 必 2]	(西澤 哲) …	165
・運動学演習	[1 後 必 1]	(高橋 由美) …	166
・生理学Ⅰ	[1 前 必 2]	(古林 俊晃) …	167
・生理学Ⅱ	[1 後 必 2]	(古林 俊晃) …	168
・生理学実習	[1 後 必 1]	(○古林 俊晃・本多ふく代・太田 千尋) …	169
・臨床医学総論	[1 後 必 2]	(○渡邊 隆夫・沼崎 宗夫) …	170
・救命救急学演習	[1 後 必 1]	(渡邊 隆夫) …	171
・リハビリテーション医学	[1 後 必 1]	(津田 丈秀) …	172
・リハビリテーション概論	[1 前 必 1]	(香山 明美) …	173
・チーム医療福祉論	[1 後 必 1]	(大黒 一司) …	174
・重度障がい者自立生活支援演習	[1・2・3・4後 選 1]	(○本間 里美・小林 武・傍島 智子・千葉早耶香・千田 香) …	175

専門科目

・作業療法概論	[1 前 必 2]	(○高木 大輔・香山 明美) …	176
・基礎作業学	[1 前 必 1]	(王 治文) …	177
・基礎作業学実習	[1 後 必 1]	(○王 治文・首藤 和弘・阿部 秀樹) …	178
・作業療法基礎評価学	[1 後 必 1]	(高木 大輔) …	179
・作業療法評価学演習	[1 後 必 1]	(○高木 大輔・太田 千尋) …	180
・臨床体験	[1 通 必 1]	(○犬塚千賀子・香山 明美・本多ふく代・矢萩 未来) …	181
・基礎科目演習セミナー	[1 通 必 1]	(○太田 千尋・西澤 哲・王 治文・首藤 和弘・高橋 由美) …	182

2020～2024年度入学者用カリキュラム

基礎科目

・ボランティア探求	[2 通 選 2]	(渡邊 洋一) …	183
・基礎数学	[1 後 選 2]	(伊藤 朋幸) …	184

・英語Ⅱ	[2 通 選 2]	(馬内 里美)……………	185
・憲法と法律	[2 前 選 2]	(淡路 智典)……………	186
・文化人類学	[2 前 選 2]	(瀬川 昌久)……………	187
・日本・東北文化論	[2 前 選 2]	(栗原伸一郎)……………	188
・日本近代史	[2 前 選 2]	(渡邊 洋一)……………	189
・健康科学	[2 前 選 2]	(○未定・古林 俊晃)……………	190
・教育学Ⅰ	[2 前 選 2]	(三塚 明彦)……………	191
・教育学Ⅱ	[4 後 選 2]	(一柳 貴博)……………	192
・地球の科学	[4 後 選 1]	(千葉 一)……………	193
・哲学	[4 後 選 1]	(高山 馨)……………	194
・生活と経済	[4 後 選 1]	(開講時指示)……………	195
・ジェンダー論	[4 後 選 1]	(妙木 忍)……………	196
・政治学	[4 後 選 1]	(王 元)……………	197

専門基礎科目

・運動学実習	[2 前 必 1]	(○西澤 哲・高木 大輔・高橋 由美・太田 千尋)…	198
・人間生涯発達学	[2 前 必 2]	(○本多ふく代・星 孝)……………	199
・内部障害系病学	[2 前 必 2]	(佐藤 秀隆)……………	200
・神経障害系病学Ⅰ	[2 前 必 2]	(津田 丈秀)……………	201
・神経障害系病学Ⅱ	[2 後 必 1]	(津田 丈秀)……………	202
・運動器障害系病学	[2 前 必 2]	(永元 英明)……………	203
・精神障害系病学Ⅰ	[2 前 必 2]	(開講時指示)……………	204
・精神障害系病学Ⅱ	[2 後 必 2]	(開講時指示)……………	205
・発達障害系病学	[2 後 必 1]	(大浦 敏博)……………	206
・老年期病学	[2 後 必 1]	(佐藤 秀隆)……………	207
・臨床心理学	[2 前 必 2]	(北川 公路)……………	208
・栄養学概論	[2 後 必 1]	(○小野部 純・平山 和哉・鈕明佳代子)……………	209
・リハビリテーション医学	[2 前 必 1]	(津田 丈秀)……………	210
・病態薬理学	[3 前 必 1]	(○渡邊 隆夫・津田 丈秀・佐藤 秀隆・松谷 幸子・未定)…	211
・リハビリテーション心理	[3 前 選 1]	(北川 公路)……………	212
・医療経済論	[2 後 選 1]	(吉田 裕人)……………	213
・公衆衛生学	[3 前 選 1]	(吉田 裕人)……………	214
・保健医療福祉概論	[2 後 必 2]	(森田慎二郎)……………	215
・専門職連携論	[3 前 必 2]	(○大黒 一司・大庭 みよ・渡邊 隆夫・伊藤 清世・榎林 雅司・佐藤 尚子・土井 勝幸)…	216
・専門職連携セミナー	[3 後 選 1]	(大黒 一司)……………	217

専門科目

・作業分析学	[3 前 必 1]	(本多ふく代)……………	218
・作業療法管理学	[3 前 必 2]	(○大黒 一司・犬塚千賀子・酒井 道代・小野 咲子・渡部 達也・未定)…	219
・作業療法評価学実習Ⅰ	[2 前 必 1]	(○太田 千尋・高木 大輔・王 治文・首藤 和弘)…	220
・作業療法評価学実習Ⅱ	[2 後 必 1]	(○香山 明美・高橋 由美・矢萩 未来)……………	221
・作業療法評価学実習Ⅲ	[2 後 必 1]	(本多ふく代)……………	222
・作業治療論	[2 前 必 1]	(本多ふく代)……………	223
・身体障害作業療法学	[2 前 必 1]	(首藤 和弘)……………	224
・内部障害作業療法学	[3 前 必 1]	(高木 大輔)……………	225
・神経障害作業療法学	[2 後 必 2]	(○高橋 由美・首藤 和弘)……………	226
・運動器障害作業療法学	[2 後 必 1]	(高木 大輔)……………	227
・身体障害作業療法学演習	[2 後 必 1]	(○首藤 和弘・高橋 由美・犬塚千賀子)……………	228
・身体障害作業療法学実習	[3 前 必 1]	(○王 治文・大黒 一司・首藤 和弘・荒井 隆徳・未定 A)…	229
・発達障害作業療法学	[2 後 必 2]	(本多ふく代)……………	230
・発達障害作業療法学実習	[3 前 必 1]	(本多ふく代)……………	231
・精神障害作業療法学	[2 後 必 2]	(○香山 明美・矢萩 未来)……………	232
・精神障害作業療法学実習	[3 前 必 1]	(○香山 明美・矢萩 未来)……………	233
・高次脳機能障害作業療法学	[3 前 必 1]	(高橋 由美)……………	234
・老年期障害作業療法学	[3 前 必 1]	(犬塚千賀子)……………	235
・日常生活活動学	[2 前 必 1]	(○高木 大輔・太田 千尋)……………	236
・生活環境技術学	[3 前 必 2]	(○犬塚千賀子・大黒 一司・黒後 裕彦)……………	237
・地域作業療法学Ⅰ	[2 後 必 1]	(首藤 和弘)……………	238
・地域作業療法学Ⅱ	[3 前 必 2]	(○首藤 和弘・庄司 幸恵・遠藤 宏恵・小野めぐみ・廣島 志保・松木 紀子)…	239
・地域作業療法学演習	[3 前 必 1]	(○香山 明美・大内 佳子)……………	240

・臨床実習Ⅰ	[2 後 必 2]	(○香山 明美・本多ふく代・大黒 一司・高木 大輔・王 治文・首藤 和弘 高橋 由美・矢萩 未来・犬塚千賀子・太田 千尋) ……………	241
・臨床実習セミナーⅠ	[2 通 必 1]	(○矢萩 未来・本多ふく代)……………	242
・臨床実習Ⅱ	[3 後 必 10]	(○香山 明美・本多ふく代・大黒 一司・高木 大輔・王 治文・首藤 和弘 高橋 由美・矢萩 未来・犬塚千賀子・太田 千尋) ……………	243
・臨床実習セミナーⅡ	[3 通 必 1]	(○王 治文・首藤 和弘)……………	244
・臨床実習Ⅲ	[4 前 必 10]	(○香山 明美・本多ふく代・大黒 一司・高木 大輔・王 治文・首藤 和弘 高橋 由美・矢萩 未来・犬塚千賀子・太田 千尋) ……………	245
・臨床実習セミナーⅢ	[4 前 必 1]	(○高橋 由美・矢萩 未来)……………	246
・地域作業療法学実習	[4 前 必 1]	(○香山 明美・本多ふく代・大黒 一司・高木 大輔・王 治文・首藤 和弘 高橋 由美・矢萩 未来・犬塚千賀子・太田 千尋) ……………	247
・作業療法研究法	[3 後 必 1]	(○王 治文・大黒 一司・西澤 哲)……………	248
・作業療法実践特論	[4 通 選 2]	(○大黒 一司・香山 明美・王 治文・首藤 和弘・高橋 由美・矢萩 未来・犬塚千賀子) …	249
・作業療法研究特論	[4 通 選 2]	(○本多ふく代・西澤 哲・高木 大輔・北川 公路・太田 千尋) …	250
・基礎科目演習セミナーⅡ	[1 後 必 1]	(○太田 千尋・西澤 哲・王 治文・首藤 和弘・高橋 由美) …	251
・作業療法学特別演習	[4 後 必 1]	(○高橋 由美・香山 明美・本多ふく代・大黒 一司・西澤 哲・王 治文 首藤 和弘・矢萩 未来・犬塚千賀子・太田 千尋) ……………	252

【医療福祉学部・リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻】

2025年度入学用カリキュラム

基礎科目

・輝ける者	[1 通 選 2]	(○小野部 純・他)……………	253
・生命を考える	[1 前後 選 2]	(○中村 哲也・阿部 玄治・本多ふく代・大庭 みよ・秋本 和宏) …	254
・現代社会を視る	[1 前後 選 2]	(○山尾 貴則・豊田 正利・野崎 瑞樹・鑑 さやか・山川 樹・小淵 高志 黒沢 麻美・田中 茜) ……………	255
・生活の中の科学	[1 前後 選 2]	(○長田 俊明・沈 紅・鈴木 陽一・鈴木 伸夫・八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵・川村 広則・一條 佑介・二科 妃里・富山 正幸 相澤 康弘・古林 俊晃・家名田敏昭・浅井 仁・佐藤 秀隆・工藤 剛実 佐々木典子・高橋 るみ・深谷 碧) ……………	256
・経済・法律・世界を視る	[1 前後 選 2]	(○馬内 里美・田邊 文彦・ウォルグレイヴ イーライ) …	257
・社会活動入門	[1 前後 選 2]	(○加藤 由美・石垣 亨・石橋 千賀・他)……………	258
・データサイエンス入門	[1 前 必 2]	(○柴田 寛・中村 哲也・渡邊 晃久)……………	259
・医療のための基礎数学	[1 前 選 2]	(伊藤 朋幸)……………	260
・生活の中の化学	[1 前 選 2]	(堂浦 克美)……………	261
・生活の中の生物学	[1 前 選 2]	(戸田 孝史)……………	262
・医療情報科学	[1 後 選 1]	(鈴木 亮二)……………	263
・統計解析	[1 後 選 2]	(西澤 哲)……………	264
・生活の中の物理学	[1 後 選 2]	(早川 美徳)……………	265
・アカデミック・スキル演習	[1 通 必 1]	(○小泉 智枝・藤原加奈江・中村 哲也・阿部 千佳) …	266
・生命倫理学	[1 後 必 1]	(高木 大輔)……………	267
・スポーツ実技	[1 前 選 1]	(○犬塚 剛・森田 清美・金田 幸夫・未定)……………	268
・心理学概論	[1 後 選 2]	(北川 公路)……………	269
・コミュニケーション論	[1 前 必 2]	(呂本 俊亮)……………	270
・現代国語表現	[1 前 必 2]	(大泉 浩一)……………	271
・英語コミュニケーションⅠ	[1 前 必 1]	(○大野 朝子・フランク グッチェ)……………	272
・英語コミュニケーションⅡ	[1 後 必 1]	(○大野 朝子・フランク グッチェ)……………	273
・韓国語コミュニケーションⅠ	[1 前 選 1]	(李 恵慶)……………	274
・韓国語コミュニケーションⅡ	[1 後 選 1]	(李 恵慶)……………	275
・中国語コミュニケーションⅠ	[1 前 選 1]	(王 效紅)……………	276
・中国語コミュニケーションⅡ	[1 後 選 1]	(王 效紅)……………	277
・海外研修	[1 通 選 2]	(○増井三千代・立花顕一郎・王 元・鄭 舜玉) …	278
・健康科学	[1 前 必 1]	(鈴木 誠)……………	279
・憲法と法律	[1 前 選 2]	(淡路 智典)……………	280
・東北の歴史	[1 前 選 2]	(渡邊 洋一)……………	281
・現代史	[1 前 選 2]	(星野 修)……………	282
・哲学	[1 後 選 2]	(高山 馨)……………	283
・教育学	[1 前 選 2]	(佐々木真由美)……………	284
・ジェンダー論	[1 後 選 2]	(川口かしみ)……………	285
・生活と地球科学	[1 後 選 2]	(千葉 一)……………	286
・生活と経済	[1 後 選 2]	(奥山 忠裕)……………	287

・教養としての政治学	[1 後 選 2]	(王 元)	288
・チーム医療福祉論	[1 後 必 1]	(大黒 一司)	289
・重度障がい者自立生活支援演習	[1・2・3・4 後 選 1]	(〇本間 里美・小林 武・傍島 智子・千葉早耶香・千田 香)	290

専門基礎科目

・解剖・生理学概論Ⅰ	[1 前 必 2]	(辻川 寛)	291
・解剖・生理学概論Ⅱ	[1 後 必 2]	(辻川 寛)	292
・医学総論	[1 後 必 1]	(浅野 浩一)	293
・小児科学	[1 後 必 1]	(大浦 敏博)	294
・呼吸発声発語系の構造・機能・病態	[1 後 必 1]	(阿部 千佳)	295
・聴覚系の構造・機能・病態	[1 後 必 1]	(高卓 輝)	296
・神経系の構造・機能・病態	[1 後 必 1]	(古林 俊晃)	297
・生涯発達心理学	[1 前 必 2]	(柴田 寛)	298
・学習・認知心理学	[1 後 必 2]	(柴田 寛)	299
・言語学Ⅰ	[1 前 必 2]	(東ヶ崎祐一)	300
・言語学Ⅱ	[1 後 必 1]	(東ヶ崎祐一)	301
・音声学	[1 前 必 2]	(中村 哲也)	302
・音響学	[1 前 必 2]	(〇阿部 千佳・鈴木 陽一・内一 哲也)	303
・聴覚心理学	[1 後 必 1]	(阿部 千佳)	304
・言語発達学	[1 後 必 1]	(〇藤原加奈江・本郷 一夫)	305

専門科目

・言語聴覚障害学総論	[1 前 必 2]	(〇阿部 千佳・藤原加奈江・高卓 輝・中村 哲也・八鍬 央子・小泉 智枝)	306
・見学実習Ⅰ	[1 通 必 1]	(〇阿部 千佳・藤原加奈江・高卓 輝・柴田 寛・中村 哲也・八鍬 央子・小泉 智枝)	307

2020～2024 年度入学者用カリキュラム

基礎科目

・ボランティア探求	[2 通 選 2]	(渡邊 洋一)	309
・英語Ⅱ	[2 通 選 2]	(〇大野 朝子・ウォルグレイヴ イーライ)	310
・文化人類学	[2 前 選 2]	(瀬川 昌久)	311
・日本・東北文化論	[2 前 選 2]	(栗原伸一郎)	312
・日本近代史	[2 前 選 2]	(渡邊 洋一)	313
・哲学	[4 後 選 1]	(高山 馨)	314
・健康科学	[2 前 選 2]	(〇未定・古林 俊晃)	315
・憲法と法律	[2 前 選 2]	(淡路 智典)	316
・教育学Ⅰ	[2 前 選 2]	(三塚 明彦)	317
・教育学Ⅱ	[4 後 選 2]	(一柳 貴博)	318
・生活と経済	[4 後 選 1]	(開講時指示)	319
・ジェンダー論	[4 後 選 1]	(妙木 忍)	320
・政治学	[4 後 選 1]	(王 元)	321
・地球の科学	[4 後 選 1]	(千葉 一)	322

専門基礎科目

・内科学	[2 前 必 1]	(佐藤 秀隆)	323
・耳鼻咽喉科学	[2 前 必 2]	(〇香取 幸夫・本蔵 陽平・平野 愛)	324
・臨床神経学	[2 後 必 2]	(津田 丈秀)	325
・リハビリテーション医学	[2 前 必 1]	(津田 丈秀)	326
・精神医学	[2 後 必 1]	(開講時指示)	327
・形成外科学	[2 前 必 1]	(〇今井 啓道・後藤 孝浩)	328
・臨床口腔歯科医学	[2 前 必 2]	(戸田 孝史)	329
・心理測定法	[2 後 必 2]	(柴田 寛)	330
・臨床心理学	[2 後 必 1]	(柴田 寛)	331
・リハビリテーション概論	[1 後 必 1]	(〇中村 哲也・藤原加奈江・高卓 輝・八鍬 央子・小泉 智枝・阿部 千佳)	332
・医療福祉関係法規	[3 前 必 1]	(森田慎二郎)	333

専門科目

・言語聴覚障害診断学	[1 後 必 1]	(〇阿部 千佳・藤原加奈江・高卓 輝・中村 哲也・八鍬 央子・小泉 智枝)	334
・失語症学Ⅰ	[2 後 必 2]	(小泉 智枝)	335
・失語症学Ⅱ	[3 前 必 2]	(小泉 智枝)	336
・失語症学演習Ⅰ	[2 後 必 1]	(小泉 智枝)	337
・失語症学演習Ⅱ	[3 前 必 1]	(小泉 智枝)	338
・高次脳機能障害学Ⅰ	[2 後 必 1]	(八鍬 央子)	339

・高次脳機能障害学Ⅱ	[3 前 必 1]	(八鍬 央子)……………	340
・高次脳機能障害学演習Ⅰ	[2 後 必 1]	(八鍬 央子)……………	341
・高次脳機能障害学演習Ⅱ	[3 前 必 1]	(八鍬 央子)……………	342
・言語発達障害学Ⅰ	[2 前 必 2]	(○藤原加奈江・大伴 潔・柴 玲子)……………	343
・言語発達障害学Ⅱ	[2 後 必 2]	(○藤原加奈江・大伴 潔・柴 玲子・石坂 郁代)…	344
・言語発達障害学演習Ⅰ	[2 前 必 1]	(○藤原加奈江・柴 玲子)……………	345
・言語発達障害学演習Ⅱ	[2 後 必 1]	(○藤原加奈江・柴 玲子)……………	346
・音声障害学	[3 前 必 2]	(○阿部 千佳・渡邊 健一)……………	347
・構音障害学Ⅰ	[2 前 必 2]	(中村 哲也)……………	348
・構音障害学Ⅱ	[2 後 必 2]	(中村 哲也)……………	349
・構音障害学演習Ⅰ	[2 前 必 1]	(中村 哲也)……………	350
・構音障害学演習Ⅱ	[2 後 必 1]	(中村 哲也)……………	351
・吃音学	[3 後 必 1]	(阿部 千佳)……………	352
・摂食嚥下障害学	[3 前 必 2]	(○長谷川賢一・平野 愛・森山さや香)……………	353
・摂食嚥下障害学演習	[3 前 必 1]	(○長谷川賢一・森山さや香)……………	354
・成人聴覚障害学	[2 前 必 2]	(高卓 輝)……………	355
・小児聴覚障害学	[2 後 必 2]	(小泉 知子)……………	356
・補聴器・人工内耳	[3 前 必 2]	(○高卓 輝・本蔵 陽平・米澤 裕美)……………	357
・聴覚障害学演習Ⅰ	[2 前 必 1]	(高卓 輝)……………	358
・聴覚障害学演習Ⅱ	[3 後 必 1]	(高卓 輝)……………	359
・視覚聴覚二重障害	[3 後 必 1]	(菅井 裕行)……………	360
・臨床実習Ⅰ	[3 後 必 4]	(○中村 哲也・藤原加奈江・高卓 輝・柴田 寛・八鍬 央子・小泉 智枝・阿部 千佳)…	361
・臨床実習Ⅱ	[4 前 必 8]	(○柴田 寛・藤原加奈江・高卓 輝・中村 哲也・八鍬 央子・小泉 智枝・阿部 千佳)…	362
・基礎ゼミナール	[2 前 必 1]	(○高卓 輝・八鍬 央子・柴田 寛)……………	363
・総合演習	[3 後 必 3]	(○八鍬 央子・藤原加奈江・高卓 輝・柴田 寛・中村 哲也・小泉 智枝・阿部 千佳・沼田 純希・矢萩 未来・加賀谷 豊・木島 真央・佐々木浩児)…	364
・領域別セミナーⅠ	[3 前 必 1]	(○中村 哲也・藤原加奈江・高卓 輝・柴田 寛・八鍬 央子・小泉 智枝・阿部 千佳)…	365
・領域別セミナーⅡ	[4 後 必 4]	(○柴田 寛・藤原加奈江・高卓 輝・中村 哲也・八鍬 央子・小泉 智枝・阿部 千佳・辻川 寛・戸田 孝史・矢入 聡・西尾 桂子・東ヶ崎祐一)…	366
・言語聴覚学特別講義	[4 後 必 1]	(○柴田 寛・藤原加奈江・高卓 輝・中村 哲也・八鍬 央子・小泉 智枝・阿部 千佳)…	367
選択必修科目			
・保健医療福祉概論	[2 後 選 2]	(森田慎二郎)……………	368
・専門職連携論	[3 前 選 2]	(○大黒 一司・大庭 みよ・渡邊 隆夫・伊藤 清世・榎林 雅司・佐藤 尚子・土井 勝幸)…	369
・専門職連携セミナー	[3 後 選 1]	(大黒 一司)……………	370
・認知神経科学	[2 前 選 2]	(柴田 寛)……………	371
・救命救急学	[2 後 選 1]	(渡邊 隆夫)……………	372
・栄養学概論	[2 後 選 1]	(○小野部 純・平山 和哉・釧明佳代子)……………	373
・病態薬理学	[3 前 選 1]	(○渡邊 隆夫・津田 丈秀・佐藤 秀隆・松谷 幸子・未定)…	374
・公衆衛生学	[3 前 選 1]	(吉田 裕人)……………	375
・地域言語聴覚療法学	[3 前 選 2]	(佐々木浩児)……………	376
・言語聴覚学研究	[3 通 選 4]	(○中村 哲也・藤原加奈江・高卓 輝・柴田 寛・八鍬 央子・小泉 智枝・阿部 千佳)…	377

【医療福祉学部・リハビリテーション学科・視覚機能学専攻】

2025 年度入学者用カリキュラム

基礎科目

・輝ける者	[1 通 選 2]	(○小野部 純・他)……………	379
・生命を考える	[1 前後 選 2]	(○中村 哲也・阿部 玄治・本多ふく代・大庭 みよ・秋本 和宏)…	380
・現代社会を視る	[1 前後 選 2]	(○山尾 貴則・豊田 正利・野崎 瑞樹・鑑 さやか・山川 樹・小淵 高志・黒沢 麻美・田中 茜)…	381
・生活の中の科学	[1 前後 選 2]	(○長田 俊明・沈 紅・鈴木 陽一・鈴木 伸夫・八十川 淳・野崎 淳夫・須藤 諭・山本 和恵・川村 広則・一條 佑介・二科 妃里・富山 正幸・相澤 康弘・古林 俊晃・家名田敏昭・浅井 仁・佐藤 秀隆・工藤 剛実・佐々木典子・高橋 るみ・深谷 碧)……………	382
・経済・法律・世界を視る	[1 前後 選 2]	(○馬内 里美・田邊 文彦・ウォルグレイヴ イーライ)…	383
・社会活動入門	[1 前後 選 2]	(○加藤 由美・石垣 亨・石橋 千賀・他)……………	384
・データサイエンス入門	[1 前 必 2]	(○辻川 寛・渡邊 晃久)……………	385
・生活の中の化学	[1 前 選 2]	(堂浦 克美)……………	386
・生活の中の生物学	[1 前 選 2]	(戸田 孝史)……………	387
・生活の中の物理学	[1 後 選 2]	(早川 美德)……………	388
・医療情報科学	[1 後 選 1]	(鈴木 亮二)……………	389

・医療のための基礎数学	[1 前 必 1]	(坂本 保夫)……………	390
・統計解析	[1 後 必 2]	(西澤 哲)……………	391
・スポーツ実技	[1 前 選 1]	(○犬塚 剛・森田 清美・金田 幸夫・未定)……………	392
・生命倫理学	[1 後 選 1]	(高木 大輔)……………	393
・心理学概論	[1 後 必 2]	(北川 公路)……………	394
・アカデミック・スキル演習Ⅰ	[1 前 必 1]	(○小野 峰子・辻川 寛)……………	395
・アカデミック・スキル演習Ⅱ	[1 後 必 1]	(○小野 峰子・辻川 寛)……………	396
・英語コミュニケーションⅠ	[1 前 必 1]	(○大野 朝子・フランク グッチェ)……………	397
・英語コミュニケーションⅡ	[1 後 必 1]	(○大野 朝子・フランク グッチェ)……………	398
・韓国語コミュニケーションⅠ	[1 前 選 1]	(李 恵慶)……………	399
・韓国語コミュニケーションⅡ	[1 後 選 1]	(李 恵慶)……………	400
・中国語コミュニケーションⅠ	[1 前 選 1]	(王 效紅)……………	401
・中国語コミュニケーションⅡ	[1 後 選 1]	(王 效紅)……………	402
・コミュニケーション論	[1 前 選 2]	(呂本 俊亮)……………	403
・海外研修	[1 通 選 2]	(○増井三千代・立花顕一郎・王 元・鄭 舜玉)…	404
・現代国語表現	[1 前 必 2]	(大泉 浩一)……………	405
・健康科学	[1 前 必 1]	(鈴木 誠)……………	406
・教育学	[1 前 必 2]	(佐々木真由美)……………	407
・哲学	[1 後 選 2]	(高山 馨)……………	408
・ジェンダー論	[1 後 選 2]	(川口かすみ)……………	409
・憲法と法律	[1 前 選 2]	(淡路 智典)……………	410
・東北の歴史	[1 前 選 2]	(渡邊 洋一)……………	411
・現代史	[1 前 選 2]	(星野 修)……………	412
・生活と地球科学	[1 後 選 2]	(千葉 一)……………	413
・生活と経済	[1 後 選 2]	(奥山 忠裕)……………	414
・教養としての政治学	[1 後 選 2]	(王 元)……………	415

専門基礎科目

・解剖・生理学概論Ⅰ	[1 前 必 2]	(辻川 寛)……………	416
・解剖・生理学概論Ⅱ	[1 後 必 2]	(辻川 寛)……………	417
・眼の解剖としくみⅠ	[1 前 必 1]	(浅野 浩一)……………	418
・眼の解剖としくみⅡ	[1 後 必 1]	(浅野 浩一)……………	419
・医学総論	[1 後 必 2]	(○沼崎 宗夫・浅野 浩一)……………	420
・生活の中の視覚	[1 前 必 1]	(○原口 翔太・小野 峰子・安達いつみ・石川奈津美)…	421
・両眼視機能と眼球運動	[1 後 必 1]	(○石川奈津美・安達いつみ)……………	422
・リハビリテーション概論	[1 後 必 1]	(○小野 峰子・坂本 保夫)……………	423
・チーム医療福祉論	[1 後 必 1]	(大黒 一司)……………	424
・重度障がい者自立生活支援演習	[1・2・3・4後 選1]	(○本間 里美・小林 武・傍島 智子・千葉早耶香・千田 香)…	425
・同行援護	[1・2・3・4後 選2]	(○小野 峰子・阿部 直子・善積 有子)……………	426
・同行援護演習	[1・2・3・4後 選1]	(○小野 峰子・善積 有子・西山 貴大)……………	427

専門科目

・生理光学Ⅰ	[1 前 必 1]	(坂本 保夫)……………	428
・生理光学Ⅱ	[1 後 必 1]	(坂本 保夫)……………	429
・社会と医療Ⅰ	[1 後 必 1]	(○小野 峰子・原口 翔太・安達いつみ・石川奈津美)…	430
・基礎眼光学	[1 前 必 1]	(坂本 保夫)……………	431

2024 年度入学者用カリキュラム

基礎科目

・ボランティア探求	[2 通 選 2]	(渡邊 洋一)……………	433
・基礎数学	[1 前 選 2]	(伊藤 朋幸)……………	434
・英語Ⅱ	[2 通 選 2]	(馬内 里美)……………	435
・憲法と法律	[2 前 選 2]	(淡路 智典)……………	436
・文化人類学	[2 前 選 2]	(瀬川 昌久)……………	437
・日本・東北文化論	[2 前 選 2]	(栗原伸一郎)……………	438
・日本近代史	[2 前 選 2]	(渡邊 洋一)……………	439
・健康科学	[2 前 選 2]	(○未定・古林 俊晃)……………	440
・教育学Ⅰ	[2 前 選 2]	(三塚 明彦)……………	441

専門基礎科目

・感覚器解剖・生理	[2 前 必 2]	(辻川 寛)……………	442

・感覚器解剖・生理演習	[2 前 必 1]	(辻川 寛)……………	443
・人間生涯発達学	[2 前 必 2]	(○本多ふく代・星 孝)……………	444
・臨床神経学	[2 後 必 2]	(津田 丈秀)……………	445
・臨床医学	[2 後 必 2]	(○浅野 浩一・佐藤 秀隆・仁尾 栄子)……………	446
・公衆衛生学	[2 前 必 1]	(吉田 裕人)……………	447
・視覚機能学概論Ⅱ	[2 前 必 2]	(門屋 講司)……………	448
・視能検査機器概論Ⅰ	[2 前 必 2]	(○石川奈津美・小野 峰子・坂本 保夫・安達いづみ・原口 翔太・他)…	449
・視能検査機器演習Ⅰ	[2 前 必 1]	(○石川奈津美・小野 峰子・原口 翔太・安達いづみ) ……	450
・眼科検査基礎演習	[1 後 必 1]	(○原口 翔太・小野 峰子・安達いづみ・石川奈津美)…	451
・臨床基礎セミナー	[2 通 必 1]	(○原口 翔太・小野 峰子・安達いづみ・石川奈津美)…	452
・保育概論	[2 後 必 1]	(大沼百合子)……………	453
・保健医療福祉概論	[2 後 必 2]	(森田慎二郎)……………	454
・看護・保健概論	[2 後 選 1]	(○作山美智子・瀬戸 初江)……………	455

専門科目

・視能矯正学Ⅱ	[2 前 必 1]	(丹治 弘子)……………	456
・視覚生理学Ⅰ	[1 後 必 2]	(坂本 保夫)……………	457
・臨床心理学	[2 後 必 1]	(柴田 寛)……………	458
・視能検査機器概論Ⅱ	[2 後 必 2]	(○原口 翔太・石川奈津美・藤掛 福美)……………	459
・視能検査機器演習Ⅱ	[2 後 必 2]	(○原口 翔太・小野 峰子・安達いづみ・石川奈津美・藤掛 福美・他)…	460
・眼疾病学Ⅰ	[2 後 必 2]	(浅野 浩一)……………	461
・眼疾病学Ⅱ	[2 後 必 2]	(門屋 講司)……………	462
・神経眼科学	[2 後 必 1]	(竹下 孝之)……………	463
・眼科薬理学	[2 後 必 1]	(浅野 浩一)……………	464
・視能訓練学Ⅰ	[2 後 必 2]	(○安達いづみ・小野 峰子・石川奈津美・他)……………	465
・視能訓練学演習Ⅰ	[2 後 必 2]	(○安達いづみ・小野 峰子・原口 翔太・石川奈津美・他)…	466
・ロービジョン学Ⅰ	[2 後 必 1]	(小野 峰子)……………	467

2020～2023年度入学者用カリキュラム

基礎科目

・教育学Ⅱ	[4 後 選 2]	(一柳 貴博)……………	469
・地球の科学	[4 後 選 1]	(千葉 一)……………	470
・哲学	[4 後 選 1]	(高山 馨)……………	471
・生活と経済	[4 後 選 1]	(開講時指示)……………	472
・ジェンダー論	[4 後 選 1]	(妙木 忍)……………	473
・政治学	[4 後 選 1]	(王 元)……………	474

専門基礎科目

・救命救急学	[3 後 必 1]	(渡邊 隆夫)……………	475
・医療福祉関係法規	[3 前 必 1]	(森田慎二郎)……………	476
・専門職連携論	[3 前 必 2]	(○大黒 一司・大庭 みよ・渡邊 隆夫・伊藤 清世・榎林 雅司・佐藤 尚子・土井 勝幸)…	477
・専門職連携セミナー	[3 後 選 1]	(大黒 一司)……………	478
・介護概論	[3 前 選 2]	(黒沢 麻美)……………	479

専門科目

・視能矯正学Ⅲ	[3 前 必 1]	(○石川奈津美・他)……………	480
・視覚生理学Ⅱ	[3 前 必 1]	(石川奈津美)……………	481
・視覚生理学演習	[3 前 必 1]	(○石川奈津美・小野 峰子・原口 翔太・安達いづみ)…	482
・生理光学Ⅱ	[3 前 必 1]	(○原口 翔太・石川奈津美・丹治 弘子)……………	483
・生理光学演習	[3 前 必 1]	(○原口 翔太・小野 峰子・安達いづみ・石川奈津美・丹治 弘子)…	484
・視能検査学Ⅰ	[3 前 必 2]	(○坂本 保夫・原口 翔太・石川奈津美)……………	485
・視能検査学演習	[3 前 必 1]	(○坂本 保夫・原口 翔太・石川奈津美)……………	486
・視能検査学Ⅱ	[3 後 必 2]	(○原口 翔太・小野 峰子・石川奈津美・藤掛 福美)…	487
・視能検査学演習Ⅱ	[3 後 必 1]	(○原口 翔太・小野 峰子・石川奈津美・藤掛 福美)…	488
・眼科臨床機器学	[4 後 必 2]	(坂本 保夫)……………	489
・眼科臨床機器学演習	[4 後 必 1]	(坂本 保夫)……………	490
・斜視・弱視	[3 前 必 2]	(○安達いづみ・小野 峰子・森 隆史・鮫島 智子・稲垣理佐子)…	491
・ロービジョン学Ⅱ	[3 前 必 1]	(○小野 峰子・坂本真由美)……………	492
・ロービジョンリハビリテーション	[3 後 必 1]	(○小野 峰子・坂本 保夫)……………	493
・視能訓練学Ⅱ	[3 前 必 1]	(○安達いづみ・小野 峰子・石川奈津美)……………	494
・視能訓練学演習Ⅱ	[3 前 必 1]	(○安達いづみ・小野 峰子・石川奈津美)……………	495

・視覚機能学総合演習	[3 前 必 1]	(○小野 峰子・坂本 保夫・辻川 寛・原口 翔太・安達いつみ・石川奈津美) …	496
・視能訓練学Ⅲ	[3 後 必 2]	(○安達いつみ・小野 峰子・原口 翔太・石川奈津美・他) …	497
・臨地実習Ⅰ	[3 後 必 7]	(○小野 峰子・坂本 保夫・辻川 寛・原口 翔太・安達いつみ・石川奈津美) …	498
・臨地実習Ⅱ	[4 前 必 7]	(○小野 峰子・坂本 保夫・辻川 寛・原口 翔太・安達いつみ・石川奈津美) …	499
・視覚機能学特別セミナー	[4 通 必 4]	(○小野 峰子・坂本 保夫・辻川 寛・原口 翔太・安達いつみ・石川奈津美) …	500
・視覚機能学研究法	[3 後 必 1]	(○小野 峰子・坂本 保夫・辻川 寛・原口 翔太・石川奈津美) …	501
・視覚機能学研究	[4 通 必 2]	(○小野 峰子・全専攻教員) ……………	502

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【医療福祉学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・ 広い教養と豊かな人間性を備え、生命の尊厳に対し深い理解を示すことができる。 ・ 理学療法士に必要とされる基本的な知識を修得している。
②	「思考・判断」	・ 身体運動学と運動生理学を基軸として、科学的根拠に基づき問題を解決できる。
③	「技能・表現」	・ 理学療法士の専門的技術のみならず、人を支援する専門職の一員として、他の専門職種と協働することができる。
④	「関心・意欲・態度」	・ 学際的な広い視野を持ち、自分を高める為に常に新しいことに取り組むことができる。 ・ 多様な価値観の基に、人の生活全体に関心を持って支援できる。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー （学位授与の方針）対応表 （「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探究・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2		○			◎
		生命を考える	1 前・1 後		2		○			◎
		現代社会を視る	1 前・1 後		2		○			◎
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		○			◎
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2		○			◎
		社会活動入門	1 前・1 後		2		○			◎
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1 前	2			◎	○		
		統計解析	4 前	1			◎	○		
		医療情報科学	1 後		1		◎	○		
		医療のための基礎数学	1 前		2		◎	○		
		生活の中の物理学	1 前		2		◎	○		
		生活の中の化学	1 前		2		◎	○		
		生活の中の生物学	1 前		2		◎	○		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1 通	2					○	◎
		スポーツ実技	1 前		1				◎	○
		心理学概論	1 後		2		◎			○
		生命倫理学	1 後	1			◎			○
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1			◎			○
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1			◎			○
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		◎			○
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		◎			○
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		◎			○
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		◎			○
		海外研修	1 通		2				○	◎

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔○〕は強く関係する科目、〔○〕は関係する科目			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	相互理解と人 と生活	コミュニケーション論	1 前		2		○			○
		現代国語表現	1 前		2		○			○
		健康科学	1 前	1			○			○
		教育学	1 後		2		○			○
		教育方法論	2 前		2		○			○
		憲法と法律	2 前		2		○			○
		文化人類学	2 前		2		○			○
		東北の歴史	2 前		2		○			○
		現代史	2 前		2		○			○
		哲学	1 後		2		○			○
		ジェンダー論	1 後		2		○			○
		生活と地球科学	2 後		2		○			○
		生活と経済	2 後		2		○			○
		教養としての政治学	2 後		2		○			○
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1 前	2			○	○		
		解剖学実習	1 前	1			○	○		
		解剖学Ⅱ	1 後	2			○	○		
		基礎運動学	1 前	2			○	○		
		身体運動学演習	1 後	1			○	○		
		運動制御論	2 前	1			○	○		
		身体運動学実習	2 後	1				○	○	
		生理学Ⅰ	1 前	2			○	○		
		生理学Ⅱ	1 後	2			○	○		
		人間生涯発達学	2 前	2			○	○		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	1 後	2			○	○		
		内部障害系病学	2 前	2			○	○		
		神経障害系病学	2 前	2			○	○		
		運動器障害系病学	2 前	2			○	○		
		精神障害系病学	2 前	2			○	○		
		発達障害系病学	2 後	1			○	○		
		栄養学概論	2 後	1			○	○		
		救命救急学演習	2 後	1			○		○	
		臨床心理学	2 前	2			○	○		
		リハビリテーション医学	1 後	2			○	○		
		病態薬理学	3 前	1			○	○		
	リハビリテーション概論	1 前		1			○			○

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「○」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門基礎科目	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	チーム医療福祉論	1 後	1				○	○	
		保健医療福祉概論	2 後	2				○	○	
		専門職連携論	3 前	2				○	○	
		専門職連携セミナー	3 後		1			○	○	
		公衆衛生学	3 前		1		○			○
		医療経済論	2 後		1		○			○
		リハビリテーション心理	3 前		1		○	○		
		重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4 後		1		○			○
専門科目	基礎理学療法学	理学療法学概論	1 前	2			○			○
		理学療法学基礎演習Ⅰ	1 前	1			○			○
		理学療法学基礎演習Ⅱ	1 後	1			○		○	
		理学療法障害論	3 前	2			○	○		
	理学療法管理学	理学療法管理学	3 後	2			○	○		
	理学療法評価学	理学療法評価学演習Ⅰ	1 後	2			○		○	
		理学療法評価学演習Ⅱ	2 前	2			○		○	
		運動動作分析演習	2 前	1			○		○	
		臨床動作分析演習	2 後	1				○	○	
	理学療法治療学	運動療法学演習	2 前	2				○	○	
		運動器理学療法演習Ⅰ	2 後	1			○	○		
		運動器理学療法演習Ⅱ	3 前	1			○		○	
		運動器理学療法演習Ⅲ	3 後	1				○	○	
		小児理学療法演習Ⅰ	2 後	1			○	○		
		小児理学療法演習Ⅱ	3 前	1			○	○		
		神経理学療法演習Ⅰ	2 後	1			○		○	
		神経理学療法演習Ⅱ	3 前	1			○		○	
		神経理学療法演習Ⅲ	3 後	1				○	○	
		内部障害理学療法演習Ⅰ	2 後	1			○	○		
		内部障害理学療法演習Ⅱ	3 前	1			○		○	
		内部障害理学療法演習Ⅲ	3 後	1			○		○	
		総合理学療法学演習	3 後	1			○			○
		義肢装具学演習	2 後	1			○	○		
		義肢装具学実習	3 前	1				○	○	
		物理療法学演習	2 後	1			○	○		
		物理療法学実習	3 前	1				○	○	
		日常生活活動演習Ⅰ	3 前	1			○		○	
		日常生活活動演習Ⅱ	3 後	1			○		○	

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「○」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	療域理学	地域理学療法学演習Ⅰ	3 前	2			○			○
		地域理学療法学演習Ⅱ	3 後	1			○			○
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	2 前	2				○	○	
		臨床実習Ⅱ	3 通	6				○	○	
		地域理学療法実習	3 後	1				○	○	
		臨床実習Ⅲ	4 前	11				○	○	
	特別科目	基礎セミナーⅠ	1 前	1					○	○
		基礎セミナーⅡ	1 後	1					○	○
		基礎セミナーⅢ	2 前	1					○	○
		基礎セミナーⅣ	2 後	1					○	○
		夏季集中セミナー	1 前		1				○	○
		動物理学療法	3 後		1		○			○
		ハンドリング技術演習	2 後		1		○		○	
		地域理学療法セミナー	3 前		1				○	○
		スポーツ理学療法セミナー	3 後		1				○	○
		ウイメンズ・メンズ理学療法	3 後		1		○			○
		医学英語	3 後		1		○			○
		福祉住環境論	3 前		1		○			○
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	3 前		1				○	○
		アダプテッド・スポーツ論	3 後		2				○	○
		理学療法学特論	4 通	1				○		○
		理学療法学特別演習Ⅰ	3 前	1			○	○		
		理学療法学特別演習Ⅱ	4 後	1			○			○

2020 ～ 2024 年度入学用カリキュラム

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「○」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		3		○			○
		生命を考える	1 前・1 後		2		○			○
		人間文化探求	1 通		2		○			○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		○			○
		地域活動・ボランティア	1 通		2		○			○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2		○			○
		ボランティア探求	2 通		2		○			○

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔○〕は強く関係する科目、〔○〕は関係する科目			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	科学的思考の基礎	情報処理	1 前	1		○	○		
		医療情報科学	1 後	1		○	○		
		医療数理基礎	1 前	1		○	○		
		基礎数学	1 後	2		○	○		
		基礎物理学	1 前	2		○	○		
		基礎化学	1 前	2		○	○		
		基礎生物学	1 前	2		○	○		
		統計解析	1 後	2		○	○		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1 通	1				○	○
		スポーツ実技	1 前	1				○	○
		心理学	1 後	2		○			○
		生命倫理	1 前	1		○			○
	ことばと相互理解	英語Ⅰ	1 通	2		○			○
		英語Ⅱ	2 通	2		○			○
		韓国語	1 前	1		○			○
		中国語	1 前	1		○			○
		コミュニケーション論	1 前	2		○			○
		現代国語表現	1 前	2		○			○
		海外研修	1・2・3・4通	2				○	○
	人と生活	憲法と法律	2 前	2		○			○
		文化人類学	2 前	2		○			○
		日本・東北文化論	2 前	2		○			○
		日本近代史	2 前	2		○			○
		健康科学	2 前	2		○			○
		教育学Ⅰ	2 前	2		○			○
		教育学Ⅱ	4 後	2		○			○
		地球の科学	4 後	1		○			○
		哲学	4 後	1		○			○
		生活と経済	4 後	1		○			○
		ジェンダー論	4 後	1		○			○
		政治学	4 後	1		○			○
	専門基礎科目	解剖学Ⅰ	1 前	2		○	○		
		解剖学実習	1 前	1		○	○		
		解剖学Ⅱ	1 後	2		○	○		
		基礎運動学	1 前	2		○	○		
		身体運動学演習	1 後	1		○	○		

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「○」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	運動制御論	2 前	2			○	○		
		身体運動学実習	2 前	1				○	○	
		生理学Ⅰ	1 前	2			○	○		
		生理学Ⅱ	1 後	2			○	○		
		生理学実習	1 後	1				○	○	
		人間生涯発達学	2 前	2			○	○		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	1 後	2			○	○		
		内部障害系病学	2 前	2			○	○		
		神経障害系病学Ⅰ	2 前	2			○	○		
		神経障害系病学Ⅱ	2 後	1			○	○		
		運動器障害系病学	2 前	2			○	○		
		精神障害系病学Ⅰ	2 前	2			○	○		
		発達障害系病学	2 後	1			○	○		
		老年期病学	2 後	1			○	○		
		栄養学概論	2 後	1			○	○		
		救命救急学演習	1 後	1			○		○	
		臨床心理学	2 前	2			○	○		
		リハビリテーション医学	2 前	1			○	○		
		病態薬理学	3 前	1			○	○		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1 後		1		○			○
		チーム医療福祉論	1 後	1				○	○	
		保健医療福祉概論	2 後	2				○	○	
		専門職連携論	3 前	2				○	○	
		専門職連携セミナー	3 後		1			○	○	
		公衆衛生学	3 前		1		○			○
		医療経済論	2 後		1		○			○
		リハビリテーション心理	3 前		1		○	○		
専門科目	基礎理学療法学	理学療法学概論	1 前	2			○			○
		理学療法学基礎演習Ⅰ	1 前	1			○			○
		理学療法学基礎演習Ⅱ	1 後	1			○		○	
		理学療法障害論	3 前	2			○	○		
	福祉	理学療法管理学	3 後	2			○	○		
	理学療法評価学	理学療法評価技術演習Ⅰ	1 後	2			○		○	
		理学療法評価技術演習Ⅱ	2 前	2			○		○	
		運動動作分析演習	2 前	1			○		○	
		臨床動作分析演習	2 後	1				○	○	

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「○」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	理学療法治療学	運動療法学演習	2 前	2			○	○	
		運動器理学療法演習Ⅰ	2 後	1		○	○		
		運動器理学療法演習Ⅱ	3 前	1		○		○	
		運動器理学療法演習Ⅲ	3 後	1			○	○	
		小児理学療法演習Ⅰ	2 後	1		○	○		
		小児理学療法演習Ⅱ	3 前	1		○	○		
		神経理学療法演習Ⅰ	2 後	1		○		○	
		神経理学療法演習Ⅱ	3 前	1		○		○	
		神経理学療法演習Ⅲ	3 後	1			○	○	
		内部障害理学療法演習Ⅰ	2 後	1		○	○		
		内部障害理学療法演習Ⅱ	3 前	1		○		○	
		内部障害理学療法演習Ⅲ	3 後	1		○		○	
		総合理学療法学演習	3 後	1		○			○
		義肢装具学	2 後	2		○	○		
		義肢装具学実習	3 前	1			○	○	
		物理療法学	2 後	2		○	○		
		物理療法学実習	3 前	1			○	○	
		日常生活活動演習Ⅰ	3 前	1		○		○	
		日常生活活動演習Ⅱ	3 後	1		○		○	
	療地 法域 学理 学	地域理学療法学演習Ⅰ	3 前	2		○			○
		地域理学療法学演習Ⅱ	3 後	1		○			○
	臨床実習	臨床実習Ⅰ セミナー	2 後	1			○	○	
		臨床実習Ⅰ	2 後	2			○	○	
		臨床実習Ⅱ セミナー	3 前	1			○	○	
		臨床実習Ⅱ	3 後	7			○	○	
		地域理学療法実習	3 後	1			○	○	
		臨床実習Ⅲ セミナー	4 前	1			○	○	
		臨床実習Ⅲ	4 前	11			○	○	
	特別科目	基礎セミナーⅠ	1 前	1				○	○
		基礎セミナーⅡ	1 後	1				○	○
		基礎セミナーⅢ	2 前	1				○	○
		基礎セミナーⅣ	2 後	1				○	○
		夏季集中セミナー	1 前		1			○	○
		地域理学療法セミナー	3 前		1			○	○
		スポーツ理学療法セミナー	3 後		1			○	○
		ウイメンズヘルス	3 後		1	○			○

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	特別科目	医学英語	3 後		1		◎			◎
		福祉住環境論	3 前		2		◎			◎
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	3 前		1				◎	◎
		アダプテッド・スポーツ論	3 後		2				◎	◎
		理学療法学特論	4 通	2				◎		◎
		理学療法学特別演習 I	3 前	1			◎	◎		
		理学療法学特別演習 II	4 後	1			◎			◎

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【医療福祉学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・作業療法士の資格を取得し、実践するための基本的な知識を身につけている。
②	「思考・判断」	・情報を収集・分析することや柔軟に対応・解決する能力を身につけている。
③	「技能・表現」	・作業療法士としての基本的評価・治療技術を身につけている。 ・円滑な対人交流を行う技術と論理的に説明できる表現力を身につけている。
④	「関心・意欲・態度」	・人や社会に関心を持ち、自ら学び続ける意欲を持っている。 ・倫理観を持ち、他者を思いやる態度を身につけている。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー （学位授与の方針）対応表 （「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探究・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2			○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2			○		○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2			○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2			○		○
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2			○		○
		社会活動入門	1 前・1 後		2			○		○
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1 前	2			◎	◎		
		生活の中の物理学	1 後		2		◎	◎		
		生活の中の化学	1 前		2		◎	◎		
		生活の中の生物学	1 前		2		◎	◎		
		統計解析	1 後		2		○	◎		
		医療情報科学	1 後		1			◎		○
		医療のための基礎数学	1 前		1		◎	◎		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1 通	2					◎	◎
		スポーツ実技	1 前		1				○	○
		心理学概論	1 後	2			◎		◎	○
		生命倫理学	1 後	1			◎	◎	◎	◎
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1			◎	○	◎	
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1			◎	○	◎	
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		◎	○	◎	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		◎	○	◎	
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		◎	○	◎	
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		◎	○	◎	
		コミュニケーション論	1 前		2				○	◎
		現代国語表現	1 前		2				○	◎

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	人 と 生 活	海外研修	1 通		2		○			◎
		健康科学	1 前	1			○			◎
		教育学	1 前		2		◎	◎		
		教育方法論	2 前		2		◎	◎		
		哲学	1 後		2		○			◎
		現代史	2 前		2		○			○
		東北の歴史	2 前		2		○			○
		ジェンダー論	1 後		2		○			◎
		憲法と法律	1 前		2		○			◎
		文化人類学	2 前		2		○			◎
		生活と地球科学	2 後		2		○			◎
		生活と経済	2 後		2		○			◎
		教養としての政治学	2 後		2		○			◎
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1 前	2			◎	○		
		解剖学実習	1 前	1			◎	○		
		解剖学Ⅱ	1 後	2			◎	○		
		基礎運動学	1 前	2			◎	◎		
		運動学演習	1 後	1			◎	◎		
		運動学実習	2 前	1			◎	○		
		生理学Ⅰ	1 前	2			◎	◎		
		生理学Ⅱ	1 後	2			◎	◎		
		生理学実習	1 後	1			◎	◎		
		人間生涯発達学	2 前	2			◎			○
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	1 後	2			◎	◎		
		内部障害系病学	2 前	2			◎	◎		
		神経障害系病学	2 前	2			◎	◎		
		運動器障害系病学	2 前	2			◎	◎		
		精神障害系病学Ⅰ	2 前	2			◎	◎		
		精神障害系病学Ⅱ	2 後	2			◎	◎		
		発達障害系病学	2 後	1			◎	◎		
		老年期病学	2 後	1			◎	◎		
		臨床心理学	2 前	2			◎	◎	◎	
		栄養学概論	2 後	1			◎	◎		
		救命救急学演習	1 後	1			◎			○
		リハビリテーション医学	1 後	1			◎	◎		
		病態薬理学	3 前	1			◎	○		

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔○〕は強く関係する科目、〔○〕は関係する科目			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
専門基礎科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1 前	1		○	○		
		リハビリテーション心理	3 前		1	○		○	
		医療経済論	2 後		1	○			○
		公衆衛生学	3 前		1	○			○
		チーム医療福祉論	1 後	1		○			○
		保健医療福祉概論	2 後	2		○			○
		専門職連携論	3 前	2		○			○
		専門職連携セミナー	3 後		1		○		○
		重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4 後		1	○		○	○
専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	1 前	2		○			○
		基礎作業学	1 前	1		○	○		
		基礎作業学実習	1 後	1				○	○
		作業分析学	3 前	1			○	○	○
	作業療法管理	作業療法管理学	3 前	2		○			○
	作業療法評価学	作業療法基礎評価学	1 後	1		○	○		
		作業療法評価学演習	1 後	1		○		○	
		身体障害作業療法評価学実習	2 前	1		○		○	
		精神障害作業療法評価学実習	2 後	1		○		○	
		発達障害作業療法評価学実習	2 後	1		○		○	
	作業治療学	作業治療論	2 前	1		○	○		
		身体障害作業療法学	2 前	1		○			○
		身体障害作業療法学演習	2 後	2		○		○	
		身体障害作業療法学実習	3 前	1			○	○	
		精神障害作業療法学	2 後	2		○	○		
		精神障害作業療法学演習	3 前	1		○		○	
		精神障害作業療法学実習	3 前	1			○	○	
		高次脳機能障害作業療法学	3 前	1		○	○		
		発達障害作業療法学	2 後	2		○			○
		発達障害作業療法学実習	3 前	1			○	○	○
		老年期障害作業療法学	2 後	2		○		○	
		日常生活活動学	2 前	1		○	○		
		生活環境技術学	3 前	2		○		○	
		職業関連活動学	3 前	1		○		○	
	療域法作業	地域作業療法学Ⅰ	2 後	2		○			○
		地域作業療法学Ⅱ	3 前	2		○			○
	実臨床	臨床実習Ⅰ	2 後	3			○		○

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	臨床実習	臨床実習入門	2 前	1		◎			◎
		臨床実習セミナーⅠ	2 後	1		◎		◎	
		臨床実習Ⅱ	3 後	10			◎		◎
		臨床実習セミナーⅡ	3 前	1		◎		◎	
		臨床実習Ⅲ	4 前	10			◎		◎
		臨床実習セミナーⅢ	4 前	1		◎		◎	
		地域作業療法学実習	4 前	1			◎		◎
	特別科目	臨床体験	1 通	1			◎		◎
		作業療法研究法	3 後	1			◎		○
		卒業研究	4 前	1		◎	◎		
		基礎科目演習セミナー	1 通	1		◎	○		
		作業療法学特別演習	4 後	1		◎	◎		

2020 ～ 2024 年度入学用カリキュラム

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		3		○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2		○		○
		人間文化探求	1 通		2		○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		○		○
		地域活動・ボランティア	1 通		2		○		◎
		現代社会を視る	1 前・1 後		2		○		○
		ボランティア探求	2 通		2		○		○
	科学的思考の基礎	情報処理	1 前		1	◎	◎		
		医療情報科学	1 後		1		◎		○
		医療数理基礎	1 前		1	○	○		
		基礎数学	1 後		2	○	○		
		基礎物理学	1 前	2		◎	◎		
		基礎化学	1 前		2	◎	○		
		基礎生物学	1 前	2		◎	◎		
		統計解析	1 後		2	○	◎		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1 通	1				◎	◎
		スポーツ実技	1 前		1			○	○
		心理学	1 後	2		◎			○
		生命倫理	1 前	1		◎			◎

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔○〕は強く関係する科目、〔○〕は関係する科目			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	ことばと相互理解	英語Ⅰ	1 通	2			○			○
		英語Ⅱ	2 通		2		○			○
		韓国語	1 前		1		○			○
		中国語	1 前		1		○			○
		コミュニケーション論	1 前		2				○	○
		現代国語表現	1 前		2				○	○
		海外研修	1・2・3・4 通		2		○			○
	人と生活	憲法と法律	2 前		2		○			○
		文化人類学	2 前		2		○			○
		日本・東北文化論	2 前		2		○			○
		日本近代史	2 前		2		○			○
		健康科学	2 前		2		○			○
		教育学Ⅰ	2 前		2				○	○
		教育学Ⅱ	4 後		2				○	○
		地球の科学	4 後		1		○			○
		哲学	4 後		1		○			○
		生活と経済	4 後		1		○			○
		ジェンダー論	4 後		1		○			○
		政治学	4 後		1		○			○
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1 前	2			○	○		
		解剖学実習	1 前	1			○	○		
		解剖学Ⅱ	1 後	2			○	○		
		基礎運動学	1 前	2			○	○		
		運動学演習	1 後	1			○	○		
		運動学実習	2 前	1			○	○		
		生理学Ⅰ	1 前	2			○	○		
		生理学Ⅱ	1 後	2			○	○		
		生理学実習	1 後	1			○	○		
		人間生涯発達学	2 前	2			○			○
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論	1 後	2			○	○		
		内部障害系病学	2 前	2			○	○		
		神経障害系病学Ⅰ	2 前	2			○	○		
		神経障害系病学Ⅱ	2 後	1			○	○		
		運動器障害系病学	2 前	2			○	○		
		精神障害系病学Ⅰ	2 前	2			○	○		
		精神障害系病学Ⅱ	2 後	2			○	○		

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔○〕は強く関係する科目、〔○〕は関係する科目			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	発達障害系病学	2 後	1			○	○		
		老年期病学	2 後	1			○	○		
		臨床心理学	2 前	2			○	○		
		栄養学概論	2 後	1			○	○		
		救命救急学演習	1 後	1			○			○
		リハビリテーション医学	2 前	1			○	○		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	病態薬理学	3 前	1			○	○		
		リハビリテーション概論	1 前	1			○	○		
		リハビリテーション心理	3 前		1		○		○	
		医療経済論	2 後		1		○			○
		公衆衛生学	3 前		1		○			○
		チーム医療福祉論	1 後	1			○			○
		保健医療福祉概論	2 後	2			○			○
		専門職連携論	3 前	2			○			○
		専門職連携セミナー	3 後		1			○		○
専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	1 前	2			○			○
		基礎作業学	1 前	1			○	○		
		基礎作業学実習	1 後	1					○	○
		作業分析学	3 前	1				○	○	
	作業療法管理学	作業療法管理学	3 前	2			○			○
	作業療法評価学	作業療法評価学	1 後	1			○	○		
		作業療法評価学演習	1 後	1			○		○	
		作業療法評価学実習Ⅰ	2 前	1			○		○	
		作業療法評価学実習Ⅱ	2 後	1			○		○	
		作業療法評価学実習Ⅲ	2 後	1			○		○	
	作業治療学	作業治療論	2 前	1			○	○		
		身体障害作業療法学	2 前	1			○			○
		内部障害作業療法学	3 前	1			○	○		
		神経障害作業療法学	2 後	2			○	○		
		運動器障害作業療法学	2 後	1			○	○		
		身体障害作業療法学演習	2 後	1			○		○	
		身体障害作業療法学実習	3 前	1				○	○	
		発達障害作業療法学	2 後	2			○			○
		発達障害作業療法学実習	3 前	1			○		○	
		精神障害作業療法学	2 後	2			○	○		
		精神障害作業療法学実習	3 前	1			○		○	

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	作業治療学	高次脳機能障害作業療法学	3 前	1		◎	◎		
		老年期障害作業療法学	3 前	1		◎		◎	
		日常生活活動学	2 前	1		◎	◎		
		生活環境技術学	3 前	2		◎		◎	
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	2 後	1		◎			◎
		地域作業療法学Ⅱ	3 前	2		◎			◎
		地域作業療法学演習	3 前	1		◎			◎
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	2 後	2			◎		◎
		臨床実習セミナーⅠ	2 通	1		◎		◎	
		臨床実習Ⅱ	3 後	10			◎		◎
		臨床実習セミナーⅡ	3 通	1		◎		◎	
		臨床実習Ⅲ	4 前	10			◎		◎
		臨床実習セミナーⅢ	4 前	1		◎		◎	
		地域作業療法学実習	4 前	1			◎		◎
	特別科目	臨床体験	1 通	1			◎		◎
		作業療法研究法	3 後	1			◎		○
		作業療法実践特論	4 通		2			◎	◎
		作業療法研究特論	4 通		2			◎	◎
		基礎科目演習セミナーⅠ	1 前	1		◎	○		
		基礎科目演習セミナーⅡ	1 後	1		◎	○		
		作業療法学特別演習	4 後	1		◎	◎		

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【医療福祉学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・言語聴覚学に関わる基本的な専門知識を習得し、科学的・論理的思考が身についている。
②	「思考・判断」	・対象の多様性を理解し、科学的根拠に基づいた問題の把握と解決に向けて基本的な対応について判断できる能力が身についている。
③	「技能・表現」	・言語聴覚士として必要な基本的な臨床知識・技能・技術を修得し、実践できる能力が身についている。 ・保健・医療・福祉・教育における関連職種と協働し、専門職としての責務を果たすことができる。
④	「関心・意欲・態度」	・広い視野を持ち専門職として主体的に学び、資質向上のために努力し続けることができる。 ・幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、多様な価値観を基に支援する態度が身についている。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー （学位授与の方針）対応表 （「◎」は強く関係する科目、 「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探究・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2			○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2			○		○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2			○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2			○		○
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2			○		○
		社会活動入門	1 前・1 後		2			○		○
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1 前	2				○		○
		医療のための基礎数学	1 前		2			○		○
		生活の中の化学	1 前		2			○		○
		生活の中の生物学	1 前		2			○		○
		医療情報科学	1 後		1		○	○		
		統計解析	1 後		2		○	○		
		生活の中の物理学	1 後		2			○		○
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1 通	1				○	◎	
		生命倫理学	1 後	1					○	◎
		スポーツ実技	1 前		1				○	○
		心理学概論	1 後		2				○	○
	ことばと相互理解	コミュニケーション論	1 前	2			○		○	
		現代国語表現	1 前	2			○		◎	
		英語コミュニケーションⅠ	1 前	1						○
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1						○
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1					○
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1					○

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「○」は強く関係する科目、 「◎」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	ことばと相互理解	中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1					○
		中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1					○
		海外研修	1 通		2					◎
	人と生活	健康科学	1 前	1			○			○
		憲法と法律	1 前		2					○
		東北の歴史	1 前		2					○
		現代史	1 前		2					○
		哲学	1 後		2					○
		教育学	1 後		2		○			○
		ジェンダー論	1 後		2					○
		生活と地球科学	1 後		2					○
		生活と経済	1 後		2					○
		教養としての政治学	1 後		2					○
		文化人類学	2 前		2					○
		教育方法論	2 前		2		○			○
	言語聴覚療法の基盤	チーム医療福祉論	1 後	1					◎	◎
		保健医療福祉概論	2 後	2					◎	◎
		専門職連携論	3 前	2					◎	◎
		専門職連携セミナー	3 後		1				◎	◎
		重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4 後		1				◎	◎
		認知神経科学	2 前	2			◎			○
		救命救急学	2 後		1		◎			○
		栄養学概論	2 後		1		◎			○
		病態薬理学	3 前		1		◎			○
		公衆衛生学	3 前		1		◎			○
		言語聴覚学研究	3 通		4			◎		◎
専門基礎科目	人体のしくみ・疾病と治療	解剖・生理学概論Ⅰ	1 前	2			◎			
		解剖・生理学概論Ⅱ	1 後	2			◎			
		医学総論	1 後	1			◎			
		小児科学	1 後	1			◎			
		内科学	2 前	1			◎			
		耳鼻咽喉科学	2 前	2			◎			
		リハビリテーション医学	2 前	1			◎			
		形成外科学	2 前	1			◎			
		臨床口腔歯科医学	2 前	2			◎			
		臨床神経学	2 後	2			◎			

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「○」は強く関係する科目、 「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門基礎科目	人体のしくみ・病と治療	精神医学	2 後	1			○			
		呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1 後	1			○		○	
		聴覚系の構造・機能・病態	1 後	1			○		○	
		神経系の構造・機能・病態	1 後	1			○		○	
	心の働き	生涯発達心理学	1 前	2			○			
		学習・認知心理学	1 後	2			○			
		心理測定法	2 後	2			○			
		臨床心理学	2 後	1			○			
	言語とコミュニケーション	言語学Ⅰ	1 前	2			○			
		言語学Ⅱ	1 後	1			○			
		音声学	1 前	2			○		○	
		音響学	1 前	2			○		○	
		聴覚心理学	1 後	1			○		○	
		言語発達学	1 後	1			○		○	
	社会福祉教育 ディプロマ	医療福祉関係法規	3 前	1			○			
専門科目	言語聴覚 学総論	言語聴覚障害学総論	1 前	2			○	○		
		言語聴覚療法管理学	3 後	2			○		○	
	失語・高次脳機能障害学	失語症学Ⅰ	2 後	2			○	○		
		失語症学演習Ⅰ	2 後	1				○	○	
		失語症学Ⅱ	3 前	2			○	○		
		失語症学演習Ⅱ	3 前	1				○	○	
		高次脳機能障害学Ⅰ	2 後	1			○	○		
		高次脳機能障害学演習Ⅰ	2 後	1				○	○	
		高次脳機能障害学Ⅱ	3 前	1			○	○		
		高次脳機能障害学演習Ⅱ	3 前	1				○	○	
	言語発達障害学	言語発達障害学Ⅰ	2 前	2			○	○		
		言語発達障害学演習Ⅰ	2 前	1				○	○	
		言語発達障害学Ⅱ	2 後	2			○	○		
		言語発達障害学演習Ⅱ	2 後	1				○	○	
	発声発語・摂食嚥下障害学	構音障害学Ⅰ	2 前	1			○	○		
		構音障害学演習Ⅰ	2 前	1				○	○	
		構音障害学Ⅱ	2 後	1			○	○		
		構音障害学演習Ⅱ	2 後	1				○	○	
		摂食嚥下障害学	3 前	2			○	○		
		摂食嚥下障害学演習	3 前	1				○	○	
		音声障害学	3 前	2			○		○	

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、 「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	聴覚障害学	吃音・流暢性障害学	3 後	1		◎		◎	
		成人聴覚障害学	2 前	2		◎	○		
		聴覚障害学演習Ⅰ	2 前	1			◎	◎	
		小児聴覚障害学	2 後	2		◎	○		
		補聴器・人工内耳	3 前	2		◎	○		
		聴覚障害学演習Ⅱ	3 後	1			◎	◎	
	臨床実習	地域言語聴覚療法学	3 前	2		◎		◎	
		見学実習Ⅰ	1 通	1				◎	◎
		見学実習Ⅱ	2 通	1				◎	◎
		評価実習	3 後	5			◎	◎	
		総合臨床実習	4 前	8			◎	◎	
	ゼミナール	基礎ゼミナール	2 前	1		◎	◎		
		領域別セミナーⅠ	3 前	1		◎	◎		
		総合演習	3 後	3			◎	◎	
		領域別セミナーⅡ	4 通	4		◎	◎		
		言語聴覚学特別講義	4 後	1		◎	◎		

2020～2024 年度入学者用カリキュラム

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、 「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		3		○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2		○		○
		人間文化探求	1 通		2		○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2		○		○
		地域活動・ボランティア	1 通		2		○		◎
		現代社会を視る	1 前・1 後		2		○		○
		ボランティア探求	2 通		2		○		◎
	科学的思考の基礎	情報処理	1 前		1	○	○		
		医療情報科学	1 後		1	○	○		
		医療数理基礎	1 前		1	○	○		
		基礎数学	1 後		2	○	○		
		基礎物理学	1 前		2	○	○		
		基礎化学	1 前		2	○	○		
		基礎生物学	1 前		2	○	○		
		統計解析	1 後	2		○	○		

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔○〕は強く関係する科目、〔〇〕は関係する科目			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	自己形成	アカデミック・スキル演習	1 通	1			○	◎	
		スポーツ実技	1 前	1				○	○
		心理学	1 後	2		○			○
		生命倫理	1 前	1		○			◎
	ことばと相互理解	英語Ⅰ	1 通	2		○		○	
		英語Ⅱ	2 通	2		○		○	
		韓国語	1 前	1		○		○	
		中国語	1 前	1		○		○	
		海外研修	1 通	2					◎
		コミュニケーション論	1 前	2		○		○	
		現代国語表現	1 前	2		○		◎	
	人と生活	文化人類学	2 前	2		○			○
		日本・東北文化論	2 前	2		○			○
		日本近代史	2 前	2		○			○
		哲学	4 後	1		○			○
		健康科学	2 前	2		○			○
		憲法と法律	2 前	2		○			○
		教育学Ⅰ	2 前	2		○			○
		教育学Ⅱ	4 後	2		○			○
		生活と経済	4 後	1		○			○
		ジェンダー論	4 後	1		○			○
		政治学	4 後	1		○			○
		地球の科学	4 後	1		○			○
専門基礎科目	基礎医学	解剖・生理学概論Ⅰ	1 前	2		◎			
		解剖・生理学概論Ⅱ	1 後	2		◎			
		医学総論	1 後	1		◎			
	臨床医学	内科学	2 前	1		◎			
		小児科学	1 後	1		◎			
		耳鼻咽喉科学	2 前	2		◎			
		臨床神経学	2 後	2		◎			
		リハビリテーション医学	2 前	1		◎			
		精神医学	2 後	1		◎			
		形成外科学	2 前	1		◎			
	臨床歯科学	臨床口腔歯科医学	2 前	2		◎			
	聴覚・言語医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1 後	1		◎			
		聴覚系の構造・機能・病態	1 後	1		◎			

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門基礎科目	心理学	神経系の構造・機能・病態	1 後	1			◎			
		生涯発達心理学	1 前	2			◎			
		学習・認知心理学	1 後	2			◎			
		心理測定法	2 後	2			◎			
		臨床心理学	2 後	1			◎			
	言語学	言語学	1 前	2			◎			
	音声学	音声学	1 前	2			◎			
	音響学	音響学・聴覚心理学	1 前	2			◎			
	言語発達学	言語発達学	1 後	1			◎			
	社会福祉・教育	リハビリテーション概論	1 後	1			◎			
		医療福祉関係法規	3 前	1			◎			
専門科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学概論	1 前	2			◎			◎
		言語聴覚障害学診断学	1 後	1			○	◎		
	失語・高次脳機能障害学	失語症学Ⅰ	2 後	2			◎	○		
		失語症学Ⅱ	3 前	2			◎	○		
		失語症学演習Ⅰ	2 後	1				◎	◎	
		失語症学演習Ⅱ	3 前	1				◎	◎	
		高次脳機能障害学Ⅰ	2 後	1			◎	○		
		高次脳機能障害学Ⅱ	3 前	1			◎	○		
		高次脳機能障害学演習Ⅰ	2 後	1				◎	◎	
		高次脳機能障害学演習Ⅱ	3 前	1				◎	◎	
	言語発達障害学	言語発達障害学Ⅰ	2 前	2			◎	○		
		言語発達障害学Ⅱ	2 後	2			◎	○		
		言語発達障害学演習Ⅰ	2 前	1				◎	◎	
		言語発達障害学演習Ⅱ	2 後	1				◎	◎	
	発声発語・嚥下障害学	音声障害学	3 前	2			◎		◎	
		構音障害学Ⅰ	2 前	2			◎	○		
		構音障害学Ⅱ	2 後	2			◎	○		
		構音障害学演習Ⅰ	2 前	1				◎	◎	
		構音障害学演習Ⅱ	2 後	1				◎	◎	
		吃音学	3 後	1			◎		◎	
		摂食嚥下障害学	3 前	2			◎	○		
		摂食嚥下障害学演習	3 前	1				◎	◎	
	聴覚障害学	成人聴覚障害学	2 前	2			◎	○		
		小児聴覚障害学	2 後	2			◎	○		
		補聴器・人工内耳	3 前	2			◎	○		

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	聴覚障害学	聴覚障害学演習Ⅰ	2 前	1			◎	◎	
		聴覚障害学演習Ⅱ	3 後	1			◎	◎	
		視覚聴覚二重障害	3 後	1		◎	○		
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	3 後	4			◎	◎	
		臨床実習Ⅱ	4 前	8			◎	◎	
	ゼミナール	基礎ゼミナール	2 前	1		○		◎	
		総合演習	3 後	3			◎	◎	
		領域別セミナーⅠ	3 前	1		◎	◎		
		領域別セミナーⅡ	4 後	4		◎	◎		
		言語聴覚学特別講義	4 後	1		◎	◎		
選択必修科目	多職種連携	チーム医療福祉論	1 後		1		◎		◎
		保健医療福祉概論	2 後		2		◎		◎
		専門職連携論	3 前		2		◎		◎
		専門職連携セミナー	3 後		1		◎		◎
	特別科目	認知神経科学	2 前		2	◎			○
		救命救急学	2 後		1	◎			○
		栄養学概論	2 後		1	◎			○
		病態薬理学	3 前		1	◎			○
		公衆衛生学	3 前		1	◎			○
		地域言語聴覚療法学	3 前		2	◎			○
		言語聴覚学研究	3 通		4		◎		◎

授業科目とディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の対応表

【医療福祉学部 リハビリテーション学科 視覚機能学専攻】

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）		
①	「知識・理解」	・視覚機能学に関わる幅広い知識、および専門的な基礎知識を習得している。 ・視能訓練士に必要とされる教養と豊かな人間性を備え、人の尊厳について理解している。
②	「思考・判断」	・広い視点を持ち、科学的・論理的に思考することができる。
③	「技能・表現」	・視能訓練士として眼科学検査全般に対応できる技術、視能矯正、ロービジョンケアに関する訓練、支援技術を身につけている。 ・円滑に対人関係を持てるコミュニケーション能力を持ち、論理的に説明できる表現力を身につけている。
④	「関心・意欲・態度」	・専門職として人や社会に関心を持ち、主体的に学び続ける意欲を持っている。 ・患者の気持ちを理解して、思いやる態度を身につけている。

2025 年度以降入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー （学位授与の方針）対応表 （「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目）			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探究・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		2			○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2			○		○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2			○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2			○		○
		経済・法律・世界を視る	1 前・1 後		2			○		○
		社会活動入門	1 前・1 後		2			○		○
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1 前	2			◎	○		
		生活の中の化学	1 前		2		○	○		
		生活の中の生物学	1 前		2		○	○		
		生活の中の物理学	1 後		2		○	◎		
		医療情報科学	1 前・1 後		1		○	○		
		医療のための基礎数学	1 前	1			○	○		
		統計解析	1 後	2			○	◎		
	自己形成	スポーツ実技	1 前		1		○			○
		生命倫理学	1 後		1		○			◎
		心理学概論	1 後	2			○			○
		アカデミック・スキル演習Ⅰ	1 前	1				○		○
		アカデミック・スキル演習Ⅱ	1 後	1				○		○
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1 前	1			◎			○
		英語コミュニケーションⅡ	1 後	1			○			○
		韓国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		○			○
		韓国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		○			○
		中国語コミュニケーションⅠ	1 前		1		○			○

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔○〕は強く関係する科目、〔◎〕は関係する科目			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	ことばと相互理解	中国語コミュニケーションⅡ	1 後		1		○			○
		コミュニケーション論	1 前		2				○	○
		海外研修	1 通		2			○		○
		現代国語表現	1 前	2					◎	○
	人と生活	健康科学	1 前	1			○			○
		教育学	1 後	2			◎			○
		哲学	1 後		2		○			○
		ジェンダー論	1 後		2		○			○
		憲法と法律	1 前		2		○			○
		東北の歴史	1 前		2		○			○
		現代史	1 前		2		○			○
		生活と地球科学	1 後		2		○			○
		生活と経済	1 後		2		○			○
		教養としての政治学	1 後		2		○			○
		文化人類学	2 前		2		○			○
		教育方法論	2 前		2		○			○
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖・生理学概論Ⅰ	1 前	2			◎			○
		解剖・生理学概論Ⅱ	1 後	2			◎			○
		感覚器解剖・生理	2 前	2			◎			○
		感覚器解剖・生理演習	2 前	1			◎		○	
		人間生涯発達学	2 前	2			◎			○
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	眼の解剖としくみⅠ	1 前	1			◎			○
		眼の解剖としくみⅡ	1 後	1			◎			○
		医学総論	1 後	2			◎			○
		公衆衛生学	2 前	1			○			
		臨床神経学	2 後	2			◎	○		
		臨床医学	2 後	2			◎	○		
		救命救急学	3 後	1			◎	○		
	視覚機能の基礎と検査機器	生活の中の視覚	1 前	1			○			○
		両眼視機能と眼球運動	1 後	1			◎	○		
		両眼視機能と眼球運動演習	2 前	2			◎		◎	
		屈折矯正Ⅰ	2 前	1			◎		◎	
		屈折矯正Ⅱ	2 後	2			◎		◎	
		眼鏡矯正	3 前	1			◎		◎	
	保健福祉と視覚の発達	リハビリテーション概論	1 後	1			◎			○
		チーム医療福祉論	1 後	1			○	○		

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門基礎科目	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	保育概論	2 後	1			○			
		保健医療福祉概論	2 後	2			○	○		
		医療福祉関係法規	3 前	1			○			
		専門職連携論	3 前	2					◎	○
		専門職連携セミナー	3 後		1				◎	○
		看護・保健概論	2 後		1		○			
		介護概論	2 前		1		○			
		重度障がい者自立生活支援演習	1・2・3・4 後		1					◎
	同行援護	同行援護	1・2・3・4 後		2		◎			○
		同行援護演習	1・2・3・4 後		1			○	◎	
専門科目	基礎視能矯正学	生理光学Ⅰ	1 前	1			◎	○		
		生理光学Ⅱ	1 後	1			◎	○		
		社会と医療Ⅰ	1 後	1			◎			○
		社会と医療Ⅱ	3 後	1			○			◎
		視覚生理学Ⅰ	2 後	2			◎	○		
		視覚生理学Ⅱ	3 前	1			◎	○		
		視覚生理学演習	3 前	1			◎		◎	
		臨床心理学	2 後	1			○	○		
		眼科薬理学	2 後	1			◎			○
		眼科臨床機器学	4 後	2			◎	◎		
	視能検査学	基礎眼光学	1 前	1			○	◎		
		視能検査学概論	2 前	2			◎		◎	
		眼画像検査	3 通	3			◎	◎		
		視能検査学Ⅰ	3 前	1			◎	○		
		視能検査学演習Ⅰ	3 前	1					◎	○
		視能検査学Ⅱ	3 後	2			◎	○		
		視能検査学演習Ⅱ	3 後	1			◎		◎	
	視能障害学	眼疾病学Ⅰ	2 前	2			◎			○
		眼疾病学Ⅱ	2 後	2			◎			○
		眼疾病学Ⅲ	3 前	1			◎	○		
		神経眼科学	3 前	1			◎			○
		斜視・弱視	3 前	2			◎	○		
	視能訓練学	基礎視能訓練学	2 前	1			◎	○		
		基礎視能訓練学演習	2 前	1				◎	◎	
		視能訓練学Ⅰ	2 後	1			◎	○		
		視能訓練学演習Ⅰ	2 後	1				◎	◎	

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔◎〕は強く関係する科目、〔○〕は関係する科目			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	視能訓練学	視能訓練学Ⅱ	3 前	1			◎	○		
		視能訓練学演習Ⅱ	3 前	1				◎		○
		視能訓練学Ⅲ	3 後	2			○	◎		
		ロービジョン学Ⅰ	2 後	1			◎			○
		ロービジョン学Ⅱ	3 前	1			◎			○
		ロービジョンリハビリテーション	3 後	1				○	◎	
	臨地実習	臨地実習Ⅰ	3 後	7			◎			◎
		臨地実習Ⅱ	4 前	7				◎	◎	
		総合演習Ⅰ	3 前	1					◎	◎
		総合演習Ⅱ	4 前	1					◎	◎
	研究・セミナー等	視覚機能学特別セミナー	4 通	3			◎	◎		
		視覚機能学研究法	3 後	1			◎	◎		
		視覚機能学研究	4 通	2				◎		◎

2024 年度入学用カリキュラム

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔◎〕は強く関係する科目、〔○〕は関係する科目			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		3			○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2			○		○
		人間文化探求	1 通		2			○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2			○		○
		地域活動・ボランティア	1 通		2			○		○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2			○		○
		ボランティア探求	2 通		2			○		○
	科学的思考の基礎	情報処理	1 前	1			○	◎		
		医療情報科学	1 後		1		○	○		
		医療数理基礎	1 通	1			○	◎		
		基礎数学	1 後		2		○	○		
		基礎物理学	1 前	2			○	◎		
		基礎化学	1 前		2		○	○		
		統計解析	1 後	2			○	◎		
		基礎生物学	1 前		2		○	○		
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1 通	1				◎		◎
		スポーツ実技	1 前		1		○			○

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔◎〕は強く関係する科目、〔○〕は関係する科目			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	自己形成	心理学	1 後		2		○			○
		生命倫理	1 前	1			○			◎
	ことばと相互理解	英語Ⅰ	1 通	2			◎			○
		英語Ⅱ	2 通		2		○			○
		韓国語	1 前		1		○			○
		中国語	1 前		1		○			○
		コミュニケーション論	1 前		2				○	○
		現代国語表現	1 前	2					◎	○
		海外研修	1・2・3・4通		2			○		○
	人と生活	憲法と法律	2 前		2		○			○
		文化人類学	2 前		2		○			○
		日本・東北文化論	2 前		2		○			○
		日本近代史	2 前		2		○			○
		健康科学	2 前		2		○			○
		教育学Ⅰ	2 前	2			◎			○
		教育学Ⅱ	4 後		2		○			○
		地球の科学	4 後		1		○			○
		哲学	4 後		1		○			○
		生活と経済	4 後		1		○			○
		ジェンダー論	4 後		1		○			○
		政治学	4 後		1		○			○
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖・生理学概論Ⅰ	1 前	2			◎			○
		解剖・生理学概論Ⅱ	1 後	2			◎			○
		感覚器解剖・生理	2 前	2			◎			○
		感覚器解剖・生理演習	2 前	1			◎		○	
		人間生涯発達学	2 前	2			◎			○
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学総論	1 後	2			◎			○
		眼科学入門	1 前	2			◎	○		
		臨床神経学	2 後	2			◎	○		
		臨床医学	2 後	2			◎	○		
		救命救急学	3 後	1			◎	○		
		公衆衛生学	2 前	1			○			
	視覚機能の基礎と検査機器	視覚機能学概論Ⅰ	1 後	2			◎			○
		視覚機能学概論Ⅱ	2 前	2			◎	○		
		視能検査機器概論Ⅰ	2 前	2			◎	○		
		視能検査機器演習Ⅰ	2 前	1			◎		◎	

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
専門基礎科目	視覚機能の基礎と検査機器 リハビリテーションの理念	眼科検査基礎演習	1 後	1		◎			○
		臨床基礎セミナー	2 通	1		○	○		
		医療福祉関係法規	3 前	1		○			
		保育概論	2 後	1		○			
		リハビリテーション概論	1 後	1		◎			○
	保健医療福祉と視能障害の リハビリテーションの理念	チーム医療福祉論	1 後	1		○	○		
		保健医療福祉概論	2 後	2		○	○		
		専門職連携論	3 前	2				◎	○
		専門職連携セミナー	3 後		1			◎	○
		看護・保健概論	2 後		1	○			
		介護概論	3 前		2	○			
	同行援護	同行援護	1・2・3・4通		2	◎			○
		同行援護演習	1・2・3・4通		1		○	◎	
専門科目	基礎視能矯正学	視能矯正学Ⅰ	1 後	1		○			◎
		視能矯正学Ⅱ	2 前	1		○			◎
		視能矯正学Ⅲ	3 前	1		○			◎
		視覚生理学Ⅰ	1 後	2		◎	○		
		視覚生理学Ⅱ	3 前	1		◎	○		
		視覚生理学演習	3 前	1		◎		◎	
		生理光学Ⅰ	1 後	2		◎		◎	
		生理光学Ⅱ	3 前	1		◎	○		
		生理光学演習	3 前	1		◎		◎	
		臨床心理学	2 後	1		○	○		
	視能検査学	視能検査学Ⅰ	3 前	2		◎	○		
		視能検査学演習	3 前	1				◎	◎
		視能検査学Ⅱ	3 後	2		◎	○		
		視能検査学演習Ⅱ	3 後	1		◎		◎	
		眼科臨床機器学	4 後	2		◎	○		
		眼科臨床機器学演習	4 後	1			◎	○	
		視能検査機器概論Ⅱ	2 後	2		◎	○		
		視能検査機器演習Ⅱ	2 後	2		◎		◎	
	視能障害学	眼疾病学Ⅰ	2 後	2		◎			○
		眼疾病学Ⅱ	2 後	2		◎	○		
		神経眼科学	2 後	1		◎			○
		斜視・弱視	3 前	2		◎	○		
		眼科薬理学	2 後	1		◎			○

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	視能訓練学	視能訓練学Ⅰ	2 後	2			◎	○		
		視能訓練学演習Ⅰ	2 後	2				◎	◎	
		視能訓練学Ⅱ	3 前	1			◎	○		
		視能訓練学演習Ⅱ	3 前	1				◎		○
		視能訓練学Ⅲ	3 後	2			○	◎		
		ロービジョン学Ⅰ	2 後	1			◎			○
		ロービジョン学Ⅱ	3 前	1			◎			○
		ロービジョンリハビリテーション	3 後	1				○	◎	
	臨地実習	臨地実習Ⅰ	3 後	7			◎			◎
		臨地実習Ⅱ	4 前	7				◎	◎	
		総合演習Ⅰ	3 前	1					◎	◎
		総合演習Ⅱ	4 前	1					◎	◎
	研究・セミナー等	視覚機能学特別セミナー	4 通	3			◎	◎		
		視覚機能学研究法	3 後	1			◎	◎		
		視覚機能学研究	4 通	2				◎		◎

2020 ～ 2023 年度入学者用カリキュラム

授業科目の名称			配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1 通		3			○		○
		生命を考える	1 前・1 後		2			○		○
		人間文化探求	1 通		2			○		○
		生活の中の科学	1 前・1 後		2			○		○
		地域活動・ボランティア	1 通		2			○		○
		現代社会を視る	1 前・1 後		2			○		○
		ボランティア探求	2 通		2			○		○
	科学的思考の基礎	情報処理	1 前	1			○	◎		
		医療情報科学	1 後		1		○	○		
		医療数理基礎	1 通	1			○	◎		
		基礎数学	1 後		2		○	○		
		基礎物理学	1 前	2			○	◎		
		基礎化学	1 前		2		○	○		
		統計解析	1 後	2			○	◎		
		基礎生物学	1 前		2		○	○		

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔◎〕は強く関係する科目、〔○〕は関係する科目			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
基礎科目	自己形成	アカデミック・スキル演習	1 通	1				◎		◎
		スポーツ実技	1 前		1		○			○
		心理学	1 後		2		○			○
		生命倫理	1 前	1			○			◎
	ことばと相互理解	英語Ⅰ	1 通	2			◎			○
		英語Ⅱ	2 通		2		○			○
		韓国語	1 前		1		○			○
		中国語	1 前		1		○			○
		コミュニケーション論	1 前		2				○	○
		現代国語表現	1 前	2					◎	○
		海外研修	1・2・3・4通		2			○		○
	人と生活	憲法と法律	2 前		2		○			○
		文化人類学	2 前		2		○			○
		日本・東北文化論	2 前		2		○			○
		日本近代史	2 前		2		○			○
		健康科学	2 前		2		○			○
		教育学Ⅰ	2 前	2			◎			○
		教育学Ⅱ	4 後		2		○			○
		地球の科学	4 後		1		○			○
		哲学	4 後		1		○			○
		生活と経済	4 後		1		○			○
		ジェンダー論	4 後		1		○			○
		政治学	4 後		1		○			○
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖・生理学概論Ⅰ	1 前	2			◎			○
		解剖・生理学概論Ⅱ	1 後	2			◎			○
		感覚器解剖・生理	2 前	2			◎			○
		感覚器解剖・生理演習	2 前	1			◎		○	
		人間生涯発達学	2 前	2			◎			○
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学総論	1 後	2			◎			○
		眼科学入門	1 前	2			◎	○		
		眼科検査基礎演習	1 後	1			◎			○
		臨床神経学	2 後	2			◎	○		
		臨床医学	2 後	2			◎	○		
		臨床基礎セミナー	2 通	1			○	○		
		救命救急学	3 後	1			◎	○		
	検査の基礎と能	視覚機能学概論Ⅰ	1 後	2			◎			○

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 〔○〕は強く関係する科目、〔○〕は関係する科目			
				必修	選択	自由	①	②	③	④
専門基礎科目	視覚機能の基礎と検査機器	視覚機能学概論Ⅱ	2 前	2			○	○		
		視能検査機器概論Ⅰ	2 前	2			○	○		
		視能検査機器概論Ⅱ	2 後	2			○	○		
		視能検査機器演習Ⅰ	2 前	1			○		○	
		視能検査機器演習Ⅱ	2 後	2			○		○	
	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	医療福祉関係法規	3 前	1			○			
		公衆衛生学	2 前	1			○			
		保育概論	2 後	1			○			
		リハビリテーション概論	1 後	1			○			○
		チーム医療福祉論	1 後	1			○	○		
		保健医療福祉概論	2 後	2			○	○		
		専門職連携論	3 前	2					○	○
		専門職連携セミナー	3 後		1				○	○
		看護・保健概論	2 後		1		○			
		介護概論	3 前		2		○			
	同行援護	同行援護	1・2・3・4通		2		○			○
		同行援護演習	1・2・3・4通		1			○	○	
専門科目	基礎視能矯正学	視能矯正学Ⅰ	1 後	1			○			○
		視能矯正学Ⅱ	2 前	1			○			○
		視能矯正学Ⅲ	3 前	1			○			○
		視覚生理学Ⅰ	1 後	2			○	○		
		視覚生理学Ⅱ	3 前	1			○	○		
		視覚生理学演習	3 前	1			○		○	
		生理光学Ⅰ	1 後	2			○		○	
		生理光学Ⅱ	3 前	1			○	○		
		生理光学演習	3 前	1			○		○	
	視能検査学	視能検査学Ⅰ	3 前	2			○	○		
		視能検査学演習	3 前	1					○	○
		視能検査学Ⅱ	3 後	2			○	○		
		視能検査学演習Ⅱ	3 後	1			○		○	
		眼科薬理学	2 後	1			○			○
		眼科臨床機器学	4 後	2			○	○		
		眼科臨床機器学演習	4 後	1				○	○	
	視能障害学	眼疾病学Ⅰ	2 後	2			○			○
		眼疾病学Ⅱ	2 後	2			○	○		
		神経眼科学	2 後	1			○			○

授業科目の名称		配当 年次	単位数			ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 対応表 (「◎」は強く関係する科目、「○」は関係する科目)			
			必修	選択	自由	①	②	③	④
専門科目	視能障害学	斜視・弱視	3 前	2		◎	○		
		ロービジョン学Ⅰ	2 後	1		◎			○
		ロービジョン学Ⅱ	3 前	1		◎			○
		ロービジョンリハビリテーション	3 後	1			○	◎	
	視能訓練学	臨床心理学	2 後	1		○	○		
	視能訓練学	視能訓練学Ⅰ	2 後	2		◎	○		
		視能訓練学演習Ⅰ	2 後	2			◎	◎	
		視能訓練学Ⅱ	3 前	1		◎	○		
		視能訓練学演習Ⅱ	3 前	1			◎		○
		視覚機能学総合演習	3 前	1				◎	◎
		視能訓練学Ⅲ	3 後	2		○	◎		
	臨地実習	臨地実習Ⅰ	3 後	7		◎			◎
		臨地実習Ⅱ	4 前	7			◎	◎	
	研究・セミナー等	視覚機能学特別セミナー	4 通	4		◎	◎		
		視覚機能学研究法	3 後	1		◎	◎		
		視覚機能学研究	4 通	2			◎		◎

2025 年度入学者用カリキュラム (理学療法学専攻)

科 目 名	輝ける者			担 当 者	○小野部 純・他
科目ナンバリング	101011251				常勤
D P	1,4			教員研究室	3108 研究室
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業は、地元宮城県を支える取り組みを題材とし、次の2つの観点により授業を展開することで、「主体的に考える力」、「コミュニケーション力」、「問題解決力」を高め、「チームワーク・リーダーシップ」、「市民としての社会的責任」に対する基本的態度を育むことを目的とする ① 地元の産業を支えるとは 最前線で活躍している多様なゲストスピーカーの講義により、職業人の社会・地域の発展に対する思いを知ることから、「働くことの意味」を主体的に考える。 ② 地元を支える活動の実践 グループでの地域創生プロジェクトの企画提案を通して、地元の課題を自分自身と結び付けて考え、チームで提案し、地域を巻き込んで実践する。 【学習の到達目標】 社会の中で「輝く」とは何かについて、各自の考えを持つ 「仕事とはなにか」について考え、各自の考えを持つ 【成績評価方法】 ①レポート内容、②各テーマに関する発表内容の2点から総合的に評価する					
授 業 計 画					
----- 導入編 1. ガイダンス、グループワーク（アイスブレイク） 2～4. キャリア形成 ----- 地元を支える活動の実践 5～12. 多様な働き方を学び、考える ・地元企業を知る（働くとは何か） ・企業と地域（ゲストスピーカー） ・グループワーク（企業へのインタビュー準備） ・多様な働き方（アシスタ仙台）、企業担当者へのインタビュー ----- 地元の産業活動を知る 13～26. 夏休み企画 秋保ワイナリーとマルシェ ・マルシェの企画 ・マルシェ運営 ----- まとめ 27、28. グループ発表					
教 科 書	特に指定しない				
参 考 書	必要に応じて指示する				
備 考	質問や問い合わせは、常勤教員が受け付ける 複数時間で実施することが有効な授業内容の場合、土日もしくは長期休業期間に実施することがある 外部との調整の都合上、授業初回時にあらためてスケジュールを提示する				

科 目 名		生命を考える			担 当 者	○中村 哲也・阿部 玄治 本多ふく代・大庭 みよ 秋本 和宏
科目ナンバリング		101011252				常勤
D P		1,4			教員研究室	1427
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 21 世紀に入り日本は本格的な長寿社会を迎えた。加えて、人々には人種・性別・年齢・障害の有無に関わらず自分らしく生きられる社会（多様性のある社会）の実現が求められている。本科目では「ヒトの生命」を主たるテーマとし、「生きること」「死ぬこと」「障害と共に生きること」等について講義を受講しつつ、履修者同士で意見交換を行いながら考える。						
【学習の到達目標】 健康とは何か、「生」そして「死」とは何かについて、他者の意見を踏まえながら自分なりの考えを述べられるようになること。						
【成績評価方法】 ①講義前後の調べ学習、②講義時間中に取り組む小課題、③レポートの 3 点から総合的に評価する。 課題の内容や課される回数、評価方法は担当教員ごとに異なる。						
【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートなど小課題については適宜集計し、翌週以降の講義時間中ないしクラスルームを通じてフィードバックする。						
【履修上の注意・予習・復習について】 原則として毎回出席することが求められる。各テーマで課される最終レポートを全て提出しなければ成績評価の対象とならない。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 より良く生きることの意味について、同年代の学友の多様な意見に触れる機会を得られる。意見交換を経て自分の考えをまとめることによって、今後の生活に対して前向きになることが期待できる。						
【実務家教員担当科目】 看護師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の資格を有する担当教員が、実務経験を踏まえた講義をオムニバス形式で行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	中村 哲也	科目ガイダンス	予習：シラバスを読む 復習：指定された資料を確認する			4 時間
2	加賀谷 豊	日常の医療と臨床研究における生命倫理	予習：クラスルームの症例資料を読んでくる 復習：リアクションペーパー、資料を調べる			4 時間
3	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：資料を調べる 復習：リアクションペーパー、発表準備			4 時間
4	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
5	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：発表準備 復習：レポート課題			4 時間
6	本多ふく代	子どもを育てることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
7	本多ふく代	障害児を育てることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
8	本多ふく代	人が育てられる、育てられることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題			4 時間
9	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
10	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
11	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題			4 時間
12	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える 一生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
13	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える 一生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
14	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える 一生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題			4 時間
教 科 書		指定なし				
参 考 書		玉井真理子・大谷いづみ（編）（2011）、はじめて出会う生命倫理、有斐閣アルマ 鯨島浩二（著）植野ゆかり（絵）（2003）、わたしがあなたを選びました、主婦の友社 深澤友紀（著）（2018）、産声のない天使たち、朝日新聞出版				
備 考		講義の実施スケジュールは担当教員の予定により変更される可能性がある。				

科 目 名		現代社会を視る		担 当 者	○山尾 貴則・豊田 正利 野崎 瑞樹・鑑 さやか 山川 樹・小渕 高志 黒沢 麻美・田中 茜	
科目ナンバリング		101011253			常勤	
D	P	1,4		教 員 研 究 室	3304	
学 科 (専攻)		リハビリテーション学科 (理学療法専攻)		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本科目では、現代社会学部の教員が有する専門的な知識や技術を下敷きとして、「現代社会」をさまざまな角度から「視る」。そのことを通して、社会を知る・捉える・理解する力を培う。基本的には講義形式を取るが、多様な媒体に自分で触れたり、現場で活躍する人々と交流するなど、学内外の活動も含む。最終的には、社会で起きている現象を知るだけでなく、体験したり、問題を見つけて解決方法を考えたり、優れた点を発展させる案を考えることなどができるような力を身につけていく。 【学習の到達目標】 受講生が現代社会における諸問題に自ら関心を持ち、人文社会科学的な知識を下敷きとして諸問題に接近し、理解できるようになる。 【成績評価方法】 講義を大きく 4 つのパートに分け、それぞれのパートにつき、「講義態度、講義への参加の様子」を 10 点、「3 つ課す課題」をそれぞれ 5 点として 5 × 3 = 15 点の総点 25 点とする。4 つのパートを合わせて 100 点満点で評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 Google クラスルームを使用して受講生からの質問等を受け付け、適宜コメントする。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語をしないこと。普段から社会の諸問題に目を向けること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 受講生が現代社会における諸問題に自ら関心を持ち、人文社会科学的な知識を下敷きとして諸問題に接近し、理解できるようになる。 【実務家教員担当科目】 該当なし。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	山尾	ガイダンスー現代社会を「視る」とは	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
2	山川・小渕	現代社会をニュースから視る (1)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
3	山川・小渕	現代社会をニュースから視る (2)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
4	山川・小渕	現代社会をニュースから視る (3)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
5	豊田・鑑	現代の地域を視る (1)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間	
6	豊田・鑑	現代の地域を視る (2)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間	
7	豊田・鑑	現代の地域を視る (3)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間	
8	野崎・黒沢	現代の仕事を見る (1)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間	
9	野崎・黒沢	現代の仕事を見る (2)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間	
10	野崎・黒沢	現代の仕事を見る (3)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間	
11	田中・山尾	現代の生 (ライフ) を見る (1)	受講生自らが自分自身の人生 (ライフ) をふり返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間	
12	田中・山尾	現代の生 (ライフ) を見る (2)	受講生自らが自分自身の人生 (ライフ) をふり返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間	
13	田中・山尾	現代の生 (ライフ) を見る (3)	受講生自らが自分自身の人生 (ライフ) をふり返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間	
14	山尾	ふり返りー現代社会はどう視えたか	講義全体を通して受講生が何を学んだかをまとめる		4 時間	
教 科 書		指定無し。				
参 考 書		講義内で適宜紹介する。				
備 考						

科 目 名		生活の中の科学		担 当 者		○長田 俊明・沈 紅 鈴木 陽一・鈴木 伸夫 八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・富山 正幸 相澤 康弘・古林 俊晃 家名田敏昭・浅井 仁 佐藤 秀隆・工藤 剛実 佐々木典子・高橋 るみ 深谷 碧
科目ナンバリング		101011254				常勤
D P		1,4		教 員 研 究 室		1403 他
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次		1 年次・前期/後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当する
【授業内容】 生活の「安全・安心・便利・豊かさ」をキーワードに、現在の科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているか、また科学技術の将来あるべき姿について学ぶ。 具体的には、生活の中の電気、命を守る AED（自動体外式除細動器）、住まいや都市の安全・安心技術、災害の減災・復旧に有用な施設整備、生活を便利で豊かにする情報技術、等である。授業の半分程度は基礎知識の修得、半分程度がグループワークや実習・フィールドワーク・アイデアソン・ディスカッション等のアクティブラーニングスタイルで進められる。 【学習の到達目標】 科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているかを理解する。科学技術がもたらす「安全・安心・便利・豊かさ」について、能動的に活用できるようになる。 【成績評価方法】 毎回のテーマに対するミニレポートと科目全体に対する総合レポート、双方向授業における主体的取り組みを総合して評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 授業では、都度質問を受け回答する。ミニレポートや Google Classroom への質問コメントについては、個別あるいは全体コメントにてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業に関連する資料は、主として Google Classroom を利用して配信する。 全 14 回の授業に出席することが大原則である。やむを得ず出席できなかった授業については、これらの資料や動画・音声データを利用して学習し、次回授業に臨むこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 科学技術・工学分野における様々な専門領域における本学の専任教員から、多面的なテーマについて講義・実習指導を受けることができる。 科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているかを理解し、その認識から個々の専門分野において活用することが期待できる。 【実務家教員担当科目】 科学技術・工学分野における様々な専門領域における本学の実務家教員も担当し具体的指導を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	鈴木（陽）・長田・八十川・相澤	ガイダンス	シラバスの確認、授業の進め方、成績評価の方法		4 時間	
2	浅井 仁	生活の中の電気（100V、200V、直流？）	コンセントの交流と電池の直流の違いを調べる。 <ミニレポート>		4 時間	
3	家名田敏昭	生活の中の電気（発電所から送電、家庭までの経路）	発電の方法や電気を送る送電線について調べる。 <ミニレポート>		4 時間	
4	相澤 康弘	医療で用いられる電気（人体へ作用する電気）	生体電気の種類、生体電気刺激、治療に用いる電気を調べる。<ミニレポート>		4 時間	
5	須藤 諭・川村 広則	安全・安心のための都市環境整備技術	身近な省エネルギー、居住地のハザードマップについて調べる。<ミニレポート>		4 時間	
6	野崎 淳夫・富山 正幸	安全・安心のための都市と建築	安全・安心のための都市と建築について、自分の身の回りの実例を調べる。<ミニレポート>		4 時間	
7	八十川 淳・二科 妃里	災害と水	災害応急用井戸、水害とマチ、避難生活と水について調べる。<ミニレポート>		4 時間	
8	臨床教員・建築教員	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習、班別実技演習の準備学習	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習 <ミニレポート>		4 時間	
9	臨床教員・建築教員	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習、班別実技演習	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習 <ミニレポート>		4 時間	
10	知能情報教員	生活を便利で豊かにする情報アプリ：概要、準備学習	情報システム構築の流れを学び、グループごとに準備を行う。<ミニレポート>		4 時間	
11	知能情報教員	アイデアソン演習 1：提案アプリの案出と具体化の検討	前週の検討に基づきアプリの機能等の決定とプレゼンの準備を行う。<ミニレポート>		4 時間	
12	知能情報教員	アイデアソン演習 2：アプリの設計とプレゼンの準備	前週検討したアプリの機能を実現するアプリの設計とプレゼンの準備を行う。<ミニレポート>		4 時間	
13	知能情報教員	生活を便利で豊かにする情報アプリ：成果発表	提案するアプリに関するプレゼンをグループごとに行う。<投票、ミニレポート>		4 時間	
14	鈴木（陽）・長田・八十川・相澤	表彰課題の出題と総括	アイデアソンの高評価グループ表彰課題をテーマにレポート作成		4 時間	
教 科 書		特に指定しない。				
参 考 書		その都度必要に応じて紹介する				
備 考		なし				

科 目 名		社会活動入門			担 当 者	○加藤 由美・石垣 亨 石橋 千賀・他
科目ナンバリング		101011256				常勤・非常勤
D	P	1,4			教 員 研 究 室	1301
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用				☒ 双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない	「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この科目では社会活動を「社会貢献を目的として社会に参加または参画して行う活動」と位置づけ、ボランティア活動をはじめ企業のCSR（Corporate Social Responsibility）活動など多様な諸活動を扱う。各学科専攻の教員及び外部講師がそれぞれの切り口で捉えた社会活動について講義する。授業ではグループワーク、プレゼンテーション等を通じて履修生の主体的な学びを促す。				【課題等のフィードバック方法】 授業毎に担当教員が説明する。		
【学習の到達目標】 ①社会活動の今日的意義を理解している ②自身の考えを適切に表現することができる ③自分らしい社会参画の形を具体的に考察できる				【履修上の注意・予習・復習について】 課題の提出期限を厳守すること（原則として期限後の提出は不受理）		
【成績評価方法】 授業毎に到達目標①②③の達成度を評価し（小テスト、小レポート、コメントなど授業によって評価方法は異なる）、それらの平均点を以て科目の成績評価とする。 到達目標の達成度評価の配点は次のとおり。 ①社会活動の今日的意義を理解している（40 点） ②自身の考えを適切に表現することができる（30 点） ③自分らしい社会参画の形を具体的に考察できる（30 点）				【実務家教員担当科目】 NPO 法人 COO・経営者・行政・医療福祉系免許所有者など幅広い実務家が、それぞれの立場で社会活動の今日的意義を講義する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	加藤 由美 (地域連携センター長)	科目オリエンテーション	予習：シラバスを熟読し、科目概要を理解する。 復習：オリエンテーション内容に即した学修をスタートさせる			4 時間
2	石 垣 亨 (NPO 法人 H × Imagine)	地域を活性化させる住民主体の社会活動 ～ NPO 法人 H × Imagine の取り組み	予習：住民が主体となって地域の活性化に取り組んでいる事例を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
3	三木 千栄 (医療福祉学部リハ学科理学療法学専攻)	地域の介護予防・健康増進活動をデザインする	予習：地域の介護予防や健康増進の取り組み事例を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
4	香山 明美 (医療福祉学部リハ学科作業療法学専攻)	認知症サポーター養成活動 ～誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられることを皆で支える	予習：認知症サポーターについて調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
5	高卓 輝、他 (医療福祉学部リハ学科言語聴覚学専攻)	事例に基づき、自分たちが取り組みたい社会活動を考える	予習：日本の技術が他国の発展に貢献した事例を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
6	石川奈津美 (医療福祉学部リハ学科視覚機能学専攻)	社会の伸びしろとは？ ～ゆるスポーツの取り組み	予習：ゆるスポーツについて調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
7	佐藤 大輔 (医療福祉学部看護学科)	臓器提供に関する諸活動を考える	予習：臓器提供の種類を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
8	石橋 千賀 (株式会社 KMSI 代表取締役)	誰もががよりよく生きぬける社会への挑戦	予習：自分にとって「よりよく生きぬく」とはどのようなことかを具体的に考える。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
9	鈴木 陽一 (工学部知能情報システム学科)	レジリエントな情報通信技術 (ICT) ～災害に強い ICT の社会実装	予習：レジリエンスについて、特に ICT との関連を含めて調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深め、小レポートに取り組む。			4 時間
10	岡 恵介 (現代社会学部社会学専攻)	災害救助犬と地域の安心安全 ～災害救助犬の活動	予習：災害救助犬について調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
11	徳田 律子 (現代社会学部社会福祉学専攻)	視覚に障害のある方とアートを楽しむ ～アートミーツケア活動	予習：障害者とアート活動について調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
12	大野 朝子 (経営法学科経営法学科)	学生によるボランティア活動 ～社会にどうコミットするかを考える	予習：興味関心のあるボランティア活動を挙げ、その理由を考える。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
13	梅岡 恒治 (工学部建築環境学科)	建築・都市の分野に関わるまちづくり実践 ～街の将来ビジョンに関わる社会参加のありかた	予習：自身が魅力的だと考える公共空間事例を調べ、魅力的だと考える理由を考察する。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
14	相澤 康弘 (工学部臨床工学科)	臓器移植の現状と課題を考える	予習：我が国の臓器移植の現況を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。			4 時間
教 科 書		なし				
参 考 書		必要に応じて適宜指示する				
備 考		なし				

科 目 名		データサイエンス入門		担 当 者	○沼田 純希・黒後 裕彦 渡邊 晃久	
科目ナンバリング		101021257			常勤・非常勤	
D	P	1,2		教員研究室	3218 研究室（沼田）・3102 研究室（黒後） 非常勤講師室（渡邊）	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 現代の高度な情報社会では、情報技術（IT）に進化と共に、人工知能（AI）の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんな AI データ技術が利活用されているのか、データ AI を活用する際に何に留意すべきかを理解する。 授業は大学が定める数理データサイエンス AI 教育カリキュラム（リテラシーレベル）に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI 技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データ AI のリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom や Google Form で課題出題、提出、採点后返却、質疑応答などを実施する。		
【学習の到達目標】 1) AI によって変化している現実を理解する、2) データ AI がどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データ AI を活用する際に留意すべきことを理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 学部・学科・専攻により、授業計画の前半 7 回分（1～7）と後半 7 回分（8～14）の前後が入替わることがある。授業では BYOD（自己所有のノートパソコンやタブレット型端末）を使用するので必ず持参すること。		
【成績評価方法】 全学共通のルーブリック評価に基づく。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 数理・データサイエンス・AI 教育カリキュラム（リテラシーレベル）に基づいて体系的に学ぶことができる。		
【実務家教員担当科目】 なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	渡邊 晃久	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習：情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習：AI・データの発展による活用分野を理解すること。			4 時間
2	渡邊 晃久	コンピュータと AI	予習：高校情報Ⅰで既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習：情報技術の発展が AI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。			4 時間
3	渡邊 晃久	社会で活用される AI・データ	予習：AI・データの活用領域の広がりや活用法を捉えておくこと。 復習：AI・データ利活用の事例からデータと AI が関わり新たな価値を創出していることを理解すること。			4 時間
4	渡邊 晃久	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習：現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習：社会システムで活用している AI とビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。			4 時間
5	渡邊 晃久	生活の中の生成 AI	予習：生成 AI の利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習：生成 AI の仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。			4 時間
6	渡邊 晃久	生成 AI の活用の今と将来	予習：高校情報Ⅰで既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習：生成 AI の利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。			4 時間
7	渡邊 晃久	社会が求めるデータサイエンス	予習：高校情報Ⅰで既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習：AI とデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりや理解すること。			4 時間
8	沼田 純希・ 黒後 裕彦	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎 1	予習：予め主な情報処理ツール（ワープロ、表計算、プレゼンテーション）の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。			4 時間
9	沼田 純希	情報処理ツールの基礎 2	予習：予め主な情報処理ツール（ワープロ、表計算、プレゼンテーション）の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。			4 時間
10	沼田 純希	データの散らばりを読み取る 1	予習：高校情報Ⅰで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。			4 時間
11	沼田 純希	データの散らばりを読み取る 2	予習：高校情報Ⅰで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。			4 時間
12	沼田 純希	データから全体を推測する 1	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。			4 時間
13	沼田 純希	データから全体を推測する 2	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。			4 時間
14	沼田 純希	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習：各専門分野において、高校情報Ⅰで既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習：各専門分野における AI・データサイエンスの利活用の事例（留意事項を含む）を理解しておくこと。			4 時間
教 科 書		行場、高谷、渡邊共著「人間中心の AI 社会とデータサイエンス - MDASH リテラシーレベル準拠 -」コロナ社				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		特になし。				

科 目 名		医療情報科学		担 当 者	鈴木 亮二	
科目ナンバリング		101021259			非常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 医療現場に就職した際に戸惑わないように、医療情報システムと遠隔医療の概要、並びに個人情報保護について学ぶことを目的とする 【学習の到達目標】 ・医療情報システムの概要を知ることができる ・遠隔医療について知ることができる ・個人情報保護について知ることができる 【成績評価方法】 授業参加態度 10%（10 点） レポート 90%（90 点）						【課題等のフィードバック方法】 ・講義終了後、質問を受け付け回答する 【履修上の注意・予習・復習について】 ・飲食、私語の禁止 ・携帯電話禁止 【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療情報システムの概要と個人情報保護の知識を得ることができるので、医療現場に就職した際にシステムに対して理解できる 【実務家教員担当科目】 大学病院に勤務し、医療情報システム更新を 2 回経験した
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	鈴木 亮二	ICT による見守りと医療情報システム更新について	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
2	鈴木 亮二	遠隔医療と服薬支援について	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
3	鈴木 亮二	電子カルテについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
4	鈴木 亮二	医事会計システムについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
5	鈴木 亮二	部門システムについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
6	鈴木 亮二	個人情報保護について	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
7	鈴木 亮二	アクセシビリティについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
教 科 書		保健医療福祉情報システム工業会編、医療情報システム入門 2023、社会保険研究所				
参 考 書		該当なし				
備 考		該当なし				

科 目 名	医療のための基礎数学			担 当 者	○阿部 玄治・平山 和哉 沼田 純希
科目ナンバリング	1010212510				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3218, 3219
学 科 (専攻)	リハビリテーション学科 (理学療法専攻)			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】 数学の基本的な知識が十分でない学生を対象に、今後の理学療法の学習に最低限必要な単位変換やモーメントなどを復習・整理する。				【課題等のフィードバック方法】 演習課題を授業内に実施し、その解説を講義する。自己学習課題は次授業内で解説する。 その他、講義中もしくは講義終了後に質問を受け、回答する。	
【学習の到達目標】 数学の基本的な知識が十分でない学生を対象に、今後の理学療法の学習に最低限必要な数学を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻、私語、スマートフォンの操作など受講に支障を来たす行為は禁止する。 積極的な授業参加（質疑応答など）を期待する。	
【成績評価方法】 定期試験（100％）により評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 授業は高校までの数学が不得意な学生であっても理解ができるよう進める。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	阿部, 平山, 沼田	オリエンテーション	復習：これまで学んだ数学の苦手な分野の把握		4 時間
2	阿部, 平山, 沼田	単位変換・速度算出	予習：単位変換と速度算出 復習：小テストと課題の実施		4 時間
3	阿部, 平山, 沼田	速度算出応用・一次関数	予習：速度算出と一次関数 復習：小テストと課題の実施		4 時間
4	阿部, 平山, 沼田	速度計算実習	予習：単位変換・速度算出 復習：小テストと課題の実施		4 時間
5	阿部, 平山, 沼田	比とテコの原理	予習：比とテコ 復習：小テストと課題の実施		4 時間
6	阿部, 平山, 沼田	三角関数	予習：三角関数 復習：小テストと課題の実施		4 時間
7	阿部, 平山, 沼田	三角関数の応用	予習：前回授業の再確認 復習：小テストと課題の実施		4 時間
8	阿部, 平山, 沼田	ベクトル	予習：ベクトル 復習：小テストと課題の実施		4 時間
9	阿部, 平山, 沼田	ベクトルの応用	予習：前回授業の再確認 復習：小テストと課題の実施		4 時間
10	阿部, 平山, 沼田	モーメント	予習：モーメント 復習：小テストと課題の実施		4 時間
11	阿部, 平山, 沼田	モーメントの応用	予習：前回授業の再確認 復習：小テストと課題の実施		4 時間
12	阿部, 平山, 沼田	総合演習 1－単位変換や速度計算の復習－	予習：講義「単位と速度算出」の復習 復習：小テストと課題の実施		4 時間
13	阿部, 平山, 沼田	総合演習 2－比とテコやベクトルの復習－	予習：講義「比とテコ、三角関数、ベクトル、モーメント」の復習 復習：小テストと課題の実施		4 時間
14	阿部, 平山, 沼田	総合演習 3－総復習問題－	予習：第 12 回目・第 13 回目の講義の復習 復習：小テストと課題の実施		4 時間
教 科 書		なし			
参 考 書		高校までに使用していた数学の教科書および参考書			
備 考		授業は配布資料をもとにすすめる。 質問は各担当教員に問い合わせること。			

科 目 名		生活の中の物理学			担 当 者	西澤 哲
科目ナンバリング		1010212511				常勤
D P		1,2			教員研究室	3212
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 私たちの身の回りには、様々な機械、電子機器、ヒトをはじめ様々な動物、天体を含む自然など、さまざまな「物」が存在している。これらの物の動きや機能は、物質の基本的な性質や自然現象を解明しようとする科学的な営みである物理学と深く関係している。本講義では、物理学の基本的な概念や考え方を生活に関係した実例を交えながら紹介し、生活の中の様々な現象や物の動きを物理学に基づいて考えるすべを学修する。あわせて、物理学が今後の生活や社会で果たす役割、影響などについて考えていく。 【学習の到達目標】 ・物理学が身の回りの現象の理解に役立つだけでなく、生活の各所で応用されていることを具体的な事例を伴って考え、理解する。 ・安全で健康的な生活を営むための判断に必要となる物理学的な知識や常識を理解する。 【成績評価方法】 ミニ課題 40%、ミニットペーパーの記入状況 40%、最終レポート課題 20% の重みで総合評価する。これらの提出が行われていない回は、出席とみなさないので注意すること。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容			学修課題・必要な学修時間	
					予習・復習	学修時間
1	西澤 哲	ガイダンス（授業の進め方の説明）後、物理学とは何かをテーマとして、物理学の対象と研究方法、基本的な物理量とその定義、計測法、単位について学ぶ			当該の講義内容（教科書 1. 2. 1 項まで）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
2	西澤 哲	「物理量の単位はどう表されるか」をテーマに、物の長さ、面積、体積、質量、位置、速度、加速度などを対象に、それらを表す SI 単位系（国際標準）について学ぶ			講義内容（教科書 1. 2. 2 項と 2. 1 節）について予習する。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
3	西澤 哲	「物はどのように落ちるか」と「ロケットはなぜ飛べるか」をテーマに、自由落下と等加速度運動、重力加速度、様々な力とその合成、作用反作用の法則等について学ぶ			講義内容（教科書 2. 3 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
4	西澤 哲	「ニュートンは何を見つけたのか」をテーマに、ニュートンの運動方程式、加速度運動等について学ぶ			講義内容（教科書 4 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
5	西澤 哲	「テーブルクロス引きの上達法」をテーマに、摩擦、慣性の法則等について学ぶ			講義内容（教科書 5 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
6	西澤 哲	「ジェットコースターの設計法」をテーマに、力学エネルギーと仕事、エネルギーの保存等について学ぶ			講義内容（教科書 7 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
7	西澤 哲	前半のまとめ：物理学の対象と研究方法、基本的な物理量とその定義、計測法、単位と、力学と呼ばれる物理学の分野の考え方を整理する			これまで 6 回の講義内容について復習して、疑問点を整理してまとめる。	4 時間
8	西澤 哲	「空の色が青い理由」と「シャボンの膜が虹色に見える理由」をテーマに、波動としての光の性質、スネルの法則等について学ぶ			講義内容（教科書 10、11 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
9	西澤 哲	「楽器の音程はどう決まるのか」と「救急車のサイレンの音が変わる理由」をテーマに、縦波と横波、音速と波長、固有振動、ドップラー効果等について学ぶ			講義内容（教科書 12、13 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
10	西澤 哲	「暑いということとは」と「クーラーは何故涼しいのか」をテーマに、温度の性質と絶対温度、温度による物質の変化、熱と仕事、熱機関の基本原理解等について学ぶ			講義内容（教科書 17、18、19 章）について予習する。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
11	西澤 哲	「冬場に静電気が起こる理由」と「コンパスはなぜ南北を指すのか」をテーマに、電荷と電荷に働く力、磁場等について学ぶ			講義内容（教科書 20 章と 21. 1 節）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
12	西澤 哲	「上手に節電するには」をテーマに、磁場と電流の関係、ローレンツ力、電磁誘導と発電・送電の仕組み等について学ぶ			講義内容（教科書 21. 2 節と 22 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
13	西澤 哲	「電子レンジで何故食品が温まるのか」と「もし原発事故が起こったら」をテーマに、電磁波の性質、電磁波と物質の相互作用、放射性崩壊と放射線等について学ぶ			講義内容（教科書 23、24 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
14	西澤 哲	「生活の中の事象を不思議に思うこと」を軸に、担当教員の研究紹介も交えつつ、講義全体のまとめを行う			予習として、事前に配布する資料を通読しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。	4 時間
教 科 書		齊藤 史郎著、日常の中の物理学、学術図書出版社、2019（1600 円＋税）				
参 考 書		真貝 寿明 著、日常の「なぜ」に答える物理学、森北出版、2015（2200 円＋税） その他、必要に応じて適宜紹介する。				
備 考		資料等は Google Classroom あるいは教室で配布する。				

科 目 名		生活の中の化学			担 当 者	堂浦 克美							
科目ナンバリング		1010212512				常勤							
D P		1,2			教 員 研 究 室	1206							
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期							
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位							
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし											
I C T 活 用		□双方向型授業 ☑自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない							
【授業内容】 現在、多くの物質やそれを利用した製品が次々と生みだされており、これらの物質は、私たちの毎日の暮らしを豊かにし、生活に欠かせないものになっている。本講義では、化学の基礎とその役割について学ぶ。 また、高校化学の学修が十分ではない受講者でも理解できるよう平易な解説を行う。 【学習の到達目標】 生活の中の化学では、身の回りの物質とその用途などを通して、化学の基礎的知識を習得する。 【成績評価方法】 ミニレポート：40%、レポート：60%で総合的に評価する。詳細は、授業時に説明する。							【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートや小テストなどの課題は、授業中またはクラスルームで解説する。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義のふり返しをおこなうので復習をしておくこと。やむを得ない理由で遅刻や欠席の場合は事前事後に関わらず担当教員まで連絡すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 日常生活で使われる商品（食品含む）を通して化学に親しみ、延いては化学の視点から自然科学現象を分析する素地を養うことにつながる。 【実務家教員担当科目】 該当せず						
授 業 計 画													
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間										
			予習・復習			学修時間							
1	堂浦 克美	ガイダンス				4 時間							
2	堂浦 克美	原子と分子	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
3	堂浦 克美	元素の種類と性質	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
4	堂浦 克美	化学結合	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
5	堂浦 克美	物質質量とモル	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
6	堂浦 克美	化学反応式	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
7	堂浦 克美	レポート作成	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
8	堂浦 克美	物質の状態変化：気体の性質 ／溶液の性質	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
9	堂浦 克美	酸化と還元	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
10	堂浦 克美	非金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
11	堂浦 克美	典型金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
12	堂浦 克美	遷移金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
13	堂浦 克美	脂肪族化合物／芳香族化合物	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
14	堂浦 克美	レポート作成	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）			4 時間							
教 科 書		「商品から学ぶ化学の基礎」 松田勝彦 著、化学同人											
参 考 書		特になし											
備 考		特になし											

科 目 名	生活の中の生物学			担 当 者	戸田 孝史
科目ナンバリング	1010212513				常勤
D P	1,2			教員研究室	1327
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地球という環境の中で生きる我々ヒトが生物学的にどのような存在なのか、そして我々がヒトは生涯を生き抜くために、どのように身体構造と機能を有しているのか、更に、生物としてどのような役割を果たしているのかについて学ぶ				【課題等のフィードバック方法】 レポートやミニレポート等の課題は、授業中またはクラスルームで解説する	
【学習の到達目標】 生物の多様性と共通・ヒトの生物学的特徴・ヒトが生きる役割について修得する 生命の倫理観を理解できる				【履修上の注意・予習・復習について】 予習を重視すること・学修内容を確認しておくこと 復習は資料の整理を怠らないこと	
【成績評価方法】 レポート 60% ミニレポート（小テストに変えることもある） 40% 詳しいことは授業に置いて説明します				【受講して得られる効果・メリット、その他】 私たちはどのような存在なのかを生物学的に理解し、私たちが生物としてどのような役割を果たしているのかを知ること、人生を健康に生き抜く意義を感じ取ることができる。また人々が健全に生きるための倫理観を習得できる	
				【実務家教員担当科目】 該当せず	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	戸田 孝史	ガイダンス：生物の進化と多様性 ※生物の進化の過程と人の誕生について触れないか	予習：生物の進化と多様性について調べておく 復習：授業課題の確認		4 時間
2	戸田 孝史	細胞 1：細胞の種類と細胞膜の構造	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
3	戸田 孝史	細胞 2：核と細胞小器官	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
4	戸田 孝史	細胞 3：栄養と代謝とエネルギー	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
5	戸田 孝史	遺伝情報 1：遺伝のメカニズム	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
6	戸田 孝史	遺伝情報 2：遺伝病	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
7	戸田 孝史	細胞分裂 1：分裂の仕方	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
8	戸田 孝史	細胞分裂 2：減数分裂	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
9	戸田 孝史	人体の階層構造 1：組織と器官	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
10	戸田 孝史	人体の階層構想 2：器官系	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
11	戸田 孝史	ホメオスタシス 1：生体の維持のしくみ	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
12	戸田 孝史	生体防御機構と免疫	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
13	戸田 孝史	成長と老化	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
14	戸田 孝史	生命倫理	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間
教 科 書		講義時に指示する			
参 考 書		講義時に指示する			
備 考		連絡事項があれば講義時に指示する			

科 目 名		アカデミック・スキル演習		担 当 者	○鈴木 博人・鈴木 誠 1 年 SA
科目ナンバリング		1010212514			常勤
D	P	3,4		教 員 研 究 室	3220・3105・他
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・通年
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 理学療法士に求められる情意領域の基礎を培うことを目的に、グループ学習や学習ポートフォリオの記入を通じて一人一人が考察し、理学療法学学生としての基礎的素養を身につける。				【課題等のフィードバック方法】 提出課題は授業後にコメントを記載し返却する。	
【学習の到達目標】 1. 理学療法士に必要な情意領域を理解し説明できる。 2. 他者と協調して互いに学びあうことが出来る。 3. 大学で学び続けるための基本的スキルを身につけて実践することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・学習ポートフォリオの記入及び提出を継続すること。 ・グループメンバーが互いに協力して授業にのぞむこと。	
【成績評価方法】 学習ポートフォリオの記入内容評価および提出状況（50%）、グループ活動状況および成果物評価（50%）から総合的に判定する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 新たな友人関係の構築が図られるとともに、理学療法士に求められるアカデミックスキルや情意面を理解することで、今後の学習が円滑に進む。	
【実務家教員担当科目】 臨床業務に従事した経験のある教員が、その経験を生かして教授する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「オリエンテーション」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
2	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「大学生活に必要なスキル 1」「自己表現と相互理解 1-1」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
3	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「自己表現と相互理解 1-2」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
4	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「大学生活に必要なスキル 2」「ポートフォリオ」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
5	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「大学生活に必要なスキル 3」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
6	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「大学生活に必要なスキル 4」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
7	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「自己表現と相互理解 1-3」「試験に向けた準備 1-1」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
8	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「自己表現と相互理解 1-4」「ポートフォリオ」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
9	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「グループ学習 1-1」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
10	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「グループ学習 1-2」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
11	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「試験に向けた準備 1-2」「夏季集中セミナーの紹介」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
12	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「自己表現と相互理解 1-5」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
13	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「試験に向けた準備 1-3」「ポートフォリオ」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
14	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「夏季休業期間前 HR」「ピリオパトルの紹介」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
15	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「オリエンテーション」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
16	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「自己表現と相互理解 2-1」「ピリオパトル」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
17	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「試験に向けた準備 2-1」「実技練習の進め方 1」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
18	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「専門基礎科目の再学習 1」「グループ学習 2-1」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
19	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「専門基礎科目の再学習 2」「グループ学習 2-2」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
20	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「実技練習の進め方 2」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
21	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「実技練習の進め方 3」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
22	鈴木 誠、鈴木 博人、1 年 SA	「児童文学と人間学 1」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
23	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「児童文学と人間学 2」「ポートフォリオ」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
24	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「専門基礎科目の再学習 3」「グループ学習 2-3」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
25	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「専門基礎科目の再学習 4」「グループ学習 2-4」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
26	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「自己表現と相互理解 2-2」「冬季休業期間の過ごし方」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
27	鈴木 博人、鈴木 誠、1 年 SA	「試験に向けた準備 2-2」「実技練習の進め方 3」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
28	1 年 SA、鈴木 誠、鈴木 博人	「春季休業期間の過ごし方」「まとめ」	配布資料の指定範囲について要点をまとめること		1 時間
教 科 書		学内印刷物（学習ポートフォリオ）			
参 考 書		なし			
備 考		28 回の授業計画を最低限とし、それ以上の開催を予定している。また、開講時間を変更することがあるので、注意して掲示板や classroom 等を確認すること。上記担当者の他に、複数の教員が指導にあたる。なお、当該科目に関する不明な点は、科目責任者（鈴木博人、鈴木誠）または担当 SA まで問い合わせること。			

科 目 名		スポーツ実技		担 当 者	○犬塚 剛・森田 清美 金田 幸夫・未定	
科目ナンバリング		1010212515			常勤・非常勤	
D	P	3,4		教員研究室	1304	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 それぞれのライフスタイルや体力や年齢、目的に応じたスポーツを楽しめるよう、自分に適したスポーツを選択し、理論、技術、方法等について継続的に学習して実力の向上を図り、自分の生涯スポーツにつながる基礎的能力を身につけることを目標とする。 【学習の到達目標】 各自の生涯スポーツ種目を見極め、基本的なルールや技術を身につける。スポーツを通じた体力づくりや健康管理の方法について習得する。 【成績評価方法】 成績は、授業中のゲーム遂行や準備に対する積極的な態度、技能テストなどにより評価する 70%、実技内評価・課題レポート 30% 【課題等のフィードバック方法】 適宜、種目ごとに講義内容の振り返りを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 〈服装〉動きやすいスポーツウエア等を着用し、体育館用シューズと屋外用シューズを明確に区別し使用すること。〈授業見学と公欠〉体調のすぐれない者や怪我等により見学を希望する者は授業開始時に申し出ること。但し長期見学の場合は医師の診断書を持参すること。また、親族の不幸やクラブ活動の競技会等により授業を欠席する場合は原則として公欠とするので届け出ること。〈遅刻および早退〉点呼終了後に授業に参加した場合は遅刻と判断する。また事情により授業を早退する場合は必ず理由等を教員に届けること。無断で授業を早退した場合には授業放棄とみなしその後の授業に出席しても単位を出さないこともあるので注意すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 他学部、他学科の学生が集まりスポーツを通じてコミュニケーションを育むことで社会人基礎力として多様な他者とのコミュニケーション能力やチームワーク、チャレンジする精神力などを養うことができる。 【実務家教員担当科目】 高等学校や大学で競技指導実績を持つ教員らが講義を担当する。						
授 業 計 画						
（実施種目） 屋内種目「球技系（バスケットボール・バレーボール）、ラケット系（バドミントン・卓球&レクリエーション）、フィットネス系（トレーニングなど）」屋外種目「サッカー（フットサル）、ソフトテニス（テニス）」以上の実技種目の中から原則 1 種目を選択する。施設設備のスペースや備品の状況により、種目毎に希望者数の上限を設ける予定である。種目希望者数に大きな偏りが生じる場合は、その状況に鑑み、種目の分散などによる人数調整を行う。なお、履修希望者数の状況等により、開講種目が変更される可能性もある。 1.2：オリエンテーション（種目の選択と講義概要および講義中の諸注意などについて） 3～22：各種目毎の実践・技能テスト・レポート課題の作成等 種目ごとに授業内容は異なるが、各種目とも共通にウォーミングアップの方法、基本的技術動作の習得、ルールの習得、戦術の学習などを通じて、各自が多面的にその種目への理解を深めることやゲーム運営をスムーズにこなせることを目標に授業を進める。						
教 科 書		特になし。				
参 考 書		「ビジュアルスポーツ小百科」 大修館書店 （980 円）				
備 考		※ 諸連絡に関しては、クラスルームへ連絡を入れるので確認を怠らないこと。 ※ 急な変更事項に関しては、クラスルームや体育館入口前に掲示を行うので確認すること。 ※ 種目選択については、施設のスペースや希望者数の偏りを見て、種目選択人数調整が入ります。 問い合わせ教員：犬塚 剛、森田清美				

科 目 名		心理学概論		担 当 者	北川 公路	
科目ナンバリング		1010212516			常勤	
D P		1,4		教員研究室	3204	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 心理学は、人間の活動すべてに関わるものであり、内容は多岐にわたっている。 本講義では、心理学の成り立ち、ひとのこころの基本的な仕組み及びはたらき、その概観を説明していく。心理学の基礎知識を学び、人間の行動を科学的に研究する方法や研究領域ごとの特色を理解した上で、こころのとらえ方、メカニズム、こころの問題へのアプローチ方法まで学習する。心理学の実験や現象を参考にしながら、心理学的な問題解決能力を習得することを目標とする。心理学の各領域についての講義を通じ、学問としての裾野の広さを理解できるようにする。 担当教員の公認心理師としての経験をもとに、講義を通して紹介する。						
【課題等のフィードバック方法】 講義ごとにリアクションペーパーの提出を求めている。その提出物は次の講義で返却をする。質問については授業で紹介していく。						
【履修上の注意・予習・復習について】 事前に配布されている資料を読んでくことを予習とする、講義中の議論の際は積極的に参加すること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 人間をより理解することができるようになると考えられる。						
【実務家教員担当科目】 公認心理師が当該科目を担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	北川 公路	ガイダンス、心理学とは	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
2	北川 公路	心理学の歴史	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
3	北川 公路	学習と記憶	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
4	北川 公路	感情と動機づけ	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
5	北川 公路	知覚と注意	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
6	北川 公路	認知機能の障害	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
7	北川 公路	人格の理論と測定	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
8	北川 公路	発達と発達障害	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
9	北川 公路	言語と思考	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
10	北川 公路	心の健康と適応	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
11	北川 公路	心の病態アセスメント	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
12	北川 公路	個人と集団	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
13	北川 公路	心理学の応用心理療法	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
14	北川 公路	心理学の応用心理療法	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間	
教 科 書		指定なし。				
参 考 書		講義が進む中で適宜、紹介する。				
備 考		特記事項無し。				

科 目 名		生命倫理学		担 当 者	藤澤 宏幸	
科目ナンバリング		1010212517			常勤	
D	P	1,4		教員研究室	3208	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生命におけるさまざまな倫理的課題について触れ、他者とのディスカッションを通じて理解を深めていく				【課題等のフィードバック方法】 グループワークの内容を授業の終わりに個別に提出し、次回にそのフィードバックを行う		
【学習の到達目標】 生活の質（QOL）の向上を視野に、生命（人生）における倫理的課題、特に健康・医療との関りのなかで生じる課題について考える力を身に付ける				【履修上の注意・予習・復習について】 授業毎に予習・復習に努めること		
【成績評価方法】 授業内課題によって成績を評価				【受講して得られる効果・メリット、その他】 生命（人生）における倫理的な課題に関する様々な考え方を学ぶことができる		
				【実務家教員担当科目】 リハビリテーション医療に携わってきた教員が授業を担当する		

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	藤澤 宏幸	健康、病気、生活の質	予習：「健康、病気、生活の質」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
2	藤澤 宏幸	医療倫理の 4 原則	予習：「医療倫理」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
3	藤澤 宏幸	インフォームド・コンセント	予習：「インフォームド・コンセント」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
4	藤澤 宏幸	在宅医療と家族による看取り	予習：「在宅医療と家族による看取り」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
5	藤澤 宏幸	医療としての正しさと患者の価値観	予習：「医療としての正しさと患者の価値観」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
6	藤澤 宏幸	安楽死と尊厳死	予習：「安楽死と尊厳死」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
7	藤澤 宏幸	健康的に生きるとは	予習：「健康的に生きること」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
教 科 書		各回、授業資料を配布する			
参 考 書		小林亜津子：QOL って何だろう 医療とケアの生命倫理，ちくまプリマー新書 小林亜津子：はじめて学ぶ生命倫理 「いのち」は誰が決めるのか，ちくまプリマー新書			
備 考		なし			

科 目 名		英語コミュニケーションⅠ		担 当 者	○大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	
科目ナンバリング		1010212518			常勤・非常勤	
D P		1,4		教員研究室	1329・非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、英語を用いた円滑なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。そのために、英会話での受け答えの練習に加え、トピックを深く理解するための読解力やボキャブラリーの習得、リスニングスキルの向上を図る。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、他者と英語で意見を交換する。				【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業時に学生から質問やコメントを受け、当該授業や次回以降の授業で適宜回答する。		
【学習の到達目標】 様々な文化的背景を持つ海外の人と意見を交換し、互いの文化に対する相互理解を深めるための英語力を身につける。 ・日常的な簡単な質問や応答を、口頭でスムーズに行えるようになる。 ・他者の発話を聞いて理解し、自らの考えを適切な表現で積極的に伝えることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・学生同士の積極的な交流を通じて英語のスキルアップを目指してください。 ・全 14 回の授業のうち 10 回以上出席してください。遅刻に関しては、遅延の度合いによって欠席扱いとなります。		
【成績評価方法】 成績評価は以下を総合的に判断する。 ・授業中のディスカッションにおける積極的発話 50% ・各授業で学んだボキャブラリーの修得実績 30% ・授業で行う簡潔なプレゼンテーションのクオリティー 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 基本的な英会話力、教材を読んで内容を詳しく理解するための語彙力、外国人と円滑に意思疎通を図るためのコミュニケーション力が身につく。		
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	イントロダクション：授業の目的、進和方法、評価基準を説明する。自己紹介を兼ねた簡単な英会話アクティビティを行う。	予習：自己紹介表現を確認する。 復習：新しいフレーズや語彙を練習する。		1 時間	
2	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	日常会話の基礎（1）：簡単な挨拶や自己紹介の表現を練習し、ペアワークでロールプレイを行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
3	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	日常会話の基礎（2）：質問と応答のパターン練習（例：趣味、家族など）を行い、ディスカッション形式で意見交換をする。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
4	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	リスニングスキル向上（1）：日常生活をテーマにした短い英会話音声聞き、内容理解を問うクイズを実施する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
5	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	リスニングスキル向上（2）：会話音声聞いて詳細な内容を理解し、ペアで要約して相手に説明する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
6	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックディスカッション（1）：「私の街の紹介」をテーマに短いスピーチを準備し、ペアまたはグループで共有する。質疑応答の練習も行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
7	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックディスカッション（2）：「好きな映画や本」をテーマに短いスピーチを準備し、クラス全体でディスカッションと意見交換を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
8	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	読解スキル向上（1）：短い英語の記事を読み、重要な単語やフレーズを確認した後、内容を簡単に要約する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
9	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	読解スキル向上（2）：意見を問う記事（例：テクノロジーや環境問題）を読み、要約し、自分の意見を書く練習をする。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
10	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	ボキャブラリー強化（1）：日常会話で役立つ英単語や表現を学び、内容理解を問うクイズを実施する。関連する会話練習も行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
11	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	ボキャブラリー強化（2）：より高度な単語や表現（例：感情表現や意見の述べ方）を学び、短い会話の中で活用する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
12	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	プレゼンテーションの準備：自分で選んだトピックについて、3～5 分のプレゼンテーションを準備する。構成やスライド作成のポイントを学ぶ。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
13	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	プレゼンテーションの発表：各学生がプレゼンテーションを発表し、クラスメイトと質疑応答を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
14	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	今学期のまとめ：学期全体を振り返り、各スキルの向上度を自己評価する。個別のフィードバックを実施する。	予習：最終日に確認する疑問点をまとめる。		1 時間	
教 科 書		復習：学期中に学んだ英語コミュニケーションスキルを総括する。				
参 考 書		適宜、授業で指示する。				
備 考		特になし				

科 目 名		英語コミュニケーションⅡ		担 当 者	○大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	
科目ナンバリング		1010212519			常勤・非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	1329・非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 この授業では、「英語コミュニケーションⅠ」で学んだ基本的なスキルに加え、より円滑なコミュニケーション能力を養うために、英会話、読解力、ボキャブラリー、およびリスニングの応用スキルを学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業時に学生から質問やコメントを受け、当該授業や次回以降の授業で適宜回答する。		
【学習の到達目標】 異なる文化的背景を持つ外国人と、円滑かつ継続的にコミュニケーションを図るための英語力を身につける。 ・個人的に興味のあるテーマや社会的トピックについて、キーワードや具体例を用いて意思疎通を図ることができる。 ・聞き返しや言い換え、要約などのコミュニケーションストラテジーを活用し、自分の理解を相手に確認しながら会話を続けることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・学生同士の積極的な交流を通じて英語のスキルアップを目指してください。 ・全 14 回の授業のうち 10 回以上出席してください。遅刻に関しては、遅延の度合いによって欠席扱いとなります。		
【成績評価方法】 成績評価は以下を総合的に判断する。 ・授業中のディスカッションにおける積極的発言 50% ・各授業で学んだボキャブラリーの修得実績 30% ・授業で行う簡潔なプレゼンテーションのクオリティー 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ある程度の詳細な英会話力、難易度の高い教材を読み解く語彙力、外国人と比較的長く意思疎通を図るためのコミュニケーション力が身につく。		
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	イントロダクション：授業の目的、進行方法、評価基準を説明する。「英語コミュニケーションⅠ」で学んだ内容を振り返り、自己紹介アクティビティを実施する。	予習：自己紹介表現を確認する。 復習：新しいフレーズや語彙を練習する。		1 時間	
2	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	コミュニケーションストラテジー（1）：聞き返し、言い換え、確認の方法を学び、ロールプレイを通じて実践する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
3	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	コミュニケーションストラテジー（2）：意見の対立や誤解が生じた際の対応スキルを学び、ディスカッションを通じて実践する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
4	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	リスニング応用スキル（1）：ニュースやインタビューの音声を使い、主旨と詳細を聞き取る練習を行う。重要なフレーズを抜き出して要約する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
5	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	リスニング応用スキル（2）：長めの英語音声聞き取り、要点とスピーカーの意見を整理する。ペアで音声の内容について議論する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
6	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックディスカッション（1）：「旅行と異文化体験」をテーマに、各自の経験や考えについてディスカッションを行い、文化的な違いへの気づきを共有する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
7	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックディスカッション（2）：「グローバルな課題（例：気候変動や国際支援）」をテーマに議論し、自分の立場を明確に示しながら意見を述べる。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
8	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	読解応用スキル（1）：英語の記事を読み、文脈から単語の意味を推測する練習を行う。内容を要約し、自分の意見を短い文章で表現する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
9	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	読解応用スキル（2）：社会問題に関する記事（例：環境問題や AI の影響）を読み、グループで意見交換を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
10	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	ボキャブラリー応用（1）：複雑な感情表現や意見を述べる際に使える語彙を学び、実際の会話で活用する練習を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
11	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	ボキャブラリー応用（2）：アカデミックなトピックに関連する英単語や表現を学び、リスニングやスピーキングに応用する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
12	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	プレゼンテーションの準備：自分で選んだトピックについて、3～5 分のプレゼンテーションを準備する。構成やスライド作成のポイントを学ぶ。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
13	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	プレゼンテーションの発表：各学生がプレゼンテーションを発表し、クラスメイトと質疑応答を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
14	大野 朝子・大槻くるみ・ フランク グッチェ・酒井 孝之	今学期のまとめ：学期全体を振り返り、各スキルの向上度を自己評価する。個別のフィードバックを実施する。	予習：最終日に確認する疑問点をまとめる。 復習：学期中に学んだ英語コミュニケーションスキルを総括する。		1 時間	
教 科 書		担当教員の指示に従ってください。				
参 考 書		適宜、授業で指示する。				
備 考		特になし				

科 目 名		韓国語コミュニケーションⅠ			担 当 者	李 恵慶
科目ナンバリング		1010212520				非常勤
D P		1,4			教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現代社会を生きる私達に、外国語の必要性は益々増加しつつあります。情報化時代に生き残るためにも、外国語を理解し、そこから必要な情報をゲットする必要もあります。この授業では、韓国語の基礎を学びます。最初は文字の書き方を覚え、読み方と基本語彙の習得をし、「書く」、「読む」ことに重点をおきます。また、すぐ使える基本表現の習得を目指しますが、合わせて生の韓国語に触れるために授業中は話題の韓国ドラマや映画も取り入れて行います。						
【課題等のフィードバック方法】 ・課題は添削し、重要ポイントをつけて返す。・質問は出席表で受け付け、その都度答える。						
【履修上の注意・予習・復習について】 授業の進度に沿って予習、復習のための適切な課題を出します。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 日本語に一番近い韓国語を学ぶことによって日本語や日本文化の源流を理解するのは勿論、より広い視野の情報の習得やグローバル的な考え方を身につけることができます。 学習効果を高めるため韓国ドラマや韓国料理なども取り入れて行います。						
【実務家教員担当科目】 韓国語のネイティブでありながら、日本語と韓国語の領域において通訳や翻訳などで多くの経験を有している。						
【成績評価方法】 平常点（小テスト・課題など）50% 期末試験 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	李 恵慶	韓国語を学ぶ意義と韓国語について	予習：韓国語について 復習：韓国語を学ぶ意義と見えてくる世界			1 時間
2	李 恵慶	文字と発音	予習：ハングルの母音と子音 復習：ハングル母音と子音の書き方			1 時間
3	李 恵慶	文字と発音：合成母音	予習：合成母音が入っている語彙の発音 復習：ハングル基本母音と合成母音が入っている語彙の発音			1 時間
4	李 恵慶	文字と発音：받침（パッチム）	予習：パッチムのある語彙の発音 復習：開音節と閉音節について			1 時間
5	李 恵慶	日本語のハングル表記	予習：日本語のハングル表記練習 復習：日本語の人名・地名のハングル表記練習			1 時間
6	李 恵慶	第一課韓国人ですか。	予習：第一課の語彙と文法 復習：第一課の本文と練習問題			1 時間
7	李 恵慶	第二課学生ですか。	予習：第二課の語彙と文法 復習：第二課の本文と練習問題			1 時間
8	李 恵慶	第三課何時ですか。	予習：第三課の語彙と文法 復習：第三課の本文と練習問題			1 時間
9	李 恵慶	第四課野球選手ではありません。	予習：第四課の語彙と文法 復習：第四課の本文と練習問題			1 時間
10	李 恵慶	第五課これは何ですか。	予習：第五課の語彙と文法 復習：第五課の本文と練習問題			1 時間
11	李 恵慶	第一課から第五課までのまとめ	予習：第一課から第五課までの語彙と練習問題 復習：第一課から第五課までの文法と練習問題			1 時間
12	李 恵慶	第六課どこにありますか。	予習：第六課の語彙と文法 復習：第六課の本文と練習問題			1 時間
13	李 恵慶	第七課何をしますか。	予習：第七課の語彙と文法 復習：第七課の本文と練習問題			1 時間
14	李 恵慶	第八課何時に起きますか。	予習：第八課の語彙と文法 復習：第八課の本文と練習問題			1 時間
教 科 書		『かんたん！韓国語』 文 慶喆他 朝日出版社				
参 考 書		授業中、その都度紹介する。				
備 考		受講生への要望）授業を休まないこと。声を出して練習すること。				

科 目 名		韓国語コミュニケーションⅡ			担 当 者	李 恵慶
科目ナンバリング		1010212521				非常勤
D	P	1,4			教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現代社会を生きる私達に、外国語の必要性は益々増加しつつあります。情報化時代に生き残るためにも、外国語を理解し、そこから必要な情報をゲットする必要もあります。この授業では、韓国語の基礎を学びます。最初は文字の書き方を覚え、読み方と基本語彙の習得をし、「書く」、「読む」ことに重点をおきます。また、すぐ使える基本表現の習得を目指しますが、合わせて生の韓国語に触れるために授業中は話題の韓国ドラマや映画も取り入れて行います。						
【課題等のフィードバック方法】 ・課題は添削し、重要ポイントをつけて返す。・質問は出席表で受け付け、その都度答える。						
【履修上の注意・予習・復習について】 授業の進度にそって予習や復習のための適切な課題を出します。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 韓国語を学ぶことによって日本語や日本文化の源流を理解することは勿論広い角度の情報やグローバル的な感覚を身につけることができます。 学習効果を高めるため韓国ドラマや韓国料理なども取り入れて行います。						
【実務家教員担当科目】 韓国語のネイティブでありながら、日本語と韓国語の領域において通訳や翻訳などで多くの経験を有している。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	李 恵慶	第九課朝ご飯は食べません。	予習；第九課の語彙と文法 復習；第九課の本文と練習問題			1 時間
2	李 恵慶	第十課どこに住んでいますか。	予習；第十課の語彙と文法 復習；第十課の本文と練習問題			1 時間
3	李 恵慶	第六課から第十課までのまとめ	予習；第六課から第十課までの語彙と文法 復習；第六課から第十課までのまとめ練習問題			1 時間
4	李 恵慶	第十一課今日、忙しいですか。	予習；第十一課の語彙と文法 復習；第十一課の本文と練習問題			1 時間
5	李 恵慶	第十二課先生でしたか。 第十三課何をしましたか。	予習；第十二課、十三課の語彙と文法 復習；第十二課、十三課の本文と練習問題			1 時間
6	李 恵慶	第十四課ご飯食べましたか。	予習；第十四課の語彙と文法 復習；第十四課の本文と練習問題			1 時間
7	李 恵慶	第十五課何をしたいですか。	予習；第十五課の語彙と文法 復習；第十五課の本文と練習問題			1 時間
8	李 恵慶	第十一課から第十五課までのまとめ	予習；第十一課から第十五課までの語彙と文法 復習；第十一課から第十五課までのまとめ練習 問題			1 時間
9	李 恵慶	第十六課安くて美味しいです。	予習；第十六課の語彙と文法 復習；第十六課の本文と練習問題			1 時間
10	李 恵慶	第十七課映画見に行きましょうか。	予習；第十七課の語彙と文法 復習；第十七課の本文と練習問題			1 時間
11	李 恵慶	第十八課何をなさいますか。	予習；第十八課の語彙と文法 復習；第十八課の本文と練習問題			1 時間
12	李 恵慶	第十九課コーヒーを飲みます。	予習；第十九課の語彙と文法 復習；第十九課の本文と練習問題			1 時間
13	李 恵慶	第二十課何をする予定ですか。	予習；第二十課の語彙と文法 復習；第二十課の本文と練習問題			1 時間
14	李 恵慶	第十六課から第二十課までのまとめ	予習；第十六課から第二十課までの語彙と文法 復習；第十六課から第二十課までのまとめ練習問題			1 時間
教 科 書		『かんたん！韓国語』 文 慶喆他 朝日出版社				
参 考 書		授業中、その都度紹介する。				
備 考		受講生への要望）授業を休まないこと。声を出して練習すること。				

科 目 名		中国語コミュニケーション I		担 当 者	王 效紅	
科目ナンバリング		1010212522			非常勤	
D P		1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 正しい発音を身につけることに重点をおく。簡単な文法事項を学習する。 【学習の到達目標】 中国語での簡単な日常会話ができるようになる。 【成績評価方法】 期末試験 70%、小テスト、課題提出、発言・質問および授業に臨む態度 30%。 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、不明な点について、質問を受け、解答する。また出席カードに質問を書いてもらい、多く出た質問に関してはその次の授業の冒頭で取り上げる。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の口頭練習には、大きな声を出して、積極的に参加してください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 簡単な中国語の会話力が身につけられる。文章表現の基礎が固まる。 【実務家教員担当科目】 なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	王 效紅	ガイダンス	中国の国と言葉について再確認する。		1 時間	
2	王 效紅	第 1 課発音	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
3	王 效紅	第 2 課発音	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
4	王 效紅	第 3 課発音	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
5	王 效紅	第 4 課発音・あいさつ言葉	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
6	王 效紅	第 5 課	附属の音声聞き、声を出して練習する。		1 時間	
7	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
8	王 效紅	第 6 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
9	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
10	王 效紅	第 7 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
11	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
12	王 效紅	第 8 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
13	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
14	王 效紅	総復習	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
教 科 書		『大学生のための初級中国語 24 回』 杉野元子・黄漢青著（白帝社）				
参 考 書		授業の中で、必要に応じてアドバイスをしていく。				
備 考		なし				

科 目 名		中国語コミュニケーションⅡ		担 当 者	王 效紅	
科目ナンバリング		1010212523			非常勤	
D	P	1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 正しい発音を身につけることに重点をおく。簡単な文法事項を学習する。 【学習の到達目標】 中国語での簡単な日常会話ができるようになる。 【成績評価方法】 期末試験 70％、小テスト、課題提出、発言・質問および授業に臨む態度 30％。						【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、不明な点について、質問を受け、解答する。また出席カードに質問を書いてもらい、多く出た質問に関してはその次の授業の冒頭で取り上げる。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の口頭練習には、大きな声を出して、積極的に参加してください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 簡単な中国語の会話力が身につけられる。文章表現の基礎が固まる。 【実務家教員担当科目】 なし
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	王 效紅	復習（第 1 課～第 8 課）	復習（第 1 課～第 8 課）			1 時間
2	王 效紅	第 9 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。			1 時間
3	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。			1 時間
4	王 效紅	第 10 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。			1 時間
5	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。			1 時間
6	王 效紅	第 11 課	附属の音声を読み、声を出して練習する。			1 時間
7	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。			1 時間
8	王 效紅	第 12 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。			1 時間
9	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。			1 時間
10	王 效紅	第 13 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。			1 時間
11	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。			1 時間
12	王 效紅	第 14 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。			1 時間
13	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。			1 時間
14	王 效紅	総復習	授業で学習した内容を一通り復習する。			1 時間
教 科 書		『大学生のための初級中国語 24 回』 杉野元子・黄漢青著（白帝社）				
参 考 書		授業の中で、必要に応じてアドバイスをしていく。				
備 考		なし				

科 目 名		海外研修		担 当 者	○増井三千代・立花顕一郎 王 元・鄭 舜玉	
科目ナンバリング		1010212524			常勤	
D P		3,4		教員研究室		1328
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次		1 年次・通年
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 以下のいずれかの海外プログラムに参加し、現地の人々との交流を通して、異文化に対する理解を深めると同時にコミュニケーション力の向上を目指す。 (1) 長期休業期間に海外（英語圏、中国、韓国）へ渡航し、現地で実施される短期語学研修に参加するグループ研修プログラム (2) 学生個人による現地実習を含む短期語学・異文化理解プログラム（必須条件：所定の計画書の提出、5 日以上の渡航、研究テーマの設定）				【課題等のフィードバック方法】 各プログラムの実施担当教員が随時質問を受け付け、回答する。		
【学習の到達目標】 異文化に対する柔軟性を身につけ、現地の言葉を駆使しながら積極的にコミュニケーションを図る。また、現地の人々の考え方や価値観を通じて、日本を客観的かつ相対的に見る広い視野を身につける。				【履修上の注意・予習・復習について】 1. 実習に伴う参加費、渡航費用等は自己負担となる。 2. 国際情勢の急激な変化により、研修実施が困難になる場合がある。 3. 詳細な日程や費用等については、事前に開催される説明会に出席して確認する。		
【成績評価方法】 単位取得には、以下の全ての活動に参加することが求められる。 1. 研修前に行われる事前研修会、勉強会等への参加、取り組み状況 25% 2. 研修先での授業やその他プログラムへの参加、取り組み状況 50% 3. 帰国後の研修報告書提出および報告会での成果発表 25%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 グループ研修には引率教員が同行するため、海外未経験、語学に不安でも安心して参加できる。また、異文化交流経験は自分の人生の可能性を大きく広げることにつながる。		
				【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画						
【授業計画】 1～2 事前研修 3～7 実習 1 日目 8～12 実習 2 日目 13～17 実習 3 日目 17～21 実習 4 日目 22～26 実習 5 日目 ※プログラムによっては実習の日数が増える可能性有り 27 報告書作成および報告会準備 28 報告会						
教 科 書		資料を配布する。				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		各プログラムの申込は履修登録期間外に行うため、Global Education Project（GEP）の Google Classroom に必ず登録し、掲載される申請方法に従って申し込むこと。この申請をもって履修登録を行う。なお、授業内容（2）の個人研修型プログラムについては、申請条件を満たさなければ、履修できない場合があることに留意する。 クラスコード 4yvf7eq				

科 目 名		コミュニケーション論		担 当 者	呂本 俊亮	
科目ナンバリング		1010212525			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、心理学をベースにコミュニケーションの基礎と応用を学びます。私たちはふだん、あたりまえのように相手が発した情報を理解し、あたりまえのように自分の考えを表現して相手とコミュニケーションを行っています。しかし、そこには私たち人間のきわめて高度な心理メカニズムが働いています。また、コミュニケーションはどんな場面でもうまくゆくとは限りません。その成否はさまざまな要因に左右されます。その要因の1つが、情報の送り手のコミュニケーション能力です。自分の考えを正確に、そして効果的に他者に伝える能力。それはみなさんの今後の人生において、ますます重要なものとなっていくでしょう。この授業を通して、そのような能力を向上させるためのヒントを獲得してもらえれば幸いです。 【学習の到達目標】 1. 人と人とのコミュニケーションに関する心理学的知識を獲得し、日常生活の中で思い出したり活かしたりできるようになる。 2. 実社会で役立つコミュニケーション能力を向上させるためのきっかけをつかむ。 【成績評価方法】 提出物 5%、小テスト 45%、定期試験 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	呂本 俊亮	言葉で伝えることの難しさ	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
2	呂本 俊亮	言葉以外のメッセージ（1）	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
3	呂本 俊亮	言葉以外のメッセージ（2）	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
4	呂本 俊亮	まとめと小テスト 1	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。		4 時間	
5	呂本 俊亮	自己とコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
6	呂本 俊亮	会話の成立要件	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
7	呂本 俊亮	言語理解の心理メカニズム	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
8	呂本 俊亮	作文の認知過程	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
9	呂本 俊亮	まとめと小テスト 2	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。		4 時間	
10	呂本 俊亮	好きを生み出すコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
11	呂本 俊亮	見せて伝えるコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
12	呂本 俊亮	実社会でのコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
13	呂本 俊亮	コミュニケーションクイズ大会	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
14	呂本 俊亮	小テスト 3 と全体のまとめ	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。		4 時間	
教 科 書		呂本俊亮（著）『言葉とコミュニケーション 心理学を日常に活かす』朝倉書店				
参 考 書		なし				
備 考		なし				

科 目 名		現代国語表現		担 当 者	大泉 浩一	
科目ナンバリング		1010212526			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 14 回の授業で毎回作文を書くことによって、人に伝わる文章を作成するための基本技術を学ぶ。あわせて「人に伝わる」とはどういうことかについて、言葉とコミュニケーションの問題を中心に考察する。 作文が不得意でも受講、単位取得にはまったく問題はない。ただし主に作文提出をもって評価する。 【学習の到達目標】 具体的な例を挙げて、自分の考えを他者に明確に伝える文章が作成できるようになること。 【成績評価方法】 毎回の作文課題 50%、最終課題（長い作文） 50% 【課題等のフィードバック方法】 作文を添削し、改善点を指摘する。 【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻・私語等には厳しく対応する。出席不良の場合は評価対象外とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 「学習の到達目標」に同じ。 他の講義や実習で書くレポート、また就職活動で書く履歴書・エントリーシート・小論文試験、卒業後に仕事で書く文章の作成に役立つ。 【実務家教員担当科目】 該当しない						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	大泉 浩一	オリエンテーション	高校までに習った作文・小論文の書き方を確認してくる。講義の内容を確認する。		4 時間	
2	大泉 浩一	説明文の書き方（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
3	大泉 浩一	説明文の書き方（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
4	大泉 浩一	報告文の書き方（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
5	大泉 浩一	報告文の書き方（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
6	大泉 浩一	何を書くか・どう書くか（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
7	大泉 浩一	何を書くか・どう書くか（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
8	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
9	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
10	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（3）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
11	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（4）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
12	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（5）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
13	大泉 浩一	言葉の世界の広がり	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
14	大泉 浩一	まとめ	返却された作文を読み直し、反省点を次の機会に活かす。		4 時間	
教 科 書		なし				
参 考 書		授業内で随時紹介する。				
備 考		なし				

科 目 名		健康科学		担 当 者	鈴木 誠	
科目ナンバリング		1010212527			常勤	
D P		1,4		教員研究室	3105	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本授業では、自己の健康づくりのために、病気の予防を含む自身の健康管理に欠かせないさまざまな基礎的な知識を具体的かつ広く学ぶ。そして、一人ひとりが幸福でより良い生活を送るために何をすべきなのか、何をすべきでないのかを考える				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後質問を受け付け、次回授業の冒頭等で説明する（classroomでの説明など）		
【学習の到達目標】 疾病予防と健康管理のために必要な知識を身につけ、健康づくりのための具体的方法が実践できるようになる				【履修上の注意・予習・復習について】 ・規定の出席日数に到達しないものは評価対象外とする ・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		
【成績評価方法】 授業後確認テスト（各回 10 点×全 7 回⇒ 70 点）と最終授業終了後のレポート課題（30 点）にて成績判定を行う				【受講して得られる効果・メリット、その他】 疾病予防と健康管理のために必要な知識を身につけることができ、実践する力を養うことができる		
				【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	鈴木 誠	・オリエンテーション ・健康について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
2	鈴木 誠	・感染症について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
3	鈴木 誠	・飲酒について ・危険薬物について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
4	鈴木 誠	・メンタルヘルスについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
5	鈴木 誠	・生活習慣病について ・がんについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
6	鈴木 誠	・喫煙の影響について ・ヒューマンヘルスについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
7	鈴木 誠	・運動、栄養、休養について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
教 科 書		授業資料を Google classroom にて配布する				
参 考 書		必要に応じて、各授業時に紹介する				
備 考		不明な点は授業担当者に問い合わせること				

科 目 名		教育学		担 当 者	佐々木真由美	
科目ナンバリング		1010212528			非常勤	
D P		1,4		教員研究室		非常勤講師室
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）		配 当 年 次		1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 ・本授業は、教育の目的・意義・方法等についての基本的原則や理論的基礎を学び、身近な教育問題を取り上げながら、学習者の成長に寄り添う教育の在り方について考察していく。 【学習の到達目標】 ①教育の目的・意義・方法・内容等についての基本的原則や理論的基礎を理解できる。②教育史、教育行政制度、学校経営等の視点から社会の要請に応える教育の意義を理解できる。③いじめ・不登校対策、教育評価、教員の資質能力等の教育者側の視点から教育を考察することができる。 【成績評価方法】 ・レポート内容及び課題の提出状況・内容を総合的に判断し、評価する。 ・科目の評価項目・基準等を定めたルーブリックに基づいて、評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 ・学習過程に復習の時間を位置付け、解説を加える。・グループワークによる振り返りを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・課題がある。・感染症等の感染状況により、授業方法を変更することがある。・平常時の授業においては、双方向性のある授業となる。・発表がある。・制限のある対面授業では、Classroomに参加し、意見交換をする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・社会から求められている資質・能力の習得につながる。 ・多様な教材と学習方法による学びを通し、学び方が身に付く。 【実務家教員担当科目】 非該当						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	佐々木真由美	オリエンテーション（授業のねらい、授業内容、評価方法等）。アイスブレイク。④ルーブリック	予習：自身の「学び」について振り返る。復習：学習を振り返り。在学中に必要な学びを文字化する。			4 時間
2	佐々木真由美	教育の目的や意義をふまえ、教育格差等について考える。④教育基本法、教育格差	予習：教育の目的について調べる。復習：教育による格差・不平等を取り上げ、解決策を提案する。			4 時間
3	佐々木真由美	事例をもとに、子どもの成長・人間の成長について考える。④発達の最近接領域	予習：心がけている / きた学び方についてまとめる。復習：学友の学び方を参考に、取り組みたい学び方を文字化する。			4 時間
4	佐々木真由美	学びの効果を高める教育方法について考える。④詰め込み教育、ゆとり教育	予習：「教え方がうまい先生とは？」具体的な事例を集める。復習：ゆとり教育の本質をふまえ、成長を促す学びについてまとめる。			4 時間
5	佐々木真由美	義務教育の歴史を踏まえ、教育を受ける権利について考える。④教育勅語	予習：違いを述べる。「この子らに世の光を、この子らを世の光に。」復習：今日の教育問題と解決策を提案する。			4 時間
6	佐々木真由美	教育行政制度を理解し、学びを支える仕組みについて考える。④文部科学省、教育委員会等	予習：給食について経験をまとめる。復習：公教育の学びを支えた仕組みについて振り返る。			4 時間
7	佐々木真由美	居場所となるべき学校の姿を考える。④いじめ防止対策推進法、フリースクール、不登校	予習：いじめ、不登校に関する新聞記事を収集する。復習：子どもたちが社会とつながって学ぶ居場所について提案する。			4 時間
8	佐々木真由美	社会の要請に応える教育課程について考える。④教育課程、ヒドゥンカリキュラム	予習：指導を受け、身に付いた価値観や生き方をまとめる。復習：残しておきたい学習内容（教材）とその理由を整理する。			4 時間
9	佐々木真由美	発達の特性に基づいた教育について考える。④発達障がい、インクルーシブ	予習：発達障がい等に関する新聞記事を収集する。復習：自身ができるインクルーシブな社会をつくる取組をまとめる。			4 時間
10	佐々木真由美	公正な評価、評価方法について考える。④評価規準、評価基準、モデレーション	予習：ルーブリックをもとに自己の学習を評価する。復習：学習を振り返り、今後注力する評価項目を整理する。			4 時間
11	佐々木真由美	教育効果を高める学校経営について考える。④社会に開かれた教育課程	予習：教員以外からの学びを一覧にする。復習：学校外での効果的な学びについてマイプランを作成する。			4 時間
12	佐々木真由美	学び（学習）の本質について考える。④生涯教育	予習：カルチャーセンター等の広告やリーフレットを持ち寄る。復習：「習得・探究」に夢中になる理由をまとめる。			4 時間
13	佐々木真由美	社会から求められる資質・能力について知り、今後の学び方を考える。④主体的・対話的で深い学び	予習：資料について意見を述べる。復習：学友の意見を比較・分析し、学び方を整理する。Society5.0に向けた人材育成。			4 時間
14	佐々木真由美	総括：目指す自分像を実現するための学習方法等を考える。④キャリアデザイン	予習：キャリア形成に関する気付き等をまとめる。復習：社会人1年目の自分に手紙でエールを送る。			4 時間
教 科 書		適宜プリントを配付				
参 考 書		問いからはじめる教育学（有斐閣ストゥディア）、学制百年史（文部科学省）、教育社会学、教育学原論（ミネルヴァ書房）、カリキュラム論（成文堂）、窓ぎわのトットちゃん（講談社）				
備 考		特になし				

科 目 名		哲学		担 当 者	高山 馨	
科目ナンバリング		1010212534			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 古代から近代までの西洋哲学を、知の形成と変遷の歴史として概観する。また、論理学の基礎と科学的思考を学び、自律的に考えて判断や行為をなすためのリテラシーを学ぶ。 【学習の到達目標】 (1) 哲学がどのような学的営みであるかを理解できる。(2) 古代から近代までのさまざまな哲学について整理して理解し、知識として定着させることができる。(3) 論理学の基礎と科学的思考を学び、自律的な判断と行為のリテラシーを身につけることができる。 【成績評価方法】 (a) 課題 50%, (b) 試験 50% 成績評価の基準は「学習の到達目標」(1)～(3) への到達度とします。						
【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom や e メールを使用し、提出物や質問などに対して、必要に応じたフィードバックを個別に行います。 【履修上の注意・予習・復習について】 [重要] Google Classroom や e メールを使用して、履修者全員あるいは個別に連絡をすることがあります。履修者は、常用する PC やスマートフォンなどのデバイスで教員からの連絡を受信できるようにしておいてください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 古来より、人間、世界、物事などがどのように考えられてきたかを知ることや、自律的な判断と行為のリテラシーを学ぶことは、実生活をよりよく導くためのきっかけを得ることができると思います。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	高山 馨	イントロダクション：哲学と倫理学	[予習] 本科目のシラバスを理解しておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
2	高山 馨	古代哲学 1：ソクラテス	[予習] 知と徳の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
3	高山 馨	古代哲学 2：プラトン、アリストテレス	[予習] 普遍と個別の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
4	高山 馨	中世哲学：アウグスティヌス、トマス・アクィナス	[予習] 存在と本質の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
5	高山 馨	近代哲学 1：デカルト、スピノザ	[予習] 観念の由来について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
6	高山 馨	近代哲学 2：ロック、ヒューム	[予習] 経験による知識と信念について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
7	高山 馨	近代哲学 3：カント	[予習] イギリス経験論と大陸合理論についてまとめておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
8	高山 馨	近代哲学 4：啓蒙思想	[予習] 社会契約説について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
9	高山 馨	テーマ別哲学 1：心	[予習] 心と脳について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
10	高山 馨	テーマ別哲学 2：心	[予習] 自由について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
11	高山 馨	テーマ別哲学 3：論理	[予習] 思考について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
12	高山 馨	テーマ別哲学 4：論理	[予習] 演繹について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
13	高山 馨	テーマ別哲学 5：科学	[予習] 帰納について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
14	高山 馨	テーマ別哲学 6：科学	[予習] 科学と社会の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
教 科 書		レジュメに基づいて講義してゆきます。				
参 考 書		講義の中で紹介してゆきます。				
備 考		オフィス・アワーは、初回の講義と Google Classroom で伝えます。				

科 目 名	ジェンダー論			担 当 者	川口かしみ
科目ナンバリング	1010212535				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この授業では、自分たちが生きていく社会において、他者と尊重し合い、生きやすい社会になるための課題をジェンダーの視点から検討していく。まず、ジェンダーの基礎知識を学習し、次に、現在の日本社会に存在するジェンダー問題とそれに関する法律について学んでいく。				【課題等のフィードバック方法】 提出された課題内容を翌週の授業内で、フィードバックとして共有することがある。	
【学習の到達目標】 (1) ジェンダーとは何かを理解する。 (2) 現在の日本社会に存在するジェンダー問題とそれに関する法律を知る。 (3) 自分たちが生きやすい社会になるための課題をジェンダーの視点から検討する。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業中に伝える。	
【成績評価方法】 毎授業に課す課題（30%）、学期末テスト（70%）により評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 現在の日本社会に存在するジェンダー問題を理解し、それを解決するための方法を考える視点が得られる。自分たちが生きていく社会のために、現在社会が抱え、解決すべきジェンダー問題を分析する力が身に着く。	
【実務家教員担当科目】 該当なし。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	川口かしみ	イントロダクション／ジェンダーとは何か？	ハンドアウトを復習し、ジェンダー規範とは何かを確認する。		4 時間
2	川口かしみ	公私二元論とジェンダー	予習では、教科書の第 1 章・2 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
3	川口かしみ	日本の制度とジェンダー	予習では、教科書の第 3 章・4 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
4	川口かしみ	平和とジェンダー	予習では、教科書の第 5 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
5	川口かしみ	国際社会における日本のジェンダー平等	予習では、教科書の第 6 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。特に女性差別撤廃条約の内容について復習する。		4 時間
6	川口かしみ	労働とジェンダー	予習では、教科書の第 7 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
7	川口かしみ	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	予習では、教科書の 105 ～ 107 頁を読み、自分の考えをまとめる。復習では、教科書の上記頁を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
8	川口かしみ	LGBTQ + ／ SOGI	予習では、教科書の 108 ～ 110 頁を読み、自分の考えをまとめる。復習では、教科書の上記頁を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
9	川口かしみ	家族とジェンダー	予習では、教科書の第 9 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
10	川口かしみ	信教／学問とジェンダー	予習では、教科書の第 10 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
11	川口かしみ	ポルノグラフィーとメディア	予習では、教科書の第 11 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
12	川口かしみ	売買春と性的自己決定権	予習では、教科書の第 12 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
13	川口かしみ	社会保障／刑事手続とジェンダー	予習では、教科書の第 13 章・14 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
14	川口かしみ	政治参画とジェンダー	予習では、教科書の第 15 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
教 科 書		『ジェンダーの視点で学ぶ憲法入門』			
参 考 書		授業中に適宜紹介する。			
備 考		教科書はタイトル通り、憲法を扱ったものであるが、お手に取っていただければ分かるように、ジェンダーについても扱っているものである。この授業ではそのジェンダー問題の部分の扱う。			

科 目 名		解剖学 I		担 当 者	内藤 輝	
科目ナンバリング		1010322539			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3107	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 人体の構造の中で、主として身体運動に関わる骨・筋・神経系の肉眼解剖学を中心に講義し、実習を行う。 【学習の到達目標】 1. 骨・筋・靱帯・関節の形態と位置、機能を系統立てて説明できる。 2. 筋の起始・停止、走向、支配神経（髄節）、働きを説明できる。 3. 神経系の構造と大まかな機能を説明できる。 【成績評価方法】 ・解剖学実習とともに一括で成績を認定する。基準は以下の通りとする。 ・単位認定は提出課題 / 確認試験（20%）、筆記試験（80%）を基本とする。 ・確認試験は毎回、筆記試験は中間と期末の 2 回、解剖学実習と合わせて実施する。 ・その他、詳細は解剖学 1 の初回授業で説明する。 【課題等のフィードバック方法】 ・毎回の講義後に行う確認試験で必要事項を再確認する。 ・中間 / 期末試験前に配布される確認試験回答と注目点を確認する。 ・中間試験と期末試験の対策と正解を確認し、3 年後の国家試験に備える。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業時間内で教授できる内容は極めて限られた範囲であり、各自が予習と復習を計画的に行うこと。 ・授業中は講義に集中し、内容を出来るだけ理解して覚えるよう努力すること。講義内容を理解することで解剖学実習が容易に進めることができる。 ・提出課題は手書きとする。提出期限を超えたものは採点対象にしない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・専門科目を学習する上で必須となる基本的身体構造について理解できる。 ・臨床実習ならびに国家試験（解剖学、運動学）に必要な骨・筋・神経各系の基礎的解剖知識が身につく。 【実務家教員担当科目】 解剖学						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	内藤	解剖学概論	体の部位名と方向用語、骨格、骨の機能について知る。			1 時間
2	内藤	体表解剖、関節の総論	頭部と体幹の体表解剖、関節の構造について知る。			1 時間
3	内藤	関節各論 1	上肢の関節について知る。			1 時間
4	内藤	関節各論 2	下肢の関節について知る。			1 時間
5	内藤	関節各論 3	脊柱・頭部の関節、上肢・下肢・体幹の運動について知る。			1 時間
6	内藤	神経総論と各論 1	中枢神経と末梢神経、脊髄と脊髄神経について知る。			1 時間
7	内藤	筋総論と上肢各論 1	筋の構造や機能、上肢の筋・脈管・神経について知る。			1 時間
8	内藤	上肢各論 2	上肢の筋・脈管・神経について知る。			1 時間
9	内藤	下肢各論 1	下肢の筋・脈管・神経について知る。			1 時間
10	内藤	下肢各論 2	下肢の筋・脈管・神経について知る。			1 時間
11	内藤	神経各論 2	脳と脳神経について知る。			1 時間
12	内藤	頭部・体幹各論	頭部・体幹の筋について知る。			1 時間
13	内藤	神経各論 3	脳と脳神経について知る。			1 時間
14	内藤	神経各論 4	神経伝導路について知る。			1 時間
教 科 書		グレイ解剖学（原著第 5 版） 秋田恵一 監訳 エルゼビア・ジャパン				
参 考 書		「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（第 2 版）、中野隆 監訳、医学書院」「カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで、井上貴史 監訳、西村書店」「ネッター解剖学アトラス（原書第 7 版）、相磯貞和・他 訳、南江堂」など多数が図書館に所蔵				
備 考		質問などは随時受け付けます。後回しにせず早めに研究室 3107 を訪ねてください。				

科 目 名		解剖学実習		担 当 者	○小林 武・内藤 輝 阿部 玄治・1 年次 SA	
科目ナンバリング		1010322540			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	小林：3103、内藤：3107、阿部：4221	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		実習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 解剖学 1 で学習した骨・筋・神経系の肉眼解剖学について、骨スケッチや筋・腱の貼り付け等の実習を通して理解を深める。 【学習の到達目標】 1. 骨・筋・靱帯・関節の形態と位置、機能を系統立てて説明できる。 2. 筋の起始・停止、走向、支配神経（髄節）、働きを説明できる。 3. 神経系の構造と大まかな機能を説明できる。 【成績評価方法】 ・解剖学 1 と一括で成績を認定する。 ・提出課題（30%）、口頭試問（30%）、定期試験（40%）を基本とする。 ・提出課題チェックと口頭試問は毎週 PT 教員全員が交代で行う。 ・定期試験では、骨モデル、筋モデルを用いた実地試験を行う。 ・その他、詳細は初回授業で説明する。 【課題等のフィードバック方法】 ・講義で学んだ事項を全身骨格で確認する。 ・提出課題の記載が正しいかを骨標本と交連標本への筋の張り付けで確認する。 ・提出課題で覚えた事項を各教員の試問で確認する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・4 色以上の色鉛筆を準備すること。 ・規定期限内に終了するように十分に予習を行い、教員の質問に答えられるようにすること。 ・提出課題は手書きとする。提出期限を超えたものは採点対象にしない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・専門科目を学習していく上で必須となる基本的身体構造について理解できる。 ・臨床実習ならびに国家試験（解剖学、運動学）に必要な骨・筋・神経各系の基礎的解剖知識が身につく。 【実務家教員担当科目】 解剖学を専門とした医師、大学・大学院等で人体解剖を実施した教員が指導にあたる。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	骨学実習 1：全身の骨名称の確認、胸郭の骨	全身の骨約 200 の名称と位置関係を知る。胸骨・鎖骨・肋骨の突起や溝の名称と連結を知る。		-	
2	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	骨学実習 2：椎骨	頸椎・胸椎・腰椎・仙椎・尾椎の特徴と突起や溝の名称と連結を知る。胸椎は肋骨との連結を知る。		-	
3	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	骨学実習 3：上肢骨	肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・指根骨・指骨の特徴と突起や溝の名称と連結を知る。		-	
4	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	骨学実習 4：下肢骨	寛骨・大腿骨・脛骨・腓骨・足根骨・趾骨の特徴と突起や溝の名称と連結を知る。寛骨と仙骨との連結を知る。		-	
5	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	骨学実習 5：頭蓋骨	頭蓋冠・頭蓋底・下顎骨の特徴と突起や溝の名称と連結を知る。頭蓋底の隆起・溝・孔と脳神経との関係を知る。頭蓋底と下顎骨との連結を知る。		-	
6	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	骨学実習 6：手と足の骨	手根骨・中手骨・指骨の連結と運動を知る。足根骨・中足骨・趾骨の連結と運動を知る。		-	
7	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	筋学実習 1：体幹の筋、呼吸筋	頸部・固有背筋・呼吸に関与する筋の起始・停止、神経支配、作用を知る。		-	
8	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	筋学実習 2：肩甲帯周囲と肩関節周囲の筋	肩甲骨に付着する筋と肩関節の運動に関与する筋の起始・停止、神経支配、作用を知る。		-	
9	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	筋学実習 3：肘関節・前腕・手関節周囲筋	肘関節と手関節の運動に関与する筋の起始・停止、神経支配、作用を知る。		-	
10	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	筋学実習 4：股関節周囲筋	腰椎・寛骨から大腿骨に付着する股関節の運動に関与する筋の起始・停止、神経支配、作用を知る。		-	
11	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	筋学実習 5：膝関節周囲筋と足関節周囲筋	膝関節と足関節の運動に関与する筋の起始・停止、神経支配、作用を知る。		-	
12	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	神経系実習 1：神経系の構造	神経細胞・神経組織や中枢神経系と末梢神経系の構造を知る。		-	
13	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	神経系実習 2：脳の構造（断面を含む）	脳の外観、大脳皮質の機能局在、脳の内部構造、脳神経などを知る。		-	
14	○小林 武, 内藤 輝, 阿部 玄治	神経系実習 3：伝導路	錐体路や錐体外路など運動性伝導路、視覚・聴覚・平衡覚など感覚性伝導路を知る。末梢神経の電気刺激を体験する。		-	
教 科 書		グレイ解剖学（原著第 5 版） 秋田恵一 監訳 エルゼビア・ジャパン				
参 考 書		「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（第 2 版）、中野隆 監訳、医学書院」「カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで、井上貴央 監訳、西村書店」「ネッター解剖学アトラス（原書第 7 版）、相磯貞和・他 訳、南江堂」など多数が図書館に所蔵				
備 考		疑問質問などは実習中受け付けます。後回しにせず早めに質問してください。				

科 目 名		解剖学Ⅱ		担 当 者	内藤 輝	
科目ナンバリング		1010322541			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3107	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 人体の構造の系統的理解を肉眼解剖学と顕微解剖学のレベルから学ぶ。骨格系と筋系はすでに学んだので、内臓系とその制御系について学習する。				【課題等のフィードバック方法】 毎回行う確認試験により、予習・講義・復習で不足している部分を調べ、再学習のポイントを確認する。確認試験の解答例と問題のポイントはまとめて配布し、確実な知識とする。		
【学習の到達目標】 人体の構造と機能をミクロからマクロレベルまで系統立てて理解し、今後の専門基礎科目・専門科目を学ぶための土台を作ること为目标とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業時間内で教授できる内容は極めて限られた範囲であり、解剖学の中で内臓学の全てを網羅することは到底できない。 ・短時間に修得できる範囲でないことから、授業中に要点を覚え、各自が予習と復習を計画的に行っていたきたい。 ・授業中は講義に集中し、内容を出来るだけ理解して覚えるよう努力すること。 ・復習は、授業プリントだけでなく指定された教科書や参考書を広く活用して、体表からの位置や立体構造を何時でもイメージできるようにする。		
【成績評価方法】 ・単位認定は確認テスト（20％）と筆記試験（中間＋期末）（80％）を基本とする。 ・平常点は確認テスト、課題提出などを総合的に採点する。 ・確認テストは毎回講義後に、筆記試験は中間と期末の2回 行う。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・人体の構造を扱う解剖学は、全ての医療系学問の基礎科目である。授業を受講することで、今後の専門基礎科目と専門科目を学ぶ土台を作ることができる。 ・2 年次に解剖見学実習を行うことで、解剖学ⅠとⅡで学んだ内容が立体的に理解できる。 ・解剖学は国家試験に含まれる重要な科目の一つであることも付け加えておく。		
				【実務家教員担当科目】 解剖学		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	内藤	解剖学とは：細胞・組織・器官、細胞の構造と生化学	細胞・組織・器官の構造と機能について知る。細胞の遺伝情報やエネルギー代謝など生化学の基本を学ぶ。			1 時間
2	内藤	心臓脈管系：心臓	体循環と肺循環の基となる心臓の構造と機能について知る。			1 時間
3	内藤	心臓脈管系：動脈	動脈の特徴と全身に分岐する動脈の名称について知る。			1 時間
4	内藤	心臓脈管系：静脈とリンパ管系	静脈の特徴と全身に分岐する静脈の名称と、リンパ組織・リンパ節・リンパ管・胸管の構造と分布を知る。			1 時間
5	内藤	呼吸器系	鼻腔・喉頭・気管・気管支・肺の構造と機能について知る。			1 時間
6	内藤	消化器系 1	口腔から肛門までの消化管の構造と機能について知る。			1 時間
7	内藤	消化器系 2	肝臓・胆嚢・膵臓など消化器系付属器官の構造と機能について知る。			1 時間
8	内藤	泌尿器系	腎臓・尿管・膀胱・尿道とその付属機関の構造と機能について知る。			1 時間
9	内藤	内分泌系	血液を介して標的器官に作用するホルモンの分泌器官の位置と構造、ホルモンによる恒常性の制御機構を知る。			1 時間
10	内藤	生殖器系	男性生殖器と女性生殖器の構造と機能について知る。			1 時間
11	内藤	自律神経系	内臓系を制御する自律神経系（交感神経と副交感神経）の分布と機能について知る。			1 時間
12	内藤	血液	血液の構成成分と、骨髄の幹細胞からの血球形成について知る。免疫機能に関与する血球成分について知る。			1 時間
13	内藤	外皮系	体表面（外皮）の構造と機能と、温痛圧覚など体表に分布する感覚器について知る。			1 時間
14	内藤	感覚器系と胚葉・鰓弓	視覚・聴覚・平衡覚などの感覚器の構造・機能について知る。胚葉・鰓弓について知る。			1 時間
教 科 書		グレイ解剖学（原著第 5 版） 秋田恵一 監訳 エルゼビア・ジャパン				
参 考 書		「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（第 2 版）、中野隆 監訳、医学書院」「カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで、井上貴史 監訳、西村書店」「ネッター解剖学アトラス（原書第 7 版）、相磯貞和・他 訳、南江堂」など多数が図書館に所蔵				
備 考		質問などは随時受け付けます。後回しにせず早めに研究室 3107 を訪ねてください。				

科 目 名		基礎運動学		担 当 者	○鈴木 博人・藤澤 宏幸	
科目ナンバリング		1010322542			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3220・3208	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 理学療法における身体運動学の位置づけについて解説する。ヒトの運動を表現・理解する上で必要な運動学・運動力学について講義する。 【学習の到達目標】 ヒトのからだの位置について適切に専門用語を用いて表現することができる。ヒトの運動を物理学的知識に基づいて理解・表現することができる。ヒトの関節が動く仕組みについて、運動学・運動力学の観点から説明できる。 【成績評価方法】 単位認定は、筆記試験（100％）で評定する。 【課題等のフィードバック方法】 授業内にて説明する。必要に応じて授業外にも対応する。 【履修上の注意・予習・復習について】 筆記試験の受験資格として、課題を全て提出していることとする。予習・復習課題について、講義ノートや指定された教科書や参考書をもとに取り組むこと。期限を超えた提出物は原則受け付けないが、事情を鑑み検討する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 身体運動学を学ぶにあたって必要な数学の知識を整理することができる。運動学に関する知識を身体運動と照らし合わせながら学ぶことができる。身体運動学を学んでいくための基礎を築くことができる。 【実務家教員担当科目】 理学療法士としての臨床経験を有する教員が、身体運動学と理学療法との接点を示しながら講義を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	鈴木（博）・藤澤	理学療法と身体運動学	予習：シラバスを確認する。 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
2	鈴木（博）・藤澤	ヒトのからだの位置を表現する	予習：予習課題の実施 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
3	鈴木（博）・藤澤	身体運動学を学ぶにあたって	予習：予習課題の実施 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
4	鈴木（博）・藤澤	ヒトの位置・関節角度の変化を表現する	予習：予習課題の実施 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
5	鈴木（博）・藤澤	ヒトの運動を捉えるために	予習：予習課題の実施 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
6	鈴木（博）・藤澤	ヒトの姿勢の安定性を理解する	予習：予習課題の実施 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
7	鈴木（博）・藤澤	第一部の統合的解説と理解促進	予習：予習課題の実施 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
8	鈴木（博）・藤澤	中間まとめ	予習：第 1 回から第 7 回講義の振り返り 復習：第 1 回から第 7 回講義の再復習		4 時間	
9	鈴木（博）・藤澤	ヒトの関節が動く仕組み 1-1	予習：予習課題の実施 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
10	鈴木（博）・藤澤	ヒトの関節が動く仕組み 1-2	予習：予習課題の実施 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
11	鈴木（博）・藤澤	ヒトの関節が動く仕組み 1-3	予習：予習課題の実施 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
12	鈴木（博）・藤澤	ヒトの重心を推定する	予習：予習課題の実施 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
13	鈴木（博）・藤澤	ヒトの関節が動く仕組み 2	予習：予習課題の実施 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
14	鈴木（博）・藤澤	第二部の統合的解説と理解促進	予習：予習課題の実施 復習：講義の整理および課題の実施		4 時間	
教 科 書		中村隆一・他 編：基礎運動学 第 7 版（医歯薬出版） 藤澤宏幸 編：日常生活活動の分析 第 2 版（医歯薬出版）				
参 考 書		坂井健男・他監訳：プロメテウス解剖学アトラス 第 3 版（医学書院）				
備 考		質問・問い合わせ先：科目責任者または授業担当者				

科 目 名	身体運動学演習			担 当 者	○鈴木 博人・藤澤 宏幸	
科目ナンバリング	1010322543				常勤	
D P	1,2			教 員 研 究 室	3220・3208	
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 本科目では身体運動学の視点から主に関節運動に関する講義を行う。 また、論述式の課題を通した演習を実施し、講義内容の理解を深める。 さらに、他の動物との比較からヒトの関節運動の特徴を理解し、身体への関心を高める。				【課題等のフィードバック方法】 授業中に課題の内容を加味して教授する。		
【学習の到達目標】 身体各関節運動の特徴を運動学・運動力学的に説明できる。各関節における関節構成体（靱帯、関節包、滑液包、等々）の働きを説明できる。各関節運動の筋の作用について説明できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 毎週課題を提示する。課題に取り組む際には、講義ノートだけではなく指定された教科書や参考書を広く活用する。提出課題を全て提出していることを筆記試験の受験資格の一つとする。		
【成績評価方法】 単位認定は、筆記試験（100%）で評定する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 身体運動に関する筋骨格系の働きをより深く理解できる。専門科目を学習していく上で必須となる基本的関節機能について理解できる。臨床実習ならびに国家試験（解剖学、運動学）に必要な筋骨格系の基礎的解剖・運動学的知識が身につく。		
				【実務家教員担当科目】 病院、老人保健施設等で理学療法士として業務経験のある教員が、臨床を射程に入れて、身体運動の原理について構造との関連を中心に講義する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	藤澤・鈴木（博）	身体運動学概論 －進化論・比較解剖学	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
2	鈴木（博）・藤澤	股関節 1	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
3	鈴木（博）・藤澤	股関節 2	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
4	鈴木（博）・藤澤	膝関節 1	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
5	鈴木（博）・藤澤	膝関節 2／足関節・足部 1	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
6	鈴木（博）・藤澤	足関節・足部 2	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
7	鈴木（博）・藤澤	体幹・脊柱／胸郭・呼吸運動	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
8	鈴木（博）・藤澤	第一部の統合的解説と理解促進	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
9	鈴木（博）・藤澤	中間のまとめ	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
10	鈴木（博）・藤澤	肩関節 1	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
11	鈴木（博）・藤澤	肩関節 2／肘関節 1	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
12	鈴木（博）・藤澤	肘関節 2／前腕・手関節・手部 1	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
13	鈴木（博）・藤澤	前腕・手関節・手部 2	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
14	鈴木（博）・藤澤	第二部の統合的解説と理解促進	予習：受講準備課題 復習：振り返り課題			1 時間
教 科 書		中村隆一・他著：基礎運動学 第 7 版（医歯薬出版） 藤澤宏幸・編：日常生活活動の分析 第 2 版（医歯薬出版） 藤澤宏幸・著：ヒトはなぜ坐れるのか？（北樹出版） Donald A. Neumann・原著：筋骨格系のキネシオロジー 原著第 3 版				
参 考 書		坂井健男・他監訳：プロメテウス解剖学アトラス 第 3 版（医学書院）				
備 考		質問・問い合わせ先：科目責任者または授業担当者				

科 目 名		生理学Ⅰ		担 当 者	戸田 孝史	
科目ナンバリング		1010322546			常勤	
D P		1,2		教員研究室	1327	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生理学は生命が維持されるしくみを学ぶ分野である。生理学Ⅰでは、“動物機能”を扱い、神経や筋の電気的な活動のメカニズムを理解した上で、身体の運動機能や視覚、聴覚、皮膚感覚などの感覚機能について学ぶ。毎時間、配布する課題シートと教科書が教材である。 【学習の到達目標】 ・筋や神経が電氣的に活動するしくみや、骨格筋収縮のしくみを、図を用いて説明できる。 ・骨格筋の運動（脊髄反射や随意運動）のしくみについて図を用いて説明できる。 ・視覚、聴覚、体性感覚などの感覚が生じるしくみを図を用いて説明できる。 ・学習、記憶、言語などの脳の高次機能について説明できる。 【成績評価方法】 ふだんの授業への取り組みと定期試験により評価する。詳細は授業時に説明する。 【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートや小テストなどについて、授業時に解説する。 【履修上の注意・予習・復習について】 定期試験の受験資格は規定どおりとするが、皆勤を目標とすること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・理学療法士の国家試験準備と病気の成り立ち（病態生理）の理解に必要な不可欠な基礎知識が得られる。 【実務家教員担当科目】 該当せず						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	戸田 孝史	履修のガイダンス、生理学を学ぶ意義	予習：不要		4 時間	
2	戸田 孝史	細胞の構造と機能：細胞膜、核、細胞内小器官	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：不要		4 時間	
3	戸田 孝史	生体の電気現象：静止膜電位	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト		4 時間	
4	戸田 孝史	生体の電気現象：活動電位の伝導とシナプス伝達	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト		4 時間	
5	戸田 孝史	骨格筋の収縮のしくみ	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト		4 時間	
6	戸田 孝史	中枢神経系の構成と機能、大脳が司る高次機能Ⅰ	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト		4 時間	
7	戸田 孝史	中枢神経系の構成と機能、大脳が司る高次機能Ⅱ	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト		4 時間	
8	戸田 孝史	運動：脊髄反射Ⅰ（伸張反射、誘発筋電図）	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト		4 時間	
9	戸田 孝史	運動：脊髄反射Ⅱ（屈曲反射、交叉性伸展反射など）	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト		4 時間	
10	戸田 孝史	運動：脳幹の役割（リズム運動の発現と姿勢の維持、脳幹反射）	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト		4 時間	
11	戸田 孝史	運動：随意運動発現のしくみ（大脳皮質、大脳基底核、小脳の役割）	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト		4 時間	
12	戸田 孝史	感覚：体性感覚（皮膚感覚、深部感覚）	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト		4 時間	
13	戸田 孝史	感覚：視覚	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト		4 時間	
14	戸田 孝史	感覚：聴覚、平衡感覚など	予習：教科書指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト		4 時間	
教 科 書		標準理学療法・作業療法学専門基礎分野 生理学 第5版 （岡田隆夫/長岡正範 医学書院）				
参 考 書		特になし				
備 考		特になし				

科 目 名		生理学Ⅱ		担 当 者	戸田 孝史	
科目ナンバリング		1010322547			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	1327	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生理学は生命が維持されるしくみを学ぶ分野であり、先行科目の生理学Ⅰでは動物機能について学修した。この生理学Ⅱでは、植物機能（自律機能）を扱い、循環、呼吸、尿生成、内分泌などについて学ぶ。毎時間配布する課題シートと教科書が教材である。						
【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートや小テストなどについて、授業時に解説する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 定期試験の受験資格は規定どおりとするが、皆勤を目標とすること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・理学療法士の国家試験準備と病気の成り立ち（病態生理）の理解に必要な不可欠な基礎知識が得られる。						
【実務家教員担当科目】 該当せず						
【学習の到達目標】 ・呼吸運動、呼吸気量、ガス交換、呼吸調節、酸塩基平衡維持のしくみを図を用いて説明できる。 ・血液の組成と機能、心臓血管系のしくみ（心臓のポンプ作用など）を図を用いて説明できる。 ・腎臓の尿生成のしくみ（ろ過、分泌、再吸収など）を図を用いて説明できる。 ・体温調節のしくみを図を用いて説明できる。主要な内分泌器官とホルモンを説明できる。						
【成績評価方法】 ふだんの授業への取り組みと定期試験により評価する。詳細は授業時に説明する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習	学修時間	
1	戸田 孝史	ガイダンス、植物機能（自律機能）とは何か		予習：不要	4 時間	
2	戸田 孝史	循環：血液の組成と機能、血液型		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：不要	4 時間	
3	戸田 孝史	循環：心臓のポンプ作用		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト	4 時間	
4	戸田 孝史	循環：心電図とは		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト	4 時間	
5	戸田 孝史	循環、体温調節：循環調節（心臓と血管系にたいする調節）、体温調節		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト	4 時間	
6	戸田 孝史	呼吸：内呼吸と外呼吸、呼吸運動、呼吸気量		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト	4 時間	
7	戸田 孝史	呼吸：ガス交換とガスの運搬		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト	4 時間	
8	戸田 孝史	呼吸：呼吸の調節		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト	4 時間	
9	戸田 孝史	尿生成：尿の生成（糸球体におけるろ過、尿細管における分泌と再吸収）		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト	4 時間	
10	戸田 孝史	尿生成：クリアランス、排尿のしくみ		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト	4 時間	
11	戸田 孝史	酸塩基平衡と、その異常		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト	4 時間	
12	戸田 孝史	内分泌Ⅰ：内分泌総論、主要な内分泌腺とホルモンの作用		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト	4 時間	
13	戸田 孝史	内分泌Ⅱ：主要な内分泌腺とホルモンの作用		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト	4 時間	
14	戸田 孝史	生殖：生殖の過程と関連する内分泌機能		予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト	4 時間	
教 科 書		標準理学療法・作業療法学専門基礎分野 生理学 第 5 版 （岡田隆夫/長岡正範 医学書院）				
参 考 書		特になし				
備 考		特になし				

科 目 名		臨床医学総論		担 当 者	○渡邊 隆夫・沼崎 宗夫	
科目ナンバリング		1010322549			常勤	
D P		1,2		教員研究室	渡邊：4216・沼崎：3218	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 臨床の現場においては医療チームの一員として、主疾患、副疾患を問わず様々な疾患を有している対象者に接する。それら疾患の原因や特徴について知っておくことは、対象者を理解し適確に対応していく上で重要である。したがって疾患の発生機序について解説し、疾患の成り立ちと病態に対する理解を持てるようにする。また、医療チームの一員として、最新の現代医療について、チーム医療のあり方、医療倫理など基本的な考え方について解説を行なう。						
【課題等のフィードバック方法】 授業課題については期限後に模範解答を提示し再度の復習に供する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 教科書プリントなどで予定範囲を通読しておくこと。 理解したこと、覚えたことを毎回記載すること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 疾患の成り立ち・経過についての基本的知識を得ることが出来る。 高齢化社会の現代医療におけるチーム医療の一員として、頻度の高い疾患についての不可欠な知識が得られる。						
【学習の到達目標】 1) 細胞・組織・器官のなりたち、分化・変性について基本的理解を得る。 2) 疾病の原因・経過について基本的理解を得る。 3) 循環障害・代謝障害について基本的理解を得る。 4) 炎症・免疫・腫瘍について基本的理解を得る。 5) 悪性疾患・医の倫理について基本的理解を得る。 6) 消化器疾患・生活習慣病・高齢者疾患について基本的理解を得る。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						
【成績評価方法】 期末試験（80%）、授業課題（20%）等を総合して評価する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	沼崎 宗夫	病理学 1（病因論）病理学について、病因について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
2	沼崎 宗夫	病理学 2（退行性病変・進行性病変・代謝障害）退行性病変、進行性病変、代謝障害について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
3	沼崎 宗夫	病理学 3（循環障害）循環障害について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
4	沼崎 宗夫	病理学 4（循環障害 2）循環障害について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
5	沼崎 宗夫	病理学 5（免疫アレルギー）免疫、アレルギー、膠原病について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
6	沼崎 宗夫	病理学 6（炎症）炎症・感染症について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
7	沼崎 宗夫	病理学 7（腫瘍・老化と死）腫瘍、老化と死について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
8	渡邊 隆夫	臨床医学 1（消化器病 1）消化と吸収について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
9	渡邊 隆夫	臨床医学 2（消化器病 2）消化器解剖と各種病態について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
10	渡邊 隆夫	臨床医学 3（悪性疾患・医の倫理）悪性疾患、医の倫理の歴史について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
11	渡邊 隆夫	臨床医学 4 糖尿病と健康管理について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
12	渡邊 隆夫	臨床医学 5（生活習慣病）生活習慣病と健康管理について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
13	渡邊 隆夫	臨床医学 5（生活習慣病）生活習慣病と健康管理について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
14	渡邊 隆夫	臨床医学 5（生活習慣病）生活習慣病と健康管理について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
教 科 書		病理学：医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第3版 梶原博毅、横井豊治監修 ISBN978-4-260-00735-1				
参 考 書		「メデイカルスタッフのための内科学」医学出版社 ISBN 978-4-87055-125-1				
備 考		質問は各担当教員が、問い合わせは主担当教員が受け付ける。				

科 目 名	リハビリテーション医学			担 当 者	○小林 武・星 孝 阿部 玄治・沼田 純希 釵明佳代子
科目ナンバリング	1010322558				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	小林：3103、星：3104、阿部・沼田：3218、 釵明：3217
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用	□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 医学的リハビリテーションの進め方、疾病（病理）・症候・障害の捉え方について学習する。また、代表的な疾病を取り上げ、その具体例を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 プレゼンテーション後に講評する。	
【学習の到達目標】 代表的な疾患について、疾病（病理）・症候・障害の関係性を理解できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 グループワークに積極的に参加すること。	
【成績評価方法】 グループワークへの貢献度（30%）、提出物（30%）、定期試験（40%）で判定する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 疾病（病理）・症候・障害のもつ意味を整理できる。代表的な疾患における障害構造を考えることができるようになる。	
				【実務家教員担当科目】 多くの疾患の医学的リハビリテーションに携わった経験のある教員が、疾病（病理）・症候・障害のもつ意味とその関係性について教授する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	小林	・オリエンテーション ・リハビリテーション医学とは	「リハビリテーション」の意味を調べておく		4 時間
2	小林	疾病、症候、障害	症状と症候、障害分類について整理する		4 時間
3	小林	障害とリハビリテーション治療学	障害の治療とは何かを整理する		4 時間
4	阿部	骨折のリハビリテーション	骨の構造・生理、骨折との症候と障害、リハビリテーション治療について整理する		4 時間
5	阿部	靱帯損傷のリハビリテーション	靱帯の機能、靱帯損傷の症候と障害、リハビリテーション治療について整理する		4 時間
6	阿部	末梢神経麻痺のリハビリテーション	末梢神経の解剖・生理、末梢神経麻痺の症候と障害、リハビリテーション治療について整理する		4 時間
7	沼田	脳卒中のリハビリテーション（1）	脳の解剖・生理、中枢神経麻痺の症候と障害に整理する		4 時間
8	沼田	脳卒中のリハビリテーション（2）	中枢神経麻痺の障害とリハビリテーション治療について整理する		4 時間
9	沼田	パーキンソン病のリハビリテーション	パーキンソン病の原因、症候と障害、リハビリテーション治療について整理する		4 時間
10	星	脳性麻痺のリハビリテーション	脳性麻痺の原因、症候と障害、リハビリテーション治療について整理する		4 時間
11	星	高齢者のリハビリテーション	高齢者の身体機能の特徴、フレイル、高齢者のリハビリテーションについて整理する		4 時間
12	星	呼吸器疾患のリハビリテーション	呼吸器の解剖・生理、呼吸器疾患の症候と障害、リハビリテーション治療について整理する		4 時間
13	釵明	循環器疾患のリハビリテーション	循環器の解剖・生理、循環器疾患の症候と障害、リハビリテーション治療について整理する		4 時間
14	釵明	代謝疾患のリハビリテーション	代謝疾患の原因、症候と障害、リハビリテーション治療について整理する		4 時間
教 科 書		指定しない			
参 考 書		授業の中で紹介する。			
備 考		予習を行って授業に参加してください。グループワークに積極的に参加すること。			

科 目 名		リハビリテーション概論			担 当 者	星 孝
科目ナンバリング		1010322560				常勤
D P		1,4			教員研究室	3104
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業では「チーム医療」と「リハビリに関連する法律や制度」の2つを中心に置く。 リハビリテーション医学は障害を有する方々を対象とした医療を担って発展してきた。現在、リハビリテーションは保健・医療の分野だけではなく、教育や職業、社会福祉の分野にまでおよび、障害に対する治療と社会復帰、社会参加、充実した生活の提供を包含している。リハビリテーション医療において、チーム医療の姿は至極当然と言える。 また、理学療法が生業として充実するためには、市場経済、あるいは効果や効率という側面を認識していることも重要である 【学習の到達目標】 ・チーム医療の必要性、チーム医療の中の理学療法士を理解する ・リハビリテーションの業に関わる医療制度（診療報酬や施設基準）と介護保険制度について理解する 【成績評価方法】 ・チーム医療に関するレポート（80％）と発表（20％）にて評価する ・評価基準は、ルーブリックを提示し解答の自立度と内容の妥当性から評価する 【課題等のフィードバック方法】 授業中、もしくは授業終了後、質問を受け回答する 【履修上の注意・予習・復習について】 ・科目試験の受験資格は、当学規定における授業総回数の2/3 以上（3回の欠席で失効）を有すること ・授業に関連しない携帯電話の作業など、社会的に問題のある行為は禁止とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・医療人としての基礎力の獲得 【実務家教員担当科目】 リハビリテーションに関する豊富な臨床実務経験を有する理学療法士が、リハビリテーションの概念、チーム医療の重要性、リハビリテーションに関わる医療制度について教授する						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	星 孝	リハビリテーションの概念	総論および医療から生活支援への展開について復習する			4 時間
2	星 孝	チーム医療の概略	チーム医療推進のための基本的な考え方について復習する			4 時間
3	星 孝	チーム医療の検討	事例を用いての各学生チーム内による討論をまとめる			4 時間
4	星 孝	リハビリテーションと医療	病院や医療についての概略的な内容について学習する			4 時間
5	星 孝	リハビリテーションと法制度 1	医療保険制度 / 診療報酬制度の仕組みなどの概略的な内容について学習する			4 時間
6	星 孝	リハビリテーションと法制度 2	疾患別リハビリテーション料や施設基準についての概略的な内容を学習する			4 時間
7	星 孝	リハビリテーションと病気	リハビリテーションに関わる様々な病気の実例を事例を通じて学習する			4 時間
教 科 書		図解 よくわかる病院の学習書 梶葉子				
参 考 書		なし				
備 考		なし				

科 目 名	チーム医療福祉論			担 当 者	大黒 一司
科目ナンバリング	1010322561				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	3211
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本学では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、社会福祉士、精神保健福祉士、看護師、保健師、臨床工学技士の9の保健医療福祉専門職を養成している。それぞれが専門的知識と技術を習得することは大切である。しかし、将来現場で働く際には、本学において養成している職種に限らず多くの専門職と関わることになる。そこで、この授業では保健医療福祉分野においてチームとして関わる専門職について知ることを目的として、それぞれの専門職の仕事内容、保健医療福祉分野における役割、機能について講義をする。また、多職種連携の実践について実践例の紹介を通して学ぶ。受講する学生が自身の目指す職種について、他の学生に紹介することや他の職種について説明を受ける機会（グループワーク）を通して多職種について理解することができる。 【学習の到達目標】 ・他職種の専門性、業務の概要を知る ・他専攻の学生とかわかる中で自分の目指す専門職について紹介できる 【成績評価方法】 授業時の課題（レスポンスペーパーの提出） 20% グループワークの課題 30% まとめの課題レポート 50% 【課題等のフィードバック方法】 ・講義終了後、質問を受け付け回答する。 ・レスポンスペーパーによる質問を受け付け回答する（クラスルーム）。 ・次回講義時に受講者全体に向けて回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 指定された席で受講する。私語・携帯電話の使用・飲食の禁止 レスポンスペーパーは毎回必ず提出する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 1 年次から他学科・他専攻で学ぶ学生と授業を通して交流することができる。また、自分が目指す職種のことを他者に伝えるために一層理解することができる。 【実務家教員担当科目】 病院・施設において多職種連携を実践していた。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	大黒 一司	保健医療福祉を支える専門職とチームの役割	復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
2	大黒 一司	専門職の理解（紹介）1 医師、歯科医師、薬剤師	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
3	大黒 一司	専門職の理解（紹介）2 (1) 看護師、保健師、管理栄養士、臨床工学技士 (2) グループワーク	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
4	大黒 一司	専門職の理解（紹介）3 (1) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士 (2) グループワーク	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
5	大黒 一司	専門職の理解（紹介）4 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、義肢装具士、ほか	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
6	大黒 一司	多職種連携の実践（1）保健医療福祉における多職種連携の実践の紹介（2）グループワークを通して多職種連携を模擬的に体験する	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
7	大黒 一司	全体の振り返りとまとめ（課題の実施と提出）	予習：事前配布資料のこれまでの授業内容（テキストのページ）について振り返る 復習：まとめの課題についてテキストで確認する。		4 時間
教 科 書		指定教科書は特になし			
参 考 書		必要に応じて図書や文献を紹介する			
備 考		質問等の問い合わせ：大黒一司（リハビリテーション学科作業療法学専攻）			

科 目 名		重度障がい者自立生活支援演習		担 当 者	○本間 里美・小林 武 傍島 智子・千葉早耶香 千田 香	
科目ナンバリング		101032568			常勤・非常勤	
D P		1,4		教員研究室	小林：3103、傍島：1314	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1・2・3・4 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク ☑プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 地域で生活する重度身体障がい者の生活とそれを支える専門職の役割について、講義・演習・実習を通して学ぶ。		【課題等のフィードバック方法】 グループワーク、プレゼンテーション実施後に講評する				
【学習の到達目標】 重度障がい者の地域生活を知る 重度障がい者の地域生活に必要な支援を体験する		【履修上の注意・予習・復習について】 休日、祝・祭日の3連休に開講する（開講日は別途通知する）。				
【成績評価方法】 グループワーク成果物とプレゼンテーションの妥当性を評価する		【受講して得られる効果・メリット、その他】 地域で生活する重度身体障がい者の生活とそれを支える専門職の役割を理解・体験できる。				
		【実務家教員担当科目】 重度身体障がい者の地域生活支援に携わっている看護師、理学療法士、ヘルパーが、それに必要な専門的知識・技術を教授するとともに、当事者宅での実習について指導する。				
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	本間	・オリエンテーション ・障がいとは？	復習：「障がい」のもつ多面的な意味をまとめる		1 時間	
2	本間、千田、千葉	・重度身体障がい者用コミュニケーション機器実習 ・透明文字盤実習	予習：自分の意思を伝達する手段を調べておく 復習：実習した内容をまとめる		1 時間	
3	本間、千葉	「地域で生きる・暮らす」「地域で支える」とは？	予習：重度障がい者が地域で暮らすために必要な支援について調べておく 復習：重度障がい者が地域で暮らすために必要な支援についてまとめる		1 時間	
4	本間、千葉	・医療の視点と介助の視点 ・事例をもとに考えよう	予習：重度障がい者の疾病を調べておく 復習：重度障がい者の疾病と障害をまとめる		1 時間	
5	本間、千田	当事者宅での実習説明と準備学習	当事者宅での実習目標、スケジュールを確認しておく		1 時間	
6	本間、千田、傍島、小林	当事者宅での実習	予習：当事者宅での実習に必要な用具、身なりを準備しておく 復習：実習日誌をつける		1 時間	
7	本間、千田、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習日誌をつける		1 時間	
8	本間、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習日誌をつける		1 時間	
9	本間、千葉、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習日誌をつける		1 時間	
10	本間、千葉、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習内容をまとめておく		1 時間	
11	本間、千田、千葉、傍島、小林	グループワーク 1：実習経験の共有	予習：実習内容を発表できるように準備しておく 復習：共有した他の学生の実習経験をまとめる		1 時間	
12	本間、千田	・実習での体験を振り返る ・改めて考える「障がいとは？」	復習：自分の実習と共有した他の学生の実習内容から、改めて障害の持つ意味を簡単にまとめる		1 時間	
13	本間	障がいって何？ 当たり前の見方を変えてみよう	復習：障がいの多面的な意味を考察しまとめる		1 時間	
14	本間、千田、千葉、傍島、小林	・グループワーク 2：「障がいとは？」について考える ・発表会と総まとめ	復習：授業全体を振り返り、重度障がい者の生活を支援することの意義と専門職としての関わりをまとめる		1 時間	
教 科 書		オリジナルテキスト（¥500）を使用します。初回授業時に購入してもらいます。				
参 考 書		特に指定しない				
備 考		・当事者宅での実習を受け入れていただく当事者の人数が限られていますので、受講者数を最大 20 名に制限します。 ・受講希望者多数の場合は、事前説明会や面接等を通して受講生を決定します。				

科 目 名		理学療法学概論		担 当 者	藤澤 宏幸	
科目ナンバリング		1010422569			常勤	
D P		1,4		教員研究室	4210	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 初年次に、理学療法を学ぶための基本的態度を築くことを第一の目的とする。そのため、理学療法および理学療法教育の歴史、関連法規、障害モデル、障害者の心理的側面などを包括的に教授し、そのうえで4年間のカリキュラムにおける各科目の必要性を説明する。 【学習の到達目標】 1. 理学療法の歴史について理解する 2. 理学療法士の役割について理解する 3. これから学習する科目（内容）の必要性について理解する 【成績評価方法】 レポート 50％ 定期試験 50％ 【課題等のフィードバック方法】 文書および体裁については個別のレポートでフィードバックし、翌週に返却する。また、全体的内容については授業のなかでフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 予習：配布するシラバス（講義ノート）に指定された内容を履行すること 復習：毎回レポートを課すので期限まで提出すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 理学療法士になるための基礎知識を整理できる。 【実務家教員担当科目】 病院等で理学療法士として実務経験のある教員が、自身の体験をもとに理学療法士として対象者に向き合うための心構えを伝えながら、学生に自分の考えをまとめてもらう。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学習時間	
1	藤澤 宏幸	本学の建学の精神と教育理念	予習：本学の建学の精神と教育理念に関する章を読む 復習：レポート課題（本学の建学の精神と教育理念）		4 時間	
2	藤澤 宏幸	理学療法の起源と教育の歴史	予習：理学療法の起源と教育の歴史に関する章を読む 復習：レポート課題（理学療法の起源と教育の歴史）		4 時間	
3	藤澤 宏幸	理学療法と関連法規	予習：理学療法と関連法規に関する章を読む 復習：レポート課題（理学療法と関連法規）		4 時間	
4	藤澤 宏幸	リハビリテーションの思想	予習：リハビリテーションの思想に関する章を読む 復習：レポート課題（リハビリテーションの思想）		4 時間	
5	藤澤 宏幸	理学療法の学問体系と理学療法モデル	予習：理学療法の学問体系と理学療法モデルに関する章を読む 復習：レポート課題（理学療法の学問体系と理学療法モデル）		4 時間	
6	藤澤 宏幸	理学療法の実際	予習：理学療法の実際に関する章を読む 復習：レポート課題（理学療法の実際）		4 時間	
7	藤澤 宏幸	障害受容	予習：障害受容に関する章を読む 復習：レポート課題（障害受容）		4 時間	
8	藤澤 宏幸	「心の旅」をとおして理学療法を考える	予習：障害受容に関する章を読む 復習：レポート課題（障害受容）		4 時間	
9	藤澤 宏幸	生きがい・働きがい	予習：生きがい・働きがいに関する章を読む 復習：レポート課題（生きがい・働きがい）		4 時間	
10	藤澤 宏幸	日本人の宗教観	予習：日本人の宗教観に関する章を読む 復習：レポート課題（日本人の宗教観）		4 時間	
11	藤澤 宏幸	義務と権利	予習：義務と権利に関する章を読む 復習：レポート課題（義務と権利）		4 時間	
12	藤澤 宏幸	学ぶということ	予習：学ぶということに関する章を読む 復習：レポート課題（学ぶということ）		4 時間	
13	藤澤 宏幸	理学療法と研究	予習：理学療法と研究に関する章を読む 復習：レポート課題（理学療法と研究）		4 時間	
14	藤澤 宏幸	医療制度と理学療法士の未来	予習：医療制度に関する章を読む 復習：レポート課題（医療制度）		4 時間	
教 科 書		藤澤宏幸：理学療法の基層. 北樹出版				
参 考 書		特になし				
備 考		問い合わせ先：科目担当者				

科 目 名		理学療法学基礎演習Ⅰ		担 当 者	○釵明佳代子・村上 賢一 三木 千栄・高橋 一揮 阿部 玄治・沼田 純希	
科目ナンバリング		1010422570			常勤	
D P		1,4		教員研究室	3217	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 障がいレベルに応じた理学療法評価と基本的介入の視点について演習を通して入門的に学ぶ。主に理学療法評価、運動療法、物理療法、日常生活活動と生活環境への介入、義肢・装具等について体験・実習する。 【学習の到達目標】 理学療法評価、運動療法、物理療法、日常生活環境への介入、義肢・装具等について理学療法の関りを説明できる。 【成績評価方法】 レポート(100%)により評価する。レポートは出席・欠席に関わらず、すべて提出すること。						
【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、質問を受けつけ回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻、私語、必要時以外のスマートフォン操作、及び飲食など受講に支障をきたす行為は禁止とする。授業資料だけでなく、あらゆる資料を広く活用し、復習すること。また、実習にあたっては、実習に相応しい整容で臨むこと（ピアス、ネックレス等の装飾品不可、爪の整容など）。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 理学療法の評価～治療について基本的な事項を学習でき、移行の学習に反映することができる。 【実務家教員担当科目】 豊富な臨床実務経験を有する理学療法士が、理学療法の概念から評価、治療に至る全般的な知識と技術についてその基本を教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学習時間	
1	釵明佳代子 村上 賢一	オリエンテーション、理学療法とは、障害モデルと理学療法	授業内容について、十分に復習すること		1 時間	
2	村上 賢一	運動療法の基礎 1：触る・動かす 運動療法の基礎 2：リラクゼーション	触診に関する基本的な知識を整理して授業に臨み、授業後は授業で学んだ事項について十分に復習すること		1 時間	
3	沼田 純希	運動療法の基礎 3：感覚	感覚に関する解剖学的・生理学的知識を整理して授業に臨み、授業後は授業で学んだ事項について十分に復習すること		1 時間	
4	釵明佳代子	運動療法の基礎 4：関節運動①	関節の形態や構造について解剖学的知識を整理して授業に臨み、授業後は授業で学んだ事項について十分に復習すること		1 時間	
5	釵明佳代子	運動療法の基礎 5：関節運動②	関節の形態や構造について解剖学的知識を整理して授業に臨み、授業後は授業で学んだ事項について十分に復習すること		1 時間	
6	釵明佳代子	運動療法の基礎 6：筋持久力	上下肢の筋について知識を整理して授業に臨み、授業後は授業で学んだ事項について十分に復習すること		1 時間	
7	沼田 純希	運動療法の基礎 7：バランス	バランス・姿勢についての知識を深め、授業後は授業で学んだ事項について十分に復習すること		1 時間	
8	沼田 純希	運動療法の基礎 8：動作介助	動作介助について知識を深め、授業後は学生同士で十分に練習を行うこと		1 時間	
9	高橋 一揮	運動療法の基礎 9：循環	心・循環器系の解剖・生理学的知識を整理して授業に臨み、授業後は授業で学んだ事項について十分に復習すること		1 時間	
10	高橋 一揮	運動療法の基礎 10：呼吸	呼吸器系の解剖・生理学的知識を整理して授業に臨み、授業後は授業で学んだ事項について十分に復習すること		1 時間	
11	高橋 一揮	運動療法の基礎 11：代謝	代謝に関する知識を整理して授業に臨み、授業後は授業で学んだ事項について十分に復習すること		1 時間	
12	阿部 玄治	物理療法の基礎	授業後は授業で学んだ事項について十分に復習すること		1 時間	
13	阿部 玄治	義肢・装具・補装具と理学療法	授業後は授業で学んだ事項について十分に復習すること		1 時間	
14	三木 千栄	日常生活活動と理学療法・生活環境と理学療法	授業後は授業で学んだ事項について十分に復習すること		1 時間	
教 科 書		特に指定しない				
参 考 書		特に指定しない				
備 考		問い合わせ先は、主担当の釵明とする。				

科 目 名		理学療法学基礎演習Ⅱ		担 当 者	○釵明佳代子・鈴木 誠	
科目ナンバリング		1010422571			常勤	
D P		1,3		教 員 研 究 室	3217・3105	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 理学療法士は対象者に対して運動を治療手段として用いる（運動療法）。その視点によって生体はどのような変化を起こすのかを運動生理学の視点から学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 授業では内容に即した演習課題を設定し、随時質問を受けつけ対応する。		
【学習の到達目標】 運動による生体の適応変化について説明できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻、私語、必要時以外のスマートフォンの操作、及び飲食など講義に支障をきたす行為は禁止とする。グループワークの際には積極的に他者との意見交換を行うこと。		
【成績評価方法】 中間試験（50%）、期末試験（50%）の結果により総合的に判断する。詳細については、第 1 回目の講義にて説明する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 運動療法学の基礎として位置付けられる科目であり、2 年次以降の各種理学療法の授業内容に直結する。		
				【実務家教員担当科目】 臨床において理学療法業務に従事した経験のある教員が、運動療法を実施するにあたり必要な基本知識について教授する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学習時間	
1	釵明佳代子 鈴木 誠	オリエンテーション 運動生理学の基礎 運動と筋肉①	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
2	鈴木 誠 釵明佳代子	運動生理学の基礎 運動と筋肉②	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
3	鈴木 誠 釵明佳代子	運動生理学の基礎 運動と筋肉③	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
4	鈴木 誠 釵明佳代子	運動生理学の基礎 運動と筋肉④	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
5	鈴木 誠 釵明佳代子	運動生理学の基礎 運動と筋肉⑤	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
6	鈴木 誠 釵明佳代子	運動生理学の基礎 運動と神経①	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
7	鈴木 誠 釵明佳代子	運動生理学の基礎 運動と神経②	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
8	鈴木 誠 釵明佳代子	運動生理学の基礎 運動と神経③	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
9	鈴木 誠 釵明佳代子	中間試験、課題生理（運動と筋肉①～⑤・運動と神経①～②）	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
10	釵明佳代子 鈴木 誠	運動生理学の基礎 運動と筋肉⑥	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
11	釵明佳代子 鈴木 誠	運動生理学の基礎 運動と筋肉⑦	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
12	釵明佳代子 鈴木 誠	運動生理学の基礎 運動と呼吸・循環・代謝①	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
13	釵明佳代子 鈴木 誠	運動生理学の基礎 運動と呼吸・循環・代謝②	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
14	釵明佳代子 鈴木 誠	運動生理学の基礎 運動と呼吸・循環・代謝③	教科書の指定範囲について要点をまとめること		1 時間	
教 科 書		「理学療法学基礎演習Ⅱ講義ノート ―運動療法へつながる運動生理学の基礎―				
参 考 書		中村隆一、齋藤宏、長崎浩：基礎運動学 第 7 版. 医歯薬出版				
備 考		当該科目に関する不明な点は、科目責任者（釵明佳代子、鈴木 誠）まで問い合わせること。				

科 目 名	理学療法評価学演習Ⅰ			担 当 者	○小林 武・黒後 裕彦 鈴木 誠・星 孝 村上 賢一・三木 千栄 小野部 純・高橋 一揮 鈴木 博人・平山 和哉 阿部 玄治・長井 真弓 沼田 純希・釼明佳代子
科目ナンバリング	1010432574				常勤
D P	1,3			教員研究室	小林：3103
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・総論として、理学療法評価の目的や流れ等の基本的概念と各検査・測定項目の目的や意義を学習する。 ・各論では、基本的な理学療法検査・測定技術の習得を目標として講義と演習を行う。 【学習の到達目標】 ・理学療法介入における評価の位置づけと役割について説明できる。 ・バイタルサイン、身体計測、関節可動域検査を安全かつ効率的に実施でき、正常値（参考値含む）と異常値の意味を説明できる。 【成績評価方法】 ・実技試験、予習復習テストそれぞれの得点率が全て 60% 以上であることを単位認定の条件とする。 ・上記を満たした場合、予習復習テストと実技試験をそれぞれ 50 点換算して合計し、100 点満点として単位認定する。 【課題等のフィードバック方法】 ・実技試験：担当試験官が個別にフィードバックする。 ・予習復習テスト：その都度答案を返却する。必要に応じて個別指導する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・各自所有の検査器具とバスタオルを持参すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・理学療法士として、接遇を含めた基本的検査測定技術を身につけることができる。 ・理学療法検査測定手技を身体運動学的観点からとらえることができる。 【実務家教員担当科目】 多種多様な疾患を経験した理学療法士が、様々な理学療法の検査・測定・試験などを正確に効率よく実施するために必要な知識と技術を教授する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学習時間
1	小林、小野部	総論：理学療法の流れと理学療法評価検査測定の信頼性と妥当性	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習する。		1 時間
2	小林、小野部	理学療法評価と体表から確認できる解剖学的指標	骨・関節、筋、末梢神経、動脈系の解剖学を復習して授業に臨むこと。授業で学んだ事項について復習すること。		1 時間
3	小林、小野部	バイタルサイン	体温、脈拍、血圧、呼吸数・呼吸パターンについて予習し、授業で学んだそれらの検査・測定について復習すること。		1 時間
4	小林、小野部	身体計測①：長育、体重、体格指数	身長・体重測定、BMI の算出、四肢・体節長の測定について予習し、授業で学んだそれらの検査・測定についてレポートにまとめること。		1 時間
5	小林、小野部	身体計測②：周育	四肢・体節の周径測定について予習し、授業で学んだそれらの検査・測定についてレポートにまとめること。		1 時間
6	小林、小野部	関節可動域検査①：総論と頸部の ROM-T	関節可動域検査の目的・方法・解釈、頸部 ROM 検査について予習し、授業で学んだ頸部 ROM 検査についてレポートにまとめること。		1 時間
7	小林、小野部	身体計測と頸部 ROM-T の総復習、習熟度確認	6 回目までの授業内容を復習・実技練習しておくこと、習熟度確認後には各自の振り返りをまとめること。		1 時間
8	小林、小野部	関節可動域検査②：肩関節の ROM-T	肩関節の ROM 検査について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間
9	小林、小野部	関節可動域検査③：肘関節、前腕、手関節、手指各関節の ROM-T	肘関節、前腕、手関節、手指各関節の ROM 検査について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間
10	小林、小野部	関節可動域検査④：股関節の ROM-T	股関節の ROM 検査について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間
11	小林、小野部	関節可動域検査⑤：膝関節、足関節・足部足趾各関節の ROM-T	膝関節、足関節、足趾の ROM 検査について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間
12	小林、小野部	関節可動域検査⑥：肩甲帯、胸腰部の ROM-T	肩甲帯、胸腰部の ROM 検査について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間
13	小林、小野部	関節可動域検査⑦：ROM 検査のまとめ	関節可動域検査全般について疑問点等をまとめた上で授業に臨むこと。実技試験に向けて練習すること。		1 時間
14	小林、小野部	関節可動域検査の総復習、習熟度確認	関節可動域検査全般について復習・実技練習しておくこと、習熟度確認後には各自の振り返りをまとめること。		1 時間
教 科 書	「リハビリテーション基礎評価学 第 2 版」潮見泰蔵、下田信明編集、羊土社				
参 考 書	「PT・OT のための測定評価 DVD Series 1：ROM 測定 第 2 版」福田修監修、伊藤俊一、星文彦編集、三輪書店 「PT・OT のための測定評価 DVD Series 2：形態測定・感覚検査・反射検査 第 2 版」伊藤俊一監修、隈元庸夫、久保田健太編集、三輪書店				
備 考	複数名の教員、TA、ピアサポーターが実技指導に参加する予定である。実技試験には専攻専門教員全員が関わる。				

科 目 名		基礎セミナー I		担 当 者	○沼田 純希・村上 賢一 鈴木 博人	
科目ナンバリング		10104125103			常勤	
D	P	3,4		教 員 研 究 室	沼田 研究室 (3218)、村上 研究室 (3115)、 鈴木博人 研究室 (3220)	
学 科 (専攻)		リハビリテーション学科 (理学療法専攻)		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 理学療法士の基礎となる体表解剖と機能解剖学について学習し、アカデミックスキルを滋養する。また、ピアエデュケーションおよび病院見学を通して医療人としての基本的態度を育成する。				【課題等のフィードバック方法】 授業中、授業後を通してフィードバックすると共に質問を受け付ける。		
【学習の到達目標】 1) 大学生としての自覚が形成され、自己学習の意識を醸成できる。 2) 筋・骨を中心に体表解剖・機能解剖学の知識を深めることができる。 3) 医療人としての基本的態度を身につけることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻、私語、必要時以外のスマートフォンの操作、および飲食など受講に支障を来す行為は禁止。 また病院実習および実技練習に際しては、理学療法士として相応しい整容で臨むこと（ピアス、ネックレス等の装飾品不可、爪の整容など）。		
【成績評価方法】 以下の項目について、レポート課題および実技試験により、下記の割合で総合評価する。 1) ピアエデュケーション：20% 2) 体表解剖と機能解剖学：60% 3) 病院見学：20% ただし、それぞれの項目について 60% 以上達成していることを必須要件とする。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 理学療法士になるための基本的な態度を獲得することで、今後の学習を円滑に進められるようになる。		
【実務家教員担当科目】 豊富な臨床経験を持つ教員が、理学療法に必要な体表解剖と機能解剖学の知識・技術を教授する。また、病院見学についても、教員および臨床教授が理学療法士の業務・役割について教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学習時間
1	沼田、1 年 SA	オリエンテーション	基礎セミナー I テキストを熟読し、授業進行について十分な理解を図ること。			1 時間
2	鈴木 (博)、沼田、1 年 SA	ピアエデュケーション (理学療法基本技術体験 -1)	体験した理学療法基本技術について、専門書等で調べ理解を深めること。			1 時間
3	鈴木 (博)、沼田、1 年 SA	ピアエデュケーション (理学療法基本技術体験 -2)	体験した理学療法基本技術について、専門書等で調べ理解を深めること。			1 時間
4	鈴木 (博)、沼田、1 年 SA	ピアエデュケーション (理学療法基本技術体験 -3)	体験した理学療法基本技術について、専門書等で調べ理解を深めること。			1 時間
5	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (1) 総論、運動方向の確認、脈管の触診、脊柱と胸郭	運動方向および脈管の触診、脊柱と胸郭の触診箇所について事前に本科目の教科書および解剖学の教科書で確認しておくこと。また授業後は復習に努めること。			1 時間
6	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (2) 上肢骨 -1	テキストで提示されている上肢骨の触診箇所について事前に本科目の教科書および解剖学の教科書で確認しておくこと。また授業後は復習に努めること。			1 時間
7	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (3) 上肢骨 -2	テキストで提示されている上肢骨の触診箇所について事前に本科目の教科書および解剖学の教科書で確認しておくこと。また授業後は復習に努めること。			1 時間
8	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (4) 下肢骨 -1	テキストで提示されている下肢骨の触診箇所について事前に本科目の教科書および解剖学の教科書で確認しておくこと。また授業後は復習に努めること。			1 時間
9	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (5) 下肢骨 -2	テキストで提示されている下肢骨の触診箇所について事前に本科目の教科書および解剖学の教科書で確認しておくこと。また授業後は復習に努めること。			1 時間
10	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (6) 頸部・体幹の筋	テキストで提示されている頸部・体幹の筋の触診箇所について、事前に本科目および解剖学の教科書で確認しておくこと。また、授業後は自主練習に努めること。			1 時間
11	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (7) 骨・筋のまとめ	第 5 講から第 10 講までの内容を復習して臨むこと。			1 時間
12	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (8) 振り返り	第 5 講から第 10 講までの内容を復習して臨むこと。			1 時間
13	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (9) 総復習	第 5 講から第 10 講までの内容を復習して臨むこと。			1 時間
14	村上、沼田、1 年 SA	病院見学	病院見学に相応しい服装、整容、態度など事前準備を怠らないこと。また終了後は指定された課題を提出すること。			1 時間
教 科 書		1) 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス上肢 改訂第 2 版」青木隆明 監修：メジカルビュー社 2) 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス下肢・体幹 改訂第 2 版」青木隆明 監修：メジカルビュー社 3) 基礎セミナー I テキスト 学内印刷				
参 考 書		特になし				
備 考		【問い合わせ先】ピアエデュケーション：鈴木 (博)、病院見学：村上・沼田、その他：沼田				

科 目 名		基礎セミナーⅡ		担 当 者	○沼田 純希・村上 賢一 鈴木 博人	
科目ナンバリング		10104125104			常勤	
D	P	3,4		教員研究室	沼田 研究室 (3218)、村上 研究室 (3115)、鈴木博人 研究室 (3220)	
学科 (専攻)		リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 基礎セミナーⅠに引き続き、理学療法士の基礎となる体表解剖と機能解剖学について学習し、アカデミックスキルを滋養する。また、ピアエデュケーションおよび病院見学を通して医療人としての基本的態度を育成する。 【学習の到達目標】 1) 筋・骨を中心に体表解剖・機能解剖学の知識を深めることができる。 2) 医療人としての基本的態度を身につけることができる。 【成績評価方法】 以下の項目について、レポート課題および実技試験により、下記の割合で総合評価する。 1) ピアエデュケーション：20% 2) 体表解剖と機能解剖学：60% 3) 病院見学：20% ただし、それぞれの項目について 60% 以上達成していることを必須要件とする。 【課題等のフィードバック方法】 授業中、授業後を通してフィードバックするとともに質問を受け付ける。 【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻、私語、必要時以外のスマートフォンの操作、および飲食など、講義に支障を来す行為は禁止とする。また、病院実習および実技練習に際しては、理学療法士として相応しい整容で臨むこと（服装・頭髪を整える、ピアス・ネックレス等の装飾品を外す、爪を切るなど）。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 理学療法士になるための基本的な態度・技術を獲得することで、今後の学修を円滑に進められるようになる。 【実務家教員担当科目】 豊富な臨床経験を持つ教員が、理学療法に必要な体表解剖と機能解剖学の知識・技術を教授する。また、病院見学についても、教員および臨床教授が理学療法士の業務・役割について教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学習時間	
1	沼田、1 年 SA	オリエンテーション	基礎セミナーⅡテキストを熟読し、授業進行について十分な理解を図ること。		1 時間	
2	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (10) セミナーⅠの総復習	セミナーⅠで学んだ運動方向、骨指標・頸部体幹筋の触診を復習する。		1 時間	
3	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (11) 上肢筋－1 (肩甲帯～肩関節)	テキストで提示されている肩甲帯～肩関節の筋の触診箇所について、事前に本科目および解剖学の教科書で確認しておくこと。また、授業後は自主練習に努めること。		1 時間	
4	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (12) 上肢筋－2 (肘～手関節)	テキストで提示されている肘～手関節の筋の触診箇所について、事前に本科目および解剖学の教科書で確認しておくこと。また、授業後は自主練習に努めること。		1 時間	
5	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (13) 上肢筋のまとめ	テキストで提示されている上肢筋の触診箇所について、事前に本科目および解剖学の教科書で確認しておくこと。また、授業後は自主練習に努めること。		1 時間	
6	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (14) 下肢筋－1 (骨盤帯～股関節)	テキストで提示されている骨盤帯～股関節の触診箇所について、事前に本科目および解剖学の教科書で確認しておくこと。また、授業後は自主練習に努めること。		1 時間	
7	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (15) 下肢筋－2 (膝～足関節)	テキストで提示されている膝～足関節の触診箇所について、事前に本科目および解剖学の教科書で確認しておくこと。また、授業後は自主練習に努めること。		1 時間	
8	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (16) 下肢筋のまとめ	テキストで提示されている下肢筋の触診箇所について、事前に本科目および解剖学の教科書で確認しておくこと。また、授業後は自主練習に努めること。		1 時間	
9	村上、沼田、1 年 SA	病院見学	病院見学にふさわしい服装、整容、態度など事前準備のうえで臨むこと。また、終了後は指定された課題を提出すること。		1 時間	
10	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (17) 振り返り	第 2 講から第 8 講までの内容を復習して臨むこと。		1 時間	
11	沼田、1 年 SA	体表解剖と機能解剖学 (18) 総復習	第 2 講から第 8 講までの内容を復習して臨むこと。		1 時間	
12	鈴木 (博)、沼田、1 年 SA	ピアエデュケーション (理学療法基本技術体験-4)	体験した理学療法基本技術について、専門書等で調べ理解を深めること。		1 時間	
13	鈴木 (博)、沼田、1 年 SA	ピアエデュケーション (理学療法基本技術体験-5)	体験した理学療法基本技術について、専門書等で調べ理解を深めること。		1 時間	
14	鈴木 (博)、沼田、1 年 SA	ピアエデュケーション (理学療法基本技術体験-6)	体験した理学療法基本技術について、専門書等で調べ理解を深めること。		1 時間	
教 科 書		1) 運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹 [Web 動画付] 改訂第 2 版、メジカルビュー社 2) 運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢 [Web 動画付] 改訂第 2 版、メジカルビュー社 3) 基礎セミナーⅡテキスト、学内印刷				
参 考 書		特になし				
備 考		【問い合わせ先】 病院見学：村上・沼田、ピアエデュケーション：鈴木 (博)、その他：沼田				

科 目 名		夏季集中セミナー		担 当 者	○鈴木 誠・鈴木 博人 1 年 SA
科目ナンバリング		10104125107			常勤
D	P	3,4		教員研究室	3105
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 夏季休業期間中に実施される宿泊型（2泊3日）のセミナーである。理学療法士となるために社会で求められる知識や技術に加え、医療人としての態度や振る舞い、コミュニケーション能力の基礎について集団生活を通じて培うことを狙いとしている。 【学習の到達目標】 ①集団生活を通じて他者と接する態度やコミュニケーション能力を育み、互いに協力しあうことが出来る。 ②能動的な学習態度を身につけ、自ら学習面での問題解決が出来る。 【成績評価方法】 セミナーに関連する全てのプログラム（100%：学内での事前オリエンテーション、事前学習、学外実習、事後レポート）への取り組みを考慮し、単位認定を行う。 【課題等のフィードバック方法】 適宜、振り返りのグループワークを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 学外での活動が中心となるため、セミナー中やそれに関連する移動の際の事故等に細心の注意を払うこと。また、学外での活動ということを肝に銘じ、医療を目指す大学生としての常識ある行動をとること。事前に履修人数からセミナー期間中の宿泊人数等を把握するため、履修を取りやめる際には速やかに担当教員へ連絡すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 新たな友人関係の構築ができる。また、夏季休業期間中に開講されるため、セミナー後すぐに開始される後期授業科目の理解が深まる。 【実務家教員担当科目】 臨床業務に従事した経験のある教員が、その経験を生かして教授する。					
授 業 計 画					
内容： 1. 事前オリエンテーション①（学内） 2. 事前オリエンテーション②（学内） 3. 事前学習（学内） 4～5. セミナー1日目：現地への移動、開講式、班分け、講義 6～9. セミナー2日目：グループワーク、講義 10～13. セミナー3日目：グループワーク、講義 14. セミナー4日目：グループワーク、閉講式					
教 科 書		学内印刷物を配布する			
参 考 書		なし			
備 考		担当者の他に、複数名の教員が指導にあたる。なお、当該科目に関する不明な点は、科目責任者（鈴木誠、鈴木博人）まで問い合わせること。			

2020～2024 年度入学者用カリキュラム (理学療法学専攻)

科 目 名	ボランティア探求			担 当 者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	101011207				常勤
D P	1,4			教員研究室	1124
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・通年
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	90 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 一年次に地域活動・ボランティアの科目を受講した学生を対象に、系統別ボランティア実践者からのレクチャー及びボランティアの実践実習を行い、それまでの講義・実習を受けて、ワークショップ及び実践実習で得たスキルを報告する 【学習の到達目標】 各種ボランティア活動の実践を通じて、各種ボランティア指導者及び NPO・NGO 実践者・指導者等を目指すことを目的とする 【成績評価方法】 実践実習活動報告（レポート）及び最終報告会のプレゼンにより評価し、認定される単位は認（2 単位）とする 【課題等のフィードバック方法】 実際にボランティア活動を行うことで、社会的課題・検証についても学ぶことができる 【履修上の注意・予習・復習について】 事前に行われるレクチャーを参考に実践実習で求められる活動内容を把握しておくこと また、損害保険の適用を前提とするため、事前に担当教員（単位認定者）へ届出すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会の仕組みを色々な角度から学ぶことで、社会的な視野が拡大すると共に社会的な信用が得られる 一年次の地域活動ボランティアの科目で培われたコミュニケーション能力の向上及び地域活動への理解が深くなる 【実務家教員担当科目】 系統別ボランティア実践者からのレクチャー及び各施設等でのボランティアの実践実習を行う					
授 業 計 画					
1. ボランティア活動講座 講義Ⅰ 基礎講座（一年次の講座の確認） 講師：本学専任教員 講義Ⅱ～Ⅵ 系統別実践者からのレクチャー（講義・演習等） 講師：外部講師 環境系・福祉系（高齢・障害者・母子・児童福祉） ・生涯学習系・地域振興系 2. ボランティア活動実践実習 講義Ⅱ～Ⅵから 1・2 箇所選択し、都合 10 時間程度の実習を行い、実習活動報告書（レポート）を提出 3. ボランティア活動総括 ・それまでの講義・実践実習活動に関するワークショップ（連講 2 コマ） ・実践活動の報告会（1 コマ）					
教 科 書	使用しない、必要に応じて資料を配布				
参 考 書	講義時に必要に応じて紹介				
備 考	実践実習を伴うため、事業日以外の日程で実施する場合もあり、特に土日、夏季・冬季の休業期間を充てることも多く、また夜間の活動も含めて考慮すること				

科 目 名	統計解析			担 当 者	平山 和哉
科目ナンバリング	1010212015				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3219
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】 ・初歩的な統計解析を行うための統計学 ・研究デザイン、バイアス、検査精度（感度特異度）といった疫学				【課題等のフィードバック方法】 各回で演習を行い、授業中にフィードバックする。	
【学習の到達目標】 卒業研究の実施に向けて初歩的な統計解析を行うことができる。医療人として学術論文等のデータを解釈することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 統計ソフトを使用した演習を行うため各自ノート PC を用意すること。 演習には主体的、積極的に取り組むこと。	
【成績評価方法】 定期試験 80%、課題への取り組み状況 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 データの正しい解釈方法、研究を実施するための基礎を身に付ける。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	平山 和哉	なぜ統計解析が必要か 統計学の基礎、データの尺度、代表値とは	母集団と標本、データの尺度、平均値・中央値、標準偏差等について復習	4 時間
2	平山 和哉	統計的検定とは 帰無仮説と対立仮説 信頼区間とは	有意確率、帰無仮説・対立仮説、信頼区間について復習	4 時間
3	平山 和哉	差の検定	t 検定、分散分析について復習	4 時間
4	平山 和哉	相関	相関について復習	4 時間
5	平山 和哉	回帰分析	回帰分析について復習	4 時間
6	平山 和哉	分割表の検定	分割表の検定について復習	4 時間
7	平山 和哉	多変量解析	ロジスティック回帰分析、重回帰分析について復習	4 時間
8	平山 和哉	信頼性係数、検査精度の指標	信頼性係数、感度・特異度等について復習	4 時間
9	平山 和哉	研究デザイン クリニカルクエスション、PECO	研究デザインの種類、PECO について復習	4 時間
10	平山 和哉	バイアス	バイアスについて復習	4 時間
11	平山 和哉	論文の批判的吟味（グループワーク）	これまでの内容の復習	4 時間
12	平山 和哉	論文の批判的吟味（発表）	これまでの内容の復習	4 時間
13	平山 和哉	研究計画の実践（グループワーク）	これまでの内容の復習	4 時間
14	平山 和哉	研究計画の実践（発表）	これまでの内容の復習	4 時間
教 科 書		対馬栄輝：15 レクチャーシリーズ リハビリテーション統計学 第2版、中山書店		
参 考 書		対馬栄輝：医療系研究論文の読み方・まとめ方ー論文の PECO から正しい統計的判断まで、東京図書、		
備 考		事前に PC に Google chrome をインストールしておくことを薦める		

科 目 名		英語Ⅱ		担 当 者	馬内 里美
科目ナンバリング		1010212021			常勤
D	P	1,4		教員研究室	1229
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・通年
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 コミュニケーション能力をさらに伸ばすことを目指し、以下のことを行う。 ・Listening/Speaking：聞き取り、会話活動を中心に、様々な状況で使われる英語表現力を高める。プレゼンテーション課題もある。 ・Reading/Writing：英文読解力を高めながら、実用に即した語彙力、文法力、英作文能力の強化を図る。					【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、質問を受け付け回答する。
【学習の到達目標】 ・リーディング、ライティング、グループディスカッションを通して、理論立てて説明する方法を学ぶとともに、批判的思考方法を身につける。 ・語彙力を強化する。 ・異文化における価値観や行動様式の多様性を学ぶ。					【履修上の注意・予習・復習について】 ・出席を重視する。 ・教科書・辞書を持参すること。電子通信機器の使用を禁ずる。
【成績評価方法】 授業内での課題 40%、授業外での課題 20%、テスト 40%、					【受講して得られる効果・メリット、その他】 実践的な英語授業を通して、日常生活からビジネスの場まで対応できる英語基礎運用能力を高められる。
【実務家教員担当科目】 該当者なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間	
				予習・復習	学修時間
1	馬内 里美	オリエンテーション		テキストの目次を読み、教科書全体の内容を把握しておく。授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
2	馬内 里美	大意把握から重要語句の確認（1）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
3	馬内 里美	大意把握から重要語句の確認（2）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
4	馬内 里美	大意把握から重要語句の確認（3）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
5	馬内 里美	クリティカルリーディングとイディオムの習得（1）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
6	馬内 里美	クリティカルリーディングとイディオムの習得（2）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
7	馬内 里美	クリティカルリーディングとイディオムの習得（3）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
8	馬内 里美	情報収集、下書き、訂正、編集のライティングプロセスに慣れる（1）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
9	馬内 里美	情報収集、下書き、訂正、編集のライティングプロセスに慣れる（2）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
10	馬内 里美	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習（1）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
11	馬内 里美	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習（2）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
12	馬内 里美	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習（3）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
13	馬内 里美	ビジネス英語の構文と表現		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
14	馬内 里美	まとめ		授業で分からなかった部分について教員への質問を考えておく。理解できなかった箇所は重点的に勉強し直す。	1 時間
15	馬内 里美	オリエンテーション 前期の復習		予習：前期の学習内容の復習をする。 復習：重要ポイントを勉強し直す。	1 時間
16	馬内 里美	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる（1）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
17	馬内 里美	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる（2）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
18	馬内 里美	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる（3）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
19	馬内 里美	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める（1）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
20	馬内 里美	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める（2）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
21	馬内 里美	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める（3）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
22	馬内 里美	言い換え（パラフレーズ）のコツ（1）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
23	馬内 里美	言い換え（パラフレーズ）のコツ（2）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
24	馬内 里美	受動的ではなく、能動的に聴く方法（1）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
25	馬内 里美	受動的ではなく、能動的に聴く方法（2）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
26	馬内 里美	受動的ではなく、能動的に聴く方法（3）		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
27	馬内 里美	フォーマル、インフォーマルな表現と用法		予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスベルを覚える。	1 時間
28	馬内 里美	まとめ		授業で分からなかった部分について教員への質問を考えておく。理解できなかった箇所は重点的に勉強し直す。	1 時間
教 科 書		Campus English（センゲージラーニング）			
参 考 書		適宜指示する。			
備 考		9 万語以上の単語を収録した「ジーニアス英和辞典」（大修館）か、それと同等レベルの辞書・電子辞書を用意すること。			

科 目 名	憲法と法律			担 当 者	淡路 智典
科目ナンバリング	1010212027				常勤
D P	1,4			教員研究室	1224
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 憲法とは国の根幹を定める法律である。この授業では憲法の基本的な内容を扱う憲法総論、国家によっても侵害されることのない個人の権利を扱う人権論、国家の基本的な仕組みをさだめる統治機構論をそれぞれ見ていく。できるだけ学生に身近な話題を絡めつつ、憲法の基本的な考え方や条文解釈を説明していく。				【課題等のフィードバック方法】 授業の疑問点を Google classroom に書いてもらい、次の回の授業の冒頭で回答する。	
【学習の到達目標】 憲法という国家の根本法について基礎的な概念を理解し、基本的人権や統治機構のあり方に関して、自己の見解を持てるようにする。				【履修上の注意・予習・復習について】 スライドを授業前に確認し、わからない法律用語の予習。他の受講生の迷惑になることはしないこと。	
【成績評価方法】 期末試験の点数に平常点を加味して決定する。 内訳：期末試験 80%、小テスト 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 憲法に対する理解を深めることによって、憲法改正をはじめとする具体的な憲法問題に関して、主体的に考えられるようになる。個人の侵害されてはならない基本的人権を理解することにより、社会問題に関して一層深く理解することができるようになる。また一票を持つ主権者として必要な知識と自覚を得ることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	淡路 智典	ガイダンス・憲法とは	シラバスの内容確認・教科書（判例集）の読み方を理解する		4 時間
2	淡路 智典	憲法概説	スライドを授業前に確認し、憲法の全体像を掴む		4 時間
3	淡路 智典	幸福追求権と法の下での平等	判例を参考にして、包括的基本権や平等権について理解する		4 時間
4	淡路 智典	精神的自由権（内心の自由）	判例を参考にして、思想・良心の自由や信教の自由について理解する		4 時間
5	淡路 智典	精神的自由権（表現の自由）	判例を参考にして、表現の自由の重要性や限界について理解する		4 時間
6	淡路 智典	経済的自由権	判例を参考にして、職業選択の自由や財産権について理解する		4 時間
7	淡路 智典	人身の自由	判例を参考にして、刑事事件で保障される権利等について理解する		4 時間
8	淡路 智典	国務請求権と参政権	判例を参考にして、裁判を受ける権利や参政権について理解する		4 時間
9	淡路 智典	社会権	判例を参考にして、生存権や教育を受ける権利、労働基本権について理解する		4 時間
10	淡路 智典	権力分立の原理と国会	政治思想や歴史的経緯を参考にして、三権分立の概念を理解する		4 時間
11	淡路 智典	内閣	法制度を参考にして、公務員制度を理解する		4 時間
12	淡路 智典	裁判所	法制度を参考にして、裁判や裁判制度について理解する		4 時間
13	淡路 智典	天皇制、平和主義	憲法の条文を参考に、象徴天皇制や平和主義について理解する		4 時間
14	淡路 智典	憲法の保障	憲法の理念を参考に、硬性憲法について理解する		4 時間
教 科 書		岡田順太 / 淡路智典 / 今井健太郎 編『判例キーポイント憲法』（成文堂、2020 年、ISBN：978-4-7923-0666-3）			
参 考 書		芦部信喜『憲法（第 8 版）』（岩波書店、2023 年、ISBN：9784000616072）			
備 考		特になし。			

科 目 名	文化人類学			担 当 者	瀬川 昌久
科目ナンバリング	1010212028				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人類の文化・社会の多様性と普遍性に関する総合的研究分野である文化人類学について概説を行い、異文化理解のための基礎的な枠組みを提供することを目指す。				【課題等のフィードバック方法】 特に必要ない。	
【学習の到達目標】 人類の文化・社会の普遍性と多様性を理解するため、文化人類学の基礎概念と方法論的特色について一定程度理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 特に必要ない。	
【成績評価方法】 試験による。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ノートを丹念にとること。場合によってノートの提出を求めることもある。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	
</					

科 目 名	日本・東北文化論			担 当 者	栗原伸一郎
科目ナンバリング	1010212029				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現在、私たちが生活している東北や仙台は、どのように形成されたのだろうか。東北や仙台は日本のなかでいかなる立場を占め、歴史的・文化的にどのような足跡を残してきたのだろうか。また、それらを明らかにするためには、どのような活動が必要になるのだろうか。本講義では、以上の問題に迫ることを通じて、地域の歴史・文化について考えてみたい。				【課題等のフィードバック方法】 コメントで示された重要な意見や質問などについては、次回以降の講義で解説する。 講義終了後、質問を受け付け回答する。	
【学習の到達目標】 ①東北や仙台の歴史・文化について関心を持ち、理解することができる。 ②地域の歴史・文化を継承する活動について関心を持ち、理解することができる。 ③上記を自分に関わる事柄として受け止め、意味を考えることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義を妨げる行為（講義中の教室への出入り・私語・携帯電話・飲食など）は禁止。	
【成績評価方法】 ①毎回提出するコメント 30%（記入内容から理解度と受講態度を評価する。出席点ではない。） ②定期試験 70%（試験内容は事前に通知する）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 漠然と認識している事柄について改めて考えてみることや、当たり前と思っている事柄について別の角度から捉え直していただくことで、自己や他者が立脚する地域の有り様を再発見する力を養うことができる。	
【実務家教員担当科目】 資料保存機関へ勤務した経験がある者が地域の歴史・文化について講義する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	栗原伸一郎	講義の概要	東北地方や仙台の歴史で興味がある分野や人物について、自分で調べてみる。		4 時間
2	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化①戦国時代と伊達政宗	東北地方の戦国時代や政宗の行動を調べ、配布プリントを再読する。		4 時間
3	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化②城下町・仙台	仙台城址を見学するとともに、配布プリントを再読する。		4 時間
4	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化③杜の都・仙台	『仙台市史』の該当部分に目を通し、配布プリントを再読する。		4 時間
5	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化④伊達政宗と現代	書籍やインターネット等で政宗について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間
6	栗原伸一郎	仙台藩士の異文化体験①蝦夷地	江戸時代までの東北や北海道の歴史を調べ、配布プリントを再読する。		4 時間
7	栗原伸一郎	仙台藩士の異文化体験②アメリカ	『仙台市史』で玉虫左太夫について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間
8	栗原伸一郎	幕末維新と東北地方①江戸時代の東北	自分の出身地の藩について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間
9	栗原伸一郎	幕末維新と東北地方②幕末維新の動乱	『仙台市史』等で戊辰戦争の大まかな流れを確認し、配布プリントを再読する。		4 時間
10	栗原伸一郎	幕末維新と東北地方③奥羽越列藩同盟	『仙台市史』等で奥羽越列藩同盟について理解を深め、配布プリントを再読する。		4 時間
11	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承①歴史資料にみる仙台	『仙台市史』（資料編）に目を通し、配布プリントを再読する。		4 時間
12	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承②歴史資料の現在	自分の出身地にある歴史資料・文化財について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間
13	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承③NPO と資料保存	現在住んでいる地域にある歴史資料・文化財について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間
14	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承④災害と資料保存	日本各地の災害と歴史資料・文化財の関係について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間
教 科 書		なし。プリントを配布する。			
参 考 書		『仙台市史』（通史編）。その他、授業のなかで紹介する。			
備 考		高校の歴史の授業と内容が異なるので「日本史」を学んでいなくとも履修可能。 授業の進展等によって内容が一部変更になる場合がある。			

科 目 名	日本近代史			担 当 者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	1010212030				常勤
D P	1,4			教員研究室	1124
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 日本が 1854 年の開国以来、明治維新を経て欧米列国と肩を並べていくまでの日本近代史について世相史（医学史・公衆衛生史等含）を交えて解説していく				【課題等のフィードバック方法】 講義に関する史資料の把握及びニュース・報道等を参考にすることで実社会への対応力の醸成を希望	
【学習の到達目標】 その時代時代の事件・事象が社会に及ぼした影響について学ぶことで、将来起こり得ると考えられる事象への洞察力を養う				【履修上の注意・予習・復習について】 講義は授業毎のレジュメと P. P. 資料により行う なお、エクスカッションを実施（必須）するが、時間割とは別に土曜日等の授業日以外となるので、予め承知すること	
【成績評価方法】 受講記録やレポートの提出（2 回程度）を求め、その内容で評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 実社会に出た後に時代の変化に惑わされない感覚を養うが出来る	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

科 目 名		健康科学		担 当 者	○未定・古林 俊晃	
科目ナンバリング		1010212031			常勤	
D P		1,4		教員研究室	1203	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 身体運動を伴う生活場面や肉体労働はますます減少し、生活の利便化、快適化と引き替えに、人間は体力の減退、肥満等の生活習慣病に悩まされることになった。本講義では、今後必要となる自己の健康管理方法に必要な基本的な内容を運動（スポーツ）、疾病、栄養等の側面からわかりやすく講述する。 【学習の到達目標】 ・健康の維持・増進のために必要な知識を身につけ、生活習慣病などの予防法について理解を深め、実践できるようになる。 ・スポーツが身体に与える影響を身・心・社会の側面から理解する 【成績評価方法】 成績は、定期試験（80%）、レポート（20%）により評価する。試験規定により 2/3 以上の出席がなければ定期試験を受けられないので留意すること。 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・振り返りを提出すること ・遅刻は本人の責めに帰さない理由以外は認めない。 ・具合が悪いなど、やむを得ず教室を退出する場合は教員の確認を取ること ・授業態度の悪い学生は退室させる。この場合欠席扱いとする。スマートフォンの使用、食事は禁止とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・スポーツへの関心を高められる ・生涯にわたる自身の健康管理の知識と方法を身につけ、実践できるようになる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	古林 俊晃	ガイダンス：人間らしさとは	健康に関する内容を確認しておくこ		4 時間	
2	古林 俊晃	人体の構造と機能：動物的機能（骨格筋と神経系）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
3	古林 俊晃	人体の構造と機能：動物的機能（感覚器系と高次脳機能）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
4	古林 俊晃	人体の構造と機能：植物的機能（栄養とエネルギー）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
5	古林 俊晃	人体の構造と機能：植物的機能（恒常性）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
6	古林 俊晃	健康：健康と死の考え方	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
7	古林 俊晃	前半の総括 中間試験①	ここまでの内容の振り返りをする。		4 時間	
8	古林 俊晃	加齢：発育発達と老化	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
9	古林 俊晃	トレーニング理論：体力について	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
10	古林 俊晃	トレーニング理論：トレーニングと障害	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
11	古林 俊晃	スポーツ心理学：運動学習	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
12	古林 俊晃	スポーツとメンタル：スポーツの精神的影響	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
13	古林 俊晃	スポーツ倫理学：健全なスポーツとは	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
14	古林 俊晃	後半の総括 中間試験②	ここまでの内容の振り返りをする		4 時間	
教 科 書		毎回資料を配布する				
参 考 書		健康・スポーツ科学の基礎知識（第3版）、道と書院 イラスト「アダプテッド・スポーツ概論」東京教学社				
備 考		授業の進捗により講義内容の調整を行う場合がある				

科 目 名		教育学 I		担 当 者	三塚 明彦	
科目ナンバリング		1010212032			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 社会の急激な変化に伴い、学校教育をはじめ学ぶ人をいかに導いていくか教育の方法が大きく変わろうとしている。現代教育の課題を把握し、教育学の視点からこれからの学びの方法について考えとともに現代抱えている社会問題をどう解決するか考察する。 【学習の到達目標】 現代の教育が抱える問題の実態を把握し、解決方法を自分の言葉で述べることができる。 【成績評価方法】 毎回授業中に作成する課題（600 字程度）の内容で評価する。						【課題等のフィードバック方法】 次回の授業で前回提出された課題について講評する。 【履修上の注意・予習・復習について】 毎回、授業のテーマについて講義後に課題を作成し提出してもらう。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代の教育課題について、その実態を把握することができ、その解決方法について自分の考えをまとめることができる。また、現代の社会問題についても確認することができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	三塚 明彦	オリエンテーション	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
2	三塚 明彦	教員不足について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
3	三塚 明彦	少子高齢化と教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
4	三塚 明彦	教育格差について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
5	三塚 明彦	特別支援教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
6	三塚 明彦	いじめ問題について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
7	三塚 明彦	不登校、ひきこもりについて	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
8	三塚 明彦	偏差値重視教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
9	三塚 明彦	ICT 教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
10	三塚 明彦	日本型雇用について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
11	三塚 明彦	主権者教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
12	三塚 明彦	社会教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
13	三塚 明彦	平和教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
14	三塚 明彦	これからの教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
教 科 書		PowerPoint で資料提示し、適宜必要に応じて資料を配布する。				
参 考 書		授業中に紹介する。				
備 考		なし				

科 目 名		教育学Ⅱ		担 当 者	一柳 貴博	
科目ナンバリング		1010222033			非常勤	
D	P	1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 不登校やいじめ、精神的不調、障がい等の教育課題をとりあげ、心理学の知見を踏まえた支援方法について学ぶ。また、障がいの有無にかかわらず誰もが生きやすい学校や社会の実現に向けた支援についても考える。 【学習の到達目標】 ①心理学的支援について理解し、説明することができる。②様々な教育課題とその支援について理解し、説明することができる。③誰もが生きやすい学校や社会に向けた支援について考え、自らの意見をまとめることができる。 【成績評価方法】 毎回の授業中の振り返りコメント（100%）により評価する。評価の基準等については授業内で紹介する。						
【課題等のフィードバック方法】 毎回の振り返りコメントの際に授業の感想や質問を受け付け、次の授業の時にそのフィードバック（質問の回答等）を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業の中で、授業内容に関するディスカッションやグループワークを行う。積極的に授業に参加すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 心理学的支援の方法や多様な子どもたちの姿を知ることができるとともに、学校や社会の在り方について多面的に考える視点を得ることができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	一柳 貴博	イントロダクション：子どもたちを取り巻く様々な教育課題	予習：子どもたちを取り巻く様々な教育課題を調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、子どもたちを取り巻く教育課題をまとめる。		4 時間	
2	一柳 貴博	心理学的支援 1：子どもとの関係形成	予習：他者と信頼関係を築くにはどうすると良いかを考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、子どもを含む他者との信頼関係を築く方法をまとめる。		4 時間	
3	一柳 貴博	心理学的支援 2：アセスメント	予習：心理学的支援におけるアセスメントの方法を調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、心理学的支援においてどんなアセスメントの方法があるかをまとめる。		4 時間	
4	一柳 貴博	心理学的支援 3：様々な心理的アプローチ	予習：様々な心理的アプローチについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、様々な心理的アプローチの方法をまとめる。		4 時間	
5	一柳 貴博	教育課題と支援 1：不登校、いじめ	予習：不登校やいじめに関する課題と支援について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、不登校やいじめに関する課題と支援についてまとめる。		4 時間	
6	一柳 貴博	教育課題と支援 2：児童虐待、子どもの貧困	予習：児童虐待や子どもの貧困に関する課題と支援について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、児童虐待や子どもの貧困に関する課題と支援についてまとめる。		4 時間	
7	一柳 貴博	教育課題と支援 3：精神的不調を抱える子どもへの支援	予習：精神的な不調について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、精神的不調の内容とその支援方法をまとめる。		4 時間	
8	一柳 貴博	教育課題と支援 4：発達障がいのある子どもへの支援	予習：発達障がいについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、発達障がいの内容とその支援方法をまとめる。		4 時間	
9	一柳 貴博	教育課題と支援 5：様々な障がいのある子どもへの支援	予習：自分が関心のある障がいについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、様々な障がいの内容とその支援方法をまとめる。		4 時間	
10	一柳 貴博	教育課題と支援 6：多様なニーズのある子どもへの支援	予習：多様なニーズのある子どもについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、多様なニーズのある子どもの支援方法をまとめる。		4 時間	
11	一柳 貴博	誰もが生きやすい学校や社会に向けて 1：インクルーシブ教育と共生社会	予習：インクルーシブ教育と共生社会について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、インクルーシブ教育と共生社会の内容と課題をまとめる。		4 時間	
12	一柳 貴博	誰もが生きやすい学校や社会に向けて 2：障がいとは	予習：障がいとは何かを考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、障がいとは何かについて自分の考えを深める。		4 時間	
13	一柳 貴博	誰もが生きやすい学校や社会に向けて 3：子どもたちの関係形成	予習：多様な子どもたちが良好な関係を築くためにはどうしたら良いかを考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、多様な子どもたちの関係形成に向けた支援について自分の考えを深める。		4 時間	
14	一柳 貴博	まとめ：多様な子どもたちへの支援	予習：これまでの授業を振り返り、心理学的支援や様々な教育課題についてまとめる。 復習：これまでの授業を振り返り、誰もが生きやすい学校や社会に向けた支援についての自分の考えをまとめる。		4 時間	
教 科 書		教科書は指定しない。適宜プリントを配布する。				
参 考 書		授業の中で指示する。				
備 考		特になし。				

科 目 名		地球の科学		担 当 者	千葉 一	
科目ナンバリング		1010222034			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 人類は経済活動を優先するあまり、環境や気候変動の問題を放置して来た。しかしその人類の生態は、大きな転換を迫られている。本講義では、人間の活動が地球環境にどのような影響を与えているのかについて、特に地球温暖化を中心に解説して行く。また、そうした諸問題解決のための思考を深めて行く。 【学習の到達目標】 環境破壊や環境問題を正しく理解することで、人間の過剰性の認知と環境へのグローバルな倫理観を養う。 【成績評価方法】 定期試験による評価と提出物（講義中）で総合評価とする。 評価比率：定期試験 70％・提出物 30％。 【課題等のフィードバック方法】 提出物やレポートの総括講評を、次の授業で行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業進行に支障をきたす場合は退出してもらう。授業計画のトピックを参考に資料など情報収集しつつ、授業に臨む。復習を怠らない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 人類の生命活動のみが大切なのではなく、この地球の営みの中で共に生きる生命活動があって、この地球が存在している。気象や地殻の諸現象や多種多様な生命の絡み合いを理解し、それぞれの存在価値を正しく認識することは、未来の健全な「地球コミュニティ」の在り方にとって必須と考える。 【実務家教員担当科目】 3.11 震災復興に関連した環境破壊やコミュニティ開発を研究しつつ、自然再生活動や社会開発を実践している教員が、地球規模の環境問題について、自然科学と人文科学の枠を超えて講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	千葉 一	授業の進め方を説明する。 人間という種の特異性と環境問題	自己の生活と環境問題の関連を再考する。次回学習内容を予習。		4 時間	
2	千葉 一	カーボン・サイクルと石灰岩	炭酸カルシウム形成過程を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間	
3	千葉 一	化石燃料：炭素の固定と解放	その固定と解放の時間差を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間	
4	千葉 一	海洋酸性化と生態系サービス	酸性化メカニズムを理解する。次回学習内容を予習。		4 時間	
5	千葉 一	森のネットワークと生物多様性	森林の社会性を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間	
6	千葉 一	砂漠化と多種共生	多自然主義を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間	
7	千葉 一	復習と要点・疑問点の整理	6 回の講義内容を理解・整理し、小論文的にまとめる。		4 時間	
教 科 書		特になし。資料を適宜配布する。				
参 考 書		清水美香（編著）2023『レジリエンスーよみがえる力ー森・風景・地域・人の交差の中で』、日本評論社。 原慶太郎ほか（編著）2021『自然と歴史を活かした震災復興ー持続可能性とレジリエンスを高める景観再生』、東京大学出版会。				
備 考		国家試験等の関連で欠席する場合は、予め申し出ること。				

科 目 名	哲学			担 当 者	高山 馨
科目ナンバリング	1010222035				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 哲学および倫理学がどのような営みなのかを知ことは、時として自らのふるまいを変えることにもつながります。本講義では、主に生命と医療・技術にかかわる哲学的、倫理的、社会的な問題を学ぶことで、医療者としての社会的自己について考えていきます。				【課題等のフィードバック方法】 毎回アンケートを取り、講義内で質問に答える。	
【学習の到達目標】 (1) 哲学および倫理学の基礎知識、それらが用いる方法についての基礎知識を身につける。(2) 哲学および倫理的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 適宜復習し、講義内で紹介された参考文献にあたることが望ましい。	
【成績評価方法】 アンケートへの回答、課題提出：60%、期末試験：40%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 生命や医療・技術にかかわるさまざまな問題を理解することは、医療の世界へと進む人の自己形成にとって有益と思います。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	高山 馨	イントロダクション：哲学および倫理学とは何か	〈予習〉シラバスと配布資料を一読する。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。		4 時間
2	高山 馨	価値と幸福について（1）	〈予習〉配布資料を一読し、価値や道徳は人それぞれなのかを考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。		4 時間
3	高山 馨	価値と幸福について（2）	〈予習〉配布資料を一読し、幸福とは何かを考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。		4 時間
4	高山 馨	生の始まりと終わりについて（1）	〈予習〉配布資料を一読し、人生に意味はあるのか、あるとしたらそれは何かを考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。		4 時間
5	高山 馨	生の始まりと終わりについて（2）	〈予習〉配布資料を一読し、死ぬことはその人にとって悪いことなのかを考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。		4 時間
6	高山 馨	医療・技術と責任について（1）	〈予習〉配布資料を一読し、医薬品のための動物実験について考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。		4 時間
7	高山 馨	医療・技術と責任について（2）	〈予習〉配布資料を一読し、医療者としての倫理と社会的責任について考えておく。 〈復習〉これまでの講義内容を整理して理解する。		4 時間
教 科 書		プリントを配布するので、教科書は不要です。			
参 考 書		講義内で適宜紹介します。			
備 考		特になし。			

科 目 名	生活と経済			担 当 者	開講時指示
科目ナンバリング	1010222036				
D P	1,4			教員研究室	
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 【課題等のフィードバック方法】 【学習の到達目標】 【履修上の注意・予習・復習について】 【成績評価方法】 【受講して得られる効果・メリット、その他】 【実務家教員担当科目】 ※開講時に指示します。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1				4 時間	
2				4 時間	
3				4 時間	
4				4 時間	
5				4 時間	
6				4 時間	
7				4 時間	
8				4 時間	
9				4 時間	
10				4 時間	
11				4 時間	
12				4 時間	
13				4 時間	
14				4 時間	
教 科 書					
参 考 書					
備 考					

科 目 名	ジェンダー論			担 当 者	妙木 忍
科目ナンバリング	1010222037				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この授業では、ジェンダーの視点から社会を考察する。ジェンダー研究の蓄積を紹介するとともに、家族、労働、法など身近な論点を取り上げながら社会の考察を深める（主に日本社会を対象とする）。この授業を通して、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにすればよいのかを、ともに考えていく。				【課題等のフィードバック方法】 毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出していただき、質問やコメントを受け取る。その内容を、次の回の冒頭で紹介し、フィードバックをおこなう。	
【学習の到達目標】 (1) ジェンダーの概念を理解する。(2) ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業中に伝える。	
【成績評価方法】 レスポンス・カードの提出（30％）、課題（30％）、論述試験（40％）により評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 自分の問題関心にそって問いを立て、それを解くことができる力を身につけることも目指すため、社会を読み解く力と自分の問いを解く楽しさが得られる。また、社会を相対化する視点や、私たちがいま生きている時代や社会を分析する力が得られる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	妙木 忍	ジェンダーとは何か	レジュメを復習する。ジェンダーの概念が理解できたかどうかを点検する。	4 時間
2	妙木 忍	家族とジェンダー	レジュメを復習する。近代家族の概念などについて理解できたかどうかを点検する。	4 時間
3	妙木 忍	労働とジェンダー	レジュメを復習する。配布プリントの中から、労働環境に関するデータを一つ選んで詳しく検討する。	4 時間
4	妙木 忍	法とジェンダー	レジュメを復習する。関心のある法律と一つ選んで考察する。	4 時間
5	妙木 忍	ユニバーサルデザインとジェンダー	レジュメを復習する。身近な事例を一つ取り上げて考察する。第 6 回で取り上げる東大祝辞（2019 年）を読んでくる（予習）。	4 時間
6	妙木 忍	東大祝辞（2019 年、上野千鶴子さん）を読む	ポイントを復習する。授業中に検討した内容をまとめること。	4 時間
7	妙木 忍	まとめ	これまでの学びをまとめる。	4 時間
教 科 書		指定しない。レジュメを配布する。		
参 考 書		授業中に適宜紹介する。		
備 考		特になし。		

科 目 名		政治学			担 当 者	王 元	
科目ナンバリング		1010222038				常勤	
D P		1,4			教 員 研 究 室	1324	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 人間は社会的動物である。政治は人間の社会的利害を調整するしくみである。人々が生活する社会における秩序を形成し、維持し、修正し、また時には破壊することを通じて実行される活動と手段である。 政治学は古代ギリシアに誕生して以来、長い歴史を刻んできた。しかし、政治行動の判断基準や結論には必ずしも法則性があるとはいえない。むしろ、政治を担う人の個性やイデオロギー、感情、さらには偶然性に左右される側面もある。総合的に知識や手法も駆使して最善の政策決定を促すところに、政治学の目的や妙味がある。 政治学の基礎知識と発想方法を解説する。政治学の面白さと大切さを伝え、政治現象一般を把握する視点を身に付けてもらうことがこの講義のねらいである。講義形式を基本とする。ただし適宜ビデオ教材を利用する。						【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、質問を受け付け、回答します。	
【履修上の注意・予習・復習について】 私語及び携帯電話の使用禁止。 受け身にならず、自ら探究心を持つことが重要だ。 政治問題への関心を抱き、まず新聞を読む習慣を身に付けてほしい。						【受講して得られる効果・メリット、その他】 政治現象を分析するための概念と手法を身につけ、各種の資格試験に必要な政治分野の基礎知識を学ぶことができる。	
【実務家教員担当科目】 該当なし							

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	王 元	政治学概念と体系	政治とは何か 政治学とは何	4 時間
2	王 元	国家統治と主権	主権概念の史的経緯 市民社会・国民国家の成立と政治的統合	4 時間
3	王 元	権力、集権と分権	政治集権と中央・地方の権力関係 地方自治の意義・過疎と過密	4 時間
4	王 元	政治参加	選挙の諸原則 代表制と選挙制度	4 時間
5	王 元	官僚制	政治と行政 官僚制の概念と官僚制化	4 時間
6	王 元	代表的な政治体制	議院内閣制、大統領制と党国体制 米国、英国、日本と中国などそれぞれの特徴	4 時間
7	王 元	国際政治	国際政治と国内政治 グローバリゼーション	4 時間
教 科 書		教科書は用いず、適宜プリントを配布する。		
参 考 書		堀江湛・岡沢憲夫編『現代政治学』（法学書院、2011）。		
備 考		日々の新聞を読み、国内と国際政治情勢の把握に努められたい。		

科 目 名		運動制御論		担 当 者	○鈴木 誠・村上 賢一 鈴木 博人
科目ナンバリング		1010322044			常勤
D	P	1,2		教員研究室	3105
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 解剖学および身体運動学演習で学んだ身体の形態、構造と機能を踏まえ、具体的な身体運動のメカニズムについて学習する。身体形態と身体重心、筋の収縮と関節運動・重力、関節運動と筋張力、姿勢制御と身体重心、歩行、基本動作の分析、上肢の巧緻動作分析、などについて、身体運動学実習と関連させながら講義を進める。				【課題等のフィードバック方法】 授業内にて説明する。	
【学習の到達目標】 運動・動作の制御を運動学・運動力学によって説明できるようになること				【履修上の注意・予習・復習について】 各授業において、「講義の要点」を伝えますので復習に活用すること	
【成績評価方法】 定期試験（100%）によって判定する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 理学療法の基礎となる、身体運動のメカニズムについて理解できる。今後、専門的職業人として医療に従事するためには、必須の学習内容である。	
【実務家教員担当科目】 病院等で理学療法士として業務にあたった経験を活かし、臨床に活用できる					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	鈴木 博人 鈴木 誠	運動と動作（重心推定を含む）	予習：教科書①の「重心」に関する章について一読しておく 復習：計算課題（重心の推定）		4 時間
2	鈴木 博人 鈴木 誠	関節運動の原理 1	予習：教科書①の「関節運動の原理」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（関節運動 1）		4 時間
3	鈴木 博人 鈴木 誠	関節運動の原理 2	予習：教科書①の「関節運動の原理」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（関節運動 2）		4 時間
4	鈴木 誠	姿勢制御 1	予習：教科書①の「姿勢制御」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（姿勢制御）		4 時間
5	鈴木 誠	姿勢制御 2	予習：教科書①の「姿勢制御」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（姿勢制御）		4 時間
6	村上 賢一	平地歩行 1	予習：教科書①の「平地歩行」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（平地歩行）		4 時間
7	村上 賢一	平地歩行 2	予習：教科書①の「平地歩行」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（平地歩行）		4 時間
8	村上 賢一	平地歩行 3	予習：教科書①の「平地歩行」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（平地歩行）		4 時間
9	村上 賢一	平地歩行 4	予習：教科書①の「平地歩行」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（平地歩行）		4 時間
10	村上 一	立ち上がり動作	予習：教科書①の「椅子からの立ち上がり動作」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（椅子からの立ち上がり動作）		4 時間
11	鈴木 誠	坂道歩行、階段昇降、後ろ歩き、サイドステップ	予習：教科書①の「坂道歩行・階段昇降、後ろ歩き、サイドステップ」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（坂道歩行・階段昇降、後ろ歩き、サイドステップ）		4 時間
12	鈴木 博人 鈴木 誠	運動技能	予習：教科書①の「運動技能」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（運動技能）		4 時間
13	鈴木 博人 鈴木 誠	運動学習 1	予習：教科書②の「運動学習」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（運動学習 1）		4 時間
14	鈴木 博人 鈴木 誠	運動学習 2	予習：教科書②の「運動学習」に関する章について一読しておく 復習：記述式課題（運動学習 2）		4 時間
教 科 書		①藤澤宏幸編：日常生活活動の分析 第2 版（医歯薬出版） ②藤澤宏幸，鈴木博人：運動学習 理学療法のための最新知見と障害別アプローチの実際（メディカルプレス）			
参 考 書		中村隆一他編：基礎運動学 第6 版補訂（医歯薬出版） Shumway-Cook：モーターコントロール（医歯薬出版）			
備 考		質問・問い合わせ先：科目責任者または授業担当者			

科 目 名	身体運動学実習			担 当 者	○鈴木 博人・鈴木 誠 村上 賢一・小野部 純 高橋 一揮・阿部 玄治 平山 和哉
科目ナンバリング	1010322045				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	3220・他
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】 身体運動学演習および運動制御論で学習した「ヒトの運動・動作の身体運動学的メカニズム」について、基本的な計測・分析を通して理解する。 【学習の到達目標】 身体運動の原理について、実習を通して説明出来るようになること。 【成績評価方法】 全てのレポート提出を前提として、レポート 100%で判定する。未提出レポートのある場合は単位を認めない。				【課題等のフィードバック方法】 レポートについて、改善すべき要点を授業内にフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 準備課題を通して、実習の目的・方法を理解した上で実習に出席すること。復習課題および実験結果をレポートとしてまとめ、提出すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 運動制御論で学んだ知識について、実測データで検討することで、より深い知識体系を構築できる。 【実務家教員担当科目】 病院等で理学療法士として実務経験のある教員が、臨床との関係について説明を加えながら実習の意義に対する理解を促している。	
授 業 計 画					
1. 実習オリエンテーション：鈴木博人 2. 全体実習（Fitts の法則） 3～7. グループ実習 1：担当者全員 ・関節運動と反応時間 ・重心推定 ・筋力測定 ・運動学習 ・呼気ガス分析 8. グループ実習 1 まとめ 9～13. グループ実習 2：担当者全員 ・重心移動と床反力の関係 ・動作分析 ・10m 歩行テスト ・運動耐容能 ・筋機能評価 14. 総括：鈴木博人					
教 科 書	東北文化学園大学身体運動学実習ノート（学内印刷版） 藤澤宏幸編：日常生活活動の分析 第 2 版（医歯薬出版） 中村隆一・他編：基礎運動学 第 7 版（医歯薬出版）				
参 考 書	中村隆一・他編：臨床運動学 第 3 版（医歯薬出版） 中村隆一・他編：運動学実習（医歯薬出版）				
備 考	質問・問い合わせ先：科目責任者または授業担当者				

科 目 名		生理学実習		担 当 者	○小野部 純・黒後 裕彦 村上 賢一・阿部 玄治 沼田 純希	
科目ナンバリング		1010322048			常勤	
D	P	2,3		教員研究室	3108	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		実習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・本講座では、既に生理学Ⅰ及びⅡで学んだ、ヒトの生体現象を実験実習という形で観察し、生理学の知識を深める事を目的とする。 ・実験実習より得られた情報をどのように処理し考えるかを学び、科学的な眼を養うことも本講座の目的である。				【課題等のフィードバック方法】 授業中、授業後を通してフィードバックすると共に随時質問を受け付ける。		
【学習の到達目標】 ・ヒトを対象とした実験実習を通して、生理学Ⅰ及びⅡで学んだ知識を視覚的に現象として観察することができる。 ・実験手技ならびに計測結果の処理（解析）方法の基本を習得し、結果をまとめて報告することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・欠席した場合でも、実習レポート課題がある場合には提出すること。		
【成績評価方法】 ・修了試験：90%、レポート：10% ・実習課題（レポート）をすべて提出することを必須とする。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・生理学の知識を深めることができる。 ・実験・計測結果をまとめることで、問題の整理、報告の仕方を学べる。		
【実務家教員担当科目】 臨床において理学療法業務に従事した経験のある教員が担当する。 本実習では、理学療法士がヒトの生体反応を実習を通して理解し、基本的な測定手技を身につけ、基本的な結果の解釈ができるようになることを目標とする。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	全担当教員	生理学実習概論	・レポート作成の構成と要点を理解する ・単位の意味を理解する		－	
2	全担当教員	生理学実習概論	・生体信号記録装置の原理と記録方法を理解する		－	
3	全担当教員	講義 1：血圧	・血圧測定の原理と測定方法を理解する		－	
4	全担当教員	講義 2：心電図	・心電図の臨床的意義を理解し、測定原理と記録方法を理解する		－	
5	全担当教員	実習 1：血圧	・血圧を測定することができ、引用を用いながら結果を説明できること		－	
6	全担当教員	実習 2：心電図	・心電図を記録することができ、引用を用いながら結果を説明できること		－	
7	全担当教員	講義 3：視覚	・視覚の原理について理解し、視覚機能の測定原理と記録方法を理解すること		－	
8	全担当教員	講義 4：筋電図	・筋電図の臨床的意義を理解し、測定原理と記録方法を理解すること		－	
9	全担当教員	実習 3：視覚	・視覚を測定することができ、引用を用いながら結果を説明できること		－	
10	全担当教員	実習 4：筋電図	・筋電図を記録することができ、引用を用いながら結果を説明できること		－	
11	全担当教員	講義 5：表在感覚と深部感覚	・表在感覚と深部感覚を臨床的意義を理解し、測定原理と記録方法を理解すること		－	
12	全担当教員	講義 6：腱反射と H 反射	・伸張腱反射と H 反射の臨床的意義を理解し、結果を解釈できること		－	
13	全担当教員	実習 5：表在感覚と深部感覚	・表在感覚と深部感覚を評価することができ、引用を用いながら結果を説明できること。		－	
14	全担当教員	実習 6：H 反射	・H 反射を記録することができ、引用を用いながら結果を説明できること		－	
教 科 書		・指定教科書はなし ・授業時に資料を配布する				
参 考 書		・生理学で指定された教科書				
備 考		・実験の進捗や実験環境により内容を変更することがある				

科 目 名		人間生涯発達学			担 当 者	○本多ふく代・星 孝
科目ナンバリング		1010322049				常勤
D	P	1,2			教 員 研 究 室	3202, 3104
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本科目では、人間理解の基礎として、誕生から死に至るまでの発達・退行過程における人の生理的、心理的、社会的推移に関する基礎的な知識を、体系的かつ総合的に学ぶ。前半では、発達理論と成長・成熟に伴う構造と諸機能の発達とそれに影響を与える環境について学び、「人が育つこと」について検討する。 後半の授業では、高齢期の身体機能および生理機能の変化について一般的な状況を確認し、機能的変化を踏まえながら老いることへの不安や精神的な価値観について思考し、「人が年を重ねること」について多面から検討する。 【学習の到達目標】 各発達期の心身の特徴と変化を理解し、説明できる。高齢期に生じる正常な変化を理解し、疾病や障害との関係を説明できる。 【成績評価方法】 授業出席日数が3分の2に満たない場合は、受験資格を有しない。 本多 100 点と星 100 点で、2 名の合計÷2 の点数が科目点となる。60 点に満たない場合は不合格とする。						
【課題等のフィードバック方法】 課題へのフィードバックを授業内で行う。授業の最後に質問を受け付け回答する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 教科書・参考書を用いて予習復習し、不明な点は積極的に質問すること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 発達途上にある子どもや、機能低下する高齢者に対する理解が深まる。						
【実務家教員担当科目】 発達障害領域および高齢者領域のリハビリテーション業務の実務に当たった教員が、その経験と知識を生かして、人の生涯発達について当事者の立場を考慮した支援方法を加えた内容を教示する。						

授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習	学修時間		
1	本多	人間発達総論	教科書の熟読	4 時間		
2	本多	胎児期・新生児期／トピック 1	教科書の熟読・復習課題プリントの提出	4 時間		
3	本多	乳児期／トピック 2	教科書の熟読・復習課題プリントの提出	4 時間		
4	本多	幼児期前期・後期／トピック 3	教科書の熟読・復習課題プリントの提出	4 時間		
5	本多	学童期／トピック 4	教科書の熟読・復習課題プリントの提出	4 時間		
6	本多	青年期・成人期／トピック 5	教科書の熟読・復習課題プリントの提出	4 時間		
7	本多	前半まとめ／「生き生きとした大人になるためには、どのような育ちのプロセスが大切か？」について考える。	これまでのまとめ、課題発表	4 時間		
8	星	身体・生理機能の変化と見方：四肢（筋・骨・皮膚）／若者が思う高齢者像	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間		
9	星	身体・生理機能の変化と見方：顔（目、耳、口）／高齢者と生きがいについて	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間		
10	星	身体・生理機能の変化と見方：口腔、嚥下／高齢者を取り巻く医療環境について	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間		
11	星	身体・生理機能の変化と見方：呼吸／高齢ドライバーについて	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間		
12	星	身体・生理機能の変化と見方：バイタルサイン／高齢者の自立支援について	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間		
13	星	身体・生理機能の変化と見方：心臓、腹部／高齢者コミュニティーを考える	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間		
14	星	「高齢期を生き生きと過ごすために」の方法論や対策思考	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間		
教 科 書		前半は、大城昌平編集「リハビリテーションのための人間発達学第3版」、メディカルプレス、2021 年 後半は、指定する教科書はなく、配布資料とする				
参 考 書		随時紹介				
備 考		問い合わせ教員：前半本多ふく代、後半星孝				

科 目 名		内部障害系病学			担 当 者	佐藤 秀隆
科目ナンバリング		1010322051				常勤
D	P	1,2			教員研究室	1316
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 リハビリテーション医学に関わる内科疾患について学ぶ。					【課題等のフィードバック方法】 課題テストを数回予定する。	
【学習の到達目標】 患者の疾患を理解してリハビリテーションを実践することができるように 必要な知識を修得することを目標とする					【履修上の注意・予習・復習について】 携帯使用、私語、飲食は禁止する。座席は前列から埋めること。プリントの配布は速やかに行なうこと。授業内容は予め教科書を読んで来ること。予習なしでは理解困難です。受講後速やかに復習すること。	
【成績評価方法】 出席率 80％以上で定期試験受験可能。30 点満点の課題テストを 2 回合計で 60 点、定期試験 40 点で 100 点満点とし総得点 60 点以上を合格とする。COVID-19 の流行その他でその他で定期試験が不可能と考えられる場合は課題でもって合否判定を行う。					【受講して得られる効果・メリット、その他】 リハビリテーションの実践に際しては内科疾患の理解は必須であり、内科的思考を会得したうえでリハビリテーションを行なうことができる。	
					【実務家教員担当科目】 リハビリ病棟を有する病院における医師としての経験と知識をもって当該科目を担当する。	
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	佐藤 秀隆	心臓の解剖と生理、心電図	心臓の解剖と生理学を復習すること。心房・心室・心臓弁・肺循環・大循環、特殊刺激刺激伝導系、心収縮期と拡張期、正常心電図			4 時間
2	佐藤 秀隆	虚血性心疾患	狭心症と心筋梗塞の項目を復習してくる。冠動脈の走行、冠動脈硬化症、狭心症の心電図、心筋梗塞の心電図、心筋逸脱酵素			4 時間
3	佐藤 秀隆	心臓弁膜症	心臓弁の解剖の復習、心音の聞き方を予習してくる。大動脈圧波形・左室圧波形・左房圧波形、心音図、心電図、心音聴取部位			4 時間
4	佐藤 秀隆	心不全、ショック	右心不全と左心不全の病態ならびに症状の違いを予習してくる。左房圧負荷、左房容量負荷、肺うっ血、肺動脈圧上昇、肺性心、頸動脈拡張、浮腫			4 時間
5	佐藤 秀隆	呼吸器の解剖と生理、肺機能検査	呼吸器の解剖学と生理学を復習してくる。肺葉、肺区域、気管気管支走行、肺血管走行、肺泡と肺毛細血管、換気、拡散、肺循環、肺機能検査			4 時間
6	佐藤 秀隆	呼吸不全、閉塞性ならびに拘束性換気障害	呼吸不全の定義、閉塞性換気障害と拘束性換気障害について予習をしてくる。閉塞性換気障害と高速性換気障害の定義、各々の代表疾患、死腔、拡散障害、換気血流比不均等、急性呼吸不全、慢性呼吸不全			4 時間
7	佐藤 秀隆	呼吸器感染症	肺炎について予習をしてくる。大葉性肺炎、気管支肺炎、非定型肺炎、肺炎の起因菌、グラム染色、誤嚥性肺炎、肺結核、インフルエンザ			4 時間
8	佐藤 秀隆	呼吸器腫瘍、呼吸器疾患と心不全	肺癌について予習をしてくる。肺癌の分類、肺門型肺癌と肺野型肺癌、タバコと肺癌、タバコと慢性閉塞性肺疾患、呼吸器疾患が原因の心不全（肺性心）			4 時間
9	佐藤 秀隆	糖尿病	糖尿病の定義、糖尿病の型、合併症について予習をしてくる。糖尿病の診断、1 型糖尿病と 2 型糖尿病、糖尿病性昏睡、糖尿病性網膜症・腎症・神経障害、低血糖			4 時間
10	佐藤 秀隆	高脂血症、メタボリック症候群	高脂血症の定義、動脈硬化について予習をしてくる。リポ蛋白質、高脂血症の定義、高脂血症 WHO 分類、動脈硬化症と虚血性心疾患・脳血管疾患			4 時間
11	佐藤 秀隆	腎臓の解剖と生理、ネフローゼ症候群	腎臓の解剖とネフロンについて調べてくる。ネフローゼ症候群の定義を予習してくる。腎臓の血管走行、ネフロンの構造、ネフロンの部位による機能、アルドステロン、抗利尿ホルモン、ネフローゼ症候群の定義			4 時間
12	佐藤 秀隆	糸球体腎炎、腎不全	急性および慢性糸球体腎炎、ならびに腎不全の予習をしてくる。急性糸球体腎炎、A 群β溶血性連鎖球菌、予後、慢性糸球体腎炎の原因・経過、急性腎障害と慢性腎疾患、血液透析			4 時間
13	佐藤 秀隆	赤血球疾患、白血球疾患	主な血液疾患について予習をしてくる。主な貧血、白血球疾患、白血病、悪性リンパ腫、凝固・線溶系など。			4 時間
14	佐藤 秀隆	感染症分類・治療・予後	感染症分類について（教科書又は厚生省のサイトで）調べてくる。感染症分類ごとの主な疾患。感染症分類に基づいた対応方法			4 時間
教 科 書		なるほどなっとく！内科学改訂第 3 版（浅野嘉延編、南山堂）				
参 考 書		生体機能学テキスト（吉岡利忠、内山勝男編、中央法規）				
備 考		特になし				

科 目 名		神経障害系病学Ⅰ			担 当 者	津田 丈秀
科目ナンバリング		1010322052				常勤
D P		1,2			教員研究室	3206
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☑双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 神経障害系病学は神経・筋系に生じた病変の診断と治療を行う領域である。診察には主として内科学的な方法が用いられる。神経系の部位によって分担する機能が異なるので、病変により冒された部位が本来分担する機能の障害（症候）が出現する。 神経障害系病学Ⅰでは、主として神経症候と病変部位を結びつける神経症候学を中心に解説し、脳画像、神経生理学的検査などの補助診断方法にも言及する。代表的な神経疾患についても講義する。 尚、施行した講義に関し毎回小試験を施行する。						
【課題等のフィードバック方法】 小試験問題に関し「振り返り・解説」を行い講義を進めていく。						
【履修上の注意・予習・復習について】 ①ストリーム内講義資料は最小限の内容である。この資料については確実に理解する必要がある。 ②同講義資料は履修内容すべてではないので、理解のために教科書・参考書などによる予習・復習を各々最低 30 分程度を必須とする。特に予習は重要。						
【学習の到達目標】 ①臨床的に重要である神経症候を学習し病変部位との関係を理解する。 ②補助検査の目的を理解する。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 リハビリテーション医療で頻度の最も高い神経疾患を理解し、より高度なりハビリテーション医療を進めことができる。						
【成績評価方法】 定期試験 60%（点）、小試験・レポート 40%（点）。						
【実務家教員担当科目】 理学療法						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	津田 丈秀	脳の構造と脳血管の構造	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
2	津田 丈秀	12 対の脳神経の解剖と生理Ⅰ	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
3	津田 丈秀	12 対の脳神経の解剖と生理Ⅱ	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
4	津田 丈秀	運動、反射、感覚	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
5	津田 丈秀	失語、構音障害	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
6	津田 丈秀	失認、失行	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
7	津田 丈秀	脳梗塞	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
8	津田 丈秀	頭蓋内出血	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
9	津田 丈秀	正常脳画像	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
10	津田 丈秀	脳梗塞画像	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
11	津田 丈秀	頭蓋内出血画像	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
12	津田 丈秀	パーキンソン病	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
13	津田 丈秀	運動ニューロン疾患（ALS を中心に）	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
14	津田 丈秀	多発性硬化症と視神経脊髄炎	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。30 分程度の予習・復習とする。			4 時間
教 科 書		「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第 5 版」監修：奈良勲、鎌倉矩子 医学書院 2021 年 「病気がみえる Vol. 7 脳・神経 第 2 版」監修：尾上尚志、他。メディックメディア 2020 年				
参 考 書		「神経内科学テキスト 改訂第 3 版」編集：江藤文夫、飯島節。南江堂 東京 2014 年				
備 考		e-mail：ttsuda@rehab.tbgu.ac.jp 丸暗記でなく、考え方を理解して学習して下さい。その方が、ずっと臨床に役立ちます。				

科 目 名	神経障害系病学Ⅱ			担 当 者	津田 丈秀
科目ナンバリング	1010322053				常勤
D P	1,2			教員研究室	3206
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 神経疾患は病変部位によって特徴的な症状の組み合わせが生じる。一連の症状を呈するものを症候群と呼ぶ。この症候群を基に、急性発症か緩徐進行性かなどの経過や種々の検査所見から病変部位を診断し適切な治療を施行する。 神経障害系病学Ⅱでは、このような手順が疾患毎にどう変化するかについて言及する。 尚、施行した講義に関し毎回小試験を施行する。					
【課題等のフィードバック方法】 小試験問題に関し「振り返り・解説」を行い講義を進めていく。					
【履修上の注意・予習・復習について】 ①ストリーム内講義資料は最小限の内容である。この資料については確実に理解することが重要である。 ②同講義資料は履修内容すべてではないので、理解のため教科書・参考書などによる予習・復習を各々 30 分程度を必須とする。特に予習は重要。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 神経障害系病学はリハビリテーションで接する頻度の最も高い疾患の病態を解明する学問である。神経障害系病学の知識は理学療法の知識と技術を高めるために必須である。					
【実務家教員担当科目】 理学療法					

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	津田 丈秀	小脳の構造と機能	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間	
2	津田 丈秀	脊髄小脳変性症	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間	
3	津田 丈秀	神経筋接合部疾患（重症筋無力症を中心に）	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間	
4	津田 丈秀	末梢神経障害	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間	
5	津田 丈秀	筋疾患（筋ジストロフィーを中心に）	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間	
6	津田 丈秀	脳腫瘍とてんかん発作	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間	
7	津田 丈秀	外傷と正常圧水頭症	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間	
教 科 書	「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学」監修：奈良勲 鎌倉矩子 医学書院 2021 年 「病気がみえる Vol. 7 脳・神経 第 2 版」監修：尾上尚志、他。メディックメディア 2020 年				
参 考 書	「神経内科学テキスト 改訂第 3 版」編集：江藤文夫、飯島節。南江堂 東京 2014 年				
備 考	e-mail：ttsuda@rehab.tbgu.ac.jp 丸暗記でなく、考え方を理解して学習して下さい。その方が、ずっと臨床に役立ちます。				

科 目 名		運動器障害系病学		担 当 者	永元 英明
科目ナンバリング		1010322054			非常勤
D	P	1,2		教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		必修 2 単位			
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 運動器障害系病学は整形外科学の中の主に骨・関節疾患を中心に構成され、リハビリテーション医療と直接関わる重要な科目である。骨・関節疾患の総論としての病理や病態と整形外科的診断や治療の概要を学んだ後、各論としての疾患別や部位別にその病態や障害（機能障害、活動制限）の診断と予後、治療について学習する。					
【学習の到達目標】 1) 主要な整形外科疾患の病態と治療に関わる専門用語を覚えている（想起レベル）。2) 主要な整形外科疾患の病態と治療の関係を理解している（理解レベル）。3) 整形外科疾患に起因する機能障害・能力低下の概要を説明できる（理解レベル）。4) EBM（evidence based medicine）に基づいたまとめ、プレゼンテーションができる。					
【成績評価方法】 アクティブラーニング（50 点）、定期試験（50 点）、によって単位認定する。受験資格は学則に準ずる。					
【課題等のフィードバック方法】 1) 試験結果のヒストグラムと各自の階級を公表し、希望する学生には点数を開示する。2) 講義時間内に、アクティブラーニングの資料作成・情報検索・プレゼンテーション方法等の質問を受け付け、フィードバックする。3) アクティブラーニング発表後、スライド、発表内容や方法などをフィードバックする。					
【履修上の注意・予習・復習について】 アクティブラーニングのグループ分け後は、特別に考慮すべき事情がない限り変更はしない。自ら能動的に予習・復習するよう心がけ、アクティブラーニングの資料は、早い段階から準備、作成を意識してもらう。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 1) 運動器疾患の概要および診断、治療を学べる。2) 整形外科的検査・治療とリハビリテーション医療の関係を学べる。3) コミュニケーションの重要性、EBM を学べる。					
【実務家教員担当科目】 運動器疾患の診断・治療・リハビリテーションを専門として臨床・研究・教育の実務経験をもつ教員が、リハビリテーション専門職として理解すべき運動器疾患について講義する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間	
				予習・復習	学修時間
1	永元 英明	オリエンテーション（アクティブラーニング用のグループ分け、グループワークのテーマ提示）		科目全体の流れ、心構えを説明する。パワーポイント作成方法、文献や教科書など参考資料の調べ方の予習・復習すること。	4 時間
2	永元 英明	アクティブラーニングのグループ毎のテーマ決め、骨・関節の構造と機能		骨・関節の解剖学的・生理学的知識の再確認。骨・関節の構造と機能について復習すること。	4 時間
3	永元 英明	整形外科診断・整形外科治療、診察手技		整形外科の各種検査、治療方法について予習・復習すること。	4 時間
4	永元 英明	骨折		骨折について予習・復習すること。	4 時間
5	永元 英明	捻挫、靱帯損傷、脱臼、筋・腱損傷		靱帯損傷、脱臼、筋・腱損傷について予習・復習すること。	4 時間
6	永元 英明	末梢神経損傷、脊椎・脊髄疾患		末梢神経損傷、脊椎・脊髄疾患について予習・復習すること。	4 時間
7	永元 英明	皮膚・血管損傷、骨関節感染症		皮膚・血管損傷、骨や軟部組織の感染症について予習・復習すること。	4 時間
8	永元 英明	スポーツ外傷・障害		スポーツ外傷・障害について予習・復習すること。	4 時間
9	永元 英明	慢性関節疾患（変形性関節症）、関節リウマチ、阻血壊死性疾患、代謝性骨疾患		慢性関節疾患（変形性関節症）、関節リウマチ、阻血壊死性疾患、代謝性骨疾患について予習・復習すること。	4 時間
10	永元 英明	先天性疾患、骨・軟部腫瘍、切断		先天性疾患、骨・軟部腫瘍、切断について予習・復習すること。	4 時間
11	永元 英明	第 1 回アクティブラーニング		各グループで選択したテーマについてスライドを用いて、プレゼンテーションを準備して発表する。	4 時間
12	永元 英明	第 2 回アクティブラーニング		各グループで選択したテーマについてスライドを用いて、プレゼンテーションを準備して発表する。	4 時間
13	永元 英明	第 3 回アクティブラーニング		各グループで選択したテーマについてスライドを用いて、プレゼンテーションを準備して発表する。	4 時間
14	永元 英明	まとめ、総括、アクティブラーニングのフィードバック			4 時間
教 科 書		「標準整形外科学」第 15 版 井樋栄二・津村弘監修、医学書院			
参 考 書		「病気がみえる vol. 11 運動器・整形外科」医療情報科学研究所編集、メディックメディア			
備 考		授業運営に関する問い合わせ、授業内容について担当教員が対応する。			

科 目 名	精神障害系病学Ⅰ			担 当 者	開講時指示
科目ナンバリング	1010322055				
D P	1,2			教員研究室	
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 【課題等のフィードバック方法】 【学習の到達目標】 【履修上の注意・予習・復習について】 【成績評価方法】 【受講して得られる効果・メリット、その他】 【実務家教員担当科目】 ※開講時に指示します。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1				4 時間	
2				4 時間	
3				4 時間	
4				4 時間	
5				4 時間	
6				4 時間	
7				4 時間	
8				4 時間	
9				4 時間	
10				4 時間	
11				4 時間	
12				4 時間	
13				4 時間	
14				4 時間	
教 科 書					
参 考 書					
備 考					

科 目 名		発達障害系病学		担 当 者	大浦 敏博	
科目ナンバリング		1010322056			非常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 小児は成長発達の途上にあり、成人対象の内科学とは異なった視点が必要である。本科目では、小児の成長・発達と小児保健の概要の解説、および小児期特有の疾患の主要なものについて、診断・治療の解説をする。						
【課題等のフィードバック方法】 小テストの講評と解説は次の講義時に行なう。						
【履修上の注意・予習・復習について】 講義中に要点を理解し、覚えるように努めること。毎回講義終了時に内容についての小テストを行なう（出席確認を兼ねる）ので、その問題を中心に復習すること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 小児の正常な発育過程や小児保健について、および小児期特有の疾患の基礎を学ぶことができ、将来、医療スタッフの一員として小児と接する上での基本的知識が得られる。						
【実務家教員担当科目】 30 年以上小児科臨床および研究に従事してきた教員が、その経験を活かして、実地に役立つ具体的な解説を行なう。						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	大浦 敏博	小児の成長・発達、新生児疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
2	大浦 敏博	染色体、代謝・内分泌疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
3	大浦 敏博	呼吸器疾患、感染症	小テストの問題中心に復習。	4 時間
4	大浦 敏博	消化器疾患、循環器疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
5	大浦 敏博	血液・免疫疾患、悪性新生物（小児がん）	小テストの問題中心に復習。	4 時間
6	大浦 敏博	神経・筋疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
7	大浦 敏博	アレルギー、膠原病、腎泌尿器疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
教 科 書		特になし		
参 考 書		富田豊編集「標準理学療法学・作業療法学」専門基礎分野 小児科学第 5 版（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論（医学書院）		
備 考		特になし		

科 目 名		老年期病学		担 当 者	佐藤 秀隆	
科目ナンバリング		1010322057			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	1316	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 高齢者の増加に伴い加齢現象ならびに加齢に伴って増加する老年期疾患についての理解がリハビリテーションを実践するうえでますます重要になってきている。加齢現象と老年期の特徴ならびに老年期疾患の病態とその予防・対策について講義を行なう。						
【学習の到達目標】 加齢現象ならびに老年期に起こりやすい疾患の特徴を理解し、この理解に基づいてリハビリテーションを実践できる。						
【成績評価方法】 出席率 80％以上で定期試験受験可能。30 点満点の課題テストを 2 回合計で 60 点、定期試験 40 点で 100 点満点とし総得点 60 点以上を合格とする。COVID-19 の流行で定期試験が不可能と考えられる場合は課題をもって合否判定を行う。						
【課題等のフィードバック方法】 課題テストやレポートなど数回予定している。						
【履修上の注意・予習・復習について】 携帯使用、私語、飲食は禁止。授業は必ず教壇から近い席から埋めること。授業内容にあたる項目は予め教科書を読んでくることが前提です。 予習は教科書の該当する項目を読んでくこと、復習は講義のプリントや講義内容を再度検討してみること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 人口構成の急速な高齢化に伴いリハビリテーションを必要とする人達が増加しているので、老年期医学の特性について理解し、日常のリハビリテーションを実践することで老年者についてより良いリハビリテーションの効果を得ることができる。						
【実務家教員担当科目】 医師としてリハビリテーション部門を有する病院で長年勤務した経験や知識をもって当該科目を担当する。						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	佐藤 秀隆	老化の基礎知識	老化とは何かについて教科書を読んでおくこと。生理的老化・病的老化・花咲ける老化、老年病と老化、老年病の特徴・検査、老年病への対応	4 時間
2	佐藤 秀隆	高齢者疾患総論、認知症他	高齢者の病気の特徴について調べてくること。老年病の特徴、老年医学的総合機能評価、軽度認知機能障害（MCI）と認知症、アルツハイマー病、レビー小体病、パーキンソン病	4 時間
3	佐藤 秀隆	高齢者の循環器疾患	高齢者の循環器疾患について調べてくること。高齢者の心臓の形態と機能の変化、高齢者に多い心臓疾患（狭心症、心筋梗塞、心不全など）	4 時間
4	佐藤 秀隆	高齢者の呼吸器疾患	高齢者の呼吸器疾患について調べてくること。高齢者の呼吸器の形態・機能の変化、高齢者に多い呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、肺癌、肺炎など）	4 時間
5	佐藤 秀隆	高齢者の消化器、内分泌疾患	高齢者の消化器・内分泌疾患の特徴について調べてくること。高齢者の消化器の形態・機能の変化、高齢者に多い消化器疾患、高齢者の主な内分泌疾患	4 時間
6	佐藤 秀隆	高齢者の運動器疾患、腎・泌尿器疾患	高齢者の運動器疾患、転倒と骨折、腎・泌尿器疾患について調べてくること。高齢者の主な運動器疾患、骨粗鬆症、骨折、高齢者主な泌尿器疾患（前立線肥大症その他）	4 時間
7	佐藤 秀隆	高齢者のリスク管理	高齢者のリスク管理の特徴について調べてくること。高齢者の脱水・嚥下障害・褥瘡の特徴と予防並びに治療など。その他、眼科、耳鼻科、皮膚疾患について。	4 時間
教 科 書		老年医学への招待第 1 版（中村重信、三森康世著、南山堂）		
参 考 書		健康長寿診療ハンドブック（実地医科のための老年医学のエッセンス）第 2 版第 1 刷（編集／発行 日本老年医学会 メジカルビュー社）		
備 考		EfGdsJ		

科 目 名	栄養学概論			担 当 者	○小野部 純・平山 和哉 釵明佳代子
科目ナンバリング	1010322058				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3108 研究室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 リハビリテーション医療の対象者には食事療法を必要とする症例が多く、栄養素が生命維持や疾病の発生と治療にどのように関わっているか、そして栄養素摂取の具体的方法をも理解しておく必要がある。 そのために、栄養素の種類と役割、摂取すべきその量（食事摂取基準）について知識を深め、食事療法についても学習する。				【課題等のフィードバック方法】 小テストの結果は、次の授業時に返却し、自己学習を促す 【履修上の注意・予習・復習について】 初回授業時に改めてシラバスの内容を説明する 【受講して得られる効果・メリット、その他】 将来、リハビリテーション医療の現場で活躍する際、必要とさせる栄養・食事に関する基礎知識を身につけることができる。	
【学習の到達目標】 ・代表的な栄養素の種類と機能を説明できる ・健康維持、疾病管理と栄養素との関係を説明できる ・健康維持のための食事を食品レベルで考えることができる				【実務家教員担当科目】 多種の内部障害系疾患に携わった経験を持つ教員が、リハビリテーション職として病態理解から介入時に知っておくべき栄養の基礎知識を中心に教授する	
【成績評価方法】 ・定期試験 90% ・小テスト 10%					

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	小野部、鈴木	リハビリテーション栄養の概念 5 大栄養素 1	・ 栄養の必要性の概要を理解する ・ 糖代謝の概要について理解する		4 時間
2	小野部	5 大栄養素 2	・ タンパク質と脂質の代謝の概要について理解する		4 時間
3	小野部	エネルギー代謝	・ 体内で ATP が生成される過程を理解する		4 時間
4	小野部	日常生活活動量の算出	・ METs の概念を理解する ・ 行動記録から、消費エネルギー量を算出する方法を理解する		4 時間
5	平山	栄養と運動	・ 運動（スポーツ）に関わる栄養の知識を理解する		4 時間
6	釵明	疾患と栄養 1	・ リハビリテーション栄養の重要な対象であるサルコペニアとフレイルの概要について理解する		4 時間
7	釵明	疾患と栄養 2	・ 特に代謝性疾患患者を対象とした食事療法の基礎を理解する ・ 栄養学の視点からの運動処方法の基礎を理解する		4 時間
教 科 書		・ 医療情報科学研究所 編集：病気がみえる 3- 糖尿病・代謝・内分泌疾患 - 第 5 版、MEDIC MEDIA.（既に購入済みの場合には、改めての購入は必要ない）			
参 考 書		必要に応じて、その都度紹介する			
備 考		授業詳細は、初回時に改めて説明する			

科 目 名	救命救急学演習			担 当 者	渡邊 隆夫
科目ナンバリング	1010322059				常勤
D P	1,3			教員研究室	3214
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人の生命を脅かす様々な緊急事態に際して、その個体の救命あるいは回復には、早急の救急対応が最重要である。医療の一環を担う職域に従事する者として、救命救急処置法を熟知することは肝要である。この科目では様々な緊急事態とその原因、危険因子を挙げ、それらに迅速かつ確実に対応する応急処置法を講義しその技術を体得させる。加えて、日常的に遭遇する代表的な救急疾患について、概略を講義し、現場での超早期診断や初期対応、治療の進め方を講義する。				【課題等のフィードバック方法】 講義課題については原則 2 週間以内に解答例を示しフィードバックを行う。	
【学習の到達目標】 講義・実習を通じ、病院や施設、様々な福祉分野で自信を持って働き、患者さんや高齢者の緊急事態に際しても正しく行動できる知識・技能を身につける。				【履修上の注意・予習・復習について】 あらかじめ講義予定該当箇所について教科書ならびに掲載講義資料で予習を行い、講義レポートなどにおいて復習を十分に行うこと。	
【成績評価方法】 定期試験（80%）授業課題（20%）にて成績を評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 様々な救急病態を正しく評価し冷静・効果的に対応できるようになる。心肺停止などの事態に対しても適切な行動を取れるようになる。医療人・社会人としてのモラルを高めることができ、医療福祉分野業務において自信を持つことが出来る。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
1. 災害医療・トリアージ 2. 心肺蘇生法 3. 心不全 4. ショック 5. 狭心症・心筋梗塞 6. 狭心症・心筋梗塞 2 7. 中毒 1 8. 中毒 2・体温異常 9. 外傷 1 10. 外傷 2 11. 脳卒中 1 12. 脳卒中 2 13. 感染症 1 14. 感染症 2					
教 科 書	コメディカルのための救急医学、渡邊隆夫編、医学出版社 ISBN-978-4870551435				
参 考 書	米国心臓病協会編『BLS ヘルスケアプロバイダーマニュアル』 中山書店（本学図書館蔵）				
備 考	特になし				

科 目 名		臨床心理学		担 当 者	北川 公路
科目ナンバリング		1010322060			常勤
D	P	1,2		教員研究室	3204
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		必修 2 単位			
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 日本の社会的構造の変化に伴い、子どもから高齢者に至る各々の年齢層において、様々な問題が発生しており、臨床心理学に対する関心・期待も高まってきている。そこで本講義では、臨床心理学の歴史背景を踏まえた上で、臨床心理学とは何か、果たすべき課題は何か、どのような貢献ができるかなどについて説明する。また、医療領域において支援を必要とする人々について理解し、適切な支援のための知識について説明する。 【学習の到達目標】 保健医療領域において支援を必要とする人々について理解し、適切な支援の為の知識と実践力を修得する。 【成績評価方法】 定期試験（70％）講義内のグループワーク・個別活動（30％）による総合評価。					
【課題等のフィードバック方法】 講義ごとにリアクションペーパーの記載を求めている。次の講義にその提出物を返却をする。質問が記載されていた場合は、次の講義時に受講生全員に対して質問の紹介、回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 【復習】 1 年次に「心理学」を履修した学生は、1 年次に使用した教科書・ノートも併用して勉強すること。また、アセスメントの授業時は各専攻の評価学で学ぶものと重なるところが多いため知識を繋げること。 【遅刻】 原則として遅刻は認めない。 【受講態度】 机上には、筆記用具・臨床心理学の教科書とノートのみをおき、他科目の勉強はしないこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家資格試験科目であることから、国家試験に関連することも説明する。 【実務家教員担当科目】 公認心理師が当該科目を担当する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	北川 公路	リハビリテーションと臨床心理学	【予習】教科書第 1 章を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
2	北川 公路	心理アセスメント（1）面接・観察	【予習】教科書第 4 章の 1 を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
3	北川 公路	心理アセスメント（2）質問形式の心理検査	【予習】教科書第 4 章 3 の質問紙法を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
4	北川 公路	心理アセスメント（3）作業形式の心理検査	【予習】教科書第 4 章 5 の作業検査法を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
5	北川 公路	心理アセスメント（4）投影法の心理検査	【予習】教科書第 4 章 4 の投影法を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
6	北川 公路	心理アセスメント（5）知能検査	【予習】教科書第 4 章 2 の知能検査を通読する 【復習】教科書とノートを用いて振り返る		4 時間
7	北川 公路	発達臨床心理学	【予習】教科書第 3 章 3 の発達理論を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
8	北川 公路	心理療法の理論と実際（1）精神分析	【予習】教科書第 3 章 1・2 と第 5 章 2 の 1）を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
9	北川 公路	心理療法の理論と実際（2）行動療法	【予習】教科書第 5 章 2 の 2）を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
10	北川 公路	心理療法の理論と実際（3）認知行動療法	【予習】第 9 回目で配布する資料を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
11	北川 公路	心理療法の理論と実際（4）来談者中心療法	【予習】教科書第 5 章 2 の 3）を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
12	北川 公路	心理療法の理論と実際（5）その他の心理療法	【予習】教科書第 5 章 2 の 4）と 5）を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
13	北川 公路	心理療法の理論と実際（6）その他の心理療法	【予習】教科書第 5 章 4 を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
14	北川 公路	障害の適応と受容	【予習】第 13 回目で配布する資料を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
教 科 書		こころのケア - 臨床心理学的アプローチ - 池田勝昭・目黒達哉 共著 学術図書出版社			
参 考 書		講義の中で適宜、紹介する。			
備 考		なし。			

科 目 名	リハビリテーション医学			担 当 者	津田 丈秀
科目ナンバリング	1010322061				常勤
D P	1,2			教員研究室	3206
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 リハビリテーション医学は神経疾患や整形外科疾患などが原因で起こる運動機能障害の診断と治療を中心とする学問である。また、理学療法士は医療において上記診断や治療を行うことを必要とされる臨床家である。そのため理学療法士はリハビリテーション医学における十分な知識と技術を学ばなければならない。 授業ではリハビリテーション医療の目的と進め方やリハビリテーション医療のキーワードである障害の概念や代表的な障害の特徴について解説する。 尚、施行した講義に関し毎回小試験を施行する。					
【課題等のフィードバック方法】 小試験問題に関し「振り返り・解説」を行い講義を進めていく。					
【学習の到達目標】 ①リハビリテーション医療の目的と進め方を理解する。 ②障害の概念と代表的な障害の特徴を理解する。					
【履修上の注意・予習・復習について】 ①ストリーム内講義資料は最小限の内容である。この資料については確実に理解することが重要である。 ②同講義資料は履修内容すべてではないので、理解のため教科書・参考書などによる予習・復習を各々最低 30 分程度を必須とする。特に予習は重要。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 リハビリテーション医学の基本的枠組みと種々の疾患に共通する諸問題を扱うため、理学療法の位置づけが明確となる。					
【実務家教員担当科目】 理学療法					
【成績評価方法】 定期試験 60%（点）、小試験・レポート 30%（点）、授業態度 10%（点）。					

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	津田 丈秀	リハビリテーション医学の概要	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間
2	津田 丈秀	嚥下障害	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間
3	津田 丈秀	廃用症候群、褥瘡	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間
4	津田 丈秀	高齢者、老化現象	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間
5	津田 丈秀	認知症	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間
6	津田 丈秀	排泄障害	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間
7	津田 丈秀	院内感染症、予防医学、並びに クリニカルパス	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。	4 時間
教 科 書		「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション医学 第 1 版」 監修：安保雅弘 羊土社 2018 年		
参 考 書		「リハビリテーション医学 第 2 版」 監修：米本恭三 医歯薬出版 2013 年 「入門リハビリテーション医学 第 3 版」 監修：中村隆一 医歯薬出版 2012 年		
備 考		e-mail：ttsuda@rehab.tbgu.ac.jp 丸暗記でなく、考え方を理解して学習して下さい。その方が、ずっと臨床に役立ちます。		

科 目 名		病態薬理学		担 当 者	○渡邊 隆夫・津田 丈秀 佐藤 秀隆・松谷 幸子 未定	
科目ナンバリング		1010322062			常勤・非常勤	
D P		1,2		教員研究室	3214	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 必要な薬剤について、関連病態と共に講義する。				【課題等のフィードバック方法】 講義課題については原則 2 週間以内に解答例を示しフィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 各種薬剤の代表的な薬物について作用と効能および副作用について理解できることを目標とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業資料および参考書にて復習をすること。		
【成績評価方法】 定期試験 80%、講義課題 20% で評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 業務の中で用いられる薬剤について病態と関連した基礎的な知識を得ることが出来る。		
				【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	渡邊 隆夫	虚血性心疾患 1	テキスト・配付資料		4 時間	
2	渡邊 隆夫	虚血性心疾患 2	テキスト・配付資料		4 時間	
3	渡邊 隆夫	心臓弁膜症	テキスト・配付資料		4 時間	
4	渡邊 隆夫	先天性心疾患	テキスト・配付資料		4 時間	
5	浅野 浩一	感覚器疾患 1	テキスト・配付資料		4 時間	
6	松谷 幸子	感覚器疾患 2	テキスト・配付資料		4 時間	
7	松谷 幸子	感覚器疾患 3	テキスト・配付資料		4 時間	
8	佐藤 秀隆	呼吸器疾患 1	テキスト・配付資料		4 時間	
9	佐藤 秀隆	呼吸器疾患 2	テキスト・配付資料		4 時間	
10	津田 丈秀	中枢神経系疾患 1	テキスト・配付資料		4 時間	
11	津田 丈秀	中枢神経系疾患 2	テキスト・配付資料		4 時間	
12	渡邊 隆夫	血管の疾患	テキスト・配付資料		4 時間	
13	渡邊 隆夫	膠原病	テキスト・配付資料		4 時間	
14	渡邊 隆夫	内分泌疾患	テキスト・配付資料		4 時間	
教 科 書		特に指定しません。				
参 考 書		適宜紹介します。				
備 考		特になし。				

科 目 名	保健医療福祉概論			担 当 者	森田慎二郎
科目ナンバリング	101032201				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	3305
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 保健医療福祉専門職は、患者・利用者を支援する際には、関連する諸制度の概要を知っておく必要となる。この講義では、保健・医療・福祉制度の概要、歴史、関連法について概観し、医療保険、介護保険、障害者総合支援法などの仕組みとサービス内容等について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、ミニッツペーパーにより質問を受け付け、次回に回答する。	
【学習の到達目標】 ・社会保障制度の概要を説明できる。 ・各種保健医療福祉制度の概要とサービス内容について説明できる。 ・専門職として各種制度との関わりを理解することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 私語厳禁	
【成績評価方法】 期末テスト 100%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療専門職として活躍するうえで有用な基礎知識が得られる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	森田慎二郎	オリエンテーション、保健医療福祉の基盤となる考え	復習として教科書で全体像を把握する。		4 時間
2	森田慎二郎	保健・医療・福祉の諸制度（社会保障制度の概要）	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
3	森田慎二郎	保健・医療・福祉の歴史的展開	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
4	森田慎二郎	現代の保健・医療・福祉を支える関連法、施設体系	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
5	森田慎二郎	社会福祉と公的扶助	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
6	森田慎二郎	医療保険の仕組みと種類①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
7	森田慎二郎	医療保険の仕組みと種類②	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
8	森田慎二郎	年金制度の仕組みと動向	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
9	森田慎二郎	労災保険と雇用保険	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
10	森田慎二郎	介護保険制度の仕組み①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
11	森田慎二郎	介護保険制度の仕組み②	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
12	森田慎二郎	障害者総合支援法と障害者福祉サービス	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
13	森田慎二郎	地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉サービス①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
14	森田慎二郎	地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉サービス②、まとめ	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間
教 科 書		椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ			
参 考 書		適宜紹介する。			
備 考		特になし。			

科 目 名		専 門 職 連 携 論		担 当 者		○大黒 一司・大庭 みよ 渡邊 隆夫・伊藤 清世 榎林 雅司・佐藤 尚子 土井 勝幸	
科目ナンバリング		1010322066				常勤	
D P		2,3		教 員 研 究 室		3211	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）		配 当 年 次		3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		☑双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 疾病を抱えた患者や障害のある人の課題を解決しニーズに応えることは、対象者（利用者）に対して保健医療福祉の各分野の専門家が協働することであると理解できる。各分野の専門職が関わることでより質の高いサービスを提供することが可能になる。保健医療福祉の連携は、各分野の専門職の視点も大切であるが、むしろチームとしての視点が重要になる。しかし、チームとしてのアプローチが各専門職の技術を持ち寄るだけでは十分とは言えない。対象者(利用者)の課題やニーズに対する共通の理解、価値観にも基づいて関わること（連携）が重要である。 専門職連携論では、多職種連携が求められる背景、多職種連携の理念・定義、実践方法、実践事例の学習を通して連携の基盤と方法について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 ・講義終了後、質問を受け付け回答する。 ・レスポンスペーパーによる質問を受け付けと次回授業時に受講者全体に回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 指定された席で受講する。レスポンスペーパーは毎回必ず提出する。専門職連携セミナー（3 年後期）の履修を希望する者は本科目を必ず履修すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 多職種連携科目を 1 年～3 年で体系的に学びを実践に向けて深めることができる。			
【学習の到達目標】 ・専門職連携が求められる背景について説明できる。 ・専門職連携の理論及び実践方法について理解できる。				【実務家教員担当科目】 病院・施設において多職種連携を実践していた。			
【成績評価方法】 授業時のレスポンスペーパー 30% 課題レポート 70%							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間			
				予習・復習			学修時間
1	大黒 一司	1) オリエンテーション 2) 本学における多職種連携教育（IPE）		復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
2	大黒 一司	1) 多職種連携（IPW）とは 2) IPE の経緯と定義、目標		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
3	大黒 一司	1) 多職種のチームにおけるさまざまな連携のありかた 2) 多職種連携における課題		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
4	大黒 一司	多職種連携の実践に必要なコミュニケーション能力		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
5	大黒 一司	チームワークの成り立ち		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
6	大庭 みよ （看護師）	多職種連携における医療福祉連携士の役割		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
7	渡邊 隆夫 （医師）	IPW の実際 1 医療における IPW の実際と医師の役割		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
8	相澤 康弘 （臨床工学技士）	IPW の実際 2 多職種連携における臨床工学技士の役割と実践		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
9	榎林 雅司 （薬剤師）	IPW の実際 3 多職種連携における薬剤師の役割と実践		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
10	伊藤 清世（管理栄養士）	IPW の実際 4 多職種連携における管理栄養士の役割と実践		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
11	佐藤 尚子 （看護師・診療看護師）	IPW の実際 5 福祉施設における多職種連携の実際		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
12	土井 勝幸 （施設長・作業療法士）	IPW の実際 6 地域包括ケアにおける多職種連携の実際		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
13	大黒 一司、他	グループワーク 多職種連携に必要なこと 事例を通して考える		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
14	大黒 一司、他	グループワーク 多職種連携に必要なこと 事例を通して考える		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。			4 時間
教 科 書		指定教科書は特になし					
参 考 書		必要に応じて図書や文献を紹介する					
備 考		質問等の問い合わせ：大黒一司（リハビリテーション学科作業療法専攻）					

科 目 名	専門職連携セミナー			担 当 者	大黒 一司
科目ナンバリング	1010322067				常勤
D P	2,3			教員研究室	3211
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 これからの専門職に求められるのは、対象者（利用者）を中心としてその多面的なニーズに的確に応える能力です。そのためには専門職連携という基礎的な素養の上に各々の専門性が確立されなければならない。専門職としての成長と専門職連携教育の融合（trans-disciplinary）により、時代が求める専門職連携の中核になりうる人材育成を目指します。				【課題等のフィードバック方法】 ・グループワーク担当教員（ファシリテーター）が適宜助言する ・発表会に向けて担当教員が助言する	
【学習の到達目標】 ・自分の専門性を他の専門職に説明し、他の専門性を学ぶことができる。 ・対象者（利用者）のニーズを多面的に理解し、考えることができる。 ・専門職間の協働によって解決できる共通の課題と目標を抽出することができる。 ・共通目標達成のために専門職としてのそれぞれの役割を理解し実践できる。 ・専門的立場から事例に内在する課題を見出し、各々の目標と計画を作成することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 グループワークにより模擬事例の討議するため積極的に参加すること。 本科目の履修要件：専門職連携論を履修し合格していること。	
【成績評価方法】 ・グループワークによる「専門職連携セミナー報告書」「成果報告会プレゼンテーション」 70% ・リフレクションシート 30%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 多職種への理解が深まるばかりでなく、自らの専門性を再認識する機会となる。	
				【実務家教員担当科目】 病院・施設において多専門職連携を実践していた。	
授 業 計 画					
1. 専門職連携セミナーの目的と意義、進め方について 2. 連携セミナーにおける学習方法（グループワーク）の理解 3. グループワーク、スケジュール確認、活動計画作成 4. 各職の紹介とこれまでの学び、実習経験など 5. 実習室ツアー 6. 事例について読みあわせと情報の確認 7. 用語について各職種間の共通認識 8. 事例の共通目標検討 9. 共通目標達成に向けた各職種の目標と問題点、問題点解決のための支援策の検討 10. 共通目標達成に向けた目標と問題点、問題点解決のための支援策の共通認識と実現の可能性の検討 11. 発表に向けた準備 12. リフレクション 13. 発表会 14. 発表会					
教 科 書	随時配布する				
参 考 書	講義中に提示する				
備 考	集中講義となるので、講義等スケジュールに注意すること 質問、問い合わせ：作業療法学専攻 大黒一司（3211 研究室）				

科 目 名		公衆衛生学			担 当 者	吉田 裕人
科目ナンバリング		1010322068				常勤
D P		1,4			教 員 研 究 室	1201
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 少子・高齢化の進む我が国では、健康をキーワードとした社会のしくみや安全に生活するための環境について、いままで以上に重要視する状況となっている。このような社会情勢の中、人口構造や疾病構造の変化や社会経済システムの変化に伴い、保健医療の内容も生命倫理から健康づくりの方策まで幅広く理解していく必要がある。本講義では、健康の維持と増進を求めて展開される様々な計画や活動の基本となるものの見方や考え方、具体的な方法を基盤として、個々の状況や問題を理解していくための知識を習得する。 【学習の到達目標】 健康と社会、環境を相互に関連させながら理解できるようになる。具体的には、衣食住、労働環境、家庭、学校、職場、地域、地球全体までの広範囲な「環境」と保健、医療、福祉の「制度とサービス」が相互に関連して成り立っている社会システムが、「健康」とどのような枠組みや組織の中でつながっているのかを理解し、様々な状況変化に対応した評価方法や健康支援が必要な対象者への情報伝達の方法について考えられる基礎的能力を養う。 【成績評価方法】 定期試験 80% 毎回の課題提出 20%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	吉田 裕人	公衆衛生の理念	公衆衛生の意味などについて事前に調べておく。			4 時間
2	吉田 裕人	健康と環境①	大気汚染の実態などを事前に調べておく。			4 時間
3	吉田 裕人	健康と環境②	上水・下水などの語句を事前に調べておく。			4 時間
4	吉田 裕人	日本における社会保障制度および医療制度の改革	日本の医療・介護保険制度の課題などを事前に調べておく。			4 時間
5	吉田 裕人	グローバル化する世界と公衆衛生	国際保健の意味などについて事前に調べておく。			4 時間
6	吉田 裕人	地域保健	健康日本 21 の内容や保健所の役割などを事前に調べておく。			4 時間
7	吉田 裕人	対象別公衆衛生の実践	我が国の成人保健・高齢者保健などを事前に調べておく。			4 時間
教 科 書		シンプル衛生公衆衛生学 2025（鈴木庄亮・他、南江堂）				
参 考 書		なし				
備 考		なし				

科 目 名	医療経済論			担 当 者	吉田 裕人
科目ナンバリング	1010322069				常勤
D P	1,4			教員研究室	1201
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 医療経済学的な考えを通じて、今日の我が国が抱える医療・介護保険制度の課題などを理解することを目的とする。 内容的には、ミクロ経済学の視点から他の財・サービスとは異なる医療サービスの特徴について学習し、日本の医療費や医療保険制度について理解を深める。さらには日本で 2000 年代に入って行われてきた医療制度改革がもたらした現状を整理し、その課題について検討する。 【学習の到達目標】 医療を考えるにあたっての基本的な経済学の知識を習得し、日本の医療保険制度の機能と役割を理解する。 【成績評価方法】 小テスト 50％ レポート 40％ 受講態度など 10％ 【課題等のフィードバック方法】 小テストの解説を次の授業で行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 医療なしでは人の生活は成立しない。暮らしに密着した社会保障制度などに関心を持つ。そういった姿勢を本講義を通じて身につけてもらい、興味・関心が広がっていくことを期待する。 講義中には、予習・復習がなされているか質問をする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 基本的な経済学を通じて医療という身近な存在の役割を理解することができる。また、保健・医療・福祉に共通した知識（医療保険制度）を詳しく学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	吉田 裕人	医療サービスの特徴	医療サービスは通常のサービスとどう異なるかを事前に調べておく。		4 時間
2	吉田 裕人	情報の非対称性がある場合の社会的厚生への損失	消費者余剰・生産者余剰、情報の非対称性などの語句を事前に調べておく。		4 時間
3	吉田 裕人	医療問題の構造	RCT、社会保険の必要性などについて事前に調べておく。		4 時間
4	吉田 裕人	日本の高齢化の現状と社会保障	小さな政府・大きな政府、国民負担率などの語句を事前に調べておく。		4 時間
5	吉田 裕人	日本の高齢者の健康と介護保険	高齢者の健康長寿の要因などを事前に考えておく。		4 時間
6	吉田 裕人	日本の医療制度とその課題	応能負担・応益負担などの語句を事前に調べておく。		4 時間
7	吉田 裕人	医療サービスの需要について	需要の価格弾力性についてなどを調べておく。		4 時間
教 科 書		未定			
参 考 書		国民衛生の動向（最新版） 編集・発行：一般財団法人 厚生労働統計協会			
備 考		特になし。			

科 目 名	リハビリテーション心理			担 当 者	北川 公路
科目ナンバリング	1010322070				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3204
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 受傷後のこころの苦しみがどのようなものであり、またそれをどのように緩和するか、リハビリテーション心理学の基本的な事柄について講義を行う。心理的問題を解決するためにスタッフや家族が実際に行うべきこと、つまり「ケア」について考えていく。また、患者へのケアは心理的・情緒的対応を抜きにして語ることはできない。以上のように、リハビリテーション医療における心理社会的問題について説明する。 【学習の到達目標】 リハビリテーションに取り組む患者さんは、何も考えず、悩まず、迷わずリハビリテーションのプログラムを消化することができるのでしょうか。できるひともいるかもしれません。しかし、できないひともいると思われます。患者の「こころ」について考えることができるようになることが目標である。 【成績評価方法】 レポート（40％）試験（60％）による評価。 【課題等のフィードバック方法】 講義回数が7回であることから開講中に課題の提出などは求めている。講義をすすめながら、随時、質問を受け付け回答する。また、こちらからも問題提起をしながらすすめていく。 【履修上の注意・予習・復習について】 【履修上の注意・予習・復習について】 講義回数が少ないため欠席などしないようにしてください。 【予習・復習】 講義で使用する資料を前もって配布する予定ですので、目を通した上で受講することが望ましい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 「からだ」を通して「こころ」を理解することのできるセラピストになれると思います。 【実務家教員担当科目】 公認心理師が当該科目を担当する。					

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	北川 公路	リハビリテーションにおける心理学的対応	【予習】 心理学・臨床心理学で修得した知識を整理する。 【復習】 授業内容を振り返る。		4 時間
2	北川 公路	リハビリテーションに役立つ心理面の評価と対応	【予習】 修得した知識を踏まえ配付資料を通読する。 【復習】 授業内容を振り返る。		4 時間
3	北川 公路	障害適応へのアプローチ	【予習】 修得した知識を踏まえ配付資料を通読する。 【復習】 授業内容を振り返る。		4 時間
4	北川 公路	治療場面における心理的問題	【予習】 修得した知識を踏まえ配付資料を通読する。 【復習】 授業内容を振り返る		4 時間
5	北川 公路	理学療法場面における心理的問題	【予習】 修得した知識を踏まえ配付資料を通読する 【復習】 授業内容を振り返る。		4 時間
6	北川 公路	作業療法場面における心理的問題	【予習】 修得した知識を踏まえ配付資料を通読する。 【復習】 授業内容を振り返る。		4 時間
7	北川 公路	患者家族への関わりについて	【予習】 修得した知識を踏まえ配付資料を通読する。 【復習】 授業内容を振り返る。		4 時間
教 科 書		講義にあわせて資料を配付する。			
参 考 書		随時、紹介する。			
備 考		なし。			

科 目 名		理学療法障害論		担 当 者	黒後 裕彦	
科目ナンバリング		1010422074			常勤	
D	P	1,2		教員研究室	3102	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 講義により障害構造についての基礎的な知識を習得する。その後、グループに分かれ課題に取り組む。障害構造を念頭においた因果関係の推論をしたり、優先順位の重要性を踏まえた問題点を抽出したり、治療課題を設定をするためにはどんな情報が必要であるかなどについて考える 【学習の到達目標】 1. 障害モデルの必要性が理解できる 2. 障害構造を念頭において因果関係を推論することができる 3. 適切な課題設定をするには、疾患特性、経過、環境、要望など、検査・測定以外の項目にも十分に配慮すべき必要性があることを理解できる 【成績評価方法】 期末試験（50％） 提出課題（50％）とする 【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、質問を受け付け回答する 【履修上の注意・予習・復習について】 復習を中心として講義ごとのポイントをまとめておくこと 【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨床実習で取り組む必須課題である評価項目の抽出（何を調べればよいか）、問題点の作成などにおいて、どのように考えていけばよいかを理解することができる 【実務家教員担当科目】 理学療法士として業務経験をもつ教員が、障害構造や臨床の推論過程について教授する						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	黒後 裕彦	オリエンテーション	講義内容についてまとめる		4 時間	
2	黒後 裕彦	障害の分類	障害の分類の知識について復習する		4 時間	
3	黒後 裕彦	国際疾病分類と国際障害分類	国際疾病分類と国際障害分類についての知識について復習する		4 時間	
4	黒後 裕彦	国際生活機能分類（1）	国際生活機能分類についての知識について復習する		4 時間	
5	黒後 裕彦	国際生活機能分類（2）	国際生活機能分類についての知識について復習する		4 時間	
6	黒後 裕彦	障害分類の変遷	授業までに障害分類の変遷についてまとめる		4 時間	
7	黒後 裕彦	問題とあるべき姿	講義で出題された課題についてまとめる		4 時間	
8	黒後 裕彦	予後予測と目標設定	講義で出題された課題についてまとめる		4 時間	
9	黒後 裕彦	環境因子	演習を振り返り、問診に必要な事項についてまとめる		4 時間	
10	黒後 裕彦	基本動作の重要性	講義で出題された課題についてまとめる		4 時間	
11	黒後 裕彦	原因の追究と対策との関係	講義で出題された課題についてまとめる		4 時間	
12	黒後 裕彦	臨床の答えは何故すっきりしないか？	講義で出題された課題についてまとめる		4 時間	
13	黒後 裕彦	問題解決の手順（1）	終了後、「問題解決の手順」に関する授業課題についてまとめる		4 時間	
14	黒後 裕彦	問題解決の手順（2）	終了後、「問題解決の手順」に関する授業課題についてまとめる		4 時間	
教 科 書		特になし				
参 考 書		症候障害学序説 理学療法の臨床思考過程モデル 内山靖 文光堂				
備 考		質問等は担当者に問い合わせること				

科 目 名		理学療法管理学		担 当 者	○黒後 裕彦・星 孝功 村上 賢一・阿部 功 坪田 朋子	
科目ナンバリング		1010432075			常勤・非常勤	
D P		1,2		教員 研 究 室	3102 3104 3115	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 理学療法士は職業人であり、医療専門職として管理業務を担う。本授業では、まず理学療法における管理とは何かについて総論を学び、次に各論として具体的な管理項目について扱う。また、理学療法教育や研究における管理についても言及し、さらに管理に必須である職業倫理についての理解を深める。				【課題等のフィードバック方法】 課題があれば、その内容について後日の授業内でフィードバックを行うことを原則とする		
【学習の到達目標】 リスク管理やマネジメントについての概要が理解できる教育・研究・地域領域においてのリスク管理ができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 終了後に学習内容をしっかりまとめておくこと		
【成績評価方法】 定期試験（80％）と課題（20％）によって単位認定する。 受験資格は学則に準ずる。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 理学療法業務に関する管理についての理解が深まる		
【実務家教員担当科目】 理学療法の業務管理に携わった経験のある教員と非常勤講師が、リハビリテーション専門職として理解すべき理学療法管理について講義する。						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	黒後	管理・マネジメントとは（1）	講義終了後に、「管理・マネジメント」についてまとめておくこと	4 時間
2	黒後	管理・マネジメントとは（2）	講義終了後に、「管理・マネジメント」についてまとめておくこと	4 時間
3	黒後	権利擁護と職業倫理（1）	講義終了後に、「権利擁護と職業倫理」についてまとめておくこと	4 時間
4	黒後	権利擁護と職業倫理（2）	講義終了後に、「権利擁護と職業倫理」についてまとめておくこと	4 時間
5	星	業務マネジメント（1）	講義終了後に、「業務マネジメント」についてまとめておくこと	4 時間
6	星	業務マネジメント（2）	講義終了後に、「業務マネジメント」についてまとめておくこと	4 時間
7	坪田	災害時のマネジメント（1）	講義終了後に、「災害時のマネジメント」についてまとめておくこと	4 時間
8	坪田	災害時のマネジメント（1）	講義終了後に、「災害時のマネジメント」についてまとめておくこと	4 時間
9	星	医療安全マネジメント（1）	講義終了後に、「医療安全マネジメント」についてまとめておくこと	4 時間
10	星	医療安全マネジメント（2）	講義終了後に、「医療安全マネジメント」についてまとめておくこと	4 時間
11	阿部	地域の中でのマネジメント（1）	講義終了後に、「地域の中でのマネジメント」についてまとめておくこと	4 時間
12	阿部	地域の中でのマネジメント（2）	講義終了後に、「地域の中でのマネジメント」についてまとめておくこと	4 時間
13	村上	教育・研究のマネジメント（1）	講義終了後に、「教育・研究のマネジメント」についてまとめておくこと	4 時間
14	黒後	教育・研究のマネジメント（2）	講義終了後に、「教育・研究のマネジメント」についてまとめておくこと	4 時間

教 科 書	理学療法管理学（医歯薬出版）
参 考 書	なし
備 考	授業運営に関わる問い合わせには黒後が対応し、授業内容については各回の担当教員が対応する。

科 目 名		理学療法評価技術演習Ⅱ		担 当 者	○小林 武・黒後 裕彦 鈴木 誠・星 孝 村上 賢一・三木 千栄 小野部 純・高橋 一揮 鈴木 博人・平山 和哉 阿部 玄治・長井 真弓 沼田 純希・銀明佳代子	
科目ナンバリング		1010432077			常勤	
D P		1,3		教員研究室	小林：3103	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 主として徒手筋力検査と神経学的検査の習得を進めるとともに、検査結果が意味する臨床徴候とそこから障害像を推定する思考過程を学ぶ。			【課題等のフィードバック方法】 ・実技試験：担当試験官が個別にフィードバックする。 ・予習復習テスト：その都度答案を返却する。必要に応じて個別指導する。			
【学習の到達目標】 ・徒手筋力検査と神経学的検査、パフォーマンステストを安全かつ効果率的に実施できる。 ・ADL ならびに QOL の概念と各種評価尺度について、その特徴と構成要素を説明できる。 ・上記の検査・測定における正常値（参考値）と異常値の意味を説明できる。			【履修上の注意・予習・復習について】 ・各自所有の検査器具とバスタオルを持参すること。			
【成績評価方法】 ・実技試験、予習復習テストそれぞれの得点率が全て 60% 以上であることを単位認定の条件とする。 ・上記を満たした場合、予習復習テストと実技試験をそれぞれ 50 点換算して合計し 100 点満点として単位認定する。			【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・理学療法士として、接遇を含めた基本的検査測定技術を身につけることができる。 ・理学療法検査測定手技を身体運動学および神経学的観点からとらえることができる。			
【実務家教員担当科目】 多種多様な疾患を経験した理学療法士が、様々な理学療法の検査・測定・試験などを正確に、効率よく実施する貯めに必要な知識と技術を教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	小林、小野部	筋力検査①：筋力検査総論、股関節屈曲、膝関節伸展の MMT	筋力検査の総論、股関節屈曲と膝関節伸展の MMT について予習・復習すること。		1 時間	
2	小林、小野部	筋力検査②：股関節の MMT	股関節の MMT について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間	
3	小林、小野部	筋力検査③：膝関節、足関節の MMT	膝関節、足関節の MMT について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間	
4	小林、小野部	筋力検査④：肩関節の MMT	肩関節の MMT について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間	
5	小林、小野部	筋力検査⑤：肘関節、前腕、手関節の MMT	肘関節、前腕、手関節の MMT について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間	
6	小林、小野部	筋力検査⑥：頭部、頸部の MMT	頭部、頸部の MMT について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間	
7	小林、小野部	筋力検査⑦肩甲骨周囲筋、体幹の MMT	肩甲骨周囲筋、体幹の MMT について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間	
8	小林、小野部	徒手筋力検査法の総復習、習熟度確認	徒手筋力検査法全般について復習・実技練習しておくこと、習熟度確認後には各自の振り返りをまとめること。		1 時間	
9	小林、小野部	神経学的検査①：感覚検査	感覚検査全般について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間	
10	小林、小野部	神経学的検査②：反射・筋トームス検査	表在反射、深部反射、病的反射、筋トームス検査について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間	
11	小林、小野部	神経学的検査③：協調性検査	測定異常、反復運動障害、跳ね返り現象等の検査について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間	
12	小林、小野部	神経学的検査④：バランス検査と姿勢反射・反応	バランスの定性的・定量的評価法について予習し、授業で学んだ当該検査についてレポートにまとめること。		1 時間	
13	小林、小野部	臨床評価尺度	簡易知能検査、ADL、QOL の評価について予習・復習すること。		1 時間	
14	小林、小野部	神経学的検査の総復習、習熟度確認	神経学的検査全般について復習・実技練習しておくこと、習熟度確認後には各自の振り返りをまとめること。		1 時間	
教 科 書		「リハビリテーション基礎評価学 第 2 版」潮見泰蔵、下田信明編集、羊土社 「徒手筋力検査法」日本理学療法学会連合監修、日本理学療法学会連合理学療法標準化検討委員会編集、メジカルビュー社				
参 考 書		「新・徒手筋力検査法 原著第 10 版」津山直一訳、協同医書出版 理学療法評価学関係の書籍全般				
備 考		複数名の教員、TA、ピアサポーターが演習指導に参加する予定である。実技試験には専攻専門教員全員が関わる。				

科 目 名		運動動作分析演習			担 当 者	○村上 賢一・鈴木 博人	
科目ナンバリング		1010432078				常勤	
D P		1,3			教員研究室	3119	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 身体運動学・運動制御論で学んだ基礎知識をもとに、臨床における運動動作分析の意義と技術を習得し、多様な動作パターンを適切に分析できることを目標とする。 動作分析の基本、姿勢制御、基本動作分析、各種疾患で生じる異常動作の特徴および原因について演習を中心に授業を行う。 【学習の到達目標】 運動・動作を観察し、関節運動を表現できる 関節運動に必要な筋活動を推測できる 姿勢保持に必要な筋活動を推測できる 正常歩行の関節運動パターンと筋活動を説明できる 【成績評価方法】 全てのレポート提出を前提として、期末定期試験 100% 【課題等のフィードバック方法】 提出課題の内容については、次の週の授業冒頭にてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 予習事項：次回行う演習内容の確認（教科書を読むこと、動作パターンを自身で行い確認すること） 復習事項：授業で行った演習の完成と再確認（課題レポート提出） 【受講して得られる効果・メリット、その他】 理学療法における基本的評価手法を学び、臨床能力を高めることができる。また、身体運動学の臨床における活用法を理解できる。 【実務家教員担当科目】 病院等で理学療法士として臨床経験のある教員が、臨床との関係を説明しながら演習を行わせる。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	村上 鈴木	運動動作分析概論	復習：演習課題の実施（運動動作分析の概要）				1 時間
2	村上 鈴木	運動観察 1	復習：演習課題の実施（運動観察 1）				1 時間
3	村上 鈴木	運動観察 2	復習：演習課題の実施（運動観察 2）				1 時間
4	村上 鈴木	運動観察 3	復習：演習課題の実施（運動観察 3）				1 時間
5	担当教員 全員	歩行分析 1	復習：演習課題の実施（歩行分析 1）				1 時間
6	村上 鈴木	歩行分析 2	復習：演習課題の実施（歩行分析 2）				1 時間
7	村上 鈴木	歩行分析 3	復習：演習課題の実施（歩行分析 3）				1 時間
8	村上 鈴木	歩行分析 4	復習：演習課題の実施（歩行分析 4）				1 時間
9	村上 鈴木	平衡機能の評価 1	復習：演習課題の実施（平衡機能の評価 1）				1 時間
10	村上 鈴木	平衡機能の評価 2	復習：演習課題の実施（基平衡機能の評価 2）				1 時間
11	村上 鈴木	基本動作分析 1	復習：演習課題の実施（基本動作分析 1）				1 時間
12	村上 鈴木	基本動作分析 2	復習：演習課題の実施（基本動作分析 2）				1 時間
13	村上 鈴木	基本動作分析 3	復習：演習課題の実施（基本動作分析 3）				1 時間
14	村上 鈴木	基本動作分析 4	復習：演習課題の実施（基本動作分析 4）				1 時間
教 科 書		藤澤宏幸、長崎浩：観察による運動・動作分析演習ノート。医歯薬出版					
参 考 書		中村隆一他編：基礎運動学。医歯薬出版					
備 考		問い合わせ先：村上					

科 目 名		臨床動作分析演習		担 当 者	○村上 賢一・阿部 玄治	
科目ナンバリング		1010432079			常勤	
D P		2,3		教員研究室	3119	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 本演習では、さまざまな障害がある場合、特に身体運動に障害がある場合の動作分析を学ぶ。1 年次後期から 2 年次前期で学んだ身体運動学の知識をもとに、基本的な日常生活における動作を対象として観察と分析、およびその記録について演習を行う。 主にビデオによる患者の運動・動作について分析演習を行う。				【課題等のフィードバック方法】 予習課題については、次講義の疾患特性や動作について確認すること。 授業冒頭に、予習項目の疾患特性や動作について説明をする。		
【学習の到達目標】 運動障害と動作障害の関係が理解できる。 疾患によって特徴的な徴候を示す動作があることを知り、動作の観察、分析、記録ができる。 ・中枢神経疾患がある場合の基本動作の記録、分析ができる。 ・中枢神経疾患がある場合の歩行の記録、分析ができる。 ・運動器疾患がある場合の基本動作の記録、分析ができる。 ・運動器疾患がある場合の歩行の記録、分析ができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 患者の運動・動作を模倣できるように動きやすい服装にて受講すること。		
【成績評価方法】 成績は定期試験（100％）にて評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 健全な運動動作の分析を基礎とし、機能障害を持つ場合の運動動作の分析の視点を学ぶことができる。 臨床実習で実践するため、理学療法士として常に必要な運動動作分析の経験を重ねる。		
【実務家教員担当科目】 多種多様な疾患を経験した理学療法士が、理学療法を進めるための運動動作分析による臨床思考過程を、ケーススタディを通して教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	村上 賢一	臨床における運動・動作分析の基礎 運動・動作分析法、記述法	運動動作分析演習の運動学・運動力学を復習する			1 時間
2	阿部 玄治、 村上 賢一	運動器障害 1 (起き上がり)	運動器疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
3	阿部 玄治、 村上 賢一	運動器障害 1 (立ち上がり)	運動器疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
4	阿部 玄治、 村上 賢一	運動器障害 1 (歩行①)	運動器疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
5	阿部 玄治、 村上 賢一	運動器障害 1 (歩行②)	運動器疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
6	阿部 玄治、 村上 賢一	運動器障害 2 (起き上がり)	運動器疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
7	阿部 玄治、 村上 賢一	運動器障害 2 (立ち上がり)	運動器疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
8	村上 賢一、 阿部 玄治	運動器障害 2 (歩行)	中枢神経疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
9	村上 賢一、 阿部 玄治	神経障害 1（起き上がり）	中枢神経疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
10	村上 賢一、 阿部 玄治	神経障害 1（立ち上がり）	中枢神経疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
11	村上 賢一、 阿部 玄治	神経障害 1（歩行）	中枢神経疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
12	村上 賢一、 阿部 玄治	神経障害 2（起き上がり）	中枢神経疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
13	村上 賢一、 阿部 玄治	神経障害 2（立ち上がり）	中枢神経疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
14	村上 賢一、 阿部 玄治	神経障害 1（歩行）	中枢神経疾患の機能障害と能力低下の因果を確認し、授業内演習の内容を復習する			1 時間
教 科 書		データに基づく臨床動作分析」藤澤宏幸 著 文光堂				
参 考 書		「観察による運動・動作分析演習ノート」藤澤宏幸・長崎浩 著 医歯薬出版				
備 考		問い合わせ先は、主担当の村上とする。				

科 目 名		運動療法学演習			担 当 者	○鈴木 誠・鈴木 博人 釵明佳代子
科目ナンバリング		1010432080				常勤
D	P	2,3			教員研究室	3105
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 運動療法の歴史を概観し、基本的運動療法手技の目的と原理ならびにその方法について学ぶ。また、基本的な運動療法手技を学生間で行い、実技を通して基本技術を習得する。					【課題等のフィードバック方法】 授業では内容に即した演習課題を設定し、随時質問を受け付け対応する。	
【学習の到達目標】 1. 基礎的な運動療法の理論的背景を説明することができる。 2. 基本的な運動療法を実践することができる。					【履修上の注意・予習・復習について】 受講する際は他人の迷惑にならないよう、私語は慎むこと。また、授業に臨むにあたり予習と復習を心がけること。実習時はジャージ等の動きやすい服装を着用すること。	
【成績評価方法】 中間及び期末試験（100%）の結果より総合的に判定する。詳細については、第1回目の講義にて説明する。					【受講して得られる効果・メリット、その他】 知識、技術だけではなく治療を受ける立場を経験することにより、運動療法実施上の治療者－患者関係を考える機会となりうる。	
					【実務家教員担当科目】 臨床において理学療法業務に従事した経験のある教員が、運動療法を実施するにあたり必要な基本的知識と技能について教授する。	
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	鈴木 誠 釵明佳代子	オリエンテーション 運動療法（総論・各論）、リスク管理	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
2	鈴木 誠 釵明佳代子	病態生理学、 関節の構造と機能①	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
3	鈴木 誠 釵明佳代子	関節の構造と機能②	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
4	鈴木 誠 釵明佳代子	関節可動域運動①	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
5	鈴木 誠 釵明佳代子	関節可動域運動②	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
6	鈴木 誠 釵明佳代子	ストレッチングエクササイズ	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
7	鈴木 誠 釵明佳代子	筋力増強運動①	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
8	鈴木 誠 釵明佳代子	筋力増強運動②	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
9	鈴木 誠 釵明佳代子	筋力増強運動③	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
10	鈴木 誠 釵明佳代子	筋力増強運動④	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
11	釵明佳代子、 鈴木 誠	持久力増強運動①	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
12	釵明佳代子、 鈴木 誠	持久力増強運動②	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
13	鈴木 博人、 釵明佳代子、 鈴木 誠	運動学習、基本動作練習、バランス練習①	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
14	鈴木 誠 釵明佳代子	運動療法機器を用いた運動療法について	教科書の指定範囲について要点をまとめること			1 時間
教 科 書		市橋則明 編集：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版，文光堂 藤澤宏幸、鈴木博人：運動学習 理学療法のための最新知見と障害別アプローチの実際，メディカルプレス				
参 考 書		中村隆一、齋藤 宏、長崎 浩：基礎運動学 第6版補訂，医歯薬出版				
備 考		上記担当者のほかに、複数名の教員が指導にあたる。なお、当該科目に関する不明な点は、科目責任者（鈴木誠、鈴木博人、釵明佳代子）まで問い合わせること。				

科 目 名	運動器理学療法演習Ⅰ			担 当 者	星 孝・阿部 玄治
科目ナンバリング	1010432081				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3104、3218
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業では、身体の組織損傷や治癒過程、骨折や変形を基とする障害、さらに部位別にみる疾患的および理学療法評価について講義する				【課題等のフィードバック方法】 講義中もしくは講義終了後に質問を受け、回答する	
【学習の到達目標】 部位で見る運動器障害や加療時期の違いによる理学療法を理解し、必要な検査項目を列挙、および選択できるための基礎知識を修得する。さらに、理学療法実践と介入展開を理解する				【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業は講義と実技演習の両立で行われる ・課題レポートは、必要時に教員の指示により提出を行う ・演習時間でなくても、実技や検査の実施が時間内で部分的に行われることがあり、実施に適切な服装での参加を希望する	
【成績評価方法】 ・定期試験（100％）：授業の領域に対する内容の筆記試験を実施する ・受験資格：当学受験資格における授業総回数の 2/3 以上（5 回の欠席で失効）を有すること				【受講して得られる効果・メリット、その他】 運動器の障害を呈する各種疾患の理学療法の基礎を習得できる	
				【実務家教員担当科目】 多種の運動器疾患の医学的リハビリテーションに携わった経験のある教員が、運動器疾患の理学療法を進めるために必要な知識、評価および治療について教授する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	星 孝	組織再生と修復 1	・組織傷害に対する「人の適応」について復習すること ・創傷治癒過程、組織修復と再生について復習すること		1 時間
2	星 孝	骨折と脱臼	骨折の分類／骨の構造的基盤について復習すること		1 時間
3	星 孝	骨折と変形性関節症	大腿骨頸部骨折と観血的治療について復習すること		1 時間
4	星 孝	股関節の理学療法（1）	変形性股関節症と観血的治療について復習すること		1 時間
5	星 孝	股関節の理学療法（2）	変形性股関節症の理学療法について復習すること		1 時間
6	星 孝	股関節の理学療法（3）	人工股関節置換術について復習すること		1 時間
7	星 孝	股関節の理学療法（4）	人工股関節置換術後の理学療法について復習すること		1 時間
8	星 孝	膝関節の理学療法（1）	変形性膝関節症と観血的治療について復習すること		1 時間
9	星 孝	膝関節の理学療法（2）	変形性膝関節症の理学療法について復習すること		1 時間
10	星 孝	膝関節の理学療法（3）	人工膝関節置換術と術後の理学療法について復習すること		1 時間
11	阿部 玄治	上肢骨折	上肢骨折の分類と理学療法について復習すること		1 時間
12	阿部 玄治	末梢神経損傷（1）	末梢神経損傷について復習すること		1 時間
13	阿部 玄治	末梢神経損傷（2）	末梢神経損傷の理学療法について復習すること		1 時間
14	星 孝	関節リウマチ	関節リウマチの理学療法について復習すること		1 時間
教 科 書	・15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト「運動器障害理学療法Ⅰ」 中山書店 ・病気が見える⑪ 運動器・整形外科。MEDIC MEDIA				
参 考 書	・標準整形外科学。医学書院				
備 考	当該科目に関する問い合わせは星が行う。各授業に質問は担当教員が行う。				

科 目 名		運動器理学療法演習Ⅱ		担 当 者	○小林 武・阿部 玄治 平山 和哉	
科目ナンバリング		1010432082			常勤	
D	P	1,3		教員研究室	小林：3103、阿部：3218、平山：3219	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 「運動器理学療法演習Ⅰ」と同様に、運動器障害を呈する各種疾患の知識（病因、病態生理、症候）と理学療法評価、介入法について学習する。				【課題等のフィードバック方法】 講義中もしくは講義終了後に質問を受け、回答する。		
【学習の到達目標】 部位別の運動器障害や加療時期の違いによる理学療法を理解し、必要な検査項目を列挙、選択するための基礎知識を修得する。また理学療法実践を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻、私語、必要時以外のスマートフォンの操作、および飲食など受講に支障を来たす行為は禁止。		
【成績評価方法】 定期試験（100％）で評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 運動器障害を呈する各種疾患の理学療法について学習できる。		
【実務家教員担当科目】 多種の運動器疾患の医学的リハビリテーションに携わった経験のある教員が、運動器疾患の理学療法を実施するために必要な知識、評価および治療について教授する。						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	阿部、平山、小林	オリエンテーション 肩関節障害（1）：総論と理学療法評価	肩関節の機能解剖の復習と、肩関節疾患における理学療法評価を予習すること。	1 時間
2	阿部、平山、小林	肩関節障害（2）：肩関節障害の理学療法評価と治療 1	肩関節周囲炎と腱板損傷の病態生理の復習と、その理学療法評価と治療を予習すること。	1 時間
3	阿部、平山、小林	肩関節障害（3）：肩関節障害の理学療法評価と治療 2	2 講の学習内容の復習と、肩関節周囲炎と腱板損傷における理学療法の一連の過程を予習すること。	1 時間
4	阿部、平山、小林	膝・足関節障害（1）：総論と理学療法評価	膝・足関節の機能解剖の復習と、膝・足関節疾患における理学療法評価を予習すること。	1 時間
5	阿部、平山、小林	膝・足関節障害（2）：靱帯損傷・半月板損傷の理学療法評価と治療 1	膝・足関節の靱帯損傷と半月板損傷の病態生理の復習と、その理学療法評価と治療を予習すること。	1 時間
6	阿部、平山、小林	膝・足関節障害（3）：靱帯損傷・半月板損傷の理学療法評価と治療 2	5 講の学習内容の復習と、膝・足靱帯損傷と半月板損傷における理学療法の一連の過程を予習すること。	1 時間
7	平山、阿部、小林	四肢の傷害：総論と理学療法評価・治療	アキレス腱断裂や肉離れの病態生理の復習と、その理学療法評価と治療を予習すること。	1 時間
8	平山、阿部、小林	四肢の慢性疾患（1）：総論と理学療法評価と治療 1	野球肘やジャンパー膝などの慢性疾患の病態生理の復習と、その理学療法評価と治療を予習すること。	1 時間
9	平山、阿部、小林	四肢の慢性疾患（2）：総論と理学療法評価と治療 2	8 講の学習内容の復習と四肢慢性疾患における理学療法の一連の過程を予習すること。	1 時間
10	小林、阿部、平山	頸部・腰部疾患（1）：総論	頸部・腰部疾患の病態生理の復習と、頸部・腰部疾患における理学療法評価および治療の項目を予習すること。	1 時間
11	小林、阿部、平山	頸部・腰部疾患（2）：頸部・腰部疾患の理学療法評価と治療 1	10 講の学習内容の復習と、頸部・腰部疾患における理学療法について予習すること。	1 時間
12	小林、阿部、平山	頸部・腰部疾患（3）：頸部・腰部疾患の理学療法評価と治療 2	11 講の学習内容の復習と、頸部・腰部疾患の理学療法評価および治療の項目を予習すること。	1 時間
13	小林、阿部、平山	頸部・腰部疾患（4）：頸部・疾患の理学療法評価と治療 3	12 講の学習内容の復習と、頸部・腰部疾患の理学療法について予習すること。	1 時間
14	阿部、平山、小林	整形外科疾患を対象とした徒手テストの理論と実践	様々な整形外科的テスト（Special test）の予習と、授業終了後は一覧にまとめてみるなどの復習を行うこと。	1 時間
教 科 書		「Crosslink 理学療法学テキスト運動器障害理学療法学」加藤浩編集、メジカルビュー社		
参 考 書		「運動器障害理学療法学Ⅰ」河村廣幸（責任編集）石川朗（総編集）中山書店 「標準整形外科学」松野文夫、中村利孝 総編集 医学書院 15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト「運動器障害理学療法学Ⅱ」河村廣幸（責任編集）石川朗（総編集）中山書店		
備 考		科目に関する問い合わせは小林が対応する。質問は各担当教員に問い合わせること。		

科 目 名		運動器理学療法演習Ⅲ		担 当 者	○小林 武・阿部 玄治 平山 和哉・塚田 雅弘	
科目ナンバリング		1010432083			常勤	
D	P	2,3		教員研究室	小林：3103、阿部：3218、平山：3219	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 「運動器障害系病学」「運動器理学療法演習Ⅰ・Ⅱ」で習得したことを基礎としてケーススタディを実施する。また、スポーツと理学療法に関する講義・演習を行う。 【学習の到達目標】 1) 提示症例の症例評価報告書（臨床実習Ⅱの提出課題）を作成できる。 2) 足関節のテーピングを実施できる。 3) スポーツ分野への理学療法士の関わりについて説明できる。 【成績評価方法】 ・症例評価報告書の内容（全理解：10%）、スライドの内容（要点理解：10%）、質問への返答の妥当性（論理的思考：10%）、質問内容（批判的吟味：10%）、定期試験（総合的知識：60%）で評価する。 ・学則で規定されている出席条件が満たされない場合、あるいは定期試験の点数が満点の 36% に満たない場合は単位認定しない。 【課題等のフィードバック方法】 ・症例評価報告会での発表後に、提出された症例評価報告書と発表内容、質疑応答について各症例提示教員が講評する。 【履修上の注意・予習・復習について】 1) 2 コマ授業を 7 回実施する。 2) 「運動器障害系病学」「運動器理学療法演習Ⅰ・Ⅱ」の内容を総復習しておくこと。 3) 教科書・参考書類を指定しないので、ケーススタディに必要なと思われる書籍を各自で準備すること。資料選択・準備も理学療法士にとっては重要なスキルであることを理解すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨床実習Ⅱの提出課題となっている症例評価報告書の作成を事前に体験できる。スポーツ理学療法の知識・技術が増える。 【実務家教員担当科目】 多種の運動器疾患の医学的リハビリテーションに携わった経験のある教員が、運動器疾患の理学療法を進めるための臨床思考過程をケーススタディを通して教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	小林、阿部、平山	・ 症例評価報告書の成り立ちと作成方法 ・ case study ①：股関節疾患症例検討	・ 一連の理学療法評価について予習すること。 ・ 股関節疾患の提示症例について症例評価報告書を作成する。		1 時間	
2	小林、阿部、平山	・ case study ①：股関節疾患症例検討	・ 股関節疾患の提示症例について症例評価報告書を作成する。 ・ プレゼンテーションの準備をする。		1 時間	
3	小林、阿部、平山	・ case study ①：股関節疾患症例評価報告会	・ 股関節疾患提示症例についてプレゼンテーションの練習と質問への返答準備をしておく。		1 時間	
4	小林、阿部、平山	・ case study ②：膝関節疾患症例検討	・ 膝関節疾患提示症例について症例評価報告書を作成する。 ・ プレゼンテーションの準備をする。		1 時間	
5	小林、阿部、平山	・ case study ②：膝関節疾患症例検討	・ 膝関節疾患提示症例についてプレゼンテーションの練習と質問への返答準備をしておく。		1 時間	
6	阿部、平山、小林	スポーツと理学療法①：テーピング実習	・ 足関節障害について復習しておくこと。 ・ 実習で学んだことを復習するために、学生同士でテーピング練習を繰り返し行うこと。		1 時間	
7	塚田	スポーツと理学療法②：各種スポーツ疾患の理学療法実践	骨関節障害系病学の教科書「標準整形外科学」でスポーツ外傷とスポーツ障害についてしっかり予習するとともに、授業で学んだ事項について復習すること。			
教 科 書		指定しない。プリントを配布する場合がある。				
参 考 書		運動器理学療法学に関係する印刷出版物全般				
備 考		問い合わせ等には小林が対応する。理学療法学専攻教員 1 名が支援に加わる。				

科 目 名		小児理学療法演習Ⅰ		担 当 者	鈴木 誠	
科目ナンバリング		1010432084			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3105	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 乳幼児の定型運動発達とそれに関連する反射・反応について学習する。			【課題等のフィードバック方法】 演習課題の解説を講義内で随時行う。			
【学習の到達目標】 1. 乳幼児の定型運動発達について理解する。 2. 乳幼児の発達過程で見られる反射・反応について理解する。 3. 運動発達の評価指標について理解する。			【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻と私語を慎み、他の受講生の妨げとならないように注意すること。 また、授業毎に予習・復習に努めること。			
【成績評価方法】 成績判定は、中間及び期末試験（100%）から総合的に判定する。詳細は、第1回目の講義にて説明を行う。			【受講して得られる効果・メリット、その他】 小児領域の理学療法に関する知識を修得する事が出来る。			
【実務家教員担当科目】 多種の小児疾患の医学的リハビリテーションに携わった経験のある教員が、理学療法を進めるために必要な運動発達の基礎について知識を教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	鈴木 誠	定型運動発達について（総論）	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
2	鈴木 誠	定型運動発達について（各論）	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
3	鈴木 誠	新生児期およびそれ以降の反射・反応について	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
4	鈴木 誠	発達検査と運動発達検査について	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
5	鈴木 誠	背臥位姿勢及び寝返り動作の発達について	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
6	鈴木 誠	腹臥位姿勢の発達について	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
7	鈴木 誠	坐位姿勢の発達について	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
8	鈴木 誠	立位姿勢の発達について	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
9	鈴木 誠	テーマ1～7の復習とまとめ	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
10	鈴木 誠	四つ這い移動の発達について	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
11	鈴木 誠	歩行の発達について①	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
12	鈴木 誠	歩行の発達について②	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
13	鈴木 誠	歩行の発達について③	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
14	鈴木 誠	上肢機能の発達について	予習：講義ノートで示す教科書の指定範囲について、要点をまとめること。 復習：説明課題についてまとめること		1 時間	
教 科 書		細田多穂 監修：シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第4版, 南江堂 鈴木誠：小児理学療法演習Ⅰ 講義ノート - 身体運動学を基軸とした定型運動発達の理解 -, 学内印刷版				
参 考 書		講義内で適宜紹介する				
備 考		当該科目に関する不明な点は、科目責任者（鈴木）まで問い合わせること。				

科 目 名		小児理学療法演習Ⅱ			担 当 者	○鈴木 誠・星 孝 三浦 利彦	
科目ナンバリング		1010432085				常勤・非常勤	
D P		1,2			教員 研 究 室		3105
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次		3 年次・前期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 小児疾患に対する理学療法について学習する。					【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業では演習課題を課す。 その課題のフィードバックを次の授業の冒頭で行う。		
【学習の到達目標】 1. 脳性麻痺に対する基本的な理学療法を理解する。 2. 進行性筋ジストロフィーに対する基本的な理学療法を理解する。 3. 上記以外の小児領域の疾患に対する理学療法を理解する。					【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻と私語を慎み、他の受講者の妨げとならないように注意すること。 また、授業毎に予習・復習に努めること。		
【成績評価方法】 成績判定は、定期試験（100%）から総合的に判定する。なお、詳細は第 1 回目の講義にて説明を行う。					【受講して得られる効果・メリット、その他】 小児領域の理学療法に関する知識を修得する事ができる。		
					【実務家教員担当科目】 小児疾患の医学的リハビリテーションに携わった経験のある教員が、理学療法に必要な知識、評価及び治療について教授する。		
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	鈴木 誠	療育とそれにまつわる歴史と発達障害を持つ子どもへの理学療法の基本的考え方	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
2	鈴木 誠	脳性麻痺の理学療法（総論）	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
3	鈴木 誠	脳性麻痺の理学療法（各論①） 痙直型両麻痺	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
4	鈴木 誠	脳性麻痺の理学療法（各論②） 痙直型四肢麻痺	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
5	鈴木 誠	脳性麻痺の理学療法（各論③） 痙直型片麻痺	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
6	鈴木 誠	脳性麻痺の理学療法（各論④） アテトーゼ型	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
7	鈴木 誠、 三浦 利彦	進行性筋ジストロフィーの理学療法（総論）	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
8	三浦 利彦、 鈴木 誠	進行性筋ジストロフィーの理学療法（各論①）	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
9	星 孝	重症心身障害児者の理学療法（重度心身障害児者の身体障害の特徴）	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
10	星 孝	重症心身障害児者の理学療法（重度心身障害児者の呼吸リハビリテーション）	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
11	星 孝	重症心身障害児者の理学療法（重症心身障害児者の定義、重症度スコア）	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
12	鈴木 誠	低出生体重児の理学療法（総論・各論）	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
13	鈴木 誠	小児の運動器疾患等の理学療法（総論・各論）	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
14	鈴木 誠	「発達障害者支援法」による発達障害について	教科書の指定範囲について要点をまとめておくこと				1 時間
教 科 書		細田多穂 監修：シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第 4 版，南江堂。 鈴木誠：小児理学療法演習Ⅱ 身体運動学を基盤にした小児疾患の理解とその理学療法，学内印刷版。					
参 考 書		講義内で適宜紹介する。					
備 考		当該科目に関する不明な点は、科目責任者（鈴木 誠）まで問い合わせること。					

科 目 名		神経理学療法演習Ⅰ		担 当 者	○村上 賢一・沼田 純希	
科目ナンバリング		1010432086			常勤	
D	P	1,3		教員研究室	3119	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 脳の構造理解や CT・MRI などの画像診断を通し、多様な脳血管障害の病態を理解する。加えて、脳血管障害者の機能評価を、講義・演習を通して学ぶことを目標とする。 【学習の到達目標】 1. 脳の構造を理解し、脳血管疾患（脳出血・脳梗塞）の画像診断ができる。 2. 脳血管障害の病態・障害を知り、臨床症状に対し適切に評価項目を選択・実施できる。 【成績評価方法】 成績は定期試験（100％）にて評価する。 また小テスト平均 60 点以上の成績を修めること。 【課題等のフィードバック方法】 授業冒頭に、注意点や重要点について説明する。 【履修上の注意・予習・復習について】 後半は、脳血管障害特有の評価法の実践があるため、動きやすい服装で臨むこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 理学療法士として関わることの多い脳血管障害者に対する理学療法の基礎および評価法について学ぶことができる。また、脳血管障害者に限らず、各種神経疾患についてもその評価法を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 多種の神経疾患の医学的リハビリテーションに携わった経験のある教員が、神経疾患の理学療法を進めるために必要な知識、評価および治療について教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	村上 賢一	脳の構造と機能：CT・MRI の画像診断	講義内容の復習			1 時間
2	村上 賢一	脳血管障害の病態 1：脳血管障害の分類	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
3	村上 賢一	脳血管障害の病態 2：CT・MRI の画像診断	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
4	村上 賢一	脳血管障害の病態 3：CT・MRI の画像診断	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
5	村上 賢一	脳血管障害の病態 4：代表的な病巣と臨床症状	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
6	村上 賢一	脳卒中の検査測定演習：脳循環代謝とバイタルサインの異常	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
7	沼田 純希 村上 賢一	脳卒中の検査測定演習：反射検査、筋緊張検査	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
8	村上 賢一 沼田 純希	脳卒中の検査測定演習：片麻痺運動機能テスト 1（Brunnstrom Recovery Stage 上肢）	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
9	村上 賢一 沼田 純希	脳卒中の検査測定演習：片麻痺運動機能テスト 2（Brunnstrom Recovery Stage 手指・下肢）	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
10	村上 賢一 沼田 純希	脳卒中の検査測定演習：片麻痺運動機能テスト 3（12 段階式片麻痺機能検査、Motricity Index）	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
11	沼田 純希 村上 賢一	脳卒中の検査測定演習：協調性・感覚・脳神経検査	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
12	沼田 純希 村上 賢一	脳卒中の検査測定演習：高次脳機能検査	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
13	沼田 純希 村上 賢一	脳卒中の検査測定演習：バランス評価	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
14	沼田 純希 村上 賢一	脳卒中の検査測定演習：包括的機能評価	小テスト範囲（前講義にて周知）			1 時間
教 科 書		「ベッドサイド神経の診かた」 田崎義昭 編 南山堂 「CT・MRI 画像解剖ポケットアトラス」 町田徹 監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 「15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法Ⅰ」 石川朗 中山書店				
参 考 書		「プロメテウス解剖学アトラス 頭部・神経解剖」 坂井建雄 監訳 医学書院 「神経局在診断」 半田肇 監訳 文光堂				
備 考		問い合わせ先は、主担当の村上とする。				

科 目 名		神経理学療法演習Ⅱ		担 当 者	○村上 賢一・沼田 純希 高橋 一揮	
科目ナンバリング		1010432087			常勤	
D	P	1,3		教 員 研 究 室	3119	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 脳・神経理学療法演習Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、脳卒中片麻痺における評価から治療手技までの技術を習得することを目標とする。特に治療は、運動動作分析の関連性を重視し、講義する。 【学習の到達目標】 1. 脳卒中片麻痺の姿勢・動作分析の観察ポイントを理解し、問題点を抽出できる。 2. 脳血管疾患のリスク管理に注意し、基本的な治療項目を実施できる。 【成績評価方法】 成績は定期試験（100％）にて評価する。 また、小テスト平均 60 点以上の成績を修めること。 【課題等のフィードバック方法】 授業冒頭に、注意点や重要点について説明する。 【履修上の注意・予習・復習について】 後半は、中枢神経疾患特有の介入法の実践があるため、動きやすい服装で臨むこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 理学療法士として関わることの多い脳卒中患者に対する理学療法のリスク管理および介入法について学ぶことができる。また、脳卒中患者に限らず、各種神経疾患についてもその介入法の基礎となる思考過程を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 多種の神経疾患の医学的リハビリテーションに携わった経験のある教員が、神経疾患の理学療法を進めるために必要な知識、評価および治療について教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	村上 賢一	理学療法の目的・思考展開① 脳卒中治療ガイドラインの活用	講義内容の復習		1 時間	
2	村上 賢一	理学療法の目的・思考展開② 各病期の理学療法	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
3	村上 賢一	理学療法の目的・思考展開③ 神経治療と回復・予後予測	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
4	村上 賢一	理学療法の目的・思考展開④ 病型別の開始基準と中止基準（リスク管理）	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
5	村上 賢一	具体的理学療法介入① 運動機能回復の課題・介入方略	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
6	村上 賢一	具体的理学療法介入② ROM・良肢位保持・疼痛	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
7	村上 賢一 沼田 純希	具体的理学療法介入③ 座位耐性訓練・筋力・上肢機能	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
8	村上 賢一 沼田 純希	具体的理学療法介入④ 感覚・バランス	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
9	高橋 一揮	具体的理学療法介入⑤ 脳卒中の呼吸理学療法	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
10	村上 賢一 沼田 純希	具体的理学療法介入⑥ 動作練習とハンドリング 1	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
11	村上 賢一 沼田 純希	具体的理学療法介入⑦ 動作練習とハンドリング 2	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
12	村上 賢一 沼田 純希	具体的理学療法介入⑦ 歩行訓練・補装具療法・特殊な症状への介入	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
13	村上 賢一 沼田 純希	ケーススタディ①	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
14	村上 賢一 沼田 純希	ケーススタディ②	小テスト範囲（前講義にて周知）		1 時間	
教 科 書		「ベッドサイド神経の診かた」田崎義昭 編 南山堂 「15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ」石川朗 中山書店				
参 考 書		「標準理学療法学 運動療法学 各論」吉尾雅春 編 医学書院				
備 考		問い合わせ先は、主担当の村上とする。				

科 目 名		神経理学療法演習Ⅲ		担 当 者	○村上 賢一・沼田 純希 坂本 保夫	
科目ナンバリング		1010432088			常勤	
D	P	2,3		教員研究室	3119	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 脊髄損傷、脊髄小脳変性症と失調症、パーキンソニズム、脳外傷、神経難病の評価から治療実施までの理学療法を習得することを目的とする。				【課題等のフィードバック方法】 授業冒頭に、注意点や重要点について説明する。		
【学習の到達目標】 1. 脊髄損傷・脊髄小脳変性症、パーキンソニズム、脳外傷、神経難病の評価と治療を理解する。 2. 評価および治療手技を習得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 実習の講義については、動きやすい服装で臨むこと。		
【成績評価方法】 成績は定期試験（100%）にて評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 本講義では、各種の神経疾患のうち特に担当することの多いもの、また脳外傷や脊髄損傷について講義する。これらは、Ⅰ・Ⅱで講義した脳卒中よりは頻度は少ないものの、理学療法士として一般的に介入する機会があるものであるため、重要である。		
				【実務家教員担当科目】 多種の神経疾患の医学的リハビリテーションに携わった経験のある教員が、神経疾患の理学療法を進めるために必要な知識、評価および治療について教授する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	沼田 純希	パーキンソニズムの臨床神経学と理学療法評価実習	パーキンソニズムの復習 ・小テストの準備（内容は講義中に周知）		1 時間	
2	沼田 純希	パーキンソニズムの運動療法実習	パーキンソニズムの復習 ・小テストの準備（内容は講義中に周知）		1 時間	
3	村上 賢一	脊髄小脳変性症と失調症の臨床神経学と理学療法評価実習	脊髄小脳変性症と失調症の復習・小テストの準備（内容は講義中に周知）		1 時間	
4	村上 賢一	脊髄小脳変性症と失調症の運動療法実習	脊髄小脳変性症と失調症の復習・小テストの準備（内容は講義中に周知）		1 時間	
5	沼田 純希	脳外傷の臨床徴候と理学療法評価・運動療法	脳外傷の復習・小テストの準備（内容は講義中に周知）		1 時間	
6	村上 賢一	脊髄損傷の疫学と臨床徴候	脊髄損傷の復習・小テストの準備（内容は講義中に周知）		1 時間	
7	村上 賢一	脊髄損傷の理学療法評価	脊髄損傷の復習・小テストの準備（内容は講義中に周知）		1 時間	
8	村上 賢一	脊髄損傷の検査測定実習	脊髄損傷の復習・小テストの準備（内容は講義中に周知）		1 時間	
9	村上 賢一	脊髄損傷の理学療法①	脊髄損傷の復習・小テストの準備（内容は講義中に周知）		1 時間	
10	沼田 純希	脊髄損傷の理学療法②	脊髄損傷の復習・小テストの準備（内容は講義中に周知）		1 時間	
11	村上 賢一 坂本 保夫	A：理学療法評価の実践① B：神経難病の臨床徴候と理学療法評価・運動療法	脳卒中者への評価実践準備		1 時間	
12	村上 賢一 坂本 保夫	A：理学療法評価の実践② B：神経難病の臨床徴候と理学療法評価・運動療法	神経障害評価・神経難病の復習・小テストの準備（内容は講義中に周知）		1 時間	
13	村上 賢一 坂本 保夫	B：理学療法評価の実践① A：神経難病の臨床徴候と理学療法評価・運動療法	脳卒中者への評価実践準備)		1 時間	
14	村上 賢一 坂本 保夫	B：理学療法評価の実践② A：神経難病の臨床徴候と理学療法評価・運動療法	神経障害評価・神経難病の復習・小テストの準備（内容は講義中に周知）		1 時間	
教 科 書		「CT/MRI 画像解剖ポケットアトラス 1 頭部・頸部」町田徹 監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 「15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ」石川朗 著 中山書店				
参 考 書		「四肢麻痺と対麻痺」荻原新八郎 訳 医学書院 「脊髄損傷の理学療法」武田功 医歯薬出版				
備 考		問い合わせ先は、主担当の村上とする。				

科 目 名		内部障害理学療法演習Ⅰ		担 当 者	○高橋 一揮・星 孝 釧明佳代子	
科目ナンバリング		1010432089			常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	3101	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 循環器理学療法の基礎となる運動生理、循環器疾患、心電図、運動負荷試験などについて講義する。また基礎的な循環器疾患に関する運動療法を修得し、演習課題を通して評価から治療までの循環器理学療法の流れを理解する 【学習の到達目標】 ・生体における循環器系の機能について説明できる ・心臓リハビリテーションの役割を理解し、理学療法プログラムを立案できる ・循環器系のリスク管理について理解し、理学療法に活かすことができる 【成績評価方法】 ・出席 2 / 3 以上（毎回欠を確認する） ・試験にて評価：中間試験 40%、定期試験 50% ・レポート課題：10% 【課題等のフィードバック方法】 ・授業ごとにトピックスを提示する ・講義中、もしくは講義終了後に質問を受けつけ解答する 【履修上の注意・予習・復習について】 ・日々の積み重ね、授業内での理解が大切である ・資料なくとも、自分で説明できる知識を構築すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 循環器リハビリテーションの基礎を学び、高齢化社会に伴う循環器疾患の増加に対応できる能力を養うことができる 【実務家教員担当科目】 多種の内部障害系疾患の医学的リハビリテーションに携わった経験のある教員が、内部障害系疾患の理学療法を進めるために必要な知識、評価および治療について教授する						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習	学修時間	
1	高橋 一揮・ 釧明佳代子	内部環境と循環器系の役割		・生体における循環器の役割について予習復習する ・心拍出量の調整について予習復習する	1 時間	
2	高橋 一揮・ 釧明佳代子	循環器の構造と機能		・刺激伝導系と心拍数の関係について予習復習する ・一回拍出量や分時換気量増大の調整と換気効率について予習復習する	1 時間	
3	高橋 一揮・ 釧明佳代子	運動に対する呼吸循環応答 1（心拍出量の調整など		・換気血流比と姿勢ならびに長期臥床の影響について予習復習する ・ATP 生成について予習復習する	1 時間	
4	高橋 一揮・ 釧明佳代子	運動に対する呼吸循環応答 2（嫌気性代謝閾値など		・運動昇圧反射 / カルボーネン法 /AT について予習復習する	1 時間	
5	高橋 一揮・ 釧明佳代子	心機能検査・心電図の成り立ち		・駆出率 /Forrester 分類 ・運動負荷試験 / 心電図について予習復習する	1 時間	
6	星 孝	虚血性心疾患における心電図所見と不整脈		・心電図のみかたについて予習復習する ・不整脈について予習復習する	1 時間	
7	高橋 一揮・ 釧明佳代子	中間試験 心不全の概念と運動療法		・心不全の病態について予習復習する ・心不全と運動耐容能について予習復習する	1 時間	
8	高橋 一揮・ 釧明佳代子	心臓弁膜症・虚血性心疾患と治療		・心臓弁膜症の病態について予習復習する ・心臓弁膜症と心拍出量について予習復習する	1 時間	
9	高橋 一揮・ 釧明佳代子	虚血性心疾患に対する運動療法 1		・冠動脈 /PCI について予習復習する ・狭心症の運動療法について予習復習する	1 時間	
10	高橋 一揮・ 釧明佳代子	虚血性心疾患に対する運動療法 2		・心筋梗塞のリハビリテーションについて予習復習する	1 時間	
11	釧明佳代子・ 高橋 一揮	動脈疾患と治療 1		・血中脂質について予習復習する ・PAD について予習復習する	1 時間	
12	釧明佳代子・ 高橋 一揮	動脈疾患と治療 2		・大動脈解離について予習復習する ・動脈硬化の発生機序について予習復習する	1 時間	
13	高橋 一揮・ 釧明佳代子	高血圧症と運動療法		・高血圧の診断基準について予習復習する ・高血圧に対する運動療法の効果について予習復習する	1 時間	
14	高橋 一揮・ 釧明佳代子	心臓リハビリテーションの実際		・心臓リハビリテーションにおける理学療法士の役割について予習復習する	1 時間	
教 科 書		細田多穂（編）：内部障害理学療法学テキスト改訂 第3 版，南江堂 赤塚宣治（編）：病気が見える② 循環器疾患 第4 版，MEDIC MEDIA 藤澤宏幸，高橋一揮，星孝，釧明佳代子：内部障害系理学療法演習Ⅰ 講義ノート				
参 考 書		木全心一・他（編）：狭心症，心筋梗塞のリハビリテーション，南江堂				
備 考		なし				

科 目 名		内部障害理学療法演習Ⅱ			担 当 者	○小野部 純・高橋 一揮 釵明佳代子・山本 優一
科目ナンバリング		1010432090				常勤・非常勤
D	P	1,3			教 員 研 究 室	3108 研究室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・代謝疾患、特に糖尿病（合併症を含む）や肥満に対する運動療法の適応と効果、および理学療法評価・プログラム作成について講義と実習を行う ・メタボリックシンドロームの病態理解と理学療法士の関わりについても学習する ・がんの病態理解と、理学療法士の役割について学習する 【学習の到達目標】 ・代謝疾患の病態が説明できる ・代謝疾患に対する理学療法が説明・実践できる ・がんの理学療法（リンパ浮腫含む）の概要について説明することができる 【成績評価方法】 ・定期試験 90% ・小テスト 10%					【課題等のフィードバック方法】 小テストの結果は、次の授業時に返却し、自己学習を促す 【履修上の注意・予習・復習について】 ・配布する講義ノートの「予習のポイント」を参考に、予習を行った上で受講すること ・講義ノートの「講義のまとめ」を参考に復習を行うこと 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・脳血管疾患や心臓疾患などのハイリスク因子である糖尿病、メタボリックシンドロームに対する理学療法を理解し、代謝疾患患者に安全かつ効果的な運動療法が処方できるようになる ・理学療法士ががん患者に対するリハビリテーションに求められていることを理解することが出来る 【実務家教員担当科目】 多種の内部障害系（代謝性疾患、がん）疾患に携わった経験を持つ教員が、病態理解から具体的な理学療法に関する基本的知識を教授する	
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	小野部 純 鈴木 誠	オリエンテーション がんのリハビリテーション概論 1	・がんの一般的な病態生理とリハビリテーションの特徴を理解する			1 時間
2	小野部 純	がんのリハビリテーション概論 2	・がんの一般的な病態生理とリハビリテーションの特徴を理解する			1 時間
3	小野部 純	がんのリハビリテーション（講義：リンパ浮腫）	・がん治療の後遺症であるリンパ浮腫の病態生理と治療方法について理解する			1 時間
4	山本 優一 小野部 純	がんのリハビリテーション(実習1：リンパ浮腫)	・リンパ浮腫の保存療法である複合的治療の手技を体験し、その概要について理解する			1 時間
5	山本 優一 小野部 純	がんのリハビリテーション(実習2：リンパ浮腫)	・リンパ浮腫の保存療法である複合的治療の手技を体験し、その概要について理解する			1 時間
6	小野部 純	肥満、メタボリックシンドロームに対する評価と運動療法	・肥満症ならびにメタボリックシンドロームの理解と、その理学療法について理解する			1 時間
7	高橋 一揮	糖尿病の病態と評価 1	・代謝障害の位置付けと糖代謝について理解する			1 時間
8	高橋 一揮	糖尿病の病態と評価 2	・糖尿病と成因と病態について理解する			1 時間
9	高橋 一揮	糖尿病の運動療法と治療 1	・糖尿病の急性合併症とリスク管理について理解する			1 時間
10	高橋 一揮	糖尿病の運動療法と治療 2	・糖尿病の慢性合併症とリスク管理について理解する			1 時間
11	高橋 一揮	糖尿病急性合併症の概要と 理学療法上のリスク管理 1	・糖尿病に対する運動療法について理解する			1 時間
12	高橋 一揮	糖尿病急性合併症の概要と 理学療法上のリスク管理 2	・糖尿病に対する食事療法と薬物療法について理解する			1 時間
13	釵明佳代子	糖尿病性腎症と人工透析	・糖尿病性腎症の病態生理と、人工透析の基本原則を理解する			1 時間
14	小野部 純	糖尿病性足病変に対する理学療法	・糖尿病性足病変（非外傷性足病変）について病態を理解し、その理学療法対処法を理解する			1 時間
教 科 書		小野部 純、高橋 一揮：内部障害系理学療法演習Ⅱ講義ノート（学内印刷にて配布） 医療情報科学研究所 編集：病気がみえる 3- 糖尿病・代謝・内分泌疾患 - 第 5 版、MEDIC MEDIA.（既に購入済みの場合には、改めての購入は必要ない）				
参 考 書		医療情報科学研究所 編集：がんがみえる 第 1 版、MEDIC MEDIA. 北村 薫 監修：エビデンスに基づいたリンパ浮腫実践ガイドブックー基本手技と患者指導、へるす出版.				
備 考		非常勤講師の実習は集中開催形式とするので、別途通知する（土曜日開催の予定）				

科 目 名		内部障害理学療法演習Ⅲ		担 当 者	○高橋 一揮・釵明佳代子 小松 恵	
科目ナンバリング		1010432091			常勤	
D	P	1,3		教 員 研 究 室	3101	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 呼吸リハビリテーションに必要な呼吸器解剖学・生理学、呼吸器疾患の病態生理、呼吸理学療法評価、運動療法について講義及び実習を行う。さらに、在宅酸素療法（HOT）や人工呼吸器に関わる機器等の学習を通して、包括的呼吸リハビリテーションを理解する。 【学習の到達目標】 ・呼吸器解剖や呼吸生理学、酸素運搬系メカニズムについて説明できる ・呼吸リハビリテーション対象疾患の病態生理が説明できる ・呼吸リハビリテーション評価の目的を理解し説明できる ・呼吸リハビリテーションにおける目的を理解し、介入の要点を説明できる 【成績評価方法】 規定の出席時間（2/3 以上）を満たすことにより、下記の内容にて総合的に判断する 定期試験：80％ 小テスト：20％ レポート：定期試験にて合格点に達した上で加点対象（未提出の場合は不合格）						【課題等のフィードバック方法】 小テストの解説は次の授業の返却時に行います。また、巻末問題も設けており、授業内でも解説を加えながら実施します。質問は随時受け付けております。 【履修上の注意・予習・復習について】 日々の積み重ね、授業内での理解が大切です 資料なく自分で説明できる知識を構築すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 呼吸リハビリテーションの基礎を学ぶ。また、呼吸器疾患ならびに内部障害を合併したした対象者に対応できる能力を養うことができる。 【実務家教員担当科目】 多種の呼吸器系疾患の医学的リハビリテーションに携わった経験のある教員が、呼吸器系疾患の理学療法を進めるために必要な知識、評価および治療について教授する。
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	高橋 一揮・釵明佳代子	オリエンテーション、呼吸器解剖学・生理学①	呼吸器の解剖 / 呼吸運動 / 酸素運搬系システム		1 時間	
2	高橋 一揮・釵明佳代子	呼吸器解剖学・生理学②	低酸素血症の原因 / 呼吸戦略と効率 / 動脈血ガス / 換気不全		1 時間	
3	高橋 一揮・釵明佳代子	呼吸器疾患の評価	呼吸不全 / フィジカルアセスメント / 運動負荷試験 / ADL と QOL		1 時間	
4	高橋 一揮・釵明佳代子	呼吸不全および呼吸器疾患の病態生理学	COPD の病態 / 合併症と併存症 / 間質性肺炎の病態		1 時間	
5	高橋 一揮・釵明佳代子	慢性呼吸器疾患の呼吸リハビリテーション、運動療法①	呼吸器疾患における運動療法の効果と根拠		1 時間	
6	高橋 一揮・釵明佳代子	慢性呼吸器疾患の呼吸リハビリテーション、運動療法②	呼吸器疾患における運動療法とリスク管理		1 時間	
7	釵明佳代子・高橋 一揮	呼吸リハビリテーション（フィジカルアセスメント①）	・実習：肺区域の同定、視診と触診		1 時間	
8	釵明佳代子・高橋 一揮	呼吸リハビリテーション（フィジカルアセスメント②）	・実習：聴診、打診		1 時間	
9	釵明佳代子・高橋 一揮	呼吸リハビリテーション（コンディショニング・ADL 指導）	・実習：呼吸練習、リラクセーション、ADL 指導		1 時間	
10	釵明佳代子・高橋 一揮	呼吸リハビリテーション（徒手の呼吸介助法、排痰法①）	・実習：呼吸介助		1 時間	
11	釵明佳代子・高橋 一揮	呼吸リハビリテーション（徒手の呼吸介助法、排痰法②）	・実習：排痰法		1 時間	
12	高橋 一揮・釵明佳代子	急性呼吸器疾患の呼吸リハビリテーション、人工呼吸器管理	・急性期リハビリテーションにおける理学療法士の役割 ・人工呼吸器、NPPV とモード		1 時間	
13	高橋 一揮・釵明佳代子	症例検討	・事前レポート課題 ・レポートを基にグループワーク		1 時間	
14	小松 恵・高橋 一揮・釵明佳代子	吸引技術実習と衛生管理	・吸引の方法とリスク管理 ・実習：吸引実習		1 時間	
教 科 書		・細田多穂（監）：内部障害理学療法学テキスト 改訂第 3 版、南江堂 ・医療情報科学研究所：病気が見える 4－呼吸器、MEDIC MEDIA ・高橋一揮、釵明佳代子：講義ノート 学内印刷版				
参 考 書		・「呼吸リハビリテーションマニュアル－運動療法－第 2 版」 照林社				
備 考		授業に関する問い合わせ等は主担当教員とする				

科 目 名		総合理学療法学演習		担 当 者	○黒後 裕彦・星 孝 小野部 純・平山 和哉 小野 峰子・八鍬 央子 小泉 智枝・仙波 浩幸	
科目ナンバリング		1010432092			常勤・非常勤	
D	P	1,4		教 員 研 究 室	3102 3104 3108 3219	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 運動器障害系、脳・神経障害系、内部障害系といった領域に分類されない分野、および複数の領域にまたがる分野における理学療法の評価や治療について取り扱う。				【課題等のフィードバック方法】 課題があれば、後日の授業等で解説を行う		
【学習の到達目標】 授業で取り上げた領域における理学療法についての評価や治療についての理解を深める				【履修上の注意・予習・復習について】 授業終了後はしっかりと復習に努めること		
【成績評価方法】 定期試験（100％）によって単位認定する。 受験資格は学則に準ずる。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 授業で取り上げた領域における理学療法について評価と治療について理解を深めることができる。		
				【実務家教員担当科目】 それぞれの領域に携わった経験のある教員が、理学療法を進めるために必要な評価および治療について教授する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	小野部	熱傷の理学療法	講義終了後に「熱傷の理学療法」についてまとめておく		1 時間	
2	小野部	褥瘡の理学療法	講義終了後に「褥瘡の理学療法」についてまとめておく		1 時間	
3	平山	慢性疼痛の理学療法（1）	講義終了後に「慢性疼痛」についてまとめておく		1 時間	
4	平山	慢性疼痛の理学療法（2）	講義終了後に「慢性疼痛」についてまとめておく		1 時間	
5	小泉	失語症（1）	講義終了後に「失語症の症状」についてまとめておく		1 時間	
6	小泉	失語症（2）	講義終了後に「失語症へのアプローチ」についてまとめておく		1 時間	
7	八鍬	嚥下（1）	講義終了後に「嚥下障害」についてまとめておく		1 時間	
8	八鍬	嚥下（2）	講義終了後に「嚥下へのアプローチ」についてまとめておく		1 時間	
9	小野	視覚障害（1）	講義終了後に「視覚障害」についてまとめておく		1 時間	
10	小野	視覚障害（2）	講義終了後に「視覚障害者へのアプローチ」についてまとめておく		1 時間	
11	仙波	精神科の理学療法（1）	講義終了後に「精神科の理学療法」についてまとめておく		1 時間	
12	仙波	精神科の理学療法（2）	講義終了後に「精神科の理学療法」についてまとめておく		1 時間	
13	星	慢性臥床ケースの理学療法	講義終了後に「慢性臥床ケースの理学療法」についてまとめておく		1 時間	
14	星・黒後	慢性臥床ケースの理学療法まとめ	講義終了後に講義の内容についてまとめておく		1 時間	
教 科 書		指定なし				
参 考 書		なし				
備 考		授業運営に関わる問い合わせには黒後が対応し、授業内容については各回の担当教員が対応する				

科 目 名		義肢装具学		担 当 者	○黒後 裕彦・大黒 一司 西嶋 一智
科目ナンバリング		1010432093			常勤・非常勤
D	P	1,2		教 員 研 究 室	3102 3211
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 義肢と装具の基本構造と機能について講義する。					【課題等のフィードバック方法】 小テストの解説は 授業中におこなう
【学習の到達目標】 装具学として装具の目的、種類、処方・チェック、適応と効果、各疾患に対する装具の基本構造と役割について理解する。 義肢学として義肢の定義、目的、切断の原因や部位、切断術と断端管理、補装具の支給体系について理解する。また各義足と義手の種類や構成要素、各部の名称、機能、適合判定等について理解する					【履修上の注意・予習・復習について】 講義後は、義肢装具の種類とその適応疾患等、講義内容について整理しておき、次の義肢装具学実習への準備とすること。
【成績評価方法】 定期試験（80％）提出課題（20％） 定期試験の受験資格は、学則に準じる					【受講して得られる効果・メリット、その他】 義肢装具を用いることにより、どのように治療効果や機能補償を発揮することができるのかを理解することで、臨床での治療手段を増やすことが可能となる。
【実務家教員担当科目】 理学療法士、作業療法士として業務経験をもつ教員が、義肢装具についての基本的項目についての講義を行う					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	黒後 裕彦	装具総論（歴史・概念・分類）	教科書の「装具学総論」に該当する部分を事前に読んでおくこと。終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
2	黒後 裕彦	下肢装具の部品とその機能・短下肢装具	「短下肢装具」を事前に読んでおくこと。終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
3	黒後 裕彦	長下肢装具・股装具・膝装具	「長下肢装具」を事前に読んでおくこと。終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
4	黒後 裕彦	下肢装具の脳卒中片麻痺への適応と効果	「脳卒中片麻痺の装具」を事前に読んでおくこと。終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
5	黒後 裕彦	体幹装具（目的、基本構造、種類、代表的装具）	「体幹装具、側弯症装具」を事前に読んでおくこと。終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
6	黒後 裕彦	疾患別装具の処方	終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
7	大黒 一司	上肢装具（目的、基本構造、種類、適応、効果）	「上肢装具」を事前に読んでおくこと。終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
8	大黒 一司	義手の種類・構造・機能	「義手」を事前に読んでおくこと。終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
9	黒後 裕彦	車椅子・歩行補助具の種類と適応	「車椅子、歩行補助具」を事前に読んでおくこと。終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
10	西嶋 一智	切断術と断端管理、補装具の支給体系	終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
11	西嶋 一智	切断のリハビリテーション	終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
12	黒後 裕彦	下腿義足	「下腿義足」を事前に読んでおくこと。終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
13	黒後 裕彦	大腿義足	「大腿義足」を事前に読んでおくこと。終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
14	黒後 裕彦	膝義足・サイム義足・足部部分義足	終了後は授業内容をまとめておくこと		4 時間
教 科 書		「義肢装具のチェックポイント」 日本整形外科学会 医学書院 「装具学」「義肢学」石川朗 総編集 中山書店			
参 考 書		義肢・装具学 高田治実 監修（羊土社） リハビリテーション義肢装具学 清水順市 編集（メジカルビュー社）			
備 考		質問等は主担当（黒後）に問い合わせること			

科 目 名		義肢装具学実習		担 当 者	○黒後 裕彦・阿部 玄治 大黒 一司・古瀬 亨 濱田 美穂	
科目ナンバリング		1010432094			常勤・非常勤	
D P		2,3		教員研究室	3102 3218 3211	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・切断の理学療法について ・装具の製作とチェックアウトについて ・車椅子に関する構造の理解と点検について 【学習の到達目標】 切断の理学療法について概要を把握できる。プラスチック短下肢装具と上肢装具の製作過程を学び、その特性と対象者への適合を考察することができる。車椅子に関する構造の理解と点検をすることができる 【成績評価方法】 定期試験（80％）課題（20％） 定期試験の受験資格は、学則に準じる				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後 質問を受け付け回答する 【履修上の注意・予習・復習について】 義肢装具学で学んだ基本的な装具の知識をもって製作過程を学ぶこと 実習後、装具・義肢・補助具のチェックアウトについてまとめること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 プラスチック短下肢装具、手の装具を自ら作成すること、切断者の採型、義足歩行を直接、見学し観察することを通して装具・義足の理解をより深めることができる 【実務家教員担当科目】 理学療法士として経験をもつ教員が、装具・義肢に関する実習を行う		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	阿部 玄治 黒後 裕彦	オリエンテーション、断端の管理・弾力包帯の巻き方	終了後は「断端の管理・弾力包帯の巻き方」についてまとめておくこと		-	
2	黒後 裕彦	股義足・下腿義足による異常歩行とその原因	終了後は「股義足」「下腿義足の異常歩行」についてまとめておくこと		-	
3	黒後 裕彦	断端訓練、装着後訓練、靴型装具	事前に「靴型装具」に該当する部分を読んでおくこと		-	
4	阿部 玄治	整形外科疾患の装具と福祉用具、下肢装具のチェックアウト	終了後は「整形外科疾患の装具」に関する知識を整理しておくこと		-	
5	古瀬 亨	プラスチック短下肢装具の作成（1）ギプス採型	終了後は「短下肢装具の作成」過程をまとめておくこと		-	
6	古瀬 亨	プラスチック短下肢装具の作成（2）陽性モデルの製作	終了後は「短下肢装具の作成」過程をまとめておくこと		-	
7	古瀬 亨	プラスチック短下肢装具の作成（3）修正と仕上げ	終了後は「短下肢装具の作成」過程をまとめておくこと		-	
8	黒後 裕彦	装具装着体験	事前に「整形外科疾患の装具」に関する知識をまとめておくこと		-	
9	大黒 一司	手の装具作成	終了後は「装具の作成」過程をまとめておくこと		-	
10	阿部 玄治	車椅子の構造とその扱い	終了後は「車椅子の構造」に関する授業内容をまとめておくこと		-	
11	黒後 裕彦	大腿義足による異常歩行とその原因	終了後は「大腿義足の異常歩行」についてまとめておくこと		-	
12	濱田 美穂 古瀬 亨	モデルによるギプス採型とアライメント調整（下腿切断）	終了後は「下腿義足のアライメント調整」に関する授業内容をまとめておくこと		-	
13	古瀬 亨 黒後 裕彦	モデルによるギプス採型とアライメント調整（大腿切断）	終了後は「大腿義足のアライメント調整」に関する授業内容をまとめておくこと		-	
14	黒後 裕彦 阿部 玄治	歩行補助具の使用の実践	終了後は「歩行補助具」に関する事項をまとめておくこと		-	
教 科 書		「義肢装具のチェックポイント」日本整形外科学会 医学書院 「装具学」石川朗 総編集 中山書店「義肢学」石川朗 総編集 中山書店				
参 考 書		義肢・装具学 高田治実 監修（羊土社） リハビリテーション義肢装具学 清水順市 編集（メジカルビュー社）				
備 考		下腿切断者がモデルとなって、ギプス採型とアライメント調整を行う				

科 目 名		物理療法学		担 当 者	○阿部 玄治・沼田 純希 釵明佳代子	
科目ナンバリング		1010432095			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	3218, 3217	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用				☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない	「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 物理療法の定義と方法、総論を学ぶとともに、各種物理療法の目的・方法・効果・適応・禁忌について学習する。				【課題等のフィードバック方法】 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。		
【学習の到達目標】 1) 各種物理療法の原理と生理学的作用を理解する。 2) 各種物理療法の目的・方法・効果・治療技術・適応・禁忌を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻、私語、必要時以外のスマートフォンの操作、および飲食など受講に支障を来たす行為は禁止する。		
【成績評価方法】 定期試験（100％）で評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 効果的な物理療法を実践するための知識を修得できる。 必要に応じて理解度を確認するための小テストやレポートを実施する（復習としても利用する）		
				【実務家教員担当科目】 物理療法に関する豊富な臨床実務経験を有する理学療法士が、物理療法の概念、各治療技術の効果、適応と禁忌、および実施方法について教授する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	阿部、沼田、釵明	オリエンテーション	物理療法の定義、理学療法における位置づけなどについて予習すること。			4 時間
2	阿部、沼田、釵明	総論 1：物理療法とは（定義・位置づけ・歴史など）	物理療法の定義、理学療法における位置づけなどについて予習すると共に、授業後は物理療法の大枠（総論）についてまとめること。			4 時間
3	阿部、沼田、釵明	総論 2：物理療法の一般的な生理学的作用 各論 1：温熱療法とは	物理療法の生理学的作用および温熱療法について予習すると共に、授業後は生理学的作用について一覧にするなどしてまとめること。			4 時間
4	阿部、沼田、釵明	各論 2：寒冷療法とは 各論 3：温熱療法・寒冷療法の生理学的作用および適応と禁忌	寒冷療法および温熱・寒冷療法の生理学的作用、適応・禁忌について予習すること。授業後は特に生理学的作用、適応・禁忌について一覧にするなどしてまとめること。			4 時間
5	阿部、沼田、釵明	各論 4：温熱療法（伝導熱） ホットパック、パラフィン浴	第 2 講で学習した温熱療法について復習しておくと共に、伝導熱であるホットパック、パラフィン浴の特徴について予習すること。授業後はそれぞれの各療法ついてまとめること。			4 時間
6	阿部、沼田、釵明	各論 5：温熱療法（輻射熱） 赤外線療法 各論 6：光線療法 紫外線療法、レーザー療法	第 2 講で学習した温熱療法について復習しておくと共に、輻射熱である赤外線、紫外線療法、レーザー療法の特徴について予習すること。授業後は各療法ついてまとめること。			4 時間
7	阿部、沼田、釵明	各論 7：温熱療法（エネルギー変換熱） 超短波療法、極超短波療法	第 2 講で学習した温熱療法について復習しておくと共に、エネルギー変換熱である超短波療法、極超短波療法の特徴について予習すること。授業後は各療法ついてまとめること。			4 時間
8	阿部、沼田、釵明	各論 8：温熱療法（エネルギー変換熱） 超音波療法	第 2 講で学習した温熱療法について復習しておくと共に、エネルギー変換熱である超音波療法の特徴について予習すること。授業後は超音波療法ついてまとめること。			4 時間
9	釵明、阿部、沼田	各論 9：水治療法 生理学的作用、ハバードタンク、渦流浴、交代浴	水の特性、水治療法の生理学的作用について予習すると共に、授業後は一覧にするなどしてまとめること。			4 時間
10	釵明、阿部、沼田、	各論 10：寒冷療法 伝導冷却法、対流冷却法、気化冷却法、極低温療法	第 3 講で学習した寒冷療法について復習しておくと共に、エネルギー変換熱である超音波療法の特徴について予習すること。授業後は超音波療法ついてまとめること。			4 時間
11	沼田、阿部、釵明	各論 11：電気刺激療法（1） 生理学的作用、治療的電気刺激、機能的電気刺	電気刺激療法について、電気の特性、生理学的作用などについて予習すること。授業後は治療的電気刺激、機能的電気刺激についてまとめること。			4 時間
12	沼田、阿部、釵明	各論 12：電気刺激療法（2） 疼痛に対する物理療法、経皮的電気神経刺激、干渉波療法	経皮的電気刺激療法、干渉波療法について予習すること。授業後は各療法についてまとめること。			4 時間
13	阿部、沼田、釵明	各論 13：バイオフィードバック療法 各論 14：牽引療法（頸椎牽引、腰椎牽引）	牽引療法について予習すること。授業後は各療法についてまとめること。			4 時間
14	阿部、沼田、釵明	各論 15：振り返り（まとめ）	授業内容について十分に復習すること。			4 時間
教 科 書		Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学 吉田英樹 メディカルビュー 15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト「物理療法学・実習」石川朗他 中山書店				
参 考 書		「物理療法マニュアル」 嶋田智明 医歯薬出版				
備 考		科目に関する問い合わせは担当教員が対応する。 支援教員として理学療法学専攻教員が複数名参加する。				

科 目 名	物理療法学実習			担 当 者	○阿部 玄治・平山 和哉 沼田 純希・釧明佳代子
科目ナンバリング	1010432096				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	3218, 3219, 3217
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 物理療法学で学んだ知識について、実習を通して治療技術を体得し、物理療法に対する生体反応の知見を深める。				【課題等のフィードバック方法】 提出された課題をもとに適宜質問を受けつける。	
【学習の到達目標】 各種物理療法を実践し、その実施手順を理解する。また生理学的作用と適応に関する知識を深める。				【履修上の注意・予習・復習について】 提示された課題は遅滞なく期限までに提出すること。リスクを伴う実習も多いため十分に注意すること。感染防止および事故防止のため指示には必ず従うこと。	
【成績評価方法】 定期試験：60%、実技試験：25%、実習への取り組み：10%、グループ発表：5% で評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 実習を通じて物理療法機器の適切な使用方法、リスク管理の知識を修得できる。	
				【実務家教員担当科目】 物理療法に関する豊富な臨床実務経験を有する理学療法士が、物理療法学で習得した内容について、実際の治療機器を用いて実習を行ない、臨床で基本的なことが実践出来るよう教授する。	
授 業 計 画					
担当教員：第 1 回～第 21 回 阿部、平山、釧明、沼田 他					
第 1 回：オリエンテーション、物理療法学の振り返り					
第 2 ～ 14 回：実習 1 ホットパック、パラフィン浴、電気療法、牽引療法、極超短波療法、超短波療法、超音波療法、寒冷療法、水治療法などについて、グループで実習を実施する。					
第 15 回：実技試験					
第 16 ～ 21 回： 実習 1 で実習した物理療法機器を用いてデータを収集し発表資料としてまとめる。発表会を実施する。					
教 科 書	「物理療法学実習」冊子 学内印刷				
参 考 書	物理療法学にて使用した教科書				
備 考	科目に関する問い合わせは担当教員が対応する。実習の詳細は第 1 回で説明する。 支援教員として複数名の理学療法学専攻教員が参加する。				

科 目 名		日常生活活動演習Ⅰ		担 当 者	○平山 和哉・三木 千栄 沼田 純希・高木 大輔 黒沢 麻美	
科目ナンバリング		1010432097			常勤	
D	P	1,3		教 員 研 究 室	3219	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・日常生活活動の定義・範囲 ・各種の日常生活活動評価表、動作分析による評価の講義・実習 ・リハビリテーション支援機器の講義、それらを用いた起居・移動・移乗およびセルフケアを実習する				【課題等のフィードバック方法】 ・授業時間外でも個別に質問を受けつける。 ・課題に関しては授業中にフィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 ・日常生活活動の概念と範囲を説明できる。 ・BI・FIM や動作分析による評価を行える。 ・リハビリテーション支援機器・福祉機器を用いて、日常生活活動の介入ができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業前には教科書を予習・復習してくること。		
【成績評価方法】 ・出席日数が 2/3 以上の学生が定期試験を受けることができる。 ・小テスト（復習）：10%、定期試験：90% ・レポート等の課題はすべて提出すること。未提出の場合は減点する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 理学療法対象者の日常生活活動を評価し、介入する術を習得します。		
【実務家教員担当科目】 多種多様な対象者を経験した理学療法士・作業療法士・介護福祉士が、リハビリテーション支援機器・福祉機器を用いて実習を行い、基本的な日常生活活動の評価、介入ができるよう教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	三木 千栄	日常生活活動の概念・範囲評価	教科書の予習 確認テスト		1 時間	
2	沼田 純希	BI と FIM（1）	BI と FIM の予習		1 時間	
3	沼田 純希	BI と FIM（2）	確認テスト		1 時間	
4	平山 和哉	動作分析による評価	動作分析演習の復習		1 時間	
5	三木 千栄 平山 和哉	身の回り動作	身の回り動作の復習		1 時間	
6	高木 大輔 沼田 純希	自助具／環境制御装置等	自助具／環境制御装置等の予習 確認テスト		1 時間	
7	平山 和哉	入浴等の福祉機器	入浴等福祉機器の予習		1 時間	
8	黒沢 麻美 沼田 純希	排泄の福祉機器（おむつ）	排泄等福祉機器の予習		1 時間	
9	沼田 純希 平山 和哉	杖・松葉杖・歩行器（1）	杖・松葉杖・歩行器の予習		1 時間	
10	平山 和哉 沼田 純希	杖・松葉杖・歩行器（2）	確認テスト		1 時間	
11	沼田 純希 平山 和哉	車椅子等／シーティング（1）	車椅子等／シーティングの予習		1 時間	
12	沼田 純希 平山 和哉	車椅子等／シーティング（2）	確認テスト		1 時間	
13	平山 和哉 沼田 純希	移乗機器	移乗の福祉機器の予習		1 時間	
14	沼田 純希 平山 和哉	ベッド関連の福祉機器	ベッド関連福祉機器の予習		1 時間	
教 科 書		PT・OT ビジュアルテキスト ADL 第2版（羊土社）、脳卒中の機能評価 SIAS と FIM [基礎編]（金原出版）、新版日常生活活動（ADL）－評価と実際（医歯薬出版）				
参 考 書		日常生活活動テキスト 改訂第3版（南江堂）、理学療法学テキスト 日常生活活動学（MEDICAL VIEW）、シーティング技術のすべて（医歯薬出版）				
備 考		授業ごとに適宜プリントを配布します。 問い合わせ先：成績等に関しては平山へ、授業内容は各回の主担当教員へ				

科 目 名		日常生活活動演習Ⅱ			担 当 者	○平山 和哉・三木 千栄 沼田 純希・釵明佳代子
科目ナンバリング		1010432098				常勤
D P		1,3			教 員 研 究 室	3219
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 中枢神経疾患や整形外科疾患等の代表的疾患の日常生活活動の評価方法と介入・指導方法について講義・実習します。 【学習の到達目標】 ・代表的疾患の日常生活活動評価を行い、介入・指導ができる。 ・補装具・福祉用具・自助具などを選択でき、環境調整も考慮できる 【成績評価方法】 ・出席日数が2/3以上の学生が定期試験を受けることができる。 ・小テスト（復習）：10%、定期試験：90% ・レポート等の課題はすべて提出すること。未提出の場合は減点する。 【課題等のフィードバック方法】 ・授業時間外でも個別に質問を受けつける。 ・課題に関しては授業中にフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業前には教科書を予習・復習してくること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 理学療法対象者の日常生活活動を評価し、介入する術を習得する。 【実務家教員担当科目】 多種多様な対象者を経験した理学療法士が、代表的な疾患を持つ対象者の日常生活活動の評価・介入を臨床で実践できるよう教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	平山 和哉	整形外科疾患の ADL（1）	運動器理学療法演習の復習			1 時間
2	平山 和哉	整形外科疾患の ADL（2）	確認テスト			1 時間
3	沼田 純希	脳卒中片麻痺の ADL（1）	神経理学療法演習の復習			1 時間
4	沼田 純希	脳卒中片麻痺の ADL（2）	確認テスト			1 時間
5	平山 和哉	脊髄損傷の ADL（1）	神経理学療法演習の復習			1 時間
6	平山 和哉	脊髄損傷の ADL（2）	確認テスト			1 時間
7	平山 和哉	脊髄損傷の ADL（3）	神経理学療法演習の復習			1 時間
8	平山 和哉	脊髄損傷の ADL（4）	確認テスト			1 時間
9	釵明佳代子	呼吸器疾患の ADL	内部障害理学療法演習の復習			1 時間
10	釵明佳代子	循環器疾患の ADL	確認テスト			1 時間
11	平山 和哉	関節リウマチの ADL	運動器理学療法演習の復習 確認テスト			1 時間
12	沼田 純希	パーキンソン病の ADL	神経理学療法演習の復習 確認テスト			1 時間
13	三木 千栄 平山 和哉	神経難病（ALS）の ADL（1）	神経理学療法演習の復習			1 時間
14	三木 千栄 平山 和哉	神経難病（ALS）の ADL（2）	確認テスト			1 時間
教 科 書		PT・OT ビジュアルテキスト ADL 第2版（羊土社）、脳卒中の機能評価 SIAS と FIM〔基礎編〕（金原出版）、新版日常生活活動（ADL）－評価と実際（医歯薬出版）				
参 考 書		標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学第6版（医学書院）				
備 考		授業ごとに適宜プリントを配布します。 問い合わせ先：成績等に関しては平山へ、授業内容は各回の主担当教員へ				

科 目 名		地域理学療法学演習 I		担 当 者	○三木 千栄・高橋 一揮	
科目ナンバリング		1010432099			常勤	
D P		1,4		教員研究室	3109, 3101	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・地域リハビリテーションの歴史、概念、定義等 ・保健・医療・福祉の制度、対象者の急性期・回復期・生活期の理学療法とその連携を講義 ・対象者の生活環境の調整も講義する。 【学習の到達目標】 1. 地域リハビリテーションの定義を説明できる 2. 介護保険制度と障害者制度を理解する 3. 多職種連携を理解する 4. 対象者の生活環境の調整を学習する 【成績評価方法】 ・定期試験 90%。 ・小テスト（復習）10% ・課題がある場合、提出しないと減点する ・定期試験の受験資格は、学則に準じる				【課題等のフィードバック方法】 授業後に質問を受け付ける 小テスト後、解説する 課題については Classroom にてフィードバックする 【履修上の注意・予習・復習について】 予習・復習をする 【受講して得られる効果・メリット、その他】 保健・医療・福祉の各分野で理学療法士の業務が理解できる。 【実務家教員担当科目】 地域理学療法の分野で経験がある理学療法士が、地域リハビリテーションの概念、急性期から回復期・生活期までの連携、地域包括ケアシステム、生活環境論、実際の理学療法を講義する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	三木 千栄	・地域リハビリテーション歴史、定義 ・リハビリテーション医療の流れ	復習をすること		1 時間	
2	三木 千栄	生活環境論（住宅改修）	小テスト		1 時間	
3	三木 千栄	生活環境論（福祉用具）	小テスト 課題：資料等を読み理解したこと等をフォームで回答する		1 時間	
4	三木 千栄	・介護保険 ・地域包括ケア等	小テスト		1 時間	
5	三木 千栄	介護老人保健施設・通所・訪問リハビリテーション	小テスト		1 時間	
6	高橋 一揮	対象者を多方面から	小テスト		1 時間	
7	高橋 一揮	生活者としての評価と理学療法①	小テスト		1 時間	
8	高橋 一揮	生活者としての評価と理学療法②	小テスト		1 時間	
9	三木 千栄	・健康増進 ・介護予防	小テスト 課題：教科書を読み理解したこと等をフォームで回答		1 時間	
10	三木 千栄	障害児・者制度・総合支援法	小テスト 課題：教科書を読み理解したこと等をフォームで回答		1 時間	
11	三木 千栄	障害者サービス	小テスト		1 時間	
12	三木 千栄	障害児サービス	小テスト		1 時間	
13	高橋 一揮	これからの社会と地域理学療法	小テスト 復習をすること		1 時間	
14	高橋 一揮	訪問のリスクマネジメント	小テスト 復習をすること		1 時間	
教 科 書		標準理学療法学 / 専門分野 / 地域理学療法学 / 第 4 版 / 医学書院 障害者総合支援法がよ〜くわかる本 / 福祉行政法令研究会著 / 秀和システム Crosslink リハビリテーションテキスト / 生活環境学 / MEDICAL VIEW				
参 考 書		国際福祉機器展 H.C.R 福祉機器 選び方・使い方 / 財団法人 保健福祉広報協会				
備 考						

科 目 名	地域理学療法学演習Ⅱ			担 当 者	○三木 千栄・高橋 一揮 小川 友美・八島 泰弘 今泉 美和・小野めぐみ 佐々木友也・芝崎 淳 阿部 功
科目ナンバリング	10104320100				常勤・非常勤
D P	1,4			教員研究室	3119
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 回復期病院、介護保険サービスの事業所、障害者・障害児サービスの事業所で経験している理学療法士・作業療法士による各施設・事業所における地域理学療法等の事例を講義し、実習する。宮城県介護研修センターで生活環境論の実習 【学習の到達目標】 1. 回復期病院を含め、介護保険制度の事業所、総合支援法・児童福祉法の事業所の事業内容、理学療法士等の業務を理解する 2. 生活環境整備の各種機器を評価できる 【成績評価方法】 ・定期試験の受験資格は、総時間数の 8 割以上出席していること ・定期試験 100% ・課題の未提出は減点する 【課題等のフィードバック方法】 ・授業ごとに質問を受け付けます ・課題については Classroom にてフィードバックを行います 【履修上の注意・予習・復習について】 授業後の復習をすること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 地域理学療法の実践を学ぶことができます 【実務家教員担当科目】 実際に地域で活躍している経験豊富な理学療法士・作業療法士が実践している事例を講義し、実習し、臨床で実践できるよう教授する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	阿部 功 三木 千栄等	訪問理学療法の実践	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
2	阿部 功 三木 千栄等	訪問理学療法の実践	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
3	芝崎 淳 三木 千栄等	通所リハビリテーションの実践	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
4	芝崎 淳 三木 千栄等	通所リハビリテーションの実践	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
5	今泉 美和 三木 千栄等	介護老人福祉施設の理学療法の実践	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
6	今泉 美和 三木 千栄等	介護老人福祉施設の理学療法の実践	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
7	八島 泰浩 三木 千栄等	介護老人保健施設の理学療法－集団理学療法の実践－	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
8	八島 泰浩 三木 千栄等	介護老人保健施設の理学療法－集団理学療法の実践－	集団指導の企画をレポート提出		1 時間
9	小野めぐみ 三木 千栄等	就労支援の実践	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
10	小野めぐみ 三木 千栄等	就労支援の実践	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
11	小川 友美 三木 千栄等	児童福祉事業所サービスの実践	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
12	小川 友美 三木 千栄等	児童福祉事業所サービスの実践	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
13	佐々木友也 三木 千栄等	回復期リハビリテーション病棟の実践	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
14	佐々木友也 三木 千栄等	回復期リハビリテーション病棟の実践	地域理学療法学演習Ⅰを予習		1 時間
教 科 書	なし				
参 考 書	標準理学療法 / 地域理学療法学 / 第 5 版 / 医学書院				
備 考	14 回以外に、介護研修センター見学・体験実習があります。福祉用具の導入の実践				

科 目 名		臨床実習Ⅰセミナー		担 当 者	○星 孝・鈴木 博人 2 年 SA
科目ナンバリング		10104420101			常勤
D	P	2,3		教 員 研 究 室	3104、3220
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・本授業は、専門家の養成大学カリキュラムとして重要な臨床実習に備え、「学生」というある意味守られた立場から「専門性を有する社会人」への立場に変容する契機となる講座を用意している。 ・具体的には医療倫理、社会的に必要とされる姿勢や学習態度に関する講座であり、また対人面接の機会を提供する 【学習の到達目標】 ・「臨床実習Ⅰ」に備え実習施設や学内において職業にふさわしい姿を示すことができる ・実習施設において、医療面接を実施できる 【成績評価方法】 ・臨床実習Ⅰに関する内容の確認試験 60% ・授業内課題の内容 40% ・受験資格：当学規定における授業回数の 2/3 以上の出席を有すること（5 回欠席で失効） 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・臨床実習を想定した授業であり、実習に沿うような姿勢や態度が必要 ・授業内容に関係のない私語や独善的な作業は控える ・医療面接では、ケーシーを着用する 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・理学療法を学ぶ学生としての基盤を考える機会になる ・臨床実習Ⅰおよびこの後の臨床実習全般に必要な対人スキルを体得できる ・臨床実習Ⅰに向けて準備を整えることができる 【実務家教員担当科目】 理学療法を実施するにあたり必要なコミュニケーションスキルや臨場感のある内容について、臨床で理学療法業務に従事した経験のある教員が教授する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	鈴木 博人 星 孝	臨床実習の全体像	・臨床実習の手引きについて		1 時間
2	鈴木 博人 星 孝	先輩からの助言（2 年生× 4 年生）	・実際の体験から臨床実習のアドバイスがあり、認識を新たにします		1 時間
3	星 孝 鈴木 博人	大学で学ぶ意義と守秘義務	・医療職ならびに対人職であることを踏まえた職業としての指向性について		1 時間
4	鈴木 博人 星 孝	態度面の留意点とストレス対処	・臨床実習および職業現場の事例と問題解決について		1 時間
5	鈴木 博人 星 孝	実習生の学習姿勢と問題行動	・臨床実習および職業現場の事例と問題解決について		1 時間
6	鈴木 博人 星 孝	模擬イベント対応体験	・臨床実習および職業現場の事例と問題解決について		1 時間
7	星 孝 鈴木 博人	医療面接 1（オリエンテーション）	・医療面接の実施と合わせたコミュニケーションスキルの予習復習をする		1 時間
8	星 孝 鈴木 博人	医療面接 2	・医療面接の実施できるように予習復習する		1 時間
9	星 孝 鈴木 博人	医療面接 3（実施＋リフレクション）	・医療面接の実施とリフレクションを通して面接に必要な自身の振り返りを復習する		1 時間
10	鈴木 博人 星 孝	リスク管理と危険予測	・臨床実習時の危険予測と感染予防		1 時間
11	2 年 SA/ 鈴木 博人/ 星 孝	臨床実習中の課題と自己学習	・臨床実習に必要な書類や課題の確認		1 時間
12	2 年 SA/ 鈴木 博人/ 星 孝	PC 操作	・臨床実習に必要な書類や課題文書の記載実践		1 時間
13	鈴木 博人 星 孝	臨床実習Ⅰに関する内容の確認試験	・臨床実習に向けた講義の復習と講義内容の整理		1 時間
14	専 攻 教 員 / 鈴木博人/星孝	臨床教授懇話会	・臨床実習Ⅰ（見学体験実習）を有意義な実習にするために、学生として見るべきポイントや体験時に気をつけるポイント		
教 科 書		配布資料			
参 考 書		なし			
備 考		なし			

科 目 名	臨床実習 I			担 当 者	○黒後 裕彦・小林 武 藤澤 宏幸・鈴木 誠 星 孝・村上 賢一 三木 千栄・小野部 純 高橋 一揮・鈴木 博人 平山 和哉・阿部 玄治 長井 真弓・沼田 純希 釼明佳代子
科目ナンバリング	10104420102				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	3102
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	90 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 臨床実習施設において 90 時間（2 週間）の見学・体験実習を行う				【課題等のフィードバック方法】 実習中もしくは実習終了後に質問を受け付け回答する	
【学習の到達目標】 ・理学療法の臨床体験を通して理学療法士の態度と役割を理解する ・理学療法評価に必要な基本的測定・検査手技を習得する				【履修上の注意・予習・復習について】 実習するにあたって、これまで学校で学んだことを復習し、十分な準備をして臨むこと	
【成績評価方法】 臨床実習状況（課題、実習記録の内容、指導者からの情報等）（50%）と報告会の内容（50%）をもとに総合的に評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療者としての心構えについて考えることができる 実習を通して知識、技術に関する自らの課題を見つけることができる	
				【実務家教員担当科目】 理学療法士として経験をもつ教員が、臨床実習について指導する	
授 業 計 画					
主な見学・体験内容 1. カルテからの情報収集 面接 血圧測定 2. 一般理学的検査（筋緊張、各種反射） 3. 関節可動域検査 徒手筋力検査 身体計測（四肢長、周径） 4. 運動麻痺検査 感覚検査 姿勢検査など 5. 他部門の見学 6. 記録 報告					
教 科 書	なし				
参 考 書	各授業の教科書、参考書				
備 考	病気療養や不測の事態などの理由以外の欠席は認められない 質問等は、各実習担当に問い合わせること				

科 目 名	臨床実習Ⅱセミナー			担 当 者	○小林 武・黒後 裕彦 鈴木 誠・星 孝 村上 賢一・三木 千栄 小野部 純・高橋 一揮 鈴木 博人・平山 和哉 阿部 玄治・長井 真弓 沼田 純希・釼明佳代子
科目ナンバリング	10104420103				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	小林：3103
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 臨床実習を円滑に進めるため、基礎となる検査・測定技術、及び、その知識の整理とコミュニケーション能力の向上を目指し、講義・演習を行う。 指定規則で示されている客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination：OSCE）を実施する。				【課題等のフィードバック方法】 授業ごとに質問を受け付ける。	
【学習の到達目標】 1. 臨床実習Ⅱに必要な基礎医学と理学療法評価学の知識ならびに理学療法評価と動作介助技術を修得する。 2. コミュニケーション能力を修得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 与えられた課題について事前に十分学習し、練習すること。	
【成績評価方法】 臨床実習前試験として、2 種の筆記試験（基礎医学、理学療法評価学）ならびに OSCE の合格をもって単位認定する。実技練習の出席状況が不十分な場合に実技試験を受験できないことがある。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨床実習Ⅱに必要な知識・技術を修得できる。	
				【実務家教員担当科目】 理学療法士としての臨床経験を有する教員が理学療法評価と動作介助の技術を指導する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間	
				予習・復習	学修時間
1	小林 武、 三木	オリエンテーション		1・2 年次の復習	1 時間
2	小林 武、 三木	1・2 年次までに修得した知識の再確認①		1・2 年次の復習	1 時間
3	小林 武、 三木	1・2 年次までに修得した知識の再確認②		1・2 年次の復習	1 時間
4	小林 武、 三木	1・2 年次までに修得した知識の再確認③		1・2 年次の復習	1 時間
5	小林 武、 三木	1・2 年次までに修得した知識の再確認④		1・2 年次の復習	1 時間
6	小林 武、 三木	実技 形態計測		1・2 年次の復習	1 時間
7	小林 武、 三木	実技 ROM		1・2 年次の復習	1 時間
8	小野 部純	実技 MMT		1・2 年次の復習	1 時間
9	小野 部純	実技 感覚検査		1・2 年次の復習	1 時間
10	村上 賢一	実技 特殊検査		1・2 年次の復習	1 時間
11	村上 賢一	実技 特殊検査		1・2 年次の復習	1 時間
12	平山 和哉	実技 触診		解剖、触診の復習	1 時間
13	平山 和哉	実技 起居移乗動作介助		基礎セミナーで習得した起居・移乗動作の復習	1 時間
14	平山 和哉、 三木	実技 疾患別起居移乗動作介助		基礎セミナーでの介護技術の応用	1 時間
教 科 書	「理学療法学総合演習」冊子 学内印刷				
参 考 書	なし				
備 考	質問等は、主担当教員に問い合わせてください。 実技練習には各回担当教員に加えて専攻教員数名が交代で支援します。				

科 目 名	臨床実習Ⅱ			担 当 者	○黒後 裕彦・小林 武 藤澤 宏幸・鈴木 誠 星 孝・村上 賢一 三木 千栄・小野部 純 高橋 一揮・鈴木 博人 平山 和哉・阿部 玄治 長井 真弓・沼田 純希 釼明佳代子
科目ナンバリング	10104420104				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	3102
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	315 時間	単 位	必修 7 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・実習前にはオリエンテーションを行う ・臨床実習施設において実習指導者の指導の下で理学療法評価を実施し学習する。 ・実習期間は6 週間（具体的日程は別途提示する） ・学生は1 施設 1 ～ 2 名で、同一施設で実習を実施する ・実習終了後に報告会を実施する				【課題等のフィードバック方法】 実習中もしくは実習終了後に質問を受け付け回答する	
【学習の到達目標】 ・情報収集、測定・検査、問題点抽出、ゴール設定、プログラム作成という一連の理学療法評価を実践し、対象者の問題を総合的に明らかにできる ・検査結果をもとに、対象者へ障害構造や理学療法プログラムの説明ができる				【履修上の注意・予習・復習について】 実習するにあたって、これまで学んだことを復習し、十分な準備をして臨むこと	
【成績評価方法】 臨床実習状況（課題、実習記録の内容、指導者からの情報等）（50%）と報告会の内容（50%）をもとに総合的に評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療者としての心構えについて考えることができる 実習を通して知識、技術に関する自らの課題をみつけることができる	
				【実務家教員担当科目】 理学療法士として経験をもつ教員が、臨床実習について指導する	
授 業 計 画					
主な実習内容 1. カルテからの情報収集 2. 面接・問診 3. 一般理学的検査（筋緊張、各種反射） 4. 関節可動域検査 徒手筋力検査 5. 運動麻痺検査 感覚検査 6. 運動分析 歩行分析 7. 問題点の整理と抽出 8. ゴール設定 9. 理学療法プログラム立案 10. 症例報告					
教 科 書	なし				
参 考 書	各授業の教科書、参考書				
備 考	病気療養や不測の事態などの理由以外の欠席は認められない 質問等は各実習担当に問い合わせること				

科 目 名	地域理学療法実習			担 当 者	○星 孝・小林 武 黒後 裕彦・藤澤 宏幸 鈴木 誠・内藤 輝 村上 賢一・三木 千栄 小野部 純・高橋 一揮 鈴木 博人・平山 和哉 阿部 玄治・長井 真弓 沼田 純希・釼明佳代子
科目ナンバリング	10104420105				
D P	2,3			教 員 研 究 室	3104
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地域臨床実習施設において 45 時間（1 単位）を実施する				【課題等のフィードバック方法】 実習前、実習中、実習終了後に必要な授業や連絡伝達を行い対応する	
【学習の到達目標】 特に介護保険領域（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーション）での理学療法士や他の専門職・スタッフの業務見学や体験を通して、生活期の人々を支える地域リハビリテーションの一端を学ぶ				【履修上の注意・予習・復習について】 ・実習するにあたって、事前授業やオリエンテーションなどを通し学んだことを活かし実習を遂行する姿勢を持つことが必要であり、各自は十分な準備をして臨むこと ・基本的に病気療養や不測の事態などの理由以外の欠席は認められない	
【成績評価方法】 実習状況（50％）報告会（50％）により総合的に評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・介護保険領域の理学療法に関して体験できる ・施設内環境整備やサービス提供前の準備などを体験できる	
				【実務家教員担当科目】 理学療法士として経験を持つ教員が、臨床実習について指導する	
授 業 計 画					
主な見学・体験内容 1. 事業所業務を見学・体験 2. 事業所の環境整備を体験 3. 理学療法士による個別介入の見学・体験 4. 理学療法士による集団介入の見学・体験 5. 理学療法士による各種評価の見学・体験 6. 施設における利用者の日常生活活動の手伝い 7. 記録や連絡、報告の見学・体験					
教 科 書		なし			
参 考 書		授業教科書、参考書			
備 考		なし			

科 目 名		臨床実習Ⅲセミナー		担 当 者		○高橋 一揮・小林 武 黒後 裕彦・鈴木 誠 星 孝・村上 賢一 三木 千栄・小野部 純 鈴木 博人・平山 和哉 阿部 玄治・長井 真弓 沼田 純希・銀明佳代子	
科目ナンバリング		10104420106				常勤	
D P		2,3		教 員 研 究 室		3101	
学 科（専 攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次		4 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 ・症例報告書を題材に症例関与時期から理学療法介入（役割）を意識した評価と障害像の把握、介入方針、計画の要点を考えることができるよう進めていく。 ・日常動作アプローチとしてのハンドリング技術の習得を図る。 ・臨床実習指導者の指導・助言の下に実施可能な臨床能力を身に着けられるよう講義と演習を行う。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。			
【学習の到達目標】 ・「臨床実習Ⅲ」に備え、理学療法介入計画立案の流れを疑似症例を通して学ぶ。 ・症例報告書を題材に症例関与時期から理学療法介入（役割）を意識した評価と障害像の把握、介入方針、計画の要点を考えることができるようになる。 ・運動力学的な視点で操作法を説明し、かつ対象者をスムーズにハンドリングする。 ・臨床実習指導者の指導・助言の下に実施可能な臨床能力を備える（OSCEⅡ）。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・演習が効果的に進むように、計画的に学習し知識と技術を高められるように予習と復習に努める。その際には教科書や論文を活用し、系統的な評価や介入となるよう準備をする。 ・臨床実習に臨むに相応しい態度にて授業に臨むこと			
【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・臨床実習Ⅲに備え、理学療法介入計画立案の道筋を立てることができる。 ・臨床実習指導者の指導・助言の下に実施可能な臨床能力が身につく。				【実務家教員担当科目】 多種多様な疾患を経験した理学療法士が、これまでに学んだ知識・技術を統合させ、臨床実習で実践できるよう教授する。			
【成績評価方法】 ハンドリング技術 20%、レポート 10%、実技試験 70% ただし、OSCEⅡで合格点に到達しない場合は、単位不可							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習			学修時間	
1	高橋 一揮・専攻全教員	総論：理学療法の臨床思考過程	理学療法とラポールに関してディスカッションを行うとともに、クリニカルリーズニングについて学習する			1 時間	
2	高橋 一揮・専攻全教員	ハンドリング①	身体操作の基本原則			1 時間	
3	高橋 一揮・専攻全教員	ハンドリング②	起き上がりの分析と身体操作			1 時間	
4	高橋 一揮・専攻全教員	ハンドリング③	立ち上がりの分析と身体操作			1 時間	
5	高橋 一揮・専攻全教員	ハンドリング④	脳卒中患者を想定した身体操作			1 時間	
6	高橋 一揮・専攻全教員	理学療法診療記録の書き方 1	診療報酬体系 POMR システム			1 時間	
7	高橋 一揮・専攻全教員	理学療法診療記録の書き方 2	SOAP の記載方法 症例報告書作成の実践			1 時間	
8	高橋 一揮・専攻全教員	理学療法における理学的検査	問診、リスク管理 フィジカルアセスメント			1 時間	
9	高橋 一揮・専攻全教員	各種疾患の医学的治療と理学療法介入 1	各種疾患に対する介入方法と治療方法の文献的検討			1 時間	
10	高橋 一揮・専攻全教員	各種疾患の医学的治療と理学療法介入 2	臨床実習での対象疾患に対する介入方法と治療方法の文献的検討			1 時間	
11	高橋 一揮・専攻全教員	理学療法評価手技・治療の確認と実践 1	健常者を対象とした理学療法評価手及び理学療法治療技術実践			1 時間	
12	高橋 一揮・専攻全教員	理学療法評価手技・治療の確認と実践 2	健常者を対象とした理学療法評価手及び理学療法治療技術実践			1 時間	
13	高橋 一揮・専攻全教員	理学療法評価手技・治療の確認と実践 3	疾患を想定した理学療法評価手及び理学療法治療技術実践			1 時間	
14	高橋 一揮・専攻全教員	理学療法評価手技・治療の確認と実践 4	疾患を想定した理学療法評価手及び理学療法治療技術実践			1 時間	
教 科 書		千住秀明 監修：理学療法評価法、神陵文庫 中村隆一：理学療法テクニック - 発達的アプローチ -, 南江堂					
参 考 書		中山恭秀：3 日間で行う理学療法臨床評価プランニング、南江堂					
備 考		質問は講義担当の教員が対応する					

科 目 名	臨床実習Ⅲ			担 当 者	○黒後 裕彦・小林 武 藤澤 宏幸・鈴木 誠 星 孝・村上 賢一 三木 千栄・小野部 純 高橋 一揮・鈴木 博人 平山 和哉・阿部 玄治 長井 真弓・沼田 純希 釼明佳代子
科目ナンバリング	10104420107				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	3102
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・前期
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	495 時間	単 位	必修 11 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・実習施設は主に医療機関が対象となる ・実習前にはオリエンテーションを行う ・実習期間は 10 週間（具体的日程は別途提示する） ・学生は 1 施設 1 ～ 2 名で、同一施設で実習を実施する ・施設での実習では指導者の下で評価から治療までの実際を行う ・実習終了後に臨床能力試験と報告会を実施する 【学習の到達目標】 ・身体的・心理的・社会的状況を包括した理学療法評価が実施できる ・理学療法評価結果に基づいて治療計画を立て、基本的な理学療法プログラムを実施できる ・再評価を行い、実施事項について検証することができる ・リスク管理と症例報告ができる ・対象者への説明ならびにチーム医療の理解ができる 【成績評価方法】 臨床実習状況（課題、実習記録の内容、指導者からの情報等）（30％）と報告会の内容（50％）と臨床能力試験の結果（20％）をもとに総合的に評価する				【課題等のフィードバック方法】 実習中もしくは実習終了後に質問を受け付け回答する 【履修上の注意・予習・復習について】 実習に行くにあたって、これまで学校で学んだことを復習し、十分な準備をして臨むこと 【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療者としての心構えについて考え、実践することができる 実習を通して知識、技術に関する自らの課題をみつけ解決することができる 【実務家教員担当科目】 理学療法士として経験をもつ教員が、臨床実習について指導する	
授 業 計 画					
主な内容を以下に示す。 1. 面接・問診 2. 情報収集 3. 検査・測定 4. 問題点の整理と抽出 5. ゴール設定 6. 理学療法プログラム立案 7 ～ 10. 理学療法プログラムの実施 11 ～ 12. 症例報告会 13 ～ 14. 客観的臨床能力試験					
教 科 書	なし				
参 考 書	各授業の教科書、参考書				
備 考	病気療養や不測の事態などの理由以外の欠席は認められない 質問等は各実習担当に問い合わせること				

科 目 名		基礎セミナーⅢ		担 当 者	○星 孝・鈴木 博人 平山 和哉	
科目ナンバリング		10104220110			常勤	
D P		3,4		教員研究室	3104、3220、3219	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 基礎セミナーⅢでは、「ピアエデュケーション」、「基礎介助技術」「ディベート」をテーマとしている。理学療法評価技術演習にて習得した知識・技術を整理し、1 年生へ伝達することで自己の理解を深める。また、理学療法が行う技術は介助ではないが、人への接触を必要とする職業学習の始動期にテクニカルな側面の導入として介助技術を学習する。さらに、ディベートを通して、情報リテラシーおよび論理的な思考の向上を図る。						
【学習の到達目標】 ・理学療法評価技術の知識・技術を整理し、かつ他者にわかりやすく説明・指導するために工夫できる ・基礎的な介助技術を実施できる ・情報を整理し、意見を論理的に他者へ伝えられる						
【成績評価方法】 ・課題レポートの提出と内容（40%） ・技術試験：介助技術の習熟度を評価する（60%） ・受験資格：当学規定における授業総回数の 2/3 以上（5 回欠席で失効）を有すること						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	星 孝 / 鈴木 博人	2 年次基礎セミナーⅢについて	主体的学習への導入ワークについて復習する		1 時間	
2	鈴木 博人 / 星 孝	ピアエデュケーション（2 年） ・理学療法評価技術の伝達 1	理学療法基礎技術を復習し、下位学年者が理解できるように伝達する		1 時間	
3	鈴木 博人 / 星 孝	ピアエデュケーション（2 年） ・理学療法評価技術の伝達 2	理学療法基礎技術を復習し、下位学年者が理解できるように伝達する		1 時間	
4	鈴木 博人 / 星 孝	ピアエデュケーション（2 年） ・理学療法評価技術の伝達 3	理学療法基礎技術を復習し、下位学年者が理解できるように伝達する		1 時間	
5	平山 和哉 / 鈴木 博人 / 星 孝	基礎介助技術演習 1	・基本動作に関する身体運動学からの知識の整理を行う ・技術の練習について予習復習する		1 時間	
6	平山 和哉 / 鈴木 博人 / 星 孝	基礎介助技術演習 2	・基本動作に関する身体運動学からの知識の整理を行う ・技術の練習について予習復習する		1 時間	
7	平山 和哉 / 鈴木 博人 / 星 孝	基礎介助技術演習 3	・基本動作に関する身体運動学からの知識の整理を行う ・技術の練習について予習復習する		1 時間	
8	平山 和哉 / 鈴木 博人 / 星 孝	基礎介助技術演習 4	・基本動作に関する身体運動学からの知識の整理を行う ・技術の練習について予習復習する		1 時間	
9	平山 和哉 / 鈴木 博人 / 星 孝	基礎介助技術演習（技術確認試験）	・基本動作に関する身体運動学からの知識の整理を行う ・技術の練習について予習復習する		1 時間	
10	鈴木 博人 / 星 孝	ディベート 1	オリエンテーション：ディベートに関する導入と準備		1 時間	
11	鈴木 博人 / 星 孝	ディベート 2	ディベートテーマ 1 の実施		1 時間	
12	星 孝 / 鈴木 博人	ディベート 3	ディベートと理学療法の接点		1 時間	
13	鈴木 博人 / 星 孝	ディベート 4	ディベートテーマ 2 の実施		1 時間	
14	鈴木 博人 / 星 孝	ディベート 5	ディベートテーマ 3 の実施とリフレクション		1 時間	
教 科 書		配布資料				
参 考 書		なし				
備 考		なし				

科 目 名		基礎セミナーⅣ		担 当 者	○星 孝・鈴木 博人 平山 和哉・2年 SA	
科目ナンバリング		10104220111			常勤	
D	P	3,4		教 員 研 究 室	3104、3220、3219	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用				☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない	「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 基礎セミナーⅣでは、「専門基礎科目の再学習」、「臨床介助技術」、「ピアエデュケーション」をテーマとしている。専門科目が本格的に開講され始めるこの時期に、国家試験問題を活用しながらこれまで学んできた解剖学、運動学、生理学を中心に復習、今後の学習の基礎を固める。また、臨床に即した各疾患に対応する動作支援技術の体得の導入を図る。さらに、学んだ動作支援技術を整理し、1年生へ伝達することで自己の理解を深める 【学習の到達目標】 ・解剖学、運動学、生理学を中心に復習し、再度知識を確認することができる。 ・臨床的な応用度の高い介助技術を実施でき、実施時の方法の説明することができる ・介助の知識・技術を整理し、下位学年者へわかりやすく説明・指導するために工夫できる 【成績評価方法】 ・筆記試験：専門基礎科目に国家試験問題（50%） ・技術試験：介助技術の習熟度を評価する（50%） ・受験資格：当学規定における授業総回数の2/3以上（5回欠席で失効）を有すること 【課題等のフィードバック方法】 授業時、もしくは授業後の質問に対し解答する 【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業内容に関係のない私語や独善的な作業などは行わない ・技術確認の回には臨床実習Ⅰに臨むに相応しい服装、整容で出席する 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・専門基礎科目の再学習により、他の専門科目の理解を深めることができる。 ・脳卒中片麻痺患者および下肢骨折患者等を対象とした介助技術を習得することができる。 ・他者へ伝達することの難しさを知り、また伝達するための準備により自己の理解を深められることを経験できる 【実務家教員担当科目】 臨床において理学療法業務に従事した経験のある教員が、理学療法を実施するにあたり必要なコミュニケーションや介助技術について教授する						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	2 年 SA	専門基礎科目の再学習 1	・ 国家試験問題を活用した課題を用いて予習復習する		1 時間	
2	2 年 SA	専門基礎科目の再学習 2	・ 国家試験問題を活用した課題を用いて予習復習する		1 時間	
3	2 年 SA	専門基礎科目の再学習 3	・ 国家試験問題を活用した課題を用いて予習復習する		1 時間	
4	2 年 SA	専門基礎科目の再学習 4	・ 国家試験問題を活用した課題を用いて予習復習する		1 時間	
5	2 年 SA	専門基礎科目の再学習（成果確認）	・ 国家試験問題を活用した課題を用いて予習復習する		1 時間	
6	星 孝 / 鈴木 博人	コミュニケーションワーク アイスブレイキングの企画	・ アイスブレイキングの企画を行い実行に向けて予習復習する		1 時間	
7	星 孝 / 鈴木 博人	コミュニケーションワーク アイスブレイキングの実行	・ 集団コミュニケーションについて予習復習する		1 時間	
8	平山 和哉 / 鈴木 博人 / 星 孝	臨床介助技術演習 1	・ 臨床で遭遇する動作に関する身体運動学的な知識の整理を行う ・ 介助技術の練習について予習復習する		1 時間	
9	平山 和哉 / 鈴木 博人 / 星 孝	臨床介助技術演習 2	・ 臨床で遭遇する動作に関する身体運動学的な知識の整理を行う ・ 介助技術の練習について予習復習する		1 時間	
10	平山 和哉 / 鈴木 博人 / 星 孝	臨床介助技術演習 3	・ 臨床で遭遇する動作に関する身体運動学的な知識の整理を行う ・ 介助技術の練習について予習復習する		1 時間	
11	平山 和哉 / 鈴木 博人 / 星 孝	臨床介助技術の確認試験	・ 臨床で遭遇する動作に関する身体運動学的な知識の整理を行う ・ 介助技術の練習について予習復習する		1 時間	
12	鈴木 博人 / 星 孝	ピアエデュケーション（2 年） 介助技術の伝達	・ 理学療法基礎技術を復習し、下位学年者が理解できるように伝達する		1 時間	
13	鈴木 博人 / 星 孝	ピアエデュケーション（2 年） 介助技術の伝達	・ 理学療法基礎技術を復習し、下位学年者が理解できるように伝達する		1 時間	
14	鈴木 博人 / 星 孝	ピアエデュケーション（2 年） 介助技術の伝達	・ 理学療法基礎技術を復習し、下位学年者が理解できるように伝達する		1 時間	
教 科 書		配布資料、講義ノート				
参 考 書		なし				
備 考		なし				

科 目 名		地域理学療法セミナー		担 当 者	○三木 千栄・高橋 一揮 小野部 純・平山 和哉 沼田 純希・渡邊 洋一	
科目ナンバリング		10104320113			常勤	
D P		3,4		教員研究室		
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・「地域」を学習する ・地域で活躍する専門職から講義 ・地域の課題を共に考え、理学療法士ができることを議論し取り組んでいく ・予防事業のための有酸素運動の動画を作成する ・地域高齢者の予防活動の見学と体験 【学習の到達目標】 ・在宅生活者を支援する専門職の業務内容や役割を理解し、連携の仕方を学ぶ ・地域を評価することを理解する ・介護予防・健康増進の進め方を理解する ・災害支援を理解する 【成績評価方法】 ・2/3 以上の出席がない場合は評価しない。 ・課題の提出で 100% 評価します。 【課題等のフィードバック方法】 ・質問を毎回の授業の中で受け付ける 【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業中に学生からの発言や行動を求めます ・学生の主体性を重視します 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・地域や福祉領域で支援している専門職の話聞き、多職種協働で支援していくことの重要性を学ぶことができる。 ・実際の地域で行われている事業を学び、今後地域で理学療法士がいかに貢献できることを考えることができます。 【実務家教員担当科目】 地域で活躍する理学療法士等が講義する。学校保健、スポーツ障害、医療的ケア児、高齢者・障害者等の健康増進等、災害支援。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	三木 千栄	オリエンテーション			1 時間	
2	渡邊 洋一 三木 千栄	地域とは	出身地の地域を調べ、調べてことをまとめ、レポートとして提出		1 時間	
3	三木 千栄	地域づくりの介護予防	調べた出身地の課題に対して、予防活動を企画しレポートとして提出		1 時間	
4	三木 千栄	グループワーク 2・3 回目の課題などを話し合う	グループで話し合って、理解したことや感じたことをフォームで提出		1 時間	
5	鈴木 誠	特別支援学校	理解したことと感想などをフォームで提出		1 時間	
6	平山 和哉	スポーツ障害	理解したことと感想などをフォームで提出		1 時間	
7	高橋 一揮	医療的ケア児	理解したことと感想などをフォームで提出		1 時間	
8	三木 千栄	障害者施設の生活介護・施設入所支援	理解したことと感想などをフォームで提出		1 時間	
9	沼田 純希	介護保険の通所介護	理解したことと感想などをフォームで提出		1 時間	
10	三木 千栄	有酸素運動の動画作成①	身体運動学を予習する		1 時間	
11	三木 千栄	有酸素運動の動画作成②	理解したことと感想などをフォームで提出		1 時間	
12	小野 部純	災害支援	理解したことと感想などをフォームで提出		1 時間	
13	三木 千栄 鈴木 誠	地域の予防活動を考える	理解したことと感想などをフォームで提出		1 時間	
14	高橋 一揮 鈴木 誠	地域予防活動の見学・体験する	理解したことと感想などをフォームで提出		1 時間	
教 科 書		なし				
参 考 書		なし				
備 考		質問は授業ごとの担当教員にしてください				

科 目 名		スポーツ理学療法セミナー		担 当 者	○阿部 玄治・平山 和哉 永元 英明	
科目ナンバリング		10104320114			常勤・非常勤	
D	P	3,4		教 員 研 究 室	3218, 3219	
学 科 (専攻)		リハビリテーション学科 (理学療法専攻)		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 スポーツ領域に関わる理学療法士の活動を多面的に学ぶとともに、スポーツ損傷の予防、受傷から競技復帰までの理学療法介入について学ぶ。 【学習の到達目標】 ・スポーツに携わる理学療法士の役割を説明できる。 ・ストレッチング、筋力トレーニング、ファンクショナルトレーニング、スポーツ栄養、ドーピングについて説明できる。 ・各種スポーツ損傷の概要や理学療法評価・治療について説明および実践できる。 ・足関節固定のテーピングが巻けるようになる。 【成績評価方法】 筆記試験 (60%)、発表 (30%)、レポート (10%) で評定する。				【課題等のフィードバック方法】 授業中や授業終了後に質問を受け付け、回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の私語は慎むこと。 授業に関係のないスマートフォンの使用は禁止する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 スポーツに携わる理学療法士の役割や治療技術を学ぶことができる。 スポーツ現場で必要なスキルを身につけることができる。 【実務家教員担当科目】 理学療法士として整形外科病院での勤務やトレーナー活動経験を有する教員、またオリンピックをはじめとする多くの大会帯同経験を有する整形外科専門医・スポーツドクターが臨床現場を想定したリアリティのある授業を展開する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	阿部 玄治、 平山 和哉	オリエンテーション スポーツ選手に対する各種ストレッチングの理論	予習：シラバスを読むこと。 復習：1 講の内容について復習すること。		1 時間	
2	平山 和哉、 阿部 玄治	スポーツ選手に対する各種ストレッチングの実際	予習：筋の起始・停止について復習すること。 復習：2 講の内容について復習すること。		1 時間	
3	阿部 玄治、 平山 和哉	スポーツ選手に対する筋力トレーニングの理論	予習：筋の作用について復習すること。 復習：3 講の内容について復習すること。		1 時間	
4	阿部 玄治、 平山 和哉	スポーツ選手に対する筋力トレーニングの実際	予習：筋の作用について復習すること。 復習：4 講の内容について復習すること。		1 時間	
5	阿部 玄治、 平山 和哉	スポーツ損傷に対する理学療法評価・治療 1 (BIODEX 等)	予習：スポーツ損傷について復習すること。 復習：5 講の内容について復習すること。		1 時間	
6	阿部 玄治、 平山 和哉	スポーツ損傷に対する理学療法評価・治療 2	予習：スポーツ損傷について復習すること。 復習：6 講の内容について復習すること。		1 時間	
7	阿部 玄治、 平山 和哉	スポーツ損傷に対する理学療法評価・治療 3 (発表)	予習：スポーツ損傷について復習すること。 復習：7 講の内容について復習すること。		1 時間	
8	阿部 玄治、 平山 和哉	スポーツ損傷に対する理学療法評価・治療 4 (発表)	予習：スポーツ損傷について復習すること。 復習：8 講の内容について復習すること。		1 時間	
9	永元 英明	スポーツドクターによる講義 1	予習：スポーツ領域での PT の役割を考えること。 復習：9 講の内容について復習すること。		1 時間	
10	永元 英明	スポーツドクターによる講義 2	予習：スポーツ領域での PT の役割を考えること。 復習：10 講の内容について復習すること。		1 時間	
11	阿部 玄治、 平山 和哉	ファンクショナルトレーニングの理論	予習：トレーニングについて復習すること。 復習：11 講の内容について復習すること。		1 時間	
12	阿部 玄治、 平山 和哉	ファンクショナルトレーニングの実際	予習：トレーニングについて復習すること。 復習：12 講の内容について復習すること。		1 時間	
13	阿部 玄治、 平山 和哉	各種テーピング	予習：膝・足靱帯損傷について復習すること。 復習：13 講の内容について復習すること。		1 時間	
14	平山 和哉、 阿部 玄治	スポーツ栄養、ドーピング	予習：五大栄養素について復習すること。 復習：14 講の内容について復習すること。		1 時間	
教 科 書		特になし				
参 考 書		「標準整形外科学」第 14 版 松野丈夫・中村利孝総監修、医学書院 「病気がみえる vol. 11 運動器・整形外科」医療情報科学研究所編集、メディックメディア				
備 考		授業運営に関わる問い合わせには阿部が対応する。授業内容については各回の担当教員が対応する。				

科 目 名		ウイメンズヘルス		担 当 者	小野部 純	
科目ナンバリング		10104320115			常勤	
D	P	1,4		教員研究室	3108 研究室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 理学療法の学部教育において、近年、女性の健康に関する基礎的臨床的な評価および治療についての内容が含まれるべきと提唱されている。これは、理学療法士として性差を踏まえた介入の必要性が求められていることであり、男女を問わず理解しておくべき事項である。本講義では、ウイメンズヘルス分野のうちライフステージ（思春期、成熟期、更年期・老年期）別にみた疾患・症状の理解と、それに対する理学療法の概要について教授する。 【学習の到達目標】 ・女性のライフステージ別の疾患・症状を理解する ・女性特有の健康問題に対する理学療法の概要を理解する 【成績評価方法】 ・定期試験（100％） 【課題等のフィードバック方法】 授業中にも随時質問を受け付け、指導内容は受講者全員に情報を共有するように配慮する 【履修上の注意・予習・復習について】 男性の履修も歓迎する 実習では、実際の評価方法や治療の体験を行う予定である 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・女性特有の問題点を理解することが出来る ・実際の理学療法介入を体験できる 【実務家教員担当科目】 ・主担当者は、婦人科系がんの後遺症の一つであるリンパ浮腫に対する認定資格（ドイツにて国際標準規格研修会を修了）を有している。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	小野部 純	ウイメンズヘルス理学療法の概要	・ウイメンズヘルスに理学療法士が関わる意義を理解する ・骨盤周囲の骨格・生殖器（解剖生理学）の概要を理解する		4 時間	
2	小野部 純	女性の疾患・症状に対する理学療法（思春期）	・月経に関連する健康問題を理解する		4 時間	
3	小野部 純	女性の疾患・症状に対する理学療法（成熟期）	・産前産後に関連する健康問題を理解する		4 時間	
4	小野部 純	年代別の特徴とその障害に対する理学療法（更年期・老年期）	・女性の老化の特徴（更年期障害など）と老化に関連する問題（サルコペニア、ロコモティブシンドロームなど）を理解する		4 時間	
5	小野部 純	【実習】女性の疾患・症状に対する理学療法の実際	・女性の疾患・症状に対する理学療法の実際を理解する		4 時間	
6	小野部 純	女性の疾患・症状に対する理学療法（更年期・老年期）	・女性特有疾患（婦人科系がん）に関連する問題を理解する		4 時間	
7	小野部 純	【実習】女性の疾患・症状に対する理学療法の実際	・リンパ浮腫に対する理学療法の病態ならびに治療手技（保存療法）を理解する		4 時間	
教 科 書		なし（授業配布資料を使用する）				
参 考 書		ウイメンズヘルス理学療法研究会編集：ウイメンズヘルスリハビリテーション第1版第3刷、株式会社メジカルビュー社、2017.				
備 考		その他、追加ならびに変更情報があれば、クラスルームなどを活用して周知する				

科 目 名	医学英語			担 当 者	○三木 千栄・高橋 一揮
科目ナンバリング	10104320116				常勤
D P	1,4			教員研究室	3109, 3101
学科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・英語の医学論文に慣れるため、医学英語に触れる機会を設ける ・テキストを使用して、医学用語の接頭語・接尾語等を学習する ・医療、理学療法士がよく使用する英単語を学習する ・医学英語の文章を訳す 【学習の到達目標】 ・英語の医学論文を、辞書を引きながら読むことができる 【成績評価方法】 ・課題提出（70%） ・復習テスト（30%）				【課題等のフィードバック方法】 ・授業ごとに質問を受け付ける ・小テスト後に解説 【履修上の注意・予習・復習について】 ・復習は必ずしてくること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・医療英語・用語を学ぶことができる ・臨床実習で指導者が使用する医学用語が理解しやすくなる 【実務家教員担当科目】 臨床経験のある教員が臨床で使われる用語、医学文献でよく使用される用語を教授する	
授 業 計 画					
回数：2 コマを 7 回 担当教員：三木千栄、高橋一揮 学習内容：教科書により接頭語・語幹・接尾語を学習する 臨床で使用される医学用語のプリントを適宜配布し授業に使用する 翌週から復習テストを実施する					
教 科 書	基本の 101 語を組み合わせる学ぶ医学英語第 2 版 津波古澄子/マリオン・ゾボスキー著 日本看護協会出版				
参 考 書					
備 考					

科 目 名		福祉住環境論		担 当 者	○高橋 一揮・三木 千栄 一條 佑介	
科目ナンバリング		10104320117			常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室		3101
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次		3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 ・高齢者・障がい者を取り巻く釈迦う状況と住環境を理解し、自立支援の在り方に関して学習する ・福祉住環境整備の進め方とその基本技術に関して基礎知識を学習する。 ・高齢者保健・福祉サービスの充実に資する人材となるための知識を涵養する。 【学習の到達目標】 ・介護や医療、福祉、建築、福祉用具に関する専門的知識有し、福祉住環境コーディネーター 2 級相当の理解を身につける 【成績評価方法】 小テスト（90％）、課題等（10％）				【課題等のフィードバック方法】 小テストは当該科目の時間内に実施し、授業理解を促す。 また講義終了後には質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・復習は小テストを実施することで補完するが、事前に予習を行い学習効果が向上するよう努めること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・医療・福祉・建築について体系的で幅広い知識を身につけ、各種の専門職と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランや福祉用具、諸施策情報などについてもアドバイスできるようになる。 ・福祉住環境コーディネーター 2 級取得を目指す 【実務家教員担当科目】 すでに資格取得した教員や臨床・実践業務に従事した経験のある教員が、その経験を生かして教授する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高橋 一揮	高齢者・障がい者を取り巻く社会状況と住環境	住環境整備の重要性、障がい者福祉政策の概要について予習する			4 時間
2	三木 千栄	障害の捉え方と自立支援の在り方 1	前回復習と共に、障害の捉え方、高齢者のリハビリテーションの在り方を予習する			4 時間
3	三木 千栄	障害の捉え方と自立支援の在り方 2	前回復習と共に、介護保険制度の概要、高齢者・障がい者の心身特性を予習する			4 時間
4	一條 佑介	福祉住環境整備の基本知識 1	前回復習と共に、段差の解消、手すり、床材、建具を予習する			4 時間
5	一條 佑介	福祉住環境整備の基本知識 2	前回復習と共に、家具・収納への配慮、色彩や照明の配慮を予習する			4 時間
6	一條 佑介	福祉住環境整備の基本知識 3	前回復習と共に、外出・屋内移動の環境整備を予習する			4 時間
7	一條 佑介	福祉住環境整備の基本知識 4	前回復習と共に、排泄や入浴、更衣、整容、就寝などに対する環境整備の配慮を予習する			4 時間
8	高橋 一揮	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 1	前回復習と共に、高齢者疾患の特徴、脳血管障害や廃用症候群、認知症に関する住環境を予習する			4 時間
9	高橋 一揮	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備 2	前回復習と共に、骨折やリウマチ、パーキンソン病、糖尿病、心筋梗塞に関する住環境を予習する			4 時間
10	高橋 一揮	障害別にみた福祉住環境整備 1	前回復習と共に、肢体不自由の住環境を予習する			4 時間
11	高橋 一揮	障害別にみた福祉住環境整備 2	前回復習と共に、内部障害、視覚障害、聴覚。言語障害、行動障害の住環境の住環境を予習する			4 時間
12	三木 千栄	福祉用具の適用と活用 1	前回復習と共に、福祉用具の意味や選択・適用のプロセスの住環境を予習する			4 時間
13	三木 千栄	福祉用具の適用と活用 2	前回復習と共に、生活行為別にみた福祉用具の活用の住環境を予習する			4 時間
14	高橋 一揮	総合演習	これまでの知識の整理と試験の出題傾向を確認する。			4 時間
教 科 書		なし				
参 考 書		福祉住環境コーディネーター検定試験 ②2 級公式テキスト＜改訂 6 版＞：東京商工会議所 福祉住環境コーディネーター 2 級検定試験集中レッスン：コンデックス情報研究所（成美堂出版）				
備 考		質問・問い合わせは授業担当教員とする				

科 目 名	アダプテッド・スポーツ基礎実習			担 当 者	未定
科目ナンバリング	10104120118				常勤
D P	3,4			教員研究室	未定
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	実習	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本学習では、障がい児者が日頃取り組んでいるスポーツやレクリエーション、フィットネス、トレーニング等に関する学内および学外の活動体験を通じて、障がい者児のために工夫された技術やルール、および、体力・健康増進、機能回復のためのプログラムのポイントを理解・習得する。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。	
【学習の到達目標】 障がい児者を含めた全実施者に適応したアダプテッド・スポーツの実践およびサポート活動を通じて、ルールや基本的なスポーツ技術、支援方法を習得することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 体育館で実習するだけでなく、学内外のイベント運営を行いながら障がい当事者と交流する場面もあるため、受講態度には十分注意すること。	
【成績評価方法】 課題達成度（70％）、レポート（30％）により評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 他学部および他専攻にも開講するため、学科および専攻を問わず履修することができ、多領域の視点を相互に学ぶことができる。	
				【実務家教員担当科目】 スポーツ競技団体あるいは障がい者スポーツセンターでの勤務経験のある教員が、その経験を活かして、障がい児者を含む多様な対象者に対するスポーツ支援の実習を指導する。	
授 業 計 画					
第 1 ～ 4 回目：動作や用具の制限下における障がいに応じたスポーツの工夫・実施 第 5 ～ 7 回目：障がい者との交流 1（陸上競技大会におけるサポート活動） 第 8 ～ 12 回目：障がい者との交流 2（陸上競技大会におけるサポート活動） 第 13 ～ 15 回目：各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 1（チェアワーク、車いすバスケットボール等） 第 16 ～ 19 回目：各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 2（ボッチャ、フライングディスク等）、球技系スポーツの工夫と実施（ゴールボール、シッティングバレーボール等） 第 20 回目：授業のまとめ					
教 科 書	適宜資料を配布する。				
参 考 書	イラスト「アダプテッド・スポーツ概論」東京教学社 「障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020 年改訂カリキュラム対応」ぎょうせい				
備 考	本科目は、（公財）日本パラスポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者「初級パラスポーツ指導員」資格取得のための必修科目である。				

科 目 名		アダプテッド・スポーツ論		担 当 者	未定	
科目ナンバリング		10104120119			常勤	
D P		3,4		教 員 研 究 室	未定	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本講義では、障がい児者や高齢者等が、ルールや用具を改良することにより健常者と同じようにスポーツを実施することができるように工夫されたスポーツ（アダプテッド・スポーツ）を理解し指導および支援するために必要な知識と技術の基礎的な内容を概説およびグループワークする。 【学習の到達目標】 アダプテッド・スポーツの基本的概念を理解し、障がい児者や高齢者等が安全に楽しくスポーツに取り組むための知識、およびルールや用具の工夫の仕方等の基本的な知識を習得し、レポートにまとめることができる。 【成績評価方法】 課題発表（30％）、レポート（70％）により評価する。 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻を認めない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 他学部および他専攻にも開講するため、学科および専攻を問わず履修することができ、多領域の視点を相互に学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 スポーツ競技団体での勤務経験のある教員がその経験を活かして、障がい児者を含む多様な対象者に対するスポーツ支援の方法を講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	未定	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質について調べ、要点をまとめること		4 時間	
2	未定	パラスポーツの意義と理念	パラスポーツの意義と理念について調べ、要点をまとめること		4 時間	
3	未定	コミュニケーションスキルの基礎	コミュニケーションスキルの基礎について調べ、要点をまとめること		4 時間	
4	未定	パラスポーツ推進の取り組み	パラスポーツ推進の取り組みについて調べ、要点をまとめること		4 時間	
5	未定	パラスポーツに関する諸施策	パラスポーツに関する諸施策について調べ、要点をまとめること		4 時間	
6	未定	安全管理	安全管理について調べ、要点をまとめること		4 時間	
7	未定	各障がいの理解① 肢体不自由、視覚障がい	肢体不自由、視覚障がいについて調べ、要点をまとめること		4 時間	
8	未定	各障がいの理解② 聴覚・音声言語障がい、内部障がい	聴覚・音声言語障がい、内部障がいについて調べ、要点をまとめること		4 時間	
9	未定	各障がいの理解③ 知的障がい、発達障がい	知的障がい、発達障がいについて調べ、要点をまとめること		4 時間	
10	未定	各障がいの理解④ 精神障がい	精神障がいについて調べ、要点をまとめること		4 時間	
11	未定	全国障害者スポーツ大会の概要	全国障害者スポーツ大会の概要について調べ、要点をまとめること		4 時間	
12	未定	障がい者のスポーツ指導における留意点①	障がい者のスポーツ指導における留意点について調べ、要点をまとめること		4 時間	
13	未定	障がい者のスポーツ指導における留意点②	障がい者のスポーツ指導における留意点について調べ、要点をまとめること		4 時間	
14	未定	障がい者のスポーツ指導における留意点③	障がい者のスポーツ指導における留意点について調べ、要点をまとめること		4 時間	
教 科 書		適宜資料を配布する。				
参 考 書		イラスト「アダプテッド・スポーツ概論」東京教学社 「障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020 年改訂カリキュラム対応」ぎょうせい				
備 考		本科目は、（公財）日本パラスポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者「初級パラスポーツ指導員」資格取得のための必修科目である。				

科 目 名	理学療法学特論			担 当 者	○小林 武・黒後 裕彦 藤澤 宏幸・鈴木 誠 内藤 輝・星 孝 村上 賢一・三木 千栄 小野部 純・高橋 一揮 鈴木 博人・平山 和哉 阿部 玄治・長井 真弓 沼田 純希・釧明佳代子
科目ナンバリング	10104420120				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	小林：3103
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・通年
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	90 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・理学療法研究法の基礎として、研究論文の検索方法や基本的データ解析法、理学療法機器学の基礎について学ぶ。 ・4 年次までの学習を基礎として、理学療法に関する研究計画を立案し、研究計画に基づきデータの収集と解析を行い、その結果に対して考察する。そしてそれらの内容をまとめ口述発表を行う。これら一連の過程を通じて研究活動の実際を経験する。				【課題等のフィードバック方法】 活動中に適宜フィードバックする。	
【学習の到達目標】 ・仮説検証のプロセスを説明できる。 ・基本的なデータ収集と解析を実践できる。 ・データから結果を導き出し、考察を加えることができる。 ・研究発表スライドを作成できる。 ・口述発表を実践できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・学生自身が主体性を持って積極的に活動すること。 ・常に研究活動を振り返り反省を忘れないこと。 ・グループ担当教員の指示に従うこと。	
【成績評価方法】 研究の内容理解と貢献度（40%）、口述発表（60%）から総合的に判断する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 理学療法研究の一連の過程の中で、準備段階から実験・調査、解析、口述発表の実際を経験できる。	
				【実務家教員担当科目】 研究活動を経験した理学療法士・研究者が、研究の準備段階から実験・調査、解析、口述発表までの実際を教授する。	
授 業 計 画					
各特論グループの計画に沿って進める					

科 目 名		理学療法学特別演習 I		担 当 者	○村上 賢一・小野部 純	
科目ナンバリング		10104420121			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3119	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・3 年次までの学習を基に、専門基礎科目、専門科目の知識を整理し、理学療法に必要な知識体系を確認する。主として、国家試験の過去問等を利用し、総合的な理学療法の知識を深める。 【学習の到達目標】 ・国家試験に必要な知識の整理し、知識水準の向上を図る 【成績評価方法】 まとめ試験（80%）、課題提出（20%） 【課題等のフィードバック方法】 演習中に適宜フィードバックする 【履修上の注意・予習・復習について】 講義時間外にも、課題の整理を行うこと 【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家試験のみならず、臨床実習に向けての知識をまとめることができる 【実務家教員担当科目】 臨床業務に従事した経験のある教員が、その経験を活かして教授する						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	村上 小野部	オリエンテーション	国家試験の概要確認			1 時間
2	村上 小野部	課題①：調査学習	課題の実施			1 時間
3	村上 小野部	課題①：グループ学習	課題の実施			1 時間
4	村上 小野部	課題①：まとめ	課題の実施			1 時間
5	村上 小野部	課題②：調査学習	課題の実施			1 時間
6	村上 小野部	課題②：グループ学習	課題の実施			1 時間
7	村上 小野部	課題②：まとめ	課題の実施			1 時間
8	村上 小野部	課題③：調査学習	課題の実施			1 時間
9	村上 小野部	課題③：グループ学習	課題の実施			1 時間
10	村上 小野部	課題③：まとめ	課題の実施			1 時間
11	村上 小野部	課題④：調査学習	課題の実施			1 時間
12	村上 小野部	課題④：グループ学習	課題の実施			1 時間
13	村上 小野部	課題④：まとめ	課題の実施			1 時間
14	村上 小野部	課題全範囲のまとめ	課題の実施			1 時間
教 科 書		指定なし				
参 考 書		指定なし				
備 考		特になし				

科 目 名		理学療法学特別演習Ⅱ		担 当 者		○黒後 裕彦・藤澤 宏幸 鈴木 誠・星 孝 村上 賢一・三木 千栄 小野部 純・高橋 一揮 鈴木 博人・平山 和哉 阿部 玄治・長井 真弓 沼田 純希・釼明佳代子 吉田 裕人・山本 和恵 一條 佑介
科目ナンバリング		10104420122				常勤
D P		1,4		教 員 研 究 室		3102
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（理学療法学専攻）		配 当 年 次		4 年次・後期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 ・国家試験対策セミナー 分野別に過去問等を利用して要点を解説する ・定期的に模擬試験をおこなう ・学際講義をおこなう 【学習の到達目標】 ・4 年次前期までに学んだ知識と技術を整理し、統合的な能力を培う ・国家試験に合格できる水準の知識を身につける ・理学療法に隣接する領域についての知識を深める 【成績評価方法】 筆記試験（80％）課題（20％）				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する 【履修上の注意・予習・復習について】 講義時間以外にも十分に時間を設けて学習すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家試験に向けて4 年間学んだ知識をまとめることができる 理学療法に隣接する領域についての知識を深めることができる 【実務家教員担当科目】 理学療法士として業務経験をもつ教員が国家試験を受験するのに必要な知識について教授する		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	黒後 裕彦	オリエンテーション	終了後は授業内容をまとめておくこと			1 時間
2	黒後 裕彦	解剖学・生理学の知識と生理	終了後は「解剖学・生理学」に関してまとめておくこと			1 時間
3	小野部 純	病理・運動学の知識の整理	終了後は「病理・運動学」に関してまとめておくこと			1 時間
4	小野部 純	臨床医学の知識の整理	終了後は「臨床医学」に関してまとめておくこと			1 時間
5	黒後 裕彦	保健医療福祉の知識の整理	終了後は「保健医療福祉」に関してまとめておくこと			1 時間
6	村上 賢一	基礎理学療法の知識の整理	終了後は「基礎理学療法」に関してまとめておくこと			1 時間
7	高橋 一揮	基礎理学療法の知識の整理	終了後は「基礎理学療法」に関してまとめておくこと			1 時間
8	高橋 一揮	評価法の知識の整理	終了後は「評価法」に関してまとめておくこと			1 時間
9	高橋 一揮	治療学の知識の整理	終了後は「治療学」に関してまとめておくこと			1 時間
10	村上 賢一	治療学の知識の整理	終了後は「治療学」に関してまとめておくこと			1 時間
11	藤澤 宏幸	理学療法に関するトピックス	終了後は講義内容に関してまとめておくこと			1 時間
12	吉田 裕人	医療・介護保険制度について	終了後は講義内容に関してまとめておくこと			1 時間
13	山本 和恵	建築環境領域から医療福祉の環境を考える	終了後は講義内容に関してまとめておくこと			1 時間
14	一條 佑介	障害と住宅と生活環境	終了後は講義内容に関してまとめておくこと			1 時間
教 科 書		理学療法士 作業療法士国家試験問題 解答と解説 医歯薬出版 国試の達人 運動解剖生理学編 臨床医学編 理学療法編 IPEC				
参 考 書		クエスチョン・バンク 国家試験問題解説 メディックメディア 国家試験必修ポイント 医歯薬出版				
備 考		質問等は各課題担当の教員に尋ねること				

2025 年度入学者用カリキュラム (作業療法学専攻)

科 目 名	輝ける者			担 当 者	○小野部 純・他
科目ナンバリング	102011251				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	3108
学 科 (専攻)	リハビリテーション学科 (作業療法学専攻)			配 当 年 次	1 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業は、地元宮城県を支える取り組みを題材とし、次の2つの観点により授業を展開することで、「主体的に考える力」、「コミュニケーション力」、「問題解決力」を高め、「チームワーク・リーダーシップ」、「市民としての社会的責任」に対する基本的態度を育むことを目的とする ① 地元の産業を支えるとは 最前線で活躍している多様なゲストスピーカーの講義により、職業人の社会・地域の発展に対する思いを知ることから、「働くことの意味」を主体的に考える。 ② 地元を支える活動の実践 グループでの地域創生プロジェクトの企画提案を通して、地元の課題を自分自身と結び付けて考え、チームで提案し、地域を巻き込んで実践する。 【学習の到達目標】 社会の中で「輝く」とは何かについて、各自の考えを持つ 「仕事とはなにか」について考え、各自の考えを持つ 【成績評価方法】 ①レポート内容、②各テーマに関する発表内容の2点から総合的に評価する 【課題等のフィードバック方法】 都度、質疑に応答する 【履修上の注意・予習・復習について】 複数時間で実施することが有効な授業内容の場合、土日もしくは長期休業期間に実施することがある 外部との調整の都合上、授業初回時にあらためてスケジュールを提示する 【受講して得られる効果・メリット、その他】 自ら考え、提案し、他者と協働してプロジェクトを実施する力が身につく 【実務家教員担当科目】 地元を支えているゲストスピーカーなどと、質疑・意見交換が可能となっている					
授 業 計 画					
----- 導入編 1. ガイダンス、グループワーク (アイスブレイク) 2～4. キャリア形成 ----- 地元を支える活動の実践 5～12. 多様な働き方を学び、考える ・地元企業を知る (働くとは何か) ・企業と地域 (ゲストスピーカー) ・グループワーク (企業へのインタビュー準備) ・多様な働き方 (アシスタ仙台)、企業担当者へのインタビュー ----- 地元の産業活動を知る 13～26. 夏休み企画 秋保ワイナリーとマルシェ ・マルシェの企画 ・マルシェ運営 ----- まとめ 27、28. グループ発表					
教 科 書	特に指定しない				
参 考 書	必要に応じて指示する				
備 考	質問や問い合わせは、常勤教員が受け付ける 複数時間で実施することが有効な授業内容の場合、土日もしくは長期休業期間に実施することがある 外部との調整の都合上、授業初回時にあらためてスケジュールを提示する				

科 目 名		生命を考える			担 当 者	○中村 哲也・阿部 玄治 本多ふく代・大庭 みよ 秋本 和宏
科目ナンバリング		102011252				常勤
D	P	2,4			教員研究室	1427
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 21 世紀に入り日本は本格的な長寿社会を迎えた。加えて、人々には人種・性別・年齢・障害の有無に関わらず自分らしく生きられる社会（多様性のある社会）の実現が求められている。本科目では「ヒトの生命」を主たるテーマとし、「生きること」「死ぬこと」「障害と共に生きること」等について講義を受講しつつ、履修者同士で意見交換を行いながら考える。						
【学習の到達目標】 健康とは何か、「生」そして「死」とは何かについて、他者の意見を踏まえながら自分なりの考えを述べられるようになること。						
【成績評価方法】 ①講義前後の調べ学習、②講義時間中に取り組む小課題、③レポートの 3 点から総合的に評価する。 課題の内容や課される回数、評価方法は担当教員ごとに異なる。						
【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートなど小課題については適宜集計し、翌週以降の講義時間中ないしクラスルームを通じてフィードバックする。						
【履修上の注意・予習・復習について】 原則として毎回出席することが求められる。各テーマで課される最終レポートを全て提出しなければ成績評価の対象とならない。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 より良く生きることの意味について、同年代の学友の多様な意見に触れる機会を得られる。意見交換を経て自分の考えをまとめることによって、今後の生活に対して前向きになることが期待できる。						
【実務家教員担当科目】 看護師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の資格を有する担当教員が、実務経験を踏まえた講義をオムニバス形式で行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	中村 哲也	科目ガイダンス	予習：シラバスを読む 復習：指定された資料を確認する			4 時間
2	加賀谷 豊	日常の医療と臨床研究における生命倫理	予習：クラスルームの症例資料を読んでくる 復習：リアクションペーパー、資料を調べる			4 時間
3	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：資料を調べる 復習：リアクションペーパー、発表準備			4 時間
4	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
5	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：発表準備 復習：レポート課題			4 時間
6	本多ふく代	子どもを育てることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
7	本多ふく代	障害児を育てることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
8	本多ふく代	人が育てられる、育てられることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題			4 時間
9	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
10	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
11	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題			4 時間
12	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える ー生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
13	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える ー生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
14	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える ー生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題			4 時間
教 科 書		指定なし				
参 考 書		玉井真理子・大谷いづみ（編）（2011）、はじめて出会う生命倫理、有斐閣アルマ 鯨島浩二（著）植野ゆかり（絵）（2003）、わたしがあなたを選びました、主婦の友社 深澤友紀（著）（2018）、産声のない天使たち、朝日新聞出版				
備 考		講義の実施スケジュールは担当教員の予定により変更される可能性がある。				

科 目 名		現代社会を視る		担 当 者	○山尾 貴則・豊田 正利 野崎 瑞樹・鑑 さやか 山川 樹・小渕 高志 黒沢 麻美・田中 茜	
科目ナンバリング		102011253			常勤	
D	P	2,4		教 員 研 究 室	3304	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本科目では、現代社会学部の教員が有する専門的な知識や技術を下敷きとして、「現代社会」をさまざまな角度から「視る」。そのことを通して、社会を知る・捉える・理解する力を培う。基本的には講義形式を取るが、多様な媒体に自分で触れたり、現場で活躍する人々と交流するなど、学内外の活動も含む。最終的には、社会で起きている現象を知るだけでなく、体験したり、問題を見つけて解決方法を考えたり、優れた点を発展させる案を考えることなどができるような力を身につけていく。						
【学習の到達目標】 受講生が現代社会における諸問題に自ら関心を持ち、人文社会科学的な知識を下敷きとして諸問題に接近し、理解できるようになる。						
【成績評価方法】 講義を大きく 4 つのパートに分け、それぞれのパートにつき、「講義態度、講義への参加の様子」を 10 点、「3 つ課す課題」をそれぞれ 5 点として 5 × 3 = 15 点の総点 25 点とする。4 つのパートを合わせて 100 点満点で評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 Google クラスルームを使用して受講生からの質問等を受け付け、適宜コメントする。						
【履修上の注意・予習・復習について】 私語をしないこと。普段から社会の諸問題に目を向けること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 受講生が現代社会における諸問題に自ら関心を持ち、人文社会科学的な知識を下敷きとして諸問題に接近し、理解できるようになる。						
【実務家教員担当科目】 該当なし。						

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	山尾	ガイダンスー現代社会を「視る」とは	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間
2	山川・小渕	現代社会をニュースから視る (1)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間
3	山川・小渕	現代社会をニュースから視る (2)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間
4	山川・小渕	現代社会をニュースから視る (3)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間
5	豊田・鑑	現代の地域を視る (1)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間
6	豊田・鑑	現代の地域を視る (2)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間
7	豊田・鑑	現代の地域を視る (3)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間
8	野崎・黒沢	現代の仕事を視る (1)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間
9	野崎・黒沢	現代の仕事を視る (2)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間
10	野崎・黒沢	現代の仕事を視る (3)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間
11	田中・山尾	現代の生（ライフ）を視る (1)	受講生自らが自分自身の人生（ライフ）をふり振り返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間
12	田中・山尾	現代の生（ライフ）を視る (2)	受講生自らが自分自身の人生（ライフ）をふり振り返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間
13	田中・山尾	現代の生（ライフ）を視る (3)	受講生自らが自分自身の人生（ライフ）をふり振り返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間
14	山尾	ふり振り返りー現代社会はどう視えたか	講義全体を通して受講生が何を学んだかをまとめる		4 時間
教 科 書		指定無し。			
参 考 書		講義内で適宜紹介する。			
備 考					

科 目 名		生活の中の科学		担 当 者	○長田 俊明・沈 紅 鈴木 陽一・鈴木 伸夫 八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・富山 正幸 相澤 康弘・古林 俊晃 家名田敏昭・浅井 仁 佐藤 秀隆・工藤 剛実 佐々木典子・高橋 るみ 深谷 碧	
科目ナンバリング		102011254			常勤	
D	P	2,4		教 員 研 究 室	1403	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期／後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生活の「安全・安心・便利・豊かさ」をキーワードに、現在の科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているか、また科学技術の将来あるべき姿について学ぶ。 具体的には、生活の中の電気、命を守る AED（自動体外式除細動器）、住まいや都市の安全・安心技術、災害の減災・復旧に有用な施設整備、生活を便利で豊かにする情報技術、等である。授業の半分程度は基礎知識の修得、半分程度がグループワークや実習・フィールドワーク・アイデアソン・ディスカッション等のアクティブラーニングスタイルで進められる。 【学習の到達目標】 科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているかを理解する。科学技術がもたらす「安全・安心・便利・豊かさ」について、能動的に活用できるようになる。 【成績評価方法】 毎回のテーマに対するミニレポートと科目全体に対する総合レポート、双方向授業における主体的取り組みを総合して評価する。 【課題等のフィードバック方法】 授業では、都度質問を受け回答する。ミニレポートや Google Classroom への質問コメントについては、個別あるいは全体コメントにてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業に関連する資料は、主として Google Classroom を利用して配信する。 全 14 回の授業に出席することが大原則である。やむを得ず出席できなかった授業については、これらの資料や動画・音声データを利用して学習し、次回授業に臨むこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 科学技術・工学分野における様々な専門領域における本学の専任教員から、多面的なテーマについて講義・実習指導を受けることができる。 科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているかを理解し、その認識から個々の専門分野において活用することが期待できる。 【実務家教員担当科目】 科学技術・工学分野における様々な専門領域における本学の実務家教員も担当し具体的指導を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	鈴木（陽）・長田・八十川・相澤	ガイダンス	シラバスの確認、授業の進め方、成績評価の方法		4 時間	
2	浅井 仁	生活の中の電気（100V、200V、直流？）	コンセントの交流と電池の直流の違いを調べる。＜ミニレポート＞		4 時間	
3	家名田敏昭	生活の中の電気（発電所から送電、家庭までの経路）	発電の方法や電気を送る送電線について調べる。＜ミニレポート＞		4 時間	
4	相澤 康弘	医療で用いられる電気（人体へ作用する電気）	生体電気の種類、生体電気刺激、治療に用いる電気を調べる。＜ミニレポート＞		4 時間	
5	須藤 諭・川村 広則	安全・安心のための都市環境整備技術	身近な省エネルギー、居住地のハザードマップについて調べる。＜ミニレポート＞		4 時間	
6	野崎 淳夫・富山 正幸	安全・安心のための都市と建築	安全・安心のための都市と建築について、自分の身の回りの事例を調べる。＜ミニレポート＞		4 時間	
7	八十川 淳・二科 妃里	災害と水	災害応急用井戸、水害とマチ、避難生活と水について調べる。＜ミニレポート＞		4 時間	
8	臨床教員・建築教員	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習、班別実技演習の準備学習	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習 ＜ミニレポート＞		4 時間	
9	臨床教員・建築教員	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習、班別実技演習	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習 ＜ミニレポート＞		4 時間	
10	知能情報教員	生活を便利で豊かにする情報アプリ：概要、準備学習	情報システム構築の流れを学び、グループごとに準備を行う。＜ミニレポート＞		4 時間	
11	知能情報教員	アイデアソン演習 1：提案アプリの案出と具体化の検討	前週の検討に基づきアプリの機能等の決定とプレゼンの準備を行う。＜ミニレポート＞		4 時間	
12	知能情報教員	アイデアソン演習 2：アプリの設計とプレゼンの準備	前週検討したアプリの機能を実現するアプリの設計とプレゼンの準備を行う。＜ミニレポート＞		4 時間	
13	知能情報教員	生活を便利で豊かにする情報アプリ：成果発表	提案するアプリに関するプレゼンをグループごとに行う。＜投票、ミニレポート＞		4 時間	
14	鈴木（陽）・長田・八十川・相澤	表彰 課題の出題と総括	アイデアソンの高評価グループ表彰 課題をテーマにレポート作成		4 時間	
教 科 書		特に指定しない。				
参 考 書		その都度必要に応じて紹介する				
備 考		なし				

科 目 名		経済・法律・世界を視る		担 当 者	○馬内 里美・田邊 文彦 ウォルグレイヴ イーライ
科目ナンバリング		102011255			常勤・非常勤
D	P	2,4		教員研究室	1229
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 In this class, students will explore a number of concepts based around Economic, Legal, and International aspects of society and their place within it. この科目は、自分と経済、法律、国際社会との関わりを学ぶ科目				【課題等のフィードバック方法】 Questions will be taken after each class. Your work may be shared for everyone’ s learning. 毎回の授業終了後に、質問を受けつける。全員の学修の為に内容を共有することあり	
【学習の到達目標】 1.Form and share own opinions 意見を形成・他者と共有できる / 2. Research and present about an issue of personal interest and impact to them 内容を調べ発表できる / 3.Develop English reading skills in a bilingual class. 英語で伝えられる				【履修上の注意・予習・復習について】 Late arrivals will be deducted from the grade / 5 or more absences will result in a grade of “F” / Homework must be submitted next time / Final assignment carried out 遅刻は減点もあり／ 5 回以上欠席 F 評価／宿題を次回提出／最終課題の実施が必要	
【成績評価方法】 Class Activities 活動参加 30％, Homework = 宿題 50% Personal Presentation プレゼン 10% ,Final Reflection 振り返り・改善 10%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 Proactive attitude, Communication skills and Logical thinking skills. 「主体的な態度」「コミュニケーション力」「論理的思考力」が身につく	
【実務家教員担当科目】 コンサルティングファームで 20 年間の企業／公共体に対する調査およびコンサルタント経験有り					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Class Introduction Writing and Presenting クラス紹介	授業時間の 2.5 倍準備学修（予習・復習等）		4 時間
2	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	River Crossing Game 川渡りゲーム	同上		4 時間
3	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Teamwork Writing and Presenting チームワーク 作文と発表	同上		4 時間
4	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Mistakes Group Discussion 間違い探しグループディスカッション	同上		4 時間
5	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Chase the Dragon's Tail Game ドラゴンのしっぽゲーム	同上		4 時間
6	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Cooperation and Competition Writing and Presenting 協力と競争 作文と発表	同上		4 時間
7	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Conflict Group Discussion 対立グループディスカッション	同上		4 時間
8	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Tiger and Rabbit Ball Game 虎とウサギのボールゲーム	同上		4 時間
9	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Change Writing and Presenting 変化 作文と発表	同上		4 時間
10	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Complexity Group Discussion 複雑性グループディスカッション	同上		4 時間
11	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Team Battle Game チームバトル ゲーム	同上		4 時間
12	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Personal Presentation Preparation 個人プレゼンテーションの準備	同上		4 時間
13	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Personal Presentation 個人プレゼンテーション	同上		4 時間
14	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Feedback and Reflection 振り返り	同上		4 時間
教 科 書		なし。授業中に資料配布			
参 考 書		授業中に紹介			
備 考		全学の選択必修科目の 1 つ。英語で行動・表現・話すことを重視。			

科 目 名		社会活動入門		担 当 者	○加藤 由美・石垣 亨 石橋 千賀・他	
科目ナンバリング		102011256			常勤・非常勤	
D P		2,4		教 員 研 究 室	1301	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この科目では社会活動を「社会貢献を目的として社会に参加または参画して行う活動」と位置づけ、ボランティア活動をはじめ企業のCSR（Corporate Social Responsibility）活動など多様で広範な諸活動を扱う。各学科専攻の教員及び外部講師がそれぞれの切り口で捉えた社会活動について講義する。授業ではグループワーク、プレゼンテーション等を通じて履修生の主体的な学びを促す。				【課題等のフィードバック方法】 授業毎に担当教員が説明する。		
【学習の到達目標】 ①社会活動の今日的意義を理解している ②自身の考えを適切に表現することができる ③自分らしい社会参画の形を具体的に考察できる				【履修上の注意・予習・復習について】 課題の提出期限を厳守すること（原則として期限後の提出は不受理） 【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会活動の今日的意義を理解し、自分らしい社会参画の形を見出す一助となる。 グループワーク等を通して、他者と協同して物事に取り組む力が育まれる。 自身の考えを適切に表現する力が涵養される。		
【成績評価方法】 授業毎に到達目標①②③の達成度を評価し（小テスト、小レポート、コメントなど授業によって評価方法は異なる）、それらの平均点を以て科目の成績評価とする。 到達目標の達成度評価の配点は次のとおり。 ①社会活動の今日的意義を理解している（40 点） ②自身の考えを適切に表現することができる（30 点） ③自分らしい社会参画の形を具体的に考察できる（30 点）				【実務家教員担当科目】 NPO 法人 COO・経営者・行政・医療福祉系免許所有者など幅広い実務家が、それぞれの立場で社会活動の今日的意義を講義する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習	学修時間	
1	加藤 由美（地域連携センター長）	科目オリエンテーション		予習：シラバスを熟読し、科目概要を理解する。 復習：オリエンテーション内容に即した学修をスタートさせる	4 時間	
2	石垣 亨（NPO 法人 H × Imagine）	地域を活性化させる住民主体の社会活動 ～ NPO 法人 H × Imagine の取り組み		予習：住民が主体となって地域の活性化に取り組んでいる事例を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
3	三木 千栄（医療福祉学部リハビリ学科作業療法学専攻）	地域の介護予防・健康増進活動をデザインする		予習：地域の介護予防や健康増進の取り組み事例を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
4	香山 明美（医療福祉学部リハビリ学科作業療法学専攻）	認知症サポーター養成活動 ～誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられることを皆で支える		予習：認知症サポーターについて調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
5	高卓 輝、他（医療福祉学部リハビリ学科言語聴覚学専攻）	事例に基づき、自分たちが取り組みたい社会活動を考える		予習：日本の技術が他国の発展に貢献した事例を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
6	石川奈津美（医療福祉学部リハビリ学科視覚機能学専攻）	社会の伸びしろとは？ ～ゆるスポーツの取組み		予習：ゆるスポーツについて調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
7	佐藤 大輔（医療福祉学部看護学科）	臓器提供に関する諸活動を考える		予習：臓器提供の種類を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
8	石橋 千賀（株式会社 KMSI 代表取締役）	誰もがよりよく生きぬける社会への挑戦		予習：自分にとって「よりよく生きぬく」とはどのようなことかを具体的に考える。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
9	鈴木陽一（工学部知能情報システム学科）	レジリエントな情報通信技術（ICT） ～災害に強い ICT の社会実装		予習：レジリエンスについて、特に ICT との関連を含めて調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深め、小レポートに取り組む。	4 時間	
10	岡 恵介（現代社会学部社会学専攻）	災害救助犬と地域の安心安全 ～災害救助犬の活動		予習：災害救助犬について調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
11	徳田 律子（現代社会学部社会福祉学専攻）	視覚に障害のある方とアートを楽しむ ～アートミーツケア活動		予習：障害者とアート活動について調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
12	大野 朝子（経営法学部経営法学科）	学生によるボランティア活動 ～社会にどうコミットするかを考える		予習：興味関心のあるボランティア活動を挙げ、その理由を考える。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
13	梅岡 恒治（工学部建築環境学科）	建築・都市の分野に関わるまちづくり実践 ～街の将来ビジョンに関わる社会参加のありかた		予習：自身が魅力的だと考える公共空間事例を調べ、魅力的だと考える理由を考察する。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
14	相澤 康弘（工学部臨床工学科）	臓器移植の現状と課題を考える		予習：我が国の臓器移植の現況を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間	
教 科 書		なし				
参 考 書		必要に応じて適宜指示する				
備 考		なし				

科 目 名		データサイエンス入門			担 当 者		○北川 公路・渡邊 晃久	
科目ナンバリング		102021257					常勤・非常勤	
D P		1,2			教 員 研 究 室		3204（北川）・非常勤講師室（渡邊）	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次		1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位		必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし						
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当する	
【授業内容】 現代の高度な情報社会では、情報技術（IT）に進化と共に、人工知能（AI）の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんな AI データ技術が利活用されているのか、データ AI を活用する際に何に留意すべきかを理解する。 授業は大学が定める数理データサイエンス AI 教育カリキュラム（リテラシーレベル）に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI 技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データ AI のリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。								
【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom や Google Form で課題出題、提出、採点後返却、質疑応答などを実施する。								
【履修上の注意・予習・復習について】 学部・学科・専攻により、授業計画の前半 7 回分（1～7）と後半 7 回分（8～14）の前後が入替わることがある。授業では BYOD（自己所有のノートパソコンやタブレット型端末）を使用するので必ず持参すること。								
【受講して得られる効果・メリット、その他】 数理・データサイエンス・AI 教育カリキュラム（リテラシーレベル）に基づいて体系的に学ぶことができる。								
【実務家教員担当科目】 なし								
【学習の到達目標】 1) AI によって変化している現実を理解する、2) データ AI がどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データ AI を活用する際に留意すべきことを理解する。								
【成績評価方法】 全学共通のルーブリック評価に基づく。								
授 業 計 画								
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間					
			予習・復習					学修時間
1	渡邊 晃久	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習：情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習：AI・データの発展による活用分野を理解すること。					4 時間
2	渡邊 晃久	コンピュータと AI	予習：高校情報Ⅰで既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習：情報技術の発展が AI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。					4 時間
3	渡邊 晃久	社会で活用される AI・データ	予習：AI・データの活用領域の広がり と 活用法 を 捉えておくこと。 復習：AI・データ利活用の事例からデータと AI が関わり新たな価値を創出していることを理解すること。					4 時間
4	渡邊 晃久	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習：現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習：社会システムで活用している AI とビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。					4 時間
5	渡邊 晃久	生活の中の生成 AI	予習：生成 AI の利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習：生成 AI の仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。					4 時間
6	渡邊 晃久	生成 AI の活用の今と将来	予習：高校情報Ⅰで既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習：生成 AI の利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。					4 時間
7	渡邊 晃久	社会が求めるデータサイエンス	予習：高校情報Ⅰで既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習：AI とデータサイエンスが適用できる活用領域の広がり を理解すること。					4 時間
8	北川 公路	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎 1	予習：予め主な情報処理ツール（ワープロ、表計算、プレゼンテーション）の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。					4 時間
9	北川 公路	情報処理ツールの基礎 2	予習：予め主な情報処理ツール（ワープロ、表計算、プレゼンテーション）の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。					4 時間
10	北川 公路	データの散らばりを読み取る 1	予習：高校情報Ⅰで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。					4 時間
11	北川 公路	データの散らばりを読み取る 2	予習：高校情報Ⅰで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。					4 時間
12	北川 公路	データから全体を推測する 1	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。					4 時間
13	北川 公路	データから全体を推測する 2	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。					4 時間
14	北川 公路	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習：各専門分野において、高校情報Ⅰで既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習：各専門分野における AI・データサイエンスの利活用の事例（留意事項を含む）を理解しておくこと。					4 時間
教 科 書		行場、高谷、渡邊共著「人間中心の AI 社会とデータサイエンスー MDASH リテラシーレベル準拠ー」コロナ社						
参 考 書		適宜紹介する。						
備 考		特になし。						

科 目 名		生活の中の物理学		担 当 者	西澤 哲	
科目ナンバリング		1020214			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3212	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 私たちの身の回りには、様々な機械、電子機器、ヒトをはじめ様々な動物、天体を含む自然など、さまざまな「物」が存在している。これらの物の動きや機能は、物質の基本的な性質や自然現象を解明しようとする科学的な営みである物理学と深く関係している。本講義では、物理学の基本的な概念や考え方を生活に関係した実例を交えながら紹介し、生活の中の様々な現象や物の動きを物理学に基づいて考えるすべを学修する。あわせて、物理学が今後の生活や社会で果たす役割、影響などについて考えていく。						【課題等のフィードバック方法】 毎回、ミニ課題と講義での気づきや意見・質問をミニットペーパー等で提出する。個別の質問への回答は原則として個別に行い、課題については翌週の授業の最初で振り返りを行う。
【学習の到達目標】 ・物理学が身の回りの現象の理解に役立つだけでなく、生活の各所で応用されていることを具体的な事例を伴って考え、理解する。 ・安全で健康的な生活を営むための判断に必要な物理学的な知識や常識を理解する。						【履修上の注意・予習・復習について】 教室での演示実験を行う予定であるので、実施にあたり積極的に協力すること。毎週、前週講義のふり返しをおこなうので復習をしておくこと。やむを得ない理由で遅刻や欠席の場合は事前事後に関わらず担当教員まで連絡すること。
【成績評価方法】 ミニ課題 40%、ミニットペーパーの記入状況 40%、最終レポート課題 20% の重みで総合評価する。これらの提出が行われていない回は、出席とみなさないので注意すること。						【受講して得られる効果・メリット、その他】 私たちの身の回りにある様々な機械、電子機器、ヒトや様々な動物などの機能が理解できるようになる。また、物理学を通して自然や社会を眺めることによって、新しい気づきが生まれ、より豊かな発想や想像力を得ることができる。
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	西澤 哲	ガイダンス（授業の進め方の説明）後、物理学とは何かをテーマとして、物理学の対象と研究方法、基本的な物理量とその定義、計測法、単位について学ぶ	当該の講義内容（教科書 1.2.1 項まで）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
2	西澤 哲	「物理量の単位はどう表されるか」をテーマに、物の長さ、面積、体積、質量、位置、速度、加速度などを対象に、それらを表す SI 単位系（国際標準）について学ぶ	講義内容（教科書 1.2.2 項と 2.1 節）について予習する。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
3	西澤 哲	「物はどうのように落ちるか」と「ロケットは何故飛べるか」をテーマに、自由落下と等加速度運動、重力加速度、様々な力とその合成、作用反作用の法則等について学ぶ	講義内容（教科書 2, 3 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
4	西澤 哲	「ニュートンは何を見つけたのか」をテーマに、ニュートンの運動方程式、加速度運動等について学ぶ	講義内容（教科書 4 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
5	西澤 哲	「テーブルクロス引きの上達法」をテーマに、摩擦力、慣性の法則等について学ぶ	講義内容（教科書 5 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
6	西澤 哲	「ジェットコースターの設計法」をテーマに、力学エネルギーと仕事、エネルギーの保存等について学ぶ	講義内容（教科書 7 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
7	西澤 哲	前半のまとめ：物理学の対象と研究方法、基本的な物理量とその定義、計測法、単位と、力学と呼ばれる物理学の分野の考え方を整理する	これまで 6 回の講義内容について復習して、疑問点を整理してまとめる。			4 時間
8	西澤 哲	「空の色が青い理由」と「シャボンの膜が虹色に見える理由」をテーマに、波動としての光の性質、スネルの法則等について学ぶ	講義内容（教科書 10、11 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
9	西澤 哲	「楽器の音程はどう決まるのか」と「救急車のサイレンの音が変わる理由」をテーマに、縦波と横波、音速と波長、固有振動、ドップラー効果等について学ぶ	講義内容（教科書 12, 13 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
10	西澤 哲	「暑いということとは」と「クーラーは何故涼しいのか」をテーマに、温度の性質と絶対温度、温度による物質の変化、熱と仕事、熱機関の基本原理解等について学ぶ	講義内容（教科書 17, 18, 19 章）について予習する。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
11	西澤 哲	「冬場に静電気が起こる理由」と「コンパスはなぜ南北を指すのか」をテーマに、電荷と電荷に働く力、磁場等について学ぶ	講義内容（教科書 20 章と 21.1 節）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
12	西澤 哲	「上手に節電するには」をテーマに、磁場と電流の関係、ローレンツ力、電磁誘導と発電・送電の仕組み等について学ぶ	講義内容（教科書 21.2 節と 22 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
13	西澤 哲	「電子レンジで何故食品が温まるのか」と「もし原発事故が起こったら」をテーマに、電磁波の性質、電磁波と物質の相互作用、放射性崩壊と放射線等について学ぶ	講義内容（教科書 23, 24 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
14	西澤 哲	「生活の中の事象を不思議に思うこと」を軸に、担当教員の研究紹介も交えつつ、講義全体のまとめを行う	予習として、事前に配布する資料を通読しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
教 科 書		齊藤 史郎著、日常の中の物理学、学術図書出版社、2019（1600 円 + 税）				
参 考 書		真貝 寿明 著、日常の「なぜ」に答える物理学、森北出版、2015（2200 円 + 税） その他、必要に応じて適宜紹介する。				
備 考		資料等は Google Classroom あるいは教室で配布する。				

科 目 名	生活の中の化学			担 当 者	堂浦 克美
科目ナンバリング	102021259				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	1206
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現在、多くの物質やそれを利用した製品が次々と生みだされており、これらの物質は、私たちの毎日の暮らしを豊かにし、生活に欠かさないものになっている。本講義では、化学の基礎とその役割について学ぶ。 また、高校化学の学修が十分ではない受講者でも理解できるよう平易な解説を行う。				【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートや小テストなどの課題は、授業中またはクラスルームで解説する。	
【学習の到達目標】 生活の中の化学では、身の回りの物質とその用途などを通して、化学の基礎的知識を習得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義のふり返しをおこなうので復習をしておくこと。やむを得ない理由で遅刻や欠席の場合は事前事後に関わらず担当教員まで連絡すること。	
【成績評価方法】 ミニレポート：40%、レポート：60%で総合的に評価する。詳細は、授業時に説明する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 日常生活で使われる商品（食品含む）を通して化学に親しみ、延いては化学の視点から自然科学現象を分析する素地を養うことにつながる。	
				【実務家教員担当科目】 該当せず	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	堂浦 克美	ガイダンス			4 時間
2	堂浦 克美	原子と分子	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
3	堂浦 克美	元素の種類と性質	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
4	堂浦 克美	化学結合	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
5	堂浦 克美	物質質量とモル	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
6	堂浦 克美	化学反応式	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
7	堂浦 克美	レポート作成	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
8	堂浦 克美	物質の状態変化：気体の性質 ／溶液の性質	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
9	堂浦 克美	酸化と還元	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
10	堂浦 克美	非金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
11	堂浦 克美	典型金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
12	堂浦 克美	遷移金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
13	堂浦 克美	脂肪族化合物／芳香族化合物	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
14	堂浦 克美	レポート作成	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）		4 時間
教 科 書		「商品から学ぶ化学の基礎」 松田勝彦 著、化学同人			
参 考 書		特になし			
備 考		特になし			

科 目 名		生活の中の生物学		担 当 者	戸田 孝史	
科目ナンバリング		1020212510			常勤	
D P		1,2		教員研究室	1327	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 地球という環境の中で生きる我々ヒトが生物学的にどのような存在なのか、そして我々がヒトは生涯を生き抜くために、どのように身体構造と機能を有しているのか、更に、生物としてどのような役割を果たしているのかについて学ぶ 【学習の到達目標】 生物の多様性と共通・ヒトの生物学的特徴・ヒトが生きる役割について修得する 生命の倫理観を理解できる 【成績評価方法】 レポート 60% ミニレポート（小テストに変えることもある） 40% 詳しいことは授業に置いて説明します 【課題等のフィードバック方法】 レポートやミニレポート等の課題は、授業中またはクラスルームで解説する 【履修上の注意・予習・復習について】 予習を重視すること・学修内容を確認しておくこと 復習は資料の整理を怠らないこと 【受講して得られる効果・メリット、その他】 私たちはどのような存在なのかを生物学的に理解し、私たちが生物としてどのような役割を果たしているのかを知ること、人生を健康に生き抜く意義を感じ取ることができる。また人々が健全に生きるための倫理観を習得できる 【実務家教員担当科目】 該当せず						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	戸田 孝史	ガイダンス：生物の進化と多様性 ※生物の進化の過程と人の誕生について触れないか	予習：生物の進化と多様性について調べておく 復習：授業課題の確認		4 時間	
2	戸田 孝史	細胞 1：細胞の種類と細胞膜の構造	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
3	戸田 孝史	細胞 2：核と細胞小器官	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
4	戸田 孝史	細胞 3：栄養と代謝とエネルギー	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
5	戸田 孝史	遺伝情報 1：遺伝のメカニズム	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
6	戸田 孝史	遺伝情報 2：遺伝病	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
7	戸田 孝史	細胞分裂 1：分裂の仕方	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
8	戸田 孝史	細胞分裂 2：減数分裂	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
9	戸田 孝史	人体の階層構造 1：組織と器官	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
10	戸田 孝史	人体の階層構想 2：器官系	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
11	戸田 孝史	ホメオスタシス 1：生体の維持のしくみ	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
12	戸田 孝史	生体防御機構と免疫	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
13	戸田 孝史	成長と老化	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
14	戸田 孝史	生命倫理	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
教 科 書		講義時に指示する				
参 考 書		講義時に指示する				
備 考		連絡事項があれば講義時に指示する				

科 目 名		統計解析		担 当 者	西澤 哲
科目ナンバリング		1020222511			常勤
D P	1,2		教員研究室	3212	
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 ① 客観的に表現する方法のひとつとしての統計学の概念を講義する ② 論理的な判断にもとづく検定の概念を講義する			【課題等のフィードバック方法】 講義確認テストの採点結果		
【学習の到達目標】 論理的な判断にもとづいた検定手法を理解する			【履修上の注意・予習・復習について】 本講義は積み重ねを重要視する。したがって復習を十分に行うこと		
【成績評価方法】 期末テスト 90%，不定期に行う「講義確認テスト」10%			【受講して得られる効果・メリット、その他】 論理的な判断にもとづいた検定手法を得る		
			【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	西澤	統計学とは何か	①リハで統計学を学ぶ意義，②客観性の概念の理解，③本講義のゴール，④ゴールに向かうまでの過程を復習		4 時間
2	西澤	データ尺度	3 つのデータ尺度を分類する基準を復習		4 時間
3	西澤	代表値と図 1	2 回目のデータ尺度の特徴を予習 ①間隔尺度の代表値の理解，②間隔尺度の図表の作成を復習		4 時間
4	西澤	代表値と図 2	2 回目のデータ尺度の特徴を予習 ①順序名義尺度の代表値，②順序名義尺度の図表，③図・表の作成上の形式の復習		4 時間
5	西澤	演習問題 1（テスト形式で第 2 ～ 4 回の演習問題を行う）	あらかじめ，第 2 ～ 4 回の講義内容を復習しておくこと		4 時間
6	西澤	対応のあるデータと対応のないデータ 1	対応のあるデータと対応のないデータの区別を復習		4 時間
7	西澤	対応のあるデータと対応のないデータ 2	パラメトリックデータの相関と回帰の違いの復習		4 時間
8	西澤	検定 1（検定の基礎の理解）	①検定の証明方法，②有意確率，③有意水準の復習		4 時間
9	西澤	検定 2（確率密度分布と有意確率の関係）	①確率密度分布の意味，②有意確率を確率密度分布で表す方法，③検定統計量の復習		4 時間
10	西澤	検定 3（片側検定と両側検定の概念）	①片側検定と両側検定の違い，②帰無仮説の違い，③検定結果の違いの復習		4 時間
11	西澤	検定 4（t 検定の手順）	① t 検定の手順，② t 検定を行えない場合の復習		4 時間
12	西澤	演習問題 2（テスト形式で第 6 ～ 11 回の演習問題を行う）	あらかじめ，第 6 ～ 11 回の講義内容を復習しておくこと		4 時間
13	西澤	総合演習（テスト形式で第 2 ～ 13 回の演習問題を行う）	あらかじめ，もう一度，第 2 回目からの内容を復習すること		4 時間
14	西澤	総合演習：第 14 回のつづき	あらかじめ，もう一度，第 2 回目からの内容を復習すること		4 時間
教 科 書		とくになし			
参 考 書		必要に応じて授業中に紹介する			
備 考		とくになし			

科 目 名		医療情報科学		担 当 者	鈴木 亮二	
科目ナンバリング		1020212512			非常勤	
D	P	2,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 医療現場に就職した際に戸惑わないように、医療情報システムと遠隔医療の概要、並びに個人情報保護について学ぶことを目的とする				【課題等のフィードバック方法】 ・講義終了後、質問を受け付け回答する		
【学習の到達目標】 ・医療情報システムの概要を知ることができる ・遠隔医療について知ることができる ・個人情報保護について知ることができる				【履修上の注意・予習・復習について】 ・飲食、私語の禁止 ・携帯電話禁止		
【成績評価方法】 授業参加態度 10%（10 点） レポート 90%（90 点）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療情報システムの概要と個人情報保護の知識を得ることができるので、医療現場に就職した際にシステムに対して理解できる		
				【実務家教員担当科目】 大学病院に勤務し、医療情報システム更新を 2 回経験した		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	鈴木 亮二	ICT による見守りと医療情報システム更新について	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること		4 時間	
2	鈴木 亮二	遠隔医療と服薬支援について	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること		4 時間	
3	鈴木 亮二	電子カルテについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること		4 時間	
4	鈴木 亮二	医事会計システムについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること		4 時間	
5	鈴木 亮二	部門システムについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること		4 時間	
6	鈴木 亮二	個人情報保護について	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること		4 時間	
7	鈴木 亮二	アクセシビリティについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること		4 時間	
教 科 書		保健医療福祉情報システム工業会編、医療情報システム入門 2023、社会保険研究所				
参 考 書		該当なし				
備 考		該当なし				

科 目 名	医療のための基礎数学			担 当 者	西澤 哲
科目ナンバリング	1020212513				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3212
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 PT, OT, ST のリハビリテーションで必要となる解析に必要となる数学の基礎（解析学，線形代数）を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 講義確認テストの採点結果	
【学習の到達目標】 ①これからのリハにおける授業での数学的な内容に十分に対応できる（授業が理解できる）だけの数学的知識を理解する ②とくに線形代数に関して，自ら問題を解決する（解を求める）までの知識を理解する				【履修上の注意・予習・復習について】 本講義は積み重ねを重要視する。したがって復習を十分に行うこと	
【成績評価方法】 期末テスト 90%，不定期に行う「講義確認テスト」10%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 これからのリハでの授業にて，数学を伴う専門的な内容を理解することができる	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	西澤	授業の内容について	①リハに使われる数学，②授業における数学の内容，③授業の進め方についての復習		4 時間
2	西澤	線形代数 1：ベクトル 1	ベクトルの合成と分解に関する演算についての復習		4 時間
3	西澤	線形代数 2：ベクトル 2	ベクトルと角度との関連性（内積・外積）に関する演算についての復習		4 時間
4	西澤	線形代数 3：1 次変換	行列と 1 次変換についての復習		4 時間
5	西澤	解析 1：指数関数と対数関数	指数関数と対数関数の①示す内容，②演算方法についての復習		4 時間
6	西澤	解析 2：微分と積分	微分と積分の①示す内容，②演算方法についての復習		4 時間
7	西澤	解析 3：周波数分析	①フーリエ変換の意味，②周波数領域と時間領域の関係，③パワースペクトルについての復習		4 時間
教 科 書		とくになし			
参 考 書		必要に応じて授業で提示する			
備 考		とくになし			

科 目 名		アカデミック・スキル演習		担 当 者	○本多ふく代・犬塚千賀子 矢萩 未来・野間 沙花	
科目ナンバリング		1020212514			常勤	
D	P	3,4		教員研究室	3202	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・通年	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 アカデミックスキル演習では、学生が自発的・独創的な学習者として育つための基本的な学習姿勢を養うことを目標としている。学習は講義と少人数グループのゼミナール（演習）により進める。講義では大学で学ぶことの意義、講義に臨む姿勢、大学における知識や技術の習得方法と自ら学習する姿勢・態度・行動を学ぶ。演習ではグループで学習目標を立て、目標達成のための具体的な方法を計画し実施する。グループでの活動を通してコミュニケーション能力の向上を図る。さらに、調べ学習を行い、それをまとめ・発表し、文章化することで基本的な学習技術の習得を図る。これらの設定された課題を通して積極的、自主的に取り組む能動的学習態度を身につける。						【課題等のフィードバック方法】 授業での質問に答える。ゼミでの活動においては随時フィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 積極的にグループ演習に参加し、グループ（ゼミ）担当教員から出される課題を遂行すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 大学での学びを知り、学ぶために必要な基本的スキルを身につけられる。他者との交流を通して自分の学びを知ることができる。
【学習の到達目標】 1. 自立する学習者として育つための基本的な学習姿勢を身につける。 2. 大学で学ぶことの意義を理解し、積極的に学習するために必要な学習スキルを身につける。						【実務家教員担当科目】 臨床及び教育経験のある教員が、その経験を生かして教授する。
【成績評価方法】 授業の参加態度（30％）、レポート作成過程と提出（30％）、成果状況（30％）、全体的な取り組みの様子（10％）によりルーブリック評価を用いて総合的に判断する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間 予習・復習		学修時間
1	全員	オリエンテーション、大学で学ぶことの意義、大学の授業の進め方		入学前教育プログラムの課題提出・準備		1 時間
2	各ゼミ担当者	本専攻の学びと学習について：学習計画表と学習時間記録表		ゼミ活動に関するオリエンテーション資料		1 時間
3	本多	アカデミックスキル①：よりよい文章の読み方・書き方		ゼミ活動に関するオリエンテーション資料		1 時間
4	各ゼミ担当者	アカデミックスキル②：よりよい文章の読み方・書き方 ② 月毎の学習の振り返り		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：図書館利用についてまとめる		1 時間
5	図書館担当者、ゼミ担当者	大学の学習環境：図書館の利用の仕方、図書資料の検索の仕方		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
6	科目責任者	アカデミックスキル③：レポートの書き方		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
7	各ゼミ担当者	調べ学習の進め方、資料のまとめ方		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
8	各ゼミ担当者	資料のまとめ方② 月毎の学習の振り返り		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
9	各ゼミ担当者	調べ学習		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
10	各ゼミ担当者	調べ学習		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
11	本多	パワーポイントを用いた発表の仕方		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
12	各ゼミ担当者	パワーポイント作成① 月毎の学習の振り返り		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
13	各ゼミ担当者	パワーポイント作成②		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
14	各ゼミ担当者	前期の振り返り、ポートフォリオを用いた振り返り		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
15	各ゼミ担当者	後期オリエンテーション振り返りと後期に向けての学習目標・計画について		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
16	各ゼミ担当者	パワーポイントを用いた発表①		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
17	各ゼミ担当者	パワーポイントを用いた発表②		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
18	各ゼミ担当者	調べ学習の再確認①		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
19	各ゼミ担当者	調べ学習の再確認② 月毎の振り返り		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
20	各ゼミ担当者	レポート作成指導①		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
21	各ゼミ担当者	レポート作成指導②		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
22	各ゼミ担当者	レポート作成指導③		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
23	各ゼミ担当者	レポート作成指導④、月毎の振り返り		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
24	各ゼミ担当者	レポート作成指導⑤		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
25	各ゼミ担当者	グループ演習発表会①		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
26	各ゼミ担当者	グループ演習発表会②、月毎の振り返り		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
27	各ゼミ担当者	グループ発表総括		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
28	各ゼミ担当者	グループ演習：1 年間の振り返りと次年度に向けての計画		予習：教科書・資料を熟読しておく。復習：資料の整理とまとめ		1 時間
教 科 書		「大学生学びのハンドブック」[6 訂版] 世界思想者編集部 世界思想社				
参 考 書		随時紹介				
備 考		授業の全体に関する質問、問い合わせ：科目責任者 本多ふく代 グループ演習についての質問、問い合わせ：各グループの担当教員				

科 目 名	スポーツ実技			担 当 者	○犬塚 剛・森田 清美 金田 幸夫・未定
科目ナンバリング	1020212515				常勤・非常勤
D P	3,4			教員研究室	1304
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	実習	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 それぞれのライフスタイルや体力や年齢、目的に応じたスポーツを楽しめるよう、自分に適したスポーツを選択し、理論、技術、方法等について継続的に学習して実力の向上を図り、自分の生涯スポーツにつながる基礎的能力を身につけることを目標とする。				【課題等のフィードバック方法】 適宜、種目ごとに講義内容の振り返りを行う。	
【学習の到達目標】 各自の生涯スポーツ種目を見極め、基本的なルールや技術を身につける。スポーツを通じた体力づくりや健康管理の方法について習得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 〈服装〉動きやすいスポーツウエア等を着用し、体育館用シューズと屋外用シューズを明確に区別し使用すること。〈授業見学と公欠〉体調のすぐれない者や怪我等により見学を希望する者は授業開始時に申し出ること。但し長期見学の場合は医師の診断書を持参すること。また、親族の不幸やクラブ活動の競技会等により授業を欠席する場合は原則として公欠とするので届け出ること。〈遅刻および早退〉点呼終了後に授業に参加した場合は遅刻と判断する。また事情により授業を早退する場合は必ず理由等を教員に届けること。無断で授業を早退した場合には授業放棄とみなしその後の授業に出席しても単位を出さないこともあるので注意すること。	
【成績評価方法】 成績は、授業中のゲーム遂行や準備に対する積極的な態度、技能テストなどにより評価する 70％、実技内評価・課題レポート 30％				【受講して得られる効果・メリット、その他】 他学部、他学科の学生が集まりスポーツを通じてコミュニケーションを育むことで社会人基礎力として多様な他者とのコミュニケーション能力やチームワーク、チャレンジする精神力などを養うことができる。	
				【実務家教員担当科目】 高等学校や大学で競技指導実績を持つ教員らが講義を担当する。	
授 業 計 画					
(実施種目) 屋内種目「球技系（バスケットボール・バレーボール）、ラケット系（バドミントン・卓球&レクリエーション）、フィットネス系（トレーニングなど）」屋外種目「サッカー（フットサル）、ソフトテニス（テニス）」以上の実技種目の中から原則 1 種目を選択する。施設設備のスペースや備品の状況により、種目毎に希望者数の上限を設ける予定である。種目希望者数に大きな偏りが生じる場合は、その状況に鑑み、種目の分散などによる人数調整を行う。なお、履修希望者数の状況等により、開講種目が変更される可能性もある。 1.2：オリエンテーション（種目の選択と講義概要および講義中の諸注意などについて） 3～22：各種目毎の実践・技能テスト・レポート課題の作成等 種目ごとに授業内容は異なるが、各種目とも共通にウォーミングアップの方法、基本的技術動作の習得、ルールの習得、戦術の学習などを通じて、各自が多面的にその種目への理解を深めることやゲーム運営をスムーズにこなせることを目標に授業を進める。					
教 科 書	特になし。				
参 考 書	「ビジュアルスポーツ小百科」 大修館書店 （980 円）				
備 考	※ 諸連絡に関しては、クラスルームへ連絡を入れるので確認を怠らないこと。 ※ 急な変更事項に関しては、クラスルームや体育館入口前に掲示を行うので確認すること。 ※ 種目選択については、施設のスペースや希望者数の偏りを見て、種目選択人数調整が入ります。 問い合わせ教員：犬塚 剛、森田清美				

科 目 名	心理学概論			担 当 者	北川 公路
科目ナンバリング	1020212516				常勤
D P	1,3,4			教 員 研 究 室	3204
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 心理学は、人間の活動すべてに関わるものであり、内容は多岐にわたっている。 本講義では、心理学の成り立ち、ひとのこころの基本的な仕組み及びはたらき、その概観を説明していく。心理学の基礎知識を学び、人間の行動を科学的に研究する方法や研究領域ごとの特色を理解した上で、こころのとらえ方、メカニズム、こころの問題へのアプローチ方法まで学習する。心理学の実験や現象を参考にしながら、心理学的な問題解決能力を習得することを目標とする。心理学の各領域についての講義を通じ、学問としての裾野の広さを理解できるようにする。 担当教員の公認心理師としての経験をもとに、講義を通して紹介する。				【課題等のフィードバック方法】 講義ごとにリアクションペーパーの提出を求めている。その提出物は次の講義で返却をする。質問については授業で紹介していく。	
				【履修上の注意・予習・復習について】 事前に配布されている資料を読んてくることを予習とする、講義中の議論の際は積極的に参加すること。	
				【受講して得られる効果・メリット、その他】 人間をより理解することができるようになると考えられる。	
				【実務家教員担当科目】 公認心理師が当該科目を担当する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	北川 公路	ガイダンス、心理学とは	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
2	北川 公路	心理学の歴史	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
3	北川 公路	学習と記憶	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
4	北川 公路	感情と動機づけ	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
5	北川 公路	知覚と注意	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
6	北川 公路	認知機能の障害	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
7	北川 公路	人格の理論と測定	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
8	北川 公路	発達と発達障害	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
9	北川 公路	言語と思考	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
10	北川 公路	心の健康と適応	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
11	北川 公路	心の病態アセスメント	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
12	北川 公路	個人と集団	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
13	北川 公路	心理学の応用心理療法	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
14	北川 公路	心理学の応用心理療法	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
教 科 書		指定なし。			
参 考 書		講義が進む中で適宜、紹介する。			
備 考		特記事項無し。			

科 目 名	生命倫理学			担 当 者	高木 大輔
科目ナンバリング	1020212517				常勤
D P	1,2,3,4			教員研究室	3210
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 生命におけるさまざまな倫理的課題について触れ、他者とのディスカッションを通じて理解を深めていく 【学習の到達目標】 生活の質（QOL）の向上を視野に、生命（人生）における倫理的課題、特に健康・医療との関りのなかで生じる課題について考える力を身に付ける 【成績評価方法】 授業内課題によって成績を評価					
【課題等のフィードバック方法】 グループワークの内容を授業の終わりに個別に提出し、次回にそのフィードバックを行う 【履修上の注意・予習・復習について】 授業毎に予習・復習に努めること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 生命（人生）における倫理的な課題に関する様々な考え方を学ぶことができる 【実務家教員担当科目】 リハビリテーション医療に携わってきた教員が授業を担当する					

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	高木 大輔	健康、病気、生活の質	予習：「健康、病気、生活の質」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
2	高木 大輔	医療倫理の 4 原則	予習：「医療倫理」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
3	高木 大輔	インフォームド・コンセント	予習：「インフォームド・コンセント」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
4	高木 大輔	在宅医療と家族による看取り	予習：「在宅医療と家族による看取り」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
5	高木 大輔	医療としての正しさと患者の価値観	予習：「医療としての正しさと患者の価値観」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
6	高木 大輔	安楽死と尊厳死	予習：「安楽死と尊厳死」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
7	高木 大輔	健康的に生きるとは	予習：「健康的に生きること」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間
教 科 書		各回、授業資料を配布する			
参 考 書		小林亜津子：QOL って何だろう 医療とケアの生命倫理，ちくまプリマー新書 小林亜津子：はじめて学ぶ生命倫理 「いのち」は誰が決めるのか，ちくまプリマー新書			
備 考		なし			

科 目 名		英語コミュニケーションⅠ		担 当 者	○大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	
科目ナンバリング		1020212518			常勤・非常勤	
D	P	1,2,3		教 員 研 究 室	1329・非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、英語を用いた円滑なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。そのために、英会話での受け答えの練習に加え、トピックを深く理解するための読解力やボキャブラリーの習得、リスニングスキルの向上を図る。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、他者と英語で意見を交換する。						
【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業時に学生から質問やコメントを受け、当該授業や次回以降の授業で適宜回答する。						
【学習の到達目標】 様々な文化的背景を持つ海外の人と意見を交換し、互いの文化に対する相互理解を深めるための英語力を身につける。 ・日常的な簡単な質問や応答を、口頭でスムーズに行えるようになる。 ・他者の発話を聞いて理解し、自らの考えを適切な表現で積極的に伝えることができる。						
【履修上の注意・予習・復習について】 ・学生同士の積極的な交流を通じて英語のスキルアップを目指してください。 ・全 14 回の授業のうち 10 回以上出席してください。遅刻に関しては、遅延の度合いによって欠席扱いとなります。						
【成績評価方法】 成績評価は以下を総合的に判断する。 ・授業中のディスカッションにおける積極的発話 50% ・各授業で学んだボキャブラリーの修得実績 30% ・授業で行う簡潔なプレゼンテーションのクオリティー 20%						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 基本的な英会話力、教材を読んで内容を詳しく理解するための語彙力、外国人と円滑に意思疎通を図るためのコミュニケーション力が身につく。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	イントロダクション：授業の目的、進行方法、評価基準を説明する。自己紹介を兼ねた簡単な英会話アクティビティを行う。	予習：自己紹介表現を確認する。 復習：新しいフレーズや語彙を練習する。		1 時間	
2	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	日常会話の基礎（1）：簡単な挨拶や自己紹介の表現を練習し、ペアワークでロールプレイを行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
3	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	日常会話の基礎（2）：質問と応答のパターン練習（例：趣味、家族など）を行い、ディスカッション形式で意見交換をする。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
4	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	リスニングスキル向上（1）：日常生活をテーマにした短い英会話音声聞き、内容理解を問うクイズを実施する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
5	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	リスニングスキル向上（2）：会話音声聞いて詳細な内容を理解し、ペアで要約して相手に説明する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
6	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックディスカッション（1）：「私の街の紹介」をテーマに短いスピーチを準備し、ペアまたはグループで共有する。質疑応答の練習も行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
7	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックディスカッション（2）：「好きな映画や本」をテーマに短いスピーチを準備し、クラス全体でディスカッションと意見交換を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
8	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	読解スキル向上（1）：短い英語の記事を読み、重要な単語やフレーズを確認した後、内容を簡単に要約する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
9	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	読解スキル向上（2）：意見を問う記事（例：テクノロジーや環境問題）を読み、要約し、自分の意見を書く練習をする。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
10	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	ボキャブラリー強化（1）：日常会話で役立つ英単語や表現を学び、内容理解を問うクイズを実施する。関連する会話練習も行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
11	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	ボキャブラリー強化（2）：より高度な単語や表現（例：感情表現や意見の述べ方）を学び、短い会話の中で活用する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
12	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	プレゼンテーションの準備：自分で選んだトピックについて、3～5 分のプレゼンテーションを準備する。構成やスライド作成のポイントを学ぶ。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
13	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	プレゼンテーションの発表：各学生がプレゼンテーションを発表し、クラスメイトと質疑応答を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間	
14	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	今学期のまとめ：学期全体を振り返り、各スキルの向上度を自己評価する。個別のフィードバックを実施する。	予習：最終日に確認する疑問点をまとめる。 復習：学期中に学んだ英語コミュニケーションスキルを総括する。		1 時間	
教 科 書		担当教員の指示に従ってください。				
参 考 書		適宜、授業で指示する。				
備 考		特になし				

科 目 名		英語コミュニケーションⅡ		担 当 者	○大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之
科目ナンバリング		1020212519			常勤・非常勤
D	P	1,2,3		教 員 研 究 室	1329・非常勤講師室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位
					必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この授業では、「英語コミュニケーションⅠ」で学んだ基本的なスキルに加えて、さらに円滑なコミュニケーションを行う力を養うために、英会話、英語読解力、ボキャブラリー、およびリスニングの応用スキルを学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業中に学生から質問やコメントを受け、当該授業や次回以降の授業で適宜回答する。	
【学習の到達目標】 異なる文化的背景をもつ外国人と詳細なコミュニケーションを持続させるための英語力を身につける。 ・個人的に興味のあるテーマや社会的トピックについて、キーワードや具体例を用いて意思疎通ができる。 ・聞き返しや言い換え、要約などのコミュニケーションストラテジーを活用して、自分の理解を相手に確認しながら会話を持続させることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・学生同士の積極的な交流を通じて英語のスキルアップを目指してください。 ・全 14 回授業中、10 回以上出席してください。遅刻に関しては遅延の度合いによっては欠席扱いとなります。	
【成績評価方法】 成績評価では以下を総合的に判断する。 ・授業中のディスカッションにおける積極的発話 50% ・各授業で学んだボキャブラリーの修得実績 30% ・授業で行う簡潔なプレゼンテーションのクオリティー 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ある程度詳細な英会話力、難易度の高い教材を読み解く語彙力、外国人と比較的長く意思疎通できるコミュニケーション力が身につく。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	オリエンテーション	予習：自己紹介表現を確認する。 復習：新しいフレーズや語彙を練習する。	1 時間
2	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックについて自主的に調べて理解を深める	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	1 時間
3	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックについて自主的に調べて理解を深める	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	1 時間
4	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックについて自主的に調べて理解を深める	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	1 時間
5	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックについて自主的に調べて理解を深める	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	1 時間
6	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックについて自主的に調べて理解を深める	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	1 時間
7	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックについて自主的に調べて理解を深める	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	1 時間
8	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックについて自主的に調べて理解を深める	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	1 時間
9	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックについて自主的に調べて理解を深める	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	1 時間
10	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックについて自主的に調べて理解を深める	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	1 時間
11	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックについて自主的に調べて理解を深める	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	1 時間
12	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックについて自主的に調べて理解を深める	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	1 時間
13	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	トピックについて自主的に調べて理解を深める	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。	1 時間
14	大野 朝子・大槻くるみ フランク グッチェ・酒井 孝之	学期中に学んだ英語コミュニケーションスキルを総括する。	予習：最終に確認する疑問点をまとめる。 復習：授業で気づきをクラスで話し合いまとめる	1 時間
教 科 書		担当教員の指示に従ってください。		
参 考 書		適宜、授業で指示する。		
備 考		特になし		

科 目 名		韓国語コミュニケーションⅠ		担 当 者	李 恵慶	
科目ナンバリング		1020212520			非常勤	
D P		1,2,3		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 現代社会を生きる私達に、外国語の必要性は益々増加しつつあります。情報化時代に生き残るためにも、外国語を理解し、そこから必要な情報をゲットする必要もあります。この授業では、韓国語の基礎を学びます。最初は文字の書き方を覚え、読み方と基本語彙の習得をし、「書く」、「読む」ことに重点をおきます。また、すぐ使える基本表現の習得を目指しますが、合わせて生の韓国語に触れるために授業中は話題の韓国ドラマや映画も取り入れて行います。 【学習の到達目標】 この授業は、韓国語を始めて学ぶ基礎からの現代韓国語講座です。まずハングルを学び、その読み書きができるようにするのが第一の目標です。次は日本語と比較しながら基本的な文法事項を理解し、最初は自己紹介文から簡単な会話ができるようにします。名詞文と否定形、指示代名詞と疑問形、その答え方、動詞、形容詞の活用、漢語と固有語の教え方、意志表現、過去形などの文法事項を覚え、その運用能力を養うのがこの授業の到達目標です。 【成績評価方法】 小テスト・課題など 50% 期末試験 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	李 恵慶	第九課朝ご飯は食べません。	予習：第九課の語彙と文法 復習：第九課の本文と練習問題		1 時間	
2	李 恵慶	第十課どこに住んでいますか。	予習：第十課の語彙と文法 復習：第十課の本文と練習問題		1 時間	
3	李 恵慶	第六課から第十課までのまとめ	予習：第六課から第十課までの語彙と文法 復習：第六課から第十課までのまとめ練習問題		1 時間	
4	李 恵慶	第十一課今日、忙しいですか。	予習：第十一課の語彙と文法 復習：第十一課の本文と練習問題		1 時間	
5	李 恵慶	第十二課先生でしたか。 第十三課何をしましたか。	予習：第十二課、十三課の語彙と文法 復習：第十二課、十三課の本文と練習問題		1 時間	
6	李 恵慶	第十四課ご飯食べましたか。	予習：第十四課の語彙と文法 復習：第十四課の本文と練習問題		1 時間	
7	李 恵慶	第十五課何をしたいですか。	予習：第十五課の語彙と文法 復習：第十五課の本文と練習問題		1 時間	
8	李 恵慶	第十一課から第十五課までのまとめ	予習：第十一課から第十五課までの語彙と文法 復習：第十一課から第十五課までのまとめ練習 問題		1 時間	
9	李 恵慶	第十六課安くて美味しいです。	予習：第十六課の語彙と文法 復習：第十六課の本文と練習問題		1 時間	
10	李 恵慶	第十七課映画見に行きませんか。	予習：第十七課の語彙と文法 復習：第十七課の本文と練習問題		1 時間	
11	李 恵慶	第十八課何をなさいますか。	予習：第十八課の語彙と文法 復習：第十八課の本文と練習問題		1 時間	
12	李 恵慶	第十九課コーヒーを飲みます。	予習：第十九課の語彙と文法 復習：第十九課の本文と練習問題		1 時間	
13	李 恵慶	第二十課何をする予定ですか。	予習：第二十課の語彙と文法 復習：第二十課の本文と練習問題		1 時間	
14	李 恵慶	第十六課から第二十課までのまとめ	予習：第十六課から第二十課までの語彙と文法 復習：第十六課から第二十課までのまとめ練習問題		1 時間	
教 科 書		『かんたん！韓国語』 文 慶喆他 朝日出版社				
参 考 書		授業中、その都度紹介する。				
備 考		受講生への要望）授業を休まないこと。声を出して練習すること。				

科 目 名		韓国語コミュニケーションⅡ		担 当 者	李 恵慶	
科目ナンバリング		1020212521			非常勤	
D P		1,2,3		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 現代社会を生きる私達に、外国語の必要性は益々増加しつつあります。情報化時代に生き残るためにも、外国語を理解し、そこから必要な情報をゲットする必要もあります。この授業では、韓国語の基礎を学びます。最初は文字の書き方を覚え、読み方と基本語彙の習得をし、「書く」、「読む」ことに重点をおきます。また、すぐ使える基本表現の習得を目指しますが、合わせて生の韓国語に触れるために授業中は話題の韓国ドラマや映画も取り入れて行います。						
【課題等のフィードバック方法】 ・課題は添削し、重要ポイントをつけて返す。・質問は出席表で受け付け、その都度答える。						
【履修上の注意・予習・復習について】 授業の進度にそって予習や復習のための適切な課題を出します。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 韓国語を学ぶことによって日本語や日本文化の源流を理解することは勿論広い角度の情報やグローバル的な感覚を身につけることができます。学習効果を高めるため韓国ドラマや韓国料理なども取り入れて行います。						
【実務家教員担当科目】 韓国語のネイティブでありながら、日本語と韓国語の領域において通訳や翻訳などで多くの経験を有している。						
【成績評価方法】 小テスト・課題など 50% 期末試験 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	李 恵慶	第九課朝ご飯は食べません。	予習：第九課の語彙と文法 復習：第九課の本文と練習問題		1 時間	
2	李 恵慶	第十課どこに住んでいますか。	予習：第十課の語彙と文法 復習：第十課の本文と練習問題		1 時間	
3	李 恵慶	第六課から第十課までのまとめ	予習：第六課から第十課までの語彙と文法 復習：第六課から第十課までのまとめ練習問題		1 時間	
4	李 恵慶	第十一課今日、忙しいですか。	予習：第十一課の語彙と文法 復習：第十一課の本文と練習問題		1 時間	
5	李 恵慶	第十二課先生でしたか。 第十三課何をしましたか。	予習：第十二課、十三課の語彙と文法 復習：第十二課、十三課の本文と練習問題		1 時間	
6	李 恵慶	第十四課ご飯食べましたか。	予習：第十四課の語彙と文法 復習：第十四課の本文と練習問題		1 時間	
7	李 恵慶	第十五課何をしたいですか。	予習：第十五課の語彙と文法 復習：第十五課の本文と練習問題		1 時間	
8	李 恵慶	第十一課から第十五課までのまとめ	予習：第十一課から第十五課までの語彙と文法 復習：第十一課から第十五課までのまとめ練習 問題		1 時間	
9	李 恵慶	第十六課安くて美味しいです。	予習：第十六課の語彙と文法 復習：第十六課の本文と練習問題		1 時間	
10	李 恵慶	第十七課映画見に行きませんか。	予習：第十七課の語彙と文法 復習：第十七課の本文と練習問題		1 時間	
11	李 恵慶	第十八課何をなさいますか。	予習：第十八課の語彙と文法 復習：第十八課の本文と練習問題		1 時間	
12	李 恵慶	第十九課コーヒーを飲みます。	予習：第十九課の語彙と文法 復習：第十九課の本文と練習問題		1 時間	
13	李 恵慶	第二十課何をする予定ですか。	予習：第二十課の語彙と文法 復習：第二十課の本文と練習問題		1 時間	
14	李 恵慶	第十六課から第二十課までのまとめ	予習：第十六課から第二十課までの語彙と文法 復習：第十六課から第二十課までのまとめ練習問題		1 時間	
教 科 書		『かんたん！韓国語』 文 慶喆他 朝日出版社				
参 考 書		授業中、その都度紹介する。				
備 考		受講生への要望）授業を休まないこと。声を出して練習すること。				

科 目 名		中国語コミュニケーション I		担 当 者	王 效紅	
科目ナンバリング		1020212522			非常勤	
D	P	1,2,3		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 正しい発音を身につけることに重点をおく。簡単な文法事項を学習する。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、不明な点について、質問を受け、解答する。また出席カードに質問を書いてもらい、多く出た質問に関してはその次の授業の冒頭で取り上げる。		
【学習の到達目標】 中国語での簡単な日常会話ができるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の口頭練習には、大きな声を出して、積極的に参加してください。		
【成績評価方法】 期末試験 70％、小テスト、課題提出、発言・質問および授業に臨む態度 30％。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 簡単な中国語の会話力が身につけられる。文章表現の基礎が固まる。		
				【実務家教員担当科目】 なし		

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	王 效紅	ガイダンス	中国の国と言葉について再確認する。	1 時間
2	王 效紅	第 1 課発音	附属の音声を読み、発音に慣れる。	1 時間
3	王 效紅	第 2 課発音	附属の音声を読み、発音に慣れる。	1 時間
4	王 效紅	第 3 課発音	附属の音声を読み、発音に慣れる。	1 時間
5	王 效紅	第 4 課発音・あいさつ言葉	附属の音声を読み、発音に慣れる。	1 時間
6	王 效紅	第 5 課	附属の音声を読み、声を出して練習する。	1 時間
7	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。	1 時間
8	王 效紅	第 6 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。	1 時間
9	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。	1 時間
10	王 效紅	第 7 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。	1 時間
11	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。	1 時間
12	王 效紅	第 8 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。	1 時間
13	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。	1 時間
14	王 效紅	総復習	授業で学習した内容を一通り復習する。	1 時間
教 科 書		『大学生のための初級中国語 24 回』 杉野元子・黄漢青著（白帝社）		
参 考 書		授業の中で、必要に応じてアドバイスをしていく。		
備 考		なし		

科 目 名		中国語コミュニケーションⅡ		担 当 者	王 效紅	
科目ナンバリング		1020212523			非常勤	
D P		1,2,3		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 正しい発音を身につけることに重点をおく。簡単な文法事項を学習する。 【学習の到達目標】 中国語での簡単な日常会話ができるようになる。 【成績評価方法】 期末試験 70%、小テスト、課題提出、発言・質問および授業に臨む態度 30%。 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、不明な点について、質問を受け、解答する。また出席カードに質問を書いてもらい、多く出た質問に関してはその次の授業の冒頭で取り上げる。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の口頭練習には、大きな声を出して、積極的に参加してください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 簡単な中国語の会話力が身につけられる。文章表現の基礎が固まる。 【実務家教員担当科目】 なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	王 效紅	復習（第 1 課～第 8 課）	復習（第 1 課～第 8 課）		1 時間	
2	王 效紅	第 9 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
3	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
4	王 效紅	第 10 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
5	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
6	王 效紅	第 11 課	附属の音声聞き、声を出して練習する。		1 時間	
7	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
8	王 效紅	第 12 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
9	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
10	王 效紅	第 13 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
11	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
12	王 效紅	第 14 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
13	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
14	王 效紅	総復習	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
教 科 書		『大学生のための初級中国語 24 回』 杉野元子・黄漢青著（白帝社）				
参 考 書		授業の中で、必要に応じてアドバイスをしていく。				
備 考		なし				

科 目 名		コミュニケーション論		担 当 者	呂本 俊亮	
科目ナンバリング		1020212524			非常勤	
D P		3,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この授業では、心理学をベースにコミュニケーションの基礎と応用を学びます。私たちはふだん、あたりまえのように相手が発した情報を理解し、あたりまえのように自分の考えを表現して相手とコミュニケーションを行っています。しかし、そこには私たち人間のきわめて高度な心理メカニズムが働いています。また、コミュニケーションはどんな場面でもうまくゆくとはいりません。その成否はさまざまな要因に左右されます。その要因の1つが、情報の送り手のコミュニケーション能力です。自分の考えを正確に、そして効果的に他者に伝える能力。それはみなさんの今後の人生において、ますます重要なものとなっていくでしょう。この授業を通して、そのような能力を向上させるためのヒントを獲得してもらえれば幸いです。 【学習の到達目標】 1. 人と人とのコミュニケーションに関する心理学的知識を獲得し、日常生活の中で思い出したり活かしたりできるようになる。 2. 実社会で役立つコミュニケーション能力を向上させるためのきっかけをつかむ。 【成績評価方法】 提出物 5%、小テスト 45%、定期試験 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	呂本 俊亮	言葉で伝えることの難しさ	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
2	呂本 俊亮	言葉以外のメッセージ（1）	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
3	呂本 俊亮	言葉以外のメッセージ（2）	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
4	呂本 俊亮	まとめと小テスト 1	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。			4 時間
5	呂本 俊亮	自己とコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
6	呂本 俊亮	会話の成立要件	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
7	呂本 俊亮	言語理解の心理メカニズム	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
8	呂本 俊亮	作文の認知過程	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
9	呂本 俊亮	まとめと小テスト 2	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。			4 時間
10	呂本 俊亮	好きを生み出すコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
11	呂本 俊亮	見せて伝えるコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
12	呂本 俊亮	実社会でのコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
13	呂本 俊亮	コミュニケーションクイズ大会	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。			4 時間
14	呂本 俊亮	小テスト 3 と全体のまとめ	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。			4 時間
教 科 書		呂本俊亮（著）『言葉とコミュニケーション 心理学を日常に活かす』朝倉書店				
参 考 書		なし				
備 考		なし				

科 目 名		現代国語表現			担 当 者	大泉 浩一
科目ナンバリング		1020212525				非常勤
D P		3,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 14 回の授業で毎回作文を書くことによって、人に伝わる文章を作成するための基本技術を学ぶ。あわせて「人に伝わる」とはどういうことかについて、言葉とコミュニケーションの問題を中心に考察する。 作文が不得意でも受講、単位取得にはまったく問題はない。ただし主に作文提出をもって評価する。 【課題等のフィードバック方法】 作文を添削し、改善点を指摘する。 【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻・私語等には厳しく対応する。出席不良の場合は評価対象外とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 「学習の到達目標」に同じ。 他の講義や実習で書くレポート、また就職活動で書く履歴書・エントリーシート・小論文試験、卒業後に仕事で書く文章の作成に役立つ。 【実務家教員担当科目】 該当しない						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	大泉 浩一	オリエンテーション	高校までに習った作文・小論文の書き方を確認してくる。講義の内容を確認する。			4 時間
2	大泉 浩一	説明文の書き方（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間
3	大泉 浩一	説明文の書き方（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間
4	大泉 浩一	報告文の書き方（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間
5	大泉 浩一	報告文の書き方（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間
6	大泉 浩一	何を書くか・どう書くか（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間
7	大泉 浩一	何を書くか・どう書くか（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間
8	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間
9	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間
10	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（3）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間
11	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（4）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間
12	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（5）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間
13	大泉 浩一	言葉の世界の広がり	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間
14	大泉 浩一	まとめ	返却された作文を読み直し、反省点を次の機会に活かす。			4 時間
教 科 書		なし				
参 考 書		授業内で随時紹介する。				
備 考		なし				

科 目 名		海外研修		担 当 者	○増井三千代・立花顕一郎 王 元・鄭 舜玉	
科目ナンバリング		1020212526			常勤	
D	P	1,4		教 員 研 究 室	1328	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・通年	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 以下のいずれかの海外プログラムに参加し、現地の人々との交流を通して、異文化に対する理解を深めると同時にコミュニケーション力の向上を目指す。 (1) 長期休業期間に海外（英語圏、中国、韓国）へ渡航し、現地で実施される短期語学研修に参加するグループ研修プログラム (2) 学生個人による現地実習を含む短期語学・異文化理解プログラム（必須条件：所定の計画書の提出、5 日以上 の渡航、研究テーマの設定） 【学習の到達目標】 異文化に対する柔軟性を身につけ、現地の言葉を駆使しながら積極的にコミュニケーションを図る。また、現地の人々の考え方や価値観を通じて、日本を客観的かつ相対的に見る広い視野を身につける。 【成績評価方法】 単位取得には、以下の全ての活動に参加することが求められる。 1. 研修前に行われる事前研修会、勉強会等への参加、取り組み状況 25% 2. 研修先での授業やその他プログラムへの参加、取り組み状況 50% 3. 帰国後の研修報告書提出および報告会での成果発表 25% 【課題等のフィードバック方法】 各プログラムの実施担当教員が随時質問を受け付け、回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 1. 実習に伴う参加費、渡航費用等は自己負担となる。 2. 国際情勢の急激な変化により、研修実施が困難になる場合がある。 3. 詳細な日程や費用等については、事前に開催される説明会に出席して確認する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 グループ研修には引率教員が同行するため、海外未経験、語学に不安でも安心して参加できる。また、異文化交流経験は自分の人生の可能性を大きく広げることに繋がる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
【授業計画】 1～2 事前研修 3～7 実習 1 日目 8～12 実習 2 日目 13～17 実習 3 日目 17～21 実習 4 日目 22～26 実習 5 日目 ※プログラムによっては実習の日数が増える可能性有り 27 報告書作成および報告会準備 28 報告会						
教 科 書		資料を配布する。				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		各プログラムの申込は履修登録期間外に行うため、Global Education Project（GEP）の Google Classroom に必ず登録し、掲載される申請方法に従って申し込むこと。この申請をもって履修登録を行う。なお、授業内容（2）の個人研修型プログラムについては、申請条件を満たさなければ、履修できない場合があることに留意する。 クラスコード 4yvf7eq				

科 目 名		健康科学		担 当 者	鈴木 誠	
科目ナンバリング		1020212527			常勤	
D P		1,4		教員研究室	3105	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本授業では、自己の健康づくりのために、病気の予防を含む自身の健康管理に欠かせないさまざまな基礎的な知識を具体的かつ広く学ぶ。そして、一人ひとりが幸福でより良い生活を送るために何をすべきなのか、何をすべきでないのかを考える 【学習の到達目標】 疾病予防と健康管理のために必要な知識を身につけ、健康づくりのための具体的方法が実践できるようになる 【成績評価方法】 授業後確認テスト（各回 10 点×全 7 回⇒ 70 点）と最終授業終了後のレポート課題（30 点）にて成績判定を行う 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後質問を受け付け、次回授業の冒頭等で説明する（classroom での説明など） 【履修上の注意・予習・復習について】 ・規定の出席日数に到達しないものは評価対象外とする ・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 疾病予防と健康管理のために必要な知識を身につけることができ、実践する力を養うことができる 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習	学修時間		
1	鈴木 誠	・オリエンテーション ・健康について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
2	鈴木 誠	・感染症について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
3	鈴木 誠	・飲酒について ・危険薬物について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
4	鈴木 誠	・メンタルヘルスについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
5	鈴木 誠	・生活習慣病について ・がんについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
6	鈴木 誠	・喫煙の影響について ・ヒューマンヘルスについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
7	鈴木 誠	・運動、栄養、休養について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること		4 時間	
教 科 書		授業資料を Google classroom にて配布する				
参 考 書		必要に応じて、各授業時に紹介する				
備 考		不明な点は授業担当者に問い合わせること				

科 目 名		教育学		担 当 者	佐々木真由美	
科目ナンバリング		1020212528			非常勤	
D P		1,2		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・本授業は、教育の目的・意義・方法等についての基本的原則や理論的基礎を学び、身近な教育問題を取り上げながら、学習者の成長に寄り添う教育の在り方について考察していく。						
【学習の到達目標】 ①教育の目的・意義・方法・内容等についての基本的原則や理論的基礎を理解できる。②教育史、教育行政制度、学校経営等の視点から社会の要請に応える教育の意義を理解できる。③いじめ・不登校対策、教育評価、教員の資質能力等の教育者側の視点から教育を考察することができる。						
【成績評価方法】 ・レポート内容及び課題の提出状況・内容を総合的に判断し、評価する。 ・科目の評価項目・基準等を定めたルーブリックに基づいて、評価する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	佐々木真由美	オリエンテーション（授業のねらい、授業内容、評価方法等）。アイスブレイク。④ルーブリック	予習：自身の「学び」について振り返る。 復習：学習を振り返り。在学中に必要な学びを文字化する。		4 時間	
2	佐々木真由美	教育の目的や意義をふまえ、教育格差等について考える。④教育基本法、教育格差	予習：教育の目的について調べる。 復習：教育による格差・不平等を取り上げ、解決策を提案する。		4 時間	
3	佐々木真由美	事例をもとに、子どもの成長・人間の成長について考える。④発達の最近接領域	予習：心がけている / きた学び方についてまとめる。 復習：学友の学び方を参考に、取り組みたい学び方を文字化する。		4 時間	
4	佐々木真由美	学びの効果を高める教育方法について考える。④詰め込み教育、ゆとり教育	予習：「教え方がうまい先生とは？」具体的な事例を集める。 復習：ゆとり教育の本質をふまえ、成長を促す学びについてまとめる。		4 時間	
5	佐々木真由美	義務教育の歴史を踏まえ、教育を受ける権利について考える。④教育勅語	予習：違いを述べる。「この子らに世の光を、この子らを世の光に。」 復習：今日教育問題と解決策を提案する。		4 時間	
6	佐々木真由美	教育行政制度を理解し、学びを支える仕組みについて考える。④文部科学省、教育委員会等	予習：給食について経験をまとめる。 復習：公教育の学びを支えた仕組みについて振り返る。		4 時間	
7	佐々木真由美	居場所となるべき学校の姿を考える。④いじめ防止対策推進法、フリースクール、不登校	予習：いじめ、不登校に関する新聞記事を収集する。 復習：子どもたちが社会とつながって学ぶ居場所について提案する。		4 時間	
8	佐々木真由美	社会の要請に応える教育課程について考える。④教育課程、ヒドゥンカリキュラム	予習：指導を受け、身に付いた価値観や生き方をまとめる。 復習：残しておきたい学習内容（教材）とその理由を整理する。		4 時間	
9	佐々木真由美	発達の特性に基づいた教育について考える。④発達障がい、インクルーシブ	予習：発達障がい等に関する新聞記事を収集する。 復習：自身ができるインクルーシブな社会をつくる取組をまとめる。		4 時間	
10	佐々木真由美	公正な評価、評価方法について考える。④評価規準、評価基準、モデレーション	予習：ルーブリックをもとに自己の学習を評価する。 復習：学習を振り返り、今後注力する評価項目を整理する。		4 時間	
11	佐々木真由美	教育効果を高める学校経営について考える。④社会に開かれた教育課程	予習：教員以外からの学びを一覧にする。 復習：学校外での効果的な学びについてマイプランを作成する。		4 時間	
12	佐々木真由美	学び（学習）の本質について考える。④生涯教育	予習：カルチャーセンター等の広告やリーフレットを持ち寄る。 復習：「習得・探究」に夢中になる理由をまとめる。		4 時間	
13	佐々木真由美	社会から求められる資質・能力について知り、今後の学び方を考える。④主体的・対話的で深い学び	予習：資料について意見を述べる。 復習：学友の意見を比較・分析し、学び方を整理する。Society5.0に向けた人材育成。		4 時間	
14	佐々木真由美	総括：目指す自分像を実現するための学習方法等を考える。④キャリアデザイン	予習：キャリア形成に関する気付き等をまとめる。 復習：社会人1年目の自分に手紙でエールを送る。		4 時間	
教 科 書		適宜プリントを配付				
参 考 書		問いからはじめる教育学（有斐閣ストゥディア）、学制百年史（文部科学省）、教育社会学、教育学原論（ミネルヴァ書房）、カリキュラム論（成文堂）、窓ぎわのトットちゃん（講談社）				
備 考		特になし				

科 目 名		哲学		担 当 者		高山 馨	
科目ナンバリング		1020212530				非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室		非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次		1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 古代から近代までの西洋哲学を、知の形成と変遷の歴史として概観する。また、論理学の基礎と科学的思考を学び、自律的に考えて判断や行為をなすためのリテラシーを学ぶ。							
【学習の到達目標】 (1) 哲学がどのような学的営みであるかを理解できる。(2) 古代から近代までのさまざまな哲学について整理して理解し、知識として定着させることができる。(3) 論理学の基礎と科学的思考を学び、自律的な判断と行為のリテラシーを身につけることができる。							
【成績評価方法】 (a) 課題 50%, (b) 試験 50% 成績評価の基準は「学習の到達目標」(1)～(3)への到達度とします。							
【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom や e メールを使用し、提出物や質問などに対して、必要に応じたフィードバックを個別に行います。							
【履修上の注意・予習・復習について】 〔重要〕 Google Classroom や e メールを使用して、履修者全員あるいは個別に連絡をすることがあります。履修者は、常用する PC やスマートフォンなどのデバイスで教員からの連絡を受信できるようにしておいてください。							
【受講して得られる効果・メリット、その他】 古来より、人間、世界、物事などがどのように考えられてきたかを知ることや、自律的な判断と行為のリテラシーを学ぶことは、実生活をよりよく導くためのきっかけを得ることができると思います。							
【実務家教員担当科目】 該当なし							

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	高山 馨	イントロダクション：哲学と倫理学	[予習] 本科目のシラバスを理解しておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
2	高山 馨	古代哲学 1：ソクラテス	[予習] 知と徳の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
3	高山 馨	古代哲学 2：プラトン、アリストテレス	[予習] 普遍と個別の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
4	高山 馨	中世哲学：アウグスティヌス、トマス・アクィナス	[予習] 存在と本質の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
5	高山 馨	近代哲学 1：デカルト、スピノザ	[予習] 観念の由来について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
6	高山 馨	近代哲学 2：ロック、ヒューム	[予習] 経験による知識と信念について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
7	高山 馨	近代哲学 3：カント	[予習] イギリス経験論と大陸合理論についてまとめる。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
8	高山 馨	近代哲学 4：啓蒙思想	[予習] 社会契約説について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
9	高山 馨	テーマ別哲学 1：心	[予習] 心と脳について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
10	高山 馨	テーマ別哲学 2：心	[予習] 自由について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
11	高山 馨	テーマ別哲学 3：論理	[予習] 思考について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
12	高山 馨	テーマ別哲学 4：論理	[予習] 演繹について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
13	高山 馨	テーマ別哲学 5：科学	[予習] 帰納について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
14	高山 馨	テーマ別哲学 6：科学	[予習] 科学と社会の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
教 科 書		レジュメに基づいて講義してゆきます。			
参 考 書		講義の中で紹介してゆきます。			
備 考		オフィス・アワーは、初回の講義と Google Classroom で伝えます。			

科 目 名	ジェンダー論			担 当 者	川口かしみ
科目ナンバリング	1020212533				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この授業では、自分たちが生きていく社会において、他者と尊重し合い、生きやすい社会になるための課題をジェンダーの視点から検討していく。まず、ジェンダーの基礎知識を学習し、次に、現在の日本社会に存在するジェンダー問題とそれに関する法律について学んでいく。				【課題等のフィードバック方法】 提出された課題内容を翌週の授業内で、フィードバックとして共有することがある。	
【学習の到達目標】 (1) ジェンダーとは何かを理解する。 (2) 現在の日本社会に存在するジェンダー問題とそれに関する法律を知る。 (3) 自分たちが生きやすい社会になるための課題をジェンダーの視点から検討する。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業中に伝える。	
【成績評価方法】 毎授業に課す課題（30%）、学期末テスト（70%）により評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 現在の日本社会に存在するジェンダー問題を理解し、それを解決するための方法を考える視点が得られる。自分たちが生きていく社会のために、現在社会が抱え、解決すべきジェンダー問題を分析する力が身に着く。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	川口かしみ	イントロダクション／ジェンダーとは何か？	ハンドアウトを復習し、ジェンダー規範とは何かを確認する。		4 時間
2	川口かしみ	公私二元論とジェンダー	予習では、教科書の第 1 章・2 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
3	川口かしみ	日本の制度とジェンダー	予習では、教科書の第 3 章・4 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
4	川口かしみ	平和とジェンダー	予習では、教科書の第 5 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
5	川口かしみ	国際社会における日本のジェンダー平等	予習では、教科書の第 6 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。特に女性差別撤廃条約の内容について復習する。		4 時間
6	川口かしみ	労働とジェンダー	予習では、教科書の第 7 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
7	川口かしみ	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	予習では、教科書の 105 ～ 107 頁を読み、自分の考えをまとめる。復習では、教科書の上記頁を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
8	川口かしみ	LGBTQ +／SOGI	予習では、教科書の 108 ～ 110 頁を読み、自分の考えをまとめる。復習では、教科書の上記頁を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
9	川口かしみ	家族とジェンダー	予習では、教科書の第 9 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
10	川口かしみ	信教／学問とジェンダー	予習では、教科書の第 10 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
11	川口かしみ	ポルノグラフィーとメディア	予習では、教科書の第 11 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
12	川口かしみ	売買春と性的自己決定権	予習では、教科書の第 12 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
13	川口かしみ	社会保障／刑事手続とジェンダー	予習では、教科書の第 13 章・14 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
14	川口かしみ	政治参画とジェンダー	予習では、教科書の第 15 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
教 科 書		『ジェンダーの視点で学ぶ憲法入門』			
参 考 書		授業中に適宜紹介する。			
備 考		教科書はタイトル通り、憲法を扱ったものであるが、お手に取っていただければ分かるように、ジェンダーについても扱っているものである。この授業ではそのジェンダー問題の部分扱う。			

科 目 名	憲法と法律			担 当 者	淡路 智典
科目ナンバリング	1020212534				常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	1224
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 憲法とは国の根幹を定める法律である。この授業では憲法の基本的な内容を扱う憲法総論、国家によっても侵害されることのない個人の権利を扱う人権論、国家の基本的な仕組みをさだめる統治機構論をそれぞれ見ていく。できるだけ学生に身近な話題を絡めつつ、憲法の基本的な考え方や条文解釈を説明していく。				【課題等のフィードバック方法】 授業の疑問点を Google classroom に書いてもらい、次の回の授業の冒頭で回答する。	
【学習の到達目標】 憲法という国家の根本法について基礎的な概念を理解し、基本的人権や統治機構のあり方に関して、自己の見解を持てるようにする。				【履修上の注意・予習・復習について】 スライドを授業前に確認し、わからない法律用語の予習。他の受講生の迷惑になることはしないこと。	
【成績評価方法】 期末試験の点数に平常点を加味して決定する。 内訳：期末試験 80％、小テスト 20％				【受講して得られる効果・メリット、その他】 憲法に対する理解を深めることによって、憲法改正をはじめとする具体的な憲法問題に関して、主体的に考えられるようになる。個人の侵害されてはならない基本的人権を理解することにより、社会問題に関して一層深く理解することができるようになる。また一票を持つ主権者として必要な知識と自覚を得ることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	淡路 智典	ガイダンス・憲法とは	シラバスの内容確認・教科書（判例集）の読み方を理解する		4 時間
2	淡路 智典	憲法概説	スライドを授業前に確認し、憲法の全体像を掴む		4 時間
3	淡路 智典	幸福追求権と法の下での平等	判例を参考にして、包括的基本権や平等権について理解する		4 時間
4	淡路 智典	精神的自由権（内心の自由）	判例を参考にして、思想・良心の自由や信教の自由について理解する		4 時間
5	淡路 智典	精神的自由権（表現の自由）	判例を参考にして、表現の自由の重要性や限界について理解する		4 時間
6	淡路 智典	経済的自由権	判例を参考にして、職業選択の自由や財産権について理解する		4 時間
7	淡路 智典	人身の自由	判例を参考にして、刑事事件で保障される権利等について理解する		4 時間
8	淡路 智典	国務請求権と参政権	判例を参考にして、裁判を受ける権利や参政権について理解する		4 時間
9	淡路 智典	社会権	判例を参考にして、生存権や教育を受ける権利、労働基本権について理解する		4 時間
10	淡路 智典	権力分立の原理と国会	政治思想や歴史的経緯を参考にして、三権分立の概念を理解する		4 時間
11	淡路 智典	内閣	法制度を参考にして、公務員制度を理解する		4 時間
12	淡路 智典	裁判所	法制度を参考にして、裁判や裁判制度について理解する		4 時間
13	淡路 智典	天皇制、平和主義	憲法の条文を参考に、象徴天皇制や平和主義について理解する		4 時間
14	淡路 智典	憲法の保障	憲法の理念を参考に、硬性憲法について理解する		4 時間
教 科 書		岡田順太 / 淡路智典 / 今井健太郎 編『判例キーワード憲法』（成文堂、2020 年、ISBN：978-4-7923-0666-3）			
参 考 書		芦部信喜『憲法（第 8 版）』（岩波書店、2023 年、ISBN：9784000616072）			
備 考		特になし。			

科 目 名		解剖学Ⅰ		担 当 者	内藤 輝	
科目ナンバリング		1020322539			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3107	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 人体の構造の中で、主として身体運動に関わる骨・筋・神経系の肉眼解剖学を中心に講義し、実習を行う。				【課題等のフィードバック方法】 ・毎回の講義後に行う確認試験で必要事項を再確認する。 ・中間/期末試験前に配布される確認試験回答と注目点を確認する。 ・中間試験と期末試験の対策と正解を確認し、3 年後の国家試験に備える。		
【学習の到達目標】 1. 骨・筋・靱帯・関節の形態と位置、機能を系統立てて説明できる。 2. 筋の起始・停止、走向、支配神経（髄節）、働きを説明できる。 3. 神経系の構造と大まかな機能を説明できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業時間内で教授できる内容は極めて限られた範囲であり、各自が予習と復習を計画的に行うこと。 ・授業中は講義に集中し、内容を出来るだけ理解して覚えるよう努力すること。講義内容を理解することで解剖学実習が容易に進めることができる。 ・提出課題は手書きとする。提出期限を超えたものは採点対象にしない。		
【成績評価方法】 ・解剖学実習とともに一括で成績を認定する。基準は以下の通りとする。 ・単位認定は提出課題/確認試験（20%）、筆記試験（80%）を基本とする。 ・確認試験は毎回、筆記試験は中間と期末の 2 回、解剖学実習と合わせて実施する。 ・その他、詳細は解剖学 1 の初回授業で説明する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・専門科目を学習する上で必須となる基本的身体構造について理解できる。 ・臨床実習ならびに国家試験（解剖学、運動学）に必要な骨・筋・神経各系の基礎的解剖知識が身につく。		
				【実務家教員担当科目】 解剖学		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	内藤	解剖学概論	体の部位名と方向用語、骨格、骨の機能について知る。			1 時間
2	内藤	表解剖、関節の総論	頭部と体幹の体表解剖、関節の構造について知る。			1 時間
3	内藤	関節各論 1	上肢の関節について知る。			1 時間
4	内藤	関節各論 2	下肢の関節について知る。			1 時間
5	内藤	関節各論 3	脊柱・頭部の関節、上肢・下肢・体幹の運動について知る。			1 時間
6	内藤	神経総論と各論 1	中枢神経と末梢神経、脊髄と脊髄神経について知る。			1 時間
7	内藤	筋総論と上肢各論 1	筋の構造や機能、上肢の筋・脈管・神経について知る。			1 時間
8	内藤	上肢各論 2	上肢の筋・脈管・神経について知る。			1 時間
9	内藤	下肢各論 1	下肢の筋・脈管・神経について知る。			1 時間
10	内藤	下肢各論 2	下肢の筋・脈管・神経について知る。			1 時間
11	内藤	神経各論 2	脳と脳神経について知る。			1 時間
12	内藤	頭部・体幹各論	頭部・体幹の筋について知る。			1 時間
13	内藤	神経各論 3	脳と脳神経について知る。			1 時間
14	内藤	神経各論 4	神経伝導路について知る。			1 時間
教 科 書		グレイ解剖学（原著第 5 版） 秋田恵一 監訳 エルゼビア・ジャパン				
参 考 書		「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（第 2 版）. 中野隆 監訳、医学書院」「カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで. 井上貴央 監訳、西村書店」「ネッター解剖学アトラス（原書第 7 版）. 相磯貞和・他 訳、南江堂」など多数が図書館に所蔵				
備 考		質問などは随時受け付けます。後回しにせず早めに研究室 3107 を訪ねてください。				

科 目 名		解剖学実習		担 当 者	○内藤 輝・首藤 和弘 高橋 由美	
科目ナンバリング		1020322540			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	3107	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 解剖学 1 で学習した骨・筋・神経系の肉眼解剖学について、骨スケッチや筋・腱の貼り付け等の実習を通して理解を深める。 【学習の到達目標】 1. 骨・筋・靱帯・関節の形態と位置、機能を系統立てて説明できる。 2. 筋の起始・停止、走向、支配神経（髄節）、働きを説明できる。 3. 神経系の構造と大まかな機能を説明できる。 【成績評価方法】 ・解剖学 1 とともに一括で成績を認定する。基準は以下の通りとする。 ・単位認定は実習中の課題達成と確認試験（10%）、提出課題（40%）、提出課題に対する試問（50%）を基本とする。 ・筆記試験は中間と期末の 2 回 解剖学 1 と合わせて実施する。 ・提出課題の確認と試問は OT 教員（首藤、高橋、太田）が担当し、達成度に合わせて採点する。 ・その他、詳細は解剖学 1 の初回授業で説明する。 【課題等のフィードバック方法】 ・講義で学んだ事項を全身骨格で確認する。 ・提出課題の記載が正しいかを骨標本と交連標本への筋の張り付けで確認する。 ・提出課題で覚えた事項を各教員の試問で確認する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・4 色以上の色鉛筆を準備すること。 ・規定期限内に終了するように十分に予習を行い、教員の質問に答えられるようにすること。 ・提出課題は手書きとする。提出期限を超えたものは採点対象にしない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・専門科目を学習する上で必須となる基本的身体構造について理解できる。 ・臨床実習ならびに国家試験（解剖学、運動学）に必要な骨・筋・神経各系の基礎的解剖知識が身につく。 【実務家教員担当科目】 解剖学						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	骨学実習 1：全身の骨名称の確認、胸郭の骨	全身の骨約 200 の名称と位置関係を知る。胸骨・鎖骨・肋骨の突起や溝の名称と連結を知る。		-	
2	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	骨学実習 2：椎骨	頸椎・胸椎・腰椎・仙椎・尾椎の特徴と突起や溝の名称と連結を知る。胸椎は肋骨との連結を知る。		-	
3	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	骨学実習 3：上肢骨	肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・指根骨・指骨の特徴と突起や溝の名称と連結を知る。		-	
4	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	骨学実習 4：下肢骨	骨・大腿骨・脛骨・腓骨・足根骨・趾骨の特徴と突起や溝の名称と連結を知る。寛骨と仙骨との連結を知る。		-	
5	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	骨学実習 5：頭蓋骨	頭蓋冠・頭蓋底・下顎骨の特徴と突起や溝の名称と連結を知る。頭蓋底の隆起・溝・孔と脳神経との関係を知る。頭蓋底と下顎骨との連結を知る。		-	
6	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	骨学実習 6：手と足の骨	手根骨・中手骨・指骨の連結と運動を知る。足根骨・中足骨・趾骨の連結と運動を知る。		-	
7	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	筋学実習 1：体幹の筋、呼吸筋	頸部・固有背筋・呼吸に関与する筋の起始・停止、神経支配、作用を知る。		-	
8	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	筋学実習 2：肩甲帯周囲と肩関節周囲の筋	肩甲骨に付着する筋と肩関節の運動に関与する筋の起始・停止、神経支配、作用を知る。		-	
9	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	筋学実習 3：肘関節・前腕・手関節周囲筋	肘関節と手関節の運動に関与する筋の起始・停止、神経支配、作用を知る。		-	
10	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	筋学実習 4：股関節周囲筋	腰椎・寛骨から大腿骨に付着する股関節の運動に関与する筋の起始・停止、神経支配、作用を知る。		-	
11	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	筋学実習 5：膝関節周囲筋と足関節周囲筋	膝関節と足関節の運動に関与する筋の起始・停止、神経支配、作用を知る。		-	
12	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	神経系実習 1：神経系の構造	神経細胞・神経組織や中枢神経系と抹消神経系の構造を知る。		-	
13	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	神経系実習 2：脳の構造（断面を含む）	脳の外観、大脳皮質の機能局在、脳の内部構造、脳神経などを知る。		-	
14	○内藤 輝、首藤 和弘、高橋 由美、太田 千尋	神経系実習 3：伝導路	錐体路や錐体外路など運動性伝導路、視覚・聴覚・平衡覚など感覚性伝導路を知る。末梢神経の電気刺激を体験する。		-	
教 科 書		グレイ解剖学（原著第 5 版） 秋田恵一 監訳 エルゼビア・ジャパン				
参 考 書		「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（第 2 版）、中野隆 監訳、医学書院」「カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで、井上貴史 監訳、西村書店」「ネッター解剖学アトラス（原書第 7 版）、相磯貞和・他 訳、南江堂」など多数が図書館に所蔵				
備 考		疑問質問などは実習中受け付けます。後回しにせず早めに質問してください。				

科 目 名		解剖学Ⅱ		担 当 者	内藤 輝	
科目ナンバリング		1020322541			常勤	
D P		1,2		教員研究室		3107
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次		1 年次・後期
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 人体の構造の系統的理解を肉眼解剖学と顕微解剖学のレベルから学ぶ。骨格系と筋系はすでに学んだので、内臓系とその制御系について学習する。				【課題等のフィードバック方法】 毎回行う確認試験により、予習・講義・復習で不足している部分を調べ、再学習のポイントを確認する。確認試験の解答例と問題のポイントはまとめて配布し、確実な知識とする。		
【学習の到達目標】 人体の構造と機能をミクロからマクロレベルまで系統立てて理解し、今後の専門基礎科目・専門科目を学ぶための土台を作ること为目标とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業時間内で教授できる内容は極めて限られた範囲であり、解剖学の中で内臓学の全てを網羅することは到底できない。 ・短時間に修得できる範囲でないことから、授業中に要点を覚え、各自が予習と復習を計画的に行っていたきたい。 ・授業中は講義に集中し、内容を出来るだけ理解して覚えるよう努力すること。 ・復習は、授業プリントだけでなく指定された教科書や参考書を広く活用して、体表からの位置や立体構造を何時でもイメージできるようにする。		
【成績評価方法】 ・単位認定は講義毎の小テスト（20%）と筆記試験（80%）を基本とする。 ・平常点は確認テスト、課題提出などを総合的に採点する。 ・確認テストは毎回講義後に、筆記試験は中間と期末の2回 行う。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・人体の構造を扱う解剖学は、全ての医療系学問の基礎科目である。授業を受講することで、今後の専門基礎科目と専門科目を学ぶ土台を作ることができる。 ・2 年次に解剖見学実習を行うことで、解剖学ⅠとⅡで学んだ内容が立体的に理解できる。 ・解剖学は国家試験に含まれる重要な科目の一つであることも付け加えておく。		
				【実務家教員担当科目】 解剖学		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	内藤	解剖学とは：細胞・組織・器官、細胞の構造と生化学	細胞・組織・器官の構造と機能について知る。細胞の遺伝情報やエネルギー代謝など生化学の基本を学ぶ。			1 時間
2	内藤	心臓脈管系：心臓	体循環と肺循環の基となる心臓の構造と機能について知る。			1 時間
3	内藤	心臓脈管系：動脈	動脈の特徴と全身に分岐する動脈の名称について知る。			1 時間
4	内藤	心臓脈管系：静脈とリンパ管系	静脈の特徴と全身に分岐する静脈の名称と、リンパ組織・リンパ節・リンパ管・胸管の構造と分布を知る。			1 時間
5	内藤	呼吸器系	鼻腔・喉頭・気管・気管支・肺の構造と機能について知る。			1 時間
6	内藤	消化器系 1	口腔から肛門までの消化管の構造と機能について知る。			1 時間
7	内藤	消化器系 2	肝臓・胆嚢・膵臓など消化器系付属器官の構造と機能について知る。			1 時間
8	内藤	泌尿器系	腎臓・尿管・膀胱・尿道とその付属機関の構造と機能について知る。			1 時間
9	内藤	内分泌系	血液を介して標的器官に作用するホルモンの分泌器官の位置と構造、ホルモンによる恒常性の制御機構を知る。			1 時間
10	内藤	生殖器系	男性生殖器と女性生殖器の構造と機能について知る。			1 時間
11	内藤	自律神経系	内臓系を制御する自律神経系（交感神経と副交感神経）の分布と機能について知る。			1 時間
12	内藤	血液	血液の構成成分と、骨髄の幹細胞からの血球形成について知る。免疫機能に関与する血球成分について知る。			1 時間
13	内藤	外皮系	体表面（外皮）の構造と機能と、温痛圧覚など体表に分布する感覚器について知る。			1 時間
14	内藤	感覚器系と胚葉・鰓弓	視覚・聴覚・平衡覚などの感覚器の構造・機能について知る。胚葉・鰓弓について知る。			1 時間
教 科 書		グレイ解剖学（原著第 5 版） 秋田恵一 監訳 エルゼビア・ジャパン				
参 考 書		「プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト（第 2 版）、中野隆 監訳、医学書院」「カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで、井上貴史 監訳、西村書店」「ネッター解剖学アトラス（原書第 7 版）、相磯貞和・他 訳、南江堂」など多数が図書館に所蔵				
備 考		質問などは随時受け付けます。後回しにせず早めに研究室 3107 を訪ねてください。				

科 目 名		基礎運動学		担 当 者	西澤 哲
科目ナンバリング		1020322542			常勤
D	P	1,2		教員研究室	3212
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 身体運動はヒトの行動を支える基本的活動であり、その障害は日常生活の円滑な遂行を妨げ、リハビリテーション医療の対象になります。したがって身体運動を理解することは、リハビリテーション医療の基礎となる絶対条件のひとつであり、これを目指すみなさんには避けても通れない道のひとつになります。 本科目は、ヒトの身体運動を理解する基礎として、まずヒトの動きの記載方法からはじめ、運動に対する物理現象、特に重力や体内で発生する力がヒトの運動にどのように影響するかを説明していきます。					
【課題等のフィードバック方法】 確認テストの結果を次の講義で説明する					
【履修上の注意・予習・復習について】 大学での講義には原則として教科書が存在しません。また原則として本講義ではプリントによる参考資料の配布を行いません。したがってみなさんは教科書を作成するつもりで授業を集中して聞きノートを積極的にとること、さらにノートをもちいてしっかりと復習してください。ノートに関して、大きく図をかくことができる A4 版ノートの使用を強くお勧めします。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 リハビリテーションおよびその関連職種に携わる医療従事者は、患者さんの運動能力を評価することが必要不可欠です。評価のためには実際の運動における力学的理解が重要になります。本科目は解剖学とともにみなさんがプロとなった時に必要不可欠な「評価」を実践できるようになる第1歩に相当します。					
【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	西澤	運動学とは何か	①リハで運動学を学ぶ意義・対象・方法、②本講義のゴール、③ゴールに向かうまでの過程を復習すること		4 時間
2	西澤	関節運動の解剖学的記載 1	①関節運動、②身体方向、③関節とセグメントに関する用語、④関節肢位と関節角度、の 4 点の定義を復習すること		4 時間
3	西澤	関節運動の解剖学的記載 2	①関節肢位と関節運動の違い、②関節肢位と関節運動の関係および関節肢位や関節運動の計算、を復習すること		4 時間
4	西澤	関節運動の解剖学的記載 3	①体位と構えの違い、② 5 つの体位を説明する、③ 3 つの筋肉の収縮様式の説明、を復習すること		4 時間
5	西澤	関節運動の数学的記載 1	①座標系、② 三角関数の基礎、③回転移動と平行移動、④単関節運動後の遠位端座標を計算法、を復習すること		4 時間
6	西澤	関節運動の数学的記載 2	2 関節運動後の遠位端セグメントの遠位端座標を計算できること、を復習すること		4 時間
7	西澤	演習問題 1（第 2 回～6 回）	あらかじめ、第 2 ～ 7 回の講義内容を復習しておくこと		4 時間
8	西澤	関節運動の力学についての基礎	①重量と重力、②力と反力、③ 3 種類のテコ、④モーメント、の 4 点を復習しておくこと		4 時間
9	西澤	関節運動の力学的記載 1	①モーメントの用語と計算方法、②力がひとつの場合の関節モーメント計算方法と結果表記、の 2 点を復習すること		4 時間
10	西澤	関節運動の力学的記載 2	力が 2 つ以上のモーメントの計算法と結果表記、を復習すること		4 時間
11	西澤	関節運動の力学的記載 3	関節運動中の筋力や関節反力の計算法を復習すること、ただしこの復習には第 2 ～ 10 回の復習が必要になる		4 時間
12	西澤	関節運動の力学的記載 4	①重心の概念の理解、②セグメントに 2 つの力がかかる場合の重心位置の計算、を複数すること		4 時間
13	西澤	関節運動の力学的記載 5	①セグメントに 3 つ以上の力がかかる時の重心位置計算、②直線でないセグメントの重心位置算出、を復習すること		4 時間
14	西澤	演習問題 2（第 2 回～ 13 回）	あらかじめ、もう一度、第 1 回目からの内容を復習すること		4 時間
教 科 書		基礎運動学（第 6 版） 中村隆一、 斉藤宏、長崎浩 著 医歯薬出版 2007 年 ISBN：978-4-263-21153-3 C3047 ¥6,800 + 税 この本は今回の授業の基礎運動学だけでなく、ヒトの身体に関する医学的基礎を網羅した本です。この本は 2 年次以降も必要となる本ですので、必ず購入してください。			
参 考 書		とくになし			
備 考		とくになし			

科 目 名	運動学演習			担 当 者	高橋 由美
科目ナンバリング	1020322543				常勤
D P	1,2			教員研究室	3216
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 関節運動に関する講義と演習。骨格標本を操作し、関節運動のメカニズムを理解する。				【課題等のフィードバック方法】 ・課題や小テスト、中間試験の内容は講義内で解説、補足の講義を行う。	
【学習の到達目標】 ・各関節における関節構成体（骨、筋、靱帯、関節包等）の動きを説明できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・予習課題として解剖の骨学、筋学の復習課題を与える。 ・不定期に授業ノートの提出を求めるので、いつでも提出できるようにノート・授業資料を整理しておくこと	
【成績評価方法】 期末試験 40％、中間試験 40％、提出物や小テスト 20％				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・臨床実習並びに臨床に従事するために必要な関節の基本的構造・運動学的知識が身につく。	
				【実務家教員担当科目】 ・身体障害領域で作業療法士として勤務した経験を有す教員が、臨床に必要な知識を講義する	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	高橋	運動学総論	関節の構造と機能の復習課題	1 時間
2	高橋	肩甲帯・上肢 1	上肢帯の骨・筋の復習課題 1	1 時間
3	高橋	肩甲帯・上肢 2	上肢帯の骨・筋の復習課題 2	1 時間
4	高橋	肘関節・前腕	肘関節・前腕の骨・筋の復習課題	1 時間
5	高橋	手関節・手指 1	手関節・手指の骨、筋の復習課題 1	1 時間
6	高橋	手関節・手指 2	手関節・手指の骨、筋の復習課題 2	1 時間
7	高橋	上肢のまとめ 中間テスト		1 時間
8	高橋	股関節 1	股関節の骨、筋の復習課題 1	1 時間
9	高橋	股関節 2	股関節の骨、筋の復習課題 2	1 時間
10	高橋	膝関節 1	膝関節の骨、筋の復習課題 1	1 時間
11	高橋	膝関節 2	膝関節の骨、筋の復習課題 2	1 時間
12	高橋	足部	足部の骨、筋の復習課題	1 時間
13	高橋	体幹・脊柱	体幹・脊柱の骨、筋の復習課題	1 時間
14	高橋	胸郭・呼吸運動	体幹の骨、筋の復習課題	1 時間
教 科 書		・基礎運動学、中村隆一 他著、医歯薬出版		
参 考 書		・カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで、プロメテウス解剖学アトラス		
備 考		問い合わせ先：高橋		

科 目 名		生理学 I		担 当 者	古林 俊晃	
科目ナンバリング		1020322545			常勤	
D P		1,2		教員研究室	1203	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☑協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ディスカッション・ディベート ☐グループワーク ☐プレゼンテーション ☐実習・フィールドワーク ☐該当なし				
I C T 活 用		☐双方向型授業 ☑自主学習支援 ☐該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・動物の構造は、運動のための臓器と生命を維持するための臓器からなる。生理学は、それぞれの臓器の機能と役割を知る学問である。生理学 I では前者の運動機能を学ぶ。またその正常な機能が失われた時の説明も加える。本講義の内容は後期の生理学実習に繋がる。 ・本講義の理解を深めるために、授業後には振り返りの課題を出す。また毎回講義の最初に前回の確認テストを行う。 【学習の到達目標】 作業療法士として必要とされる生理学の基礎知識の習得 【成績評価方法】 定期試験（80%）／中間試験（20%） 【課題等のフィードバック方法】 確認テスト等に関しては、原則翌週の講義時に解説をする 【履修上の注意・予習・復習について】 ・基本は対面授業ですが、Online 授業にも対応できるように準備をしておくこと ・遅刻は本人の責めに帰さない理由以外は認めない。 ・具合が悪いなど、やむを得ず教室を退出する場合は教員の確認を取ること ・授業態度の悪い学生は退室させる。この場合欠席扱いとする。携帯電話の使用、飲食は禁止とする ・質問は随時受け付けるので、挙手をし発言すること ・予習を重視すること。事前に配布される資料を読み、内容を教科書により確認しておくこと。復習はノート整理を怠らない。特に学んだ用語を正確に把握しておくことは大切な作業である 【受講して得られる効果・メリット、その他】 生体の正常機能を知することは、疾患等による異常機能を観察する上でも重要である 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	古林 俊晃	ガイダンス 生理学の基礎知識：人間らしさとは	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
2	古林 俊晃	運動に必要な構造と機能：骨	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
3	古林 俊晃	運動に必要な構造と機能：筋肉	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
4	古林 俊晃	運動に必要な構造と機能：神経（基礎生理）	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
5	古林 俊晃	運動に必要な構造と機能：神経（末梢神経）	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
6	古林 俊晃	運動に必要な構造と機能：神経（中枢神経：脊髄）	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
7	古林 俊晃	運動に必要な構造と機能：神経（中枢神経：脳）	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
8	古林 俊晃	中間試験（1） 確認事項	質問事項の確認 復習：問題の振り返り		4 時間	
9	古林 俊晃	感覚器系：概論・体性感覚	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
10	古林 俊晃	感覚器系：聴覚・視覚	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
11	古林 俊晃	感覚器系：嗅覚・味覚	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
12	古林 俊晃	高次脳機能	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
13	古林 俊晃	運動ができる仕組み：運動制御理論	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
14	古林 俊晃	中間試験（2） 振り返り	質問事項の確認 復習：問題の振り返り		4 時間	
教 科 書		標準理学療法・作業療法学専門基礎分野 生理学第 5 版（岡田隆夫/長岡正範 医学書院）				
参 考 書		必要に応じ講義時に説明をする				
備 考		授業の進捗により講義内容の調整を行う場合がある				

科 目 名		生理学Ⅱ		担 当 者	古林 俊晃	
科目ナンバリング		1020322546			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	1203	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☒ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・動物の構造は、運動のための臓器と生命を維持するための臓器からなる。生理学は、それぞれの臓器の機能と役割を知る学問である。生理学Ⅱでは後者の生命を維持する仕組みを学ぶ。またその正常な機能が失われた時の説明も加える。本講義の内容は生理学実習に繋がる。 ・本講義の理解を深めるために、授業後には振り返りの課題を出す。また毎回講義の最初に前回の確認テストを行う。 【学習の到達目標】 作業療法士として必要とされる生理学の基礎知識の習得 【成績評価方法】 定期試験（80%）／中間試験（20%） 【課題等のフィードバック方法】 確認テスト等に関しては、原則翌週の講義時に解説をする 【履修上の注意・予習・復習について】 ・基本は対面授業ですが、Online 授業にも対応できるように準備をしておくこと ・遅刻は本人の責めに帰さない理由以外は認めない。 ・具合が悪いなど、やむを得ず教室を退出する場合は教員の確認を取ること ・授業態度の悪い学生は退室させる。この場合欠席扱いとする。携帯電話の使用、飲食は禁止とする ・質問は随時受け付けるので、挙手をし発言すること ・予習を重視すること。事前に配布される資料を読み、内容を教科書により確認しておくこと。復習はノート整理を怠らない。特に学んだ用語を正確に把握しておくことは大切な作業である 【受講して得られる効果・メリット、その他】 生体の正常機能を知することは、疾患等による異常機能を観察する上で重要である 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	古林 俊晃	ガイダンス 生体の構造の確認	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
2	古林 俊晃	呼吸器系	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
3	古林 俊晃	循環器系：血液	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
4	古林 俊晃	循環器系：心臓	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
5	古林 俊晃	循環器系：末梢循環系	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
6	古林 俊晃	恒常性：生体防御（免疫・体温調整）	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
7	古林 俊晃	中間試験（1） 確認事項	これまでの確認		4 時間	
8	古林 俊晃	泌尿器系：腎臓	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
9	古林 俊晃	泌尿器系：尿・排尿の仕組み	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
10	古林 俊晃	恒常性：内分泌系	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
11	古林 俊晃	消化器系：構造と機能	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
12	古林 俊晃	エネルギー代謝機構	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
13	古林 俊晃	生殖と加齢	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出・資料と教科書の確認とノート作成		4 時間	
14	古林 俊晃	中間試験（2） 振り返り	これまでの確認		4 時間	
教 科 書		標準理学療法・作業療法学専門基礎分野 生理学第 5 版（岡田隆夫／長岡正範 医学書院）				
参 考 書		必要に応じ講義時に説明をする				
備 考		授業の進捗により講義内容の調整を行う場合がある				

科 目 名		生理学実習		担 当 者	○古林 俊晃・本多ふく代 太田 千尋	
科目ナンバリング		1020322547			常勤	
D	P	1,2		教員研究室	1203	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ学習内容を実験実習という形で観察し、生理現象の仕組みを学びます。さらに実習で得られた結果の処理方法、視点やまとめ方を学びます。 実習形態は1週目に実習の説明を行い、翌週に実習を行います。講義では前回の実習内容の小テストを行い、生理学の理解度を確認します。				【課題等のフィードバック方法】 レポート及び小テストは翌週の講義冒頭に評価と解説を行います		
【学習の到達目標】 ・実験実習より得られた結果の理論的考察の仕方を修得し、レポートとして正確に報告することができる。 ・論理的考察の仕方を学ぶことで、科学的な眼を養うことができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・遅刻は、特別な理由がない限り認めず、欠席扱いとします。 ・授業態度の悪い学生は退室させます。この場合欠席扱いとします。 ・円滑に実習を実施する為、配布資料で内容を把握した上で、実習に挑むこと。 ・図書館等を利用し図書・論文を多用すること。ただし授業中の図書館利用は不可		
【成績評価方法】 レポート（70%）と定期試験（30%）で評価します。 定期試験を実施するが60点以上で合格とします。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 生理学Ⅰ・Ⅱで得た知識を実験という形で視覚的に捉えることができるので、より深い理解が得られます。また科学的思考に基づくレポートの書き方ばかりでなく、研究倫理を学ぶことができます。		
				【実務家教員担当科目】 作業療法士の教員が担当する 生理学エディケーター（日本生理学会）の認定を受けた教員が担当する		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	全員	ガイダンス：実習の進め方／研究倫理の考え方	予習：生命倫理に関する本を読む 復習：実習項目の確認、及び研究倫理についてまとめる			-
2	全員	血圧測定：実習概説と実習	予習：血圧の生理機能の確認 復習：実習事項のレポート作成			-
3	全員	腎機能：実習概説と実習	予習：腎の生理的機能及び酸塩基平行の確認 復習：実習事項のレポート作成			-
4	全員	これまでの振り返り	予習：疑問点を確認 復習：気づいた内容を資料にまとめる			-
5	全員	感覚器系（表在・深部感覚）：理論と実習概説	予習：皮膚と深部の感覚器系の確認 復習：実習概要について確認			-
6	全員	感覚器系（表在・深部感覚）：実習	予習：実習概要の確認 復習：実習事項のレポート作成			-
7	全員	生体の電気現象（心電図）：理論と実習概要	予習：心機能の確認 復習：心電図の読み方の確認			-
8	全員	生体の電気現象（心電図）：実習	予習：実習概要の確認 復習：実習事項のレポート作成			-
9	全員	生体の電気現象（筋電図と反応時間）／理論と実習概説	予習：興奮収縮連関と滑走説の確認 復習：筋電図が得られる仕組みについてまとめる			-
10	全員	生体の電気現象（筋電図と反応時間）：実習	予習：実習概要の確認 復習：実習事項のレポート作成			-
11	全員	誘発電位（伸張反射）：理論と実習概説	予習：伸張反射の確認 復習：H反射の確認			-
12	全員	誘発電位（伸張反射）：実習	予習：実習概要の確認 復習：実習事項のレポート作成			-
13	全員	電気生理学（科学研究で使われる技術）	予習：誘発電位について調べる 復習：実習事項のレポート確認			-
14	全員	振り返り（2）	予習：これまでの資料をまとめる 復習：			-
教 科 書		毎回「生理学実習要項」を配付する				
参 考 書		生理学Ⅰ・Ⅱで指定された教科書 必要に応じて説明をする				
備 考		実験の進捗や実験室の変更より内容を変更することがある。この場合は事前に指示をする				

科 目 名		臨床医学総論		担 当 者	○渡邊 隆夫・沼崎 宗夫	
科目ナンバリング		1020322549			常勤	
D P		1,2		教員研究室	渡邊：4216、沼崎：3218	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 臨床の現場においては医療チームの一員として、主疾患、副疾患を問わず様々の疾患を有している対象者に接する。それら疾患の原因や特徴について知っておくことは、対象者を理解し適確に対応していく上で重要である。したがって疾患の発生機序について解説し、疾患の成り立ちと病態に対する理解を持てるようにする。また、医療チームの一員として、最新の現代医療について、チーム医療のあり方、医療倫理など基本的な考え方について解説を行なう。				【課題等のフィードバック方法】 授業課題については期限後に模範解答を提示し再度の復習に供する。		
【学習の到達目標】 1) 細胞・組織・器官のなりたち、分化・変性について基本的理解を得る。 2) 疾病の原因・経過について基本的理解を得る。 3) 循環障害・代謝障害について基本的理解を得る。 4) 炎症・免疫・腫瘍について基本的理解を得る。 5) 悪性疾患・医の倫理について基本的理解を得る。 6) 消化器疾患・生活習慣病・高齢者疾患について基本的理解を得る。				【履修上の注意・予習・復習について】 教科書プリントなどでで予定範囲を通読しておくこと。 理解したこと、覚えたことを毎回記載すること。		
【成績評価方法】 期末試験（80%）、授業課題（20%）等を総合して評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 疾患の成り立ち・経過についての基本的知識を得ることが出来る。 高齢化社会の現代医療におけるチーム医療の一員として、頻度の高い疾患についての不可欠な知識が得られる。		
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	沼崎 宗夫	病理学 1（病因論）病理学について、病因について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
2	沼崎 宗夫	病理学 2（退行性病変・進行性病変・代謝障害）退行性病変、進行性病変、代謝障害について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
3	沼崎 宗夫	病理学 3（循環障害）循環障害について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
4	沼崎 宗夫	病理学 4（循環障害 2）循環障害について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
5	沼崎 宗夫	病理学 5（免疫アレルギー）免疫、アレルギー、膠原病について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
6	沼崎 宗夫	病理学 6（炎症）炎症・感染症について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
7	沼崎 宗夫	病理学 7（腫瘍・老化と死）腫瘍、老化と死について	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
8	渡邊 隆夫	臨床医学 1（消化器病 1）消化と吸収について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
9	渡邊 隆夫	臨床医学 2（消化器病 2）消化器解剖と各種病態について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
10	渡邊 隆夫	臨床医学 3（悪性疾患・医の倫理）悪性疾患、医の倫理の歴史について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
11	渡邊 隆夫	臨床医学 4 糖尿病と健康管理について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
12	渡邊 隆夫	臨床医学 5（生活習慣病）生活習慣病と健康管理について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
13	渡邊 隆夫	臨床医学 5（生活習慣病）生活習慣病と健康管理について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
14	渡邊 隆夫	臨床医学 5（生活習慣病）生活習慣病と健康管理について	事前配付資料で該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。			4 時間
教 科 書		病理学：医学書院 標準理理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第 3 版 梶原博毅、横井豊治監修 ISBN978-4-260-00735-1				
参 考 書		「メディカルスタッフのための内科学」医学出版社 ISBN 978-4-87055-125-1				
備 考		質問は各担当教員が、問い合わせは主担当教員が受け付ける。				

科 目 名	救命救急学演習			担 当 者	渡邊 隆夫
科目ナンバリング	1020332559				常勤
D P	1,4			教員研究室	4216
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人の生命を脅かす様々な緊急事態に際して、その個体の救命あるいは回復には、早急の救急対応が最重要である。医療の一環を担う職域に従事する者として、救命救急処置法を熟知することは肝要である。この科目では様々な緊急事態とその原因、危険因子を挙げ、それらに迅速かつ確実に対応する応急処置法を講義しその技術を体得させる。加えて、日常的に遭遇する代表的な救急疾患について、概略を講義し、現場での超早期診断や初期対応、治療の進め方を講義する。					
【学習の到達目標】 講義・実習を通じ、病院や施設、様々な福祉分野で自信を持って働き、患者さんや高齢者の緊急事態に際しても正しく行動できる知識・技能を身につける。					
【成績評価方法】 定期試験（80％）授業課題（20％）にて成績を評価する。					
【課題等のフィードバック方法】 講義課題については原則 2 週間以内に解答例を示しフィードバックを行う。					
【履修上の注意・予習・復習について】 あらかじめ講義予定該当箇所について教科書ならびに掲載講義資料で予習を行い、講義レポートなどにおいて復習を十分に行うこと。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 様々な救急病態を正しく評価し冷静・効果的に対応できるようになる。心肺停止などの事態に対しても適格な行動を取れるようになる。医療人・社会人としてのモラルを高めることができ、医療福祉分野業務において自信を持つことが出来る。					
【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
1. 災害医療・トリアージ 2. 心肺蘇生法 3. 心不全 4. ショック 5. 狭心症・心筋梗塞 6. 狭心症・心筋梗塞 2 7. 中毒 1 8. 中毒 2・体温異常 9. 外傷 1 10. 外傷 2 11. 脳卒中 1 12. 脳卒中 2 13. 感染症 1 14. 感染症 2					
教 科 書	コメディカルのための救急医学、渡邊隆夫編、医学出版社 ISBN-978-4870551435				
参 考 書	米国心臓病協会編『BLS ヘルスケアプロバイダーマニュアル』 中山書店（本学図書館蔵）				
備 考	特になし				

科 目 名	リハビリテーション医学			担 当 者	津田 丈秀
科目ナンバリング	1020322560				常勤
D P	1,2			教員研究室	3206
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 リハビリテーション医学は神経疾患や整形外科疾患などが原因で起こる運動機能障害の診断と治療を中心とする学問である。また、作業療法士は医療において上記診断や治療を行うことを必要とされる臨床家である。そのため作業療法士はリハビリテーション医学における十分な知識と技術を学ばなければならない。 授業ではリハビリテーション医療の目的と進め方やリハビリテーション医療のキーワードである障害の概念や代表的な障害の特徴について解説する。 尚、施行した講義に関し毎回小試験を施行する。				【課題等のフィードバック方法】 小試験問題に関し「振り返り・解説」を行い講義を進めていく。	
【学習の到達目標】 ①リハビリテーション医療の目的と進め方を理解する。 ②障害の概念と代表的な障害の特徴を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 ①ストリーム内講義資料は最小限の内容である。この資料については確実に理解することが重要である。 ②同講義資料は履修内容すべてではないので、理解のため教科書・参考書などによる予習・復習を各々最低 30 程度を必須とする。特に予習は重要。	
【成績評価方法】 定期試験 60%（点）、小試験・レポート 40%（点）。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 リハビリテーション医学の基本的枠組みと種々の疾患に共通する諸問題を扱うため、作業療法の位置づけが明確となる。	
【実務家教員担当科目】 作業療法					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	津田 丈秀	リハビリテーション医学の概要	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
2	津田 丈秀	嚥下障害	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
3	津田 丈秀	廃用症候群、褥瘡	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
4	津田 丈秀	高齢者、老化現象	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
5	津田 丈秀	認知症	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
6	津田 丈秀	排泄障害	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
7	津田 丈秀	院内感染症、予防医学、並びにクリニカルパス	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
教 科 書		「PT・OT ビジュアルテキストリハビリテーション医学 第 1 版」 監修：安保雅弘 羊土社 2018 年			
参 考 書		「リハビリテーション医学 第 2 版」 監修：米本恭三 医歯薬出版 2013 年 「入門リハビリテーション医学 第 3 版」 監修：中村隆一 医歯薬出版 2012 年			
備 考		e-mail：ttsuda@rehab.tbgu.ac.jp 丸暗記でなく、考え方を理解して学習して下さい。その方が、ずっと臨床に役立ちます。			

科 目 名	リハビリテーション概論			担 当 者	香山 明美
科目ナンバリング	1020322562				常勤
D P	1,2			教員研究室	3203
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 リハビリテーション専門職である作業療法士にとって原点とも言える、リハビリテーションの理念を学ぶ。加えて、ICF（国際生活機能分類）を中心とした障害の理解、ノーマライゼーションについて、障害受容等基本原理について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 レポート課題等を施行し講義で行った学習内容の一つずつ理解したうえで講義を進める。	
【学習の到達目標】 リハビリテーションの理念と基本原理について理解できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 予習：指定教科書を使用し授業を進めるため、授業日程を把握し事前に教科書の授業範囲を読んでおくこと。復習：指定教科書、ノートを整理すること。	
【成績評価方法】 定期試験（90%）、レポート期限内提出及び内容（10%）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 日常的に使われている「リハビリテーション」という“ことば”を理念として理解できる。	
				【実務家教員担当科目】 リハビリテーションや作業療法に長く従事した教員が担当する	

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	香山 明美	リハビリテーションとは 歴史・理念・定義	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 60 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
2	香山 明美	病気と障害 障害モデルの理解	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 60 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
3	香山 明美	リハビリテーションとノーマライゼーション	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 60 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
4	香山 明美	人間の発達とリハビリテーション	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 60 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
5	香山 明美	リハビリテーションの諸段階・過程	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 60 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
6	香山 明美	リハビリテーションを支える社会保障制度	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 60 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
7	香山 明美	障害者の心理と障害受容	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 60 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
教 科 書		医学生・コメディカルのための手引き リハビリテーション概論 - 改訂版第 4 版 - 田島文博編著 永井書店 2022 年			
参 考 書		必要に応じて都度提示する。			
備 考		質問問い合わせは香山まで			

科 目 名	チーム医療福祉論			担 当 者	大黒 一司
科目ナンバリング	1020322566				常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	3211
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本学では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、社会福祉士、精神保健福祉士、看護師、保健師、臨床工学技士の9の保健医療福祉専門職を養成している。それぞれが専門的知識と技術を習得することは大切である。しかし、将来現場で働く際には、本学において養成している職種に限らず多くの専門職と関わることになる。そこで、この授業では保健医療福祉分野においてチームとして関わる専門職について知ることを目的として、それぞれの専門職の仕事内容、保健医療福祉分野における役割、機能について講義をする。また、多職種連携の実践について実践例の紹介を通して学ぶ。受講する学生が自身の目指す職種について、他の学生に紹介することや他の職種について説明を受ける機会（グループワーク）を通して多職種について理解することができる。				【課題等のフィードバック方法】 ・講義終了後、質問を受け付け回答する。 ・レスポンスペーパーによる質問を受け付け回答する（クラスルーム）。 ・次回講義時に受講者全体に向けて回答する。	
【学習の到達目標】 ・他職種の専門性、業務の概要を知る ・他専攻の学生とかかわる中で自分の目指す専門職について紹介できる				【履修上の注意・予習・復習について】 指定された席で受講する。私語・携帯電話の使用・飲食の禁止 レスポンスペーパーは毎回必ず提出する。	
【成績評価方法】 授業時の課題（レスポンスペーパーの提出） 20％ グループワークの課題 30％ まとめの課題レポート 50％				【受講して得られる効果・メリット、その他】 1 年次から他学科・他専攻で学ぶ学生と授業を通して交流することができる。また、自分が目指す職種のことを他者に伝えるために一層理解することができる。	
				【実務家教員担当科目】 病院・施設において多職種連携を実践していた。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	大黒 一司	保健医療福祉を支える専門職とチームの役割	復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
2	大黒 一司	専門職の理解（紹介）1 医師、歯科医師、薬剤師	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
3	大黒 一司	専門職の理解（紹介）2 (1) 看護師、保健師、管理栄養士、臨床工学技士 (2) グループワーク	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
4	大黒 一司	専門職の理解（紹介）3 (1) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士 (2) グループワーク	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
5	大黒 一司	専門職の理解（紹介）4 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、義肢装具士、ほか	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
6	大黒 一司	多職種連携の実践 (1) 保健医療福祉における多職種連携の実践の紹介 (2) グループワークを通して多職種連携を模擬的に体験する	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する		4 時間
7	大黒 一司	全体の振り返りとまとめ（課題の実施と提出）	予習：事前配布資料のこれまでの授業内容（テキストのページ）について振り返る 復習：まとめの課題についてテキストで確認する。		4 時間
教 科 書		指定教科書は特になし			
参 考 書		必要に応じて図書や文献を紹介する			
備 考		質問等の問い合わせ：大黒一司（リハビリテーション学科作業療法学専攻）			

科 目 名		重度障がい者自立生活支援演習		担 当 者	○本間 里美・小林 武 傍島 智子・千葉早耶香 千田 香	
科目ナンバリング		1020312570			常勤・非常勤	
D P		1,3,4		教員 研 究 室	小林：3103、傍島：1314	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1・2・3・4 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選 択 1 単 位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク ☑プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 地域で生活する重度身体障がい者の生活とそれを支える専門職の役割について、講義・演習・実習を通して学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 グループワーク、プレゼンテーション実施後に講評する		
【学習の到達目標】 重度障がい者の地域生活を知る 重度障がい者の地域生活に必要な支援を体験する				【履修上の注意・予習・復習について】 休日、祝・祭日の3連休に開講する（開講日は別途通知する）。		
【成績評価方法】 グループワーク成果物とプレゼンテーションの妥当性を評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 地域で生活する重度身体障がい者の生活とそれを支える専門職の役割を理解・体験できる。		
				【実務家教員担当科目】 重度身体障がい者の地域生活支援に携わっている看護師、理学療法士、ヘルパーが、それに必要な専門的知識・技術を教授するとともに、当事者宅での実習について指導する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	本間	・オリエンテーション ・障がいとは？	復習：「障がい」のもつ多面的な意味をまとめる		1 時間	
2	本間、千田、千葉	・重度身体障がい者用コミュニケーション機器実習 ・透明文字盤実習	予習：自分の意思を伝達する手段を調べておく 復習：実習した内容をまとめる		1 時間	
3	本間、千葉	「地域で生きる・暮らす」「地域で支える」とは？	予習：重度障がい者が地域で暮らすために必要な支援について調べておく 復習：重度障がい者が地域で暮らすために必要な支援についてまとめる		1 時間	
4	本間、千葉	・医療の視点と介助の視点 ・事例をもとに考えよう	予習：重度障がい者の疾病を調べておく 復習：重度障がい者の疾病と障害をまとめる		1 時間	
5	本間、千田	当事者宅での実習説明と準備学習	当事者宅での実習目標、スケジュールを確認しておく		1 時間	
6	本間、千田、傍島、小林	当事者宅での実習	予習：当事者宅での実習に必要な用具、身なりを準備しておく 復習：実習日誌をつける		1 時間	
7	本間、千田、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習日誌をつける		1 時間	
8	本間、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習日誌をつける		1 時間	
9	本間、千葉、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習日誌をつける		1 時間	
10	本間、千葉、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習内容をまとめておく		1 時間	
11	本間、千田、千葉、傍島、小林	グループワーク 1：実習経験の共有	予習：実習内容を発表できるように準備しておく 復習：共有した他の学生の実習経験をまとめる		1 時間	
12	本間、千田	・実習での体験を振り返る ・改めて考える「障がいとは？」	復習：自分の実習と共有した他の学生の実習内容から、改めて障害の持つ意味を簡単にまとめる		1 時間	
13	本間	障がいって何？ 当たり前の見方を変えてみよう	復習：障がいの多面的な意味を考察しまとめる		1 時間	
14	本間、千田、千葉、傍島、小林	・グループワーク 2：「障がいとは？」について考える ・発表会と総まとめ	復習：授業全体を振り返り、重度障がい者の生活を支援することの意義と専門職としての関わりをまとめる		1 時間	
教 科 書		オリジナルテキスト（¥500）を使用します。初回授業時に購入してもらいます。				
参 考 書		特に指定しない				
備 考		・当事者宅での実習を受け入れていただく当事者の人数が限られていますので、受講者数を最大 20 名に制限します。 ・受講希望者多数の場合は、事前説明会や面接等を通して受講生を決定します。				

科 目 名		作業療法概論		担 当 者	○高木 大輔・香山 明美	
科目ナンバリング		1020422571			常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	3210 研究室（高木）	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 作業療法の起源、歴史的変遷と展開、作業療法における作業のもつ特性、作業療法の過程などの解説を通して作業療法の概要を学ぶ。また、作業療法士が専門職並びに対人援助職としてどのようなことを考え実践しているのかについて、現場で働く作業療法士や作業療法を体験した当事者の講話によって理解を深める。				【課題等のフィードバック方法】 提出された課題はコメントと共に返却する。また、試験結果は個別に開示し内容についてフィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 1) 作業療法の概要と歴史が理解できる。 2) 作業療法士の職務概要と専門性が理解できる。 3) 作業療法の実践に必要な思考過程が理解できる。 4) 日本や世界の作業療法士職能団体の役割が理解できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業に臨む前にはあらかじめ該当する教科書のページに目を通すなど、指示した内容について準備をすること。授業中は自分なりの意見を積極的に述べるなど、より能動的な参加を期待する。		
【成績評価方法】 定期試験（70％）、ワークシート等の提出状況（30％）				【実務家教員担当科目】 医療機関で作業療法士として臨床業務に従事していた経験を持ち、また現在も非常勤での臨床業務や作業療法士職能団体に関与している教員が授業を行う。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高木・香山	オリエンテーション、作業療法とは	予習：事前配布資料を読む。 復習：教科書や配布資料にメモしたことをまとめなおす。			4 時間
2	香山	作業療法の定義	予習：学習内容に対応した教科書のページを読む。 復習：教科書や配布資料にメモしたことをまとめなおす。			4 時間
3	香山	作業療法の歴史	予習：学習内容に対応した教科書のページを読む。 復習：教科書や配布資料にメモしたことをまとめなおす。			4 時間
4	香山	基本的人権の理解と擁護、倫理原則	予習：学習内容に対応した教科書のページを読む。 復習：教科書や配布資料にメモしたことをまとめなおす。			4 時間
5	高木	作業療法士の責務と役割	予習：学習内容に対応した教科書のページを読む。 復習：教科書や配布資料にメモしたことをまとめなおす。			4 時間
6	高木	作業療法の実践過程	予習：学習内容に対応した教科書のページを読む。 復習：教科書や配布資料にメモしたことをまとめなおす。			4 時間
7	高木	多職種連携と作業療法、チームアプローチ	予習：学習内容に対応した教科書のページを読む。 復習：教科書や配布資料にメモしたことをまとめなおす。			4 時間
8	高木	障害の理解と ICF	予習：学習内容に対応した教科書のページを読む。 復習：教科書や配布資料にメモしたことをまとめなおす。			4 時間
9	香山・高木	対象者の生活とそれを支える作業療法士の実践①（作業療法士による講話）	予習：指定された資料を読む。 復習：ワークシートをまとめなおす。			4 時間
10	香山・高木	対象者の生活とそれを支える作業療法士の実践②（当事者による講話）	予習：指定された資料を読む。 復習：ワークシートをまとめなおす。			4 時間
11	香山・高木	対象者の生活とそれを支える作業療法士の実践③（GW）	予習：これまでまとめたワークシートに目を通す。 復習：新たなワークシートをまとめなおす。			4 時間
12	高木	作業療法における「作業」とは	予習：学習内容に対応した教科書のページを読む。 復習：教科書や配布資料にメモしたことをまとめなおす。			4 時間
13	香山	日本作業療法士協会とその役割	予習：学習内容に対応した教科書のページを読む。 復習：教科書や配布資料にメモしたことをまとめなおす。			4 時間
14	香山	世界作業療法士連盟とその役割	予習：学習内容に対応した教科書のページを読む。 復習：教科書や配布資料にメモしたことをまとめなおす。			4 時間
教 科 書		能登真一他 標準作業療法学専門分野 作業療法学概論（第 4 版） 医学書院				
参 考 書		必要に応じ授業の中で紹介する。				
備 考		質問等がある場合は担当者である高木大輔または香山明美が対応する。				

科 目 名		基礎作業学		担 当 者	王 治 文	
科目ナンバリング		1020422572			常勤	
D P		1,2		教員研究室		3205
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次		1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 作業療法の治療手段である作業に焦点を当て、定義から範囲、分類について解説する。作業と生活との関係を理解できるよう、生活を構成する作業、作業バランス、ライフステージ、環境や健康、障害との関連について事例紹介を加えながら説明する。一連の講義・演習を通して、作業について、作業の意味について理解を深めてもらう。 【学習の到達目標】 1. 作業療法における作業の定義、範囲と分類、および作業の意味を理解する。 2. 生活のなかでの作業の位置づけ、人・環境と作業との関係を理解する。 3. 作業療法の対象者における意味のある作業、および作業の応用について理解する。 【成績評価方法】 定期試験 70％、課題レポート 10％、ワークシート 20％ 【課題等のフィードバック方法】 ・ワークシートにコメントし返却する。 ・グループワーク時に適宜助言する。 【履修上の注意・予習・復習について】 作業療法士を目指す学生としてふさわしい学習態度（行動）で臨むよう心がけてほしい。事前に提示された課題について予習して授業に参加すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目は作業療法専門科目の基礎であり、受講して以下の効果が得られると思われる。 1. 作業療法における作業について理解できる。 2. 作業と生活、作業と人・環境との関係を知ることができる。 3. 作業療法現場での作業の応用を理解できる。 【実務家教員担当科目】 病院・施設で作業療法士として臨床経験を持つ教員が作業を用いた実践を指導する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	王	オリエンテーション 作業とは：作業の定義、作業の種類、作業の分類	予習：教科書の指定するページの予習 復習：授業内容の復習			4 時間
2	王	作業と日常生活：生活を構成する作業、作業バランス	予習：教科書の指定するページの予習 復習：授業内容の復習			4 時間
3	王	作業と心身機能、環境因子、個人因子との関係	予習：教科書の指定するページの予習 復習：授業内容の復習			4 時間
4	王	作業とライフステージ	予習：教科書の指定するページの予習 復習：授業内容の復習			4 時間
5	王	作業に焦点を当てた実践	予習：教科書の指定するページの予習 復習：授業内容の復習			4 時間
6	王	作業療法における作業の意味	予習：教科書の指定するページの予習 復習：授業内容の復習			4 時間
7	王	作業の分析と作業療法への応用 まとめ	予習：教科書の指定するページの予習 復習：授業内容の復習			4 時間
教 科 書		二木淑子：作業療法概論 第3版、医歯薬出版 長崎重信：作業学 第2版、メディカルビュー				
参 考 書		日本作業療法協会：作業療法概論 第3版、協同医書 葉山靖明：だから作業療法が大好き 三輪書店				
備 考		授業に関する質問、問い合わせ：科目責任者 王治文				

科 目 名		基礎作業学実習		担 当 者	○王 治文・首藤 和弘 阿部 秀樹
科目ナンバリング		1020422573			常勤
D P		3,4		教員研究室	3205
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間 45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 作業療法の治療手段として用いられている代表的な作業活動について、基本技術や道具の管理などを学習する。作業活動プロセスの習得と同時に、包括的作業分析を通して作業活動の特性を把握する。また、作業療法で作業活動を用いる際の視点や方法、および治療の意義について学ぶ。			【課題等のフィードバック方法】 事後課題に関しては、担当教員が添削し返却、フィードバックを行う。質問は随時受け付けし回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 予定した作業活動（作業種目）に関する準備物や設備を使用する際の諸注意等については、初回のオリエンテーション時に説明する。原則、毎回出席し、提示されたすべての事後課題の提出が求められる。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 作業活動の特性や事前準備、プロセスなどを学ぶことで、臨床で対象者に対して作業活動を提供する際に必要な知識や技術、および作業活動に対する分析の視点を深めることができる。 【実務家教員担当科目】 作業療法士、レクリエーション指導などの実務経験を積んだものが、その経験を踏まえオムニバス形式で授業を行う。		
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	王	オリエンテーション	予習：なし 復習：配布された資料を読む		-
2	王	作業分析の復習、作業体験	予習：なし 復習：包括的作業分析表を作成する		-
3	阿部（非常勤）	レクリエーション①	予習：なし 復習：実施記録の作成、配布された資料を読む		-
4	阿部（非常勤）	レクリエーション②	予習：前回の授業で配布された資料を読む 復習：実施記録、講師用感想文を作成する		-
5	首藤	木工	予習：前回の授業で配布された資料、教科書指定ページを読む 復習：包括的作業分析表を作成する		-
6	王	マクラメ	予習：教科書指定ページを読む 復習：包括的作業分析を作成する		-
7	王， 首藤	グループ活動①オリエンテーション・作業活動	予習：前回の授業で配布された資料、教科書指定ページを読む 復習：包括的作業分析表を作成する		-
8	王， 首藤	グループ活動②包括的作業分析・教授法講義	予習：教科書指定ページを読む 復習：包括的作業分析表を作成する		-
9	王， 首藤	グループ活動③作業活動実施計画	予習：前回の授業で配布された資料、教科書指定ページを読む 復習：作業活動実施計画書を作成する		-
10	王， 首藤	グループ活動④作業活動実施	予習：前回の授業で配布された資料、教科書指定ページを読む 復習：作業活動実施計画書または包括的作業分析表を作成する		-
11	王， 首藤	グループ活動⑤作業活動実施	予習：前回の授業で配布された資料、教科書指定ページを読む 復習：作業活動実施計画書または包括的作業分析表を作成する		-
12	王， 首藤	グループ活動⑥作業活動実施	予習：前回の授業で配布された資料、教科書指定ページを読む 復習：作業活動実施計画書または包括的作業分析表を作成する		-
13	王， 首藤	包括的作業分析の報告会①	予習・復習：包括的作業分析表を見直す		-
14	王， 首藤	包括的作業分析の報告会②・まとめ	予習：授業内の課題を振り返る 復習：授業内で配布された資料、教科書指定ページを読む		-
教 科 書		「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト作業学（改訂第3版）」長崎重信監修 メジカルビュー社 2021			
参 考 書		「つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル第2版」 古川宏監修 医歯薬出版 2018 「ひとと作業・作業活動（新版）」山根寛著 三輪書店 2015 その他：作業活動に関連する本を随時紹介する			
備 考		作業活動の種目や実施回などが変更になる場合がある。 問い合わせ先：王 治文			

科 目 名		作業療法基礎評価学			担 当 者	高木 大輔
科目ナンバリング		1020432576				常勤
D P		1,2			教 員 研 究 室	3210 研究室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 適切な作業療法を実施するためには、まず対象者の状態を適切な方法で測定し、得られた結果を合理的に解釈することが重要である。特に作業療法では、個人の生活やそれを取り巻く環境に焦点をあて理解する評価の技能が求められる。この授業では、作業療法評価に関する基本的な概念を学習し、情報収集、測定手段、結果の解釈、目標設定、計画立案、効果判定など一連の評価過程について学習する。 【学習の到達目標】 1) 作業療法における評価の意義が説明できる 2) 作業療法評価の目的や一連の流れが説明できる 3) 治療効果の判定方法の概略が説明できる 4) 記録と報告の違いや記録と報告における重要事項が説明できる 【成績評価方法】 定期試験で成績評価を行う（100%）						
【課題等のフィードバック方法】 授業時間内に随時実施する。また、試験結果は答案を含め個別に開示する。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中のスマートフォン使用は指示した時のみとする。私語は慎み、質問がある場合には挙手すること。また、着席位置について指示があった場合には従うこと。予習や復習は授業計画を参照し行うことを基本とするが必要に応じて教員より指示する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 作業療法評価の基礎的概念および評価の視点が養われる。 【実務家教員担当科目】 身体機能作業療法学分野の病院勤務経験を有する教員が、評価学の基礎について臨牀的な話題を交えながら講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高木	作業療法評価とは・評価の過程	予習：教科書の p.2-13 を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			4 時間
2	高木	評価の目的と手順	予習：教科書の p.13-16 を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			4 時間
3	高木	評価の手段と留意点	予習：教科書の p.16-20 を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			4 時間
4	高木	評価のまとめと問題点・利点の抽出	予習：教科書の p.20 を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			4 時間
5	高木	目標設定、治療・指導・援助計画立案	予習：教科書の p.21-22 を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			4 時間
6	高木	再評価と効果判定	予習：教科書の p.23-27 を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			4 時間
7	高木	記録・報告の意義	予習：教科書の p.28-32 を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			4 時間
教 科 書		能登真一・他編 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第 4 版 医学書院				
参 考 書		必要に応じて授業時に紹介する。				
備 考		質問等は科目担当者である高木大輔へ問い合わせること。				

科 目 名		作業療法評価学演習		担 当 者	○高木 大輔・太田 千尋	
科目ナンバリング		1020432577			常勤	
D P		1,3		教員研究室	3210 研究室（高木）	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、作業療法評価学の基礎知識を基に、領域共通の評価法である面接法や観察法の演習を行う。また解剖・運動・生理学に関する知識を基に、バイタルサインや臨床検査値、画像情報のみかた、関節可動域（ROM）測定の演習も行う。				【課題等のフィードバック方法】 実技指導時の質疑応答で随時フィードバックする。試験結果は答案を含めて個別に開示する。		
【学習の到達目標】 1) 面接法や観察法の実施や意義について説明できる 2) バイタルサインや臨床検査値のみかたや意義が説明できる 3) 作業療法評価に画像情報をどのように利用すればよいか説明できる 4) ROM の測定部位、基本軸、移動軸、および測定上の注意事項が説明できる 5) ROM 測定が実施できる				【履修上の注意・予習・復習について】 ・実習では大学から支給された実習着（ケーシー）を着用すること。また、ズボンの裾上げなどはあらかじめ済ませておくこと。 ・実習に臨む際は、頭髮や爪を清潔にすること。長髪はゴムなどで結え、目にかからないようにすること。その他の必要事項は教員から指示する。 ・予習や復習は授業計画を参照し行うことを基本とするが必要に応じて教員からも指示する。		
【成績評価方法】 実技試験 50%、定期試験 50% で成績評価を行う。なお、実技試験は 70 点、定期試験は 60 点以上の得点を原則とする。				【実務家教員担当科目】 身体機能作業療学分野の病院勤務経験を有する教員が、領域共通の基礎的評価法について臨床的な話題を交えながら演習を行う。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高木	面接法	予習：教科書の指定部分を読む。			1 時間
2	高木	観察法	復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す			1 時間
3	高木	意識状態・バイタルサインの測定	予習：生理学に関連する項目を復習をしながら教科書の指定部分を読む			1 時間
4	高木	臨床検査値の読み方	復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			1 時間
5	高木	画像評価の基礎・代表的な画像のみかた	予習：解剖学での中枢神経系の復習をする。			1 時間
6	高木	画像情報を作業療法評価に活かす方法	復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			1 時間
7	高木	関節可動域測定総論・作業療法との関連	予習：教科書の指定部分を読む。解剖学での骨格系の復習をする。			1 時間
8	高木	関節可動域測定のための解剖・運動学	復習：配布プリント等を見直す。			1 時間
9	太田	関節可動域測定：上肢①	予習：教科書の指定部分を読む			1 時間
10	太田	関節可動域測定：上肢②	復習：ノートや配布資料を見直す。実技の練習をする。			1 時間
11	高木	関節可動域測定：手指①	予習：教科書の指定部分を読む			1 時間
12	高木	関節可動域測定：手指②	復習：ノートや配布資料を見直す。実技の練習をする。			1 時間
13	太田	関節可動域測定：下肢等①	予習：教科書の指定部分を読む			1 時間
14	太田	関節可動域測定：下肢等②	復習：ノートや配布資料を見直す。実技の練習をする。			1 時間
教 科 書		能登真一・他 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第 4 版 医学書院				
参 考 書		必要に応じて授業時に紹介する。				
備 考		質問等は科目担当者である高木大輔、太田千尋に問い合わせること。				

科 目 名		臨床体験			担 当 者	○犬塚千賀子・香山 明美 本多ふく代・矢萩 未来	
科目ナンバリング		10204225105				常勤	
D	P	2,4			教 員 研 究 室	3216	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	1 年次・通年	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 保健・医療・福祉における作業療法の見学や一部体験を通して、専門職を目指す学生としての自覚を養い、作業療法について知るための授業である。作業療法士が働いている幅広い領域（身体、高齢、精神、発達）の病院または施設に依頼し、作業療法臨床場面の見学を行う。					【課題等のフィードバック方法】 前期・後期の作業療法見学実施報告書（レポート）に関しては添削の上返却する。		
【学習の到達目標】 1. 作業療法の役割や業務内容の一部を理解する 2. 作業療法士になるために今後身につけるべきことを具体的に述べる 3. 社会人（専門職種）として望ましい行動を自覚し、学内生活にその一部を反映することができる					【履修上の注意・予習・復習について】 講義内容は必ず復習し作業療法臨床場面見学前までに身につけておくことが求められる。やむを得ず授業を遅刻・欠席する場合は、科目担当教員に事前に電話または電子メールにて連絡を入れること。		
【成績評価方法】 課題（10％）、試験（20％）、前期・後期の作業療法見学実施報告書（レポート）内容（70％）にて総合的に評価する。 作業療法臨床場面の見学参加と期日までの課題提出が単位認定の最低条件である。					【受講して得られる効果・メリット、その他】 1. 作業療法士による講話や作業療法臨床場面の見学を通して、作業療法の役割や業務の一部、専門職として必要な態度、コミュニケーションスキルを知ることができる。 2. 自己理解、コミュニケーションの実践を通して、2 年次以降の臨床実習に向けた準備やスキルアップに向けて具体的な実践方法を考えることができる。		
					【実務家教員担当科目】 作業療法士としての実務経験のある教員や臨床現場の作業療法士が担当する。		
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	犬塚	オリエンテーション・OT 教育目標と臨床教育および臨床現場で求められる行動	予習：教科書 P2 ～ 4、P38 ～ 40 復習：教科書、配布資料を見直す				-
2	本多	接遇・職場マナー 1：挨拶、研究室への入り方など	予習：教科書 P104 ～ P111 復習：教科書、配布資料を見直す				-
3	矢萩	接遇・職場マナー 2：報連相、メールのマナー	予習：教科書 P128 ～ 133 復習：教科書、配布資料を見直す				-
4	犬塚	メンタルヘルス	予習：なし 復習：講義内容を振り返る				-
5	矢萩	コミュニケーションの取り方基礎編：伝える力、聞く力	予習：教科書 P50 ～ P68 復習：教科書、配布資料を見直す				-
6	犬塚・矢萩	コミュニケーションの取り方応用編：会話、話題提供の仕方	予習：教科書 P156 ～ 170 復習：教科書、配布資料を見直す				-
7	香山・本多	コミュニケーションの取り方実践編①：先輩との交流	予習・復習：これまでの実施内容を見直す				-
8	香山	自分を理解しよう 1：自己管理	予習：教科書 P69 ～ 82 復習：教科書を見直す				-
9	香山・矢萩・犬塚・本多	自分を理解しよう 2：自分の利点および臨床現場で求められる具体的行動チェック	予習：教科書 P21 ～ 31 復習：教科書、配布資料を見直す				-
10	犬塚・香山・矢萩・本多	作業療法士の仕事を知ろう 1：身障・老年期領域の作業療法	復習：講義内容のまとめ				-
11	本多	接遇・職場マナー 3：お礼状の書き方	予習：教科書 P124 ～ 128 復習：教科書、配布資料を見直す				-
12	本多	高齢者の特徴について	復習：配布資料を見直す				-
13	犬塚	実習の身だしなみ、感染症対策	復習：教科書、配布資料を見直す				-
14	犬塚・香山	前期見学実習オリエンテーション	復習：配布資料を見直す				-
15	犬塚・香山	前期見学実習前ゼミ	予習・復習：これまでの実施内容を見直す				-
16	犬塚・香山・本多・矢萩	前期見学実習	予習・復習：これまでの実施内容を見直す				-
17	犬塚・香山・本多・矢萩	前期見学実習	予習・復習：これまでの実施内容を見直す				-
18	犬塚・香山・本多・矢萩	前期見学実習の振り返り	予習・復習：作業療法見学実施報告書（レポート）作成				-
19	犬塚	後期オリエンテーション	予習・復習：なし				-
20	香山・本多・犬塚・矢萩	自分を理解しよう 3：自分の利点および臨床現場で求められる具体的行動チェック（前期との比較）	予習：教科書 P21 ～ 31 復習：教科書、配布資料を見直す				-
21	香山・本多	コミュニケーションの取り方実践編②：	予習・復習：これまでの実施内容を見直す				-
22	矢萩・犬塚	こんな時どうする？：臨床場面を想定した対応およびロールプレイ	復習：配布資料				-
23	犬塚・本多	車いすの介助法・演習	復習：配布資料				-
24	香山・矢萩	後期見学実習オリエンテーション	復習：配布資料を見直す				-
25	矢萩・香山	後期見学実習前ゼミ	予習・復習：これまでの実施内容を見直す				-
26	香山・本多・犬塚・矢萩	後期見学実習	予習・復習：これまでの実施内容を見直す				-
27	香山・本多・犬塚・矢萩	後期見学実習	予習・復習：これまでの実施内容を見直す				-
28	香山・本多・犬塚・矢萩	後期見学実習の振り返り	予習・復習：作業療法見学実施報告書（レポート）作成				-
教 科 書		「PT・OT のためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド第 2 版」山口美和、医学書院					
参 考 書		「標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第 3 版」シリーズ監修：矢谷令子 医学書院					
備 考		授業計画は変更になることもあるため、提示される計画表を確認したうえで参加すること。 問い合わせ先：矢萩未来、他担当教員					

科 目 名		基礎科目演習セミナー		担 当 者	○太田 千尋・西澤 哲 王 治文・首藤 和弘 高橋 由美	
科目ナンバリング		10204225108			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3215	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・通年	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 前半は解剖学実習および解剖学Ⅰの進行に合わせて行う。具体的には解剖学実習で用いた資料や解剖学Ⅰで配布された資料を活用し、骨、関節、筋や中枢神経の部位の名称と機能を確認していく。後半は生理学Ⅱや解剖学Ⅱの進行に合わせて行う。具体的には内臓系、感覚器系、自律神経系などの講義や調べ学習行う。また、小テストやテキストなどを通して知識の定着を図る。 【学習の到達目標】 1. 骨、筋（起始、停止など）、中枢神経の部位や機能を理解できる 2. 内臓、感覚器、自律神経系の主要な部位や機能を理解できる 【成績評価方法】 小テストや課題の調べ学習（20%）、中間試験（40%）、定期試験（40%）				【課題等のフィードバック方法】 小テストや試験の結果について、授業内でフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖学実習で配布された資料を持参すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 解剖学や生理学で学んだことについて、小テストや試験を通して教員からフィードバックを受けることができる。2 年次、3 年次で学ぶ専門科目にむけての基礎的な知識を身につけることができる。 【実務家教員担当科目】 臨床経験のある作業療法士の教員や解剖学、運動学などを担当している教員が経験にもとづき、臨床で必要な基礎知識を学生に教えている。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	太田ほか担当教員	オリエンテーション	予習：なし 復習：配布資料などの確認		1 時間	
2	太田ほか担当教員	骨と関節	予習：骨名称、関節の種類 復習：配布資料などの確認		1 時間	
3	太田ほか担当教員	骨格筋の解剖生理①	予習：骨格筋の構造 復習：配布資料などの確認		1 時間	
4	太田ほか担当教員	骨格筋の解剖生理②	予習：静止膜電位など 復習：配布資料などの確認		1 時間	
5	太田ほか担当教員	上肢の靱帯	予習：上肢の関節、靱帯など 復習：配布資料などの確認		1 時間	
6	太田ほか担当教員	下肢の靱帯	予習：下肢の関節、靱帯など 復習：配布資料などの確認		1 時間	
7	太田ほか担当教員	筋収縮	予習：骨格筋の収縮の仕組みなど 復習：配布資料などの確認		1 時間	
8	太田ほか担当教員	赤筋と白筋	予習：赤筋と白筋の違いなど 復習：配布資料などの確認		1 時間	
9	太田ほか担当教員	筋の作用	予習：肩甲帯、上肢の筋など 復習：配布資料などの確認		1 時間	
10	太田ほか担当教員	視覚①と聴覚	予習：視覚、聴覚の名称と働きなど 復習：配布資料などの確認		1 時間	
11	太田ほか担当教員	視覚②	予習：視覚の伝導路など 復習：配布資料などの確認		1 時間	
12	太田ほか担当教員	脳解剖①（構造、機能局在など）	予習：機能局在など 復習：配布資料などの確認		1 時間	
13	太田ほか担当教員	脳解剖②（大脳辺縁系など）	予習：辺縁系の名称と機能など 復習：配布資料などの確認		1 時間	
14	太田ほか担当教員	伝導路	予習：脊髄（上行路、下行路）の名称など 復習：配布資料などの確認		1 時間	
15	太田ほか担当教員	今後の授業についてオリエンテーション	予習：特になし 復習：配布資料の確認		1 時間	
16	太田ほか担当教員	細胞と組織	予習：細胞と組織 復習：配布資料の確認		1 時間	
17	太田ほか担当教員	心臓	予習：心臓の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
18	太田ほか担当教員	動脈	予習：動脈の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
19	太田ほか担当教員	静脈とリンパ	予習：静脈、リンパの解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
20	太田ほか担当教員	消化器①	予習：消化器系の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
21	太田ほか担当教員	消化器②	予習：消化器系の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
22	太田ほか担当教員	これまでのまとめ	予習：これまでのまとめ 復習：配布資料の確		1 時間	
23	太田ほか担当教員	腎臓	予習：腎臓の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
24	太田ほか担当教員	内分泌①	予習：視床下部や下垂体前葉などの解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
25	太田ほか担当教員	内分泌②	予習：女性の性周期に関する解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
26	太田ほか担当教員	内分泌③	予習：膵臓、甲状腺、副甲状腺などの解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
27	太田ほか担当教員	生殖器系	予習：生殖器の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
28	太田ほか担当教員	自律神経系	予習：自律神経系の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
教 科 書		・カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで、E.H マティーン他著、井上貴央監訳、西村書店 ・標準理学療法作業療法学 専門基礎分野 生理学第 6 版 岡田隆夫編、医学書院 ・基礎から学ぶ 解剖学ノート 第 3 版 中島雅美編、医歯薬出版				
参 考 書		授業中に紹介する				
備 考		特になし				

2020～2024 年度入学者用カリキュラム (作業療法学専攻)

科 目 名	ボランティア探求			担 当 者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	102011207				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	1124
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・通年
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	90 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 一年次に地域活動・ボランティアの科目を受講した学生を対象に、系統別ボランティア実践者からのレクチャー及びボランティアの実践実習を行い、それまでの講義・実習を受けて、ワークショップ及び実践実習で得たスキルを報告する 【課題等のフィードバック方法】 実際にボランティア活動を行うことで、社会的課題・検証についても学ぶことができる 【履修上の注意・予習・復習について】 事前に行われるレクチャーを参考に実践実習で求められる活動内容を把握しておくこと また、損害保険の適用を前提とするため、事前に担当教員（単位認定者）へ届出すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会の仕組みを色々な角度から学ぶことで、社会的な視野が拡大すると共に社会的な信用が得られる 一年次の地域活動ボランティアの科目で培われたコミュニケーション能力の向上及び地域活動への理解が深くなる 【実務家教員担当科目】 系統別ボランティア実践者からのレクチャー及び各施設等でのボランティアの実践実習を行う					
授 業 計 画					
1. ボランティア活動講座 講義Ⅰ 基礎講座（一年次の講座の確認） 講師：本学専任教員 講義Ⅱ～Ⅵ 系統別実践者からのレクチャー（講義・演習等） 講師：外部講師 環境系・福祉系（高齢・障害者・母子・児童福祉） ・生涯学習系・地域振興系 2. ボランティア活動実践実習 講義Ⅱ～Ⅵから1・2箇所選択し、都合10時間程度の実習を行い、実習活動報告書（レポート）を提出 3. ボランティア活動総括 ・それまでの講義・実践実習活動に関するワークショップ（連講2コマ） ・実践活動の報告会（1コマ）					
教 科 書	使用しない、必要に応じて資料を配布				
参 考 書	講義時に必要に応じて紹介				
備 考	実践実習を伴うため、事業日以外の日程で実施する場合もあり、特に土日、夏季・冬季の休業期間を充てることも多く、また夜間の活動も含めて考慮すること				

科 目 名		基礎数学		担 当 者	伊藤 朋幸	
科目ナンバリング		1020212011			非常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 大学新入生のための数学入門の第 4, 5, 7 章の内容（指数関数、対数関数、微分）について学習する。今後の専門科目を学ぶために最低限必要な数学を学習する。		【課題等のフィードバック方法】 課題（レポート）は提出後、点検して早めに返却する。提出された課題の出来具合を見て解説が必要と思われる部分については、適宜授業の中で解説する。				
【学習の到達目標】 数学的なものの考え方や今後の勉強に必要な数学的処理を身に付けることができる。		【履修上の注意・予習・復習について】 数学はこれから学ぶ様々な学問の基礎である。講義を通して、数学的な考え方や知識の整理の仕方を学ぶ。				
【成績評価方法】 定期テスト（70％程度）および、提出課題（30％程度）で総合的に評価する。		【受講して得られる効果・メリット、その他】 これから学ぶ専門科目の基礎となる数学的なものの考え方を学ぶことができる。				
		【実務家教員担当科目】 学校現場における教員経験を活かして、授業内容をかみくだいて説明し指導する。				
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	伊藤 朋幸	ガイダンス 指数と指数法則	シラバスをしっかりと読み、授業概要を確認しておくこと。指数法則について、高校の教科書を確認してくる。授業後は問題演習を通して理解を深めること。		4 時間	
2	伊藤 朋幸	指数の拡張。指数法則を利用した計算。	累乗根、指数の拡張について高校の教科書を確認してくる。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
3	伊藤 朋幸	指数関数とグラフ、その特徴と性質。	指数関数のグラフについて、高校の教科書を調べてくる。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
4	伊藤 朋幸	ネピア数について。指数から対数への導入。	指数関数とそのグラフについての総合演習。これまでの授業の内容をしっかりと復習してくる。授業後は問題演習を通して理解を深めること。		4 時間	
5	伊藤 朋幸	対数の定義と対数公式。対数公式を利用した計算問題。	対数とは何かを調べてくる。できれば指数との関係を調べる。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
6	伊藤 朋幸	対数法則とそれを利用した、対数の計算。	対数法則を利用した計算練習をするので、前の時間の授業をしっかりと復習して臨むこと。授業後は充分問題演習をすること。		4 時間	
7	伊藤 朋幸	底の変換公式。自然対数とは。常用対数表を作る。	底の変換公式について調べてくる。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
8	伊藤 朋幸	対数関数とそのグラフ	対数関数のグラフについてしっかりと復習しておくこと。授業後はなるべくたくさん問題演習をすること。		4 時間	
9	伊藤 朋幸	平均変化率と微分係数の定義およびその問題演習。	微分係数とは何かを調べておく。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
10	伊藤 朋幸	導関数の定義と問題演習。	導関数とは何かを調べておく。前回の復習をしっかりとやって授業に臨むこと。授業後は問題演習を通して理解を深めること。		4 時間	
11	伊藤 朋幸	微分の公式とそのもんだい問題演習。接線の方程式。	微分の基本公式と性質について調べておく。しっかりと予習をして授業に臨むこと。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
12	伊藤 朋幸	積・商の微分公式とその演習	積・商の微分公式について調べておく。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
13	伊藤 朋幸	関数の増減とそのグラフ	微分の図形的な意味を確認し授業に臨むこと。授業後は問題演習を通して理解を深めること。		4 時間	
14	伊藤 朋幸	総合問題演習	微分の総合演習なので、疑問点を持って授業に臨み疑問点を解決すること。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
教 科 書		「大学新入生のための数学入門」石村園子著 共立出版（株）				
参 考 書		1. 高校で学んだ教科書 2. 「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版（株）				
備 考		授業を受ける前に該当する項目についてしっかりと教科書を読んで復習し、授業に臨んでほしい。				

科 目 名		英語Ⅱ		担 当 者	馬内 里美	
科目ナンバリング		1020212021			常勤	
D	P	1,4		教 員 研 究 室	1229	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・通年	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 コミュニケーション能力をさらに伸ばすことを目指し、以下のことを行う。 ・Listening/Speaking：聞き取り、会話活動を中心に、様々な状況で使われる英語表現力を高める。プレゼンテーション課題もある。 ・Reading/Writing：英文読解力を高めながら、実用に即した語彙力、文法力、英作文能力の強化を図る。 【学習の到達目標】 ・リーディング、ライティング、グループディスカッションを通して、理論立てて説明する方法を学ぶとともに、批判的思考方法を身につける。 ・語彙力を強化する。 ・異文化における価値観や行動様式の多様性を学ぶ。 【成績評価方法】 授業内での課題 40%、授業外での課題 20%、テスト 40%、 【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・出席を重視する。 ・教科書・辞書を持参すること。電子通信機器の使用を禁ずる。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 実践的な英語授業を通して、日常生活からビジネスの場まで対応できる英語基礎運用能力を高められる。 【実務家教員担当科目】 該当者なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間 予習・復習 学修時間			
1	馬内 里美	オリエンテーション	テキストの目次を読み、教科書全体の内容を把握しておく。授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
2	馬内 里美	大意把握から重要語句の確認（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
3	馬内 里美	大意把握から重要語句の確認（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
4	馬内 里美	大意把握から重要語句の確認（3）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
5	馬内 里美	クリティカルリーディングとイディオムの習得（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
6	馬内 里美	クリティカルリーディングとイディオムの習得（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
7	馬内 里美	クリティカルリーディングとイディオムの習得（3）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
8	馬内 里美	情報収集、下書き、訂正、編集のライティングプロセスに慣れる（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
9	馬内 里美	情報収集、下書き、訂正、編集のライティングプロセスに慣れる（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
10	馬内 里美	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
11	馬内 里美	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
12	馬内 里美	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習（3）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
13	馬内 里美	ビジネス英語の構文と表現	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
14	馬内 里美	まとめ	授業で分からなかった部分について教員への質問を考えておく。理解できなかった箇所は重点的に勉強し直す。 1 時間			
15	馬内 里美	オリエンテーション 前期の復習	予習：前期の学習内容の復習をする。 復習：重要ポイントを勉強し直す。 1 時間			
16	馬内 里美	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
17	馬内 里美	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
18	馬内 里美	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる（3）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
19	馬内 里美	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
20	馬内 里美	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
21	馬内 里美	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める（3）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
22	馬内 里美	言い換え（パラフレーズ）のコツ（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
23	馬内 里美	言い換え（パラフレーズ）のコツ（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
24	馬内 里美	受動的ではなく、能動的に聴く方法（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
25	馬内 里美	受動的ではなく、能動的に聴く方法（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
26	馬内 里美	受動的ではなく、能動的に聴く方法（3）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
27	馬内 里美	フォーマル、インフォーマルな表現と用法	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。 1 時間			
28	馬内 里美	まとめ	授業で分からなかった部分について教員への質問を考えておく。理解できなかった箇所は重点的に勉強し直す。 1 時間			
教 科 書		Campus English（センゲージラーニング）				
参 考 書		適宜指示する。				
備 考		9 万語以上の単語を収録した「ジーニアス英和辞典」（大修館）か、それと同等レベルの辞書・電子辞書を用意すること。				

科 目 名	憲法と法律			担 当 者	淡路 智典
科目ナンバリング	1020212027				常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	1224
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 憲法とは国の根幹を定める法律である。この授業では憲法の基本的な内容を扱う憲法総論、国家によっても侵害されることのない個人の権利を扱う人権論、国家の基本的な仕組みをさだめる統治機構論をそれぞれ見ていく。できるだけ学生に身近な話題を絡めつつ、憲法の基本的な考え方や条文解釈を説明していく。				【課題等のフィードバック方法】 授業の疑問点を Google classroom に書いてもらい、次の回の授業の冒頭で回答する。	
【学習の到達目標】 憲法という国家の根本法について基礎的な概念を理解し、基本的人権や統治機構のあり方に関して、自己の見解を持てるようにする。				【履修上の注意・予習・復習について】 スライドを授業前に確認し、わからない法律用語の予習。他の受講生の迷惑になることはしないこと。	
【成績評価方法】 期末試験の点数に平常点を加味して決定する。 内訳：期末試験 80%、小テスト 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 憲法に対する理解を深めることによって、憲法改正をはじめとする具体的な憲法問題に関して、主体的に考えられるようになる。個人の侵害されてはならない基本的人権を理解することにより、社会問題に関して一層深く理解することができるようになる。また一票を持つ主権者として必要な知識と自覚を得ることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	淡路 智典	ガイダンス・憲法とは	シラバスの内容確認・教科書（判例集）の読み方を理解する	4 時間
2	淡路 智典	憲法概説	スライドを授業前に確認し、憲法の全体像を掴む	4 時間
3	淡路 智典	幸福追求権と法の下での平等	判例を参考にして、包括的基本権や平等権について理解する	4 時間
4	淡路 智典	精神的自由権（内心の自由）	判例を参考にして、思想・良心の自由や信教の自由について理解する	4 時間
5	淡路 智典	精神的自由権（表現の自由）	判例を参考にして、表現の自由の重要性や限界について理解する	4 時間
6	淡路 智典	経済的自由権	判例を参考にして、職業選択の自由や財産権について理解する	4 時間
7	淡路 智典	人身の自由	判例を参考にして、刑事事件で保障される権利等について理解する	4 時間
8	淡路 智典	国務請求権と参政権	判例を参考にして、裁判を受ける権利や参政権について理解する	4 時間
9	淡路 智典	社会権	判例を参考にして、生存権や教育を受ける権利、労働基本権について理解する	4 時間
10	淡路 智典	権力分立の原理と国会	政治思想や歴史的経緯を参考にして、三権分立の概念を理解する	4 時間
11	淡路 智典	内閣	法制度を参考にして、公務員制度を理解する	4 時間
12	淡路 智典	裁判所	法制度を参考にして、裁判や裁判制度について理解する	4 時間
13	淡路 智典	天皇制、平和主義	憲法の条文を参考に、象徴天皇制や平和主義について理解する	4 時間
14	淡路 智典	憲法の保障	憲法の理念を参考に、硬性憲法について理解する	4 時間
教 科 書		岡田順太 / 淡路智典 / 今井健太郎 編『判例キーポイント憲法』（成文堂、2020 年、ISBN：978-4-7923-0666-3）		
参 考 書		芦部信喜『憲法（第 8 版）』（岩波書店、2023 年、ISBN：9784000616072）		
備 考		特になし。		

科 目 名	文化人類学			担 当 者	瀬川 昌久
科目ナンバリング	1020212028				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人類の文化・社会の多様性と普遍性に関する総合的研究分野である文化人類学について概説を行い、異文化理解のための基礎的な枠組みを提供することを目指す。				【課題等のフィードバック方法】 特に必要ない。	
【学習の到達目標】 人類の文化・社会の普遍性と多様性を理解するため、文化人類学の基礎概念と方法論的特色について一定程度理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 特に必要ない。	
【成績評価方法】 試験による。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ノートを丹念にとること。場合によってノートの提出を求めることもある。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	
授 業 計 画					
1. 方法論／基礎概念 2. 採集狩猟民社会（1） 3. 採集狩猟民社会（2） 4. 牧畜民社会（1） 5. 牧畜民社会（2） 6. 農耕民社会（1） 7. 農耕民社会（2） 8. 環境適応と文化 9. ジェンダーと生殖（1） 10. ジェンダーと生殖（2） 11. 親族関係（1） 12. 親族関係（2） 13. 家族 14. 社会組織の日・中比較 15. 民族とアイデンティティー ※授業計画は適宜変更する。					
教 科 書		「文化人類学を学ぶ人のために」 米山俊直・谷泰編 世界思想社			
参 考 書		必要な場合は教室で指示する。			
備 考		文化人類学はすぐに何かに役に立つような学問ではない。即効的なスキルのみを求める者には勧めない。			

科 目 名		日本・東北文化論		担 当 者	栗原伸一郎	
科目ナンバリング		1020212029			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 現在、私たちが生活している東北や仙台は、どのように形成されたのだろうか。東北や仙台は日本のなかでいかなる立場を占め、歴史的・文化的にどのような足跡を残してきたのだろうか。また、それらを明らかにするためには、どのような活動が必要になるのだろうか。本講義では、以上の問題に迫ることを通じて、地域の歴史・文化について考えてみたい。						
【学習の到達目標】 ①東北や仙台の歴史・文化について関心を持ち、理解することができる。 ②地域の歴史・文化を継承する活動について関心を持ち、理解することができる。 ③上記を自分に関わる事柄として受け止め、意味を考えることができる。						
【成績評価方法】 ①毎回提出するコメント 30%（記入内容から理解度と受講態度を評価する。出席点ではない。） ②定期試験 70%（試験内容は事前に通知する）						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	栗原伸一郎	講義の概要	東北地方や仙台の歴史で興味がある分野や人物について、自分で調べてみる。		4 時間	
2	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化①戦国時代と伊達政宗	東北地方の戦国時代や政宗の行動を調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
3	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化②城下町・仙台	仙台城址を見学するとともに、配布プリントを再読する。		4 時間	
4	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化③杜の都・仙台	『仙台市史』の該当部分に目を通し、配布プリントを再読する。		4 時間	
5	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化④伊達政宗と現代	書籍やインターネット等で政宗について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
6	栗原伸一郎	仙台藩士の異文化体験①蝦夷地	江戸時代までの東北や北海道の歴史を調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
7	栗原伸一郎	仙台藩士の異文化体験②アメリカ	『仙台市史』で玉虫左太夫について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
8	栗原伸一郎	幕末維新と東北地方①江戸時代の東北	自分の出身地の藩について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
9	栗原伸一郎	幕末維新と東北地方②幕末維新の動乱	『仙台市史』等で戊辰戦争の大まかな流れを確認し、配布プリントを再読する。		4 時間	
10	栗原伸一郎	幕末維新と東北地方③奥羽越列藩同盟	『仙台市史』等で奥羽越列藩同盟について理解を深め、配布プリントを再読する。		4 時間	
11	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承①歴史資料にみる仙台	『仙台市史』（資料編）に目を通し、配布プリントを再読する。		4 時間	
12	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承②歴史資料の現在	自分の出身地にある歴史資料・文化財について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
13	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承③NPOと資料保存	現在住んでいる地域にある歴史資料・文化財について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
14	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承④災害と資料保存	日本各地の災害と歴史資料・文化財の関係について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
教 科 書		なし。プリントを配布する。				
参 考 書		『仙台市史』（通史編）。その他、授業のなかで紹介する。				
備 考		高校の歴史の授業と内容が異なるので「日本史」を学んでいなくとも履修可能。授業の進展等によって内容が一部変更になる場合がある。				

科 目 名	日本近代史			担 当 者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	1020212030				常勤
D P	1,4			教員研究室	1124
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 日本が 1854 年の開国以来、明治維新を経て欧米列国と肩を並べていくまでの日本近代史について世相史（医学史・公衆衛生史等含）を交えて解説していく				【課題等のフィードバック方法】 講義に関する史資料の把握及びニュース・報道等を参考にすることで実社会への対応力の醸成を希望	
【学習の到達目標】 その時代時代の事件・事象が社会に及ぼした影響について学ぶことで、将来起こり得ると考えられる事象への洞察力を養う				【履修上の注意・予習・復習について】 講義は授業毎のレジュメと P.P. 資料により行う なお、エクスカッションを実施（必須）するが、時間割とは別に土曜日等の授業日以外となるので、予め承知すること	
【成績評価方法】 受講記録やレポートの提出（2 回程度）を求め、その内容で評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 実社会に出た後に時代の変化に惑わされない感覚を養うが出来る	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
1. 授業概要の指示と歴史学の基礎の把握 2. 近代日本の夜明け（近代日本の出発点） 3. 明治政府の成立と戊辰戦争 4. 明治初期の政治機構と社会情勢 5. 自由民権運動から国会開設まで 6. 日本における災害の歴史 7. 公衆衛生と医療 8. 近代日本の文化Ⅰ（明治時代の文化を中心に） 9. 日清戦争から日露戦争へ（近代日本の確立と帝国主義への参入） 10. 近代日本の文化Ⅱ（メディアの発達と近代文学から見た社会） 11. 大正デモクラシーの時代（大正浪漫と世相史） 12. 近代日本の文化Ⅲ（大正の浪漫文化について） 13. 昭和前期の混乱の時代（関東大震災から十五年戦争まで） 14. エクスカッション（山形市郷土館：旧済生館本館）					
教 科 書	エクスカッション（1 回）を除き、毎回レジュメと P.P. 資料を使用				
参 考 書	別途指示する				
備 考	エクスカッションを実施するにあたり、これは授業日ではなく土日等となるので、予め承知すること				

科 目 名		健康科学		担 当 者	○未定・古林 俊晃	
科目ナンバリング		1020212031			常勤	
D P		1,4		教員研究室	1203	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 身体運動を伴う生活場面や肉体労働はますます減少し、生活の利便化、快適化と引き替えに、人間は体力の減退、肥満等の生活習慣病に悩まされることになった。本講義では、今後必要となる自己の健康管理方法に必要な基本的な内容を運動（スポーツ）、疾病、栄養等の側面からわかりやすく講述する。						
【学習の到達目標】 ・健康の維持・増進のために必要な知識を身につけ、生活習慣病などの予防法について理解を深め、実践できるようになる。 ・スポーツが身体に与える影響を身・心・社会の側面から理解する						
【成績評価方法】 成績は、定期試験（80％）、レポート（20％）により評価する。試験規定により 2/3 以上の出席がなければ定期試験を受けられないので留意すること。						
【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 ・振り返りを提出すること ・遅刻は本人の責めに帰さない理由以外は認めない。 ・具合が悪いなど、やむを得ず教室を退出する場合は教員の確認を取ること ・授業態度の悪い学生は退室させる。この場合欠席扱いとする。スマートフォンの使用、食事は禁止とする。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・スポーツへの関心を高められる ・生涯にわたる自身の健康管理の知識と方法を身につけ、実践できるようになる。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	古林 俊晃	ガイダンス：人間らしさとは	健康に関する内容を確認しておくこと	4 時間
2	古林 俊晃	人体の構造と機能：動物的機能（骨格筋と神経系）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出	4 時間
3	古林 俊晃	人体の構造と機能：動物的機能（感覚器系と高次脳機能）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出	4 時間
4	古林 俊晃	人体の構造と機能：植物的機能（栄養とエネルギー）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出	4 時間
5	古林 俊晃	人体の構造と機能：植物的機能（恒常性）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出	4 時間
6	古林 俊晃	健康：健康と死の考え方	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出	4 時間
7	古林 俊晃	前半の総括 中間試験①	ここまでの内容の振り返りをする。	4 時間
8	古林 俊晃	加齢：発育発達と老化	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出	4 時間
9	古林 俊晃	トレーニング理論：体力について	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出	4 時間
10	古林 俊晃	トレーニング理論：トレーニングと障害	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出	4 時間
11	古林 俊晃	スポーツ心理学：運動学習	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出	4 時間
12	古林 俊晃	スポーツとメンタル：スポーツの精神的影響	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出	4 時間
13	古林 俊晃	スポーツ倫理学：健全なスポーツとは	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出	4 時間
14	古林 俊晃	後半の総括 中間試験②	ここまでの内容の振り返りをする	4 時間
教 科 書		毎回資料を配布する		
参 考 書		健康・スポーツ科学の基礎知識（第3版）、道和尚院イラスト「アダプテッド・スポーツ概論」東京教学社		
備 考		授業の進捗により講義内容の調整を行う場合がある		

科 目 名	教育学 I			担 当 者	三塚 明彦						
科目ナンバリング	1020212032				非常勤						
D P	3,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室						
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期						
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位						
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし										
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない						
【授業内容】 社会の急激な変化に伴い、学校教育をはじめ学ぶ人をいかに導いていくか教育の方法が大きく変わろうとしている。現代教育の課題を把握し、教育学の視点からこれからの学びの方法について考えるとともに現代抱えている社会問題をどう解決するか考察する。 【学習の到達目標】 現代の教育が抱える問題の実態を把握し、解決方法を自分の言葉で述べることができる。 【成績評価方法】 毎回授業中に作成する課題（600 字程度）の内容で評価する。						【課題等のフィードバック方法】 次回の授業で前回提出された課題について講評する。 【履修上の注意・予習・復習について】 毎回、授業のテーマについて講義後に課題を作成し提出してもらう。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代の教育課題について、その実態を把握することができ、その解決方法について自分の考えをまとめることができる。また、現代の社会問題についても確認することができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画											
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間								
			予習・復習		学修時間						
1	三塚 明彦	オリエンテーション	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
2	三塚 明彦	教員不足について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
3	三塚 明彦	少子高齢化と教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
4	三塚 明彦	教育格差について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
5	三塚 明彦	特別支援教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
6	三塚 明彦	いじめ問題について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
7	三塚 明彦	不登校、ひきこもりについて	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
8	三塚 明彦	偏差値重視教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
9	三塚 明彦	ICT 教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
10	三塚 明彦	日本型雇用について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
11	三塚 明彦	主権者教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
12	三塚 明彦	社会教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
13	三塚 明彦	平和教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
14	三塚 明彦	これからの教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間						
教 科 書	PowerPoint で資料提示し、適宜必要に応じて資料を配布する。										
参 考 書	授業中に紹介する。										
備 考	なし										

科 目 名		教育学Ⅱ		担 当 者	一柳 貴博	
科目ナンバリング		1020222033			非常勤	
D	P	3,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 不登校やいじめ、精神的不調、障がい等の教育課題をとりあげ、心理学の知見を踏まえた支援方法について学ぶ。また、障がいの有無にかかわらず誰もが生きやすい学校や社会の実現に向けた支援についても考える。						
【課題等のフィードバック方法】 毎回の振り返りコメントの際に授業の感想や質問を受け付け、次の授業の時にそのフィードバック（質問の回答等）を行う。						
【学習の到達目標】 ①心理学的支援について理解し、説明することができる。②様々な教育課題とその支援について理解し、説明することができる。③誰もが生きやすい学校や社会に向けた支援について考え、自らの意見をまとめることができる。						
【履修上の注意・予習・復習について】 授業の中で、授業内容に関するディスカッションやグループワークを行う。積極的に授業に参加すること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 心理学的支援の方法や多様な子どもたちの姿を知ることができるとともに、学校や社会の在り方について多面的に考える視点を得ることができる。						
【成績評価方法】 毎回の授業中の振り返りコメント（100%）により評価する。評価の基準等については授業内で紹介する。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	一柳 貴博	イントロダクション：子どもたちを取り巻く様々な教育課題	予習：子どもたちを取り巻く様々な教育課題を調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、子どもたちを取り巻く教育課題をまとめる。		4 時間	
2	一柳 貴博	心理学的支援 1：子どもとの関係形成	予習：他者と信頼関係を築くにはどうすると良いかを考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、子どもを含む他者との信頼関係を築く方法をまとめる。		4 時間	
3	一柳 貴博	心理学的支援 2：アセスメント	予習：心理学的支援におけるアセスメントの方法を調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、心理学的支援においてどんなアセスメントの方法があるかをまとめる。		4 時間	
4	一柳 貴博	心理学的支援 3：様々な心理的アプローチ	予習：様々な心理的アプローチについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、様々な心理的アプローチの方法をまとめる。		4 時間	
5	一柳 貴博	教育課題と支援 1：不登校、いじめ	予習：不登校やいじめに関する課題と支援について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、不登校やいじめに関する課題と支援についてまとめる。		4 時間	
6	一柳 貴博	教育課題と支援 2：児童虐待、子どもの貧困	予習：児童虐待や子どもの貧困に関する課題と支援について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、児童虐待や子どもの貧困に関する課題と支援についてまとめる。		4 時間	
7	一柳 貴博	教育課題と支援 3：精神的不調を抱える子どもへの支援	予習：精神的な不調について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、精神的不調の内容とその支援方法をまとめる。		4 時間	
8	一柳 貴博	教育課題と支援 4：発達障がいのある子どもへの支援	予習：発達障がいについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、発達障がいの内容とその支援方法をまとめる。		4 時間	
9	一柳 貴博	教育課題と支援 5：様々な障がいのある子どもへの支援	予習：自分が関心のある障がいについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、様々な障がいの内容とその支援方法をまとめる。		4 時間	
10	一柳 貴博	教育課題と支援 6：多様なニーズのある子どもへの支援	予習：多様なニーズのある子どもについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、多様なニーズのある子どもの支援方法をまとめる。		4 時間	
11	一柳 貴博	誰もが生きやすい学校や社会に向けて 1：インクルーシブ教育と共生社会	予習：インクルーシブ教育と共生社会について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、インクルーシブ教育と共生社会の内容と課題をまとめる。		4 時間	
12	一柳 貴博	誰もが生きやすい学校や社会に向けて 2：障がいとは	予習：障がいとは何かを考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、障がいとは何かについて自分の考えを深める。		4 時間	
13	一柳 貴博	誰もが生きやすい学校や社会に向けて 3：子どもたちの関係形成	予習：多様な子どもたちが良好な関係を築くためにはどうしたら良いかを考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、多様な子どもたちの関係形成に向けた支援について自分の考えを深める。		4 時間	
14	一柳 貴博	まとめ：多様な子どもたちへの支援	予習：これまでの授業を振り返り、心理学的支援や様々な教育課題についてまとめる。 復習：これまでの授業を振り返り、誰もが生きやすい学校や社会に向けた支援についての自分の考えをまとめる。			4 時間
教 科 書		教科書は指定しない。適宜プリントを配布する。				
参 考 書		授業の中で指示する。				
備 考		特になし。				

科 目 名		地球の科学		担 当 者	千葉 一	
科目ナンバリング		1020222034			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 人類は経済活動を優先するあまり、環境や気候変動の問題を放置して来た。しかしその人類の生態は、大きな転換を迫られている。本講義では、人間の活動が地球環境にどのような影響を与えているのかについて、特に地球温暖化を中心に解説して行く。また、そうした諸問題解決のための思考を深めて行く。 【学習の到達目標】 環境破壊や環境問題を正しく理解することで、人間の過剰性の認知と環境へのグローバルな倫理観を養う。 【成績評価方法】 定期試験による評価と提出物（講義中）で総合評価とする。 評価比率：定期試験 70％・提出物 30％。 【課題等のフィードバック方法】 提出物やレポートの総括講評を、次の授業で行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業進行に支障をきたす場合は退出してもらう。授業計画のトピックを参考に資料など情報収集しつつ、授業に臨む。復習を怠らない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 人類の生命活動のみが大切なのではなく、この地球の営みの中で共に生きる生命活動があって、この地球が存在している。気象や地殻の諸現象や多種多様な生命の絡み合いを理解し、それぞれの存在価値を正しく認識することは、未来の健全な「地球コミュニティ」の在り方にとって必須と考える。 【実務家教員担当科目】 3.11 震災復興に関連した環境破壊やコミュニティ開発を研究しつつ、自然再生活動や社会開発を実践している教員が、地球規模の環境問題について、自然科学と人文科学の枠を超えて講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	千葉 一	授業の進め方を説明する。 人間という種の特異性と環境問題	自己の生活と環境問題の関連を再考する。次回学習内容を予習。		4 時間	
2	千葉 一	カーボン・サイクルと石灰岩	炭酸カルシウム形成過程を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間	
3	千葉 一	化石燃料：炭素の固定と解放	その固定と解放の時間差を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間	
4	千葉 一	海洋酸性化と生態系サービス	酸性化メカニズムを理解する。次回学習内容を予習。		4 時間	
5	千葉 一	森のネットワークと生物多様性	森林の社会性を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間	
6	千葉 一	砂漠化と多種共生	多自然主義を理解する。次回学習内容を予習。		4 時間	
7	千葉 一	復習と要点・疑問点の整理	6 回の講義内容を理解・整理し、小論文的にまとめる。		4 時間	
教 科 書		特になし。資料を適宜配布する。				
参 考 書		清水美香（編著）2023『レジリエンスーよみがえる力ー森・風景・地域・人の交差の中で』, 日本評論社. 原慶太郎ほか（編著）2021『自然と歴史を活かした震災復興ー持続可能性とレジリエンスを高める景観再生』, 東京大学出版会.				
備 考		国家試験等の関連で欠席する場合は、予め申し出ること。				

科 目 名	哲学			担 当 者	高山 馨
科目ナンバリング	1020222035				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 哲学および倫理学がどのような営みなのかを知ことは、時として自らのふるまいを変えることにもつながります。本講義では、主に生命と医療・技術にかかわる哲学的、倫理的、社会的な問題を学ぶことで、医療者としての社会的自己について考えていきます。				【課題等のフィードバック方法】 毎回アンケートを取り、講義内で質問に答える。	
【学習の到達目標】 (1) 哲学および倫理学の基礎知識、それらが用いる方法についての基礎知識を身につける。(2) 哲学的小および倫理的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 適宜復習し、講義内で紹介された参考文献にあたることが望ましい。	
【成績評価方法】 アンケートへの回答、課題提出：60%、期末試験：40%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 生命や医療・技術にかかわるさまざまな問題を理解することは、医療の世界へと進む人の自己形成にとって有益と思います。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	高山 馨	イントロダクション：哲学および倫理学とは何か	〈予習〉シラバスと配布資料を一読する。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。	4 時間
2	高山 馨	価値と幸福について（1）	〈予習〉配布資料を一読し、価値や道徳は人それぞれなのかを考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。	4 時間
3	高山 馨	価値と幸福について（2）	〈予習〉配布資料を一読し、幸福とは何かを考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。	4 時間
4	高山 馨	生の始まりと終わりについて（1）	〈予習〉配布資料を一読し、人生に意味はあるのか、あるとしたらそれは何かを考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。	4 時間
5	高山 馨	生の始まりと終わりについて（2）	〈予習〉配布資料を一読し、死ぬことはその人にとって悪いことなのかを考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。	4 時間
6	高山 馨	医療・技術と責任について（1）	〈予習〉配布資料を一読し、医薬品のための動物実験について考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。	4 時間
7	高山 馨	医療・技術と責任について（2）	〈予習〉配布資料を一読し、医療者としての倫理と社会的責任について考えておく。 〈復習〉これまでの講義内容を整理して理解する。	4 時間
教 科 書		プリントを配布するので、教科書は不要です。		
参 考 書		講義内で適宜紹介します。		
備 考		特になし。		

科 目 名	生活と経済			担 当 者	開講時指示
科目ナンバリング	1020222036				
D P	1,4			教員研究室	
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 【課題等のフィードバック方法】 【学習の到達目標】 【履修上の注意・予習・復習について】 【成績評価方法】 【受講して得られる効果・メリット、その他】 【実務家教員担当科目】 ※開講時に指示します。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1				4 時間	
2				4 時間	
3				4 時間	
4				4 時間	
5				4 時間	
6				4 時間	
7				4 時間	
8				4 時間	
9				4 時間	
10				4 時間	
11				4 時間	
12				4 時間	
13				4 時間	
14				4 時間	
教 科 書					
参 考 書					
備 考					

科 目 名	ジェンダー論			担 当 者	妙木 忍
科目ナンバリング	1020222037				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この授業では、ジェンダーの視点から社会を考察する。ジェンダー研究の蓄積を紹介するとともに、家族、労働、法など身近な論点を取り上げながら社会の考察を深める（主に日本社会を対象とする）。この授業を通して、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにすればよいのかを、ともに考えていく。 【学習の到達目標】 (1) ジェンダーの概念を理解する。(2) ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。 【成績評価方法】 レスポンス・カードの提出（30%）、課題（30%）、論述試験（40%）により評価する。 【課題等のフィードバック方法】 毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出していただき、質問やコメントを受け取る。その内容を、次の回の冒頭で紹介し、フィードバックをおこなう。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中に伝える。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 自分の問題関心にそって問いを立て、それを解くことができる力を身につけることも目指すため、社会を読み解く力と自分の問いを解く楽しさが得られる。また、社会を相対化する視点や、私たちがいま生きている時代や社会を分析する力が得られる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	妙木 忍	ジェンダーとは何か	レジュメを復習する。ジェンダーの概念が理解できたかどうかを点検する。		4 時間
2	妙木 忍	家族とジェンダー	レジュメを復習する。近代家族の概念などについて理解できたかどうかを点検する。		4 時間
3	妙木 忍	労働とジェンダー	レジュメを復習する。配布プリントの中から、労働環境に関するデータの一つ選んで詳しく検討する。		4 時間
4	妙木 忍	法とジェンダー	レジュメを復習する。関心のある法律と一つ選んで考察する。		4 時間
5	妙木 忍	ユニバーサルデザインとジェンダー	レジュメを復習する。身近な事例の一つ取り上げて考察する。第 6 回で取り上げる東大祝辞（2019 年）を読んでくる（予習）。		4 時間
6	妙木 忍	東大祝辞（2019 年、上野千鶴子さん）を読む	ポイントを復習する。授業中に検討した内容をまとめること。		4 時間
7	妙木 忍	まとめ	これまでの学びをまとめる。		4 時間
教 科 書		指定しない。レジュメを配布する。			
参 考 書		授業中に適宜紹介する。			
備 考		特になし。			

科 目 名	政治学			担 当 者	王 元
科目ナンバリング	1020222038				常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	1324
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人間は社会的動物である。政治は人間の社会的利害を調整するしくみである。人々が生活する社会における秩序を形成し、維持し、修正し、また時には破壊することを通じて実行される活動と手段である。 政治学は古代ギリシアに誕生して以来、長い歴史を刻んできた。しかし、政治行動の判断基準や結論には必ずしも法則性があるとはいえない。むしろ、政治を担う人の個性やイデオロギー、感情、さらには偶然性に左右される側面もある。総合的に知識や手法も駆使して最善の政策決定を促すところに、政治学の目的や妙味がある。 政治学の基礎知識と発想方法を解説する。政治学の面白さと大切さを伝え、政治現象一般を把握する視点を身に付けてもらうことがこの講義のねらいである。講義形式を基本とする。ただし適宜ビデオ教材を利用する。 【学習の到達目標】 近代社会の特徴、主たる政治思想の歴史、自由主義と民主主義の思想などについて基本的な知識を習得することをめざす。併せて政治現象への洞察力を高め、政治判断の能力を培いたい。 【成績評価方法】 期末試験（60%）、課題提出や発言・質問など（40%）。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	王 元	ガイダンス：政治学の概念と体系	政治とは何か 政治学とは何		4 時間
2	王 元	国家統治と主権	主権概念の史的経緯 市民社会・国民国家の成立と政治的統合		4 時間
3	王 元	権力、集権と分権	政治集権と中央・地方の権力関係 地方自治の意義・過疎と過密		4 時間
4	王 元	政治参加	選挙の諸原則 代表制と選挙制度		4 時間
5	王 元	官僚制	政治と行政 官僚制の概念と官僚制化		4 時間
6	王 元	代表的な政治体制	議院内閣制、大統領制と党国体制 米国、英国、日本と中国などそれぞれの特徴		4 時間
7	王 元	国際政治	国際政治と国内政治 グローバルゼーション		4 時間
教 科 書	教科書は用いず、適宜プリントを配布する。				
参 考 書	堀江湛・岡沢憲夫編『現代政治学』（法学書院、2011）。				
備 考	日々の新聞を読み、国内と国際政治情勢の把握に努められたい。				

科 目 名		運動学実習		担 当 者	○西澤 哲・高木 大輔 高橋 由美・太田 千尋	
科目ナンバリング		1020322044			常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	3212	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ヒトの運動・動作の身体運動学的メカニズムについて、基本的な計測・分析によって理解する。前半は機能解剖学実習として関節運動の機能解剖を実習する。後半は運動計測実習とその結果を通して運動学的メカニズムを理解する。 【学習の到達目標】 身体運動の原理について、実習をとおして説明出来るようになること 【成績評価方法】 前半部の機能解剖学実習で行う小テストの点数を 50%，後半部の運動計測実習でのレポート 50% で判定する。未提出レポートのある場合は単位を認めない。 【課題等のフィードバック方法】 レポートについてはチェックしたのち返却する 【履修上の注意・予習・復習について】 課題および実験結果をレポートとしてまとめ、提出すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 解剖学Ⅰ，運動制御論で学んだ知識について、実測データで検討することで、より深い知識体系を構築できる 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	西澤	オリエンテーション・運動学で計測するアイテムと目的	講義で説明する「計測すること」についての復習		－	
2	西澤・太田・高木・高橋	体表解剖実習 1	上肢の体表解剖の復習		－	
3	西澤・太田・高木・高橋	体表解剖実習 2	上肢の体表解剖の復習		－	
4	西澤・太田・高木・高橋	体表解剖実習 3	下肢の体表解剖の復習		－	
5	西澤・太田・高木・高橋	体表解剖実習 4	下肢の体表解剖の復習		－	
6	西澤	運動計測の方法について	講義で説明する「計測方法」や「計測器具」についての復習		－	
7	西澤・太田・高木・高橋	運動学実習 1	各実習種目のレポート作成		－	
8	西澤・太田・高木・高橋	運動学実習 2	各実習種目のレポート作成		－	
9	西澤・太田・高木・高橋	運動学実習 3	各実習種目のレポート作成		－	
10	西澤・太田・高木・高橋	運動学実習 4	各実習種目のレポート作成		－	
11	西澤・太田・高木・高橋	運動学実習 5	各実習種目のレポート作成		－	
12	西澤・太田・高木・高橋	運動学実習 6	各実習種目のレポート作成		－	
13	西澤・太田・高木・高橋	運動学実習 7	各実習種目のレポート作成		－	
14	西澤・太田・高木・高橋	運動学実習 8	各実習種目のレポート作成		－	
教 科 書		東北文化学園大学身体運動学実習ノート（学内印刷版） 中村隆一・他編：基礎運動学 第 6 版（医歯薬出版） 藤澤宏幸編：日常生活活動の分析 第 2 版（医歯薬出版）				
参 考 書		必要に応じて授業で提示する				
備 考		運動学実習の詳細については、授業にて説明する				

科 目 名		人間生涯発達学			担 当 者	○本多ふく代・星 孝	
科目ナンバリング		1020322048				常勤	
D P		1,4			教員研究室		3202, 3104
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次		2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 本科目では、人間理解の基礎として、誕生から死に至るまでの発達・退行過程における人の生理的、心理的、社会的推移に関する基礎的な知識を、体系的かつ総合的に学ぶ。前半では、発達理論と成長・成熟に伴う構造と諸機能の発達とそれに影響を与える環境について学び、「人が育つこと」について検討する。 後半の授業では、高齢期の身体機能および生理機能の変化について一般的な状況を確認し、機能的変化を踏まえながら老いることへの不安や精神的な価値観について思考し、「人が年を重ねること」について多面から検討する。 【学習の到達目標】 各発達期の心身の特徴と変化を理解し、説明できる。高齢期に生じる正常な変化を理解し、疾病や障害との関係を説明できる。 【成績評価方法】 授業出席日数が3分の2に満たない場合は、受験資格を有しない。 本多100点と星100点で、2名の合計÷2の点数が科目点となる。60点に満たない場合は不合格とする。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	本多	人間発達総論	教科書の熟読				4 時間
2	本多	胎児期・新生児期／トピック1	教科書の熟読・復習課題プリントの提出				4 時間
3	本多	乳児期／トピック2	教科書の熟読・復習課題プリントの提出				4 時間
4	本多	幼児期前期・後期／トピック3	教科書の熟読・復習課題プリントの提出				4 時間
5	本多	学童期／トピック4	教科書の熟読・復習課題プリントの提出				4 時間
6	本多	青年期・成人期／トピック5	教科書の熟読・復習課題プリントの提出				4 時間
7	本多	前半まとめ／「生き生きとした大人になるためには、どのような育ちのプロセスが大切か？」について考える。	これまでのまとめ、課題発表				4 時間
8	星	身体・生理機能の変化と見方：四肢（筋・骨・皮膚）／若者が思う高齢者像	テーマの予習および講義と配布資料の復習				4 時間
9	星	身体・生理機能の変化と見方：顔（目、耳、口）／高齢者と生きがいについて	テーマの予習および講義と配布資料の復習				4 時間
10	星	身体・生理機能の変化と見方：口腔、嚥下／高齢者を取り巻く医療環境について	テーマの予習および講義と配布資料の復習				4 時間
11	星	身体・生理機能の変化と見方：呼吸／高齢ドライバーについて	テーマの予習および講義と配布資料の復習				4 時間
12	星	身体・生理機能の変化と見方：バイタルサイン／高齢者の自立支援について	テーマの予習および講義と配布資料の復習				4 時間
13	星	身体・生理機能の変化と見方：心臓、腹部／高齢者コミュニティーを考える	テーマの予習および講義と配布資料の復習				4 時間
14	星	「高齢期を生き生きと過ごすために」の方法論や対策思考	テーマの予習および講義と配布資料の復習				4 時間
教 科 書		前半は、大城昌平編集「リハビリテーションのための人間発達学第3版」、メディカルプレス、2021年 後半は、指定する教科書はなく、配布資料とする					
参 考 書		随時紹介する					
備 考		問い合わせ教員：前半本多ふく代、後半星孝					

科 目 名	内部障害系病学			担 当 者	佐藤 秀隆
科目ナンバリング	1020322050				常勤
D P	1,2			教員研究室	1316
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 リハビリテーション医学に関わる内科疾患について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 課題テストを数回予定する。	
【学習の到達目標】 疾病の発生機序を系統的に理解し、それが臨床現場におけるリハビリテーションに役立つようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 携帯使用、私語、飲食は禁止する。座席は前列から埋めること。プリントの配布は速やかに行なうこと。授業内容は予め教科書を読んで来ること。予習なしでは理解困難です。受講後速やかに復習すること。	
【成績評価方法】 出席率 80%以上で定期試験受験可能。30 点満点の課題テストを 2 回合計で 60 点、定期試験 40 点で 100 点満点とし総得点 60 点以上を合格とする。COVID-19 の流行その他で定期試験が不可能と考えられる場合は課題でもって合格判定を行う。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 リハビリテーションの実践に際しては内科疾患の理解は必須であり、内科的思考を会得したうえでリハビリテーションを行なうことができる。	
				【実務家教員担当科目】 リハビリ病棟を有する病院における医師としての経験と知識をもって当該科目を担当する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	佐藤 秀隆	心臓の解剖と生理、心電図	心臓の解剖と生理学を復習すること。心房・心室・心臓弁・肺循環・大循環、特殊刺激刺激伝導系、心収縮期と拡張期、正常心電図		4 時間
2	佐藤 秀隆	虚血性心疾患	狭心症と心筋梗塞の項目を復習してくる。冠動脈の走行、冠動脈硬化症、狭心症の心電図、心筋梗塞の心電図、心筋逸脱酵素		4 時間
3	佐藤 秀隆	心臓弁膜症	心臓弁の解剖の復習、心音のでき方を予習してくる。大動脈圧波形・左室圧波形・左房圧波形、心音図、心電図、心音聴取部位		4 時間
4	佐藤 秀隆	心不全、ショック	右心不全と左心不全の病態ならびに症状の違いを予習してくる。左房圧負荷、左房容量負荷、肺うっ血、肺動脈圧上昇、肺性心、頸動脈怒張、浮腫		4 時間
5	佐藤 秀隆	呼吸器の解剖と生理、肺機能検査	呼吸器の解剖学と生理学を復習してくる。肺葉、肺区域、気管気管支走行、肺血管走行、肺泡と肺毛細血管、換気、拡散、肺循環、肺機能検査		4 時間
6	佐藤 秀隆	呼吸不全、閉塞性ならびに拘束性換気障害	呼吸不全の定義、閉塞性換気障害と拘束性換気障害について予習をしてくる。閉塞性換気障害と高速性換気障害の定義、各々の代表疾患、死腔、拡散障害、換気血流比不均等、急性呼吸不全、慢性呼吸不全		4 時間
7	佐藤 秀隆	呼吸器感染症	肺炎について予習をしてくる。大葉性肺炎、気管支肺炎、非定型肺炎、肺炎の起因菌、グラム染色、誤嚥性肺炎、肺結核、インフルエンザ		4 時間
8	佐藤 秀隆	呼吸器腫瘍、呼吸器疾患と心不全	肺癌について予習をしてくる。肺癌の分類、肺門型肺癌と肺野型肺癌、タバコと肺癌、タバコと慢性閉塞性肺疾患、呼吸器疾患が原因の心不全（肺性心）		4 時間
9	佐藤 秀隆	糖尿病	糖尿病の定義、糖尿病の型、合併症について予習をしてくる。糖尿病の診断、1 型糖尿病と 2 型糖尿病、糖尿病性昏睡、糖尿病性網膜症・腎症・神経障害、低血糖		4 時間
10	佐藤 秀隆	高脂血症、メタボリック症候群	高脂血症の定義、動脈硬化について予習をしてくる。リポ蛋白質、高脂血症の定義、高脂血症 WHO 分類、動脈硬化症と虚血性心疾患・脳血管疾患		4 時間
11	佐藤 秀隆	腎臓の解剖と生理、ネフローゼ症候群	腎臓の解剖とネフロンについて調べてくる。ネフローゼ症候群の定義を予習してくる。腎臓の血管走行、ネフロンの構造、ネフロンの部位による機能、アルドステロン、抗利尿ホルモン、ネフローゼ症候群の定義		4 時間
12	佐藤 秀隆	糸球体腎炎、腎不全	急性および慢性糸球体腎炎、ならびに腎不全の予習をしてくる。急性糸球体腎炎、A 群β溶血性連鎖球菌、予後、慢性糸球体腎炎の原因・経過、急性腎障害と慢性腎疾患、血液透析		4 時間
13	佐藤 秀隆	赤血球疾患、白血球疾患	主な血液疾患について予習をしてくる。主な貧血、白血球疾患、白血病、悪性リンパ腫、凝固・線溶系など		4 時間
14	佐藤 秀隆	感染症分類・治療・予後	感染症分類について（教科書又は厚生省のサイトで）調べてくる。感染症分類ごとの主な疾患。感染症分類に基づいた対応方法		4 時間
教 科 書	なるほどなっとく！内科学改訂第3 版（浅野嘉延編、南山堂）				
参 考 書	生体機能学テキスト（吉岡利忠、内山勝男編、中央法規）				
備 考	特になし				

科 目 名	神経障害系病学Ⅰ			担 当 者	津田 丈秀
科目ナンバリング	1020322051				常勤
D P	1,2			教員研究室	3206
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 神経障害系病学は神経・筋系に生じた病変の診断と治療を行う領域である。診察には主として内科学的な方法が用いられる。神経系の部位によって分担する機能が異なるので、病変により冒された部位が本来分担する機能の障害（症候）が出現する。 神経障害系病学Ⅰでは、主として神経症候と病変部位を結びつける神経症候学を中心に解説し、脳画像、神経生理学的検査などの補助診断方法にも言及する。代表的な神経疾患についても講義する。 尚、施行した講義に関し毎回小試験を施行する。					
【学習の到達目標】 ①臨床的に重要である神経症候を学習し、病変部位との関係を理解する。 ②補助検査の目的を理解する。					
【成績評価方法】 定期試験 60%（点）、小試験・レポート 40%（点）。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	津田 丈秀	脳の構造と脳血管の構造	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
2	津田 丈秀	12 対の脳神経の解剖と生理Ⅰ	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
3	津田 丈秀	12 対の脳神経の解剖と生理Ⅱ	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
4	津田 丈秀	運動、反射、感覚	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
5	津田 丈秀	失語、構音障害	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
6	津田 丈秀	失認、失行	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
7	津田 丈秀	脳梗塞	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
8	津田 丈秀	頭蓋内出血	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
9	津田 丈秀	正常画像	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
10	津田 丈秀	脳梗塞画像	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
11	津田 丈秀	頭蓋内出血画像	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
12	津田 丈秀	パーキンソン病	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
13	津田 丈秀	運動ニューロン疾患（ALS を中心に）	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
14	津田 丈秀	多発性硬化症と視神経脊髄炎	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
教 科 書	「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第 5 版」監修：奈良勲 鎌倉矩子 医学書院 2021 年 「病気がみえる Vol.7 脳・神経 第 2 版」監修：尾上尚志、他。メディックメディア 2020 年				
参 考 書	「神経内科学テキスト 改訂第 3 版」編集：江藤文夫、飯島節。南江堂 東京 2016 年				
備 考	e-mail：ttsuda@rehab.tbgu.ac.jp 丸暗記でなく、考え方を理解して学習して下さい。その方が、ずっと臨床に役立ちます。				

科 目 名	神経障害系病学Ⅱ			担 当 者	津田 丈秀
科目ナンバリング	1020322052				常勤
D P	1,2			教員研究室	3206
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 神経疾患は病変部位によって特徴的な症状の組み合わせが生じる。一連の症状を呈するものを症候群と呼ぶ。この症候群を基に、急性発症か緩徐進行性かなどの経過や種々の検査所見から病変部位を診断し適切な治療を施行する。 神経障害系病学Ⅱでは、このような手順が疾患毎にどう変化するのかについて言及する。 尚、施行した講義に関しては毎回小試験を行う。				【課題等のフィードバック方法】 小試験問題に関し「振り返り・解説」を行い講義を進めていく。	
【学習の到達目標】 ①種々の神経疾患について病因、症状と経過を理解する。 ②各疾患の診断、治療、リハビリテーション医療の概要を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 ①ストリーム内講義資料は最小限の内容である。この資料については確実に理解することが重要である。 ②同資料は履修内容のすべてではないので、理解のために教科書・参考書などによる予習・復習を各々最低 30 分程度を必須とする。特に予習は重要。	
【成績評価方法】 定期試験 60%（点）、小試験・レポート 40%（点）。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 神経障害系病学はリハビリテーションで接する頻度の最も高い疾患の病態を解明する学問である。神経障害系病学の知識は作業療法の知識と技術を高めるために必須である。	
				【実務家教員担当科目】 作業療法	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	津田 丈秀	小脳の構造と機能	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
2	津田 丈秀	脊髄小脳変性症	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
3	津田 丈秀	神経筋接合部疾患（重症筋無力症を中心に）	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
4	津田 丈秀	末梢神経障害	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
5	津田 丈秀	筋疾患（筋ジストロフィーを中心に）	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
6	津田 丈秀	脳腫瘍とてんかん発作	教科書参考書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
7	津田 丈秀	外傷と正常圧水頭症	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
教 科 書		「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第 5 版」監修：奈良勲 鎌倉矩子 医学書院 2021 年 「病気がみえる Vol.7 脳・神経 第 2 版」監修：尾上尚志、他。メディックメディア 2020 年			
参 考 書		「神経内科学テキスト 改訂第 3 版」編集：江藤文夫、飯島節。南江堂 東京 2016 年			
備 考		e-mail：ttsuda@rehab.tbgu.ac.jp 丸暗記でなく、考え方を理解して学習して下さい。その方が、ずっと臨床に役立ちます。			

科 目 名		運動器障害系病学		担 当 者		永元 英明	
科目ナンバリング		1020322053				非常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室		非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次		2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク ☑プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 運動器障害系病学は整形外科学の中の主に骨・関節疾患を中心に構成され、リハビリテーション医療と直接関わる重要な科目である。骨・関節疾患の総論としての病理や病態と整形外科的診断や治療の概要を学んだ後、各論としての疾患別や部位別にその病態や障害（機能障害、活動制限）の診断と予後、治療について学習する。							
【学習の到達目標】 1) 主要な整形外科疾患の病態と治療に関わる専門用語を覚えている（想起レベル）。2) 主要な整形外科疾患の病態と治療の関係を理解している（理解レベル）。3) 整形外科疾患に起因する機能障害・能力低下の概要を説明できる（理解レベル）。4) EBM（evidence based medicine）に基づいたプレゼンテーションができる。							
【成績評価方法】 アクティブラーニング（50 点）、定期試験（50 点）、によって単位認定する。受験資格は学則に準ずる。							
【課題等のフィードバック方法】 1) 試験結果のヒストグラムと各自の階級を公表し、希望する学生には点数を開示する。2) 講義時間内に、アクティブラーニングの資料作成・情報検索・プレゼンテーション方法等の質問を受け付け、フィードバックする。3) アクティブラーニング発表後、スライド、発表内容や方法などをフィードバックする。							
【履修上の注意・予習・復習について】 アクティブラーニングのグループ分け後は、特別に考慮すべき事情がない限り、変更はしない。自ら能動的に予習・復習するよう心がけ、アクティブラーニングの資料は、早い段階から準備、作成を意識してもらう。							
【受講して得られる効果・メリット、その他】 1) 運動器疾患の概要および診断、治療を学べる。2) 整形外科的検査・治療とリハビリテーション医療の関係を学べる。3) コミュニケーションの重要性、EBM を学べる。							
【実務家教員担当科目】 運動器疾患の診断・治療・リハビリテーションを専門として臨床・研究・教育の実務経験をもつ教員が、リハビリテーション専門職として理解すべき運動器疾患について講義する。							

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	永元 英明	オリエンテーション（アクティブラーニング用のグループ分け、グループワークのテーマ提示）	科目全体の流れ、心構えを説明する。パワーポイント作成方法、文献や教科書など参考資料の調べ方の予習・復習すること。	4 時間
2	永元 英明	クティブラーニングのグループ毎のテーマ決め、骨・関節の構造と機能	骨・関節の解剖学的・生理学的知識の再確認。骨・関節の構造と機能について復習すること。	4 時間
3	永元 英明	整形外科診断・整形外科治療、診察手技	整形外科の各種検査、治療方法について予習・復習すること。	4 時間
4	永元 英明	骨折	骨折について予習・復習すること。	4 時間
5	永元 英明	捻挫、靱帯損傷、脱臼、筋・腱損傷	靱帯損傷、脱臼、筋・腱損傷について予習・復習すること。	4 時間
6	永元 英明	末梢神経損傷、脊椎・脊髄疾患	末梢神経損傷、脊椎・脊髄疾患について予習・復習すること。	4 時間
7	永元 英明	皮膚・血管損傷、骨関節感染症	皮膚・血管損傷、骨や軟部組織の感染症について予習・復習すること。	4 時間
8	永元 英明	スポーツ外傷・障害	スポーツ外傷・障害について予習・復習すること。	4 時間
9	永元 英明	慢性関節疾患（変形性関節症）、関節リウマチ、阻血壊死性疾患、代謝性骨疾患	慢性関節疾患（変形性関節症）、関節リウマチ、阻血壊死性疾患、代謝性骨疾患について予習・復習すること。	4 時間
10	永元 英明	先天性疾患、骨・軟部腫瘍、切断	先天性疾患、骨・軟部腫瘍、切断について予習・復習すること。	4 時間
11	永元 英明	第 1 回アクティブラーニング	各グループで選択したテーマについてスライドを用いて、プレゼンテーションを準備して発表する。	4 時間
12	永元 英明	第 2 回アクティブラーニング	各グループで選択したテーマについてスライドを用いて、プレゼンテーションを準備して発表する。	4 時間
13	永元 英明	第 3 回アクティブラーニング	各グループで選択したテーマについてスライドを用いて、プレゼンテーションを準備して発表する。	4 時間
14	永元 英明	まとめ、総括、アクティブラーニングのフィードバック		4 時間
教 科 書		「標準整形外科学」第 15 版 井樋栄二・津村弘監修、医学書院		
参 考 書		「病気がみえる vol.11 運動器・整形外科」医療情報科学研究所編集、メディックメディア		
備 考		授業運営に関する問い合わせ、授業内容について担当教員が対応する。		

科 目 名	精神障害系病学Ⅰ			担 当 者	開講時指示
科目ナンバリング	1020322054				
D P	1,2			教員研究室	
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 【課題等のフィードバック方法】 【学習の到達目標】 【履修上の注意・予習・復習について】 【成績評価方法】 【受講して得られる効果・メリット、その他】 【実務家教員担当科目】 ※開講時に指示します。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1				4 時間	
2				4 時間	
3				4 時間	
4				4 時間	
5				4 時間	
6				4 時間	
7				4 時間	
8				4 時間	
9				4 時間	
10				4 時間	
11				4 時間	
12				4 時間	
13				4 時間	
14				4 時間	
教 科 書					
参 考 書					
備 考					

科 目 名	精神障害系病学Ⅱ			担 当 者	開講時指示
科目ナンバリング	1020322055				
D P	1,2			教員研究室	
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 【課題等のフィードバック方法】 【学習の到達目標】 【履修上の注意・予習・復習について】 【成績評価方法】 【受講して得られる効果・メリット、その他】 【実務家教員担当科目】 ※開講時に指示します。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1				4 時間	
2				4 時間	
3				4 時間	
4				4 時間	
5				4 時間	
6				4 時間	
7				4 時間	
8				4 時間	
9				4 時間	
10				4 時間	
11				4 時間	
12				4 時間	
13				4 時間	
14				4 時間	
教 科 書					
参 考 書					
備 考					

科 目 名	発達障害系病学			担 当 者	大浦 敏博
科目ナンバリング	1020322056				非常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 小児は成長発達の途上にあり、成人対象の内科学とは異なった視点が必要である。本科目では、小児の成長・発達と小児保健の概要の解説、および小児期特有の疾患の主要なものについて、診断・治療の解説をする。				【課題等のフィードバック方法】 小テストの講評と解説は次の講義時に行なう。	
【学習の到達目標】 1. 小児の正常な発育過程と小児保健の概要について要点を理解する。 2. 小児期特有の主要疾患について、診断・治療の概要を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義中に要点を理解し、覚えるように努めること。 毎回講義終了時に内容について的小テストを行なう（出席確認を兼ねる）ので、その問題を中心に復習すること。	
【成績評価方法】 毎回講義終了時に行なう小テスト 20%。（出席確認を兼ねる） 全講義終了時に行なう本試験 80%。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 小児の正常な発育過程や小児保健について、および小児期特有の疾患の基礎を学ぶことができ、将来、医療スタッフの一員として小児と接する上での基本的知識が得られる。	
				【実務家教員担当科目】 30 年以上小児科臨床および研究に従事してきた教員が、その経験を活かして、実地に役立つ具体的な解説を行なう。	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	大浦 敏博	小児の成長・発達、新生児疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
2	大浦 敏博	染色体、代謝・内分泌疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
3	大浦 敏博	呼吸器疾患、感染症	小テストの問題中心に復習。	4 時間
4	大浦 敏博	消化器疾患、循環器疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
5	大浦 敏博	血液・免疫疾患、悪性新生物（小児がん）	小テストの問題中心に復習。	4 時間
6	大浦 敏博	神経・筋疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
7	大浦 敏博	アレルギー、膠原病、腎泌尿器疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
教 科 書		特になし		
参 考 書		富田豊編集「標準理学療法学・作業療法学」専門基礎分野 小児科学第 5 版（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論（医学書院）		
備 考		特になし		

科 目 名		老年期病学		担 当 者	佐藤 秀隆	
科目ナンバリング		1020322057			常勤	
D P		1,2		教員研究室		1316
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次		2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 高齢者の増加に伴い加齢現象ならびに加齢に伴って増加する老年期疾患についての理解がリハビリテーションを実践するうえでますます重要になってきている。加齢現象と老年期の特徴ならびに老年期疾患の病態とその予防・対策について講義を行なう。						
【学習の到達目標】 加齢現象ならびに老年期に起こりやすい疾患の特徴を理解し、この理解に基づいてリハビリテーションを実践できる。						
【成績評価方法】 出席率 80％以上で定期試験受験可能。30 点満点の課題テストを 2 回合計で 60 点、定期試験 40 点で 100 点満点とし総得点 60 点以上を合格とする。COVID-19 の流行その他で定期試験が不可能と考えられる場合は課題でもって合否判定を行う。						
【課題等のフィードバック方法】 課題テストなど数回予定している。						
【履修上の注意・予習・復習について】 携帯使用、私語、飲食は禁止。授業は必ず教壇から近い席から埋めること。授業内容にあたる項目は予め教科書を読んてくることが前提です。 予習は教科書の該当する項目を読んてくること、復習は講義のプリントや講義内容を再度検討してみることに。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 人口構成の急速な高齢化に伴いリハビリテーションを必要とする人達が増加しているため、老年期医学の特性について理解し、日常のリハビリテーションを実践することで老年者についてより良いリハビリテーションの効果をj得ることができる。						
【実務家教員担当科目】 医師としてリハビリテーション部門を有する病院で長年勤務した経験や知識をもって当該科目を担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	佐藤 秀隆	老化の基礎知識	老化とは何かについて教科書を読んておくこと。生理的老化・病的老化・花咲ける老化、老年病と老化、老年病の特徴・検査、老年病への対応			4 時間
2	佐藤 秀隆	高齢者疾患総論、認知症他	高齢者の病気の特徴について調べてくること。老年病の特徴、老年医学的総合機能評価、軽度認知機能障害（MCI）と認知症、アルツハイマー病、レビー小体病、パーキンソン病			4 時間
3	佐藤 秀隆	高齢者の循環器疾患	高齢者の循環器疾患について調べてくること。高齢者の心臓の形態と機能の変化、高齢者に多い心臓疾患（狭心症、心筋梗塞、心不全など）			4 時間
4	佐藤 秀隆	高齢者の呼吸器疾患	高齢者の呼吸器疾患について調べてくること。高齢者の呼吸器の形態・機能の変化、高齢者に多い呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、肺癌、肺炎など）			4 時間
5	佐藤 秀隆	高齢者の消化器、内分泌疾患	高齢者の消化器・内分泌疾患の特徴について調べてくること。高齢者の消化器の形態・機能の変化、高齢者に多い消化器疾患、高齢者の主な内分泌疾患			4 時間
6	佐藤 秀隆	高齢者の運動器疾患、腎・泌尿器疾患	高齢者の運動器疾患、転倒と骨折、腎・泌尿器疾患について調べてくること。高齢者の主な運動器疾患、骨粗鬆症、骨折、高齢者主な泌尿器疾患（前立線肥大症その他）			4 時間
7	佐藤 秀隆	高齢者のリスク管理	高齢者のリスク管理の特徴について調べてくること。高齢者の脱水・嚥下障害・褥瘡の特徴と予防並びに治療			4 時間
教 科 書		老年医学への招待第 1 版（中村重信、三森康世著、南山堂）				
参 考 書		健康長寿診療ハンドブック（実地医科のための老年医学のエッセンス）第 2 版第 1 刷（編集／発行 日本老年医学会 メジカルビュー社）				
備 考		最新リハビリテーション 老年学第 1 版（荒井秀典、山田実、医歯薬出版）が知識のまとめにお勧めです。				

科 目 名		臨床心理学		担 当 者	北川 公路
科目ナンバリング		1020322058			常勤
D	P	1,2		教員研究室	3204
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式				単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 日本の社会的構造の変化に伴い、子どもから高齢者に至る各々の年齢層において、様々な問題が発生しており、臨床心理学に対する関心・期待も高まってきている。そこで本講義では、臨床心理学の歴史背景を踏まえた上で、臨床心理学とは何か、果たすべき課題は何か、どのような貢献ができるかなどについて説明する。また、医療領域において支援を必要とする人々について理解し、適切な支援のための知識について説明する。 【学習の到達目標】 保健医療領域において支援を必要とする人々について理解し、適切な支援の為の知識と実践力を修得する。 【成績評価方法】 定期試験（70％）講義内のグループワーク・個別活動（30％）による総合評価。		【課題等のフィードバック方法】 講義ごとにリアクションペーパーの記載を求めている。次の講義にその提出物を返却をする。質問が記載されていた場合は、次の講義時に受講生全員に対して質問の紹介、回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 【復習】1 年次に「心理学」を履修した学生は、1 年次に使用した教科書・ノートも併用して勉強すること。また、アセスメントの授業時は各専攻の評価学で学ぶものと重なるところが多いため知識を繋げること。 【遅刻】 原則として遅刻は認めない。 【受講態度】 机上には、筆記用具・臨床心理学の教科書とノートのみをおき、他科目の勉強はしないこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家資格試験科目であることから、国家試験に関連することも説明する。 【実務家教員担当科目】 公認心理師が当該科目を担当する。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	北川 公路	リハビリテーションと臨床心理学	【予習】 教科書第 1 章を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
2	北川 公路	心理アセスメント（1）面接・観察	【予習】 教科書第 4 章の 1 を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
3	北川 公路	心理アセスメント（2）質問形式の心理検査	【予習】 教科書第 4 章 3 の質問紙法を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
4	北川 公路	心理アセスメント（3）作業形式の心理検査	【予習】 教科書第 4 章 5 の作業検査法を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
5	北川 公路	心理アセスメント（4）投影法の心理検査	【予習】 教科書第 4 章 4 の投影法を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
6	北川 公路	心理アセスメント（5）知能検査	【予習】 教科書第 4 章 2 の知能検査を通読する 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る		4 時間
7	北川 公路	発達臨床心理学	【予習】 教科書第 3 章 3 の発達理論を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
8	北川 公路	心理療法の理論と実際（1）精神分析	【予習】 教科書第 3 章 1・2 と第 5 章 2 の 1）を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
9	北川 公路	心理療法の理論と実際（2）行動療法	【予習】 教科書第 5 章 2 の 2）を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
10	北川 公路	心理療法の理論と実際（3）認知行動療法	【予習】 第 9 回目で配布する資料を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
11	北川 公路	心理療法の理論と実際（4）来談者中心療法	【予習】 教科書第 5 章 2 の 3）を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
12	北川 公路	心理療法の理論と実際（5）その他の心理療法	【予習】 教科書第 5 章 2 の 4）と 5）を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
13	北川 公路	心理療法の理論と実際（6）その他の心理療法	【予習】 教科書第 5 章 4 を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
14	北川 公路	障害の適応と受容	【予習】 第 13 回目で配布する資料を通読する。 【復習】 教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間
教 科 書		こころのケア - 臨床心理学的アプローチ - 池田勝昭・目黒達哉 共著 学術図書出版社			
参 考 書		講義の中で適宜、紹介する。			
備 考		なし。			

科 目 名		栄養学概論		担 当 者	○小野部 純・平山 和哉 釵明佳代子
科目ナンバリング		1020322059			常勤
D	P	1,2		教 員 研 究 室	3108 研究室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
リハビリテーション医療の対象者には食事療法を必要とする症例が多く、栄養素が生命維持や疾病の発生と治療にどのように関わっているか、そして栄養素摂取の具体的方法をも理解しておく必要がある。		小テストの結果は、次回の授業時に返却し、自己学習を促す			
そのために、栄養素の種類と役割、摂取すべきその量（食事摂取基準）について知識を深め、食事療法についても学習する。		【履修上の注意・予習・復習について】			
【学習の到達目標】		初回授業時に改めてシラバスの内容を説明する			
・ 代表的な栄養素の種類と機能を説明できる		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
・ 健康維持、疾病管理と栄養素との関係を説明できる		将来、リハビリテーション医療の現場で活躍する際、必要とさせる栄養・食事に関する基礎知識を身につけることができる。			
・ 健康維持のための食事を食品レベルで考えることができる		【実務家教員担当科目】			
【成績評価方法】		多種の内部障害系疾患に携わった経験を持つ教員が、リハビリテーション職として病態理解から介入時に知っておくべき栄養の基礎知識を中心に教授する			
・ 定期試験 90%					
・ 小テスト 10%					

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	小野 部	リハビリテーション栄養の概念 5 大栄養素 1	・ 栄養の必要性の概要を理解する ・ 糖代謝の概要について理解する		4 時間
2	小野 部	5 大栄養素 2	・ タンパク質と脂質の代謝の概要について理解する		4 時間
3	小野 部	エネルギー代謝	・ 体内で ATP が生成される過程を理解する		4 時間
4	小野 部	日常生活活動量の算出	・ METs の概念を理解する ・ 行動記録から、消費エネルギー量を算出する方法を理解する		4 時間
5	平山	栄養と運動	・ 運動（スポーツ）に関わる栄養の知識を理解する		4 時間
6	釵明	疾患と栄養 1	・ リハビリテーション栄養の重要な対象であるサルコペニアとフレイルの概要について理解する		4 時間
7	釵明	疾患と栄養 2	・ 特に代謝性疾患患者を対象とした食事療法の基礎を理解する ・ 栄養学の視点からの運動処方の基礎を理解する		4 時間
教 科 書		・ 医療情報科学研究所 編集：病気がみえる 3- 糖尿病・代謝・内分泌疾患 - 第 5 版、MEDIC MEDIA. (既に購入済みの場合には、改めての購入は必要ない)			
参 考 書		必要に応じて、その都度紹介する			
備 考		授業詳細は、初回時に改めて説明する			

科 目 名	リハビリテーション医学			担 当 者	津田 丈秀
科目ナンバリング	1020322061				常勤
D P	1,2			教員研究室	3206
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 リハビリテーション医学は神経疾患や整形外科疾患などが原因で起こる運動機能障害の診断と治療を中心とする学問である。また、作業療法士は医療において上記診断や治療を行うことを必要とされる臨床家である。そのため作業療法士はリハビリテーション医学における十分な知識と技術を学ばなければならない。 授業ではリハビリテーション医療の目的と進め方やリハビリテーション医療のキーワードである障害の概念や代表的な障害の特徴について解説する。尚、施行した講義に関し毎回小試験を施行する。				【課題等のフィードバック方法】 小試験に関し「振り返り・解説」を行い講義を進めていく。	
【学習の到達目標】 ①リハビリテーション医療の目的と進め方を理解する。 ②障害の概念と代表的な障害の特徴を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 ①ストリーム内講義資料は最小限の内容である。この資料については確実に理解することが重要である。 ②同講義資料は履修内容すべてではないので、理解のため教科書・参考書などによる予習・復習を必須とする。特に予習が重要。	
【成績評価方法】 定期試験 60%（点）、小試験・レポート 40%（点）。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 リハビリテーション医学の基本的枠組みと種々の疾患に共通する諸問題を扱うため、作業療法の位置づけが明確となる。	
【実務家教員担当科目】 作業療法					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	津田 丈秀	リハビリテーション医学の概要	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
2	津田 丈秀	嚥下障害	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
3	津田 丈秀	廃用症候群、褥瘡	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
4	津田 丈秀	高齢者、老化現象	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
5	津田 丈秀	認知症	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
6	津田 丈秀	排泄障害	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
7	津田 丈秀	院内感染症、予防医学、並びにクリニカルパス	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
教 科 書		「PT・OT ビジュアルテキストリハビリテーション医学 第1版」 監修：安保雅弘 羊土社 2018 年			
参 考 書		「リハビリテーション医学 第2版」 監修：米本恭三 医歯薬出版 2013 年 「入門リハビリテーション医学 第3版」 監修：中村隆一 医歯薬出版 2012 年			
備 考		e-mail：ttsuda@rehab.tbgu.ac.jp 丸暗記でなく、考え方を理解して学習して下さい。その方が、ずっと臨床に役立ちます。			

科 目 名		病態薬理学		担 当 者	○渡邊 隆夫・津田 丈秀 佐藤 秀隆・松谷 幸子 未定	
科目ナンバリング		1020322062			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3214	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 必要な薬剤について、関連病態と共に講義する。				【課題等のフィードバック方法】 講義課題については原則 2 週間以内に解答例を示しフィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 各種薬剤の代表的な薬物について作用と効能および副作用について理解できることを目標とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業資料および参考書にて復習をすること。		
【成績評価方法】 定期試験 80%、講義課題 20% にて総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 業務の中で用いられる薬剤について病態と関連した基礎的な知識を得ることが出来る。		
				【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	渡邊 隆夫	虚血性心疾患 1	テキスト・配付資料			4 時間
2	渡邊 隆夫	虚血性心疾患 2	テキスト・配付資料			4 時間
3	渡邊 隆夫	心臓弁膜症	テキスト・配付資料			4 時間
4	渡邊 隆夫	先天性心疾患	テキスト・配付資料			4 時間
5	浅野 浩一	感覚器疾患 1	テキスト・配付資料			4 時間
6	松谷 幸子	感覚器疾患 2	テキスト・配付資料			4 時間
7	松谷 幸子	感覚器疾患 3	テキスト・配付資料			4 時間
8	佐藤 秀隆	呼吸器疾患 1	テキスト・配付資料			4 時間
9	佐藤 秀隆	呼吸器疾患 2	テキスト・配付資料			4 時間
10	津田 丈秀	中枢神経系疾患 1	テキスト・配付資料			4 時間
11	津田 丈秀	中枢神経系疾患 2	テキスト・配付資料			4 時間
12	渡邊 隆夫	血管の疾患	テキスト・配付資料			4 時間
13	渡邊 隆夫	膠原病	テキスト・配付資料			4 時間
14	渡邊 隆夫	内分泌疾患	テキスト・配付資料			4 時間
教 科 書		特に指定しません。				
参 考 書		適宜紹介します。				
備 考		特になし。				

科 目 名	リハビリテーション心理			担 当 者	北川 公路
科目ナンバリング	1020322064				常勤
D P	1,3			教員研究室	3204
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 受傷後のこころの苦しみがどのようなものであり、またそれをどのように緩和するか、リハビリテーション心理学の基本的な事柄について講義を行う。心理的問題を解決するためにスタッフや家族が実際に行うべきこと、つまり「ケア」について考えていく。また、患者へのケアは心理的・情緒的対応を抜きにして語ることはできない。以上のように、リハビリテーション医療における心理社会的問題について説明する。				【課題等のフィードバック方法】 講義回数が7回であることから開講中に課題の提出などは求めている。講義をすすめながら、随時、質問を受け付け回答する。また、こちらからも問題提起をしながらすすめていく。	
【学習の到達目標】 リハビリテーションに取り組む患者さんは、何も考えず、悩まず、迷わずリハビリテーションのプログラムを消化することができるのでしょうか。できるひともしれません。しかし、できないひとでもあると思います。患者の「こころ」について考えることができるようになることが目標である。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義回数が少ないため欠席などしないようにしてください。講義で使用する資料を前もって配布する予定ですので、目を通した上で受講することが望ましい。	
【成績評価方法】 レポート（40％）試験（60％）による評価。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 「からだ」を通して「こころ」を理解することのできるセラピストになれると思います。	
				【実務家教員担当科目】 公認心理師が当該科目を担当する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	北川 公路	リハビリテーションにおける心理学的対応	【予習】 心理学・臨床心理学で修得した知識を整理する。 【復習】 授業内容を振り返る。		4 時間
2	北川 公路	リハビリテーションに役立つ心理面の評価と対応	【予習】 修得した知識を踏まえ配付資料を通読する。 【復習】 授業内容を振り返る。		4 時間
3	北川 公路	障害適応へのアプローチ	【予習】 修得した知識を踏まえ配付資料を通読する。 【復習】 授業内容を振り返る。		4 時間
4	北川 公路	治療場面における心理的問題	【予習】 修得した知識を踏まえ配付資料を通読する。 【復習】 授業内容を振り返る		4 時間
5	北川 公路	理学療法場面における心理的問題	【予習】 修得した知識を踏まえ配付資料を通読する 【復習】 授業内容を振り返る。		4 時間
6	北川 公路	作業療法場面における心理的問題	【予習】 修得した知識を踏まえ配付資料を通読する。 【復習】 授業内容を振り返る。		4 時間
7	北川 公路	患者家族への関わりについて	【予習】 修得した知識を踏まえ配付資料を通読する。 【復習】 授業内容を振り返る。		4 時間
教 科 書		講義にあわせて資料を配付する。			
参 考 書		随時、紹介する。			
備 考		なし。			

科 目 名	医療経済論			担 当 者	吉田 裕人
科目ナンバリング	102032201				常勤
D P	1,4			教員研究室	1201
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 医療経済学的な考えを通じて、今日の我が国が抱える医療・介護保険制度の課題などを理解することを目的とする。 内容的には、ミクロ経済学の視点から他の財・サービスとは異なる医療サービスの特徴について学習し、日本の医療費や医療保険制度について理解を深める。さらには日本で 2000 年代に入って行われてきた医療制度改革がもたらした現状を整理し、その課題について検討する。 【学習の到達目標】 医療を考えるにあたっての基本的な経済学の知識を習得し、日本の医療保険制度の機能と役割を理解する。 【成績評価方法】 小テスト 50％ レポート 40％ 受講態度など 10% 【課題等のフィードバック方法】 小テストの解説を次の授業で行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 医療なしでは人の生活は成立しない。暮らしに密着した社会保障制度などに関心を持つ。そういった姿勢を本講義を通じて身につけてもらい、興味・関心が広がっていくことを期待する。 講義中には、予習・復習がなされているか質問をする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 基本的な経済学を通じて医療という身近な存在の役割を理解することができる。また、保健・医療・福祉に共通した知識（医療保険制度）を詳しく学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	吉田 裕人	医療サービスの特徴	医療サービスは通常のサービスとどう異なるかを事前に調べておく。		4 時間
2	吉田 裕人	情報の非対称性がある場合の社会的厚生損失	消費者余剰・生産者余剰、情報の非対称性などの語句を事前に調べておく。		4 時間
3	吉田 裕人	医療問題の構造	RCT、社会保険の必要性などについて事前に調べておく。		4 時間
4	吉田 裕人	日本の高齢化の現状と社会保障	小さな政府・大きな政府、国民負担率などの語句を事前に調べておく。		4 時間
5	吉田 裕人	日本の高齢者の健康と介護保険	高齢者の健康長寿の要因などを事前に考えておく。		4 時間
6	吉田 裕人	日本の医療制度とその課題	応能負担・応益負担などの語句を事前に調べておく。		4 時間
7	吉田 裕人	医療サービスの需要について	需要の価格弾力性についてなどを調べておく。		4 時間
教 科 書		未定			
参 考 書		国民衛生の動向（最新版） 編集・発行：一般財団法人 厚生労働統計協会			
備 考		特になし。			

科 目 名		公衆衛生学		担 当 者	吉田 裕人	
科目ナンバリング		1020322066			常勤	
D	P	1,4		教員研究室	1201	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 少子・高齢化の進む我が国では、健康をキーワードとした社会のしくみや安全に生活するための環境について、いままで以上に重要視する状況となっている。このような社会情勢の中、人口構造や疾病構造の変化や社会経済システムの変化に伴い、保健医療の内容も生命倫理から健康づくりの方策まで幅広く理解していく必要がある。本講義では、健康の維持と増進を求めて展開される様々な計画や活動の基本となるものの見方や考え方、具体的な方法を基盤として、個々の状況や問題を理解していくための知識を習得する。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。		
【学習の到達目標】 健康と社会、環境を相互に関連させながら理解できるようになる。具体的には、衣食住、労働環境、家庭、学校、職場、地域、地球全体までの広範囲な「環境」と保健、医療、福祉の「制度とサービス」が相互に関連して成り立っている社会システムが、「健康」とどのような枠組みや組織の中でつながっているのかを理解し、様々な状況変化に対応した評価方法や健康支援が必要な対象者への情報伝達の方法について考えられる基礎的能力を養う。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の私語・飲食・携帯電話操作は厳禁 出欠確認（点呼）終了後の入室は遅刻 授業前に予習（教科書参照）・授業後に復習（教科書・ノート参照） 予習・復習がなされているか授業中に質問をする。		
【成績評価方法】 定期試験 80％ その他 20％				【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療専門職として必要な公衆衛生に関する基礎的知識や考え方を身につけることができる。		
				【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	吉田 裕人	公衆衛生の理念	公衆衛生の意味などについて事前に調べておく。			4 時間
2	吉田 裕人	健康と環境①	大気汚染の実態などを事前に調べておく。			4 時間
3	吉田 裕人	健康と環境②	上水・下水などの語句を事前に調べておく。			4 時間
4	吉田 裕人	日本における社会保障制度および医療制度の改革	日本の医療・介護保険制度の課題などを事前に調べておく。			4 時間
5	吉田 裕人	グローバル化する世界と公衆衛生	国際保健の意味などについて事前に調べておく。			4 時間
6	吉田 裕人	地域保健	健康日本 21 の内容や保健所の役割などを事前に調べておく。			4 時間
7	吉田 裕人	対象別公衆衛生の実践	我が国の成人保健・高齢者保健などを事前に調べておく。			4 時間
教 科 書		シンプル衛生公衆衛生学 2025（鈴木庄亮・他、南江堂）				
参 考 書		なし				
備 考		なし				

科 目 名	保健医療福祉概論			担 当 者	森田慎二郎						
科目ナンバリング	1020322068				常勤						
D P	1,4			教 員 研 究 室	3305						
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期						
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位						
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし										
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない						
【授業内容】 保健医療福祉専門職は、患者・利用者を支援する際には、関連する諸制度の概要を知っておく必要がある。この講義では、保健・医療・福祉制度の概要、歴史、関連法について概観し、医療保険、介護保険、障害者総合支援法などの仕組みとサービス内容等について学ぶ。 【学習の到達目標】 ・社会保障制度の概要を説明できる。 ・各種保健医療福祉制度の概要とサービス内容について説明できる。 ・専門職として各種制度との関わりを理解することができる。 【成績評価方法】 期末テスト 100%						【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、ミニッツペーパーにより質問を受け付け、次回に回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語厳禁 【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療専門職として活躍するうえで有用な基礎知識が得られる。 【実務家教員担当科目】 該当なし。					
授 業 計 画											
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間								
			予習・復習								学修時間
1	森田慎二郎	オリエンテーション、保健医療福祉の基盤となる考え	復習として教科書で全体像を把握する。								4 時間
2	森田慎二郎	保健・医療・福祉の諸制度（社会保障制度の概要）	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
3	森田慎二郎	保健・医療・福祉の歴史的展開	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
4	森田慎二郎	現代の保健・医療・福祉を支える関連法、施設体系	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
5	森田慎二郎	社会福祉と公的扶助	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
6	森田慎二郎	医療保険の仕組みと種類①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
7	森田慎二郎	医療保険の仕組みと種類②	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
8	森田慎二郎	年金制度の仕組みと動向	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
9	森田慎二郎	労災保険と雇用保険	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
10	森田慎二郎	介護保険制度の仕組み①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
11	森田慎二郎	介護保険制度の仕組み②	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
12	森田慎二郎	障害者総合支援法と障害者福祉サービス	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
13	森田慎二郎	地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉サービス①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
14	森田慎二郎	地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉サービス②、まとめ	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。								4 時間
教 科 書		椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ									
参 考 書		適宜紹介する。									
備 考		特になし。									

科 目 名		専門職連携論		担 当 者	○大黒 渡邊 榊林 土井 一司・大庭 隆夫・伊藤 雅司・佐藤 勝幸 みよ 清世 尚子	
科目ナンバリング		1020322069			常勤	
D	P	1,4		教 員 研 究 室	3211	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☑双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 疾病を抱えた患者や障害のある人の課題を解決しニーズに応えることは、対象者（利用者）に対して保健医療福祉の各分野の専門家が協働することであると理解できる。各分野の専門職が関わることでより質の高いサービスを提供することが可能になる。保健医療福祉の連携は、各分野の専門職の視点も大切であるが、むしろチームとしての視点が重要になる。しかし、チームとしてのアプローチが各専門職の技術を持ち寄るだけでは十分とは言えない。対象者（利用者）の課題やニーズに対する共通の理解、価値観にも基づいて関わること（連携）が重要である。 専門職連携論では、多職種連携が求められる背景、多職種連携の理念・定義、実践方法、実践事例の学習を通して連携の基盤と方法について学ぶ。						
【課題等のフィードバック方法】 ・講義終了後、質問を受け付け回答する。 ・レスポンスペーパーによる質問を受け付けと次回授業時に受講者全体に回答する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 指定された席で受講する。レスポンスペーパーは毎回必ず提出する。専門職連携セミナー（3年後期）の履修を希望する者は本科目を必ず履修すること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 多職種連携科目を1年～3年で体系的に学びを実践に向けて深めることができる。						
【実務家教員担当科目】 病院・施設において多職種連携を実践していた。						
【成績評価方法】 授業時のレスポンスペーパー 30％ 課題レポート 70％						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	大黒 一司	1) オリエンテーション 2) 本学における多職種連携教育（IPE）	復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
2	大黒 一司	1) 多職種連携（IPW）とは 2) IPE の経緯と定義、目標	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
3	大黒 一司	1) 多職種のチームにおけるさまざまな連携のありかた 2) 多職種連携における課題	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
4	大黒 一司	多職種連携の実践に必要なコミュニケーション能力	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
5	大黒 一司	チームワークの成り立ち	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
6	大庭 みよ （看護師）	多職種連携における医療福祉連携士の役割	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
7	渡邊 隆夫 （医師）	IPW の実際 1 医療における IPW の実際と医師の役割	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
8	相澤 康弘 （臨床工学技士）	IPW の実際 2 多職種連携における臨床工学技士の役割と実践	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
9	榊林 雅司 （薬剤師）	IPW の実際 3 多職種連携における薬剤師の役割と実践	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
10	伊藤 清世 （管理栄養士）	IPW の実際 4 多職種連携における管理栄養士の役割と実践	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
11	佐藤 尚子 （看護師・診療看護師）	IPW の実際 5 福祉施設における多職種連携の実際	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
12	土井 勝幸 （施設長・作業療法士）	IPW の実際 6 地域包括ケアにおける多職種連携の実際	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
13	大黒 一司、他	グループワーク 多職種連携に必要なこと 事例を通して考える	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
14	大黒 一司、他	グループワーク 多職種連携に必要なこと 事例を通して考える	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。		4 時間	
教 科 書		指定教科書は特になし				
参 考 書		必要に応じて図書や文献を紹介する				
備 考		質問等の問い合わせ：大黒一司（リハビリテーション学科作業療法学専攻）				

科 目 名	専門職連携セミナー			担 当 者	大黒 一司
科目ナンバリング	1020322070				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	3211
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 これからの専門職に求められるのは、対象者（利用者）を中心としてその多面的なニーズに的確に応える能力です。そのためには専門職連携という基礎的な素養の上に各々の専門性が確立されなければならない。専門職としての成長と専門職連携教育の融合（trans-disciplinary）により、時代が求める専門職連携の中核になりうる人材育成を目指します。 【学習の到達目標】 ・自分の専門性を他の専門職に説明し、他の専門性を学ぶことができる。 ・対象者（利用者）のニーズを多面的に理解し、考えることができる。 ・専門職間の協働によって解決できる共通の課題と目標を抽出することができる。 ・共通目標達成のために専門職としてのそれぞれの役割を理解し実践できる。 ・専門的立場から事例に内在する課題を見出し、各々の目標と計画を作成することができる。 【成績評価方法】 ・グループワークによる「専門職連携セミナー報告書」「成果報告会プレゼンテーション」70% ・リフレクションシート 30% 【課題等のフィードバック方法】 ・グループワーク担当教員（ファシリテーター）が適宜助言する ・発表会に向けて担当教員が助言する 【履修上の注意・予習・復習について】 グループワークにより模擬事例の討議するため積極的に参加すること。 本科目の履修要件：専門職連携論を履修し合格していること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 多職種への理解が深まるばかりでなく、自らの専門性を再認識する機会となる。 【実務家教員担当科目】 病院・施設において多専門職連携を実践していた。					
授 業 計 画					
1. 専門職連携セミナーの目的と意義、進め方について 2. 連携セミナーにおける学習方法（グループワーク）の理解 3. グループワーク、スケジュール確認、活動計画作成 4. 各職の紹介とこれまでの学び、実習経験など 5. 実習室ツアー 6. 事例について読みあわせと情報の確認 7. 用語について各職種間の共通認識 8. 事例の共通目標検討 9. 共通目標達成に向けた各職種の目標と問題点、問題点解決のための支援策の検討 10. 共通目標達成に向けた目標と問題点、問題点解決のための支援策の共通認識と実現の可能性の検討 11. 発表に向けた準備 12. リフレクション 13. 発表会 14. 発表会					
教 科 書	随時配布する				
参 考 書	講義中に提示する				
備 考	集中講義となるので、講義等スケジュールに注意すること 質問、問い合わせ：作業療法学専攻 大黒一司（3211 研究室）				

科 目 名	作業分析学			担 当 者	本多ふく代
科目ナンバリング	1020432074				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	3202
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 作業療法において、作業は治療・指導・援助の手段である。作業療法士は利用する作業の特性や構造、作業を行うために必要とされる諸機能を把握し、対象者の心身機能を考慮し、変化に合わせて提供する。また作業を行うための準備や環境設定が求められる。本科目では、作業分析の方法を学び、ひとと作業との関連、作業療法との結びつきを理解し、治療・指導・援助の手段として適用するための作業について深く考える。				【課題等のフィードバック方法】 授業内で演習を行い、それを発表・提出する。それに対するフィードバックを行う。	
【学習の到達目標】 1. 基本的な作業分析の考え方を理解できる。 2. 作業固有の特性やひとと作業、環境の基本的な関連を包括的に捉え、分析を実施できる。 3. 準備、設定や工夫を考え、作業の効果を理解できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義と少人数グループでの演習を交えながら行うため、講義内容の予習復習が必須である。また、演習に積極的に参加し学習する態度が望ましい。	
【成績評価方法】 グループ成果発表（20％）、グループ課題（30％）、定期試験（50％）により総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 作業療法士が治療で用いる作業活動を包括的分析の手法で分析し、作業の治療的応用について、1 年次よりもより詳細に理解を深めることができるようになる。	
【実務家教員担当科目】 作業活動を治療・指導・援助の手段として用いて実務を行っている作業療法士である教員が、その経験を基に、作業を多方面から分析する手法や考え方を教授する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	本多	オリエンテーション、作業とは何か、作業分析とは	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
2	本多	作業を行うための心身機能・身体構造の分析	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
3	本多	作業を行うための心身機能・身体構造の分析	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
4	本多	作業を行うための心身機能・身体構造の分析	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
5	本多	作業を行うための心身機能・身体構造の分析	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
6	本多	作業を行うための環境の分析	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
7	本多	作業を行うための環境の分析	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
8	本多	作業の段階付け	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
9	本多	作業の段階づけ	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
10	本多	作業の活用について考える：演習	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
11	本多	「作業の活用」作業と人をつなげる：演習と講義	予習：教科書の該当部分・習：授業内容		1 時間
12	本多	演習：事例検討、作業遂行の見方（AMPS）	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
13	本多	演習：事例検討、作業と人をつなげる	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
14	本多	作業を人に伝える演習・まとめ	予習：教科書の該当部分・復習：授業内容		1 時間
教 科 書	吉川ひろみ他著：作業療法がわかる COPM・AMPS 実践ガイド、医学書院				
参 考 書	「作業療法学全書第 2 巻（改訂 2 版）基礎作業学」日本作業療法士協会編 協同医書出版				
備 考	授業日程に変動が生じることがあるので注意すること				

科 目 名		作業療法管理学		担 当 者	○大黒 一司・犬塚千賀子 酒井 道代・小野 咲子 渡部 達也・未定
科目ナンバリング		1020432075			常勤
D P		1,4		教員研究室	3211
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし			
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 作業療法の職場管理において求められる管理業務の基本について学ぶ。作業療法における管理学の位置づけ、組織マネジメント、医療安全、医療サービス、個人情報の保護などの作業療法の管理運営に必要な基礎知識を学習する。また作業療法を実践する上での職業倫理、作業療法に関わる諸制度、法律、作業療法士の生涯教育の概要について解説する。更には病院、介護老人保健施設、訪問サービスの事業所の現場で活躍する作業療法士による管理運営の実践について講義を通して学ぶ。		【課題等のフィードバック方法】 レスポンスペーパーにより講義の理解度を確認し、次回の講義において補足する。 【履修上の注意・予習・復習について】 配布資料を事前に目を通しておく。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 将来、臨床において作業療法部門の管理運営に役立てることができる。現場の作業療法士による管理運営の実践について学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 病院等で管理運営の実践経験を有している。			
【学習の到達目標】 1) 作業療法部門の管理・運営を適切に遂行するために、その必要性や重要性を説明できる。 2) 作業療法部門の管理運営の実践を理解できる。 3) 作業療法に関わる諸制度、法律、生涯教育について理解を深めることができる。					
【成績評価方法】 定期試験（70％）、新聞記事等の紹介（10％）、レスポンスペーパー（20％）					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	大黒 一司	1) オリエンテーション 2) 作業療法における管理学の意義	予習：事前配布資料（テキスト）の授業テーマのページをを学習する。 復習：配布資料により授業内容を復習する。		4 時間
2	大黒 一司	1) 管理論、組織論 2) 医療・保健・福祉施設における作業療法部門の管理	予習：事前配布資料（テキスト）の授業テーマのページをを学習する。 復習：配布資料により授業内容を復習する		4 時間
3	大黒 一司	作業療法部門の開設、人事管理、備品・物品管理	予習：事前配布資料（テキスト）の授業テーマのページをを学習する。 復習：配布資料により授業内容を復習する		4 時間
4	大黒 一司	1) 診療情報の管理、各種資料・文書管理 2) 個人情報の取り扱い	予習：事前配布資料（テキスト）の授業テーマのページをを学習する。 復習：配布資料により授業内容を復習する		4 時間
5	大黒 一司	1) 施設基準と診療報酬 2) リスク管理	予習：事前配布資料（テキスト）の授業テーマのページをを学習する。 復習：配布資料により授業内容を復習する		4 時間
6	大黒 一司	1) 作業療法における倫理及び研究倫理 2) 作業療法士の生涯教育	予習：事前配布資料（テキスト）の授業テーマのページをを学習する。 復習：配布資料により授業内容を復習する		4 時間
7	大黒 一司	1) 理学療法士及び作業療法士法 2) 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則	予習：事前配布資料（テキスト）の授業テーマのページをを学習する。 復習：配布資料により授業内容を復習する		4 時間
8	未定	管理運営の実践 1 回復期リハビリテーション病棟における作業療法部門の管理運営	予習：事前配布資料（テキスト）の授業テーマのページをを学習する。 復習：配布資料により授業内容を復習する		4 時間
9	酒井 道代	管理運営の実践 2 精神科作業療法施設における作業療法部門の管理運営の実践	予習：事前配布資料（テキスト）の授業テーマのページをを学習する。 復習：配布資料により授業内容を復習する		4 時間
10	小野 咲子	管理運営の実践 3 介護老人保健施設における作業療法部門の管理運営の実践	予習：事前配布資料（テキスト）の授業テーマのページをを学習する。 復習：配布資料により授業内容を復習する		4 時間
11	渡部 達也	管理運営の実践 4 訪問看護ステーションにおける作業療法士による管理運営の実践	予習：事前配布資料（テキスト）の授業テーマのページをを学習する。 復習：配布資料により授業内容を復習する		4 時間
12	大黒 一司	グループワーク 作業療法部門の運営について	予習：事前配布資料（テキスト）の授業テーマのページをを学習する。 復習：配布資料により授業内容を復習する		4 時間
13	大黒 一司	グループワーク 新聞記事を通して学ぶ	予習：新聞記事の内容をレポートにまとめる。 復習：他の学生の新聞記事の紹介を振り返る。		4 時間
14	大黒 一司	まとめ	予習：これまでの授業についてテキストで振り返る。 復習：配布資料により授業内容を復習する。		4 時間
教 科 書		指定教科書は特になし。必要に応じ資料を配布する。			
参 考 書		日本作業療法士協会：作業療法概論第3班、協同医書 岩崎テル子：作業療法概論第3版、医学書院			
備 考		科目について問い合わせ：作業療法学専攻 大黒一司			

科 目 名		作業療法評価学実習Ⅰ		担 当 者	○太田 千尋・高木 大輔 王 治文・首藤 和弘	
科目ナンバリング		1020432078			常勤	
D	P	1,3		教員研究室	3215	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 評価とは、さまざまな方法で情報を収集し、整理・分析・統合・解釈する過程である。作業療法で用いられる評価の手段にはさまざまな方法がある。そのため、より多くの検査法を学び、必要な検査法を選択し正確に実施できると同時に、得られた結果を解釈できることが求められる。この授業では、主として運動・感覚系に関する基本的な検査法の習得を目的とする。 【学習の到達目標】 運動、感覚、神経系に関する基本的な検査法を理解する。また、運動、感覚、神経系に関する解剖生理を再度理解する。 【成績評価方法】 中間試験 25%、定期試験 25%、実技試験 50%						
【課題等のフィードバック方法】 筆記試験や実技試験終了後にフィードバックを行う。学習が不足していた部分などを確認し、復習すること。 【履修上の注意・予習・復習について】 実技科目であるため、特に復習は怠らないようにすること。また、ケーシーや動きやすい服装（ジャージ等）で行う予定である。服装については、初回授業にて連絡する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ①主に身体障害領域で用いる運動・感覚系に関する基本的な検査法を理解できる。 ②臨床実習で行う評価の一部を学習することができる。これらの評価は今後の臨床実習で経験することが多い。作業療法の過程の一部（評価計画、評価の実施など）の理解が深められる。 【実務家教員担当科目】 身体障害領域や老年期領域での実務経験がある作業療法士が授業をおこなう。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	太田	徒手筋力検査（以下 MMT）総論	予習：「作業療法評価学第 4 版 p93 ～ 102」および「徒手筋力検査法第 3 章～第 6 章」を読む 復習：配布資料の確認		－	
2	首藤・王・高木・太田	MMT（頸部・体幹）	予習：「作業療法評価学第 4 版 p93 ～ 102」および「徒手筋力検査法第 3 章～第 6 章」を読む 復習：配布資料の確認		－	
3	首藤・王・高木・太田	MMT（頸部・体幹）（肩甲骨～前腕）	予習：「作業療法評価学第 4 版 p93 ～ 102」および「徒手筋力検査法第 3 章～第 6 章」を読む 復習：配布資料の確認		－	
4	首藤・王・高木・太田	MMT（肩甲骨～前腕）	予習：「作業療法評価学第 4 版 p93 ～ 102」および「徒手筋力検査法第 3 章～第 6 章」を読む 復習：配布資料の確認		－	
5	首藤・王・高木・太田	MMT（手関節～手指）	予習：「作業療法評価学第 4 版 p93 ～ 102」および「徒手筋力検査法第 3 章～第 6 章」を読む 復習：配布資料の確認		－	
6	首藤・王・高木・太田	MMT（手関節～手指）（下肢）	予習：「作業療法評価学第 4 版 p93 ～ 1025」および「徒手筋力検査法第 3 章～第 6 章」を読む 復習：配布資料の確認		－	
7	首藤・王・高木・太田	MMT（下肢）	予習：「作業療法評価学第 4 版 p93 ～ 102」および「徒手筋力検査法第 3 章～第 6 章」を読む 復習：配布資料の確認		－	
8	太田	器具を用いた筋力測定	予習：「作業療法評価学第 4 版 p99 ～ 110」を読む 復習：配布資料の確認		－	
9	高木	感覚検査	予習：「評価学第 4 版 P111 ～ 123」を読む 復習：配布資料の確認		－	
10	首藤	反射（深部および病的反射）／脳神経検査	予習：「作業療法評価学第 4 版 p133 ～ 140、p162 ～ 168」を読む 復習：配布資料の確認		－	
11	太田	バランス検査（FR、TUG、BBS など）	予習：「評価学第 4 版 P141 ～ 153」を読む 復習：配布資料の確認		－	
12	高木	上肢機能検査（MFT）	予習：「作業療法評価学第 4 版 p191 ～ 192」を読む 復習：配布資料の確認		－	
13	太田	上肢機能検査（STEF）	予習：「作業療法評価学第 4 版 p189 ～ 190」を読む 復習：配布資料の確認		－	
14	太田	痛みの評価・摂食嚥下の評価	予習：「作業療法評価学第 4 版 p141、p169 ～ 177」を読む 復習：配布資料の確認		－	
教 科 書		①「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第 4 版」医学書院 ②「新・徒手筋力検査法 第 10 版」協同医書出版社 ③「神経診察クロズアップ 正しい病巣診断のコツ、第 3 版」メジカルビュー社				
参 考 書		①「ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版」南山堂 ②「基礎運動学 第 6 版補訂」医歯薬出版				
備 考		質問や疑問がある時には、上記の担当教員に質問すること。				

科 目 名		作業療法評価学実習Ⅱ		担 当 者	○香山 明美・高橋 由美 矢萩 未来	
科目ナンバリング		1020432079			常勤	
D P		1,3		教 員 研 究 室	3203	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 精神障害領域および高次脳機能障害作業療法において必要とされる評価法を具体的に学び、様々な評価技術の演習を行う。				【課題等のフィードバック方法】 課題は添削、コメントを入れて返却する。授業中、授業終了後に課題について解説する。		
【学習の到達目標】 1 精神障害領域で必要とされる評価法を理解し、基礎的な評価を経験することで、基礎的な評価が可能になる。 2 認知症、注意障害、失行の症状を説明することができ、それらに対する基礎的な評価が可能となる。				【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻や欠席も評価の対象となる。 演習授業の結果を踏まえて課題が出される。 配布資料やマニュアルは複数回の授業で使用するので都度持参すること。		
【成績評価方法】 定期試験・小テスト（90％）、課題（10％）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 精神障害領域および高次脳機能障害領域の作業療法評価が理解できる。		
				【実務家教員担当科目】 精神科領域および高次脳機能障害領域で臨床経験のある教員が担当する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	香山・高橋	オリエンテーション 業療法プロセスと評価の意義 高次脳機能障害の評価の進め方	配布資料	－		
2	高橋	簡易知能検査	配布資料	－		
3	高橋	注意障害・半側空間無視の評価	配布資料	－		
4	高橋	失語・失行の評価	配布資料	－		
5	高橋	認知症・前頭葉症状の評価	配布資料	－		
6	高橋	知能検査	配布資料	－		
7	香山	精神疾患の診断と作業療法評価 面接とは（講義）	配布資料	－		
8	香山	面接（演習）	配布資料	－		
9	矢萩	情報収集（演習）	配布資料	－		
10	矢萩	観察とは（講義）観察（演習）ビデオ観察演習	配布資料	－		
11	矢萩	観察（演習）作業を用いた観察と観察記録	配布資料	－		
12	香山	検査とは（講義） 検査（演習）GAF、BPRS 等	配布資料	－		
13	香山・矢萩	検査（演習）Bacs-J 等	配布資料	－		
14	香山・矢萩	検査・調査（演習）LASMI,Rehab 等 まとめ	配布資料	－		
教 科 書		標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 岩崎テル子編 医学書院 標準作業療法学専門分野 高次脳機能作業療法学 能登真一編 医学書院 高次脳機能障害マエストロシリーズ③リハビリテーション評価 鈴木孝治他 医歯薬出版				
参 考 書		授業時に紹介する				
備 考		問い合わせ教員：香山明美				

科 目 名		作業療法評価学実習Ⅲ		担 当 者	本多ふく代
科目ナンバリング		1020432080			常勤
D	P	1,3		教員研究室	3202
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		実習	授 業 時 間	45 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本科目では、発達領域の評価と職業リハビリテーションに関する評価を中心に学ぶ。発達領域の評価では 2 年前期と後期で学ぶ人間発達学に関する知識を活用して、発達期の対象児の運動・感覚統合・認知・行動等の評価について学ぶ。さらに授業で得た知識を、実習を通して深める。職業リハビリテーションに関する評価では、障害を持つ人の就労を支援する法律や制度について学ぶ。さらに障害を持つ人が、職業を見つけ、就き、継続するために必要な機能・能力に関する評価、また環境に関する評価を学ぶ 【学習の到達目標】 1. 発達障害領域の評価の目的と内容を理解し説明できる。2. 発達障害領域の評価方法を理解し一部実践できる。3. 職業リハビリテーション領域の作業療法評価を理解し説明できる。 【成績評価方法】 小テスト・授業内発表：10％、レポート・課題提出：30％、定期テスト（中間テストを含む）：60％ 【課題等のフィードバック方法】 授業の最後に質問を受ける他にクラスルーム上での質問感想に答える。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・講義及び演習・実習では復習課題およびレポートを課します。期日を守って提出すること。グループ学習においては、互いに意見を出し合い、学習が深まるよう努力すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 1. 議論を通して、発達障害領域の作業療法に関する視点・考え方を深めることができる。 2. 様々な疾患・障害に対する作業療法の実践を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 作業療法士として発達障害領域の実務に当たる教員がその経験を基に、実際の評価の考え方や手技などを具体的に教授する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	本多	幼稚園実習オリエンテーション、発達障害領域の評価について	教科書該当部分		－
2	本多	幼稚園実習 / 振り返り、課題学習	発達障害作業療法学での学習の予習と実習の振り返り		－
3	本多	発達全般の評価（講義・演習）	教科書該当部分		－
4	本多	運動機能の評価（講義）	教科書該当部分		－
5	本多	運動機能の評価・実技	運動機能の評価授業内容の復習		－
6	本多	感覚統合機能、視知覚・視覚認知の評価（講義）	教科書該当部分		－
7	本多	感覚統合機能、視知覚・視覚認知の評価（実技）	感覚統合機能、視知覚・視覚認知の評価授業内容の復習		－
8	本多	知能・認知機能の評価（講義）	教科書該当部分		－
9	本多	知能・認知機能の評価（実技）	知能・認知機能の評価授業内容の復習		－
10	本多	行動の評価（講義・演習）	教科書該当部分		－
11	本多	ADL の評価（講義・演習）	教科書該当部分		－
12	本多	職業関連活動の評価（講義）	教科書該当部分		－
13	本多	職業関連活動の評価（講義・演習）	教科書該当部分		－
14	本多	職業関連活動の評価（演習）	該当部分の授業での学習内容		－
教 科 書		能登真一他編著：標準作業療法学 作業療法評価学第 4 版 医学書院			
参 考 書		辛島千恵子編：イラストでわかる発達障害の作業療法、医歯薬出版 中村 俊彦、建木 健、藤田 さより編著：就労支援の作業療法－基礎から臨床実践まで、医歯薬出版、2022 年 他随時紹介			
備 考		問い合わせ教員：本多ふく代			

科 目 名		作業治療論		担 当 者	本多ふく代	
科目ナンバリング		1020432081			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3202	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 作業療法概論・基礎作業学などの1 年次の科目で得られた作業療法に関する知識をベースに、作業療法治療実践の目的、意味と根拠を示す実践の枠組みや治療理論について学ぶ。 作業療法実践の基本となる作業は、人が生きていることそのものに通じるため、生活の作業構成やこれまでの作業のプロフィールなど学生自身と作業との関係を考察し、作業療法と基礎となる作業への理解を深め、治療としてどのように用いるか基礎を学ぶ。 【学習の到達目標】 1. 作業と人と環境の関係性、健康との関係を説明できる。 2. 作業療法のリーズニングを説明できる。 3. 作業療法の実践の枠組み、理論について説明できる。 【成績評価方法】 小テストと授業内発言：10％、レポート・課題提出状況：20％、定期試験：70％ 【課題等のフィードバック方法】 課題へのフィードバックを授業内で行う。授業の最後に質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業に際して、小テストを実施するので、予習・復習を行って臨むこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 各領域の作業療法評価学、作業療法治療学の作業療法治療実践における位置づけや意味を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 作業療法士として実務を行ってきた教員が、その経験を基に作業療法士の実践の基礎について、具体的に教示する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	本多	オリエンテーション、作業療法治療の概要				4 時間
2	本多	作業療法の成り立ち・変遷、人間と作業、作業の分類	予習：教科書を熟読しておく、復習：授業内容の振り返り			4 時間
3	本多	人の健康と作業療法、対象理解	予習：教科書を熟読しておく、復習：授業内容の振り返り			4 時間
4	本多	作業療法治療の枠組み：実践過程、リーズニング	予習：教科書を熟読しておく、復習：授業内容の振り返り			4 時間
5	本多	作業療法治療の枠組み：作業療法治療の各種理論 1	予習：教科書を熟読しておく、復習：授業内容の振り返り			4 時間
6	本多	作業療法治療の枠組み：作業療法治療の各種理論 2	予習：教科書を熟読しておく、復習：授業内容の振り返り			4 時間
7	本多	作業療法治療の枠組み：作業療法治療の各種理論 3・まとめ	予習：教科書を熟読しておく、復習：授業内容の振り返り			4 時間
教 科 書		吉川ひろみ編著：作業療法の話をしよう：作業の力に気づくための歴史・理論・実践、医学書院、2019.				
参 考 書		濱口豊太編著：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3 版 医学書院、2017. 矢谷令子監，能登真一編：作業療法学概論 第4 版（標準作業療法学 専門分野），医学書院，2021.				
備 考		問い合わせ教員：本多ふく代				

科 目 名	身体障害作業療法学			担 当 者	首藤 和弘
科目ナンバリング	1020432082				常勤
D P	1,4			教員研究室	3106
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 身体障害領域作業療法を学ぶうえで必要な基礎的知識を習得し、身体障害作業療法に必要な治療技法の原則について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 各項目ごとの小テストは随時フィードバックを行う。 授業終了後、質問を受け付け回答する。	
【学習の到達目標】 1. 身体障害領域の作業療法技法の目的と方法対象について説明できる。 2. 身体障害作業療法の課程について説明できる。 3. 授業で学んだ身体障害領域の作業療法で共通して求められる治療原理を説明することができる				【履修上の注意・予習・復習について】 新しく学ぶことがほとんどであるため予習は難しいと思うが、事前に教科書に目を通しておくようにしてほしい。授業に対しては真剣に取り組み、授業時間内で理解できるように不明なところは積極的に質問するなど個々に努力してもらいたい。また、その日に学んだことは必ず復習し、理解できているかどうか確認し、各項目毎に小テストを実施しますので、その復習も怠らず、確実に自分の知識となるよう進めていって下さい	
【成績評価方法】 課題提出 10%、定期試験の成績 90%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 身体障害作業療法の一連の過程について知ること、また基本となる治療理論、治療原則を学ぶことによって、各種疾患の身体障害領域の作業療法介入を学ぶための基礎を築くことができる。 【実務家教員担当科目】 身体障害領域の臨床経験を持つ作業療法士が担当し臨床での事例などの知識を活用した講義を行っている。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	首藤	身体障害作業療法の対象、目的と方法および枠組み 身体障害作業療法のプロセス	復習：教科書および配布資料を参考に、小テストを完成させて復習する。		4 時間
2	首藤	作業療法介入のためのボディメカニクス運動学習	予習：授業に該当する教科書読んでおく。復習：教科書および配布資料を参考に、小テストを完成させて復習する。		4 時間
3	首藤	関節可動域維持・増大のための介入	予習：授業に該当する教科書読んでおく。復習：教科書および配布資料を参考に、小テストを完成させて復習する。		4 時間
4	首藤	筋力と筋持久力の維持・増強のための基礎知識	予習：授業に該当する教科書読んでおく。復習：教科書および配布資料を参考に、小テストを完成させて復習する。		4 時間
5	首藤	筋緊張異常と不随意運動	予習：授業に該当する教科書読んでおく。復習：教科書および配布資料を参考に、小テストを完成させて復習する。		4 時間
6	首藤	協調運動障害に関しての基礎知識	予習：授業に該当する教科書読んでおく。復習：教科書および配布資料を参考に、小テストを完成させて復習する。		4 時間
7	首藤	感覚・知覚再教育の基礎知識と介入（知覚再教育）	予習：授業に該当する教科書読んでおく。復習：教科書および配布資料を参考に、小テストを完成させて復習する。		4 時間
教 科 書		標準作業療法学 身体機能作業療法学 第 4 版 山口 昇 玉垣 努編 医学書院			
参 考 書		必要に応じて提示する。			
備 考					

科 目 名		内部障害作業療法学			担 当 者	高木 大輔
科目ナンバリング		1020432083				常勤
D P		1,2			教 員 研 究 室	3210 研究室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 近年の作業療法においては肢体不自由のみならず内部障害を併せ持つ事例が多くなっている。また作業療法士にとって対象者のリスク管理に関わる知識は、領域を問わず精通すべき基本事項である。この授業では内部障害を生じる代表的な疾患として呼吸器疾患、心疾患、糖尿病、悪性腫瘍などを取り上げ、疾患の知識（原因、症状、治療、予後）を復習しながら、生活障害の特性と評価、作業療法について学習する。						
【課題等のフィードバック方法】 レスポンスペーパー等により授業内容の理解度を確認し、次回の講義において補足する。また、定期試験結果については希望者全員に結果を個別に開示しフィードバックする。						
【履修上の注意・予習・復習について】 授業計画に示している疾患について内部障害系病学（2 年前期）で学んだことを復習して授業に臨むこと。						
【学習の到達目標】 1) 内部障害に関する疾患について説明できる 2) 内部障害の作業療法評価について説明できる 3) 内部障害の作業療法について説明できる						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 内部障害の作業療法を実践するための基礎的知識を学ぶことができる。また作業療法を実践する上でのリスク管理についての理解を深めることもできる。						
【成績評価方法】 定期試験で成績評価を行う（100%）						
【実務家教員担当科目】 身体機能領域における作業療法実践経験を有する作業療法士が臨床的な観点を交えながら講義する。						

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	高木	内部障害と作業療法概論	予習：教科書 p.14-46 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。		4 時間
2	高木	呼吸器疾患	予習：教科書 p.86-106 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。		4 時間
3	高木	心疾患	予習：教科書 p.110-126 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。		4 時間
4	高木	悪性腫瘍①	予習：教科書 p.131-154 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。		4 時間
5	高木	悪性腫瘍②	予習：教科書 p.131-143 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。		4 時間
6	高木	サルコペニアとリハ栄養	予習：教科書 p.158-172 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。		4 時間
7	高木	糖尿病	予習：教科書 p.176-192 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。		4 時間
教 科 書		小林隆司編 PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学 2 内部疾患編 第 1 版 羊土社			
参 考 書		山口昇・他編 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第 4 版 医学書院			
備 考		参考書を使用する際には教員より指示する。			

科 目 名		神経障害作業療法学		担 当 者	○高橋 由美・首藤 和弘	
科目ナンバリング		1020432084			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3216	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 脳血管障害、神経難病、脊髄損傷などの神経系の傷病に対しての作業療法を実践するために各疾患の病態と障害特性を理解し、必要な評価の選択、実施方法、評価結果の解釈、問題解決のための介入という作業療法実施過程について講義を通して理解する。						
【学習の到達目標】 1. 中枢神経疾患の障害特性について説明することができる。 2. 脳血管障害の障害の特性、作業療法評価、介入について説明することができる。 3. パーキンソン病の障害の特性、作業療法評価、介入について説明することができる。 4. 脊髄損傷の損傷髄節高位における障害の特性と、作業療法評価、介入について説明することができる。 5. 脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、「ギランバレー症候群、重症筋無力症の障害特性と介入について説明することができる。						
【成績評価方法】 課題点（小テスト得点、課題得点）20％、定期試験 80％						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高橋	パーキンソン病の基礎知識・障害の特徴	予習：パーキンソン病の教科書ページを読んでくる。復習：復習課題に回答し、期限までに提出する。			4 時間
2	高橋	パーキンソン病の評価・作業療法	予習：パーキンソン病の教科書ページを読んでくる。復習：復習課題に回答し、期限までに提出する。			4 時間
3	高橋	脊髄小脳変性症の障害像・評価・作業療法	予習：脊髄小脳変性症の教科書ページを読んでくる。復習：復習課題に回答し、期限までに提出する。			4 時間
4	高橋	筋萎縮性側索硬化症の障害像・評価・作業療法	予習：筋萎縮性側索硬化症の教科書ページを読んでくる。復習：復習課題に回答し、期限までに提出する。			4 時間
5	高橋	多発性硬化症・ギランバレー症候群・	予習：多発性硬化症・ギランバレー症候群の教科書ページを読んでくる。復習：復習課題に回答し、提出する。			4 時間
6	高橋	重症筋無力症	予習：重症筋無力症の教科書ページを読んでくる。復習：復習課題に回答し、期限までに提出する。			4 時間
7	高橋	脊髄損傷の評価・髄節レベル別の残存機能	予習：脊髄損傷の教科書ページを読んでくる。復習：復習課題に回答し、期限までに提出する。			4 時間
8	高橋	脊髄損傷の評価・髄節レベル別の ADL	予習：脊髄損傷の教科書ページを読んでくる。復習：復習課題に回答し、期限までに提出する。			4 時間
9	高橋	脊髄損傷（急性期の作業療法	予習：脊髄損傷の教科書ページを読んでくる。復習：復習課題に回答し、期限までに提出する。			4 時間
10	高橋	脊髄損傷（回復期の作業療法）	予習：脊髄損傷の教科書ページを読んでくる。復習：復習課題に回答し、期限までに提出する。			4 時間
11	首藤	中枢神経の機能とその障害	予習：中枢神経について解剖学の教科書を復習しておく。復習：配布した資料を見直す。			4 時間
12	首藤	脳血管障害の特徴	予習：脳血管疾患の教科書ページを読んでくる。復習：配布した資料を見直す。			4 時間
13	首藤	脳血管疾患（評価）	予習：脳血管疾患の教科書ページを読んでくる。復習：配布した資料を見直す。			4 時間
14	首藤	脳血管疾患（治療理論）	予習：脳血管疾患の教科書ページを読んでくる。復習：配布した資料を見直す。			4 時間
教 科 書		標準作業療法学 身体機能作業療法学 第 4 版 岩崎テル子編 医学書院 標準作業療法学 作業療法評価学 第 4 版 能登真一他 医学書院				
参 考 書		日常生活活動（ADL）第 2 版 伊藤利之・江藤文夫編 医歯薬出版				
備 考		問い合わせ先：高橋由美				

科 目 名		運動器障害作業療法学			担 当 者	高木 大輔	
科目ナンバリング		1020432085				常勤	
D P		1,2			教 員 研 究 室	3210 研究室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 骨折、加齢性関節疾患、関節リウマチ、末梢神経損傷、腱損傷、熱傷、四肢切断の対象者に作業療法を実施できるようになるために、それぞれの疾患の病態を理解し、作業療法の評価方法と治療、指導、援助方法について学ぶ。 【学習の到達目標】 1) 運動器疾患の病態を説明できる 2) 運動器疾患の作業療法評価を説明できる 3) 運動器疾患の作業療法を説明できる 【成績評価方法】 筆記試験で成績評価を行う（100％）							【課題等のフィードバック方法】 レスポンスペーパー等により授業内容の理解度を確認し、次回の講義において補足する。また、定期試験結果については希望者全員に結果を個別に開示しフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業計画に示している疾患について運動器障害系病学（2 年前期）で学んだことを復習して授業に臨むこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 運動器疾患の作業療法を実践するための基礎的知識を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 運動器疾患における作業療法実践経験を有する作業療法士が臨床的な観点を交えながら講義する。
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習			学修時間	
1	高木	骨 折	予習：教科書 p.216-231 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。			4 時間	
2	高木	加齢性関節疾患	予習：教科書 p.232-238 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。			4 時間	
3	高木	関節リウマチ	予習：教科書 p.239-254 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。			4 時間	
4	高木	末梢神経損傷	予習：教科書 p.261-278 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。			4 時間	
5	高木	腱損傷	予習：教科書 p.279-297 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。			4 時間	
6	高木	熱 傷	予習：教科書 p.298-309 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。			4 時間	
7	高木	四肢切断	予習：教科書 p.310-326 を読む 復習：授業中のメモやハイライト部分、配布プリントから要点をまとめる。			4 時間	
教 科 書		山口昇・他編 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第 4 版 医学書院					
参 考 書		必要時応じて授業等で紹介する。					
備 考							

科 目 名		身体障害作業療法学演習		担 当 者	○首藤 和弘・高橋 由美 犬塚千賀子
科目ナンバリング		1020432086			常勤
D	P	1,3		教員研究室	3106
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位
					必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
疾患や外傷によってそれまでに行われていた日常生活活動（ADL）が急にできなくなってしまう。再び ADL を可能にし、社会復帰するためには障害を持ちながら残存している機能を使用した新たな動作の獲得や環境の工夫をすることによって日常生活ができるようになることが必要である。この授業では、身体障害を持った対象者に必要な ADL 動作の方法を学ぶ。また身体障害作業療法学で学んだ治療技術の一部も実習する。		提出課題については随時添削を行ったうえで返却する。また、次の授業時間内にフィードバックする。試験結果は答案を含めて個別に開示する。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
1. 各疾患におけ ADL 障害の特徴を説明することができる。 2. 身体障害による ADL 障害に対する基本的動作の支援方法を説明することができる。 3. 脳血管障害の ADL 支援を行うことができる。		・身体障害作業療法学、神経障害作業療法学で学んだ知識にあわせて授業を行うので、内容の関連について予習・復習すること。 ・実技の際は指定された服装に着替えた上で出席出席すること。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
定期試験（80％）と提出課題（20％）、で成績評価を行う。		ADL の障害に対して、医学的に評価し支援するための視点を養うことができる。また、対象者の ADL 自立に向けた具体的な支援技術の習得が可能となる。			
【実務家教員担当科目】		身体機能作業療法学分野の病院勤務経験を有する教員が、日常動作の介助法や環境設定の方法などについて臨床的な話題を交えながら演習を行う。			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	首藤	オリエンテーション 関節可動域訓練 痛みの見方	予習：身体機能作業療法学の該当ページと身体障害作業療法学で配布した資料を復習する。 復習：配布資料を見直す。		1 時間
2	首藤	協調運動障害（主に運動失調）に対する介入方法	予習：身体機能作業療法学の該当ページと身体障害作業療法学で配布した資料を復習する。 復習：配布資料を見直す。		1 時間
3	高橋	ポジショニング（褥瘡予防・拘縮予防）	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：教員から配布された課題があればそれを完成させることにより授業の振り返りを行う。		1 時間
4	高橋	呼吸に関する対応（呼吸管理 呼吸介助 排痰法等）	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：教員から配布された課題があればそれを完成させることにより授業の振り返りを行う。		1 時間
5	高橋	摂食・嚥下障害（治療的介入・環境調整・食具操作）	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：教員から配布された課題があればそれを完成させることにより授業の振り返りを行う。		1 時間
6	高橋	姿勢制御と ADL 障害（脳血管障害を中心に）	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：教員から配布された課題があればそれを完成させることにより授業の振り返りを行う。		1 時間
7	高橋	寝返り・起き上り動作の障害（正常からの逸脱・動作援助・治療的介入）	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：教員から配布された課題があればそれを完成させることにより授業の振り返りを行う。		1 時間
8	高橋	起立・着座動作の障害（正常からの逸脱・動作援助・治療的介入）	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：教員から配布された課題があればそれを完成させることにより授業の振り返りを行う。		1 時間
9	高橋	移動動作（歩行・車椅子駆動）の障害・動作援助・治療的介入／移動と周辺視野	予習：教科書の該当ページを読んでおく。 復習：教員から配布された課題があればそれを完成させることにより授業の振り返りを行う。		1 時間
10	首藤	脳血管障害の移乗動作	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらワークシートや配布資料を見直す。		1 時間
11	首藤	脳血管障害の更衣動作	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらワークシートや配布資料を見直す。		1 時間
12	首藤	脳血管障害のトイレ動作（環境整備も含めて）	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらワークシートや配布資料を見直す。		1 時間
13	首藤	脳血管障害の入浴動作（環境整備も含めて）	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらワークシートや配布資料を見直す。		1 時間
14	犬塚	生活関連活動（主に家事について）	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。		1 時間
教 科 書		①新版 日常生活活動（ADL）第2版 評価と支援 医歯薬出版 ②標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 医学書院 ③身体障害作業療法学1 骨関節・神経疾患編 第1版 羊土社			
参 考 書		必要に応じて授業時に紹介する。			
備 考		質問等は科目担当者である首藤和弘、高橋由美、犬塚千賀子に問い合わせること。			

科 目 名		身体障害作業療法学実習		担 当 者	○王 治文・大黒 一司 首藤 和弘・荒井 隆徳 未定 A	
科目ナンバリング		1020432087			常勤	
D P		2,3		教員研究室	3205	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 2 年次までの身体障害領域の授業で学んだ知識、技術をもとに、対象者に合わせて必要な評価を立案し、観察、面接等を実施する。これらの情報に基づき統合解釈を行い、問題点抽出、目標設定を実践的に学習する。また、対象者に適切な介入プログラムについて、実施する目的や方法、環境設定等を考える。 【学習の到達目標】 1. 提示された事例の情報より、各疾患の特徴を考慮したうえで評価計画立案ができる。 2. 提示した事例情報または対象者の講話および観察、評価、面接の実施により、得られた情報を統合解釈し、問題点抽出と目標設定ができる。 3. 臨床における対象者への身体障害作業療法の一連の過程を理解できる。 【成績評価方法】 参加状況、ワークシート等の提出状況、成果発表等で総合的に判断する						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	王・大黒・首藤	①オリエンテーション：シラバス説明 ②身体障害作業療法の一連の過程について	授業内容の復習		－	
2	王・大黒・首藤	評価計画立案：事例紹介から考える評価の選択、実施計画	学習した内容をワークシートにまとめる		－	
3	王・大黒・首藤	事例評価：学んだ評価技法が事例の個人的背景、疾患特徴、注意事項等を考慮した評価実施計画	学習した内容をワークシートにまとめる		－	
4	王・大黒・首藤	事例評価実施：情報収集、面接、動作観察等の評価実施及び評価結果の記録	学習した内容をワークシートにまとめる		－	
5	王・大黒・首藤	収集した情報の統合解釈および問題点抽出、目標設定	学習した内容をレポートにまとめる		－	
6	王・大黒・首藤	急性期・回復期等異なる時期や個人因子、環境等を考える作業療法臨床推理	学習した内容をワークシートにまとめる		－	
7	王・大黒・首藤	事例検討（急性期対象者、回復期対象者）：統合解釈	学習した内容をワークシートにまとめる		－	
8	王・大黒・首藤	事例検討（続き）：問題点抽出、目標設定	学習した内容をワークシートにまとめる		－	
9	王・大黒・首藤	事例発表準備	学習した内容を発表できるようにまとめる		－	
10	王・大黒・首藤	事例検討：作業療法介入	学習した内容をまとめる		－	
11	王・大黒・首藤	事例検討（続き）：作業療法介入	学習した内容をまとめる		－	
12	非常勤講師・王・大黒・首藤	①非常勤講師講演：回復期病院における作業療法の実際 ②事例発表（回復期）：非常勤講師より講評、補足説明	学習した内容をワークシートにまとめる 成果発表		－	
13	非常勤講師・王・大黒・首藤	①非常勤講師講演：急性期病院における作業療法の実際 ②事例発表（急性期）：非常勤講師より講評、補足説明	学習した内容をワークシートにまとめる 成果発表		－	
14	王・大黒・首藤	まとめ： 授業振り返り、学習成果確認			－	
教 科 書		必要に応じて資料を配布する				
参 考 書		「身体機能作業療法学」第 4 版（標準作業療法学 専門分野） 山口昇・玉垣努 編集 医学書院 「作業療法評価学」第 3 版（標準作業療法学 専門分野） 能登真一・他 編集 医学書院 「ひとと作業・作業活動」新版、山根寛著、三輪書店 その他適宜に紹介する				
備 考		授業日程や成績等に関して、主担当教員（王）にお問い合わせください				

科 目 名		発達障害作業療法学		担 当 者	本多ふく代	
科目ナンバリング		1020432088			常勤	
D P		1,4		教員研究室	3202	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 本授業では、子どもの成長発達の部分を中心に心身の機能的変化の下で、活動や参加の状況がどのように変遷していくのかについて学び、それらが障害されることによりどのような変化が生じるのかについて概略を学ぶ。それを通して、障害を持つ子どもたちの作業療法がどのような役割を果たせるのかについて学んでいく。 また、本講義の一環として協力の得られた認定こども園において1～2歳、同法人幼稚園において3～5歳児とともに遊び、授業で学んだ心身機能・活動参加の発達を学ぶ体験実習を行う。						
【学習の到達目標】 1. 発達の基本原理を理解し説明できる。 2. 発達障害領域の作業療法の治療原理・実践課程を理解し、説明できる。 3. 子どもと遊ぶ体験を通して、子どもの発達の概観を説明できる。						
【成績評価方法】 レポート：20%、小テスト：10%、定期試験：70%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	本多	発達障害と作業療法、作業療法と発達	教科書該当部分		4 時間	
2	本多	発達障害領域の作業療法の理念と役割	教科書該当部分		4 時間	
3	本多	発達過程と治療への応用（心身機能：原始反射と粗大運動発達）、小テスト	教科書該当部分		4 時間	
4	本多	発達過程と治療への応用（心身機能：眼と手の発達と巧緻運動の発達）	教科書該当部分		4 時間	
5	本多	発達過程と治療への応用（心身機能：感覚統合の発達）	教科書該当部分		4 時間	
6	本多	発達過程と治療への応用（心身機能：認知・言語の発達）	教科書該当部分		4 時間	
7	本多	発達過程と治療への応用（心身機能：心理社会性の発達）	教科書該当部分		4 時間	
8	本多	発達過程と治療への応用（活動参加：ADL の発達） 摂食嚥下、小テスト	教科書該当部分		4 時間	
9	本多	発達過程と治療への応用（活動参加：ADL の発達） 排泄・その他全般	教科書該当部分		4 時間	
10	本多	発達過程と治療への応用（活動参加：遊びの発達）	教科書該当部分		4 時間	
11	本多	発達過程と治療への応用（活動参加：教育・職業関連活動）	教科書該当部分		4 時間	
12	本多	評価・治療・援助の実践過程（治療の概念的基礎）、小テスト	教科書該当部分		4 時間	
13	本多	評価・治療・援助の実践過程（評価と治療計画）	配布資料		4 時間	
14	本多	友愛幼稚園実習振り替え分			4 時間	
教 科 書		①辛島千恵子編：イラストでわかる発達障害の作業療法、医歯薬出版、2016 ②大城昌平編著：リハビリテーションのための人間発達学第3版、メディカルプレス、2021				
参 考 書		「発達障害と作業療法：基礎編」岩崎清隆著 三輪書店 「発達障害と作業療法：実践編」岩崎清隆・岸本光男著 三輪書店 「こどものリハビリテーション医学」第2版陣内一保・他編 医学書院 その他授業時紹介				
備 考		問い合わせ教員：本多ふく代				

科 目 名		発達障害作業療法学実習		担 当 者		本多ふく代	
科目ナンバリング		1020432089				常勤	
D P		1,3		教員研究室		3202	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次		3 年次・前期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 本授業では、発達障害児・者に対する作業療法の実際を学ぶ。新生児疾患に始まる肢体不自由児、知的障害や自閉スペクトラム症をはじめとする狭義の発達障害児など、各疾患・障害の特性と発達の变化の基礎を知識として学ぶとともに作業療法の基本技術を実技実習や事例を通じた演習を通して学ぶ。 幼稚園実習においては、幼児を対象に遊びを通じた実践的関わりを行い、幼児の反応を観察・体験共有する。それを通して、関わりのあり方について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 授業の最後に質問を受ける他にクラスルーム上での質問感想に答える。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・講義及び演習・実習では復習課題およびレポートを課します。期日を守って提出すること。 ・実技実習の際は、髪の毛や爪は整え、実習着はケーシーを着用すること（幼稚園実習においては必要ない）。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 1. 議論を通して、発達障害領域の作業療法に関する視点・考え方を深めることができる。 2. 様々な疾患・障害に対する作業療法の実践を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 作業療法士として発達障害領域の実務に当たる教員がその経験を基に、実際の治療の考え方や手技などを具体的に教授する。			
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間			
				予習・復習			学修時間
1	本多	オリエンテーション、子どもの発達と作業療法、評価と治療構造の分析		教科書 0 章、1 章			－
2	本多	疾患別アプローチ 5：新生児疾患		教科書 1 章・2 章			－
3	本多	発達の各領域に対するアプローチ：脳性麻痺		配布資料・参考書			－
4	本多	発達の各領域に対するアプローチ：摂食嚥下障害		教科書 3 章 -2			－
5	本多	幼稚園実習 / グループ課題		教科書 3 章 -2			－
6	本多	幼稚園実習 / グループ課題		教科書 3 章 -1			－
7	本多	疾患別アプローチ：デュシャンヌ型筋ジストロフィー		教科書 3 章 -3			－
8	本多	疾患別アプローチ：二分脊椎		教科書 3 章 -4			－
9	本多	疾患別アプローチ：骨形成不全					－
10	本多	疾患別アプローチ：知的障害					－
11	本多	疾患別アプローチ：ASD/ADHD		教科書 3 章			－
12	本多	疾患別アプローチ：分娩麻痺、医ケア児		教科書 3 章			－
13	本多	対人援助職として作業療法士に求められるもの事例検討		教科書 3 章、4 章			－
14	本多	事例検討・まとめ		別途資料事前配布			－
教 科 書		神作一実編「ゴールドマスターテキスト：発達障害作業療法学」改訂第 3 版、メディカルビュー社、2020。 辛島千恵子編：イラストでわかる発達障害の作業療法、医歯薬出版、2016					
参 考 書		大城昌平編著：リハビリテーションのための人間発達学第 3 版、メディカルプレス、2021 「発達障害と作業療法（実践編）」第 2 版 三輪書店 その他、随時紹介					
備 考		問合せ先教員：本多ふく代					

科 目 名		精神障害作業療法学		担 当 者	○香山 明美・矢萩 未来	
科目ナンバリング		1020432090			常勤	
D P		1,2		教員研究室		3203
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次		2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 精神障害者に対する作業療法の視点を、歴史をふまえた現状認識を通じて培う。さらに精神科作業療法に関連する実践理論の基礎を学び、精神科作業療法の構造を理解する。 【学習の到達目標】 1. 作業療法の実践に向けて、精神障害者の心身の特徴を理解する。 2. 精神障害者に対する作業療法の目的・手段の概要を理解する。 3. 精神科作業療法に関連する理論の概要を知る。 4. 精神科作業療法の構造を理解する。 【成績評価方法】 定期試験 90％ 課題の提出状況及び内容 10％						
【課題等のフィードバック方法】 課題内容について講義等で解説する。レポートにはコメント等を入れて返す。 授業及び授業終了後質問に答える。 【履修上の注意・予習・復習について】 関連する精神障害系病学・心理学等に関して教科書で復習し、授業に臨むこと。 教科書、配布された資料を使いよく復習すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 1. 作業療法の実践に向けて、精神障害者の心身の特徴が理解できる。 2. 精神障害者に対する作業療法の目的・方法の概要が理解できる。 3. 精神科作業療法に関連する理論の基礎を知ることができる。 4. 精神科作業療法の構造について理解できる。 【実務家教員担当科目】 精神科領域で作業療法士として従事した教員が担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	香山	オリエンテーション・精神障害者の理解と作業療法の役割	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
2	香山	精神科作業療法の目的・手段・効果	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
3	香山	精神科作業療法の歴史	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
4	矢萩	関連理論①(精神分析・力動精神医学・作業行動)	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
5	香山	関連理論②(学習理論・ストレス理論)	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
6	矢萩	関連理論③（情報処理理論 1）	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
7	矢萩	関連理論④（情報処理理論 2）	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
8	香山	関連理論⑤（リカバリーストレングスモデル）	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
9	香山	治療構造論①（対象者・作業療法士	予習：これまでに配布された資料、教科書を復習すること 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
10	香山	治療構造論②（作業活動 1）	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
11	矢萩	治療構造論③（作業活動 2）	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
12	矢萩	治療構造論④（集団 1）	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
13	香山	治療構造論⑤（集団 2・場所と場・時間）	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
14	香山	治療構造論まとめ	予習：教科書を読むこと 復習：配布された資料、教科書を復習すること			4 時間
教 科 書		「生活を支援する精神障害作業療法」第 3 版 医歯薬出版 「精神障害と作業療法」第 3 版 三輪書店				
参 考 書		「ひとと作業・作業活動 新版」三輪書店				
備 考		問い合わせ先：香山明美				

科 目 名		精神障害作業療法学実習		担 当 者	○香山 明美・矢萩 未来	
科目ナンバリング		1020432091			常勤	
D P		1,3		教員研究室	3203	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 作業療法評価学実習Ⅱ、精神障害作業療法学で学んだ知識・技術を基に、精神保健領域で対象となることが多い精神疾患についての作業療法について学習する。精神障害領域の作業療法についてのまとめを行う。 【学習の到達目標】 1. 精神保健領域で対象となることが多い疾患についての作業療法を理解する。 2. 精神科作業療法に関連する法制度を理解する。 【成績評価方法】 定期試験 90％ 課題提出状況及び内容 10％						【課題等のフィードバック方法】 別途説明する。 【履修上の注意・予習・復習について】 関連する精神医学疾患に関しては、教科書等で復習することがこの授業の予習となる。配付された資料をもとによく復習すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 1. 疾患ごとの作業療法を理解できる。 2. 精神科作業療法に関連する法制度を知ることができる。 【実務家教員担当科目】 精神科領域で臨床経験がある教員が担当する。
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習	学修時間	
1	香山	治療学総論 1 ～治療目的と手段		配付資料をよく復習すること	－	
2	香山	治療学総論 2 ～治療場所と関連法規		配付資料をよく復習すること	－	
3	香山	治療学総論 3 ～地域生活・就労支援・司法		配付資料をよく復習すること	－	
4	香山	統合失調症～急性期から回復期		配付資料をよく復習すること	－	
5	香山	統合失調症～維持期		配付資料をよく復習すること	－	
6	香山	当事者の体験を聞く会		配付資料をよく復習すること	－	
7	矢萩	摂食障害		配付資料をよく復習すること	－	
8	香山	気分障害①		配付資料をよく復習すること	－	
9	香山	気分障害②		配付資料をよく復習すること	－	
10	矢萩	神経症圏①		配付資料をよく復習すること	－	
11	矢萩	神経症圏②		配付資料をよく復習すること	－	
12	矢萩	人格障害		配付資料をよく復習すること	－	
13	矢萩	薬物・物質依存		配付資料をよく復習すること	－	
14	矢萩	精神発達遅滞・てんかん		配付資料をよく復習すること	－	
教 科 書		「精神障害と作業療法」第3版 三輪書店 「生活を支援する精神障害作業療法」第2版 医歯薬出版				
参 考 書		授業時に紹介する				
備 考		問い合わせ：香山明美				

科 目 名	高次脳機能障害作業療法学			担 当 者	高橋 由美
科目ナンバリング	1020432092				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3216
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 頭部外傷、脳血管障害等で生ずる高次脳機能障害（失行、失認、失語、記憶障害、遂行障害、注意障害、認知症など）について学ぶ。それらの障害機序を理解し、具体的評価方法・評価結果の解釈について学ぶ。対象者の生活上の問題を検討しながら作業療法アプローチの基礎を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 ・課題は個別に添削・コメントして返却する ・課題の内容については、授業の中で講評・解説し、必要に応じて講義の補填を行う。	
【学習の到達目標】 ・高次脳機能障害の主な症状と発現機序が説明できる ・高次脳機能障害の検査・評価を行い、結果を解釈出来る。 ・検査や評価結果から得られた情報を元に、当事者や家族への支援計画が作製できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・配布された資料や教科書をよく読んで復習すること。 ・単元が終わるごとに小テストを行うので、よく復習しておくこと。	
【成績評価方法】 課題提出・小テスト（20%）筆記試験（80%）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 高次脳機能障害の症状と発現機序を理解することで、臨床で出会う症例の作業を妨げている背景を分析することができ、具体的な支援に結びつけることができる。	
				【実務家教員担当科目】 臨床現場で作業療法士として実務経験を有す教員が、中枢性疾患や頭部外傷の症例と関わった経験を活かして講義を行う。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	高橋	ガイダンス（学習計画・作業療法士の役割）	「作業療法の評価」について、これまで学んだことを復習・書き出しておくこと		1 時間
2	高橋	脳の機能解剖と画像の見方	予習：解剖学の脳の構造を復習しておくこと。 復習：小テストに向けて学習内容を復習すること		1 時間
3	高橋	全般性注意障害の評価（CAT）と介入	予習：注意障害の定義と分類をまとめておくこと 復習：小テストに向けて学習内容を復習すること		1 時間
4	高橋	半側空間無視に対する評価（BIT）と介入	予習：半側空間無視の定義と症状をまとめる 復習：小テストに向けて学習内容を復習すること		1 時間
5	高橋	構成障害・着衣障害の評価と介入	予習：構成障害について調べておく 復習：小テストに向けて学習内容を復習すること		1 時間
6	高橋	記憶障害の評価と介入	予習：記憶の分類についてまとめておく 予習：小テストに向けて学習内容を復習すること		1 時間
7	高橋	失語症と作業療法	予習：失語症の定義と分類についてまとめておく 復習：小テストに向けて学習内容を復習すること		1 時間
8	高橋	失行の評価と介入	予習：失行の定義と分類についてまとめておく 復習：小テストに向けて学習内容を復習すること		1 時間
9	高橋	失認の評価（VPTA）と介入	予習：失認の定義と分類についてまとめておく 復習：小テストに向けて学習内容を復習すること		1 時間
10	高橋	遂行機能障害の評価（BADS）	予習：遂行機能障害の定義についてまとめておく 小テストに向けて学習内容を復習すること		1 時間
11	高橋	遂行機能障害への介入	予習：遂行機能障害への介入についてまとめておく。復習：小テストに向けて学習内容を復習すること		1 時間
12	高橋	頭部外傷（社会的行動障害）	予習：頭部外傷の機序についてまとめておく 小テストに向けて学習内容を復習すること		1 時間
13	高橋	認知症の疾患別作業療法	予習：認知症の定義と分類についてまとめておく 復習：小テストに向けて学習内容を復習すること		1 時間
14	高橋	事例検討	予習：事前に配布した事例情報のわからない用語を調べておく。復習：事例の課題を提出する		1 時間
教 科 書		「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第 3 版」能登真一 医学書院 「標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学第 2 版」能登真一 医学書院			
参 考 書		「病気がみえる 脳・神経」メディックメディア 必要な文献・資料は授業で配布する			
備 考		問い合わせ先：高橋由美			

科 目 名		老年期障害作業療法学			担 当 者	犬塚千賀子
科目ナンバリング		1020432093				常勤
D P		1,3			教 員 研 究 室	3216
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 作業療法においては、年々高齢者を対するニーズが増えている。今後も国民の平均寿命の延長を背景にこの傾向はますます顕著になっていくと思われる。この授業では老年期作業療法の実践を行なう上で必要である加齢に伴う心身の変化に関しての認識を深め、様々な介入の場面を想定し、それぞれに対する作業療法の介入について授業を行っていく予定である。 【学習の到達目標】 1. 高齢社会を理解できる。 2. 高齢期の特徴について理解できる。 3. 高齢期に多い疾患について理解できる。 4. 高齢期の課題や理解できる。 5. 高齢期の作業療法を理解できる。 【成績評価方法】 定期試験 95％， 課題 5％ 【課題等のフィードバック方法】 課題については、適宜確認しコメント等を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 教科書をもとに講義が進められるため、板書された内容を必ず教科書で確認すること。 やむを得ず授業を遅刻・欠席する場合は、科目担当教員に事前に電話または電子メールにて連絡を入れること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 高齢者に対する作業療法の視点について修得できる。 高齢社会の課題や老化の特徴、疾患、関連法規について学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 作業療法士としての経験を持ち、老年期領域での勤務経験のある教員が、老年期作業療法を実施するために必要な知識について講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	犬塚	高齢期作業療法の基礎① 課題、社会制度	予習：教科書 p5-31 を読んでくること。 復習：授業内容を振り返る。			4 時間
2	犬塚	高齢期作業療法の基礎② 高齢期の作業療法、一般的特徴	予習：教科書 p33-52 を読んでくること。 復習：授業内容を振り返る。			4 時間
3	犬塚	高齢期作業療法の基礎③ 高齢期の作業療法、一般的特徴	予習：教科書 p33-52 を読んでくること。 復習：授業内容を振り返る。			4 時間
4	犬塚	高齢期作業療法の実践① 高齢期に多い疾患、実践過程	予習：教科書 p 53-1, 91-102 を読んでくること。 復習：授業内容を振り返る。			4 時間
5	犬塚	高齢期作業療法の実践② 実施場所、病期の違い	予習：教科書 p102-131 を読んでくること。 復習：授業内容を振り返る。			4 時間
6	犬塚	高齢期作業療法の実践③ 介護予防の作業療法	予習：教科書 p132-139 を読んでくること。 復習：授業内容を振り返る。			4 時間
7	犬塚	高齢期作業療法の実践④ 事例紹介	予習：資料を読んでくること。 復習：授業内容を振り返る。			4 時間
教 科 書		「標準作業療法学 高齢期作業療法学」第4版 松房利憲 監修 医学書院				
参 考 書		講義内容に合わせて紹介する。				
備 考		授業に関する質問、問い合わせ先：犬塚千賀子				

科 目 名		日常生活活動学		担 当 者	○高木 大輔・太田 千尋	
科目ナンバリング		1020432094			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	3210 研究室（高木）	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 作業療法士は対象者を支援するための基本的姿勢として、生活に対する深い理解が求められる。このため対象者の生活を構成する様々な要因を医学的観点から分析し、適切な方法で自立を支援しなければならない。この授業では、日常生活活動（ADL）の概念や評価の視点・方法などについて理解を深める。また、人間が日常的に行う運動・動作を観察し記載することを通して、生活の基盤となる正常な運動・動作の特徴を理解する。						
【課題等のフィードバック方法】 レポート課題については次回の授業内で解説する。筆記試験結果については答案を含めて個別に開示しフィードバックする。						
【学習の到達目標】 1) ADL の概念とその範囲が説明できる 2) ADL の評価方法が説明できる 3) 日常動作の観察と記載ができる						
【履修上の注意・予習・復習について】 講義中のスマートフォン使用は教員が許可した場合以外禁止する。予習は予定されている教科書のページを読む。また、復習はレポート課題やノート等を利用し見直しを行うこと。実技の際はジャージ等動きやすい服装に着替えた上で参加すること。						
【成績評価方法】 レポート課題（50%）、筆記試験（50%）で評価する。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 ADL に関する理解を深め、その評価方法を習得することができる。また、生活の基盤となる基本的な運動・動作を観察から評価する視点を養うことができる。						
【実務家教員担当科目】 身体機能作業療法学分野の病院勤務経験を有する教員が、ADL のとらえ方、評価の視点などについて臨床的な話題を交えながら演習を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	太田	ADL の概念と内容	予習：教科書①の該当箇所を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			1 時間
2	太田	作業療法の領域と ADL	予習：教科書①の該当箇所を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			1 時間
3	太田	ADL 評価総論①	予習：教科書①～③の該当箇所を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			1 時間
4	太田	ADL 評価総論②	予習：教科書①～③の該当箇所を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			1 時間
5	太田	ADL 評価各論①	予習：教科書①～③の該当箇所を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			1 時間
6	太田	ADL 評価各論②	予習：教科書①～③の該当箇所を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			1 時間
7	太田	IADL・QOL 評価	予習：教科書①～③の該当箇所を読む。 復習：教科書のチェック箇所を参照しながらノートや配布資料を見直す。			1 時間
8	高木	運動動作分析総論	予習：教科書④の該当箇所を読む。 復習：実施した課題について、教科書に付属の CD－ROM を見ながら自己添削をする。			1 時間
9	高木	運動動作分析の手順と記載方法①	予習：教科書④の該当箇所を読む。 復習：実施した課題について、教科書に付属の CD－ROM を見ながら自己添削をする。			1 時間
10	高木	運動動作分析の手順と記載方法②	予習：教科書④の該当箇所を読む。 復習：実施した課題について、教科書に付属の CD－ROM を見ながら自己添削をする。			1 時間
11	高木	バランス制御と筋活動	予習：教科書④の該当箇所を読む。 復習：実施した課題について、教科書に付属の CD－ROM を見ながら自己添削をする。			1 時間
12	高木	起居動作の動作分析	予習：教科書④の該当箇所を読む。 復習：実施した課題について、教科書に付属の CD－ROM を見ながら自己添削をする。			1 時間
13	高木	日常動作の運動学①：グループワーク	予習：8-12 回の授業資料を整理する。 復習：選択した課題の発表準備をする。			1 時間
14	高木	日常動作の運動学②：発表・フィードバック	予習：選択した課題の発表準備をする。 復習：他グループの発表を参考に、自分の発表内容を見直す。			1 時間
教 科 書		①伊藤利之・他編 新版 日常生活活動（ADL）評価と支援の実際 第2版 医歯薬出版 ②能登真一・他編 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版 医学書院 ③千野直一・他 脳卒中中の機能評価-SIAS と FIM（基礎編）金原出版 ④藤澤宏幸・他 観察による運動・動作分析演習ノート 医歯薬出版				
参 考 書		必要に応じて授業時に紹介する。				
備 考		質問等は科目担当者である高木大輔、太田千尋に問い合わせること。				

科 目 名		生活環境技術学		担 当 者	○犬塚千賀子・大黒 一司 黒後 裕彦
科目ナンバリング		1020432095			常勤
D	P	1,3		教員研究室	3216
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 義肢の適用、治療の促進をはかるための補装具、日常生活動作の改善を図るための福祉用具（日常生活用具や自助具）の適用の技術と指導方法について実習を通して学ぶ。実習では上肢装具、自助具の作成、杖、車いす、福祉用具の適応と活用方法について実技を通して学習する。				【課題等のフィードバック方法】 ・レポート課題は、添削のうえ返却する。 ・講義内で作製する課題については、その都度助言ならびに支援をする。	
【学習の到達目標】 1) 義肢装具、福祉用具、自助具、住宅改修に関する知識と適用方法を理解する。 2) 対象者への義肢装具、福祉用具、自助具、住宅改修の指導、援助技術を習得する。 3) 装具、自助具作成の技術を習得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 実習科目であるため、講義へ積極的に参加すること。実習科目であるため欠席は原則認めない。欠席する場合は授業の始まる前までに担当教員に連絡すること。 中間試験を実施するので復習を行うこと。復習は、実習室を借りて実際の義肢、装具を使いながら復習すること。 やむを得ず授業を遅刻・欠席する場合は、科目担当教員に事前に電話または電子メールにて連絡を入れること。	
【成績評価方法】 実習の作品とレポートの提出（20％）、中間試験（20％）、定期試験（60％）により総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 義手、上肢装具、福祉用具の適応と活用方法を体験できる。また、上肢装具や自助具を実際に作成するため、実際に結び付ける学習ができる。	
【実務家教員担当科目】 作業療法士としての経験を持つ教員が、義肢・装具の基本的知識について講義する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	大黒・犬塚	オリエンテーション 義肢装具総論	予習：教科書の「義手」p15-37 に関する内容を確認する。 復習：授業内容を振り返る。		4 時間
2	大黒・犬塚	義手の構成要素 義手の操作・適合判定	予習：教科書の「義手」p62-106 に関する内容を確認する。 復習：授業内容を振り返る。		4 時間
3	大黒・犬塚	上肢装具 総論・疾患別適応	予習：教科書の「上肢装具」p162-184、227-252 に関する内容を確認する。 復習：授業内容を振り返る。		4 時間
4	大黒・犬塚	上肢保持装具	予習：教科書の「上肢保持装具」p 171 に関する内容を確認する。 復習：授業内容を振り返る。		4 時間
5	犬塚・大黒	上肢装具作成（スプリント作成）：カックアップスプリント	予習：教科書「装具の製作」p185-195 を確認する。指定されたものを準備する。 復習：教科書と授業内容を振り返る。		4 時間
6	黒後	義足、体幹、下肢装具の実際	予習：教科書の「義足、体幹、下肢装具」p138-158 に関する内容を確認する。 復習：授業内容を振り返る。		4 時間
7	大黒	義肢装具のまとめ	1～5 回までの講義内容を教科書や資料をもとに復習し、質問や疑問があれば準備しておくこと。		4 時間
8	犬塚	福祉用具総論 ADL 関連福祉用具と活用方法	予習：資料の「福祉用具総論」に関する内容を確認する。 復習：授業内容を振り返る。		4 時間
9	犬塚・大黒	起居・移乗関連用具の適応と活用方法の実際	予習：資料の「起居・移乗関連用具」に関する内容を確認する。 復習：授業内容を振り返る。		4 時間
10	犬塚・大黒	移動関連用具の適応と活用方法の実際 シーティング	予習：資料の「移動関連用具」に関する内容を確認する。 復習：授業内容を振り返る。		4 時間
11	大黒・犬塚	環境制御装置 コミュニケーション機器	予習：資料の「環境制御装置・コミュニケーション」に関する内容を確認する。 復習：授業内容を振り返る。		4 時間
12	犬塚	自助具の作製と体験	予習：講義で指示した内容を確認しておく。事前課題を提出する。 復習：教科書と授業内容を振り返る。		4 時間
13	犬塚・大黒	介護研修センター見学	別途説明する。		4 時間
14	犬塚	住環境整備 福祉用具のまとめ	1～13 回までの講義内容を復習し、質問や疑問があれば準備しておくこと。		4 時間
教 科 書		1) 作業療法学 ゴールドマスターテキスト「義肢装具学」 長崎重信監修 2) 日常生活活動（ADL）第2版 評価の支援と実際 伊藤利之他編 3) 義肢装具のチェックポイント 第9版 日本整形外科学会 日本リハビリテーション医学会			
参 考 書		手のスプリントのすべて（第4版） 矢崎潔 三輪書店			
備 考		授業に関する質問、問い合わせ：犬塚千賀子、大黒一司			

科 目 名	地域作業療法学Ⅰ			担 当 者	首藤 和弘
科目ナンバリング	1020432096				常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	3106
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地域リハビリテーションの理念と、社会保障制度などの社会資源についての知識を基に、地域作業療法の視点や役割、在宅支援のための地域包括ケアシステムについて学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、質問を受け付け回答する。課題については授業内で必要に応じてフィードバックを行う。	
【学習の到達目標】 1. 地域リハビリテーションの概念について説明できる。 2. 地域リハビリテーションにおける、医学モデルと生活モデルの視点について説明できる。 3. 地域作業療法を支える社会資源とその活用方法について説明できる。 4. 地域作業療法における他職種連携と作業療法との関係・ネットワークについて説明できる。 5. 地域包括システムや総合事業と作業療法との関係を述べるができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 地域作業療法は医療のみならず、介護保険制度をはじめとする、社会保障制度を背景として行われているため、学ぶことは保健、医療、福祉など多岐にわたる。授業の中で不明な点があったら質問をするなどしてその日のうちに理解できるようにしてもらいたい。	
【成績評価方法】 定期試験 90％ 課題提出 10%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 地域において、保健・医療・福祉で活動する作業療法士の需要が高まっている。この科目では地域で実践する作業療法の基礎となる地域という言葉の意味、社会保障制度の中での作業療法、他専門職とその連携などについて学ぶ。	
【実務家教員担当科目】 作業療法士として地域で実践した経験を基に講義を行っている。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	首藤	地域のとらえ方 地域作業療法と生活障害	復習：配付資料と教科書を参考に振り返り課題を完成させ、授業を振り返る。		4 時間
2	首藤	地域リハビリテーションと地域作業療法の視点	予習：前回配布資料を見直す。 復習：配布資料および該当する教科書の記載を見直し、振り返り課題を完成させる。		4 時間
3	首藤	障害者総合支援法・介護保険と地域作業療法の関わり 1	予習：前回配布資料を見直す。 復習：配布資料および該当する教科書の記載を見直し、振り返り課題を完成させる。		4 時間
4	首藤	障害者総合支援法・介護保険と地域作業療法の関わり 2	予習：前回配布資料を見直す。 復習：配布資料および該当する教科書の記載を見直し、振り返り課題を完成させる。		4 時間
5	首藤	支援のためのニーズの把握	予習：前回配布資料を見直す。 復習：配布資料および該当する教科書の記載を見直し、振り返り課題を完成させる。		4 時間
6	首藤	地域作業療法の評価 地域包括支援システムと	予習：前回配布資料を見直す。 復習：配布資料および該当する教科書の記載を見直し、振り返り課題を完成させる。		4 時間
7	首藤	作業療法士が関わるサービス 地域作業療法の実践例	予習：与えられていた課題を提出する。 復習：配布資料を見直し、教科書野が伊藤箇所をみて振り返りを行う。		4 時間
教 科 書		①標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 大熊 明 加藤朋子編 医学書院			
参 考 書		域作業療法学 徳永千尋 田村孝司編 メジカルビュー社 必要に応じて授業内で提示する。			
備 考		質問などがあれば科目担当の首藤和弘まで問い合わせること。			

科 目 名		地域作業療法学Ⅱ		担 当 者	○首藤 和弘・庄司 幸恵 遠藤 宏恵・小野めぐみ 廣島 志保・松木 紀子	
科目ナンバリング		1020432097			常勤・非常勤	
D P		1,4		教員研究室	3106	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 地域でのリハビリテーションを展開するためには、他の職種と連携し、個人の背景、地域特性、障害特性を考慮する包括的な支援を必要とし、幅広い知識が必要とされる。ここでは地域作業療法実践に必要な指導援助技術を学ぶと共に、地域作業療法の視点及び役割、在宅支援のための援助システムについて実習や演習を通して学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。		
【学習の到達目標】 1. 社会資源について理解する 2. 地域作業療法を取りまく具体的な社会資源とその活用の仕方を知る 3. 市域作業療法の実践おいての他職種との連携の仕方について理解する 4. 地域作業療法における作業療法士の実践について学ぶ。 3. 地域の対象者に対しての地域作業療法の実践例を通して、作業療法士の役割について理解する				【履修上の注意・予習・復習について】 授業内で行われるグループワークは積極的に参加し、与えられた課題についてはよりよいものになるように取り組み、それぞれの授業の理解を深める努力をしてください。		
【成績評価方法】 定期試験 60％、課題提出 40％				【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会からの需要が高まっている地域作業療法の実践について学ぶことによって、これから行われる総合実習、卒業後の地域での作業療法の具体的な役割、方法などについて知ることができる。また、実際に地域で活動している作業療法士の話聞くことによって地域で対象者にかかわるうえでの心構えや姿勢を学ぶことができる。さらに臨床で必要な吸引について、実習を通して学ぶことができる。		
【実務家教員担当科目】 各領域の地域作業療法を実践している作業療法士の非常勤講師をまねき、それぞれの領域での経験に基づいた講義を行っている。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	首藤	生活行為向上マネジメント(MTDLP) とは	復習：授業で配布された資料を見直す。		4 時間	
2	首藤	生活行為向上マネジメントの書式と進め方	予習：授業で配布した資料を見直し、グループワークに備える。復習：グループワークの課題に未完成の部分があれば次の授業までに完成させておく。		4 時間	
3	首藤	生活行為向上マネジメント演習 1	予習：授業で配布した資料を見直し、グループワークに備える。復習：グループワークの課題に未完成の部分があれば次の授業までに完成させておく。		4 時間	
4	首藤	生活行為向上マネジメント演習 2	予習：授業で配布した資料を見直し、グループワークに備える。復習：グループワークの課題に未完成の部分があれば次の授業までに完成させておく。		4 時間	
5	非常勤講師	訪問リハビリテーションにおける作業療法の活動の実際 1	予習：訪問リハビリテーションについての教科書の記述やインターネットの情報などで知識を深めて臨む、		4 時間	
6	非常勤講師	訪問リハビリテーションにおける作業療法の活動の実際 2	復習：授業で配布された資料を見直し、講師の行っていたサービスの概要と作業療法士の役割を確認する。		4 時間	
7	非常勤講師	発達障害領域の地域作業療法士の活動 1	予習：発達障害の地域サービスについての教科書の記述やインターネットの情報などで知識を深めて臨む、		4 時間	
8	非常勤講師	発達障害領域の地域作業療法士の活動 2	復習：授業で配布された資料を見直し、講師の行っていたサービスの概要と作業療法士の役割を確認する。		4 時間	
9	非常勤講師	介護研修センターの役割と活動 1	予習：障害者の家屋回収や環境調整などについての教科書の記述やインターネットの情報などで知識を深めて臨む、		4 時間	
10	非常勤講師	介護研修センターの役割と活動 2	復習：授業で配布された資料を見直し、講師の行っていたサービスの概要と作業療法士の役割を確認する。		4 時間	
11	非常勤講師	就労支援での作業療法士の活動 1	予習：障害者の就労に関する社会資源についての教科書の記述やインターネットの情報などで知識を深めて臨む、		4 時間	
12	非常勤講師	就労支援での作業療法士の活動 2	復習：授業で配布された資料を見直し、講師の行っていたサービスの概要と作業療法士の役割を確認する。		4 時間	
13	看護学科教員他 専攻教員	吸引技術の基礎と実際 1	復習：教科書の吸引についての項目を読み、吸引に使用する器具や吸引の手順についての知識を得ておく。		4 時間	
14	看護学科教員 他 専攻教員	吸引技術の基礎と実際 2	復習：授業で配布された資料を見直し感染の予防の手技や吸引の手順について見直し理解を深める。		4 時間	
教 科 書		①地域作業療法 徳永千尋 田村孝司編 メジカルビュー社 ②標準作業療法学 地域作業療法学 第3 版 大熊 明 加藤朋子編 医学書院				
参 考 書		必要に応じて授業の中で紹介する。				
備 考		非常勤講師の都合を調整し、授業の順をさめるため授業の期日について後日説明する。 問い合わせ先 首藤和弘				

科 目 名		地域作業療法学演習		担 当 者	○香山 明美・大内 佳子	
科目ナンバリング		1020432098			常勤・非常勤	
D P		1,4		教員研究室	3203	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 地域における作業療法実践の基礎として訪問支援、就労支援、災害支援、司法領域等における作業療法の実際を学ぶ。 【学習の到達目標】 1 就労支援及び地域生活支援の実際を学ぶ。 2 災害支援における作業療法の実際を学ぶ。 3 司法領域（刑務所や保護観察所）における作業療法の実践を学ぶ。 4. 市町村の保健・福祉活動について学ぶ（見学含む）。 5 地域で活躍できる作業療法士になるために必要なことを、グループワークを通してまとめ、発表する。 【成績評価方法】 課題提出状況 10 点、提出課題の内容 90 点 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業内で行われるグループ課題については積極的に参加し、理解を深める努力をしてください 【受講して得られる効果・メリット、その他】 地域包括ケアシステムついて保健師等から最新の知識が得られ、その中での作業療法士の役割を考えることができる。 【実務家教員担当科目】 地域作業療法を実践してきた作業療法士が講義やグループワークを行う。加えて地域で活躍する保健師等が担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	香山	地域包括ケアシステムに貢献できる作業療法（1）	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
2	香山	災害支援における作業療法の実際	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
3	香山	司法領域（刑務所・保護観察所・矯正施設）における作業療法の実際	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
4	香山	就労支援における作業療法士の実際	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
5	香山	地域包括ケアシステムに貢献できる作業療法（2）	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
6	非常勤講師	市町村における保健・福祉活動の実際	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
7	香山	地域で活躍できる作業療法士になるために（1）	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
8	香山	地域で活躍できる作業療法士になるために（2）	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
9	香山	地域で活躍できる作業療法士になるために（3）	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
10	香山	地域で活躍できる作業療法士になるために（4）	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
11	香山	地域で活躍できる作業療法士になるために（5）	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
12	香山	地域で活躍できる作業療法士になるために（6）	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
13	非常勤講師	地域で活躍できる作業療法士になるために（7）発表	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
14	香山	まとめ	復習：授業で配布された資料を見直す。			1 時間
教 科 書		標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 大熊 明 加藤朋子編 医学書院				
参 考 書		標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 大熊 明 加藤朋子編 医学書院				
備 考		問い合わせ先 香山明美				

科 目 名	臨床実習Ⅰ			担 当 者	○香山 明美・本多ふく代 大黒 一司・高木 大輔 王 治文・首藤 和弘 高橋 由美・矢萩 未来 犬塚千賀子・太田 千尋
科目ナンバリング	1020442099				常勤
D P	2,4			教員研究室	3203
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	実習	授 業 時 間	90 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 学生が臨床実習指導者（以下、指導者）のもとで作業療法の対象やリハビリテーションチームを構成する専門職に対する基本的な接し方や姿勢を学び、作業療法の概要と役割を学習するものである。また、作業療法の実践過程の一部である評価計画立案のために必要な情報収集を実施し、これらの情報をもとに対象者に必要な評価を考え、評価計画の立案を経験する。立案した評価計画に含まれる評価法は指導者が実施する様子を見学し、その後学生が模倣し、経験する。 実習期間：2 週間				【課題等のフィードバック方法】 実習報告会での質疑応答、指導報告書	
【学習の到達目標】 1) 作業療法士を目指す者としての態度と倫理を身につける 2) 施設と作業療法部門の役割を理解できる 3) 情報収集の実施及び評価計画の立案と実施ができる 4) 作業療法部門の管理運営について理解できる				【履修上の注意・予習・復習について】 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における進級及び履修に関する細則第9条（1）を満たすこと。実習前の取り組みでの理由のない欠席や出席の不足は、実習が不可となる場合がある。報告会での欠席も同様である。	
【成績評価方法】 実習オリエンテーション、臨床実習、実習後の知識確認試験及び実技試験、実習後報告会の参加状況、提出物、評価等による。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 病院・施設での実習を通して、学内で学んだ評価計画立案について経験を通して具体を学ぶことができる。自身の将来像をイメージできる。	
【実務家教員担当科目】 病院施設での臨床実習指導の実務経験および臨床実習指導者認定の資格を持つ教員たちが、学内での指導に当たる。さらに臨床では理学療法士作業療法士養成施設指定規則の要件を満たす指導者が指導に当たる。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	2 年 SA	実習オリエンテーション	臨床実習手引き熟読・配布資料		－
2	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
3	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
4	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
5	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
6	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
7	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
8	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
9	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
10	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
11	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
12	2 年 SA	実習後報告会に向けた討議	実習振り返り資料		－
13	OTR 教員	実習報告会	実習振り返り資料		－
14	OTR 教員	知識確認及び実技試験			－
教 科 書	テキスト：臨床実習手引書（本専攻作成）				
参 考 書	適宜提示する				
備 考	問合せ担当教員：2 年 SA および 香山 明美				

科 目 名		臨床実習セミナーⅠ		担 当 者	○矢萩 未来・本多ふく代	
科目ナンバリング		10204420100			常勤	
D P		1,3		教員研究室	3215・3202	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	2 年次・通年
授 業 形 式		実習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 2 年次の臨床実習Ⅰに向けて、臨床実習の概要や学生が習得すべき内容などを説明する。さらに、2 年次までに学んだ基礎知識や一部の評価技術について、実習前に知識確認試験（共用試験）、実技試験（OSCE）を行い臨床実習の履修に必要なとなる知識や技術の習得状況を確認する。 【学習の到達目標】 1. 臨床実習Ⅰの概要を理解し説明できる。 2. 主体的・継続的な学習態度を身につけ実践できる。 3. 評価計画立案のための手順を説明できる。 4. 必要とされる評価技術の一部を実施できる。 5. 授業内で実施した内容の記録や報告ができる。 【成績評価方法】 ワークシートの取り組み・提出状況（50%）、実習前試験（共用試験・OSCE）の成績（50%）で評価する。尚、実習前試験（共用試験・OSCE）を受験しない場合は履修放棄とみなし、単位習得は認めない。 【課題等のフィードバック方法】 1. 指定課題（ワークシート）は添削し返却する。 2. 実技試験等の結果について個別でのフィードバック期間を設け対応する。 【履修上の注意・予習・復習について】 1. 臨床実習に向けた実践的内容となるため、指示されたことに限らず到達目標を常に意識し、積極的姿勢で取り組むことが求められる。 2. 臨床実習に向け社会人・専門職として求められる態度・マナーを意識した言動を求める。課題提出期限の厳守、遅刻・欠席時、問題発生時には担当教員への報告連絡相談を徹底すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨床実習に対する不安を軽減し、今後の臨床実習に向け自分に必要な準備内容が確認できる。 【実務家教員担当科目】 臨床実習指導者資格を持つ教員が現場で必要とされる知識・技術・態度について具体的に指導する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	矢萩・担当教員	オリエンテーション	復習：授業内容の確認			－
2	矢萩・担当教員	臨床実習について考える：臨床実習の概要を理解し目標を立てる	予習：1 年次施設見学の資料、実施報告書の確認 復習：授業テーマに関するワークシートの作成			－
3	矢萩・担当教員	自分を理解しよう：他者から見た自分	予習：臨床体験の教科書 p22～32 読む 復習：授業テーマに関するワークシート作成			－
4	矢萩・担当教員	臨床技能①：コミュニケーション	予習：臨床体験のコミュニケーション関連資料を読む 復習：授業テーマに関するワークシートの作成			－
5	矢萩・担当教員	臨床技能②：ROM 測定	予習：ROM 測定法の確認（評価学実習Ⅰの内容） 復習：授業テーマに関するワークシートの作成			－
6	矢萩・担当教員	学習状況を振り返る：ポートフォリオ、3 科目模試について	予習：1 年次ポートフォリオ、3 科目模試の結果を見直す 復習：授業テーマに関するワークシートの作成			－
7	矢萩・担当教員	調べ学習①	予習・復習：指定された解剖・運動・生理学の国家試験問題を課題を調べてまとめる			－
8	矢萩・担当教員	調べ学習②	予習・復習：指定された解剖・運動・生理学の国家試験問題を課題を調べてまとめる			－
9	矢萩・担当教員	調べ学習③	予習・復習：指定された解剖・運動・生理学の国家試験問題を課題を調べてまとめる			－
10	矢萩・担当教員	調べ学習④：報告会	予習：これまでの調べた内容を他者に説明するための準備を行う			－
11	矢萩・担当教員	①調べ学習確認テスト②自身の学習状況を振り返る	予習：解剖・運動・生理学の復習 復習：今後の学習目標と対策をワークシートにまとめる			－
12	矢萩・担当教員	医療職に求められる倫理①	復習：授業テーマに関するワークシートの作成			－
13	矢萩・担当教員	医療職に求められる倫理②事例を用いたディスカッション	復習：授業テーマに関するワークシートの作成			－
14	矢萩・担当教員	前期の振り返り：医療職に求められる資質とは	予習：これまでの講義、実技内容の確認、ポートフォリオの振り返り 復習：授業テーマに関するワークシートの作成			－
15	矢萩・担当教員	後期オリエンテーション、後期の学習計画立案	予習：これまでの講義、実技内容の確認、ポートフォリオの振り返り 復習：授業テーマに関するワークシートの作成			－
16	2 年 SA	手引きを用いた臨床実習Ⅰの内容確認①：臨床実習Ⅰの概要・到達目標・経験内容	予習・復習：臨床実習の手引きを読み、分からないことや質問を明確にする			－
17	2 年 SA	手引きを用いた臨床実習Ⅰの内容確認②：学生の役割と責務	予習・復習：臨床実習の手引きを読み、分からないことや質問を明確にする			－
18	2 年 SA	手引きを用いた臨床実習Ⅰの内容確認③：課題・提出物・成績評定等	予習・復習：臨床実習の手引きを読み、分からないことや質問を明確にする			－
19	2 年 SA	評価計画立案演習①：課題ワークシートの作成方法	予習・復習：臨床実習の手引きを読み、分からないことや質問を明確にする			－
20	2 年 SA	評価計画立案課題演習②：模擬事例	予習：提示された事例について分からない用語を調べる 復習：評価計画立案課題ワークシート作成			－
21	2 年 SA	評価計画立案課題演習③：模擬事例	予習：提示された事例について分からない用語を調べる 復習：評価計画立案課題ワークシート作成			－
22	2 年 SA	感染症対策に関する講義・演習	復習：配布された資料を見直す			－
23	2 年 SA	施設概要・OT 役割ワークシートの作成方法	予習：実習施設について調べる 復習：施設概要・OT 役割ワークシートの作成			－
24	2 年 SA	学生紹介の書き方、臨床実習Ⅰに向けた目標設定	復習：学生紹介の作成、手引きの確認			－
25	矢萩・2 年 SA	OSCE・共用試験のオリエンテーション	予習・復習：配布資料を読み、分からないことや質問を明確にする			－
26	矢萩・2 年 SA	OSCE 準備学習①療法士面接	予習：療法士面接に関する授業資料の復習 復習：空き時間等でグループ・個人にて練習する			－
27	矢萩・2 年 SA	OSCE 準備学習②多職種情報収集	予習：情報収集に関する授業資料の復習 復習：空き時間等でグループ・個人にて練習する			－
28	2 年 SA	臨床実習に係る事務手続き・書類の確認・まとめ	予習：実習施設までの交通手段等、必要書類の作成 復習：各種配布書類の確認			－
教 科 書		特になし				
参 考 書		「PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド第3版」山口美和、医学書院				
備 考		問い合わせ先：矢萩・2 年 SA				

科 目 名		臨床実習Ⅱ		担 当 者	○香山 明美・本多ふく代 大黒 一司・高木 大輔 王 治文・首藤 和弘 高橋 由美・矢萩 未来 犬塚千賀子・太田 千尋	
科目ナンバリング		10204420101			常勤	
D P		2,4		教員研究室	3203	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	450 時間	単 位	必修 10 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 はじめの3 週間は評価実習の中で臨床実習指導者（以下、指導者）の指導のもと、見学、経験（模倣）、実施を通して、評価技術項目の実施技術を習得する。その後7 週間の実習では、評価計画に基づき、介入の実施を経験し、経過に応じて効果判定（再評価）を行い、一連の作業療法の実践過程を学ぶ。 【学習の到達目標】 1) 作業療法士を目指す者としての態度と倫理を身につける。2) 作業療法評価計画を立案し、評価計画に沿いながら評価を実施できる。3) 評価結果を統合解釈し、作業療法目標を達成するための作業療法実施計画を立案できる。4) 対象者の全体像を把握しながら作業療法の一連の実践過程を実施できる。5) 実習の中で経験した内容（実習・対象者の状況）を記録・報告できる。6) 対象者の支援を行う上で必要となる他職種と連携ができる。7) 作業療法部門の業務に関わりながら、管理運営について理解できる。 【成績評価方法】 実習達成度、報告会等による総合評価						
【課題等のフィードバック方法】 実習報告会での質疑応答、指導報告書 【履修上の注意・予習・復習について】 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における進級及び履修に関する細則第9 条（2）を満たすこと。実習前の取り組みでの理由のない欠席や出席の不足は、実習が不可となる場合がある。報告会での欠席も同様である。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 病院・施設での実習を通して作業療法の一連の実践過程を経験できる。自己の将来像をイメージできる。 【実務家教員担当科目】 病院施設での臨床実習指導の実務経験および臨床実習指導者認定の資格を持つ教員たちが、学内での指導に当たる。さらに臨床では理学療法士作業療法士養成施設指定規則の要件を満たす指導者が指導に当たる。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	3 年 SA	実習オリエンテーション	臨床実習の手引きの精読		－	
2	臨床実習指導者	病院・施設での実習	各領域の作業療法実践の学習		－	
3	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－	
4	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－	
5	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－	
6	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－	
7	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－	
8	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－	
9	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－	
10	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－	
11	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－	
12	3 年 SA	実習後報告会に向けた討論	臨床実習資料の振り返り		－	
13	OTR 教員	実習後報告会（症例報告）	臨床実習資料の振り返り		－	
14	OTR 教員	知識確認試験及び実技試験	臨床実習資料の振り返り		－	
教 科 書		臨床実習の手引き（本専攻作成）				
参 考 書		適時紹介する。				
備 考		問い合わせ先：3 年 SA および香山明美				

科 目 名		臨床実習セミナーⅡ		担 当 者	○王 治文・首藤 和弘	
科目ナンバリング		10204420102			常勤	
D P		1,3		教 員 研 究 室	3205	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・通年	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 3 年次後期の臨床実習Ⅱに向けて、臨床実習の概要や学生が修得すべき内容等を説明する。また、臨床実習の前に OSCE や共用試験を行い、臨床実習に必要な知識や技術を確認する。						
【学習の到達目標】 臨床実習Ⅱの以下の内容を理解できることが目標となる 1. 概要、特徴 2. 到達目標、経験内容 3. 教育プログラム、課題 また、臨床実習や臨床現場を想定した以下の技術を身につけ、実施できるようになること、臨床実習に向けて基本的な知識を身につけることが目標である。 1. コミュニケーションスキル 2. 作業療法の評価技術（テクニカルスキル）						
【成績評価方法】 課題の取り組みや提出状況、臨床実習前共用試験および OCSE で評価をする。						
【課題等のフィードバック方法】 ・提出書類などの課題は授業中に説明をしながら適宜助言をする ・OSCE は実施後すぐに助言をする ・共用試験は実施後、解答を配布する						
【履修上の注意・予習・復習について】 臨床実習に向けた実践的な内容となる。到達目標を意識し、積極的な姿勢で取り組むこと。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 長期実習に対する不安を軽減できる。また、OSCE や共用試験に向けた学習を通して、これまでの知識、技術の確認ができる。						
【実務家教員担当科目】 臨床実習指導者の資格を持つ作業療法士の教員が担当する。臨床で必要とされる技術について具体的に指導を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	王ほか	臨床実習Ⅰの振り返り臨床実習Ⅱにむけての取り組みの確認	予習：臨床実習Ⅰのノートなどを見直しておいて下さい。			1 時間
2	王ほか専攻教員	臨床実習Ⅱの目的、概要 手引きの読み合わせと確認	予習：臨床実習の手引きを読む 復習：手引きの確認			1 時間
3	王ほか専攻教員	動作分析と記録の学習	予習：前回の授業の時に準備することを伝えます。			1 時間
4	王ほか専攻教員	臨床実習Ⅱにむけての個々の ポートフォリオ作成	予習：前回の授業の時に準備することを伝えます。			1 時間
5	王ほか専攻教員	動作分析における観察・考察の 記録の練習	予習：前回の授業の時に準備することを伝えます。			1 時間
6	王ほか専攻教員	介入技法の学習（起き上がり）	予習：片麻痺についての知識の確認			1 時間
7	王ほか専攻教員	動画による介入技法の学習 （起立・着座）	予習：片麻痺についての知識の確認			1 時間
8	王ほか専攻教員	作業療法介入事例を使用した文 献を通した調べ学習	予習：前回の授業の時に準備することを伝えます。			1 時間
9	王ほか専攻教員	作業療法介入事例を使用した文 献を通した調べ学習	予習：前回の授業の時に準備することを伝えます。			1 時間
10	王ほか専攻教員	領域別ゼミ活動	予習：前回の授業の時に領域別に準備することを伝えます。			1 時間
11	王ほか専攻教員	領域別ゼミ活動	予習：前回の授業の時に領域別に準備することを伝えます。			1 時間
12	王ほか専攻教員	領域別ゼミ活動	予習：前回の授業の時に領域別に準備することを伝えます。			1 時間
13	王ほか専攻教員	OSCE 実施	予習：OSCE に向けての練習を行う 実施に向けて配布資料を読む			1 時間
14	王	共用試験実施	予習：共用試験に向けての練習を行う 配布資料を読む			1 時間
教 科 書		臨床実習セミナーⅠで使用した手引きを使用する。また必要に応じ、適宜資料を配布する。共用試験、OSCE については、これまで履修した科目の教科書や配布資料を参考にすること。				
参 考 書		必要に応じた授業内で提示する。				
備 考		3 年 SA を中心に複数の専攻教員で担当する。				

科 目 名	臨床実習Ⅲ			担 当 者	○香山 明美・本多ふく代 大黒 一司・高木 大輔 王 治文・首藤 和弘 高橋 由美・矢萩 未来 犬塚千賀子・太田 千尋
科目ナンバリング	10204420103				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	3203
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・前期
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	450 時間	単 位	必修 10 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 はじめの3週間で臨床実習指導者（以下、指導者）の指導のもと、評価技術項目の見学、経験（模倣）、実施をし、評価技術項目の実施技術を習得する。その後7週間の実践過程実習を経験する。7週間の実習では、評価計画に基づき、介入の実施を経験し、経過に応じて効果判定（再評価）を行い、一連の作業療法の実践過程を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 実習報告会での質疑応答、指導報告書	
【学習の到達目標】 1) 作業療法士を目指す者としての態度と倫理を身につける。2) 作業療法評価計画を立案し、評価計画に沿いながら評価を実施できる。3) 評価結果を統合解釈し、作業療法目標を達成するための作業療法実施計画を立案できる。4) 対象者の全体像を把握しながら作業療法の一連の実践過程を実施できる。5) 実習の中で経験した内容（実習・対象者の状況）を記録・報告できる。6) 対象者の支援を行う上で必要となる他職種と連携ができる。7) 作業療法部門の業務に関わりながら、管理運営について理解できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における進級及び履修に関する細則第9条（2）（3）を満たすこと。実習前の取り組みでの理由のない欠席や出席の不足は、実習が不可となる場合がある。報告会での欠席も同様である。	
【成績評価方法】 実習達成度、報告会等による総合評価				【受講して得られる効果・メリット、その他】 病院・施設での実習を通して作業療法の一連の実践過程を経験できる。自己の将来像をイメージできる。	
【実務家教員担当科目】 病院施設での臨床実習指導の実務経験および臨床実習指導者認定の資格を持つ教員たちが、学内での指導に当たる。さらに臨床では理学療法士作業療法士養成施設指定規則の要件を満たす指導者が指導に当たる。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	4 年 SA	実習オリエンテーション	臨床実習の手引きの精読		－
2	臨床実習指導者	病院・施設での実習	各領域の作業療法実践の学習		－
3	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
4	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
5	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
6	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
7	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
8	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
9	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
10	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
11	臨床実習指導者	病院・施設での実習			－
12	4 年 SA	実習後報告会に向けた討論	臨床実習資料の振り返り		－
13	OTR 教員	実習後報告会（症例報告）	臨床実習資料の振り返り		－
14	OTR 教員	実習Ⅲ総括	臨床実習資料の振り返り		－
教 科 書		臨床実習手引書（本専攻作成）			
参 考 書		適宜紹介する。			
備 考		問合せ先教員：4 年 SA および 香山明美			

科 目 名		臨床実習セミナーⅢ		担 当 者	○高橋 由美・矢萩 未来	
科目ナンバリング		10204420104			常勤	
D P		1,3		教 員 研 究 室	3216	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	4 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 4 年次後期の臨床実習Ⅲに向けて、実習に必要な知識・技術・態度を習得する。臨床実習Ⅱを振り返り、個別の課題・目標を明確にする。また、臨床実習の前に OSCE や共用試験を行い、臨床実習に必要な知識や技術を確認する。						
【学習の到達目標】 臨床実習や臨床現場を想定した以下の技術・態度を身につけ、実践できるようになること、臨床実習に向けて基本的な知識を身につけることが目標である。 1. コミュニケーションスキル 2. 作業療法の評価技術（テクニカルスキル） 3. 評価結果の統合解釈と作業療法計画立案（リーズニングスキル） 4. 作業療法士を目指す者としての態度・倫理の習得（ソーシャルスキル）						
【成績評価方法】 課題の取り組みや提出状況、臨床実習前共用試験および OCSE で評価をする。						
【課題等のフィードバック方法】 ・提出書類などの課題は授業中に説明をしながら適宜助言をする ・OSCE は実施後すぐに個別に助言をする ・共用試験は実施後、解答を配布する						
【履修上の注意・予習・復習について】 臨床実習に向けた実践的な内容となる。到達目標を意識し、積極的な姿勢で取り組むこと。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 長期実習に対する不安を軽減できる。また、OSCE や共用試験に向けた学習を通して、これまでの知識、技術の確認ができる。						
【実務家教員担当科目】 臨床実習指導者の資格を持つ作業療法士の教員が担当する。臨床で必要とされる技術について具体的に指導を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高橋ほか	臨床実習Ⅱの振り返り。臨床実習Ⅲにむけての課題と目標	予習：臨床実習の手引きを読む。臨床実習Ⅱの実習ノートを見直す。			1 時間
2	高橋ほか	臨床実習Ⅲにむけてのポートフォリオ作成	予習：臨床実習の手引きを読む。臨床実習Ⅱのポートフォリオを見直す			1 時間
3	高橋ほか	実習施設の機能や主な対象疾患の調べ学習	予習：施設概要や HP 等で施設について調べる			1 時間
4	高橋ほか	事務手続き	予習：実習施設までの交通手段、宿泊場所について調べる 復習：書類の確認			1 時間
5	高橋ほか	作業に焦点を当てたレジュメの書き方①目的と重要性	予習：手引きのレジュメの書き方を読む。臨床実習Ⅱのレジュメを見直す			1 時間
6	高橋ほか	作業に焦点を当てたレジュメの書き方②文献抄読	予習：実習領域の事例報告を調べて読む 復習：文献上のわからない用語を調べる			1 時間
7	高橋ほか	作業に焦点を当てたレジュメの書き方③実践	予習：手引きのレジュメの書き方を読む。臨床実習Ⅱのレジュメを見直す 復習：添削されたレジュメの確認・修正			1 時間
8	高橋ほか	DVD による学習（ADL 評価：食事）	予習：食事の作業分析 復習：記録の見直し・修正			1 時間
9	高橋ほか	グループワーク（介入計画）	予習：領域別の事例情報から、作業の問題点をまとめる 復習：各自の介入計画の見直し・修正			1 時間
10	高橋ほか	OSCE、共用試験について	予習：これまでの実技の確認（グループおよび個人） 復習：不十分な知識、技術の確認			1 時間
11	高橋ほか	OSCE、共用試験の準備	予習：OSCE の事例情報を読み、シナリオを作成 復習：資料、授業内容の確認、ワークシートの作成			1 時間
12	高橋ほか	OSCE	予習：事例の情報を読みこみ、シナリオに沿って事前練習を行う 復習：指摘を受けた部分の修正			1 時間
13	高橋ほか	共用試験	予習：臨床実習Ⅱの共用試験の解き直し 復習：間違った問題の解き直し			1 時間
14	高橋ほか	OSCE、共用試験のフィードバック	復習：指摘された内容の確認			1 時間
教 科 書		臨床実習の手引きを使用する。また必要に応じ、適宜資料を配布する。共用試験、OSCE については、これまで履修した科目の教科書や配布資料を参考にする。				
参 考 書		山口美和：PT・OT のためのコミュニケーション実践ガイド 第 2 版、医学書院				
備 考		4 年 SA を中心に複数の専攻教員で担当する。				

科 目 名	地域作業療法学実習			担 当 者	○香山 明美・本多ふく代 大黒 一司・高木 大輔 王 治文・首藤 和弘 高橋 由美・矢萩 未来 犬塚千賀子・太田 千尋
科目ナンバリング	10204420105				常勤
D P	2,4			教員研究室	3203
学科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・前期
授 業 形 式	実習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地域作業療法学実習は地域作業療法学Ⅰ・Ⅱ・地域作業療法学演習で学んだ知識や技術を、そこで活躍する指導者のもと、その施設の役割、地域生活支援のあり方、他機関との連携のあり方、部門の管理運営のあり方について体験を通して学び、地域における作業療法士の役割を考える機会とする。 実習期間：1 週間				【課題等のフィードバック方法】 実習報告会での質疑応答、指導報告書	
【学習の到達目標】 1) 地域で働く作業療法士に求められる態度と倫理を身につける。2) 地域における施設の役割を理解できる。3) 地域生活支援のあり方を理解できる 4) 他機関との連携のあり方を理解できる。5) 臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは経験できなかった地域における作業療法士の役割や業務を考えられる。				【履修上の注意・予習・復習について】 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科における進級及び履修に関する細則第9条（1）を満たすこと。実習前の取り組みでの理由のない欠席や出席の不足は、実習が不可となる場合がある。報告会での欠席も同様である。	
【成績評価方法】 臨床実習指導者の「地域作業療法学実習報告書」と施設概要ワークシートの作成状況、実習終了後の意見交換会の参加状況を基に評価を行う。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 実習施設（部門）が地域の中でどのような役割を果たしているか理解することができる。また、地域での生活支援のあり方や他機関との連携のあり方を学ぶことができる。	
				【実務家教員担当科目】 地域における保健福祉領域において豊富な実践経験がある専門職が指導にあたる。作業療法士以外の職員でも専門職としての必要な知識や技術の指導を受けることができる。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	4 年 SA	実習オリエンテーション	臨床実習手引き熟読・配布資料		－
2	実習指導者	施設・事業所等での実習			－
3	実習指導者	施設・事業所等での実習			－
4	実習指導者	施設・事業所等での実習			－
5	実習指導者	施設・事業所等での実習			－
6	実習指導者	施設・事業所等での実習			－
7	実習指導者	施設・事業所等での実習			－
8	実習指導者	施設・事業所等での実習			－
9	実習指導者	施設・事業所等での実習			－
10	実習指導者	施設・事業所等での実習			－
11	実習指導者	施設・事業所等での実習			－
12	実習指導者	施設・事業所等での実習			－
13	実習指導者	施設・事業所等での実習			－
14	SA 及び OT 専攻教員	施設概要ワークシート等を用いたまとめ			－
教 科 書		テキスト：臨床実習手引書（本専攻作成）			
参 考 書		適宜提示する			
備 考		問合せ担当教員：4 年 SA および 香山 明美			

科 目 名		作業療法研究法		担 当 者	○王 西澤 治文・大黒 一司 哲	
科目ナンバリング		10204420107			常勤	
D	P	2,4		教員研究室	3205	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 「作業療法研究とは何か」、「研究疑問を解決するためにどうすればよいか」を明らかにし、作業療法に関係する研究法の基礎について学ぶとともに、作業療法における問題の解決能力を培う。研究における倫理的および管理的義務と責任を学習し、誠実に研究活動を行うように注意する。文献レビューを通して作業療法研究の動向や作業療法の発展について理解を深める。また研究計画書の作成や文献抄読など演習を交えながら研究計画の立て方や研究の過程と手順を習得する。一連の演習を通して研究成果発表の仕方、論文の書き方などを知る。				【課題等のフィードバック方法】 課題に関しては、作成中からディスカッションをし、課題の完成を支援する。提出後も口頭または書面でフィードバックする。授業に関する質問には、授業中および授業終了後随時質問を受け付けし、説明を行う。		
【学習の到達目標】 1. 作業療法における研究の一連の過程を理解できる。 2. 研究における倫理を知り、誠実な研究活動の注意事項を理解できる。 3. 文献の読み方を理解し、文献抄録の作成ができる。 4. 研究計画書の作成を経験し、その重要性を理解できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義と少人数での演習を交えながら行うため、講義内容の予習復習のほか、演習に熱心に参加し、積極的に学習する態度が望ましい。		
【成績評価方法】 参加態度（40％）、文献抄読課題（20％）および研究計画書課題（40％）で算出し、総合的に判断する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目の修得は、4 年次開講する作業療法研究特論・実践特論の学習基礎となり、また今後作業療法の実践現場で遭遇する問題を解決する能力の向上につながる。		
				【実務家教員担当科目】 臨床および研究両方経験のある教員は経験に基づき、研究における一連の過程について説明し、研究計画書の作成等を指導する。また、作業療法研究の進み方について紹介する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予 習 ・ 復 習		学修時間	
1	王・大黒・西澤	オリエンテーション、研究をはじめするには	復習：授業内容		1 時間	
2	大黒	研究倫理と管理	復習：授業内容		1 時間	
3	王	研究計画書の作成方法	復習：授業内容		1 時間	
4	西澤	文献の検索方法、読み方、まとめ方	復習：授業内容		1 時間	
5	王	文献研究の進み方	復習：授業内容		1 時間	
6	西澤	文献抄読演習	復習：授業内容		1 時間	
7	王	事例研究の進め方	復習：授業内容		1 時間	
8	王	調査研究の進め方	復習：授業内容		1 時間	
9	西澤	実験研究の進め方	復習：授業内容		1 時間	
10	西澤	研究でよく使われる統計解析	復習：授業内容		1 時間	
11	西澤	研究の公表と論文作成について	復習：授業内容		1 時間	
12	大黒	作業療法研究の現状と今後の発展	復習：授業内容		1 時間	
13	王・大黒・西澤	研究計画書の作成演習	復習：授業内容		1 時間	
14	王・大黒・西澤	まとめ	復習：授業内容		1 時間	
教 科 書		必要に応じて資料を配布する				
参 考 書		「作業療法研究法」、竹田徳則、大浦智子、藤本修平（編）、医歯薬出版 「作業療法士のための研究法入門」、鎌倉矩子・宮前珠子・清水一著、三輪書店 「標準作業療法学 作業療法研究法第 2 版」、山田孝編集、医学書院				
備 考		本科目は 3 年後期開講の臨床実習Ⅱ実習施設から帰校後集中して行う。科目に関する問い合わせ：王治文				

科 目 名	作業療法実践特論			担 当 者	○大黒 一司・香山 明美 王 治文・首藤 和弘 高橋 由美・矢萩 未来 犬塚千賀子
科目ナンバリング	10204420108				常勤
D P	3,4			教 員 研 究 室	3211
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）			配 当 年 次	4 年次・通年
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	90 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用	□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 作業療法の領域は医療から保健・福祉へと拡がり、病院から在宅（地域）へと継続し、その対象者は乳幼児から高齢者まで幅広い。この科目では幅広い領域と対象者に対して実施されている作業療法の実践について調査、研究を通し学生の疑問、興味について探求を深める。学生は指導教員の指導のもと、作業療法研究一連の過程を経験し、研究した成果を口頭発表などでわかりやすく公表し、研究報告書としてまとめる。				【課題等のフィードバック方法】 指導教員が研究の進捗状況に応じて随時助言、指導する。	
【学習の到達目標】 1. 指導教員の指導のもと、作業療法研究一連の過程を経験する。 2. 研究した成果をまとめ、わかりやすい方法で口頭発表できる。 3. 研究成果の報告書作成できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 研究法を復習して授業に臨む	
【成績評価方法】 ①研究計画作成 ②研究の実施 ③研究成果の報告 ④研究報告書の提出 ①～④を総合的に評価する（ルーブリック）。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 研究の計画、実施、まとめと発表、論文作成の一連の過程を経験できる	
				【実務家教員担当科目】	
授 業 計 画					
1. オリエンテーション 2. 研究計画の作成について 3. 先行研究の収集とレビュー 4. 研究計画の作成 5. 研究の実施 6. 研究の実施 7. 研究の実施 8. 研究の実施 9. 研究の実施 10. 研究の実施 11. 研究の実施 12. 発表要旨の作成と提出 13. 発表会に向けた準備 14. 発表会、研究報告書の提出					
教 科 書	適宜紹介する				
参 考 書	適宜紹介する				
備 考	授業に関する質問、問い合わせ：各担当教員（指導教員）				

科 目 名		作業療法研究特論		担 当 者	○本多ふく代・西澤 哲 高木 大輔・北川 公路 太田 千尋	
科目ナンバリング		10204420109			常勤	
D	P	3,4		教員研究室	3202	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	4 年次・通年	
授 業 形 式		実習	授 業 時 間	90 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 作業療法に関連する技術、理論の研究・発展に必要な研究の基礎知識を学ぶ。さらに演習をとおして研究方法を学習する。演習は、担当教員の指導の下に、研究法で設定したテーマを深め・見直すことから始め、テーマに関連する先行研究から知見を得る方法と整理、研究計画の立案（どの様な対象から、どの様な種類のデータを、どの様な方法で収集するか）、データ収集（準備、手法、注意すべき問題の理解など）、データ解析（テーマの目的を達成するために、どのような解析を用いるか）、研究結果のまとめと公表（図版の作成方法、口頭発表の方法など）の順に一連の過程を学習する。この一連の過程を学ぶことを通して作業療法における研究の方法を習得する。						
【課題等のフィードバック方法】 適宜、ゼミ担当教員との打ち合わせを通してフィードバックされる						
【履修上の注意・予習・復習について】 指導教員と相互に綿密に連絡を取りながら、活動を行うこと。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 仮説を立てて検証するという行為を通して、作業療法にかかわる様々な知識を得ることができる。客観的事実についての考察を行い、得られた結果を他者につたえる経験を行うことで、卒業後の作業療法士としての仕事に役立てることができる。						
【学習の到達目標】 1. 指導教員の指導のもと、作業療法研究一連の過程を経験できる 2. 研究した成果をまとめ、口頭発表などわかりやすい形式で公表できる						
【実務家教員担当科目】 作業療法士、医師、公認心理師等の立場から研究に従事する教員が担当し、その経験を基に研究の手法等を具体的に指導する。						
【成績評価方法】 ①研究計画作成 ②研究の実施 ③研究成果の報告 ④研究報告書の提出 ①～④を総合的に評価する（ルーブリック）。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	科目責任者	オリエンテーション			－	
2	ゼミ担当教員	研究テーマの立案	担当教員の指示による		－	
3	ゼミ担当教員	研究テーマに関する資料の収集と抄読	担当教員の指示による		－	
4	ゼミ担当教員	研究計画の立案	担当教員の指示による		－	
5	ゼミ担当教員	データ収集の準備	担当教員の指示による		－	
6	ゼミ担当教員	データ収集	担当教員の指示による		－	
7	ゼミ担当教員	データ収集	担当教員の指示による		－	
8	ゼミ担当教員	データ収集	担当教員の指示による		－	
9	ゼミ担当教員	データ収集	担当教員の指示による		－	
10	ゼミ担当教員	データ解析	担当教員の指示による		－	
11	ゼミ担当教員	データ解析	担当教員の指示による		－	
12	ゼミ担当教員	発表資料の作成	担当教員の指示による		－	
13	専攻教員全員	発表会での発表	担当教員の指示による		－	
14	ゼミ担当教員	振り返り	担当教員の指示による		－	
教 科 書		特になし				
参 考 書		担当教員が必要に応じて提示します。				
備 考		問い合わせ教員：担当教員および本多ふく代				

科 目 名		基礎科目演習セミナーⅡ		担 当 者	○太田 千尋・西澤 哲 王 治文・首藤 和弘 高橋 由美	
科目ナンバリング		10204120111			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3215	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 1 年後期の解剖学や生理学で学んだ内臓系、感覚器系、自律神経系などの調べ学習を行う。また、小テストやテキストなどを通して知識の定着を図る。 【学習の到達目標】 1. 解剖学Ⅱで学んだ知識の確認を行い、それぞれの内臓の主要な部位を理解できる。 2. 解剖学Ⅱで学んだ知識と生理学で学んだ知識（感覚器、内分泌、内臓機能等）の確認を行い、それぞれの内臓の機能について説明することができる。 【成績評価方法】 小テストや課題の調べ学習（20%）、中間試験（40%）、定期試験（40%） 【課題等のフィードバック方法】 小テストや試験の結果について、授業内でフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 解剖学Ⅱ、生理学Ⅱで配布された資料やノートを整理し、持参すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 解剖学Ⅱ、生理学Ⅱで学んだことについてグループのメンバーで調べ学習を行う。教員からのフィードバックを通して、作業療法士としての基礎的な知識を身につけることができる。 【実務家教員担当科目】 臨床経験のある作業療法士の教員や解剖学、運動学などを担当している教員が経験にもとづき、臨床で必要な基礎知識を学生に教えている。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	太田ほか担当教員	オリエンテーション	予習：特になし 復習：配布資料の確認		1 時間	
2	太田ほか担当教員	細胞と組織	予習：細胞と組織 復習：配布資料の確認		1 時間	
3	太田ほか担当教員	心臓	予習：心臓の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
4	太田ほか担当教員	動脈	予習：動脈の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
5	太田ほか担当教員	静脈、リンパ	予習：静脈、リンパの解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
6	太田ほか担当教員	消化器①	予習：消化器系の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
7	太田ほか担当教員	消化器②	予習：消化器系の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
8	太田ほか担当教員	1～7 回目のまとめ	予習：これまでのまとめ 復習：配布資料の確認		1 時間	
9	太田ほか担当教員	腎臓	予習：腎臓の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
10	太田ほか担当教員	内分泌①	予習：視床下部や下垂体前葉などの解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
11	太田ほか担当教員	内分泌②	予習：女性の性周期に関する解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
12	太田ほか担当教員	内分泌系③	予習：膵臓、甲状腺、副甲状腺などの解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
13	太田ほか担当教員	生殖器系	予習：生殖器の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
14	太田ほか担当教員	自律神経系	予習：自律神経系の解剖生理 復習：配布資料の確認		1 時間	
教 科 書		・カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで、E.H マティーニ他著、井上貴史監訳、西村書店 ・標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 生理学第 6 版 岡田隆夫編、医学書院 ・基礎から学ぶ 解剖学ノート 第 3 版 中島雅美編、医歯薬出版				
参 考 書		授業中に紹介する				
備 考		特になし				

科 目 名		作業療法学特別演習		担 当 者	○高橋 由美・香山 明美 本多ふく代・大黒 一司 西澤 哲・王 治文 首藤 和弘・矢萩 未来 犬塚千賀子・太田 千尋	
科目ナンバリング		10204420112				
D P		1,2		教 員 研 究 室	3216	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（作業療法学専攻）		配 当 年 次	4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 これまでに学んだ知識と技術を整理し、作業療法士に必要な統合された能力を養う。 国家試験の過去問を利用して、作業療法士に必要な知識を、統合的な能力を身につける。				【課題等のフィードバック方法】 模擬試験を行った当日に解答と解説を配布する。正答率の低い問題については、随時補講を行う。		
【学習の到達目標】 ・グループ学習を通して、知識を深めること、学んだ知識を人にわかりやすく伝える技術を身につける。 ・作業療法士国家試験合格のための実力を身につける。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・教員の指導を仰ぎながら自ら不得意科目を分析し、不足している知識を補うこと。 ・講義時間以外にも、十分な自己学習時間を設けること。		
【成績評価方法】 ミニテスト成績、グループ学習・個別指導での課題遂行度、作業療法士国家試験模擬試験の成績				【受講して得られる効果・メリット、その他】 作業療法士に必要な総合的な知識を整理することができる		
				【実務家教員担当科目】 臨床現場で作業療法士としての実務経験を持つ教員が、経験を活かして臨床現場や、近年の医療・福祉をとりまく社会状況に即した講義、指導を行う		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	4 年 SA	オリエンテーション	配付資料の確認			4 時間
2	西澤	運動学、解剖学	神経・筋・関節構造についての知識をまとめる			4 時間
3	西澤	生理学、病理学	生命維持のメカニズム、感覚器などの知識をまとめる			4 時間
4	未定	内科学、小児科学	内科、小児科領域の代表疾患についての知識をまとめる			4 時間
5	未定	整形外科学、神経内科学	整形外科疾患、神経内科疾患についての知識をまとめる			4 時間
6	未定	精神医学、臨床心理学	精神医学、臨床心理学についての知識をまとめる			4 時間
7	未定	リハビリテーション医学	医学概論・リスク管理などについての知識をまとめる			4 時間
8	未定	作業療法概論・作業技法	作業療法概論・作業技法についての知識をまとめる			4 時間
9	未定	評価と基本的評価技法・活動の評価	ROM・MMT・感覚検査、ADL 評価法などの知識をまとめる			4 時間
10	未定	身体障害作業療法学	中枢疾患、神経筋疾患、整形外科疾患への作業療法についての知識をまとめる			4 時間
11	未定	精神障害作業療法学	統合失調症、気分障害などに対する作業療法についての知識をまとめる			4 時間
12	未定	老年期障害作業療法学	生理的老化、廃用症候群、認知症などに対する作業療法についての知識をまとめる			4 時間
13	未定	発達障害作業療法学	正常発達、反射、脳性麻痺などに対する作業療法についての知識をまとめる			4 時間
14	未定	日常生活活動、地域作業療法学	摂食嚥下、自助具、住環境整備、法制度などにつての知識をまとめる			4 時間
教 科 書		クエスチョンバンク理学療法作業療法国家試験問題解説（共通問題）メデックメディア クエスチョンバンク作業療法国家試験問題解説（専門問題）メデックメディア				
参 考 書		各学習内容に関連した科目で使用した教科書や配付資料				
備 考		4 年 SA を中心に作業療法学専攻の教員全員で担当する 問い合わせ先：4 年 SA				

2025 年度入学者用カリキュラム (言語聴覚学専攻)

科 目 名	輝ける者			担 当 者	○小野部 純・他
科目ナンバリング	103011251				常勤
D P	2,4			教員研究室	3108
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・通年
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業は、地元宮城県を支える取り組みを題材とし、次の2つの観点により授業を展開することで、「主体的に考える力」、「コミュニケーション力」、「問題解決力」を高め、「チームワーク・リーダーシップ」、「市民としての社会的責任」に対する基本的態度を育むことを目的とする ① 地元の産業を支えるとは 最前線で活躍している多様なゲストスピーカーの講義により、職業人の社会・地域の発展に対する思いを知ることから、「働くことの意味」を主体的に考える。 ② 地元を支える活動の実践 グループでの地域創生プロジェクトの企画提案を通して、地元の課題を自分自身と結び付けて考え、チームで提案し、地域を巻き込んで実践する。 【学習の到達目標】 社会の中で「輝く」とは何かについて、各自の考えを持つ 「仕事とはなにか」について考え、各自の考えを持つ 【成績評価方法】 ①レポート内容、②各テーマに関する発表内容の2点から総合的に評価する 【課題等のフィードバック方法】 都度、質疑に応答する 【履修上の注意・予習・復習について】 複数時間で実施することが有効な授業内容の場合、土日もしくは長期休業期間に実施することがある 外部との調整の都合上、授業初回時にあらためてスケジュールを提示する 【受講して得られる効果・メリット、その他】 自ら考え、提案し、他者と協働してプロジェクトを実施する力が身につく 【実務家教員担当科目】 地元を支えているゲストスピーカーなどと、質疑・意見交換が可能となっている					
授 業 計 画					
----- 導入編 1. ガイダンス、グループワーク（アイスブレイク） 2～4. キャリア形成 ----- 地元を支える活動の実践 5～12. 多様な働き方を学び、考える ・地元企業を知る（働くとは何か） ・企業と地域（ゲストスピーカー） ・グループワーク（企業へのインタビュー準備） ・多様な働き方（アシスタ仙台）、企業担当者へのインタビュー ----- 地元の産業活動を知る 13～26. 夏休み企画 秋保ワイナリーとマルシェ ・マルシェの企画 ・マルシェ運営 ----- まとめ 27、28. グループ発表					
教 科 書	特に指定しない				
参 考 書	必要に応じて指示する				
備 考	質問や問い合わせは、常勤教員が受け付ける 複数時間で実施することが有効な授業内容の場合、土日もしくは長期休業期間に実施することがある 外部との調整の都合上、授業初回時にあらためてスケジュールを提示する				

科 目 名		生命を考える		担 当 者	○中村 哲也・阿部 玄治 本多ふく代・大庭 みよ 秋本 和宏						
科目ナンバリング		103011252			常勤						
D P		2,4		教員研究室	1427						
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期						
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位					
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし									
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない						
【授業内容】 21 世紀に入り日本は本格的な長寿社会を迎えた。加えて、人々には人種・性別・年齢・障害の有無に関わらず自分らしく生きられる社会（多様性のある社会）の実現が求められている。本科目では「ヒトの生命」を主たるテーマとし、「生きること」「死ぬこと」「障害と共に生きること」等について講義を受講しつつ、履修者同士で意見交換を行いながら考える。 【学習の到達目標】 健康とは何か、「生」そして「死」とは何かについて、他者の意見を踏まえながら自分なりの考えを述べられるようになること。 【成績評価方法】 ①講義前後の調べ学習、②講義時間中に取り組む小課題、③レポートの 3 点から総合的に評価する。 課題の内容や課される回数、評価方法は担当教員ごとに異なる。						【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートなど小課題については適宜集計し、翌週以降の講義時間中ないしクラスルームを通じてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 原則として毎回出席することが求められる。各テーマで課される最終レポートを全て提出しなければ成績評価の対象とならない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 より良く生きることの意味について、同年代の学友の多様な意見に触れる機会を得られる。意見交換を経て自分の考えをまとめることによって、今後の生活に対して前向きになることが期待できる。 【実務家教員担当科目】 看護師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の資格を有する担当教員が、実務経験を踏まえた講義をオムニバス形式で行う。					
授 業 計 画											
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間								
			予習・復習		学修時間						
1	中村 哲也	科目ガイダンス	予習：シラバスを読む 復習：指定された資料を確認する	4 時間							
2	加賀谷 豊	日常の医療と臨床研究における生命倫理	予習：クラスルームの症例資料を読んでくる 復習：リアクションペーパー、資料を調べる	4 時間							
3	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：資料を調べる 復習：リアクションペーパー、発表準備	4 時間							
4	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー	4 時間							
5	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：発表準備 復習：レポート課題	4 時間							
6	本多ふく代	子どもを育てることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー	4 時間							
7	本多ふく代	障害児を育てることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー	4 時間							
8	本多ふく代	人が育てられる、育てられることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題	4 時間							
9	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー	4 時間							
10	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー	4 時間							
11	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題	4 時間							
12	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える 一生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー	4 時間							
13	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える 一生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー	4 時間							
14	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える 一生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題	4 時間							
教 科 書		指定なし									
参 考 書		玉井真理子・大谷いづみ（編）（2011）. はじめて出会う生命倫理, 有斐閣アルマ 鯨島浩二（著）植野ゆかり（絵）（2003）. わたしがあなたを選びました, 主婦の友社 深澤友紀（著）（2018）. 産声のない天使たち, 朝日新聞出版									
備 考		講義の実施スケジュールは担当教員の予定により変更される可能性がある。									

科 目 名		現代社会を視る		担 当 者	○山尾 貴則・豊田 正利 野崎 瑞樹・鑑 さやか 山川 樹・小渕 高志 黒沢 麻美・田中 茜	
科目ナンバリング		103011253			常勤	
D	P	2,4		教 員 研 究 室	3304	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本科目では、現代社会学部の教員が有する専門的な知識や技術を下敷きとして、「現代社会」をさまざまな角度から「視る」。そのことを通して、社会を知る・捉える・理解する力を培う。基本的には講義形式を取るが、多様な媒体に自分で触れたり、現場で活躍する人々と交流するなど、学内外の活動も含む。最終的には、社会で起きている現象を知るだけでなく、体験したり、問題を見つけて解決方法を考えたり、優れた点を発展させる案を考えることなどができるような力を身につけていく。 【学習の到達目標】 受講生が現代社会における諸問題に自ら関心を持ち、人文社会科学的な知識を下敷きとして諸問題に接近し、理解できるようになる。 【成績評価方法】 講義を大きく 4 つのパートに分け、それぞれのパートにつき、「講義態度、講義への参加の様子」を 10 点、「3 つ課す課題」をそれぞれ 5 点として 5 × 3 = 15 点の総点 25 点とする。4 つのパートを合わせて 100 点満点で評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 Google クラスルームを使用して受講生からの質問等を受け付け、適宜コメントする。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語をしないこと。普段から社会の諸問題に目を向けること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 受講生が現代社会における諸問題に自ら関心を持ち、人文社会科学的な知識を下敷きとして諸問題に接近し、理解できるようになる。 【実務家教員担当科目】 該当なし。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	山尾	ガイダンスー現代社会を「視る」とは	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
2	山川・小渕	現代社会をニュースから視る (1)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
3	山川・小渕	現代社会をニュースから視る (2)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
4	山川・小渕	現代社会をニュースから視る (3)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
5	豊田・鑑	現代の地域を視る (1)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間	
6	豊田・鑑	現代の地域を視る (2)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間	
7	豊田・鑑	現代の地域を視る (3)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間	
8	野崎・黒沢	現代の仕事を視る (1)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間	
9	野崎・黒沢	現代の仕事を視る (2)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間	
10	野崎・黒沢	現代の仕事を視る (3)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間	
11	田中・山尾	現代の生（ライフ）を視る (1)	受講生自らが自分自身の人生（ライフ）をふり返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間	
12	田中・山尾	現代の生（ライフ）を視る (2)	受講生自らが自分自身の人生（ライフ）をふり返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間	
13	田中・山尾	現代の生（ライフ）を視る (3)	受講生自らが自分自身の人生（ライフ）をふり返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間	
14	山尾	ふり返りー現代社会はどう視えたか	講義全体を通して受講生が何を学んだかをまとめる		4 時間	
教 科 書		指定無し。				
参 考 書		講義内で適宜紹介する。				
備 考						

科 目 名		生活の中の科学		担 当 者	○長田 俊明・沈 紅 鈴木 陽一・鈴木 伸夫 八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・富山 正幸 相澤 康弘・古林 俊晃 家名田敏昭・浅井 仁 佐藤 秀隆・工藤 剛実 佐々木典子・高橋 るみ 深谷 碧	
科目ナンバリング		103011254			常勤	
D	P	2,4		教 員 研 究 室	1403	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生活の「安全・安心・便利・豊かさ」をキーワードに、現在の科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているか、また科学技術の将来あるべき姿について学ぶ。 具体的には、生活の中の電気、命を守る AED（自動体外式除細動器）、住まいや都市の安全・安心技術、災害の減災・復旧に有用な施設整備、生活を便利で豊かにする情報技術、等である。授業の半分程度は基礎知識の修得、半分程度がグループワークや実習・フィールドワーク・アイデアソン・ディスカッション等のアクティブラーニングスタイルで進められる。						
【学習の到達目標】 科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているかを理解する。科学技術がもたらす「安全・安心・便利・豊かさ」について、能動的に活用できるようになる。						
【成績評価方法】 毎回のテーマに対するミニレポートと科目全体に対する総合レポート、双方向授業における主体的取り組みを総合して評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 授業では、都度質問を受け回答する。ミニレポートや Google Classroom への質問コメントについては、個別あるいは全体コメントにてフィードバックする。						
【履修上の注意・予習・復習について】 授業に関連する資料は、主として Google Classroom を利用して配信する。 全 14 回の授業に出席することが大原則である。やむを得ず出席できなかった授業については、これらの資料や動画・音声データを利用して学習し、次回授業に臨むこと。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 科学技術・工学分野における様々な専門領域における本学の専任教員から、多面的なテーマについて講義・実習指導を受けることができる。科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているかを理解し、その認識から個々の専門分野において活用することが期待できる。						
【実務家教員担当科目】 科学技術・工学分野における様々な専門領域における本学の実務家教員も担当し具体的指導を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	鈴木（陽）・長田・八十川・相澤	ガイダンス	シラバスの確認、授業の進め方、成績評価の方法		4 時間	
2	浅井 仁	生活の中の電気（100V、200V、直流?）	コンセントの交流と電池の直流の違いを調べる。 <ミニレポート>		4 時間	
3	家名田敏昭	生活の中の電気（発電所から送電、家庭までの経路）	発電の方法や電気を送る送電線について調べる。 <ミニレポート>		4 時間	
4	相澤 康弘	医療で用いられる電気（人体へ作用する電気）	生体電気の種類、生体電気刺激、治療に用いる電気を調べる。<ミニレポート>		4 時間	
5	須藤 諭・川村 広則	安全・安心のための都市環境整備技術	身近な省エネルギー、居住地のハザードマップについて調べる。<ミニレポート>		4 時間	
6	野崎 淳夫・富山 正幸	安全・安心のための都市と建築	安全・安心のための都市と建築について、自分の身の回りの事例を調べる。<ミニレポート>		4 時間	
7	八十川 淳・二科 妃里	災害と水	災害応急用井戸、水害とマチ、避難生活と水について調べる。<ミニレポート>		4 時間	
8	臨床教員・建築教員	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習、班別実技演習の準備学習	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習 <ミニレポート>		4 時間	
9	臨床教員・建築教員	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習、班別実技演習	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習 <ミニレポート>		4 時間	
10	知能情報教員	生活を便利で豊かにする情報アプリ：概要、準備学習	情報システム構築の流れを学び、グループごとに準備を行う。<ミニレポート>		4 時間	
11	知能情報教員	アイデアソン演習 1：提案アプリの案出と具体化の検討	前週の検討に基づきアプリの機能等の決定とプレゼンの準備を行う。<ミニレポート>		4 時間	
12	知能情報教員	アイデアソン演習 2：アプリの設計とプレゼンの準備	前週検討したアプリの機能を実現するアプリの設計とプレゼンの準備を行う。<ミニレポート>		4 時間	
13	知能情報教員	生活を便利で豊かにする情報アプリ：成果発表	提案するアプリに関するプレゼンをグループごとに行う。<投票、ミニレポート>		4 時間	
14	鈴木（陽）・長田・八十川・相澤	表彰課題の出題と総括	アイデアソンの高評価グループ表彰課題をテーマにレポート作成		4 時間	
教 科 書		特に指定しない。				
参 考 書		その都度必要に応じて紹介する				
備 考		なし				

科 目 名		経済・法律・世界を視る		担 当 者	○馬内 里美・田邊 文彦 ウォルグレイヴ イーライ	
科目ナンバリング		103011255			常勤・非常勤	
D P		2,4		教員研究室	1229	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 In this class, students will explore a number of concepts based around Economic, Legal, and International aspects of society and their place within it. この科目は、自分と経済、法律、国際社会との関わりを学ぶ科目				【課題等のフィードバック方法】 Questions will be taken after each class. Your work may be shared for everyone’ s learning. 毎回の授業終了後に、質問を受けつける。全員の学修の為に内容を共有することあり		
【学習の到達目標】 1.Form and share own opinions 意見を形成・他者と共有できる / 2. Research and present about an issue of personal interest and impact to them 内容を調べ発表できる / 3.Develop English reading skills in a bilingual class. 英語で伝えられる				【履修上の注意・予習・復習について】 Late arrivals will be deducted from the grade / 5 or more absences will result in a grade of “F” / Homework must be submitted next time / Final assignment carried out 遅刻は減点もあり／ 5 回以上欠席 F 評価 / 宿題を次回提出／最終課題の実施が必要		
【成績評価方法】 Class Activities 活動参加 30％, Homework = 宿題 50% Personal Presentation プレゼン 10% ,Final Reflection 振り返り・改善 10%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 Proactive attitude, Communication skills and Logical thinking skills. 「主体的な態度」「コミュニケーション力」「論理的思考力」が身につく		
				【実務家教員担当科目】 コンサルティングファームで 20 年間の企業／公共体に対する調査およびコンサルタント経験有り		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Class Introduction Writing and Presenting クラス紹介	授業時間の 2.5 倍準備学修（予習・復習等）		4 時間	
2	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	River Crossing Game 川渡りゲーム	同上		4 時間	
3	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Teamwork Writing and Presenting チームワーク 作文と発表	同上		4 時間	
4	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Mistakes Group Discussion 間違い探しグループディスカッション	同上		4 時間	
5	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Chase the Dragon` s Tail Game ドラゴンのしっぽゲーム	同上		4 時間	
6	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Cooperation and Competition Writing and Presenting 協力と競争 作文と発表	同上		4 時間	
7	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Conflict Group Discussion 対立グループディスカッション	同上		4 時間	
8	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Tiger and Rabbit Ball Game 虎とウサギのボールゲーム	同上		4 時間	
9	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Change Writing and Presenting 変化 作文と発表	同上		4 時間	
10	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Complexity Group Discussion 複雑性グループディスカッション	同上		4 時間	
11	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Team Battle Game チームバトル ゲーム	同上		4 時間	
12	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Personal Presentation Preparation 個人プレゼンテーションの準備	同上		4 時間	
13	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Personal Presentation 個人プレゼンテーション	同上		4 時間	
14	馬内 里美・ウォルグレイヴ イーライ・田邊 文彦	Feedback and Reflection 振り返り	同上		4 時間	
教 科 書		なし。授業中に資料配布				
参 考 書		授業中に紹介				
備 考		全学の選択必修科目の 1 つ。英語で行動・表現・話すことを重視。				

科 目 名		社会活動入門		担 当 者	○加藤 由美・石垣 亨 石橋 千賀・他
科目ナンバリング		103011256			常勤・非常勤
D P		2,4		教員 研 究 室	1301
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位

科 目 名		データサイエンス入門		担 当 者	○柴田 寛・中村 哲也 渡邊 晃久	
科目ナンバリング		103021257			常勤・非常勤	
D	P	2,4		教員研究室	1413 (柴田)・中村 (1427) 非常勤講師室 (渡邊)	
学 科 (専攻)		リハビリテーション学科 (言語聴覚学専攻)		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 現代の高度な情報社会では、情報技術 (IT) に進化と共に、人工知能 (AI) の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんな AI データ技術が利活用されているのか、データ AI を活用する際に何に留意すべきかを理解する。 授業は大学が定める数理データサイエンス AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI 技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データ AI のリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom や Google Form で課題出題、提出、採点后返却、質疑応答などを実施する。		
【学習の到達目標】 1) AI によって変化している現実を理解する、2) データ AI がどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データ AI を活用する際に留意すべきことを理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 学部・学科・専攻により、授業計画の前半 7 回分 (1～7) と後半 7 回分 (8～14) の前後が入替わることがある。授業では BYOD (自己所有のノートパソコンやタブレット型端末) を使用するので必ず持参すること。		
【成績評価方法】 全学共通のルーブリック評価に基づく。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 数理・データサイエンス・AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて体系的に学ぶことができる。		
【実務家教員担当科目】 なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	渡邊 晃久	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習：情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習：AI・データの発展による活用分野を理解すること。			4 時間
2	渡邊 晃久	コンピュータと AI	予習：高校情報 I で既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習：情報技術の発展が AI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。			4 時間
3	渡邊 晃久	社会で活用される AI・データ	予習：AI・データの活用領域の広がりと活用法を捉えておくこと。 復習：AI・データ利活用の事例からデータと AI が関わり新たな価値を創出していることを理解すること。			4 時間
4	渡邊 晃久	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習：現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習：社会システムで活用している AI とビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。			4 時間
5	渡邊 晃久	生活の中の生成 AI	予習：生成 AI の利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習：生成 AI の仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。			4 時間
6	渡邊 晃久	生成 AI の活用の今と将来	予習：高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習：生成 AI の利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。			4 時間
7	渡邊 晃久	社会が求めるデータサイエンス	予習：高校情報 I で既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習：AI とデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりを理解すること。			4 時間
8	中村 哲也	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎 1	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。			4 時間
9	中村 哲也	情報処理ツールの基礎 2	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。			4 時間
10	柴田 寛	データの散らばりを読み取る 1	予習：高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。			4 時間
11	柴田 寛	データの散らばりを読み取る 2	予習：高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。			4 時間
12	柴田 寛	データから全体を推測する 1	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。			4 時間
13	柴田 寛	データから全体を推測する 2	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。			4 時間
14	中村 哲也	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習：各専門分野において、高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習：各専門分野における AI・データサイエンスの利活用の事例 (留意事項を含む) を理解しておくこと。			4 時間
教 科 書		行場、高谷、渡邊共著「人間中心の AI 社会とデータサイエンス - MDASH リテラシーレベル準拠 -」コロナ社				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		特になし。				

科 目 名	医療のための基礎数学			担 当 者	伊藤 朋幸
科目ナンバリング	1030214				非常勤
D P	2,4			教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 大学新入生のための数学入門の第 4,5,7 章の内容(指数関数、対数関数、微分)について学習する。今後の専門科目を学ぶために最低限必要な数学を学習する。				【課題等のフィードバック方法】 課題（レポート）は提出後、点検して早めに返却する。提出された課題の出来具合を見て解説が必要と思われる部分については、適宜授業の中で解説する。	
【学習の到達目標】 数学的なものの考え方と今後の勉強に必要な数学的处理を身に付けることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 数学はこれから学ぶ様々な学問の基礎である。講義を通して、数学的な考え方や知識の整理の仕方を学ぶ。	
【成績評価方法】 定期テスト（70% 程度）および、提出課題（30% 程度）で総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 これから学ぶ専門科目の基礎となる数学的なものの考え方を学ぶことができる。	
				【実務家教員担当科目】 学校現場における教員経験を活かして、授業内容をかみくだいて説明し指導する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	伊藤 朋幸	ガイダンス 指数と指数法則	シラバスをしっかりと読み、授業概要を確認しておくこと。指数法則について、高校の教科書を確認してくる。授業後は問題演習を通して理解を深めること。		4 時間
2	伊藤 朋幸	指数の拡張。指数法則を利用した計算。	累乗根、指数の拡張について高校の教科書を確認してくる。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間
3	伊藤 朋幸	指数関数とグラフ、その特徴と性質。	指数関数のグラフについて、高校の教科書を調べてくる。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間
4	伊藤 朋幸	ネピア数について。指数から対数への導入。	指数関数とそのグラフについての総合演習。これまでの授業の内容をしっかりと復習してくる。授業後は問題演習を通して理解を深めること。		4 時間
5	伊藤 朋幸	対数の定義と対数公式。対数公式を利用した計算問題。	対数とは何かを調べてくること。できれば指数との関係を調べる。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間
6	伊藤 朋幸	対数法則とそれを利用した、対数の計算。	対数法則を利用した計算練習をするので、前の時間の授業をしっかりと復習して臨むこと。授業後は充分問題演習をすること。		4 時間
7	伊藤 朋幸	底の変換公式。自然対数とは。常用対数表を作る。	底の変換公式について調べてくること。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間
8	伊藤 朋幸	対数関数とそのグラフ	対数関数のグラフについてしっかりと復習しておくこと。授業後はなるべくたくさん問題演習をすること。		4 時間
9	伊藤 朋幸	平均変化率と微分係数の定義およびその問題演習。	微分係数とは何かを調べておくこと。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間
10	伊藤 朋幸	導関数の定義と問題演習。	導関数とは何かを調べておく。前回の復習をしっかりとやって授業に臨むこと。授業後は問題演習を通して理解を深めること。		4 時間
11	伊藤 朋幸	微分の公式とそのもんだい問題演習。接線の方程式。	微分の基本公式と性質について調べておく。しっかりと予習をして授業に臨むこと。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間
12	伊藤 朋幸	積・商の微分公式とその演習	積・商の微分公式について調べておくこと。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間
13	伊藤 朋幸	関数の増減とそのグラフ	微分の図形的な意味を確認し授業に臨むこと。授業後は問題演習を通して理解を深めること。		4 時間
14	伊藤 朋幸	総合問題演習	微分の総合演習なので、疑問点を持って授業に臨み疑問点を解決すること。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間
教 科 書		「大学新入生のための数学入門」石村園子著 共立出版（株）			
参 考 書		1. 高校で学んだ教科書 2. 「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版（株）			
備 考		授業を受ける前に該当する項目についてしっかりと教科書を読んで復習し、授業に臨んでほしい。			

科 目 名	生活の中の化学			担 当 者	堂浦 克美
科目ナンバリング	103021259				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	1206
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現在、多くの物質やそれを利用した製品が次々と生みだされており、これらの物質は、私たちの毎日の暮らしを豊かにし、生活に欠かせないものになっている。本講義では、化学の基礎とその役割について学ぶ。 また、高校化学の学修が十分ではない受講者でも理解できるよう平易な解説を行う。				【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートや小テストなどの課題は、授業中またはクラスルームで解説する。	
【学習の到達目標】 生活の中の化学では、身の回りの物質とその用途などを通して、化学の基礎的知識を習得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義のふり返しをおこなうので復習をしておくこと。やむを得ない理由で遅刻や欠席の場合は事前事後に関わらず担当教員まで連絡すること。	
【成績評価方法】 ミニレポート：40%、レポート：60% で総合的に評価する。詳細は、授業時に説明する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 日常生活で使われる商品（食品含む）を通して化学に親しみ、延いては化学の視点から自然科学現象を分析する素地を養うことにつながる。	
				【実務家教員担当科目】 該当せず	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	堂浦 克美	ガイダンス		4 時間
2	堂浦 克美	原子と分子	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
3	堂浦 克美	元素の種類と性質	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
4	堂浦 克美	化学結合	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
5	堂浦 克美	物質質量とモル	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
6	堂浦 克美	化学反応式	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
7	堂浦 克美	レポート作成	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
8	堂浦 克美	物質の状態変化：気体の性質/ 溶液の性質	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
9	堂浦 克美	酸化と還元	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
10	堂浦 克美	非金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
11	堂浦 克美	典型金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
12	堂浦 克美	遷移金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
13	堂浦 克美	脂肪族化合物 / 芳香族化合物	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
14	堂浦 克美	レポート作成	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
教 科 書		「商品から学ぶ化学の基礎」 松田勝彦 著、化学同人		
参 考 書		特になし		
備 考		特になし		

科 目 名		生活の中の生物学		担 当 者	戸田 孝史	
科目ナンバリング		1030212510			常勤	
D P		2,4		教員研究室	1327	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 地球という環境の中で生きる我々ヒトが生物学的にどのような存在なのか、そして我々がヒトは生涯を生き抜くために、どのように身体構造と機能を有しているのか、更に、生物としてどのような役割を果たしているのかについて学ぶ 【学習の到達目標】 生物の多様性と共通・ヒトの生物学的特徴・ヒトが生きる役割について修得する 生命の倫理観を理解できる 【成績評価方法】 レポート 60% ミニレポート（小テストに変えることもある） 40% 詳しいことは授業に置いて説明します 【課題等のフィードバック方法】 レポートやミニレポート等の課題は、授業中またはクラスルームで解説する 【履修上の注意・予習・復習について】 予習を重視すること・学修内容を確認しておくこと 復習は資料の整理を怠らないこと 【受講して得られる効果・メリット、その他】 私たちはどのような存在なのかを生物学的に理解し、私たちが生物としてどのような役割を果たしているのかを知ること、人生を健康に生き抜く意義を感じ取ることができる。また人々が健全に生きるための倫理観を習得できる 【実務家教員担当科目】 該当せず						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	戸田 孝史	ガイダンス：生物の進化と多様性 ※生物の進化の過程と人の誕生について触れないか	予習：生物の進化と多様性について調べておく 復習：授業課題の確認		4 時間	
2	戸田 孝史	細胞 1：細胞の種類と細胞膜の構造	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
3	戸田 孝史	細胞 2：核と細胞小器官	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
4	戸田 孝史	細胞 3：栄養と代謝とエネルギー	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
5	戸田 孝史	遺伝情報 1：遺伝のメカニズム	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
6	戸田 孝史	遺伝情報 2：遺伝病	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
7	戸田 孝史	細胞分裂 1：分裂の仕方	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
8	戸田 孝史	細胞分裂 2：減数分裂	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
9	戸田 孝史	人体の階層構造 1：組織と器官	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
10	戸田 孝史	人体の階層構想 2：器官系	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
11	戸田 孝史	ホメオスタシス 1：生体の維持のしくみ	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
12	戸田 孝史	生体防御機構と免疫	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
13	戸田 孝史	成長と老化	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
14	戸田 孝史	生命倫理	予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認		4 時間	
教 科 書		講義時に指示する				
参 考 書		講義時に指示する				
備 考		連絡事項があれば講義時に指示する				

科 目 名		医療情報科学			担 当 者	鈴木 亮二
科目ナンバリング		1030212511				非常勤
D P		1,2			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 医療現場に就職した際に戸惑わないように、医療情報システムと遠隔医療の概要、並びに個人情報保護について学ぶことを目的とする 【学習の到達目標】 ・医療情報システムの概要を知ることができる ・遠隔医療について知ることができる ・個人情報保護について知ることができる 【成績評価方法】 授業参加態度 10%（10 点） レポート 90%（90 点） 【課題等のフィードバック方法】 ・講義終了後、質問を受け付け回答する 【履修上の注意・予習・復習について】 ・飲食、私語の禁止 ・携帯電話禁止 【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療情報システムの概要と個人情報保護の知識を得ることができるので、医療現場に就職した際にシステムに対して理解できる 【実務家教員担当科目】 大学病院に勤務し、医療情報システム更新を 2 回経験した						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	鈴木 亮二	ICT による見守りと医療情報システム更新について	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
2	鈴木 亮二	遠隔医療と服薬支援について	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
3	鈴木 亮二	電子カルテについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
4	鈴木 亮二	医事会計システムについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
5	鈴木 亮二	部門システムについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
6	鈴木 亮二	個人情報保護について	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
7	鈴木 亮二	アクセシビリティについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
教 科 書		保健医療福祉情報システム工業会編、医療情報システム入門 2023、社会保険研究所				
参 考 書		該当なし				
備 考		該当なし				

科 目 名	統計解析			担 当 者	西澤 哲
科目ナンバリング	1030222512				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	3212
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ① 客観的に表現する方法のひとつとしての統計学の概念を講義する ② 論理的な判断にもとづく検定の概念を講義する				【課題等のフィードバック方法】 講義確認テストの採点結果	
【学習の到達目標】 論理的な判断にもとづいた検定手法を理解する				【履修上の注意・予習・復習について】 本講義は積み重ねを重要視する。したがって復習を十分に行うこと	
【成績評価方法】 期末テスト 90%，不定期に行う「講義確認テスト」10%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 論理的な判断にもとづいた検定手法を得る	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	西澤	統計学とは何か	①リハで統計学を学ぶ意義，②客観性の概念の理解，③本講義のゴール，④ゴールに向かうまでの過程を復習		4 時間
2	西澤	データ尺度	3 つのデータ尺度を分類する基準を復習		4 時間
3	西澤	代表値と図 1	2 回目のデータ尺度の特徴を予習 ①間隔尺度の代表値の理解，②間隔尺度の図表の作成を復習		4 時間
4	西澤	代表値と図 2	2 回目のデータ尺度の特徴を予習 ①順序名義尺度の代表値，②順序名義尺度の図表，③図・表の作成上の形式の復習		4 時間
5	西澤	演習問題 1（テスト形式で第 2 ～ 4 回の演習問題を行う）	あらかじめ，第 2 ～ 4 回の講義内容を復習しておくこと		4 時間
6	西澤	対応のあるデータと対応のないデータ 1	対応のあるデータと対応のないデータの区別を復習		4 時間
7	西澤	対応のあるデータと対応のないデータ 2	パラメトリックデータの相関と回帰の違いの復習		4 時間
8	西澤	検定 1（検定の基礎の理解）	①検定の証明方法，②有意確率，③有意水準の復習		4 時間
9	西澤	検定 2（確率密度分布と有意確率の関係）	①確率密度分布の意味，②有意確率を確率密度分布で表す方法，③検定統計量の復習		4 時間
10	西澤	検定 3（片側検定と両側検定の概念）	①片側検定と両側検定の違い，②帰無仮説の違い，③検定結果の違いの復習		4 時間
11	西澤	検定 4（t 検定の手順）	① t 検定の手順，② t 検定を行えない場合の復習		4 時間
12	西澤	演習問題 2（テスト形式で第 6 ～ 11 回の演習問題を行う）	あらかじめ，第 6 ～ 11 回の講義内容を復習しておくこと		4 時間
13	西澤	総合演習（テスト形式で第 2 ～ 13 回の演習問題を行う）	あらかじめ，もう一度，第 2 回目からの内容を復習すること		4 時間
14	西澤	総合演習：第 14 回のつづき	あらかじめ，もう一度，第 2 回目からの内容を復習すること		4 時間
教 科 書	とくになし				
参 考 書	必要に応じて授業中に紹介する				
備 考	とくになし				

科 目 名	生活の中の物理学			担 当 者	早川 美徳
科目ナンバリング	1030212513				非常勤
D P	2,4			教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 私たちの身の回りには、様々な機械、電子機器、ヒトをはじめ様々な動物、天体を含む自然など、さまざまな「物」が存在している。これらの物の動きや機能は、物質の基本的な性質や自然現象を解明しようとする科学的な営みである物理学と深く関係している。本講義では、物理学の基本的な概念や考え方を生活に関係した実例を交えながら紹介し、生活の中の様々な現象や物の動きを物理学に基づいて考えるすべを学修する。あわせて、物理学が今後の生活や社会で果たす役割、影響などについて考えていく。				【課題等のフィードバック方法】 毎回、ミニ課題と講義での気づきや意見・質問をミニットペーパー等で提出する。個別の質問への回答は原則として個別に行い、課題については翌週の授業の最初で振り返りを行う。	
【学習の到達目標】 ・物理学が身の回りの現象の理解に役立つだけでなく、生活の各所で応用されていることを具体的な事例を伴って考え、理解する。 ・安全で健康的な生活を営むための判断に必要なとなる物理学的な知識や常識を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 教室での演示実験を行う予定であるので、実施にあたり積極的に協力すること。毎週、前週講義のふり返しをおこなうので復習をしておくこと。やむを得ない理由で遅刻や欠席の場合は事前事後に関わらず担当教員まで連絡すること。	
【成績評価方法】 ミニ課題 40%、ミニットペーパーの記入状況 40%、最終レポート課題 20% の重みで総合評価する。これらの提出が行われていない回は、出席とみなさないので注意すること。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 私たちの身の回りにある様々な機械、電子機器、ヒトや様々な動物などの機能が理解できるようになる。また、物理学を通して自然や社会を眺めることによって、新しい気づきが生まれ、より豊かな発想や想像力を得ることができる。	
【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	早川 美徳	ガイダンス（授業の進め方の説明）後、物理学とは何かをテーマとして、物理学の対象と研究方法、基本的な物理量とその定義、計測法、単位について学ぶ	当該の講義内容（教科書 1.2.1 項まで）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
2	早川 美徳	「物理量の単位はどう表されるか」をテーマに、物の長さ、面積、体積、質量、位置、速度、加速度などを対象に、それらを表す SI 単位系（国際標準）について学ぶ	講義内容（教科書 1.2.2 項と 2.1 節）について予習する。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
3	早川 美徳	「物はどうのように落ちるか」と「ロケットは何故飛べるか」をテーマに、自由落下と等加速度運動、重力加速度、様々な力とその合成、作用反作用の法則等について学ぶ	講義内容（教科書 2.3 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
4	早川 美徳	「ニュートンは何を見つけたのか」をテーマに、ニュートンの運動方程式、加速度運動等について学ぶ	講義内容（教科書 4 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
5	早川 美徳	「テーブルクロス引きの上達法」をテーマに、摩擦力、慣性の法則等について学ぶ	講義内容（教科書 5 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
6	早川 美徳	「ジェットコースターの設計法」をテーマに、力学エネルギーと仕事、エネルギーの保存等について学ぶ	講義内容（教科書 7 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
7	早川 美徳	前半のまとめ：物理学の対象と研究方法、基本的な物理量とその定義、計測法、単位と、力学と呼ばれる物理学の分野の考え方を整理する	これまで 6 回の講義内容について復習して、疑問点を整理してまとめる。		4 時間
8	早川 美徳	「空の色が青い理由」と「シャボンの膜が虹色に見える理由」をテーマに、波動としての光の性質、スネルの法則等について学ぶ	講義内容（教科書 10、11 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
9	早川 美徳	「楽器の音程はどう決まるのか」と「救急車のサイレンの音が変化する理由」をテーマに、縦波と横波、音速と波長、固有振動、ドップラー効果等について学ぶ	講義内容（教科書 12,13 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
10	早川 美徳	「暑いということとは」と「クーラーは何故涼しいのか」をテーマに、温度の性質と絶対温度、温度による物質の変化、熱と仕事、熱機関の基本原理解について学ぶ	講義内容（教科書 17,18,19 章）について予習する。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
11	早川 美徳	「冬場に静電気が起こる理由」と「コンパスはなぜ南北を指すのか」をテーマに、電荷と電荷に働く力、磁場等について学ぶ	講義内容（教科書 20 章と 21.1 節）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
12	早川 美徳	「上手に節電するには」をテーマに、磁場と電流の関係、ローレンツ力、電磁誘導と発電・送電の仕組み等について学ぶ	講義内容（教科書 21.2 節と 22 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
13	早川 美徳	「電子レンジで何故食品が温まるのか」と「もし原発事故が起こったら」をテーマに、電磁波の性質、電磁波と物質の相互作用、放射性崩壊と放射線等について学ぶ	講義内容（教科書 23,24 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
14	早川 美徳	「生活の中の事象を不思議に思うこと」を軸に、担当教員の研究紹介も交えつつ、講義全体のまとめを行う	予習として、事前に配布する資料を通読しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。		4 時間
教 科 書	齊藤 史郎著、日常の中の物理学、学術図書出版社、2019（1600 円＋税）				
参 考 書	真貝 寿明 著、日常の「なぜ」に答える物理学、森北出版、2015（2200 円＋税） その他、必要に応じて適宜紹介する。				
備 考	資料等は Google Classroom あるいは教室で配布する。				

科 目 名		アカデミック・スキル演習		担 当 者	○小泉 智枝・藤原加奈江 中村 哲也・阿部 千佳	
科目ナンバリング		1030212514			常勤	
D P		2,3		教員 研 究 室		1426
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次		1 年次・通年
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 言語聴覚障害学を学修していく上で、主体的でより効果的に学修に取り組むために必要最小限の基礎力、思考力、表現力、実践力を身に付ける。将来的な社会の変化を見据え、卒業後も生涯学習が必要であることを理解する。前期 7 回、後期 7 回に分けて実施する。 【学習の到達目標】 1. 言語聴覚障害学を学修していく上で必要となるコミュニケーションの基礎を身につける。 2. 社会におけるマナー・規律を理解し実践する力を身につける。 3. 自ら学習テーマを設定し情報を取捨選択できる自立した学習者としての基本的な学習態度を習得する。 4. 資料や情報等を比較分析、論点を整理し、さらにそれに対する自らの考えを適切に述べることができる。 5. グループワークを通じ他者と協力し合い取り組み、成果を出すことができる。 【成績評価方法】 詳細は初回授業で説明する。 レポート・プレゼンテーション〔基礎レポート課題 30%、基礎プレゼンテーション課題 30%、実践課題 40%〕 【課題等のフィードバック方法】 提出物の添削、プレゼンテーションに対する講評と解説を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 課題の提出期限を守り、グループ活動に積極的に参加すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語聴覚士に必要な対人コミュニケーションスキルを育み、社会人としてのマナーを身につけることができる。情報収集と分析、レポート作成、プレゼンテーションに関する基本的なスキルを修得することができる。また、自ら問いを設定し、主体的・対話的に学ぶ学習態度を身につけることができる。 【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として臨床での実務経験を持つ常勤教員が講義を担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	専攻教員	オリエンテーション	・ゼミグループとスチューデントアドバイザー（SA）を知る。 ・社会人としてのマナーについて。			1 時間
2	専攻教員	図書館ガイダンス	図書館職員から、学内図書館の利用について学ぶ。また、大学図書館のシステムによる文献検索を実際に体験する。			1 時間
3	全担当教員	基礎課題 論理構成 1	・レポートの形式や書き方、レポートを作成するために必要な情報倫理について学ぶ。 ・図や表から情報を読み取り、自分の意見を Word を用いてレポートにまとめる。			1 時間
4	全担当教員	基礎課題 論理分析 2	・図や表から情報を読み取り、レポートを作成するための情報を整理する。 ・自分の意見について Word にまとめ、レポートを作成する。			1 時間
5	全担当教員	基礎課題 コミュニケーション 1	小グループに分かれ、お互いの情報や分析結果、意見を共有する。 ・双方向で行うディスカッションの基礎を学ぶ。			1 時間
6	全担当教員	基礎課題 コミュニケーション 2	ディスカッションを通じて、共有した情報をまとめ、分析を深める。 ・自分の考えをまとめ、レポートを完成させる。			1 時間
7	全担当教員	基礎課題 プレゼンテーション	・口頭発表のマナーを学び、レポートにまとめた自分の考えを分かりやすく発表する。 ・発表に対して質疑応答を行う。			1 時間
8	全担当教員	実践課題 課題の設定 1	・言語聴覚学に関連する内容について、グループ毎にディスカッションを行い、疑問に思った課題を設定する。			1 時間
9	全担当教員	実践課題 課題の設定 2	・設定した課題について情報収集を行う。 ・各グループ毎に課題を決定し、プレゼンテーションまでの計画をたてる。			1 時間
10	全担当教員	実践課題 情報の整理・分析 1	・グループで収集した情報を整理し、分析する。 ・分析した内容を PowerPoint にまとめる。			1 時間
11	全担当教員	実践課題 情報の整理・分析 2	・収集した情報や分析結果について、考察を行う。 ・発表のために PowerPoint にまとめる。			1 時間
12	全担当教員	実践課題 情報の整理・分析 3	・収集した情報を整理し、分析・考察を深める。 ・発表のために PowerPoint にまとめる。			1 時間
13	全担当教員	実践課題 プレゼンテーションの準備	・プレゼンテーションの仕方、注意点を学ぶ。 ・プレゼンテーションの準備、予行演習。			1 時間
14	専攻教員	実践課題 プレゼンテーション	・プレゼンテーションと、質疑応答を行う。			1 時間
教 科 書		各教員が必要に応じ教室にて指示する。				
参 考 書		知へのステップ：学習技術研究会編著（くろしお出版） 大学基礎講座・充実した大学生活をおくるために：藤田哲也（北大路書房）				
備 考		詳細、疑問点などは各ゼミ担当教員に相談すること。				

科 目 名		生命倫理学		担 当 者	高木 大輔	
科目ナンバリング		1030212515			常勤	
D P		3,4		教員研究室	3210	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生命におけるさまざまな倫理的課題について触れ、他者とのディスカッションを通じて理解を深めていく 【学習の到達目標】 生活の質（QOL）の向上を視野に、生命（人生）における倫理的課題、特に健康・医療との関りのなかで生じる課題について考える力を身に付ける 【成績評価方法】 授業内課題によって成績を評価 【課題等のフィードバック方法】 グループワークの内容を授業の終わりに個別に提出し、次回にそのフィードバックを行う 【履修上の注意・予習・復習について】 授業毎に予習・復習に努めること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 生命（人生）における倫理的な課題に関する様々な考え方を学ぶことができる 【実務家教員担当科目】 リハビリテーション医療に携わってきた教員が授業を担当する						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	高木 大輔	健康、病気、生活の質	予習：「健康、病気、生活の質」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
2	高木 大輔	医療倫理の 4 原則	予習：「医療倫理」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
3	高木 大輔	インフォームド・コンセント	予習：「インフォームド・コンセント」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
4	高木 大輔	在宅医療と家族による看取り	予習：「在宅医療と家族による看取り」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
5	高木 大輔	医療としての正しさと患者の価値観	予習：「医療としての正しさと患者の価値観」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
6	高木 大輔	安楽死と尊厳死	予習：「安楽死と尊厳死」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
7	高木 大輔	健康的に生きるとは	予習：「健康的に生きること」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
教 科 書		各回、授業資料を配布する				
参 考 書		小林亜津子：QOL って何だろう 医療とケアの生命倫理，ちくまプリマー新書 小林亜津子：はじめて学ぶ生命倫理 「いのち」は誰が決めるのか，ちくまプリマー新書				
備 考		なし				

科 目 名		スポーツ実技		担 当 者	○犬塚 剛・森田 清美 金田 幸夫・未定
科目ナンバリング		1030212516			常勤・非常勤
D	P	3,4		教員研究室	1304
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 それぞれのライフスタイルや体力や年齢、目的に応じたスポーツを楽しめるよう、自分に適したスポーツを選択し、理論、技術、方法等について継続的に学習して実力の向上を図り、自分の生涯スポーツにつながる基礎的能力を身につけることを目標とする。 【学習の到達目標】 各自の生涯スポーツ種目を見極め、基本的なルールや技術を身につける。スポーツを通じた体力づくりや健康管理の方法について習得する。 【成績評価方法】 成績は、授業中のゲーム遂行や準備に対する積極的な態度、技能テストなどにより評価する 70%、実技内評価・課題レポート 30% 【課題等のフィードバック方法】 適宜、種目ごとに講義内容の振り返りを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 〈服装〉動きやすいスポーツウエア等を着用し、体育館用シューズと屋外用シューズを明確に区別し使用すること。〈授業見学と公欠〉体調のすぐれない者や怪我等により見学を希望する者は授業開始時に申し出ること。但し長期見学の場合は医師の診断書を持参すること。また、親族の不幸やクラブ活動の競技会等により授業を欠席する場合は原則として公欠とするので届け出ること。〈遅刻および早退〉点呼終了後に授業に参加した場合は遅刻と判断する。また事情により授業を早退する場合は必ず理由等を教員に届けること。無断で授業を早退した場合には授業放棄とみなしその後の授業に出席しても単位を出さないこともあるので注意すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 他学部、他学科の学生が集まりスポーツを通じてコミュニケーションを育むことで社会人基礎力として多様な他者とのコミュニケーション能力やチームワーク、チャレンジする精神力などを養うことができる。 【実務家教員担当科目】 高等学校や大学で競技指導実績を持つ教員らが講義を担当する。					
授 業 計 画					
（実施種目） 屋内種目「球技系（バスケットボール・バレーボール）、ラケット系（バドミントン・卓球&レクリエーション）、フィットネス系（トレーニングなど）」屋外種目「サッカー（フットサル）、ソフトテニス（テニス）」以上の実技種目の中から原則 1 種目を選択する。施設設備のスペースや備品の状況により、種目毎に希望者数の上限を設ける予定である。種目希望者数に大きな偏りが生じる場合は、その状況に鑑み、種目の分散などによる人数調整を行う。なお、履修希望者数の状況等により、開講種目が変更される可能性もある。 1.2：オリエンテーション（種目の選択と講義概要および講義中の諸注意などについて） 3～22：各種目毎の実践・技能テスト・レポート課題の作成等 種目ごとに授業内容は異なるが、各種目とも共通にウォーミングアップの方法、基本的技術動作の習得、ルールの習得、戦術の学習などを通じて、各自が多面的にその種目への理解を深めることやゲーム運営をスムーズにこなせることを目標に授業を進める。					
教 科 書		特になし。			
参 考 書		「ビジュアルスポーツ小百科」 大修館書店 （980 円）			
備 考		※ 諸連絡に関しては、クラスルームへ連絡を入れるので確認を怠らないこと。 ※ 急な変更事項に関しては、クラスルームや体育館入口前に掲示を行うので確認すること。 ※ 種目選択については、施設のスペースや希望者数の偏りを見て、種目選択人数調整が入ります。 問い合わせ教員：犬塚 剛、森田清美			

科 目 名	心理学概論			担 当 者	北川 公路
科目ナンバリング	1030212517				常勤
D P	3,4			教員研究室	3204
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 心理学は、人間の活動すべてに関わるものであり、内容は多岐にわたっている。 本講義では、心理学の成り立ち、ひとのこころの基本的な仕組み及びはたらき、その概観を説明していく。心理学の基礎知識を学び、人間の行動を科学的に研究する方法や研究領域ごとの特色を理解した上で、こころのとらえ方、メカニズム、こころの問題へのアプローチ方法まで学習する。心理学の実験や現象を参考にしながら、心理学的な問題解決能力を習得することを目指す。心理学の各領域についての講義を通じ、学問としての裾野の広さを理解できるようにする。 担当教員の公認心理師としての経験をもとに、講義を通して紹介する。					
【課題等のフィードバック方法】 講義ごとにリアクションペーパーの提出を求めている。その提出物は次の講義で返却をする。質問については授業で紹介していく。					
【履修上の注意・予習・復習について】 事前に配布されている資料を読んでくことを予習とする、講義中の議論の際は積極的に参加すること。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 人間をより理解することができるようになると考えられる。					
【実務家教員担当科目】 公認心理師が当該科目を担当する。					
【学習の到達目標】 (1) 心理学の様々な領域の用語の意味について記述できる。 (2) 心理学の知識をもとに、人間行動を解釈することができる。 (3) 人間を科学的に考える立場から現実社会の問題についての議論に参加できる。					
【成績評価方法】 定期試験（60%）と講義内課題・参加（40%）による総合評価。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	北川 公路	ガイダンス、心理学とは	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
2	北川 公路	心理学の歴史	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
3	北川 公路	学習と記憶	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
4	北川 公路	感情と動機づけ	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
5	北川 公路	知覚と注意	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
6	北川 公路	認知機能の障害	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
7	北川 公路	人格の理論と測定	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
8	北川 公路	発達と発達障害	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
9	北川 公路	言語と思考	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
10	北川 公路	心の健康と適応	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
11	北川 公路	心の病態アセスメント	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
12	北川 公路	個人と集団	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
13	北川 公路	心理学の応用 心理療法	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
14	北川 公路	心理学の応用 心理療法	予復習：配布資料をもとに学修する。		4 時間
教 科 書		指定なし。			
参 考 書		講義が進む中で適宜、紹介する。			
備 考		特記事項無し。			

科 目 名		コミュニケーション論			担 当 者	呂本 俊亮	
科目ナンバリング		1030212518				非常勤	
D P		1,3			教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、心理学をベースにコミュニケーションの基礎と応用を学びます。私たちはふだん、あたりまえのように相手が発した情報を理解し、あたりまえのように自分の考えを表現して相手とコミュニケーションを行っています。しかし、そこには私たち人間のきわめて高度な心理メカニズムが働いています。また、コミュニケーションはどんな場面でもうまくゆくとは限りません。その成否はさまざまな要因に左右されます。その要因の1つが、情報の送り手のコミュニケーション能力です。自分の考えを正確に、そして効果的に他者に伝える能力。それはみなさんの今後の人生において、ますます重要なものとなっていくでしょう。この授業を通して、そのような能力を向上させるためのヒントを獲得してもらえれば幸いです。					【課題等のフィードバック方法】 小テストの解説を、小テスト実施直後に行う。小テスト結果は開示する。		
【学習の到達目標】 1. 人と人とのコミュニケーションに関する心理学的知識を獲得し、日常生活の中で思い出したり活かしたりできるようになる。 2. 実社会で役立つコミュニケーション能力を向上させるためのきっかけをつかむ。					【履修上の注意・予習・復習について】 次の行為は原則としてすべて禁止です。遅刻、途中退出、私語、授業中の携帯・スマホ、他の受講者に迷惑をかける行為、提出物の締切後の提出、不正行為。		
【成績評価方法】 提出物 5%、小テスト 45%、定期試験 50%					【受講して得られる効果・メリット、その他】 1. 人と人とのコミュニケーションに関する心理学的知識を獲得し、日常生活の中で思い出したり活かしたりできるようになります。 2. 実社会で役立つコミュニケーション能力を向上させるためのきっかけが得られます。		
【実務家教員担当科目】 該当なし							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	呂本 俊亮	言葉で伝えることの難しさ	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。				4 時間
2	呂本 俊亮	言葉以外のメッセージ（1）	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。				4 時間
3	呂本 俊亮	言葉以外のメッセージ（2）	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。				4 時間
4	呂本 俊亮	まとめと小テスト 1	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。				4 時間
5	呂本 俊亮	自己とコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。				4 時間
6	呂本 俊亮	会話の成立要件	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。				4 時間
7	呂本 俊亮	言語理解の心理メカニズム	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。				4 時間
8	呂本 俊亮	作文の認知過程	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。				4 時間
9	呂本 俊亮	まとめと小テスト 2	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。				4 時間
10	呂本 俊亮	好きを生み出すコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。				4 時間
11	呂本 俊亮	見せて伝えるコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。				4 時間
12	呂本 俊亮	実社会でのコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。				4 時間
13	呂本 俊亮	コミュニケーションクイズ大会	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。				4 時間
14	呂本 俊亮	小テスト 3 と全体のまとめ	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。				4 時間
教 科 書		呂本俊亮（著）『言葉とコミュニケーション 心理学を日常に活かす』朝倉書店					
参 考 書		なし					
備 考		なし					

科 目 名		現代国語表現			担 当 者	大泉 浩一							
科目ナンバリング		1030212519				非常勤							
D P		1,3			教 員 研 究 室	非常勤講師室							
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期							
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位							
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク □該当なし											
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない							
【授業内容】 14 回の授業で毎回作文を書くことによって、人に伝わる文章を作成するための基本技術を学ぶ。あわせて「人に伝わる」とはどういうことかについて、言葉とコミュニケーションの問題を中心に考察する。 作文が不得意でも受講、単位取得にはまったく問題はない。ただし主に作文提出をもって評価する。 【学習の到達目標】 具体的な例を挙げて、自分の考えを他者に明確に伝える文章が作成できるようになること。 【成績評価方法】 毎回の作文課題 50%、最終課題（長い作文）50%							【課題等のフィードバック方法】 作文を添削し、改善点を指摘する。 【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻・私語等には厳しく対応する。出席不良の場合は評価対象外とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 「学習の到達目標」に同じ。 他の講義や実習で書くレポート、また就職活動で書く履歴書・エントリーシート・小論文試験、卒業後に仕事で書く文章の作成に役立つ。 【実務家教員担当科目】 該当しない						
授 業 計 画													
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間										
			予習・復習			学修時間							
1	大泉 浩一	オリエンテーション	高校までに習った作文・小論文の書き方を確認してくる。講義の内容を確認する。			4 時間							
2	大泉 浩一	説明文の書き方（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間							
3	大泉 浩一	説明文の書き方（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間							
4	大泉 浩一	報告文の書き方（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間							
5	大泉 浩一	報告文の書き方（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間							
6	大泉 浩一	何を書くか・どう書くか（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間							
7	大泉 浩一	何を書くか・どう書くか（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間							
8	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間							
9	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間							
10	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（3）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間							
11	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（4）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間							
12	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（5）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間							
13	大泉 浩一	言葉の世界の広がり	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。			4 時間							
14	大泉 浩一	まとめ	返却された作文を読み直し、反省点を次の機会に活かす。			4 時間							
教 科 書		なし											
参 考 書		授業内で随時紹介する。											
備 考		なし											

科 目 名		英語コミュニケーションⅠ		担 当 者	○大野 朝子・フランク グッチェ	
科目ナンバリング		1030212520			常勤・非常勤	
D P		4		教員研究室	1329	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 この授業では、英語を用いて円滑なコミュニケーションを行う力を養うために、英会話での受け答えの練習、トピックをより深く理解するための英語読解力やボキャブラリーの習得、およびリスニングのスキルを学ぶ。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、他者と英語で意見交換を行う。						
【学習の到達目標】 様々な文化的背景をもつ海外の人と意見を交換したり、互いの文化の相互理解を促進するための英語力を身につける。 ・日常の平易な質問及び応答が口頭でスムーズにできるようになる。 ・他者の発話を聞いて理解し、積極的に自らの考えを適切な表現で伝えることができる。						
【成績評価方法】 成績評価では以下を総合的に判断する。 ・授業中のディスカッションにおける積極的発話 50% ・各授業で学んだボキャブラリーの修得実績 30% ・授業で行う簡潔なプレゼンテーションのクオリティー 20%						
【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業中に学生から質問やコメントを受け、当該授業や次回以降の授業で適宜回答する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 ・学生同士の積極的な交流を通じて英語のスキルアップを目指してください。 ・全 14 回授業中、10 回以上出席してください。遅刻に関しては遅延の度合いによっては欠席扱いとなります。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 基本的な英会話力、教材を読んで内容の詳細を理解できる語彙力、外国人と意思疎通できるコミュニケーション力が身につく。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	フランク グッチェ	オリエンテーション	予習：自己紹介表現を確認する。 復習：新しいフレーズや語彙を練習する。			1 時間
2	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。			1 時間
3	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。			1 時間
4	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。			1 時間
5	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。			1 時間
6	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。			1 時間
7	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。			1 時間
8	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。			1 時間
9	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。			1 時間
10	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。			1 時間
11	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。			1 時間
12	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。			1 時間
13	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。			1 時間
14	フランク グッチェ	教材のトピックに関連する英語表現を学ぶ	予習：最終に確認する疑問点をまとめる。 復習：授業で気づきをクラスで話し合いまとめる			1 時間
教 科 書		担当教員の指示に従ってください。				
参 考 書		適宜、授業で指示する。				
備 考		特になし				

科 目 名		英語コミュニケーションⅡ			担 当 者	○大野 朝子・フランク グッチェ	
科目ナンバリング		1030212521				常勤・非常勤	
D P		4			教員研究室	1329	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、「英語コミュニケーションⅠ」で学んだ基本的なスキルに加え、より円滑なコミュニケーション能力を養うために、英会話、読解力、ボキャブラリー、およびリスニングの応用スキルを学ぶ。					【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業時に学生から質問やコメントを受け、当該授業や次回以降の授業で適宜回答する。		
【学習の到達目標】 異なる文化的背景を持つ外国人と、円滑かつ継続的にコミュニケーションを図るための英語力を身につける。 ・個人的に興味のあるテーマや社会的トピックについて、キーワードや具体例を用いて意思疎通を図ることができる。 ・聞き返しや言い換え、要約などのコミュニケーションストラテジーを活用し、自分の理解を相手に確認しながら会話を続けることができる。					【履修上の注意・予習・復習について】 ・学生同士の積極的な交流を通じて英語のスキルアップを目指してください。 ・全 14 回の授業のうち 10 回以上出席してください。遅刻に関しては、遅延の度合いによって欠席扱いとなります。		
【成績評価方法】 成績評価は以下を総合的に判断する。 ・授業中のディスカッションにおける積極的発話 50% ・各授業で学んだボキャブラリーの修得実績 30% ・授業で行う簡潔なプレゼンテーションのクオリティー 20%					【受講して得られる効果・メリット、その他】 ある程度の詳細な英会話力、難易度の高い教材を読み解く語彙力、外国人と比較的長く意思疎通を図るためのコミュニケーション力が身につく。		
【実務家教員担当科目】 該当なし							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	フランク グッチェ	イントロダクション：授業の目的、進行方法、評価基準を説明する。「英語コミュニケーションⅠ」で学んだ内容を振り返り、自己紹介アクティビティを実施する。	予習：自己紹介表現を確認する。 復習：新しいフレーズや語彙を練習する。				1 時間
2	フランク グッチェ	コミュニケーションストラテジー（1）：聞き返し、言い換え、確認の方法を学び、ロールプレイを通じて実践する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
3	フランク グッチェ	コミュニケーションストラテジー（2）：意見の対立や誤解が生じた際の対応スキルを学び、ディスカッションを通じて実践する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
4	フランク グッチェ	リスニング応用スキル（1）：ニュースやインタビューの音声を使い、主旨と詳細を聞き取る練習を行う。重要なフレーズを抜き出して要約する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
5	フランク グッチェ	リスニング応用スキル（2）：長めの英語音声聞き取り、要点とスピーカーの意見を整理する。ペアで音声の内容について議論する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
6	フランク グッチェ	トピックディスカッション（1）：「旅行と異文化体験」をテーマに、各自の経験や考えについてディスカッションを行い、文化的な違いへの気づきを共有する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
7	フランク グッチェ	トピックディスカッション（2）：「グローバルな課題（例：気候変動や国際支援）」をテーマに議論し、自分の立場を明確に示しながら意見を述べる。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
8	フランク グッチェ	読解応用スキル（1）：英語の記事を読み、文脈から単語の意味を推測する練習を行う。内容を要約し、自分の意見を短い文章で表現する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
9	フランク グッチェ	読解応用スキル（2）：社会問題に関する記事（例：環境問題や AI の影響）を読み、グループで意見交換を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
10	フランク グッチェ	ボキャブラリー応用（1）：複雑な感情表現や意見を述べる際に使える語彙を学び、実際の会話で活用する練習を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
11	フランク グッチェ	ボキャブラリー応用（2）：アカデミックなトピックに関連する英単語や表現を学び、リスニングやスピーキングに応用する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
12	フランク グッチェ	プレゼンテーションの準備：自分で選んだトピックについて、3～5 分のプレゼンテーションを準備する。構成やスライド作成のポイントを学ぶ。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
13	フランク グッチェ	プレゼンテーションの発表：各学生がプレゼンテーションを発表し、クラスメイトと質疑応答を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
14	フランク グッチェ	今学期のまとめ：学期全体を振り返り、各スキルの向上度を自己評価する。個別のフィードバックを実施する。	予習：最終日に確認する疑問点をまとめる。 復習：学期中に学んだ英語コミュニケーションスキルを総括する。				1 時間
教 科 書		担当教員の指示に従ってください。					
参 考 書		適宜、授業で指示する。					
備 考		特になし					

科 目 名		韓国語コミュニケーションⅠ		担 当 者	李 恵慶	
科目ナンバリング		1030212522			非常勤	
D P		4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 現代社会を生きる私達に、外国語の必要性は益々増加しつつあります。情報化時代に生き残るためにも、外国語を理解し、そこから必要な情報をゲットする必要もあります。この授業では、韓国語の基礎を学びます。最初は文字の書き方を覚え、読み方と基本語彙の習得をし、「書く」、「読む」ことに重点をおきます。また、すぐ使える基本表現の習得を目指しますが、合わせて生の韓国語に触れるために授業中は話題の韓国ドラマや映画も取り入れて行います。						
【課題等のフィードバック方法】 ・課題は添削し、重要ポイントをつけて返す。・質問は出席表で受け付け、その都度答える。						
【学習の到達目標】 この授業は、韓国語を始めて学ぶ基礎からの現代韓国語講座です。まずハングルを学び、その読み書きができるようにするのが第一の目標です。次は日本語と比較しながら基本的な文法事項を理解し、最初は自己紹介文から簡単な会話ができるようにします。名詞文と否定形、指示代名詞と疑問形、その答え方、動詞、形容詞の活用、漢語と固有語の教え方、意志表現、過去形などの文法事項を覚え、その運用能力を養うのがこの授業の到達目標です。						
【履修上の注意・予習・復習について】 授業の進度にそって予習や復習のための適切な課題を出します。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 韓国語を学ぶことによって日本語や日本文化の源流を理解することは勿論広い角度の情報やグローバル的な感覚を身につけることができます。学習効果を高めるため韓国ドラマや韓国料理なども取り入れて行います。						
【実務家教員担当科目】 韓国語のネイティブでありながら、日本語と韓国語の領域において通訳や翻訳などで多くの経験を有している。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	李 恵慶	第九課朝ご飯は食べません。	予習；第九課の語彙と文法 復習；第九課の本文と練習問題		1 時間	
2	李 恵慶	第十課どこに住んでいますか。	予習；第十課の語彙と文法 復習；第十課の本文と練習問題		1 時間	
3	李 恵慶	第六課から第十課までのまとめ	予習；第六課から第十課までの語彙と文法 復習；第六課から第十課までのまとめ練習問題		1 時間	
4	李 恵慶	第十一課今日、忙しいですか。	予習；第十一課の語彙と文法 復習；第十一課の本文と練習問題		1 時間	
5	李 恵慶	第十二課先生でしたか。 第十三課何をしましたか。	予習；第十二課、十三課の語彙と文法 復習；第十二課、十三課の本文と練習問題		1 時間	
6	李 恵慶	第十四課ご飯食べましたか。	予習；第十四課の語彙と文法 復習；第十四課の本文と練習問題		1 時間	
7	李 恵慶	第十五課何をしたいですか。	予習；第十五課の語彙と文法 復習；第十五課の本文と練習問題		1 時間	
8	李 恵慶	第十一課から第十五課までのまとめ	予習；第十一課から第十五課までの語彙と文法 復習；第十一課から第十五課までのまとめ練習 問題		1 時間	
9	李 恵慶	第十六課安くて美味しいです。	予習；第十六課の語彙と文法 復習；第十六課の本文と練習問題		1 時間	
10	李 恵慶	第十七課映画見に行きませんか。	予習；第十七課の語彙と文法 復習；第十七課の本文と練習問題		1 時間	
11	李 恵慶	第十八課何をなさいますか。	予習；第十八課の語彙と文法 復習；第十八課の本文と練習問題		1 時間	
12	李 恵慶	第十九課コーヒーを飲みます。	予習；第十九課の語彙と文法 復習；第十九課の本文と練習問題		1 時間	
13	李 恵慶	第二十課何をする予定ですか。	予習；第二十課の語彙と文法 復習；第二十課の本文と練習問題		1 時間	
14	李 恵慶	第十六課から第二十課までのまとめ	予習；第十六課から第二十課までの語彙と文法 復習；第十六課から第二十課までのまとめ練習問題		1 時間	
教 科 書		『かんたん！韓国語』 文 慶詒他 朝日出版社				
参 考 書		授業中、その都度紹介する。				
備 考		受講生への要望）授業を休まないこと。声を出して練習すること。				

科 目 名		韓国語コミュニケーションⅡ		担 当 者	李 恵慶
科目ナンバリング		1030212523			非常勤
D	P	4		教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現代社会を生きる私達に、外国語の必要性は益々増加しつつあります。情報化時代に生き残るためにも、外国語を理解し、そこから必要な情報をゲットする必要もあります。この授業では、韓国語の基礎を学びます。最初は文字の書き方を覚え、読み方と基本語彙の習得をし、「書く」、「読む」ことに重点をおきます。また、すぐ使える基本表現の習得を目指しますが、合わせて生の韓国語に触れるために授業中は話題の韓国ドラマや映画も取り入れて行います。					
【学習の到達目標】 この授業は、韓国語を始めて学ぶ基礎からの現代韓国語講座です。まずハングルを学び、その読み書きができるようにするのが第一の目標です。次は日本語と比較しながら基本的な文法事項を理解し、最初は自己紹介文から簡単な会話ができるようにします。名詞文と否定形、指示代名詞と疑問形、その答え方、動詞、形容詞の活用、漢語と固有語の数え方、意志表現、過去形などの文法事項を覚え、その運用能力を養うのがこの授業の到達目標です。					
【成績評価方法】 平常点（小テスト・課題など） 50% 期末試験 50%					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	李 恵慶	第九課朝ご飯は食べません。	予習；第九課の語彙と文法 復習；第九課の本文と練習問題		1 時間
2	李 恵慶	第十課どこに住んでいますか。	予習；第十課の語彙と文法 復習；第十課の本文と練習問題		1 時間
3	李 恵慶	第六課から第十課までのまとめ	予習；第六課から第十課までの語彙と文法 復習；第六課から第十課までのまとめ練習問題		1 時間
4	李 恵慶	第十一課今日、忙しいですか。	予習；第十一課の語彙と文法 復習；第十一課の本文と練習問題		1 時間
5	李 恵慶	第十二課先生でしたか。 第十三課何をしましたか。	予習；第十二課、十三課の語彙と文法 復習；第十二課、十三課の本文と練習問題		1 時間
6	李 恵慶	第十四課ご飯食べましたか。	予習；第十四課の語彙と文法 復習；第十四課の本文と練習問題		1 時間
7	李 恵慶	第十五課何をしたいですか。	予習；第十五課の語彙と文法 復習；第十五課の本文と練習問題		1 時間
8	李 恵慶	第十一課から第十五課までのまとめ	予習；第十一課から第十五課までの語彙と文法 復習；第十一課から第十五課までのまとめ練習 問題		1 時間
9	李 恵慶	第十六課安くて美味しいです。	予習；第十六課の語彙と文法 復習；第十六課の本文と練習問題		1 時間
10	李 恵慶	第十七課映画見に行きませんか。	予習；第十七課の語彙と文法 復習；第十七課の本文と練習問題		1 時間
11	李 恵慶	第十八課何をなさいますか。	予習；第十八課の語彙と文法 復習；第十八課の本文と練習問題		1 時間
12	李 恵慶	第十九課コーヒーを飲みます。	予習；第十九課の語彙と文法 復習；第十九課の本文と練習問題		1 時間
13	李 恵慶	第二十課何をする予定ですか。	予習；第二十課の語彙と文法 復習；第二十課の本文と練習問題		1 時間
14	李 恵慶	第十六課から第二十課までのまとめ	予習；第十六課から第二十課までの語彙と文法 復習；第十六課から第二十課までのまとめ練習問題		1 時間
教 科 書		『かんたん！韓国語』 文 慶詒他 朝日出版社			
参 考 書		授業中、その都度紹介する。			
備 考		受講生への要望）授業を休まないこと。声を出して練習すること。			

科 目 名	中国語コミュニケーションⅠ			担 当 者	王 效紅
科目ナンバリング	1030212524				非常勤
D P	4			教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 正しい発音を身につけることに重点をおく。簡単な文法事項を学習する。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、不明な点について、質問を受け、解答する。また出席カードに質問を書いてもらい、多く出た質問に関してはその次の授業の冒頭で取り上げる。	
【学習の到達目標】 中国語での簡単な日常会話ができるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の口頭練習には、大きな声を出して、積極的に参加してください。	
【成績評価方法】 期末試験 70％、小テスト、課題提出、発言・質問および授業に臨む態度 30％。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 簡単な中国語の会話力が身につけられる。文章表現の基礎が固まる。	
				【実務家教員担当科目】 なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	王 效紅	ガイダンス	中国の国と言葉について再確認する。		1 時間
2	王 效紅	第 1 課発音	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間
3	王 效紅	第 2 課発音	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間
4	王 效紅	第 3 課発音	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間
5	王 效紅	第 4 課発音・あいさつ言葉	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間
6	王 效紅	第 5 課	附属の音声聞き、声を出して練習する。		1 時間
7	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
8	王 效紅	第 6 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間
9	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
10	王 效紅	第 7 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間
11	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
12	王 效紅	第 8 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間
13	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
14	王 效紅	総復習	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
教 科 書	『大学生のための初級中国語 24 回』 杉野元子・黄漢青著（白帝社）				
参 考 書	授業の中で、必要に応じてアドバイスをしていく。				
備 考	なし				

科 目 名	中国語コミュニケーションⅡ			担 当 者	王 效紅
科目ナンバリング	1030212525				非常勤
D P	4			教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 正しい発音を身につけることに重点をおく。簡単な文法事項を学習する。 【学習の到達目標】 中国語での簡単な日常会話ができるようになる。 【成績評価方法】 期末試験 70％、小テスト、課題提出、発言・質問および授業に臨む態度 30％。 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、不明な点について、質問を受け、解答する。また出席カードに質問を書いてもらい、多く出た質問に関してはその次の授業の冒頭で取り上げる。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の口頭練習には、大きな声を出して、積極的に参加してください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 簡単な中国語の会話力が身につけられる。文章表現の基礎が固まる。 【実務家教員担当科目】 なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	王 效紅	復習（第 1 課～第 8 課）	復習（第 1 課～第 8 課）		1 時間
2	王 效紅	第 9 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。		1 時間
3	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
4	王 效紅	第 10 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。		1 時間
5	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
6	王 效紅	第 11 課	附属の音声を読み、声を出して練習する。		1 時間
7	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
8	王 效紅	第 12 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。		1 時間
9	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
10	王 效紅	第 13 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。		1 時間
11	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
12	王 效紅	第 14 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。		1 時間
13	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
14	王 效紅	総復習	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
教 科 書	『大学生のための初級中国語 24 回』 杉野元子・黄漢青著（白帝社）				
参 考 書	授業の中で、必要に応じてアドバイスをしていく。				
備 考	なし				

科 目 名		海外研修		担 当 者	○増井三千代・立花顕一郎 王 元・鄭 舜玉	
科目ナンバリング		1030212526			常勤	
D	P	4		教員研究室	1328	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・通年	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選 択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 以下のいずれかの海外プログラムに参加し、現地の人々との交流を通して、異文化に対する理解を深めると同時にコミュニケーション力の向上を目指す。 (1) 長期休業期間に海外（英語圏、中国、韓国）へ渡航し、現地で実施される短期語学研修に参加するグループ研修プログラム (2) 学生個人による現地実習を含む短期語学・異文化理解プログラム（必須条件：所定の計画書の提出、5 日以上 の渡航、研究テーマの設定）						
【学習の到達目標】 異文化に対する柔軟性を身につけ、現地の言葉を駆使しながら積極的にコミュニケーションを図る。また、現地の人々の考え方や価値観を通じて、日本を客観的かつ相対的に見る広い視野を身につける。						
【成績評価方法】 単位取得には、以下の全ての活動に参加することが求められる。 1. 研修前に行われる事前研修会、勉強会等への参加、取り組み状況 25% 2. 研修先での授業やその他プログラムへの参加、取り組み状況 50% 3. 帰国後の研修報告書提出および報告会での成果発表 25%						
【課題等のフィードバック方法】 各プログラムの実施担当教員が随時質問を受け付け、回答する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 1. 実習に伴う参加費、渡航費用等は自己負担となる。 2. 国際情勢の急激な変化により、研修実施が困難になる場合がある。 3. 詳細な日程や費用等については、事前に開催される説明会に出席して確認する。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 グループ研修には引率教員が同行するため、海外未経験、語学に不安でも安心して参加できる。また、異文化交流経験は自分の人生の可能性を大きく広げることにつながる。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
【授業計画】 1～2 事前研修 3～7 実習 1 日目 8～12 実習 2 日目 13～17 実習 3 日目 17～21 実習 4 日目 22～26 実習 5 日目 ※プログラムによっては実習の日数が増える可能性有り 27 報告書作成および報告会準備 28 報告会						
教 科 書		資料を配布する。				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		各プログラムの申込は履修登録期間外に行うため、Global Education Project（GEP）の Google Classroom に必ず登録し、掲載される申請方法に従って申し込むこと。この申請をもって履修登録を行う。なお、授業内容（2）の個人研修型プログラムについては、申請条件を満たさなければ、履修できない場合があることに留意する。 クラスコード 4yvf7eq				

科 目 名		健康科学			担 当 者	鈴木 誠
科目ナンバリング		1030212527				常勤
D P		1,4			教員研究室	3105
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業では、自己の健康づくりのために、病気の予防を含む自身の健康管理に欠かせないさまざまな基礎的な知識を具体的かつ広く学ぶ。そして、一人ひとりが幸福でより良い生活を送るために何をすべきなのか、何をすべきでないのかを考える 【学習の到達目標】 疾病予防と健康管理のために必要な知識を身につけ、健康づくりのための具体的方法が実践できるようになる 【成績評価方法】 授業後確認テスト（各回 10 点×全 7 回⇒70 点）と最終授業終了後のレポート課題（30 点）にて成績判定を行う 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後質問を受け付け、次回授業の冒頭等で説明する（classroom での説明など） 【履修上の注意・予習・復習について】 ・規定の出席日数に到達しないものは評価対象外とする ・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 疾病予防と健康管理のために必要な知識を身につけることができ、実践する力を養うことができる 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	鈴木 誠	・オリエンテーション ・健康について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
2	鈴木 誠	・感染症について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
3	鈴木 誠	・飲酒について ・危険薬物について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
4	鈴木 誠	・メンタルヘルスについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
5	鈴木 誠	・生活習慣病について ・がんについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
6	鈴木 誠	・喫煙の影響について ・ヒューマンヘルスについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
7	鈴木 誠	・運動、栄養、休養について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
教 科 書		授業資料を Google classroom にて配布する				
参 考 書		必要に応じて、各授業時に紹介する				
備 考		不明な点は授業担当者に問い合わせること				

科 目 名	憲法と法律			担 当 者	淡路 智典
科目ナンバリング	1030212528				常勤
D P	4			教 員 研 究 室	1224
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 憲法とは国の根幹を定める法律である。この授業では憲法の基本的な内容を扱う憲法総論、国家によっても侵害されることのない個人の権利を扱う人権論、国家の基本的な仕組みをさだめる統治機構論をそれぞれ見ていく。できるだけ学生に身近な話題を絡めつつ、憲法の基本的な考え方や条文解釈を説明していく。				【課題等のフィードバック方法】 授業の疑問点を Google classroom に書いてもらい、次の回の授業の冒頭で回答する。	
【学習の到達目標】 憲法という国家の根本法について基礎的な概念を理解し、基本的人権や統治機構のあり方に関して、自己の見解を持てるようにする。				【履修上の注意・予習・復習について】 スライドを授業前に確認し、わからない法律用語の予習。他の受講生の迷惑になることはしないこと。	
【成績評価方法】 期末試験の点数に平常点を加味して決定する。 内訳：期末試験 80%、小テスト 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 憲法に対する理解を深めることによって、憲法改正をはじめとする具体的な憲法問題に関して、主体的に考えられるようになる。個人の侵害されてはならない基本的人権を理解することにより、社会問題に関して一層深く理解することができるようになる。また一票を持つ主権者として必要な知識と自覚を得ることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	淡路 智典	ガイダンス・憲法とは	シラバスの内容確認・教科書（判例集）の読み方を理解する	4 時間
2	淡路 智典	憲法概説	スライドを授業前に確認し、憲法の全体像を掴む	4 時間
3	淡路 智典	幸福追求権と法の下での平等	判例を参考にして、包括的基本権や平等権について理解する	4 時間
4	淡路 智典	精神的自由権（内心の自由）	判例を参考にして、思想・良心の自由や信教の自由について理解する	4 時間
5	淡路 智典	精神的自由権（表現の自由）	判例を参考にして、表現の自由の重要性や限界について理解する	4 時間
6	淡路 智典	経済的自由権	判例を参考にして、職業選択の自由や財産権について理解する	4 時間
7	淡路 智典	人身の自由	判例を参考にして、刑事事件で保障される権利等について理解する	4 時間
8	淡路 智典	国務請求権と参政権	判例を参考にして、裁判を受ける権利や参政権について理解する	4 時間
9	淡路 智典	社会権	判例を参考にして、生存権や教育を受ける権利、労働基本権について理解する	4 時間
10	淡路 智典	権力分立の原理と国会	政治思想や歴史的経緯を参考にして、三権分立の概念を理解する	4 時間
11	淡路 智典	内閣	法制度を参考にして、公務員制度を理解する	4 時間
12	淡路 智典	裁判所	法制度を参考にして、裁判や裁判制度について理解する	4 時間
13	淡路 智典	天皇制、平和主義	憲法の条文を参考に、象徴天皇制や平和主義について理解する	4 時間
14	淡路 智典	憲法の保障	憲法の理念を参考に、硬性憲法について理解する	4 時間
教 科 書		岡田順太 / 淡路智典 / 今井健太郎 編『判例キーポイント憲法』（成文堂、2020 年、ISBN：978-4-7923-0666-3）		
参 考 書		芦部信喜『憲法（第 8 版）』（岩波書店、2023 年、ISBN：9784000616072）		
備 考		特になし。		

科 目 名	東北の歴史			担 当 者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	1030212529				常勤
D P	4			教員研究室	1124
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 歴史学の基礎講座（3 回程度）に始まり、近世の統治機構と都市構造について学びその地方史観から見た中央政権との関係史にいて学ぶ。また、人文科学系の学問の基礎となる史（資）料の読み方・使い方についても解説する				【課題等のフィードバック方法】 講義に関する史資料等の把握及び博物館等へも赴くことで歴史学への意識を高めることを希望する	
【学習の到達目標】 従来の中央史観からではなく東北から観た地域史観のもと、人文学的な検証を行うことで、広い視野と新たな切り口で現代の社会を見直す目を養う				【履修上の注意・予習・復習について】 テキストは授業毎のレジュメと PP 資料により行う。なお、エクスカーシオンを実施（必須）するが、時間割とは別に土曜日等の授業日以外となるので、予め承知すること	
【成績評価方法】 受講記録やレポートの提出（3 回程度）を求め、その内容で評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 地域の歴史・文化等を学ぶことで、近年叫ばれている地域創生の一翼を担う感性を養う	
				【実務家教員担当科目】 なし	
授 業 計 画					
1. 概要と基礎講座Ⅰ（歴史区分と） 2. 基礎講座Ⅱ（貨幣の歴史と度量衡） 3. 基礎講座Ⅲ（暦の歴史と元号・時間） 4. 近世の統治機構（幕藩体制における大名統治） 5. 近世の都市構造Ⅰ（江戸と江戸城） 6. 近世の都市構造Ⅱ（仙台と仙台城） 7. 近世の都市構造Ⅲ（米沢城下の構築） 8. 近世の都市構造Ⅳ（会津と若松城下） 9. 奥州抗争史の群像Ⅰ（蝦夷征伐と多賀城） 10. 奥州抗争史の群像Ⅱ（奥州藤原氏と奥州合戦） 11. 奥州抗争史の群像Ⅲ（戊辰戦争の真実） 12. 自治体史（誌）の編纂について 13. 史学概論（歴史史料の読み方・使い方） 14. エクスカーシオン（仙台城址と仙台市博物館）					
教 科 書		エクスカーシオンを除き、毎回レジュメと PP 資料を使用			
参 考 書		東北各県・市町村の自治体史（誌）の他、授業中に参考文献を指示			
備 考		エクスカーシオンの実施については、授業時間外の土曜等を予定するので、予め承知すること			

科 目 名		現代史		担 当 者	星野 修
科目ナンバリング		1030212530			非常勤
D	P	4		教員研究室	非常勤講師控室
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 冷戦後の日本と国際社会の変化と現状について、次の2つの問題を考察するという講義をします。 一つ目は、「なぜ、日本の政治は、こんなにも面白くないのか」という問題です。近年の国政選挙の投票率は、50% 台前半です。日本の有権者の4,300 万から5,000 万人以上が棄権しており、20 代の若者のおよそ3 人に1 人しか投票に行きません。日本の投票率の低さ、また若者の政治的関心の低さは、国際的にも群を抜いています。いつから、なぜ、日本の有権者は、政治に関心も期待も持たなくなったのでしょうか。 二つ目の問いは、「国際社会において、民主主義は、なぜ、人気をなくし、専制化する国々が増えているのでしょうか」です。世界の人口の70% は、現在、専制体制の下で、自由も権利も奪われて生きています。「専制化の第3 の波」といわれるこの状況は、いつ頃から、またなぜ、生じたのでしょうか。 この2つの問いに答えるかたちで、現代史の最も重大な問題を考察していきます。 【学習の到達目標】 日本社会と国際社会の、ここ30 年間ぐらいの動向・変化を理解するための、基礎的知識と社会・政治理論とを習得することです。 【成績評価方法】 中間試験（30 点）と期末試験（70 点）の合計で評価します。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	星野 修	1. 現代日本社会と国際社会の現状―講義の概要について―	講義録/配付資料を復習/予習し、また次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
2	星野 修	2. 日本の有権者の投票行動とその変化―国際比較―	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
3	星野 修	3. 選挙制度―中選挙区制から小選挙区・比例代表並立制への転換―	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
4	星野 修	4. 政党システムの変遷―選挙制度との関連―	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
5	星野 修	5. 統治システム―議院内閣制、大統領制、半大統領制―	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
6	星野 修	6. 政治体制の分類―民主制と専制―	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
7	星野 修	7. ドイツと韓国との比較考察	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
8	星野 修	8. 国際社会の現状と変化―「民主化の第3 の波」とその終焉―	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
9	星野 修	9. 「専制化の第3 の波」について	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
10	星野 修	10. 専制化の事例①―東欧諸国―	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
11	星野 修	11. 専制化の事例②―南アジア―	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
12	星野 修	12. 専制化の歴考察考察	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
13	星野 修	13. 専制化の現状の考察	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
14	星野 修	14. 専制化と再民主化の展望	講義録/配付資料を復習し、疑問点をまとめておく。期末試験までに回答する。		4 時間
教 科 書		用いない。毎回、講義のレジュメと資料を配付します。			
参 考 書		用いない。（ただし、講義中に、参考文献は、随時、紹介します。）			
備 考		自由な参加・討論型の講義にしたいと思っていますので、学生諸君の活発な発言を期待します。また、しばしば教員からも質問します。			

科 目 名		哲学		担 当 者	高山 馨	
科目ナンバリング		1030212531			非常勤	
D P		4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 古代から近代までの西洋哲学を、知の形成と変遷の歴史として概観する。また、論理学の基礎と科学的思考を学び、自律的に考えて判断や行為をなすためのリテラシーを学ぶ。						
【学習の到達目標】 (1) 哲学がどのような学的営みであるかを理解できる。(2) 古代から近代までのさまざまな哲学について整理して理解し、知識として定着させることができる。(3) 論理学の基礎と科学的思考を学び、自律的な判断と行為のリテラシーを身につけることができる。						
【成績評価方法】 (a) 課題 50%, (b) 試験 50% 成績評価の基準は「学習の到達目標」(1)～(3)への到達度とします。						
【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom や e メールを使用し、提出物や質問などに対して、必要に応じたフィードバックを個別に行います。						
【履修上の注意・予習・復習について】 [重要] Google Classroom や e メールを使用して、履修者全員あるいは個別に連絡をすることがあります。履修者は、常用する PC やスマートフォンなどのデバイスで教員からの連絡を受信できるようにしておいてください。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 古来より、人間、世界、物事などがどのように考えられてきたかを知ることや、自律的な判断と行為のリテラシーを学ぶことは、実生活をよりよく導くためのきっかけを得ることができると思います。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	高山 馨	イントロダクション：哲学と倫理学	[予習] 本科目のシラバスを理解しておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
2	高山 馨	古代哲学 1：ソクラテス	[予習] 知と徳の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
3	高山 馨	古代哲学 2：プラトン、アリストテレス	[予習] 普遍と個別の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
4	高山 馨	中世哲学：アウグスティヌス、トマス・アクィナス	[予習] 存在と本質の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
5	高山 馨	近代哲学 1：デカルト、スピノザ	[予習] 観念の由来について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
6	高山 馨	近代哲学 2：ロック、ヒューム	[予習] 経験による知識と信念について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
7	高山 馨	近代哲学 3：カント	[予習] イギリス経験論と大陸合理論についてまとめておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
8	高山 馨	近代哲学 4：啓蒙思想	[予習] 社会契約説について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
9	高山 馨	テーマ別哲学 1：心	[予習] 心と脳について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
10	高山 馨	テーマ別哲学 2：心	[予習] 自由について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
11	高山 馨	テーマ別哲学 3：論理	[予習] 思考について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
12	高山 馨	テーマ別哲学 4：論理	[予習] 演繹について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
13	高山 馨	テーマ別哲学 5：科学	[予習] 帰納について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
14	高山 馨	テーマ別哲学 6：科学	[予習] 科学と社会の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間
教 科 書		レジュメに基づいて講義してゆきます。			
参 考 書		講義の中で紹介してゆきます。			
備 考		オフィス・アワーは、初回の講義と Google Classroom で伝えます。			

科 目 名		教育学		担 当 者	佐々木真由美	
科目ナンバリング		1030212532			非常勤	
D P		1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・本授業は、教育の目的・意義・方法等についての基本的原則や理論的基礎を学び、身近な教育問題を取り上げながら、学習者の成長に寄り添う教育の在り方について考察していく。						
【課題等のフィードバック方法】 ・学習過程に復習の時間を位置付け、解説を加える。・グループワークによる振り返りを行う。						
【履修上の注意・予習・復習について】 ・課題がある。・感染症等の感染状況により、授業方法を変更することがある。・平常時の授業においては、双方向性のある授業となる。・発表がある。・制限のある対面授業では、Classroomに参加し、意見交換をする。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・社会から求められている資質・能力の習得につながる。 ・多様な教材と学習方法による学びを通し、学び方が身に付く。						
【実務家教員担当科目】 非該当						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	佐々木真由美	オリエンテーション（授業のねらい、授業内容、評価方法等）。アイスブレイク。④ルーブリック	予習：自身の「学び」について振り返る。復習：学習を振り返り。在学中に必要な学びを文字化する。		4 時間	
2	佐々木真由美	教育の目的や意義をふまえ、教育格差等について考える。④教育基本法、教育格差	予習：教育の目的について調べる。復習：教育による格差・不平等を取り上げ、解決策を提案する。		4 時間	
3	佐々木真由美	事例をもとに、子どもの成長・人間の成長について考える。④発達の最近接領域	習：心がけている / きた学び方についてまとめる。復習：学友の学び方を参考に、取り組みたい学び方を文字化する。		4 時間	
4	佐々木真由美	学びの効果を高める教育方法について考える。④詰め込み教育、ゆとり教育	予習：「教え方がうまい先生とは？」具体的な事例を集める。復習：ゆとり教育の本質をふまえ、成長を促す学びについてまとめる。		4 時間	
5	佐々木真由美	義務教育の歴史を踏まえ、教育を受ける権利について考える。④教育勅語	予習：違いを述べる。「この子らに世の光を、この子らを世の光に。」復習：今日の教育問題と解決策を提案する。		4 時間	
6	佐々木真由美	教育行政制度を理解し、学びを支える仕組みについて考える。④文部科学省、教育委員会等	予習：給食について経験をまとめる。復習：公教育の学びを支えた仕組みについて振り返る。		4 時間	
7	佐々木真由美	居場所となるべき学校の姿を考える。④いじめ防止対策推進法、フリースクール、不登校	予習：いじめ、不登校に関する新聞記事を収集する。復習：子どもたちが社会とつながって学ぶ居場所について提案する。		4 時間	
8	佐々木真由美	社会の要請に応える教育課程について考える。④教育課程、ヒドゥンカリキュラム	予習：指導を受け、身に付いた価値観や生き方をまとめる。復習：残しておきたい学習内容（教材）とその理由を整理する。		4 時間	
9	佐々木真由美	発達の特性に基づいた教育について考える。④発達障がい、インクルーシブ	予習：発達障がい等に関する新聞記事を収集する。復習：自身ができるインクルーシブな社会をつくる取組をまとめる。		4 時間	
10	佐々木真由美	公正な評価、評価方法について考える。④評価規準、評価基準、モデレーション	予習：ルーブリックをもとに自己の学習を評価する。復習：学習を振り返り、今後注力する評価項目を整理する。		4 時間	
11	佐々木真由美	教育効果を高める学校経営について考える。④社会に開かれた教育課程	予習：教員以外からの学びを一覧にする。復習：学校外での効果的な学びについてマイプランを作成する。		4 時間	
12	佐々木真由美	学び（学習）の本質について考える。④生涯教育	予習：カルチャーセンター等の広告やリーフレットを持ち寄る。復習：「習得・探究」に夢中になる理由をまとめる。		4 時間	
13	佐々木真由美	社会から求められる資質・能力について知り、今後の学び方を考える。④主体的・対話的で深い学び	予習：資料について意見を述べる。復習：学友の意見を比較・分析し、学び方を整理する。Society5.0に向けた人材育成。		4 時間	
14	佐々木真由美	総括：目指す自分像を実現するための学習方法等を考える。④キャリアデザイン	予習：キャリア形成に関する気付き等をまとめる。復習：社会人1年目の自分に手紙でエールを送る。		4 時間	
教 科 書		適宜プリントを配付				
参 考 書		問いからはじめる教育学（有斐閣ストゥディア）、学制百年史（文部科学省）、教育社会学、教育学原論（ミネルヴァ書房）、カリキュラム論（成文堂）、窓ぎわのトットちゃん（講談社）				
備 考		特になし				

科 目 名	ジェンダー論			担 当 者	川口かしみ
科目ナンバリング	1030212533				非常勤
D P	4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この授業では、自分たちが生きていく社会において、他者と尊重し合い、生きやすい社会になるための課題をジェンダーの視点から検討していく。まず、ジェンダーの基礎知識を学習し、次に、現在の日本社会に存在するジェンダー問題とそれに関する法律について学んでいく。				【課題等のフィードバック方法】 提出された課題内容を翌週の授業内で、フィードバックとして共有することがある。	
【学習の到達目標】 (1) ジェンダーとは何かを理解する。 (2) 現在の日本社会に存在するジェンダー問題とそれに関する法律を知る。 (3) 自分たちが生きやすい社会になるための課題をジェンダーの視点から検討する。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業中に伝える。	
【成績評価方法】 毎授業に課す課題（30%）、学期末テスト（70%）により評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 現在の日本社会に存在するジェンダー問題を理解し、それを解決するための方法を考える視点が得られる。自分たちが生きていく社会のために、現在社会が抱え、解決すべきジェンダー問題を分析する力が身に着く。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	川口かしみ	イントロダクション/ジェンダーとは何か？	ハンドアウトを復習し、ジェンダー規範とは何かを確認する。		4 時間
2	川口かしみ	公私二元論とジェンダー	予習では、教科書の第 1 章・2 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
3	川口かしみ	日本の制度とジェンダー	予習では、教科書の第 3 章・4 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
4	川口かしみ	平和とジェンダー	予習では、教科書の第 5 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
5	川口かしみ	国際社会における日本のジェンダー平等	予習では、教科書の第 6 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。特に女性差別撤廃条約の内容について復習する。		4 時間
6	川口かしみ	労働とジェンダー	予習では、教科書の第 7 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
7	川口かしみ	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	予習では、教科書の 105～107 頁を読み、自分の考えをまとめる。復習では、教科書の上記頁を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
8	川口かしみ	LGBTQ+/SOGI	予習では、教科書の 108～110 頁を読み、自分の考えをまとめる。復習では、教科書の上記頁を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
9	川口かしみ	家族とジェンダー	予習では、教科書の第 9 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
10	川口かしみ	信教/学問とジェンダー	予習では、教科書の第 10 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
11	川口かしみ	ポルノグラフィーとメディア	予習では、教科書の第 11 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
12	川口かしみ	売買春と性的自己決定権	予習では、教科書の第 12 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
13	川口かしみ	社会保障/刑事手続とジェンダー	予習では、教科書の第 13 章・14 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
14	川口かしみ	政治参画とジェンダー	予習では、教科書の第 15 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
教 科 書		『ジェンダーの視点で学ぶ憲法入門』			
参 考 書		授業中に適宜紹介する。			
備 考		教科書はタイトル通り、憲法を扱ったものであるが、お手に取っていただければ分かるように、ジェンダーについても扱っているものである。この授業ではそのジェンダー問題の部分扱う。			

科 目 名		生活と地球科学			担 当 者	千葉 一							
科目ナンバリング		1030212534				非常勤							
D P		4			教 員 研 究 室	非常勤講師室							
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期							
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位							
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし											
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない							
【授業内容】 人類は経済活動（利潤追求）を優先するあまり、環境や気候変動の問題を半ば放置して来た。しかしその人類の生態は、大きなパラダイムシフトを迫られている。本講義では、人間の活動が地球環境にどのような影響を与えているのかについて、特に地球温暖化を中心に解説して行く。また、そうした諸問題解決のための思考を深めて行く。 【学習の到達目標】 環境破壊や環境問題を正しく理解することで、人間の過剰性の認知と環境へのグローバルな倫理観を養う。 【成績評価方法】 定期試験による評価と提出物（講義中）で総合評価とする。評価比率：定期試験 70%・提出物 30%。詳しくは、初回講義の際に説明する。							【課題等のフィードバック方法】 提出物やレポートの総括講評を、次回の授業で行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語・飲食・携帯電話・居眠り・無断退出は禁止する。授業進行に支障をきたす場合は退出してもらう。授業計画のトピックスを参考に資料など情報収集しつつ、授業に臨む。復習を怠らない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 人類の生命活動のみが大切なのではなく、この地球の営みの中で共に生きる生命活動があって、この地球が存在している。気象や地殻の諸現象や多種多様な生命の絡み合いを理解し、それぞれの存在価値を正しく認識することは、未来の健全な「地球コミュニティ」の在り方にとって必須と考える。 【実務家教員担当科目】 3.11 震災復興に関連した環境破壊やコミュニティ開発を研究しつつ、自然再生活動や社会開発を実践している教員が、地球規模の環境問題について、自然科学と人文科学の枠を超えて講義する。						
授 業 計 画													
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間										
			予習・復習			学修時間							
1	千葉 一	教科に関する説明と授業の進め方を説明する。	次回学習内容を予習。			4 時間							
2	千葉 一	人間という種の特殊性と環境問題	自己の生活と環境問題の関連を再考する。次回学習内容を予習。			4 時間							
3	千葉 一	経済活動と地球温暖化	経済活動の過剰性についてまとめる。次回学習内容を予習。			4 時間							
4	千葉 一	地球温暖化のメカニズム	温室効果ガスの削減についてまとめる。次回学習内容を予習。			4 時間							
5	千葉 一	地球温暖化に伴う環境の激変	気候変動枠組み条約についてまとめる。次回学習内容を予習。			4 時間							
6	千葉 一	カーボン・サイクルと石灰岩	炭酸カルシウム形成過程を理解する。次回学習内容を予習。			4 時間							
7	千葉 一	復習と要点・疑問点の整理	前半 6 回の講義内容を理解・整理する。次回学習内容を予習。			4 時間							
8	千葉 一	化石燃料：炭素の固定と解放	その固定と解放の時間差を理解する。次回学習内容を予習。			4 時間							
9	千葉 一	経済成長と自然海岸の破壊	海浜の重要性を認識する。次回学習内容を予習。			4 時間							
10	千葉 一	海洋酸性化と生態系サービス	酸性化メカニズムを理解する。次回学習内容を予習。			4 時間							
11	千葉 一	森林破壊と生態系サービス	急速な森林破壊の現状を理解する。次回学習内容を予習。			4 時間							
12	千葉 一	森のネットワークと生物多様性	森林の社会性を理解する。次回学習内容を予習。			4 時間							
13	千葉 一	砂漠化と多種共生	多自然主義を理解する。次回学習内容を予習。			4 時間							
14	千葉 一	復習と要点・疑問点の整理	後半 6 回の講義内容を理解・整理し、小論文的にまとめる。			4 時間							
教 科 書		特になし。資料を適宜配布する。											
参 考 書		清水美香（編著）2023『レジリエンス－よみがえる力－森・風景・地域・人の交差の中で』、日本評論社。 原慶太郎ほか（編著）2021『自然と歴史を活かした震災復興－持続可能性とレジリエンスを高める景観再生』、東京大学出版会。											
備 考		特になし。											

科 目 名		生活と経済			担 当 者	奥山 忠裕
科目ナンバリング		1030212535				非常勤
D P		4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本講義では、生活を取り巻く様々な問題について経済活動を中心に学んでいきます。内容としては、経済の基礎、環境・資源問題、労働、公共政策、まちづくりの思考について学びます。 【学習の到達目標】 到達目標は以下のとおりです。 ①各テーマでの基礎的な知識を身につける ②各テーマでの社会の課題を理解する ③各テーマの内容を説明できるようになる。 【成績評価方法】 初回講義の課題を2点、2回目以降の課題が6点×13回=78点、レポート2回×10点の計100点で評価します。公欠等を除き5回以上の欠席者は単位の取得を認めないことがあります。 【課題等のフィードバック方法】 適宜質問に応じます。 【履修上の注意・予習・復習について】 Google Classroom で毎回配布する講義資料を必ず印刷してもってくる こと。ニュースや新聞を読み、生活を取り巻く問題に関心をもってください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 経済や環境、労働、公共政策といった日々の暮らしに近い社会課題の基礎を身につけることができます。関連する専門分野の理解が容易になると思います。 【実務家教員担当科目】 特になし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	奥山 忠裕	ガイダンス、経済の考え方	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習①を行う			4 時間
2	奥山 忠裕	市場の考え方と需要	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習②を行う			4 時間
3	奥山 忠裕	供給と均衡の考え方	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習③を行う			4 時間
4	奥山 忠裕	外部性と環境問題	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習④を行う			4 時間
5	奥山 忠裕	環境問題の分類	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑤を行う			4 時間
6	奥山 忠裕	循環型社会とは	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑥を行う			4 時間
7	奥山 忠裕	公共政策の考え方	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑦を行う			4 時間
8	奥山 忠裕	公共政策の手段	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑧を行う			4 時間
9	奥山 忠裕	公共と協働の取り組み	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑨を行う			4 時間
10	奥山 忠裕	労働市場をみる①	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑩を行う			4 時間
11	奥山 忠裕	労働市場をみる②	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑪を行う			4 時間
12	奥山 忠裕	景気と労働	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑫を行う			4 時間
13	奥山 忠裕	まちづくり～地域再生の事例①	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑬を行う			4 時間
14	奥山 忠裕	まちづくり～地域再生の事例②	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑭を行う			4 時間
教 科 書		特になし				
参 考 書		適宜講義中に指示する				
備 考		特になし				

科 目 名		教養としての政治学			担 当 者	王 元
科目ナンバリング		1030212536				常勤
D P		4			教員研究室	1324
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人間は社会的動物である。政治は人間の社会的利害を調整するしくみである。人々が生活する社会における秩序を形成し、維持し、修正し、また時には破壊することを通じて実行される活動と手段である。 政治学は古代ギリシアに誕生して以来、長い歴史を刻んできた。しかし、政治行動の判断基準や結論には必ずしも法則性があるとはいえない。むしろ、政治を担う人の個性やイデオロギー、感情、さらには偶然性に左右される側面もある。総合的に知識や手法も駆使して最善の政策決定を促すところに、政治学の目的や妙味がある。 政治学の基礎知識と発想方法を解説する。政治学の面白さと大切さを伝え、政治現象一般を把握する視点を身に付けてもらうことがこの講義のねらいである。講義形式を基本とする。ただし適宜ビデオ教材を利用する。 【学習の到達目標】 近代社会の特徴、主たる政治思想の歴史、自由主義と民主主義の思想などについて基本的な知識を習得することをめざす。併せて政治現象への洞察力を高め、政治判断の能力を培いたい。 【成績評価方法】 定期試験（70%）、課題提出、授業での発言・質問など（30%）。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	王 元	ガイダンス：政治学概念と体系	政治とは何か 政治学とは何			4 時間
2	王 元	国家と社会、国力	国家と社会の概念、 市民社会・国民国家の成立と政治的統合、国家の規模と国力			4 時間
3	王 元	主権と権力	主権と権力の性質、支配・権威・リーダーシップ・影響とソフトパワー			4 時間
4	王 元	集権と分権	政治集権と中央・地方の権力関係 地方自治の意義・過疎と過密			4 時間
5	王 元	政治参加と投票行動	代表制の類型と選挙制度、選挙の諸原則、投票行動と政治無関心			4 時間
6	王 元	政党政治	代議制民主主義における政党の機能と組織 議会の機能・審議過程と野党の役割			4 時間
7	王 元	世論と政治	マスメディアと世論の形成 圧力団体発生の原因と活動			4 時間
8	王 元	官僚制	政治と行政 官僚制の概念と官僚制化			4 時間
9	王 元	民主主義と権威主義	政治的意識形態と有効性 民主主義の維持と拡大			4 時間
10	王 元	代表的な政治体制Ⅰ	議院内閣制、大統領制と党国体制 米国、英国、日本などそれぞれの特徴			4 時間
11	王 元	代表的な政治体制Ⅱ	権威主義的な政治体制 中国、ロシアなどそれぞれの特徴			4 時間
12	王 元	国際政治	国際政治と国内政治、グローバリゼーション、国際組織			4 時間
13	王 元	地理政治学	国際競争、地理的な視点から人類政治を巨視的に見る			4 時間
14	王 元	現代政治の課題	福祉国家の成立、維持と発展			4 時間
教 科 書		教科書は用いず、適宜プリントを配布する。				
参 考 書		堀江湛・岡沢憲夫編『現代政治学』（法学書院、2011）。				
備 考		日々の新聞を読み、国内と国際政治情勢の把握に努められたい。				

科 目 名		チーム医療福祉論			担 当 者	大黒 一司
科目ナンバリング		1030212539				常勤
D P		3,4			教 員 研 究 室	3211
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本学では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、社会福祉士、精神保健福祉士、看護師、保健師、臨床工学技士の9の保健医療福祉専門職を養成している。それぞれが専門的知識と技術を習得することは大切である。しかし、将来現場で働く際には、本学において養成している職種に限らず多くの専門職と関わることになる。そこで、この授業では保健医療福祉分野においてチームとして関わる専門職について知ることを目的として、それぞれの専門職の仕事内容、保健医療福祉分野における役割、機能について講義をする。また、多職種連携の実践について実践例の紹介を通して学ぶ。受講する学生が自身の目指す職種について、他の学生に紹介することや他の職種について説明を受ける機会（グループワーク）を通して多職種について理解することができる。						
【学習の到達目標】 ・他職種の専門性、業務の概要を知る ・他専攻の学生とかかわる中で自分の目指す専門職について紹介できる						
【成績評価方法】 授業時の課題（レスポンスペーパーの提出） 20% グループワークの課題 30% まとめの課題レポート 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	大黒 一司	保健医療福祉を支える専門職とチームの役割	復習：配布資料を基に授業内容を復習する			4 時間
2	大黒 一司	専門職の理解（紹介）1 医師、歯科医師、薬剤師	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する			4 時間
3	大黒 一司	専門職の理解（紹介）2 (1) 看護師、保健師、管理栄養士、臨床工学技士 (2) グループワーク	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する			4 時間
4	大黒 一司	専門職の理解（紹介）3 (1) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士 (2) グループワーク	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する			4 時間
5	大黒 一司	専門職の理解（紹介）4 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、義肢装具士、ほか	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する			4 時間
6	大黒 一司	多職種連携の実践 (1) 保健医療福祉における多職種連携の実践の紹介 (2) グループワークを通して多職種連携を模擬的に体験する	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する			4 時間
7	大黒 一司	全体の振り返りとまとめ（課題の実施と提出）	予習：事前配布資料のこれまでの授業内容（テキストのページ）について振り返る 復習：まとめの課題についてテキストで確認する。			4 時間
教 科 書		指定教科書は特になし				
参 考 書		必要に応じて図書や文献を紹介する				
備 考		質問等の問い合わせ：大黒一司（リハビリテーション学科作業療法学専攻）				

科 目 名		重度障がい者自立生活支援演習		担 当 者	○本間 里美・小林 武 傍島 智子・千葉早耶香 千田 香	
科目ナンバリング		1030212543			常勤・非常勤	
D P		3,4		教員研究室	小林:3103、傍島:1314	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1・2・3・4 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 地域で生活する重度身体障がい者の生活とそれを支える専門職の役割について、講義・演習・実習を通して学ぶ。 【学習の到達目標】 重度障がい者の地域生活を知る 重度障がい者の地域生活に必要な支援を体験する 【成績評価方法】 グループワーク成果物とプレゼンテーションの妥当性を評価する						【課題等のフィードバック方法】 グループワーク、プレゼンテーション実施後に講評する 【履修上の注意・予習・復習について】 休日、祝・祭日の3連休に開講する（開講日は別途通知する）。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 地域で生活する重度身体障がい者の生活とそれを支える専門職の役割を理解・体験できる。 【実務家教員担当科目】 重度身体障がい者の地域生活支援に携わっている看護師、理学療法士、ヘルパーが、それに必要な専門的知識・技術を教授するとともに、当事者宅での実習について指導する。
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	本間	・オリエンテーション ・障がいとは？	復習：「障がい」のもつ多面的な意味をまとめる		1 時間	
2	本間、千田、千葉	・重度身体障がい者用コミュニケーション機器実習 ・透明文字盤実習	予習：自分の意思を伝達する手段を調べておく 復習：実習した内容をまとめる		1 時間	
3	本間、千葉	「地域で生きる・暮らす」「地域で支える」とは？	予習：重度障がい者が地域で暮らすために必要な支援について調べておく 復習：重度障がい者が地域で暮らすために必要な支援についてまとめる		1 時間	
4	本間、千葉	・医療の視点と介助の視点 ・事例をもとに考えよう	予習：重度障がい者の疾病を調べておく 復習：重度障がい者の疾病と障害をまとめる		1 時間	
5	本間、千田	当事者宅での実習説明と準備学習	当事者宅での実習目標、スケジュールを確認しておく		1 時間	
6	本間、千田、傍島、小林	当事者宅での実習	予習：当事者宅での実習に必要な用具、身なりを準備しておく 復習：実習日誌をつける		1 時間	
7	本間、千田、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習日誌をつける		1 時間	
8	本間、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習日誌をつける		1 時間	
9	本間、千葉、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習日誌をつける		1 時間	
10	本間、千葉、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習内容をまとめておく		1 時間	
11	本間、千田、千葉、傍島、小林	グループワーク 1：実習経験の共有	予習：実習内容を発表できるように準備しておく 復習：共有した他の学生の実習経験をまとめる		1 時間	
12	本間、千田	・実習での体験を振り返る ・改めて考える「障がいとは？」	復習：自分の実習と共有した他の学生の実習内容から、改めて障害の持つ意味を簡単にまとめる		1 時間	
13	本間	障がいって何？ 当たり前の見方を変えてみよう	復習：障がいの多面的な意味を考察しまとめる		1 時間	
14	本間、千田、千葉、傍島、小林	・グループワーク 2：「障がいとは？」について考える ・発表会と総まとめ	復習：授業全体を振り返り、重度障がい者の生活を支援することの意義と専門職としての関わりをまとめる		1 時間	
教 科 書		オリジナルテキスト（¥500）を使用します。初回授業時に購入してもらいます。				
参 考 書		特に指定しない				
備 考		・当事者宅での実習を受け入れていただく当事者の人数が限られていますので、受講者数を最大 20 名に制限します。 ・受講希望者多数の場合は、事前説明会や面接等を通して受講生を決定します。				

科 目 名		解剖・生理学概論Ⅰ			担 当 者	辻川 寛	
科目ナンバリング		1030322550				常勤	
D P		1			教員研究室		4203
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次		1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 ☑自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 本授業は、人体の構造と機能（解剖生理学）の基礎を幅広く理解することを目的とする。まず、総論として細胞、組織、人体の区分を学び、その後、骨格系、筋系、神経系、視覚器・聴覚平衡覚器などの感覚器系、および皮膚とその付属器からなる外皮系について学修する。							
【学習の到達目標】 本授業は、医療系学生のみならず、将来の医療従事者として必要とされる人体解剖学および生理学の基本的事項を幅広く理解することを目的とする。特に、言語聴覚士や視能訓練士を目指す学生にとって重要な神経系や感覚器の構造と機能について、上級学年での専門授業を受けるために必要な知識を習得し、確実な理解を深めることを目指す。							
【成績評価方法】 毎回の課題（小テストやレポート、グループワークなど）10%/ 定期試験 90%							
【課題等のフィードバック方法】 課題（小テストやレポート、グループワークなど）は、翌週返却・解説する。 毎回の授業資料・授業動画を Google Classroom にアップロードする。							
【履修上の注意・予習・復習について】 毎回、履修事項に関する課題（小テストなど）を実施し、理解度を確認する。予習は、授業計画に沿って教科書の該当箇所を事前に把握することが望ましい。復習は、授業で配布したプリントを活用し、十分に行うことが必須である。特に、復習に重点を置き、確実に定着させることが求められる。							
【受講して得られる効果・メリット、その他】 将来の医療職に必要な基礎知識として、人体の解剖生理学の基本を習得する。上級学年での専門分野の理解を深めるための知識と応用力を身につける。また、国家試験に求められる解剖生理学の知識を確実に習得する。							
【実務家教員担当科目】 大学医学部において人体解剖実習を含めた解剖学教育経験のある教員が、その経験を生かして、人体の構造について講義する。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容			学修課題・必要な学修時間		
					予習・復習		学修時間
1	辻川 寛	ガイダンスと総論			教科書 第 1 章		4 時間
2	辻川 寛	細胞と組織			教科書 第 1 章		4 時間
3	辻川 寛	骨格系①（総論）			教科書 第 10 章		4 時間
4	辻川 寛	骨格系②（各論）			教科書 第 10 章		4 時間
5	辻川 寛	骨格系③（各論つづき）/筋系①（総論）			教科書 第 10 章		4 時間
6	辻川 寛	筋系②（総論つづき、各論）			教科書 第 10 章		4 時間
7	辻川 寛	筋系③（各論つづき）/神経系①（総論）			教科書 第 10 章；教科書 第 8 章		4 時間
8	辻川 寛	神経系②（脊髄・脳・脊髄神経）			教科書 第 8 章		4 時間
9	辻川 寛	神経系③（脳神経・自律神経）			教科書 第 8 章；第 7 章 B		4 時間
10	辻川 寛	神経系④（脳のはたらき）			教科書 第 8 章		4 時間
11	辻川 寛	神経系⑤（神経のはたらき・反射・伝導路）			教科書 第 8 章		4 時間
12	辻川 寛	神経系⑥（まとめ）/感覚器①（総論・視覚器）			教科書 第 8 章；第 9 章		4 時間
13	辻川 寛	感覚器系②（聴平衡覚器・嗅覚器・味覚器）			教科書 第 9 章		4 時間
14	辻川 寛	外皮系（皮膚）			教科書 第 9 章		4 時間
教 科 書		なるほどなっとく！解剖生理学 改訂 3 版 多久和典子・多久和陽（著）南山堂					
参 考 書		からだが見えるー人体の構造と機能ー第 1 版 医療情報科学研究所（編）メディックメディア ぜんぶわかる人体解剖図 坂井建雄・橋本尚詩（著）成美堂出版					
備 考		視覚機能学専攻との合同講義					

科 目 名	解剖・生理学概論Ⅱ			担 当 者	辻川 寛
科目ナンバリング	1030322551				常勤
D P	1			教員研究室	4203
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業は、人体の構造と機能の基礎を幅広く理解することを目的とする。前期の解剖・生理学概論Ⅰに続き、呼吸器系、消化器系、血液、循環器系、免疫系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系、人体の発生について、各器官の構造と機能を詳細に学ぶ。					
【学習の到達目標】 本授業は、医療系学生のみならず、将来の医療従事者として必要とされる人体解剖学および生理学の基本的事項を幅広く理解することを目的とする。					
【成績評価方法】 毎回の課題（小テストやレポート、グループワークなど）10%/ 定期試験 90%					
【課題等のフィードバック方法】 課題（小テストやレポート、グループワークなど）は、翌週返却・解説する。 毎回の授業資料・授業動画を Google Classroom にアップロードする。					
【履修上の注意・予習・復習について】 毎回、履修事項に関する課題（小テストなど）を実施し、理解度を確認する。予習は、授業計画に沿って教科書の該当箇所を事前に把握することが望ましい。復習は、授業で配布したプリントを活用し、十分に行うことが必須である。特に、復習に重点を置き、確実に定着させることが求められる。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 将来の医療職に必要な基礎知識として、人体の解剖生理学の基本を習得する。上級学年での専門分野の理解を深めるための知識と応用力を身につける。また、国家試験に求められる解剖生理学の知識を確実に習得する。					
【実務家教員担当科目】 大学医学部において人体解剖実習を含めた解剖学教育経験のある教員が、その経験を生かして、人体の構造について講義する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	辻川 寛	呼吸器系（呼吸器の構造と機能）	教科書 第 3 章		4 時間
2	辻川 寛	消化器系①（上部消化管の構造と機能）	教科書 第 4 章		4 時間
3	辻川 寛	消化器系②（下部消化管の構造と機能）	教科書 第 4 章		4 時間
4	辻川 寛	消化器系③（肝臓・膵臓の構造と機能）	教科書 第 4 章		4 時間
5	辻川 寛	血液	教科書 第 6 章		4 時間
6	辻川 寛	循環器系①（心臓の構造と機能）	教科書 第 2 章		4 時間
7	辻川 寛	循環器系②（末梢循環系の構造）	教科書 第 2 章		4 時間
8	辻川 寛	循環器系③（血液の循環の調節とリンパ系）	教科書 第 2 章		4 時間
9	辻川 寛	免疫系	教科書 第 6 章		4 時間
10	辻川 寛	内分泌系	教科書 第 7 章 C；D		4 時間
11	辻川 寛	泌尿器系①（腎臓の構造と機能）	教科書 第 5 章		4 時間
12	辻川 寛	泌尿器系②（排尿路と体液の調節）	教科書 第 5 章		4 時間
13	辻川 寛	生殖器系	教科書 第 11 章		4 時間
14	辻川 寛	人体の発生	教科書 第 11 章		4 時間
教 科 書		なるほどなっとく！解剖生理学 改訂 3 版 多久和典子・多久和陽（著）南山堂			
参 考 書		からだが見えるー人体の構造と機能ー第 1 版 医療情報科学研究所（編）メディックメディア ぜんぶわかる人体解剖図 坂井建雄・橋本尚詩（著）成美堂出版			
備 考		視覚機能学専攻との合同講義			

科 目 名		医学総論			担 当 者	浅野 浩一							
科目ナンバリング		1030322552				非常勤							
D P		1			教員研究室	非常勤講師室							
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期							
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位							
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし											
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない							
【授業内容】 言語聴覚士に必要な、医学・医療一般について公衆衛生学的な角度から学ぶ。 必要なテーマに随時ディスカッション・ディベートも加える。 【学習の到達目標】 医学という学問体系の概念を把握し、公衆衛生学的な総論としての基礎知識について習得すること。 【成績評価方法】 定期試験 85%・小テスト及び質疑応答 15%、以上を総合的に評価する。							【課題等のフィードバック方法】 講義終了後から随時質問を受けるなどでの指導や、次の講義で質問するなどに、双方向型授業なども加えて、より丁寧に理解度を確認しながら進めている。必要に応じて小テストなども行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義の中で 1 人に 2,3 回以上の質問をし回答してもらって、これが平常点となる。教室に居るだけの出席点はない。回答するには、復習と最低限でも教科書の予習が必要とされる。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 医学学習の基礎となる考え方、および各種項目の理解に必要な医学の総論的な知識を習得することができることから、専門課程の言語聴覚学を学習する際の大きなメリットになるものと考えられる。 【実務家教員担当科目】 現役の医師でもある担当教員が、主要なテーマや最新の医療の現状についても講義する。						
授 業 計 画													
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間										
			予習・復習			学修時間							
1	浅野 浩一	少子高齢化の問題	予め少子高齢化について学習してくる・少子高齢化についてノートをまとめる。			4 時間							
2	浅野 浩一	死因と要介護の原因	予め死因と要介護の原因について学習してくる・死因と要介護の原因についてノートをまとめる。			4 時間							
3	浅野 浩一	生活機能と障害（主に ICF）	予め生活機能と障害（主に ICF）、について学習してくる・生活機能と障害（主に ICF）、についてノートをまとめる。			4 時間							
4	浅野 浩一	リハビリテーションの概念	予めリハビリテーションについて学習してくる・リハビリテーションについてノートをまとめる。			4 時間							
5	浅野 浩一	医の倫理・医療行為	予め医の倫理や医療行為について学習してくる・医の倫理や医療行為についてノートをまとめる。			4 時間							
6	浅野 浩一	医療安全と感染予防	予め医療安全と感染予防について学習してくる・医療安全と感染予防についてノートをまとめる。			4 時間							
7	浅野 浩一	健康管理と予防医学	予め健康管理と予防医学について学習してくる・健康管理と予防医学についてノートをまとめる。			4 時間							
教 科 書		言語聴覚士テキスト（第 3 版 / 廣瀬肇監修 / 医歯薬出版）											
参 考 書		図書館に常備してある関連図書・文献											
備 考		質問は授業担当の教員に直接行うこと											

科 目 名	小児科学			担 当 者	大浦 敏博
科目ナンバリング	1030322553				非常勤
D P	1			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 小児は成長発達の途上にあり、成人対象の内科学とは異なった視点が必要である。本科目では、小児の成長・発達と小児保健の概要の解説、および小児期特有の疾患の主要なものについて、診断・治療の解説をする。					
【課題等のフィードバック方法】 小テストの講評と解説は次の講義時に行なう。					
【履修上の注意・予習・復習について】 講義中に要点を理解し、覚えるように努めること。 毎回講義終了時に内容についての小テストを行なう（出席確認を兼ねる）ので、その問題を中心に復習すること。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 小児の正常な発育過程や小児保健について、および小児期特有の疾患の基礎を学ぶことができ、将来、医療スタッフの一員として小児と接する上での基本的知識が得られる。					
【実務家教員担当科目】 30 年以上小児科臨床および研究に従事してきた教員が、その経験を活かして、実地に役立つ具体的な解説を行なう。					

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	大浦 敏博	小児の成長・発達、新生児疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
2	大浦 敏博	染色体、代謝・内分泌疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
3	大浦 敏博	呼吸器疾患、感染症	小テストの問題中心に復習。	4 時間
4	大浦 敏博	消化器疾患、循環器疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
5	大浦 敏博	血液・免疫疾患、悪性新生物（小児がん）	小テストの問題中心に復習。	4 時間
6	大浦 敏博	神経・筋疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
7	大浦 敏博	アレルギー、膠原病、腎泌尿器疾患	小テストの問題中心に復習。	4 時間
教 科 書		特になし		
参 考 書		富田豊編集「標準理学療法学・作業療法学」専門基礎分野 小児科学第 5 版（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論（医学書院）		
備 考		特になし		

科 目 名		呼吸発声発語系の構造・機能・病態			担 当 者	阿部 千佳
科目ナンバリング		1030322561				常勤
D P		1,3			教員研究室	1441
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 生命維持やコミュニケーションに関連する呼吸器、咽喉頭、顎顔面、口腔や舌の解剖と機能を学修する。さらに、音声障害や構音障害をきたす病態について学ぶ。また、呼吸や発声発語機能の診断に用いられる検査について知り、その検査の方法、目的を理解する。構音障害学、音声障害学および摂食嚥下障害学などの専門科目の基礎となる。 【学習の到達目標】 1. 発声、発語および呼吸運動に関わる諸器官の構造と機能を理解できる。 2. 発声、発語および呼吸機能の検査と代表的疾患の病態を理解できる。 【成績評価方法】 定期試験 90%、小テスト 10%						
【課題等のフィードバック方法】 小テストのフィードバックを次の講義の最初に行う。 講義内容によっては、グループワークを行い課題に対して解説を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業内容を復習しノートを整理すること。 授業中の私語、飲食、スマートフォン等の使用は厳禁とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 発声、発語および呼吸器官の構造、機能、基本的な病態を理解できる。専門科目である音声障害学、構音障害学、摂食・嚥下障害学を学ぶための基礎知識を得ることが出来る。言語聴覚士国家試験出題科目である。 【実務家教員担当科目】 言語聴覚士の教員がその経験を活かして呼吸、発声および発語器官に関する基本的知識と関連する病態について講義する。						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	阿部 千佳	呼吸器官の構造と機能	・授業の復習とノート整理 ・呼吸器の解剖学的構造を学ぶ	4 時間
2	阿部 千佳	呼吸の生理と病態	・授業の復習とノート整理呼吸気の構造、機能、病態を理解する	4 時間
3	阿部 千佳	喉頭の構造と機能	・授業の復習とノート整理 ・喉頭の解剖学的構造を学ぶ	4 時間
4	阿部 千佳	喉頭の検査法	・授業の復習とノート整理 ・様々な喉頭の検査法について学び、その違いについて理解する	4 時間
5	阿部 千佳	喉頭の病態	・授業の復習とノート整理 ・喉頭の病態について学ぶ	4 時間
6	阿部 千佳	構音器官の構造と機能	・授業の復習とノート整理 ・構音に必要な器官の解剖学的構造を学ぶ	4 時間
7	阿部 千佳	構音運動と構音障害	・授業の復習とノート整理 ・構音運動とその障害による特徴を学ぶ	4 時間
教 科 書		「病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科」メディックメディア、2021		
参 考 書		「ぜんぶわかる呼吸の事典」成美堂出版、2020. 「ネッター 頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス 原著第 3 版」医歯薬出版版、2018. Preclinical Speech Science：Anatomy, Physiology, Acoustics, and Perception. (HRD) -- 3rd ed.Hixon et al.Plural Pub Inc,2018.		
備 考		授業時に資料を配布する。質問等は阿部まで。		

科 目 名		聴覚系の構造・機能・病態			担 当 者	高卓 輝
科目ナンバリング		1030322562				常勤
D P		1,3			教 員 研 究 室	1424
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本講座では主として聴覚器官（聴器）の構造と機能・病態について解説する。全体の講義を通して普段われわれが何気なく聞いている音や声がどのようなメカニズムで末梢聴器で神経信号に変換され、それがまたどのような経路で最終的に大脳に伝えられ知覚されるのかを理解する。その他平衡器官の構造・機能・病態についても解説する。 【学習の到達目標】 ・聴覚器官の構造について説明できる ・聴覚器官の機能について説明できる ・聴覚器官の病態について説明できる ・平衡器官の構造について説明できる ・平衡器官の機能について説明できる 【成績評価方法】 課題提出 10%、小テスト 20%、定期試験 70%、						
【課題等のフィードバック方法】 小テストと課題について時間を確保して解説する 【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業中の私語、携帯電話の使用は禁止する ・講義内容と関連した国家試験の過去問を課題とする ・講義終了時、質問を受けつける 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・聴覚障害の原因疾患の病態を理解する上で必要な基礎知識が得られる ・国家試験の過去問が解けられる 【実務家教員担当科目】 耳鼻咽喉科で一般診療や手術経験のある教員が聴覚系の構造・機能・病態について講義する						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高卓 輝	外耳の構造・機能・病態	・外耳の構造と機能について調べる ・配布資料や教科書を復習し要点を整理する			4 時間
2	高卓 輝	中耳の構造・機能・病態（1）	・中耳構造について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
3	高卓 輝	中耳の構造・機能・病態（2）	・中耳の機能について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
4	高卓 輝	内耳の構造・機能・病態（1）	・蝸牛に構造について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
5	高卓 輝	内耳の構造・機能・病態（2）	・蝸牛の機能について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
6	高卓 輝	内耳の構造・機能・病態（3）（平衡器）	・三半規管と耳石器の構造と機能について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
7	高卓 輝	蝸牛前庭神経、中枢聴器の構造と機能	・中枢聴器の構造と機能について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
教 科 書		聴覚系耳科学 ―聴覚系の構造・機能・病態― 中野雄一著 （株）考古堂				
参 考 書		新耳鼻咽喉科 切替一郎・野村恭也著 南山堂				
備 考		授業に関する質問、問い合わせ：高卓 輝				

科 目 名		神経系の構造・機能・病態			担 当 者	古林 俊晃	
科目ナンバリング		1030322563				常勤	
D P		1,3			教員研究室		1203
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次		1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		☑協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ディスカッション・ディベート ☐グループワーク ☐プレゼンテーション ☐実習・フィールドワーク ☐該当なし					
I C T 活 用		☐双方向型授業 ☑自主学習支援 ☐該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 ・本講義では、神経の構造と生理学的機能を理解しつつ、我々が日常生活を営む上で、神経がどのような役割を果たしているのかについて学びます。またそれらの正常な機能が失われた時、どのような障害が生じるのかについても触れていきます。 ・本講義の理解を深めるために、授業後には振り返りの課題を提出してもらいます。また毎回講義の最初に前回の講義内容の確認テストを行います。 【学習の到達目標】 言語聴覚士として必要とされる神経生理学および神経心理学領域の基礎知識の習得する 【成績評価方法】 定期試験（80%）＋レポート（20%） 【課題等のフィードバック方法】 確認テストは翌週に返却し、解説をします。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・予習を重視すること。事前に配布される資料を読み、内容を教科書により確認しておくこと。復習はノート整理を怠らないこと。特に学んだ用語を正確に把握することは大切な作業です ・遅刻は本人の責めに帰さない理由以外は認めません ・具合が悪いなど、やむを得ず教室を退出する場合は教員の確認を取ること ・授業態度の悪い学生は退室させる。この場合欠席扱いとする。携帯電話の使用、飲食は禁止とする ・質問は随時受け付けるので、挙手をし発言すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 中枢神経系の障害を知る上で、脳の正常機能を知ることは重要なことである。 【実務家教員担当科目】 該当なし							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	古林 俊晃	ガイダンス：講義概要 咀嚼や発声に関わる筋の機能	予習：関連事項の確認 復習：資料の確認				4 時間
2	古林 俊晃	神経の構造と機能：神経生理の基礎・末梢神経系	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出、資料の整理とノート作成				4 時間
3	古林 俊晃	神経の構造と機能：中枢神経系（1）	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出、資料の整理とノート作成				4 時間
4	古林 俊晃	神経の構造と機能：中枢神経系（2）	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出、資料の整理とノート作成				4 時間
5	古林 俊晃	感覚器系：概要・体性感覚（高次脳機能を含める）	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出、資料の整理とノート作成				4 時間
6	古林 俊晃	感覚器系：視覚・聴覚（高次脳機能を含める）	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出、資料の整理とノート作成				4 時間
7	古林 俊晃	感覚器系：嗅覚・味覚（高次脳機能を含める）	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出、資料の整理とノート作成				4 時間
教 科 書		資料を配布する					
参 考 書		脳と神経をめぐる旅（寺尾安生著 Medical View）					
備 考		授業の進捗により講義内容の調整を行う場合がある。					

科 目 名		生涯発達心理学		担 当 者	柴田 寛	
科目ナンバリング		1030322564			常勤	
D P		1		教員研究室	1413	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 生涯発達心理学では発達生涯にわたる変化と捉える。このような生涯発達心理学の概念、研究方法、理論を解説したのち、各発達段階の特徴や課題などについてデータや事例を通じて説明する。						
【学習の到達目標】 生涯発達心理学の教科書の内容を正しく理解できるようになる。生涯発達心理学の専門用語を正しく用いることができるようになる。						
【成績評価方法】 受講態度 10%、小テスト 10%、定期試験 80% ※大学既定の出席数を満たしていること ※毎回の確認テストとは別に小テストを行う						
【課題等のフィードバック方法】 毎回、授業で取り上げた事項についての確認テストを行う。間違いが多かった問題を中心に次の授業で解説を行う。						
【履修上の注意・予習・復習について】 予習：本講義では主に教科書の「第5章 生涯発達心理学」の内容に沿って講義を進める。授業計画や授業の進行状況にもとづき、授業内容を事前に予習しておくことが望ましい。復習：確認テストで間違えた箇所を中心に講義内容について復習しておくこと。復習により理解の定着を図ること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家試験の範囲である生涯発達心理学の領域に関する基礎知識が得られる。年齢の異なる人々に対してどのように向き合い、関わっていくかを考え、理解する視点が得られる。						
【実務家教員担当科目】 心理学領域の研究、臨床（心理検査）の実務経験を持つ教員が担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	柴田 寛	ガイダンス	復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
2	柴田 寛	発達の概念：生涯発達心理学とは？	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
3	柴田 寛	発達の概念：遺伝と環境	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して配布プリントをもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
4	柴田 寛	発達の概念：ピアジェの発達理論（1）	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
5	柴田 寛	発達の概念：ピアジェの発達理論（2）	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
6	柴田 寛	発達の概念：ゲゼル、フロイト、ヴィゴツキーの発達理論	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
7	柴田 寛	発達の概念：エリクソンの発達理論	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
8	柴田 寛	小テスト（発達段階論の知識確認）	小テストの範囲は事前に提示するのでよく復習しておくこと			4 時間
9	柴田 寛	新生児期・乳児期：代表的な観察法（1）	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
10	柴田 寛	新生児期・乳児期：代表的な観察法（2）	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
11	柴田 寛	新生児期・乳児期：愛着の発達	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
12	柴田 寛	幼児期・児童期：遊び、自他認知の発達	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
13	柴田 寛	青年期、成人期：自我同一性の確立、職業生活、家族生活	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
14	柴田 寛	老年期：老年期の知的機能、死への対応	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
教 科 書		山田弘幸（編）『言語聴覚士のための心理学 第2版』医歯薬出版株式会社				
参 考 書		高橋晃（著）『キーワード心理学シリーズ5 発達』新曜社				
備 考		なし				

科 目 名		学習・認知心理学		担 当 者	柴田 寛
科目ナンバリング		103032251			常勤
D	P	1		教員研究室	1413
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			1年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 見る、聴く、話す、学習する、記憶する、思考する、他者とコミュニケーションをとる、などの日常的な行為は人間の高度な心的機能の上に成り立っている。認知心理学や学習心理学の学問領域ではこのような機能について実験や観察を通して実証的に明らかにして、その機能を説明する理論やモデルを打ち立てる。本講義では実際に実験刺激を観察したり実験を体験したりしてもらいながら、認知・学習心理学の基礎知識について解説する。 【学習の到達目標】 学習・認知心理学の教科書の内容を正しく理解できるようになる。学習・認知心理学の専門用語を正しく用いることができるようになる。 【成績評価方法】 受講態度 10%、小テスト 10%、定期試験 80% ※大学既定の出席数を満たしていること ※毎回の確認テストとは別に小テストを行う 【課題等のフィードバック方法】 毎回、授業で取り上げた事項についての確認テストを行う。間違いが多かった問題を中心に次の授業で解説を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 予習：本講義では主に教科書の「第2章 認知・学習心理学」の内容に沿って講義を進める。授業計画や授業の進行状況にもとづき、授業内容を事前に予習しておくことが望ましい。復習：確認テストで間違えた箇所を中心に講義内容について復習しておくこと。復習により理解の定着を図ること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家試験の範囲である認知心理学、学習心理学の領域に関する基礎知識が得られる。理論や知識にもとづいて人間の認知や学習・訓練効果を考える力が養われる。 【実務家教員担当科目】 心理学領域の研究、臨床（心理検査）の実務経験を持つ教員が担当する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	柴田 寛	感覚：感覚の種類、感度と範囲	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
2	柴田 寛	感覚：感覚間の相互関連、順応、対比と同化	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
3	柴田 寛	知覚・認知：色彩知覚、奥行知覚、運動知覚	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
4	柴田 寛	知覚・認知：知覚の恒常性、錯視、知覚の統合、パターン認識	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
5	柴田 寛	学習：古典的条件づけ	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
6	柴田 寛	学習：オペラント条件づけ	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
7	柴田 寛	学習：強化スケジュール	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
8	柴田 寛	学習：消去、般化、分化、回避学習、社会的学習、学習の転移	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
9	柴田 寛	記憶：記憶の区分	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
10	柴田 寛	記憶：記憶のモデル	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
11	柴田 寛	記憶：符号化と忘却のメカニズム	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
12	柴田 寛	思考：問題解決、概念とカテゴリー、推理	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
13	柴田 寛	小テスト	小テストの範囲は事前に提示するのでよく復習しておくこと		4 時間
14	柴田 寛	言語	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
教 科 書		山田弘幸（編）『言語聴覚士のための心理学 第2版』医歯薬出版株式会社			
参 考 書		森敏昭ほか（著）『グラフィック認知心理学』サイエンス社 山内光哉・春木豊（編著）『学習心理学 行動と認知』サイエンス社 鹿取廣人ほか（編）『心理学 第5版』東京大学出版会			
備 考		なし			

科 目 名		言語学 I		担 当 者	東ヶ崎祐一	
科目ナンバリング		1030322568			非常勤	
D	P	1		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 言語は人間の行うコミュニケーションのうち、最も多くの比重を占める手段であり、それゆえ言語の使用が阻害されるのは意思疎通や意見表明に多大な困難をもたらす。言語聴覚士の重要性は、身体的理由により言語使用に何らかの障害をきたした人々のリハビリテーションを助け、少しでも元通りの言葉を使った生活を取り戻すことにあり、それを行うためには、言語そのものについての知識や理解も必要である。 この授業では人間の言語について、音（音声・音韻）、形（形態・語彙）、文の組み立て（統語）、意味、使い方（語用論）といったさまざまな面から見てゆき、考え、理解することで、基礎的な知識を身につけていく。				【課題等のフィードバック方法】 課題については添削・解説等を添えてフィードバックする。 また、次の授業の最初に簡単な解説を行う。		
【学習の到達目標】 言語、ことばというものについて、その中にどのような仕組み・メカニズムがあるか理解し、言語聴覚士の業務においても知識を応用させてリハビリテーションに活かせるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 水分補給以外の飲食、辞書等機能利用以外での携帯電話使用は原則禁止する。 わからないところ・疑問点等あれば、積極的に質問してください。		
【成績評価方法】 期末試験（70%） 課題点（授業内容確認のため毎回課し、次の授業の最初に提出、20%） 平常点（授業での積極的な発言等が評価対象になる、10%）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語聴覚士の国家試験問題に対応できる知識が身につく。 言語聴覚士として必要な、言語・ことばを考えるときの基礎となる知識や応用力が身につく。		
				【実務家教員担当科目】 特になし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	東ヶ崎祐一	序 言語学とは何か	あらかじめ教科書の「序 言語学とは何か」を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
2	東ヶ崎祐一	1 音声・音韻①（音声）	あらかじめ教科書の「第Ⅰ部 音韻と形態」内「1 音声・音韻」1～5を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
3	東ヶ崎祐一	1 音声・音韻②（音素）	あらかじめ教科書の「第Ⅰ部 音韻と形態」内「1 音声・音韻」6～11を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
4	東ヶ崎祐一	1 音声・音韻③（韻律・アクセントなど）	あらかじめ教科書の「第Ⅰ部 音韻と形態」内「1 音声・音韻」12～16を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
5	東ヶ崎祐一	2 形態論・語形成①（複雑語など）	あらかじめ教科書の「第Ⅰ部 音韻と形態」内「2 形態論・語形成」1～5を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
6	東ヶ崎祐一	2 形態論・語形成②（複合・派生など）	あらかじめ教科書の「第Ⅰ部 音韻と形態」内「2 形態論・語形成」6～9を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
7	東ヶ崎祐一	3 機能文法①（構文など）	あらかじめ教科書の「第Ⅱ部 文法と意味」内「3 機能文法」1～5を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
8	東ヶ崎祐一	3 機能文法②（さまざまな文型）	あらかじめ教科書の「第Ⅱ部 文法と意味」内「3 機能文法」6～10を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
9	東ヶ崎祐一	4 生成文法	あらかじめ教科書の「第Ⅱ部 文法と意味」内「4 生成文法」を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
10	東ヶ崎祐一	5 認知言語学・日本語文法①（認知言語学とは）	あらかじめ教科書の「第Ⅱ部 文法と意味」内「5 認知言語学・日本語文法」1～4を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
11	東ヶ崎祐一	5 認知言語学・日本語文法②（日本語文法のトピック）	あらかじめ教科書の「第Ⅱ部 文法と意味」内「5 認知言語学・日本語文法」5～8を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
12	東ヶ崎祐一	6 語用論①（言語とコミュニケーション）	あらかじめ教科書の「第Ⅱ部 文法と意味」内「6 語用論」1～4を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
13	東ヶ崎祐一	6 語用論②（発話解釈と語用論）	あらかじめ教科書の「第Ⅱ部 文法と意味」内「6 語用論」5～9を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
14	東ヶ崎祐一	今までの内容の振り返り・まとめ	教科書の既習部分（第Ⅰ部/第Ⅱ部）を復習しておく。			4 時間
教 科 書		窪園晴夫（編集）『よくわかる言語学』ミネルヴァ書房				
参 考 書		佐久間 淳一、加藤 重広、町田 健（2004）『言語学入門：これから始める人のための入門書』東京：研究社 授業中にも適宜紹介します。				
備 考		質問は授業中・授業後・メール等で受け付けておりますので、お気軽にどうぞ。				

科 目 名		言語学Ⅱ		担 当 者	東ヶ崎祐一	
科目ナンバリング		1030332569			非常勤	
D P		1		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では言語学Ⅰに引き続き、言語・ことばをより広い面・視点から見てゆき、考え、理解することで、より広がりのある言語学的知識を身につけていく。具体的には言語の通時的・歴史的な「縦」の広がり（歴史言語学）、地理的・社会的な「横」の広がり（方言学・社会言語学）、言語の心の中での処理（心理言語学）、言語への実験を用いたアプローチ（実験言語学）、言語のパターン探究（言語類型論）と言った各分野についてである。さらに、言語の最も原初的と言われている要素であるオノマトペ、音声を使わない言語である手話言語についても言及する。 【学習の到達目標】 言語、ことばというものについて、人間社会での位置付けを理解し、ひいてはその理解を言語聴覚士の業務においても知識を応用させてリハビリテーションに活かせるようになる。 【成績評価方法】 期末試験（80%） 課題点（授業内容確認のため毎回課し、次の授業の最初に提出、20%） 【課題等のフィードバック方法】 課題については添削・解説等を添えてフィードバックする。 また、次の授業の最初に簡単な解説を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 水分補給以外の飲食、辞書等機能利用以外での携帯電話使用は原則禁止する。 わからないところ・疑問点等あれば、積極的に質問してください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語聴覚士の国家試験問題に対応できる知識が身につく。 言語聴覚士として必要な、言語・ことばを考えるときの基礎となる知識や応用力が身につく。 【実務家教員担当科目】 特になし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	東ヶ崎祐一	7 歴史言語学	あらかじめ教科書の「第Ⅲ部 言語研究の多様なアプローチ」内「7 歴史言語学」を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
2	東ヶ崎祐一	8 方言・社会言語学	あらかじめ教科書の「第Ⅲ部 言語研究の多様なアプローチ」内「8 方言・社会言語学」を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
3	東ヶ崎祐一	9 心理言語学	あらかじめ教科書の「第Ⅲ部 言語研究の多様なアプローチ」内「9 心理言語学」を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
4	東ヶ崎祐一	10 実験言語学	あらかじめ教科書の「第Ⅲ部 言語研究の多様なアプローチ」内「10 実験言語学」を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
5	東ヶ崎祐一	11 言語類型論	あらかじめ教科書の「第Ⅳ部 言語研究の新しい視点」内「11 言語類型論」を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
6	東ヶ崎祐一	12 オノマトペ	あらかじめ教科書の「第Ⅳ部 言語研究の新しい視点」内「12 オノマトペ」を読み、理解しておく。 授業内容確認のための課題を解き、次の時間に提出。			4 時間
7	東ヶ崎祐一	13 手話言語・まとめ	あらかじめ教科書の「第Ⅳ部 言語研究の新しい視点」内「13 手話言語」を読み、理解しておく。 今までの内容を一通り振り返り、内容を確認しておく。			4 時間
教 科 書		窪菌晴夫（編集）『よくわかる言語学』ミネルヴァ書房				
参 考 書		佐久間 淳一、加藤 重広、町田 健（2004）『言語学入門：これから始める人のための入門書』東京：研究社 授業中にも適宜紹介します。				
備 考		質問は授業中・授業後・メール等で受け付けておりますので、お気軽にどうぞ。				

科 目 名	音声学			担 当 者	中村 哲也
科目ナンバリング	1030322570				常勤
D P	1,3			教員研究室	1427
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 音声学の知識は構音障害の診断治療を行う際に必須である。母音や子音の特徴や分類を理解し、それぞれの音の聴覚的な印象と音声学的な表記方法を学ぶ。特に現代日本語音について実際に聴取し国際音声記号で表記する演習を行う。				【課題等のフィードバック方法】 小テストについては、授業で返却して解説する。	
【学習の到達目標】 以下の 3 点が到達目標となる。 1. 音声生成のメカニズムを説明することができる。 2. 言語音の特徴や分類を理解し、自らの発声発語器官の運動を内省しながら産生できる。 3. 国際音声記号（IPA）を用いて、聴取した音を表記できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義に加え発音および聴取の課題を行うので積極的に参加すること。授業で配布するプリントは教科書を参考にして、予習・復習をすること。	
【成績評価方法】 定期試験 80%、小テスト 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 音声学の基礎知識を得ることができる。 2 年次以降に学ぶ構音障害の臨床に必要な言語音の音声学的記述の基本的技術を習得できる。 言語聴覚士国家試験出題科目である。	
【実務家教員担当科目】 言語聴覚士の教員がその経験を活かして構音障害の評価と治療に必要な音声学の基礎的知識について講義する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	中村 哲也	音声と音声学（音声学とは、音声器官の名称	復習：構音器官の矢状断が書けること、構音器官の部位を覚えること。		4 時間
2	中村 哲也	音声生成のプロセス（呼吸、発声、共鳴、構音）	復習：Speech の成り立ちについて、呼吸・発声・共鳴・構音の側面から説明ができるようにすること。		4 時間
3	中村 哲也	国際音声記号（IPA）	復習：授業で学んだ IPA の発音記号の発音方法を説明できるようにすること。		4 時間
4	中村 哲也	国際音声記号（IPA）	復習：授業で学んだ IPA の発音記号の発音方法を説明できるようにすること。		4 時間
5	中村 哲也	国際音声記号（IPA）	復習：授業で学んだ IPA の発音記号の発音方法を説明できるようにすること。		4 時間
6	中村 哲也	国際音声記号（IPA）	復習：授業で学んだ IPA の発音記号の発音方法を説明できるようにすること。		4 時間
7	中村 哲也	国際音声記号（IPA）	復習：授業で学んだ IPA の発音記号の発音方法を説明できるようにすること。		4 時間
8	中村 哲也	日本語音声の特徴	復習：日本語に出現する母音・子音の IPA と発音方法を理解しておくこと。		4 時間
9	中村 哲也	日本語音声の特徴	復習：日本語に出現する母音・子音の IPA と発音方法を理解しておくこと。		4 時間
10	中村 哲也	日本語音声の特徴	復習：日本語に出現する母音・子音の IPA と発音方法を理解しておくこと。		4 時間
11	中村 哲也	連続発話と音環境による影響・音声の超分節的要素と評価 同化・音位転換・音節とモーラ	復習：連続発話で生じる超分節的要素について理解すること。また、単語の音節数を数えることができること。また、撥音の逆行同化について理解しておくこと。		4 時間
12	中村 哲也	連続発話と音環境による影響・音声の超分節的要素と評価 アクセント	復習：日本語の単語におけるアクセントを理解し、アクセントのパターンを分類できること。		4 時間
13	中村 哲也	日本語音声学のまとめ 1 IPA 表記演習	予習・復習：日本語の音声を IPA で表記することができるように、日本語で出現する IPA を覚えておくこと。		4 時間
14	中村 哲也	日本語音声学のまとめ 2 演習問題	予習：国家試験の音声学の問題を解けるように、今までの学修内容を事前に確認しておくこと。		4 時間
教 科 書		斎藤純男『日本語音声学入門』三省堂			
参 考 書		窪蘭晴夫『日本語の音声』岩波書店 窪蘭晴夫・本間猛『音節とモーラ』研究社			
備 考		音声学では、自らの発声発語器官の運動を内省しながら、声を出して練習すること。また、事前にレジュメを配布する。レジュメには授業での達成目標と確認問題が記載してあるため、それぞれ目標を達成しているか復習して確認しておくこと。			

科 目 名		音響学		担 当 者	○阿部 千佳・鈴木 陽一 内一 哲也						
科目ナンバリング		1030332571			常勤						
D P		1,3		教員研究室	1441						
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期						
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位					
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし									
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない						
【授業内容】 本講義では音響学の基礎を修得することを目的とする。音波の物理的特性を理解する。音の信号としての特性、純音、複合音などの特徴やそれらのスペクトル構造について学ぶ。また、音響分析のソフトを用いて日本語音声の子音、母音や解析方法を解説する。特に音声障害学、構音障害学、聴覚障害学の専門科目を理解するための基礎となる知識を学修する。 【学習の到達目標】 1. 波の基本的特性が理解できる。 2. 音響関連の専門用語や単位の説明ができる。 3. 音の波形とスペクトルを理解できる。 4. ソース・フィルタ理論の説明ができる。 5. 日本語音声の特徴やサウンドスペクトログラムの基本を理解し、音声分析のスキルを修得する。 【成績評価方法】 定期試験 90%、レポート 10%						【課題等のフィードバック方法】 課題の解説を次の授業の最初に行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻は正当な理由がある場合を除いて認めない。3 回遅刻で 1 回欠席とみなす。 授業中の私語、飲食、スマートフォン等の使用は厳禁とする。 専門用語も多いため、事前学習として教科書を熟読しておくこと。また、授業内容は必ず復習しノートを整理すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 音声の分析、聴力検査、補聴器・人工内耳を理解するために必要な基礎知識となる。専門科目である構音障害学、音声障害学、聴覚障害学を理解するために重要な基礎知識を得ることができる。言語聴覚士国家試験出題科目である。 【実務家教員担当科目】 臨床経験を持つ言語聴覚士などの教員がその経験を活かして、音の物理的特性の基本的知識を講義する。					
授 業 計 画											
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間								
			予習・復習		学修時間						
1	阿部 千佳	イントロダクション 音響学概論	予習：教科書の該当章を読んでおく。事前課題を確認しておく。 復習：音響学の概要を確認し、PC の基本操作を練習しておく。		4 時間						
2	内一 哲哉	音の物理入門 波の基本的性質	予習：教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書、レジュメを参照し、音の物理的特性についてノートを整理する。		4 時間						
3	内一 哲哉	信号としての音波	予習：教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書、レジュメを参照し、対数、指数について理解し、dB の計算ができるように復習する。		4 時間						
4	阿部 千佳	音声の特性	予習：音響分析ソフト Praat を PC にインストールしておくこと。 復習：音響分析ソフトの操作を復習し、レポート課題の準備をしておく。		4 時間						
5	鈴木 陽一	時間信号と周波数スペクトル	予習：教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書、レジュメを参照し、純音、複合音の特徴を理解しノートを整理する。		4 時間						
6	鈴木 陽一	周波数成分分析とフィルタ（1）	予習：ベクトル、三角関数を復習しておく。教科書の該当箇所を読んでおく。エクセルをダウンロードしておく。 復習：教科書、レジュメを参照し、波形とスペクトルを復習し、ノートを整理する。		4 時間						
7	鈴木 陽一	周波数成分分析とフィルタ（2）	予習：教科書の該当章を読んでおく。エクセルのコピー、ペーストを操作を確認しておく。 復習：教科書、レジュメを参照し、ノートを整理する。		4 時間						
8	阿部 千佳	定常波と共鳴	予習：教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書、レジュメを参照し、定常波と共鳴など音の物理的特性についてノートを整理する。		4 時間						
9	阿部 千佳	ソース・フィルタ理論	予習：教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書、レジュメを参照し、音声生成理論を理解し、ノートを整理する。		4 時間						
10	阿部 千佳	日本語母音の音響特性	予習：教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書、レジュメを参照し、5 母音の音響特性についてノートを整理する。レポートの準備をする。		4 時間						
11	阿部 千佳	日本語子音の音響特性	予習：教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書、レジュメを参照し、日本語子音の音響特性についてノートを整理する。レポートの準備をする。		4 時間						
12	阿部 千佳	サウンドスペクトログラム	予習：教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書、レジュメを参照し、サウンドスペクトログラムについてノートを整理する。レポートを作成する。		4 時間						
13	阿部 千佳	音のデジタル信号処理	予習：教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書、レジュメを参照し、デジタル信号処理についてノートを整理する。		4 時間						
14	阿部 千佳	病的音声の音響的特徴	予習：教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書、レジュメを参照し、病的音声の特徴についてノートを整理する。練習課題に取り組む。		4 時間						
教 科 書		「言語聴覚士の音響学入門 2 訂版」吉田友敬著、海文堂、2020									
参 考 書		「言語聴覚士のための音響学」今泉敏著、医歯薬出版、2015 「ゼロからはじめる音響学」青木直史著、講談社、2022 「マルチメディアシステム概論」大賀寿郎、鈴木陽一、2024									
備 考		授業時に資料を配布する。質問等は阿部まで。									

科 目 名	聴覚心理学			担 当 者	阿部 千佳
科目ナンバリング	1030332572				常勤
D P	1,3			教 員 研 究 室	1441
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本講義では聴覚心理学の基礎を修得することを目的とする。音の3要素の心理的側面と物理的側面の対応関係を理解し、人の聴覚生理を介した音の情報処理機構について学修する。特に聴覚障害学、音声障害学、構音障害学の専門科目を理解するための基礎となる知識を学修する。				【課題等のフィードバック方法】 課題の解説を次の授業の最初に行う。	
【学習の到達目標】 1. 人の耳の構造を理解する。 2. 音の心理的側面と物理的側面の対応関係を説明できる。 3. 音の大きさ・高さの知覚の認知の特徴を理解できる。 4. 聴覚生理学を理解し、聴覚フィルタ、マスキング機構について説明できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻は正当な理由がある場合を除いて認めない。3 回遅刻で 1 回欠席とみなす。 授業中の私語、飲食、スマートフォン等の使用は厳禁とする。 専門用語も多いため、事前学習として教科書を熟読しておくこと。また、授業内容は必ず復習しノートを整理すること。	
【成績評価方法】 定期試験 90%、課題の提出 10%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 音声の分析、聴力検査、補聴器や人工内耳を理解するために必要な基礎知識となる。専門科目である構音障害学、音声障害学、聴覚障害学を理解するために重要な基礎知識を得ることができる。言語聴覚士国家試験出題科目である。	
				【実務家教員担当科目】 臨床経験を持つ言語聴覚士などの教員がその経験を活かして、音の物理的特性や聴覚機構を介した音の知覚や認知についての基本的知識を講義する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	阿部 千佳	イントロダクション 聴覚心理学とは	予習：音響学を復習し、指定した教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読み直し、ノートを整理する。		4 時間
2	阿部 千佳	聴覚の基本構造	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：聴器の基本構造を復習し、ノートを整理する。		4 時間
3	阿部 千佳	音の心理的側面と物理的側面	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：音の心理的側面と物理的側面（時間領域、周波数領域）の対応を理解し、ノートを整理する。		4 時間
4	阿部 千佳	音の大きさの知覚	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：音の大きさの知覚について復習し、ノートを整理する。		4 時間
5	阿部 千佳	音の高さの知覚	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：音の高さの知覚について復習し、ノートを整理する。		4 時間
6	阿部 千佳	聴覚フィルタとマスキング	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：聴覚フィルタ、マスキングについて復習し、ノートを整理する。		4 時間
7	阿部 千佳	聴覚に生じる現象と騒音	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：聴覚に生じる現象と騒音について復習し、ノートを整理する。		4 時間
教 科 書		「言語聴覚士の音響学入門 2 訂版」吉田友敬著、海文堂、2020			
参 考 書		「ゼロからはじめる音響学」青木直史著、講談社、2022 「聴覚心理学概論」B.C.J. ムーア著、大串健吾 監訳、誠真書房、1994			
備 考		授業時に資料を配布する。質問等は阿部まで。			

科 目 名		言語発達学		担 当 者	○藤原加奈江・本郷 一夫	
科目ナンバリング		1030322573			常勤	
D P		1,3		教員研究室	1428	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 子どもが運動、感覚、情動、認知、実行機能、社会性の発達を背景にどのように言語を獲得するかを学ぶ。母国語の聴覚認知、語彙や構文の発達、文字の習得とともに、前言語コミュニケーションや談話などのコミュニケーション能力の発達という視点で言語発達を学ぶ。また、行動分析理論、生成文法理論、認知発達理論、社会認知理論など代表的な言語発達理論及び研究法を学ぶ。 【学習の到達目標】 言語の発達の基盤、言語及びコミュニケーション能力の発達指標、代表的な言語発達理論や研究法を理解することができる。 【成績評価方法】 ディスカッション 10%、試験 90% 【課題等のフィードバック方法】 質問や感想を書いてもらいフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 教科書の該当する箇所を読んで授業に臨み、授業の内容を自分の言葉でノートにまとめる。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語発達障害を学ぶ上で必要な基礎知識が得られる。 【実務家教員担当科目】 言語発達障害の臨床に携わっている教員が担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	藤原加奈江	前言語コミュニケーション	予習：よくわかる言語発達 p26-39 を読む。復習：言語の発達表にまとめる。			4 時間
2	藤原加奈江	語彙獲得期 語連鎖期	予習：よくわかる言語発達 p40-43 を読む。復習：言語の発達表にまとめる。			4 時間
3	藤原加奈江	構文の獲得	予習：よくわかる言語発達 p50-57 を読む。復習：言語の発達表にまとめる			4 時間
4	藤原加奈江	談話の発達、読み書きの発達	予習：よくわかる言語発達 p60-63, 64-67 を読む。復習：言語の発達表にまとめる。			4 時間
5	本郷 一夫	言語使用の獲得	予習：よくわかる言語発達 p58-59 を読む。復習：各理論を表にまとめる。			4 時間
6	本郷 一夫	言語獲得理論	予習：言語聴覚士テキスト p249-220 を読む。復習：各理論をまとめて表を作る。			4 時間
7	本郷 一夫	言語獲得理論	予習：言語聴覚士テキスト p249-220 を読む。復習：各理論をまとめて表を作る。			4 時間
教 科 書		よくわかる言語発達（改訂新版）：岩立志津夫・小椋たみ子編（ミネルヴァ書房） 言語聴覚士テキスト第3 版：大森孝一他編（医歯薬出版）				
参 考 書		2 歳から始める自閉症児の言語訓練：藤原加奈江著（診断と治療社）				
備 考		質問等は藤原まで。				

科 目 名		言語聴覚障害学総論			担 当 者	○阿部 千佳・藤原加奈江 高卓 輝・中村 哲也 八鉦 央子・小泉 智枝							
科目ナンバリング		1030422575				常勤							
D P		1,2			教員研究室	1441							
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期							
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位							
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし											
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない							
【授業内容】 言語聴覚障害学と言語聴覚士の歴史と現状とともに、2 年次以降に学ぶさまざまな言語聴覚障害の総論（分類、特徴、原因および治療・対応）を理解する。言語聴覚士の職務（言語聴覚士法の解釈を含む）、職業倫理および職能団体の役割、言語聴覚障害領域における臨床の流れ、医療・福祉分野における他職種との連携、言語聴覚士の社会的活動について学ぶ。 【学習の到達目標】 1. 言語によるコミュニケーションの生理解剖学的と諸過程を理解する。 2. 言語聴覚障害学と言語聴覚士の歴史と現状を理解する。 3. 言語聴覚障害の分類、特徴、原因および治療・対応について、2 年次以降に開講される授業の予備知識を得る。 【成績評価方法】 定期試験 90% 提出物 10%							【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け、回答する。 classroom 等でフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義で指定された教科書の各章を読んでおくこと。復習は、各領域のまとめのノートを作成し内容を整理することが必要である。 授業中の私語、飲食、スマートフォンおよび携帯電話の使用は厳禁とする。 担当教員および講義の順番を変更する可能性がある。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 2 年次以降に配当される専門科目の概要を学び、学習の道筋を知ることができる。また、言語聴覚士の職業の実際を知る中で、職業倫理やリスク管理などについて学修し、社会人、医療人として必要なことは何かについて学ぶ。 言語聴覚士国家試験出題科目である。 【実務家教員担当科目】 言語聴覚士等として実務経験（医療、福祉、教育現場）のある教員が担当する科目であり、各々の知識や経験を生かして言語聴覚士が携わる障害領域について解説する。						
授 業 計 画													
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間										
			予習・復習			学修時間							
1	阿部 千佳	言語聴覚障害入門	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
2	阿部 千佳	言語聴覚士の養成、職業倫理	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
3	藤原加奈江	言語発達障害学（1）	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、言語発達障害に関わる重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
4	藤原加奈江	言語発達障害学（2）	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、言語発達障害に関わる重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
5	八鉦 央子	高次脳機能障害学（1）	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、高次脳機能障害に関わる重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
6	八鉦 央子	高次脳機能障害学（2）	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、高次脳機能障害に関わる重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
7	小泉 智枝	失語症学（1）	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、失語症学に関わる重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
8	小泉 智枝	失語症学（2）	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、失語症学に関わる重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
9	中村 哲也	構音障害学（1）	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、構音障害学に関わる重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
10	中村 哲也	構音障害学（2）	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、構音障害学に関わる重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
11	阿部 千佳	音声障害学	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、音声障害学に関わる重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
12	高卓 輝	聴覚障害学（1）	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、聴覚障害学に関わる重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
13	高卓 輝	聴覚障害学（2）	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：教科書を読みなおし、聴覚障害学に関わる重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
14	八鉦 央子	地域リハビリテーションとチーム医療	予習：指定された教科書の該当章を読んでおく。 復習：地域リハビリテーションやチーム医療に関わる重要語句を理解する。ノートを整理する。			4 時間							
教 科 書		「言語聴覚士テキスト 第 4 版」大森孝一他 編、医歯薬出版、2024											
参 考 書		「言語聴覚障害学概論 第 2 版」藤田郁代監修、医学書院、2019 「言語聴覚士国家試験出題基準 令和 5 年 4 月版」、公益財団法人医療研修推進財団監修、2023											
備 考		講義の質問は各担当教員に質問のこと。その他の質問は阿部まで。											

科 目 名	見学実習 I			担 当 者	○阿部 千佳・藤原加奈江 高卓 輝・柴田 寛 中村 哲也・八嶽 央子 小泉 智枝
科目ナンバリング	10304225103				常勤
D P	3,4			教 員 研 究 室	1441
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	1 年次・通年
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 見学実習 I では、小児言語聴覚障害を主対象とした施設で見学実習を行う。実習を通して、礼節、時間遵守などの医療人としての基本的心構えを実践するとともに、言語聴覚療法の臨床とその流れを理解する。また、臨床における言語聴覚士の役割や業務、多職種連携について学び、高い志向性を持って専門学習に臨む機会とすることも目的としている。課題は、実習中のデイリーノート作成と実習後のレポート作成とする。				【課題等のフィードバック方法】 実習評価表、提出物の結果は、各担当教員からフィードバックされる。	
【学習の到達目標】 1. 言語聴覚障害児の抱える問題、その背景を考えることができる。 2. 言語聴覚士の役割と業務を知る。 3. 見学する施設の特徴と地域における役割について調べることができる。 4. 職業倫理（守秘義務など）を実践できる。 5. 観察したことからレポートを作成できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 実習前に臨床実習施設や実習施設で見学する主な領域や関連する検査および治療手技について情報を得ておくことが大切である。また、医療人として挨拶や時間を守り、対象児者や関連する職種に対しても尊敬をもった態度が求められる。職業倫理（守秘義務）は遵守すること。実習後には適切な実習報告書が作成できるよう見学した内容を正確に記録することが求められる。	
【成績評価方法】 臨床実習施設での実習評価表 40%、提出物（実習概要、デイリーノート、実習報告書）60%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語聴覚士国家試験受験のための必須科目である。大学で学ぶ知識が医療の現場でどのように生かされるのかを知ることが出来る。社会人、職業人としての自らの将来像を展望するとともに、人として成長する機会となる。	
【実務家教員担当科目】 臨床で実務経験を持つ教員が実習指導者とともに助言・指導する。					
授 業 計 画					
1. 実習内容 ①. 臨床場面の見学 ②. 観察所見のまとめ ③. 実習概要、デイリーノートの作成および提出 2. 実習終了後 ①. 実習報告書の提出					
教 科 書	なし				
参 考 書	言語聴覚障害に関する各科目の教科書				
備 考	「臨床実習の手引き」を配布する。 質問等は阿部まで。				

2020 ～ 2024 年度入学者用カリキュラム (言語聴覚学専攻)

科 目 名	ボランティア探求			担 当 者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	103011207				常勤
D P	2,4			教員研究室	1124
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・通年
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	90 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 一年次に地域活動・ボランティアの科目を受講した学生を対象に、系統別ボランティア実践者からのレクチャー及びボランティアの実践実習を行い、それまでの講義・実習を受けて、ワークショップ及び実践実習で得たスキルを報告する 【課題等のフィードバック方法】 実際にボランティア活動を行うことで、社会的課題・検証についても学ぶことができる 【学習の到達目標】 各種ボランティア活動の実践を通じて、各種ボランティア指導者及びNPO・NGO 実践者・指導者等を目指すことを目的とする 【履修上の注意・予習・復習について】 事前に行われるレクチャーを参考に実践実習で求められる活動内容を把握しておくこと また、損害保険の適用を前提とするため、事前に担当教員（単位認定者）へ届出すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会の仕組みを色々な角度から学ぶことで、社会的な視野が拡大すると共に社会的な信用が得られる 一年次の地域活動ボランティアの科目で培われたコミュニケーション能力の向上及び地域活動への理解が深くなる 【実務家教員担当科目】 系統別ボランティア実践者からのレクチャー及び各施設等でのボランティアの実践実習を行う					
授 業 計 画					
1. ボランティア活動講座 講義Ⅰ 基礎講座（一年次の講座の確認） 講師：本学専任教員 講義Ⅱ～Ⅵ 系統別実践者からのレクチャー（講義・演習等） 講師：外部講師 環境系・福祉系（高齢・障害者・母子・児童福祉） ・生涯学習系・地域振興系 2. ボランティア活動実践実習 講義Ⅱ～Ⅵから1・2箇所選択し、都合10時間程度の実習を行い、実習活動報告書（レポート）を提出 3. ボランティア活動総括 ・それまでの講義・実践実習活動に関するワークショップ（連講2コマ） ・実践活動の報告会（1コマ）					
教 科 書	使用しない、必要に応じて資料を配布				
参 考 書	講義時に必要に応じて紹介				
備 考	実践実習を伴うため、事業日以外の日程で実施する場合もあり、特に土日、夏季・冬季の休業期間を充てることも多く、また夜間の活動も含めて考慮すること				

科 目 名		英語Ⅱ		担 当 者	○大野 朝子・ウォルグレイヴ イーライ	
科目ナンバリング		1030212021			常勤	
D P		1,3		教員研究室	1384	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・通年	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、「英語Ⅰ」で学んだコミュニケーション能力をさらに伸ばすことを目指し、Listening/Speaking（会話活動）、Reading/Writing（英文読解、英文法、語彙力向上）を半期に分けて学習する。順番はクラスによって異なる。						
【学習の到達目標】 パラフレーズ、ジェスチャーなどで言語面の不足を補う ・グループディスカッションを通して、理論立てて物事を説明する方法を学ぶ。 ・異文化における価値観や行動様式を学ぶ。						
【成績評価方法】 各クラスでは、以下を総合的に判断する。 授業への積極的参加、課題、テスト 詳細については初回授業時に説明する。						
【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 ・各クラスとも出席を重視する。遅刻に関しては各担当教員で対応が異なるが、経過時間によっては欠席扱いとなることもあるので、遅刻しないよう心がけてほしい。 ・教科書、辞書を持参すること。持参しない場合、欠席扱いになることもある。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 実践的な英語授業を通して、日常生活からビジネスの場まで対応できる英語基礎運用能力を高められる。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		学修時間
			予習・復習		
1	イーライ	オリエンテーション	テキストの目次を読み、教科書全体の内容を把握しておく。授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
2	イーライ	大意把握から重要語句の確認 (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
3	イーライ	大意把握から重要語句の確認 (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
4	イーライ	大意把握から重要語句の確認 (3)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
5	イーライ	クリティカルリーディングとイディオムの習得 (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
6	イーライ	クリティカルリーディングとイディオムの習得 (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
7	イーライ	クリティカルリーディングとイディオムの習得 (3)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
8	イーライ	情報収集、下書き、訂正、編集のライティングプロセスに慣れる (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
9	イーライ	情報収集、下書き、訂正、編集のライティングプロセスに慣れる (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
10	イーライ	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習 (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
11	イーライ	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習 (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
12	イーライ	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習 (3)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
13	イーライ	ビジネス英語の構文と表現	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
14	イーライ	まとめ	授業で分からなかった部分について教員への質問を考えておく。理解できなかった箇所は重点的に勉強し直す。		1 時間
15	イーライ	オリエンテーション	テキストの目次を読み、教科書全体の内容を把握しておく。授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
16	イーライ	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
17	イーライ	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
18	イーライ	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる (3)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
19	イーライ	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
20	イーライ	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
21	イーライ	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める (3)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
22	イーライ	言い換え (パラフレーズ) のコツ (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
23	イーライ	言い換え (パラフレーズ) のコツ (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
24	イーライ	受動的ではなく、能動的に聴く方法 (1)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
25	イーライ	受動的ではなく、能動的に聴く方法 (2)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
26	イーライ	受動的ではなく、能動的に聴く方法 (3)	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
27	イーライ	フォーマル、インフォーマルな表現と用法	予習: テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習: 授業で学習した単語のスペルを覚える。		1 時間
28	イーライ	まとめ	授業で分からなかった部分について教員への質問を考えておく。理解できなかった箇所は重点的に勉強し直す。		1 時間
教 科 書		開講後に指示する。			
参 考 書		適宜授業時に指示する。 英文法の参考書を用意し、予習、復習で利用するのが望ましい。文法書は高校で使用したものでかまわない。			
備 考		開講後に指示する。			

科 目 名		文化人類学		担 当 者	瀬川 昌久	
科目ナンバリング		1030212027			非常勤	
D	P	1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 人類の文化・社会の多様性と普遍性に関する総合的研究分野である文化人類学について概説を行い、異文化理解のための基礎的な枠組みを提供することを目指す。 【学習の到達目標】 人類の文化・社会の普遍性と多様性を理解するため、文化人類学の基礎概念と方法論的特色について一定程度理解する。 【成績評価方法】 試験による。 【課題等のフィードバック方法】 特に必要ない。 【履修上の注意・予習・復習について】 特に必要ない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ノートを丹念にとること。場合によってノートの提出を求めることもある。 【実務家教員担当科目】 該当しない。						
授 業 計 画						
1. 方法論 / 基礎概念 2. 採集狩猟民社会（1） 3. 採集狩猟民社会（2） 4. 牧畜民社会（1） 5. 牧畜民社会（2） 6. 農耕民社会（1） 7. 農耕民社会（2） 8. 環境適応と文化 9. ジェンダーと生殖（1） 10. ジェンダーと生殖（2） 11. 親族関係（1） 12. 親族関係（2） 13. 家族 14. 社会組織の日・中比較 15. 民族とアイデンティティー ※授業計画は適宜変更する。						
教 科 書		「文化人類学を学ぶ人のために」 米山俊直・谷泰編 世界思想社				
参 考 書		必要な場合は教室で指示する。				
備 考		文化人類学はすぐに何かに役に立つような学問ではない。即効的なスキルのみを求める者には勧めない。				

科 目 名		日本・東北文化論		担 当 者	栗原伸一郎	
科目ナンバリング		1030212028			非常勤	
D	P	1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 現在、私たちが生活している東北や仙台は、どのように形成されたのだろうか。東北や仙台は日本のなかでいかなる立場を占め、歴史的・文化的にどのような足跡を残してきたのだろうか。また、それらを明らかにするためには、どのような活動が必要になるのだろうか。本講義では、以上の問題に迫ることを通じて、地域の歴史・文化について考えてみたい。 【学習の到達目標】 ①東北や仙台の歴史・文化について関心を持ち、理解することができる。 ②地域の歴史・文化を継承する活動について関心を持ち、理解することができる。 ③上記を自分に関わる事柄として受け止め、意味を考えることができる。 【成績評価方法】 ①毎回提出するコメント 30%（記入内容から理解度と受講態度を評価する。出席点ではない。） ②定期試験 70%（試験内容は事前に通知する。） 【課題等のフィードバック方法】 コメントで示された重要な意見や質問などについては、次回以降の講義で解説する。 講義終了後、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義を妨げる行為（講義中の教室への出入り・私語・携帯電話・飲食など）は禁止。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 漠然と認識している事柄について改めて考えてみることや、当たり前と思っている事柄について別の角度から捉え直してみることで、自己や他者が立脚する地域の有り様を再発見する力を養うことができる。 【実務家教員担当科目】 資料保存機関へ勤務した経験がある者が地域の歴史・文化について講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	栗原伸一郎	講義の概要	東北地方や仙台の歴史で興味がある分野や人物について、自分で調べてみる。		4 時間	
2	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化①戦国時代と伊達政宗	東北地方の戦国時代や政宗の行動を調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
3	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化②城下町・仙台	仙台城址を見学するとともに、配布プリントを再読する。		4 時間	
4	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化③杜の都・仙台	『仙台市史』の該当部分に目を通し、配布プリントを再読する。		4 時間	
5	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化④伊達政宗と現代	書籍やインターネット等で政宗について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
6	栗原伸一郎	仙台藩士の異文化体験①蝦夷地	江戸時代までの東北や北海道の歴史を調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
7	栗原伸一郎	仙台藩士の異文化体験②アメリカ	『仙台市史』で玉虫左太夫について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
8	栗原伸一郎	幕末維新と東北地方①江戸時代の東北	自分の出身地の藩について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
9	栗原伸一郎	幕末維新と東北地方②幕末維新の動乱	『仙台市史』等で戊辰戦争の大まかな流れを確認し、配布プリントを再読する。		4 時間	
10	栗原伸一郎	幕末維新と東北地方③奥羽越列藩同盟	『仙台市史』等で奥羽越列藩同盟について理解を深め、配布プリントを再読する。		4 時間	
11	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承①歴史資料にみる仙台	『仙台市史』（資料編）に目を通し、配布プリントを再読する。		4 時間	
12	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承②歴史資料の現在	自分の出身地にある歴史資料・文化財について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
13	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承③NPO と資料保存	現在住んでいる地域にある歴史資料・文化財について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
14	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承④災害と資料保存	日本各地の災害と歴史資料・文化財の関係について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
教 科 書		なし。プリントを配布する。				
参 考 書		『仙台市史』（通史編）。その他、授業のなかで紹介する。				
備 考		高校の歴史の授業と内容が異なるので「日本史」を学んでいなくとも履修可能。 授業の進展等によって内容が一部変更になる場合がある。				

科 目 名	日本近代史			担 当 者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	1030212029				常勤
D P	1,4			教員研究室	1124
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 日本が 1854 年の開国以来、明治維新を経て欧米列国と肩を並べていくまでの日本近代史について世相史（医学史・公衆衛生史等含）を交えて解説していく				【課題等のフィードバック方法】 講義に関する史資料の把握及びニュース・報道等を参考にすることで実社会への対応力の醸成を希望	
【学習の到達目標】 その時代時代の事件・事象が社会に及ぼした影響について学ぶことで、将来起こり得ると考えられる事象への洞察力を養う				【履修上の注意・予習・復習について】 講義は授業毎のレジュメと P.P. 資料により行う なお、エクスカッションを実施（必須）するが、時間割とは別に土曜日等の授業日以外となるので、予め承知すること	
【成績評価方法】 受講記録やレポートの提出（2 回程度）を求め、その内容で評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 実社会に出た後に時代の変化に惑わされない感覚を養うが出来る	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

科 目 名	哲学			担 当 者	高山 馨
科目ナンバリング	1030212030				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 哲学および倫理学がどのような営みなのかを知ることは、時として自らのふるまいを変えることにもつながります。本講義では、主に生命と医療・技術にかかわる哲学的、倫理的、社会的な問題を学ぶことで、医療者としての社会的自己について考えていきます。				【課題等のフィードバック方法】 毎回アンケートを取り、講義内で質問に答える。	
【学習の到達目標】 (1) 哲学および倫理学の基礎知識、それらが用いる方法についての基礎知識を身につける。(2) 哲学および倫理的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 適宜復習し、講義内で紹介された参考文献にあたることが望ましい。	
【成績評価方法】 平常点：60%、期末試験：40%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 生命や医療・技術にかかわるさまざまな問題を理解することは、医療の世界へと進む人の自己形成にとって有益と思います。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	高山 馨	イントロダクション：哲学および倫理学とは何か	〈予習〉シラバスと配布資料を一読する。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。		4 時間
2	高山 馨	価値と幸福について（1）	〈予習〉配布資料を一読し、価値や道徳は人それぞれなのかを考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。		4 時間
3	高山 馨	価値と幸福について（2）	〈予習〉配布資料を一読し、幸福とは何かを考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。		4 時間
4	高山 馨	生の始まりと終わりについて（1）	〈予習〉配布資料を一読し、人生に意味はあるのか、あるとしたらそれは何かを考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。		4 時間
5	高山 馨	生の始まりと終わりについて（2）	〈予習〉配布資料を一読し、死ぬことはその人にとって悪いことなのかを考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。		4 時間
6	高山 馨	医療・技術と責任について（1）	〈予習〉配布資料を一読し、医薬品のための動物実験について考えておく。 〈復習〉講義内容を整理して理解する。		4 時間
7	高山 馨	医療・技術と責任について（2）	〈予習〉配布資料を一読し、医療者としての倫理と社会的責任について考えておく。 〈復習〉これまでの講義内容を整理して理解する。		4 時間
教 科 書		プリントを配布するので、教科書は不要です。			
参 考 書		講義内で適宜紹介します。			
備 考		特になし。			

科 目 名		健康科学		担 当 者	○未定・古林 俊晃	
科目ナンバリング		1030212031			常勤	
D P		1,4		教員研究室	1203	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 身体運動を伴う生活場面や肉体労働はますます減少し、生活の利便化、快適化と引き替えに、人間は体力の減退、肥満等の生活習慣病に悩まされることになった。本講義では、今後必要となる自己の健康管理方法に必要な基本的な内容を運動（スポーツ）、疾病、栄養等の側面からわかりやすく講述する。 【学習の到達目標】 ・健康の維持・増進のために必要な知識を身につけ、生活習慣病などの予防法について理解を深め、実践できるようになる。 ・スポーツが身体に与える影響を身・心・社会の側面から理解する 【成績評価方法】 成績は、定期試験（80％）、レポート（20％）により評価する。試験規定により 2/3 以上の出席がなければ定期試験を受けられないので留意すること。 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・振り返りを提出すること ・遅刻は本人の責めに帰さない理由以外は認めない。 ・具合が悪いなど、やむを得ず教室を退出する場合は教員の確認を取ること ・授業態度の悪い学生は退室させる。この場合欠席扱いとする。スマートフォンの使用、食事は禁止とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・スポーツへの関心を高められる ・生涯にわたる自身の健康管理の知識と方法を身につけ、実践できるようになる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	古林 俊晃	ガイダンス：人間らしさとは	健康に関する内容を確認しておくこと			4 時間
2	古林 俊晃	人体の構造と機能：動物的機能（骨格筋と神経系）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出			4 時間
3	古林 俊晃	人体の構造と機能：動物的機能（感覚器系と高次脳機能）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出			4 時間
4	古林 俊晃	人体の構造と機能：植物的機能（栄養とエネルギー）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出			4 時間
5	古林 俊晃	人体の構造と機能：植物的機能（恒常性）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出			4 時間
6	古林 俊晃	健康：健康と死の考え方	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出			4 時間
7	古林 俊晃	前半の総括 中間試験①	ここまでの内容の振り返りをする。			4 時間
8	古林 俊晃	加齢：発育発達と老化	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出			4 時間
9	古林 俊晃	トレーニング理論：体力について	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出			4 時間
10	古林 俊晃	トレーニング理論：トレーニングと障害	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出			4 時間
11	古林 俊晃	スポーツ心理学：運動学習	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出			4 時間
12	古林 俊晃	スポーツとメンタル：スポーツの精神的影響	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出			4 時間
13	古林 俊晃	スポーツ倫理学：健全なスポーツとは	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出			4 時間
14	古林 俊晃	後半の総括 中間試験②	ここまでの内容の振り返りをする			4 時間
教 科 書		毎回資料を配布する				
参 考 書		健康・スポーツ科学の基礎知識（第3版）、道和尚書院 イラスト「アダプテッド・スポーツ概論」東京教学社				
備 考		授業の進捗により講義内容の調整を行う場合がある				

科 目 名	憲法と法律			担 当 者	淡路 智典
科目ナンバリング	1030212032				常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	1224
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 憲法とは国の根幹を定める法律である。この授業では憲法の基本的な内容を扱う憲法総論、国家によっても侵害されることのない個人の権利を扱う人権論、国家の基本的な仕組みをさだめる統治機構論をそれぞれ見ていく。できるだけ学生に身近な話題を絡めつつ、憲法の基本的な考え方や条文解釈を説明していく。				【課題等のフィードバック方法】 授業の疑問点を Google classroom に書いてもらい、次の回の授業の冒頭で回答する。	
【学習の到達目標】 憲法という国家の根本法について基礎的な概念を理解し、基本的人権や統治機構のあり方に関して、自己の見解を持てるようにする。				【履修上の注意・予習・復習について】 スライドを授業前に確認し、わからない法律用語の予習。 他の受講生の迷惑になることはしないこと。	
【成績評価方法】 期末試験の点数に平常点を加味して決定する。 内訳：期末試験 80%、小テスト 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 憲法に対する理解を深めることによって、憲法改正をはじめとする具体的な憲法問題に関して、主体的に考えられるようになる。個人の侵害されてはならない基本的人権を理解することにより、社会問題に関して一層深く理解することができるようになる。また一票を持つ主権者として必要な知識と自覚を得ることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	淡路 智典	ガイダンス・憲法とは	シラバスの内容確認・教科書（判例集）の読み方を理解する	4 時間
2	淡路 智典	憲法概説	スライドを授業前に確認し、憲法の全体像を掴む	4 時間
3	淡路 智典	幸福追求権と法の下での平等	判例を参考にして、包括的基本権や平等権について理解する	4 時間
4	淡路 智典	精神的自由権（内心の自由）	判例を参考にして、思想・良心の自由や信教の自由について理解する	4 時間
5	淡路 智典	精神的自由権（表現の自由）	判例を参考にして、表現の自由の重要性や限界について理解する	4 時間
6	淡路 智典	経済的自由権	判例を参考にして、職業選択の自由や財産権について理解する	4 時間
7	淡路 智典	人身の自由	判例を参考にして、刑事事件で保障される権利等について理解する	4 時間
8	淡路 智典	国務請求権と参政権	判例を参考にして、裁判を受ける権利や参政権について理解する	4 時間
9	淡路 智典	社会権	判例を参考にして、生存権や教育を受ける権利、労働基本権について理解する	4 時間
10	淡路 智典	権力分立の原理と国会	政治思想や歴史的経緯を参考にして、三権分立の概念を理解する	4 時間
11	淡路 智典	内閣	法制度を参考にして、公務員制度を理解する	4 時間
12	淡路 智典	裁判所	法制度を参考にして、裁判や裁判制度について理解する	4 時間
13	淡路 智典	天皇制、平和主義	憲法の条文を参考に、象徴天皇制や平和主義について理解する	4 時間
14	淡路 智典	憲法の保障	憲法の理念を参考に、硬性憲法について理解する	4 時間
教 科 書		岡田順太 / 淡路智典 / 今井健太郎 編『判例キーポイント憲法』（成文堂、2020 年、ISBN：978-4-7923-0666-3）		
参 考 書		芦部信喜『憲法（第 8 版）』（岩波書店、2023 年、ISBN：9784000616072）		
備 考		特になし。		

科 目 名		教育学 I		担 当 者	三塚 明彦	
科目ナンバリング		1030212033			非常勤	
D P		1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 社会の急激な変化に伴い、学校教育をはじめ学ぶ人をいかに導いていくか教育の方法が大きく変わろうとしている。現代教育の課題を把握し、教育学の視点からこれからの学びの方法について考えるとともに現代抱えている社会問題をどう解決するか考察する。 【学習の到達目標】 現代の教育が抱える問題の実態を把握し、解決方法を自分の言葉で述べることができる。 【成績評価方法】 毎回授業中に作成する課題（600 字程度）の内容で評価する。 【課題等のフィードバック方法】 次回の授業で前回提出された課題について講評する。 【履修上の注意・予習・復習について】 毎回、授業のテーマについて講義後に課題を作成し提出してもらう。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代の教育課題について、その実態を把握することができ、その解決方法について自分の考えをまとめることができる。また、現代の社会問題についても確認することができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	三塚 明彦	オリエンテーション	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
2	三塚 明彦	教員不足について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
3	三塚 明彦	少子高齢化と教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
4	三塚 明彦	教育格差について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
5	三塚 明彦	特別支援教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
6	三塚 明彦	いじめ問題について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
7	三塚 明彦	不登校、ひきこもりについて	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
8	三塚 明彦	偏差値重視教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
9	三塚 明彦	ICT 教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
10	三塚 明彦	日本型雇用について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
11	三塚 明彦	主権者教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
12	三塚 明彦	社会教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
13	三塚 明彦	平和教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
14	三塚 明彦	これからの教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。			4 時間
教 科 書		PowerPoint で資料提示し、適宜必要に応じて資料を配布する。				
参 考 書		授業中に紹介する。				
備 考		なし				

科 目 名		教育学Ⅱ		担 当 者	一柳 貴博	
科目ナンバリング		1030222034			非常勤	
D	P	1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 不登校やいじめ、精神的不調、障がい等の教育課題をとりあげ、心理学の知見を踏まえた支援方法について学ぶ。また、障がいの有無にかかわらず誰もが生きやすい学校や社会の実現に向けた支援についても考える。				【課題等のフィードバック方法】 毎回の振り返りコメントの際に授業の感想や質問を受け付け、次の授業の時にそのフィードバック（質問の回答等）を行う。		
【学習の到達目標】 ①心理学的支援について理解し、説明することができる。②様々な教育課題とその支援について理解し、説明することができる。③誰もが生きやすい学校や社会に向けた支援について考え、自らの意見をまとめることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業の中で、授業内容に関するディスカッションやグループワークを行う。積極的に授業に参加すること。		
【成績評価方法】 毎回の授業中の振り返りコメント（100%）により評価する。評価の基準等については授業内で紹介する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 心理学的支援の方法や多様な子どもたちの姿を知ることができるとともに、学校や社会の在り方について多面的に考える視点を得ることができる。		
				【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	一柳 貴博	イントロダクション：子どもたちを取り巻く様々な教育課題	予習：子どもたちを取り巻く様々な教育課題を調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、子どもたちを取り巻く教育課題をまとめる。			4 時間
2	一柳 貴博	心理学的支援1：子どもとの関係形成	予習：他者と信頼関係を築くにはどうすると良いかを考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、子どもを含む他者との信頼関係を築く方法をまとめる。			4 時間
3	一柳 貴博	心理学的支援2：アセスメント	予習：心理学的支援におけるアセスメントの方法を調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、心理学的支援においてどんなアセスメントの方法があるかをまとめる。			4 時間
4	一柳 貴博	心理学的支援3：様々な心理的アプローチ	予習：様々な心理的アプローチについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、様々な心理的アプローチの方法をまとめる。			4 時間
5	一柳 貴博	教育課題と支援1：不登校、いじめ	予習：不登校やいじめに関する課題と支援について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、不登校やいじめに関する課題と支援についてまとめる。			4 時間
6	一柳 貴博	教育課題と支援2：児童虐待、子どもの貧困	予習：児童虐待や子どもの貧困に関する課題と支援について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、児童虐待や子どもの貧困に関する課題と支援についてまとめる。			4 時間
7	一柳 貴博	教育課題と支援3：精神的不調を抱える子どもへの支援	予習：精神的な不調について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、精神的不調の内容とその支援方法をまとめる。			4 時間
8	一柳 貴博	教育課題と支援4：発達障がいのある子どもへの支援	予習：発達障がいについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、発達障がいの内容とその支援方法をまとめる。			4 時間
9	一柳 貴博	教育課題と支援5：様々な障がいのある子どもへの支援	予習：自分が関心のある障がいについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、様々な障がいの内容とその支援方法をまとめる。			4 時間
10	一柳 貴博	教育課題と支援6：多様なニーズのある子どもへの支援	予習：多様なニーズのある子どもについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、多様なニーズのある子どもの支援方法をまとめる。			4 時間
11	一柳 貴博	誰もが生きやすい学校や社会に向けて1：インクルーシブ教育と共生社会	予習：インクルーシブ教育と共生社会について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、インクルーシブ教育と共生社会の内容と課題をまとめる。			4 時間
12	一柳 貴博	誰もが生きやすい学校や社会に向けて2：障がいとは	予習：障がいとは何かを考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、障がいとは何かについて自分の考えを深める。			4 時間
13	一柳 貴博	誰もが生きやすい学校や社会に向けて3：子どもたちの関係形成	予習：多様な子どもたちが良好な関係を築くためにはどうしたら良いかを考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、多様な子どもたちの関係形成に向けた支援について自分の考えを深める。			4 時間
14	一柳 貴博	まとめ：多様な子どもたちへの支援	予習：これまでの授業を振り返り、心理学的支援や様々な教育課題についてまとめる。 復習：これまでの授業を振り返り、誰もが生きやすい学校や社会に向けた支援についての自分の考えをまとめる。			4 時間
教 科 書		教科書は指定しない。適宜プリントを配布する。				
参 考 書		授業の中で指示する。				
備 考		特になし。				

科 目 名	生活と経済			担 当 者	開講時指示
科目ナンバリング	1030222035				
D P	1,4			教員研究室	
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 【課題等のフィードバック方法】 【学習の到達目標】 【履修上の注意・予習・復習について】 【成績評価方法】 【受講して得られる効果・メリット、その他】 【実務家教員担当科目】 ※開講時に指示します。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1				4 時間	
2				4 時間	
3				4 時間	
4				4 時間	
5				4 時間	
6				4 時間	
7				4 時間	
8				4 時間	
9				4 時間	
10				4 時間	
11				4 時間	
12				4 時間	
13				4 時間	
14				4 時間	
教 科 書					
参 考 書					
備 考					

科 目 名		ジェンダー論		担 当 者	妙木 忍								
科目ナンバリング		1030222036			非常勤								
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室								
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	4 年次・後期								
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位							
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし											
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない							
【授業内容】 この授業では、ジェンダーの視点から社会を考察する。ジェンダー研究の蓄積を紹介するとともに、家族、労働、法など身近な論点を取り上げながら社会の考察を深める（主に日本社会を対象とする）。この授業を通して、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにすればよいのかを、ともに考えていく。 【学習の到達目標】 (1) ジェンダーの概念を理解する。(2) ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。 【成績評価方法】 レスポンス・カードの提出（30%）、課題（30%）、論述試験（40%）により評価する。							【課題等のフィードバック方法】 毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出していただき、質問やコメントを受け取る。その内容を、次の回の冒頭で紹介し、フィードバックをおこなう。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中に伝える。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 自分の問題関心にそって問いを立て、それを解くことができる力を身につけることも目指すため、社会を読み解く力と自分の問いを解く楽しみが得られる。また、社会を相対化する視点や、私たちがいま生きている時代や社会を分析する力が得られる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画													
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間										
			予習・復習			学修時間							
1	妙木 忍	ジェンダーとは何か	レジメを復習する。ジェンダーの概念が理解できたかどうかを点検する。			4 時間							
2	妙木 忍	家族とジェンダー	レジメを復習する。近代家族の概念などについて理解できたかどうかを点検する。			4 時間							
3	妙木 忍	労働とジェンダー	レジメを復習する。配布プリントの中から、労働環境に関するデータの一つ選んで詳しく検討する。			4 時間							
4	妙木 忍	法とジェンダー	レジメを復習する。関心のある法律と一つ選んで考察する。			4 時間							
5	妙木 忍	ユニバーサルデザインとジェンダー	レジメを復習する。身近な事例の一つ取り上げて考察する。第 6 回で取り上げる東大祝辞（2019 年）を読んでき（予習）。			4 時間							
6	妙木 忍	東大祝辞（2019 年、上野千鶴子さん）を読む	ポイントを復習する。授業中に検討した内容をまとめること。			4 時間							
7	妙木 忍	まとめ	これまでの学びをまとめる。			4 時間							
教 科 書		指定しない。レジメを配布する。											
参 考 書		授業中に適宜紹介する。											
備 考		特になし。											

科 目 名		政治学			担 当 者	王 元
科目ナンバリング		1030222037				常勤
D P		1,4			教員研究室	1324
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人間は社会的動物である。政治は人間の社会的利害を調整するしくみである。人々が生活する社会における秩序を形成し、維持し、修正し、また時には破壊することを通じて実行される活動と手段である。 政治学は古代ギリシアに誕生して以来、長い歴史を刻んできた。しかし、政治行動の判断基準や結論には必ずしも法則性があるとはいえない。むしろ、政治を担う人の個性やイデオロギー、感情、さらには偶然性に左右される側面もある。総合的に知識や手法も駆使して最善の政策決定を促すところに、政治学の目的や妙味がある。 政治学の基礎知識と発想方法を解説する。政治学の面白さと大切さを伝え、政治現象一般を把握する視点を身に付けてもらうことがこの講義のねらいである。講義形式を基本とする。ただし適宜ビデオ教材を利用する。 【学習の到達目標】 近代社会の特徴、主たる政治思想の歴史、自由主義と民主主義の思想などについて基本的な知識を習得することをめざす。併せて政治現象への洞察力を高め、政治判断の能力を培いたい。 【成績評価方法】 期末試験（60%）、課題提出や、発言・質問など（40%）。 【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、質問を受け付け、回答します。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語及び携帯電話の使用禁止。 受け身にならず、自ら探究心を持つことが重要だ。 政治問題への関心を抱き、まず新聞を読む習慣を身に付けてほしい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 政治現象を分析するための概念と手法を身につけ、各種の資格試験に必要な政治分野の基礎知識を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	王 元	ガイダンス	政治とは何か 政治学とは何			4 時間
2	王 元	国家統治と主権	主権概念の史的経緯 市民社会・国民国家の成立と政治的統合			4 時間
3	王 元	権力、集権と分権	政治集権と中央・地方の権力関係 地方自治の意義・過疎と過密			4 時間
4	王 元	政治参加	選挙の諸原則 代表制と選挙制度			4 時間
5	王 元	官僚制	政治と行政 官僚制の概念と官僚制化			4 時間
6	王 元	代表的な政治体制	議院内閣制、大統領制と党国体制 米国、英国、日本と中国などそれぞれの特徴			4 時間
7	王 元	国際政治	国際政治と国内政治 グローバルゼッション			4 時間
教 科 書		教科書は用いず、適宜プリントを配布する。				
参 考 書		堀江湛・岡沢憲夫編『現代政治学』（法学書院、2011）。				
備 考		日々の新聞を読み、国内と国際政治情勢の把握に努められたい。				

科 目 名	地球の科学			担 当 者	千葉 一
科目ナンバリング	1030222038				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人類は経済活動を優先するあまり、環境や気候変動の問題を放置して来た。しかしその人類の生態は、大きな転換を迫られている。本講義では、人間の活動が地球環境にどのような影響を与えているのかについて、特に地球温暖化を中心に解説して行く。また、そうした諸問題解決のための思考を深めて行く。				【課題等のフィードバック方法】 提出物やレポートの総括講評を、次の授業で行う。	
【学習の到達目標】 環境破壊や環境問題を正しく理解することで、人間の過剰性の認知と環境へのグローバルな倫理観を養う。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業進行に支障をきたす場合は退出してもらう。授業計画のトピックを参考に資料など情報収集しつつ、授業に臨む。復習を怠らない。	
【成績評価方法】 定期試験による評価と提出物（講義中）で総合評価とする。 評価比率：定期試験 70%・提出物 30%。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 人類の生命活動のみが大切なのではなく、この地球の営みの中で共に生きる生命活動があって、この地球が存在している。気象や地殻の諸現象や多種多様な生命の絡み合いを理解し、それぞれの存在価値を正しく認識することは、未来の健全な「地球コミュニティ」の在り方にとって必須と考える。	
				【実務家教員担当科目】 3.11 震災復興に関連した環境破壊やコミュニティ開発を研究しつつ、自然再生活動や社会開発を実践している教員が、地球規模の環境問題について、自然科学と人文科学の枠を超えて講義する。	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	千葉 一	授業の進め方を説明する。 人間という種の特異性と環境問題	自己の生活と環境問題の関連を再考する。次回学習内容を予習。	4 時間
2	千葉 一	カーボン・サイクルと石灰岩	炭酸カルシウム形成過程を理解する。次回学習内容を予習。	4 時間
3	千葉 一	化石燃料：炭素の固定と解放	その固定と解放の時間差を理解する。次回学習内容を予習。	4 時間
4	千葉 一	海洋酸性化と生態系サービス	酸性化メカニズムを理解する。次回学習内容を予習。	4 時間
5	千葉 一	森のネットワークと生物多様性	森林の社会性を理解する。次回学習内容を予習。	4 時間
6	千葉 一	砂漠化と多種共生	多自然主義を理解する。次回学習内容を予習。	4 時間
7	千葉 一	復習と要点・疑問点の整理	6 回の講義内容を理解・整理し、小論文的にまとめる。	4 時間
教 科 書		特になし。資料を適宜配布する。		
参 考 書		清水美香（編著）2023『レジリエンス－よみがえる力－森・風景・地域・人の交差の中で』、日本評論社。 原慶太郎ほか（編著）2021『自然と歴史を活かした震災復興－持続可能性とレジリエンスを高める景観再生』、東京大学出版会。		
備 考		国家試験等の関連で欠席する場合は、予め申し出ること。		

科 目 名		内科学			担 当 者	佐藤 秀隆
科目ナンバリング		1030322042				常勤
D P		1			教員研究室	1316
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 言語聴覚学の基礎には臨床医学の基盤としての内科学的知識が欠かせない。一般的な内科学について概説する。 【学習の到達目標】 内科学のなかで医療従事者として必要とされる一般的な知識を得ることを目標とする。 【成績評価方法】 80% 以上の出席をもって定期受験可とする。 課題を講義期間に 2 回課す。課題は一回につき 30 点、計 60 点、定期試験 40 点、総得点 100 点満点で 60 点以上を合格とする。 【課題等のフィードバック方法】 課題を課す 【履修上の注意・予習・復習について】 出席を Classroom でとるので必ず入力すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療従事者としてバックボーンをなる医学知識を得る 【実務家教員担当科目】 内科臨床に携わってきた内科の専門医が担当する。						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	佐藤 秀隆	心臓の解剖・生理、虚血性心疾患	教科書の心臓の解剖・生理の項目を読んでくる。弁の開閉と大動脈・肺動脈圧の変化、冠動脈について。 虚血性心疾患の復習をする。	4 時間
2	佐藤 秀隆	心臓弁膜症、心不全	心臓弁の解剖、乳頭筋について調べてくる。心不全について復習をする。 右心不全と左心不全。	4 時間
3	佐藤 秀隆	呼吸器の解剖・生理、呼吸不全	教科書の呼吸器の解剖・生理の項目を読んでくる。特に肺機能検査について予習してくる。呼吸不全の復習をする。	4 時間
4	佐藤 秀隆	呼吸器感染症、呼吸器腫瘍	教科書の肺炎、肺癌の項目を読んでくる。喫煙と関連の深い肺癌、慢性閉塞性肺疾患について調べておく。	4 時間
5	佐藤 秀隆	腎臓の解剖・生理、各種腎疾患	教科書の腎臓の解剖・生理の項目を読んでくる。血液浄化作用を行い生体の恒常性維持とエリスロポエチンなどの産生器官としての腎臓について調べておく。	4 時間
6	佐藤 秀隆	腎不全	教科書の腎不全の項目を読んでくる。急性腎障害と慢性腎疾患。	4 時間
7	佐藤 秀隆	糖尿病、高脂血症、メタボリック症候群	糖尿病、高脂血症の項目に目を通してくる。糖尿病の診断、合併症、治療、ならびにリポ蛋白質の分類など。	4 時間
教 科 書		なるほどなっとく！内科学改訂第3版（浅野嘉延編、南山堂）		
参 考 書		なし		
備 考		なし		

科 目 名		耳鼻咽喉科学		担 当 者	○香取 幸夫・本蔵 陽平 平野 愛	
科目ナンバリング		1030322044			非常勤	
D	P	1		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】						
【課題等のフィードバック方法】						
【学習の到達目標】						
【履修上の注意・予習・復習について】						
【成績評価方法】						
【受講して得られる効果・メリット、その他】						
【実務家教員担当科目】						
※開講時に指示します。						

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1					4 時間
2					4 時間
3					4 時間
4					4 時間
5					4 時間
6					4 時間
7					4 時間
8					4 時間
9					4 時間
10					4 時間
11					4 時間
12					4 時間
13					4 時間
14					4 時間
教 科 書					
参 考 書					
備 考					

科 目 名		臨床神経学		担 当 者	津田 丈秀	
科目ナンバリング		1030322045			常勤	
D P		1		教員研究室	3206	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☑双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 神経疾患患者の診療にあたって必要とする基本的な知識を身につける為に神経疾患の病因、病態、症候および検査との関連性を追求する。加えて治療への道筋を学習する。 尚、施行した講義に関し毎回小試験を施行する。		【課題等のフィードバック方法】 小試験問題に関し「振り返り・解説」を行い講義を進めていく。				
【学習の到達目標】 国家試験に合格することを当面の目標とする。また、言語聴覚士の仕事を行ううえで学習した知識が大いに役立つ内容を講義する。		【履修上の注意・予習・復習について】 ①ストリーム内講義資料は最小限の内容である。この資料については確実に理解する必要がある。 ②同講義資料は履修内容すべてではないので、理解のために教科書・参考書などによる予習・復習を各々最低 30 分程度を必須とする。特に予習は重要。				
【成績評価方法】 定期試験 60%（点）、小試験・レポート 40%（点）		【受講して得られる効果・メリット、その他】 夢が叶えられる。				
		【実務家教員担当科目】 言語聴覚				
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	津田 丈秀	脳の構造と脳血管の構造	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
2	津田 丈秀	12 対の脳神経の解剖と生理Ⅰ	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
3	津田 丈秀	12 対の脳神経の解剖と生理Ⅱ	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
4	津田 丈秀	脳梗塞	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
5	津田 丈秀	頭蓋内出血	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
6	津田 丈秀	神経接合部疾患（重症筋無力症を中心に）	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
7	津田 丈秀	多発性硬化症と視神経脊髄炎	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
8	津田 丈秀	パーキンソン病	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
9	津田 丈秀	筋ジストロフィーとミトコンドリア病	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
10	津田 丈秀	Duane 症候群、外傷	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
11	津田 丈秀	運動ニューロン疾患（ALS を中心に）	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
12	津田 丈秀	小脳の解剖と機能	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
13	津田 丈秀	脊髄小脳変性症	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
14	津田 丈秀	認知症	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
教 科 書		「病気がみえる Vol.7 脳・神経 第 2 版」監修：尾上尚志、他、メディックメディア 2020 年				
参 考 書		「臨床神経学・高次脳機能障害学」編集：岩田誠、鹿島晴雄 医学書院 2013 年				
備 考		e-mail：ttsuda@rehab.tbgu.ac.jp 丸暗記でなく、考え方を理解して学習して下さい。その方が、ずっと臨床に役立ちます。				

科 目 名	リハビリテーション医学			担 当 者	津田 丈秀
科目ナンバリング	1030322046				常勤
D P	1			教員研究室	3206
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本講の総論では、リハビリテーション医療の特性および疾病の診断と検査や評価ならびに治療の関係を学ぶ。各論では、リハビリテーション医療の主要な対象について、生活機能（心身機能・身体構造、活動、参加）と障害について学ぶ。 尚、施行した講義に関し毎回小試験を施行する。				【課題等のフィードバック方法】 小試験問題に関し「振り返り・解説」を行い講義を進めていく。	
【学習の到達目標】 医学的リハビリテーションの基本が理解できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ①ストーリー内講義資料は最小限の内容である。これについては確実に理解することが重要である。 ②同資料は履修内容のすべてではないので、理解のために教科書・参考書などによる予習・復習を各々最低 30 分程度を必須とする。特に予習は重要。	
【成績評価方法】 定期試験 60%（点）、小試験・レポート 40%（点）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 医学モデルに基づく疾病の診断治療に対し、生活機能モデルに基づく生物心理社会的アプローチであるリハビリテーション医療の特性について学習できる。	
				【実務家教員担当科目】 言語聴覚	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	津田 丈秀	リハビリテーション医学の概要	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
2	津田 丈秀	脳の構造と脳血管の構造	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
3	津田 丈秀	脳の MRI と CT 検査	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
4	津田 丈秀	失語、構音障害	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
5	津田 丈秀	失認、失行	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
6	津田 丈秀	①摂食嚥下のメカニズム。 ②嚥下障害の評価と治療	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
7	津田 丈秀	①予防医学 ②院内感染症	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間
教 科 書		「病気がみえる Vol.7 脳・神経 第 2 版」監修：尾上尚志、他、メディックメディア 2020 年			
参 考 書		「リハビリテーション医学 第 2 版」監修：米本恭三 医歯薬出版 2013 年 「標準リハビリテーション医学 第 3 版」監修：上田敏 医学書院 2013 年			
備 考		e-mail：ttsuda@rehab.tbgu.ac.jp 丸暗記でなく、考え方を理解して学習して下さい。その方が、ずっと臨床に役立ちます。			

科 目 名	精神医学			担 当 者	開講時指示
科目ナンバリング	1030322047				
D P	1			教員研究室	
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 【課題等のフィードバック方法】 【学習の到達目標】 【履修上の注意・予習・復習について】 【成績評価方法】 【受講して得られる効果・メリット、その他】 【実務家教員担当科目】 ※開講時に指示します。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1				4 時間	
2				4 時間	
3				4 時間	
4				4 時間	
5				4 時間	
6				4 時間	
7				4 時間	
8				4 時間	
9				4 時間	
10				4 時間	
11				4 時間	
12				4 時間	
13				4 時間	
14				4 時間	
教 科 書					
参 考 書					
備 考					

科 目 名	形成外科学			担 当 者	○今井 啓道・後藤 孝浩	
科目ナンバリング	1030322048				非常勤	
D P	1			教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし					
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 形成外科は、先天的あるいは後天的な体表の変形を手術的に形態ならびに機能を正常な状態に復して、精神的にも QOL を高め社会復帰することを目指している。そのための診断、治療アプローチについて講義する。				【課題等のフィードバック方法】 今井担当授業の終わりに小テストと解説を行いフィードバックします。		
【学習の到達目標】 形成外科の治療対象疾患、治療原理、リハビリテーションについて説明できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 資料を予め配布しますので目を通してきてください。授業スライドで呈示される患者のプライバシーについて守秘義務の遵守をお願いします。		
【成績評価方法】 定期試験 100 点で評価します。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 実際に臨床の第一線で活躍している形成外科医師より話を聞けます。		
				【実務家教員担当科目】 種別 1		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	後藤 孝浩	頭頸部がんの再建Ⅰ	配付資料を予め読む			4 時間
2	後藤 孝浩	頭頸部がんの再建Ⅱ	配付資料を予め読む			4 時間
3	後藤 孝浩	頭頸部がんの再建Ⅲ	配付資料を予め読む			4 時間
4	今井 啓道	唇顎口蓋裂Ⅰ ＜疾患概念と顔の発生学＞	配付資料を予め読む 小テストを復習する			4 時間
5	今井 啓道	唇顎口蓋裂Ⅱ ＜唇裂手術と口蓋裂手術＞	配付資料を予め読む 小テストを復習する			4 時間
6	今井 啓道	唇顎口蓋裂Ⅲ ＜学童期以降に行われる治療＞	配付資料を予め読む 小テストを復習する			4 時間
7	今井 啓道	口蓋裂以外の先天性・後天性の顔面の疾患	配付資料を予め読む 小テストを復習する			4 時間
教 科 書		「標準形成外科学 第 8 版」岡崎睦、森本尚樹（編）医学書院				
参 考 書		「口唇裂・口蓋裂治療の手引 第 3 版」昭和大学（著）金原出版				
備 考		参考書は興味のある方のみ購入してください。通常は購入しなくても結構です				

科 目 名		臨床口腔歯科医学			担 当 者	戸田 孝史
科目ナンバリング		1030322049				常勤
D P		1			教員研究室	1327
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 顎、顔面、口腔は構音機能（言語音の生成）と摂食機能にとり重要である。それらの器官の構造とはたらき、さらに、それら器官に生じる疾患とその診断・治療法に関して、理解を深めていく。 【学習の到達目標】 ・顎、顔面、口腔の構造とはたらきについて図を用いて説明できる。 ・口唇や口蓋に生じる先天性疾患の成り立ち、診断、治療法を、図を用いて説明できる。 ・顎、顔面、口腔に生じる炎症性疾患（う蝕、歯周病含む）と治療法について説明できる。 ・顎、顔面、口腔に生じる腫瘍の種類や診断・治療法について説明できる。 【成績評価方法】 ふだんの授業への取り組みと定期試験により評価する。詳細は授業時に説明する。						
【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートや小テストなどについて、授業時に解説する。 【履修上の注意・予習・復習について】 定期試験の受験資格は規定どおりとするが、皆勤を目標とすること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語聴覚士として必要な歯学の知識が得られると同時に、国家試験の歯科領域の準備ともなる。 【実務家教員担当科目】 該当せず						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	戸田 孝史	ガイダンス、歯科医療のあらまし	予習：不要			4 時間
2	戸田 孝史	口腔内と歯牙の解剖学と発生学	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：不要			4 時間
3	戸田 孝史	口唇、口蓋裂の成り立ちと治療法Ⅰ	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト			4 時間
4	戸田 孝史	口唇、口蓋裂の成り立ちと治療法Ⅱ	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト			4 時間
5	戸田 孝史	う蝕：う蝕の成り立ち、う蝕の進行度	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト			4 時間
6	戸田 孝史	う蝕と根尖性歯周炎	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト			4 時間
7	戸田 孝史	辺縁性歯周炎（歯周病）	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト			4 時間
8	戸田 孝史	う蝕と辺縁性歯周炎の予防と診断・治療法	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト			4 時間
9	戸田 孝史	唾液のはたらきと唾液腺の病態	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト			4 時間
10	戸田 孝史	口腔顔面でみられる、う蝕、歯周病以外の感染性疾患	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト			4 時間
11	戸田 孝史	顎、口腔領域の腫瘍Ⅰ	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト			4 時間
12	戸田 孝史	顎、口腔領域の腫瘍Ⅱ	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト			4 時間
13	戸田 孝史	咀嚼、嚥下機能の回復	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト			4 時間
14	戸田 孝史	構音機能の回復	予習：教科書の指定範囲（授業内指示） 復習：前回の課題シートと小テスト			4 時間
教 科 書		編集 道 健一編集 言語聴覚士のための臨床歯科医学 - 口腔外科学 医歯薬出版				
参 考 書		特になし				
備 考		特になし				

科 目 名		心理測定法		担 当 者	柴田 寛	
科目ナンバリング		1030322055			常勤	
D P		1		教員研究室	1413	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 「こころ」という、一見すると科学的に扱えないように思える対象についても、様々な測定方法が考案され科学的検証が可能になるように発展してきている。本講義ではいくつかの測定法を実際に体験しながら、心理学における主要な測定法の特徴を解説する。						
【学習の到達目標】 心理測定法の教科書の内容を正しく理解できるようになる。心理測定法の専門用語を正しく用いることができるようになる。						
【成績評価方法】 受講態度 10%、小テスト 10%、定期試験 80% ※大学既定の出席数を満たしていること ※毎回の確認テストとは別に小テストを行う						
【課題等のフィードバック方法】 毎回、授業で取り上げた事項についての確認テストを行う。間違いが多かった問題を中心に次の授業で解説を行う。						
【履修上の注意・予習・復習について】 予習：本講義では主に教科書の「第 3 章 心理学的測定法」の内容に沿って講義を進める。授業計画や授業の進行状況にもとづき、次の授業内容を事前に予習しておくことが望ましい。復習：確認テストで間違えた箇所を中心に講義内容について復習しておくこと。復習により理解の定着を図ること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家試験の範囲である心理測定法の領域に関する基礎知識が得られる。聴く、見るなどの感覚やイメージなどの「こころ」の働きを客観的に測定する方法を学べる。						
【実務家教員担当科目】 心理学領域の研究、臨床（心理検査）の実務経験を持つ教員が担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	柴田 寛	精神物理学的測定法：精神物理学的測定法とは？	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
2	柴田 寛	精神物理学的測定法：閾値、調整法	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
3	柴田 寛	精神物理学的測定法：極限法	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
4	柴田 寛	精神物理学的測定法：恒常法	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
5	柴田 寛	精神物理学的測定法：マグニチュード推定法（関連してウェーバー法則、フェイファー法則、スティープンスの法則を説明する）	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
6	柴田 寛	精神物理学的測定法：信号検出理論、測定と誤差：測定の水準（1）（関連して等ラウドネス曲線、メル尺度、ソン尺度を説明する）	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
7	柴田 寛	測定と誤差：測定の水準（2）	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して配布プリントをもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
8	柴田 寛	測定と誤差：測定の水準（3）、恒常誤差	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
9	柴田 寛	テスト理論：検査の種類	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
10	柴田 寛	テスト理論：検査の妥当性	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
11	柴田 寛	テスト理論：検査の信頼性	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
12	柴田 寛	尺度構成法	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
13	柴田 寛	小テスト	小テストの範囲は事前に提示するのでよく復習しておくこと		4 時間	
14	柴田 寛	調査法	予習：教科書を読んでおく 復習：ノートを見直して教科書をもう一度読んでおく、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間	
教 科 書		山田弘幸（編）『言語聴覚士のための心理学 第 2 版』医歯薬出版株式会社				
参 考 書		加藤司（著）『改訂版 心理学の研究法』北樹出版 難波精一郎・桑野園子（著）『音の評価のための心理学的測定法』コロナ社 市川伸一（編著）『心理測定法への招待』サイエンス社				
備 考		なし				

科 目 名		臨床心理学			担 当 者	柴田 寛
科目ナンバリング		1030322056				常勤
D P		1			教員研究室	1413
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 精神機能や認知機能などの心の働きは人により様々であるが、本講義ではパーソナリティの違いや異常心理など人々の多様な心の特徴や問題について概説する。さらに、臨床心理学的アセスメント、心理療法についても説明する。 【学習の到達目標】 臨床心理学の基礎的な内容を正しく理解できるようになる。臨床心理学の基本的な用語を正しく使うことができるようになる。 【成績評価方法】 受講態度 10%、定期試験 90% ※大学既定の出席数を満たしていること 【課題等のフィードバック方法】 毎回、授業で取り上げた事項についての確認テストを行う。間違いが多かった問題を中心に次の授業で解説を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義の進め方は初回授業で説明する。毎回、授業で取り上げた事項についての確認テストを行う。確認テストで間違えた箇所を中心に講義内容について復習しておくこと。復習により理解の定着を図ること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家試験の範囲である臨床心理学の領域に関する基礎知識が得られる。多様なパーソナリティや異常心理の特徴を把握して、心理アセスメントや心理療法の考え方を学ぶことは医療の場でも役立つはずである。 【実務家教員担当科目】 心理学領域の研究、臨床（心理検査）の実務経験を持つ教員が担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	柴田 寛	パーソナリティ (1)	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
2	柴田 寛	パーソナリティ (2)	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
3	柴田 寛	発達各期における心理臨床的問題、異常心理 (1)	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
4	柴田 寛	異常心理 (2)	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
5	柴田 寛	異常心理 (3)、心理アセスメント	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
6	柴田 寛	心理療法 (1)	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
7	柴田 寛	心理療法 (2)	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す			4 時間
教 科 書		なし				
参 考 書		山田弘幸（編）『言語聴覚士のための心理学 第 2 版』医歯薬出版株式会社				
備 考		視覚機能学専攻との合同講義				

科 目 名		リハビリテーション概論		担 当 者	○中村 哲也・藤原加奈江 高卓 輝・八嶽 央子 小泉 智枝・阿部 千佳	
科目ナンバリング		1030332061			常勤	
D	P	1		教員研究室	1427	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 専門職として必須のリハビリテーションの理念と原理について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 講義後にミニツッパーなどを用いて、理解の確認や疑問点に対するフィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 病院における言語聴覚士の役割や多職種連携の重要性について理解できる。言語障害の患者が社会参加に至るまでのリハビリテーションの過程を理解できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 テーマに関連した基本的な内容を事前に調べておくこと。また、指定教科書の範囲や言語聴覚学概論で学んだそれぞれの言語障害の概要を復習しておくこと。		
【成績評価方法】 レポート評価 100%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 「リハビリテーション」に関する専門用語がわかる。医学的リハビリテーションから社会参加までの支援の流れがわかる。		
				【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として病院勤務経験のある教員が、臨床現場での経験やチーム医療の実践例など、具体的なエピソードと併せて講義する。		

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	小泉 智枝	リハビリテーションの概念	教科書の該当部分を読んでおくこと	4 時間
2	八嶽 央子	チームアプローチ、在宅ケア	教科書の該当部分を読んでおくこと	4 時間
3	中村 哲也	他職種連携について（連携する医療職種について）	PT、OT、MSW、Nrs、管理栄養士、CP の職業内容について調べておくこと	4 時間
4	中村 哲也	他職種連携について（IPW で大切なこと）	グループワークを行うので、事前に職種間連携で大切だと思うことを考えておくこと	4 時間
5	阿部 千佳	音声障害のリハビリテーションの実際	ST 概論の音声障害のレジュメを復習しておくこと	4 時間
6	藤原加奈江	言語発達障害のリハビリテーションの実際	ST 概論の言語発達障害のレジュメを復習しておくこと	4 時間
7	高卓 輝	聴覚障害のリハビリテーションの実際	ST 概論の聴覚障害のレジュメを復習しておくこと	4 時間
教 科 書		「医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論」改訂第 4 版、田島文博 編著、永井書店、2021		
参 考 書		「言語聴覚士テキスト 第 3 版」大森孝一他、医歯薬出版、2018 「言語聴覚障害学概論 第 2 版」藤田郁代監修、医学書院、2019		
備 考		特になし		

科 目 名		医療福祉関係法規			担 当 者	森田慎二郎
科目ナンバリング		1030332062				常勤
D P		1			教 員 研 究 室	3305
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 言語聴覚士国家資格を目指す学生に必要な法学の基礎、言語聴覚士法、医療保険法、その他医療福祉関係法を講義する。 【学習の到達目標】 言語聴覚士国家試験の関連出題を解けるようになること。 【成績評価方法】 期末テスト 100% 【課題等のフィードバック方法】 授業のなかで随時行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 周りの学生の迷惑になるので私語厳禁。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家試験の過去問を解く習慣と学力が身につく。 【実務家教員担当科目】 該当しない。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	森田慎二郎	法学の基礎	配布資料、過去問を中心に復習する。			4 時間
2	森田慎二郎	資格法①	配布資料、過去問を中心に復習する。			4 時間
3	森田慎二郎	資格法②	配布資料、過去問を中心に復習する。			4 時間
4	森田慎二郎	社会保障全般、保健医療制度	配布資料、過去問を中心に復習する。			4 時間
5	森田慎二郎	介護保険、生活保護など	配布資料、過去問を中心に復習する。			4 時間
6	森田慎二郎	社会福祉援助技術、児童福祉	配布資料、過去問を中心に復習する。			4 時間
7	森田慎二郎	障害者法	配布資料、過去問を中心に復習する。			4 時間
教 科 書		使用しない。				
参 考 書		授業中に指示する。				
備 考		特になし				

科 目 名		言語聴覚障害診断学		担 当 者	○阿部 千佳・藤原加奈江 高卓 輝・中村 哲也 八鍬 央子・小泉 智枝	
科目ナンバリング		1030432064			常勤	
D	P	1,2		教員研究室	1441	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 言語聴覚障害児・者への適切な訓練・指導・援助を行う上で不可欠な評価や言語病理学的診断の流れを理解し、一連の過程に含まれるデータ収集（面接、観察、検査）と収集したデータの解釈、言語聴覚障害の同定、訓練目標の設定、訓練プログラム立案について概観する。 【学習の到達目標】 1. 診断および治療計画作成までの一般的な流れを理解できる。 2. 領域毎に評価法が異なることを理解し、各領域の典型的な検査法を説明できる。 3. 臨床家として必要な資質や態度について討議できる。 【成績評価方法】 定期試験 90%、毎回の提出物 10% 【課題等のフィードバック方法】 ・講義後半に質問時間を設け、討議や解説を行う。 ・講義内容によっては、グループディスカッションを行い発表内容について討議し解説する。 【履修上の注意・予習・復習について】 1) 授業予定箇所を予習して授業に臨むこと。 2) 復習として学習した要点をノートにまとめること。 3) 提出物は提出期限を守ること。 4) 携帯電話禁止、私語禁止。 5) 各障害領域の講義順は変更することがある。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・言語聴覚療法で重要な言語病理学的診断の手続きや考え方を修得できる。 ・言語聴覚士国家試験対象科目である。 【実務家教員担当科目】 各領域で臨床経験のある教員が具体的な事例を交えて講義を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習	学修時間		
1	阿部 千佳	イントロダクション 言語病理学的診断の基礎	予習：指定教科書の見出しを確認する 復習：指定教科書・レジメを参照し、ノートを整理すること	4 時間		
2	藤原加奈江	言語発達障害領域における評価・診断	予習：指定教科書の言語発達障害領域の見出しを確認する 復習：指定教科書・レジメを参照し、ノートを整理すること	4 時間		
3	小泉 智枝	失語症領域における評価・診断	予習：指定教科書の失語症領域の見出しを確認する 復習：指定教科書・レジメを参照し、ノートを整理すること	4 時間		
4	八鍬 央子	高次脳機能障害における評価・診断	予習：指定教科書の高次脳機能障害領域の見出しを確認する 復習：指定教科書・レジメを参照し、ノートを整理すること	4 時間		
5	中村 哲也	構音障害領域における評価・診断	予習：指定教科書の構音障害領域の見出しを確認する 復習：指定教科書・レジメを参照し、ノートを整理すること	4 時間		
6	阿部 千佳	音声障害領域における評価・診断	予習：指定教科書の音声障害領域の見出しを確認する 復習：指定教科書・レジメを参照し、ノートを整理すること	4 時間		
7	高卓 輝	聴覚障害領域における評価・診断	予習：指定教科書の成人・小児聴覚障害領域の見出しを確認する 復習：指定教科書・レジメを参照し、ノートを整理すること	4 時間		
教 科 書		言語聴覚士テキスト第 4 版，大森孝一・他編，医歯薬出版株式会社				
参 考 書		標準言語聴覚障害学「言語聴覚療法 評価・診断学」，藤田郁代監修，医学書院，2020				
備 考		質問は阿部まで				

科 目 名		失語症学Ⅰ		担 当 者	小泉 智枝	
科目ナンバリング		103044201			常勤	
D P		1,2		教員研究室	1426	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 まず失語症の定義、様々な言語症状、言語関連症状について学ぶ。そして他の言語障害との鑑別法の理解を促す。最終的には失語症臨床の過程の内、情報収集・観察、評価法を身につける。				【課題等のフィードバック方法】 小テストの解説を次回以降の講義で実施し、フィードバックする。講義終了後、質問を受けた項目について説明する。		
【学習の到達目標】 1. 失語症の定義および言語症状を説明できる。 2. 失語症の言語症状の障害機序について考えを述べるができる。 3. 失語症を生じる疾患について理解し、責任病巣の説明ができる。 4. 失語症の評価を行うための情報収集方法と観察の視点を理解し、説明できる。 5. 失語症のある人々とのコミュニケーション方法について説明できる。 6. 失語症の評価・診断の過程について説明できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 臨床場面では、常に根拠をもって推論し、深く考え、実践することが求められる。したがって、用語を覚えるだけの受身的な態度では、知識の実践は難しい。実際の臨床場面を想像しながら「どうしてそうなるのか」「どのようにすればいいのか」と能動的に考える態度で受講し、予習・復習することが望ましい。課題の提出締切は厳守してください。		
【成績評価方法】 課題（毎回の講義終了時に提出するミニツッペーパー）10%、小テスト10%、定期テスト80%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 失語症の臨床に携わるための基本的事項および臨床的態度を身につけることができる。言語聴覚士国家試験出題科目である。		
【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として失語症の臨床経験をもつ教員が、その経験を活かし、理論的背景と臨床場面での実用例および失語症臨床の在り方について講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	小泉 智枝	定義、聴理解・読解の言語情報処理過程と失語症状	失語症の定義、聴理解・読解の失語症状についてノートにまとめる。			4 時間
2	小泉 智枝	発話の言語情報処理過程と失語症状	失語症の発話症状についてまとめる。			4 時間
3	小泉 智枝	読み書きの言語情報処理過程と失語症状、計算過程、近縁症状	読み書きの失語症状、また失語症以外の言語面の近縁症状などについてまとめる。			4 時間
4	小泉 智枝	発語失行、流暢性、タイプ分類	国試験頻出個所である発語失行の症状、流暢性、タイプ分類についてまとめる。			4 時間
5	小泉 智枝	ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語	ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語の症状の特徴の違いに着目してまとめる。			4 時間
6	小泉 智枝	超皮質性運動失語、超皮質性感覚失語、健忘失語、全失語	前週の失語症タイプと同様に、症状の特徴の違いに着目してまとめる。			4 時間
7	小泉 智枝	皮質下性失語、交叉性失語、原発性進行性失語	それぞれの失語の特徴についてまとめる。			4 時間
8	小泉 智枝	純粹型	失語症以外の言語障害の特徴や病巣をまとめる。			4 時間
9	小泉 智枝	音声言語処理過程の認知神経心理学的モデル	音声言語処理の各段階でどのような処理がなされているのか、どの下位検査で検出するかをまとめる。			4 時間
10	小泉 智枝	文字言語処理過程の認知神経心理学的モデル	文字言語処理の各段階でどのような処理がなされているのか、どの下位検査で検出するかをまとめる。			4 時間
11	小泉 智枝	失語症の言語治療のプロセス	評価・診断の流れと言語検査についてまとめる。急性期・回復期・生活期の特徴についてまとめる。			4 時間
12	小泉 智枝	情報収集	言語・コミュニケーション面の情報収集についてまとめる。			4 時間
13	小泉 智枝	鑑別診断	失語症と関連障害の鑑別点のポイントをまとめる。			4 時間
14	小泉 智枝	失語症のある人々とのコミュニケーション方法	資料を参考にして、表出訓練の内容や手技についてまとめる。			4 時間
教 科 書		標準言語聴覚障害学「失語症学―第3版―」藤田郁代監修、医学書院、2021				
参 考 書		「臨床力 up! 動画と音声で学ぶ失語症の症状とアプローチ」森田明子・春原則子著、三輪書店、2017 「失語症臨床標準テキスト」種村純編、医歯薬出版株式会社、2019 「改訂 失語症の人と話そう 失語症の理解と豊かなコミュニケーションのために」NPO 法人言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会和音編				
備 考		なし。				

科 目 名		失語症学Ⅱ		担 当 者	小泉 智枝	
科目ナンバリング		1030442066			常勤	
D P		1,2		教員研究室	1426	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 失語症セラピーにおける理論と手技・支援内容について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 授業中・授業後の質問に対して適宜解説する。小テスト実施後、次週以降の講義で解説する。		
【学習の到達目標】 1. 各訓練法を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 2. 失語症セラピーの主要理論について述べるができる。 3. 各期の失語症セラピーの特徴と失語症のある人々の心理・社会的問題や社会復帰を理解し、アプローチの視点について説明できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 臨床場面では、常に根拠をもって推論し、深く考え、実践することが求められる。したがって、用語を覚えるだけの受身的な態度では、知識の実践は難しい。実際の臨床場面を想像しながら「どうしてそうなるのか」「どのようにすればいいのか」と能動的に考える態度で受講し、予習・復習することが望ましい。課題の提出締切は厳守してください。		
【成績評価方法】 課題（毎回の講義終了時に提出するミニットペーパー） 10%、小テスト 20%、定期テスト 70%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 失語症の臨床に携わるための基本的事項および臨床的態度を身につけることができる。言語聴覚士国家試験出題科目である。		
				【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として失語症の臨床経験をもつ教員が、その経験を活かし、理論的背景と臨床場面での実用例および失語症臨床の在り方について講義する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	小泉 智枝	オリエンテーション・失語症学Ⅰの復習	失語症学Ⅰの復習をノートにまとめる。		4 時間	
2	小泉 智枝	失語症の言語・コミュニケーション面の回復、失語症セラピーの基本原則	予後に関連する要因、失語症セラピーの基本原則についてまとめる。		4 時間	
3	小泉 智枝	セラピー理論（刺激法、遮断除去法、機能再編成法など）	セラピー理論についてノートにまとめ、それぞれの特徴を理解し、違いが述べられるようにする。		4 時間	
4	小泉 智枝	語彙訓練	語彙訓練についてノートにまとめる。		4 時間	
5	小泉 智枝	発語失行訓練	発語失行訓練についてノートにまとめる。		4 時間	
6	小泉 智枝	文字訓練	主に純粋型で行う文字訓練についてノートにまとめる。		4 時間	
7	小泉 智枝	統語理解障害と失文法	文の理解・産生過程と神経学的基盤、失文法と統語理解障害についてノートにまとめる。		4 時間	
8	小泉 智枝	構文訓練	構文訓練の手技についてノートにまとめる。		4 時間	
9	小泉 智枝	実用的コミュニケーション訓練	実用的コミュニケーション訓練についてノートにまとめる。		4 時間	
10	小泉 智枝	会話訓練、グループ訓練	会話訓練、グループ訓練の特色や注意点についてノートにまとめる。		4 時間	
11	小泉 智枝	急性期、生活期の評価・訓練・支援	急性期、生活期の評価・訓練・支援についてまとめる。		4 時間	
12	小泉 智枝	心理・社会的アプローチ、家族支援、社会復帰	失語症のある人々が抱える心理面の問題を中心にどのようなアプローチがあるかをノートにまとめる。		4 時間	
13	小泉 智枝	重度失語症訓練、軽度失語症訓練	重症度の違いによる訓練法の特色についてノートにまとめる。		4 時間	
14	小泉 智枝	小児失語	小児失語の特徴についてノートにまとめる。		4 時間	
教 科 書		①標準言語聴覚障害学「失語症学―第3版」藤田育代監修、医学書院、2021 ②「臨床力 up! 動画と音声で学ぶ失語症の症状とアプローチ」森田明子・春原則子著、三輪書店、2017				
参 考 書		「失語症臨床標準テキスト」種村純編、医歯薬出版株式会社、2019				
備 考		なし				

科 目 名		失語症学演習 I		担 当 者	小泉 智枝	
科目ナンバリング		1030442067			常勤	
D	P	2,3		教員研究室	1426	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 失語症の評価に関して、観察法、検査法、面接法を習得する。 【学習の到達目標】 1. 失語症の評価に必要な観察力を身につけ、症例の全体像を把握する。 2. 失語症のインテーク面接、包括的検査が実施できる。 3. 包括的検査結果の解釈ができる 4. 掘り下げ検査の選択ができる 5. 評価報告書を作成できる 【成績評価方法】 課題 50%、実技 20%、定期試験 30% 【課題等のフィードバック方法】 講義内・講義終了後に質問を適宜受け付け、解説を行う。課題、実技に対してフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 失語症のセラピーでは、正しく評価できてこそ訓練法を立案できる。失語症学Ⅰの内容と合わせて予習・復習を行うことが望ましい。課題提出の締切を厳守してください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 失語症の臨床に携わるための基本的事項および臨床的態度を身につけることができる。 言語聴覚士国家試験出題科目である。 【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として失語症の臨床経験をもつ教員が、その経験を活かし、基本的臨床能力および実務に必要な他の能力についても講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	小泉 智枝	インテーク面接、スクリーニングテスト	インテーク面接の内容、留意点、失語症をスクリーニングする項目についてまとめる。		1 時間	
2	小泉 智枝	包括的言語検査：WAB	資料をまとめる。		1 時間	
3	小泉 智枝	包括的言語検査：SLTA 総論・「聞く」	SLTA マニュアルを熟読し、段階評価を行う。		1 時間	
4	小泉 智枝	SLTA「話す」	SLTA マニュアルを熟読し、段階評価を行う。		1 時間	
5	小泉 智枝	SLTA「話す」	SLTA マニュアルを熟読し、段階評価を行う。		1 時間	
6	小泉 智枝	SLTA「読む」	SLTA マニュアルを熟読し、段階評価を行う。		1 時間	
7	小泉 智枝	SLTA「書く」	SLTA マニュアルを熟読し、段階評価を行う。		1 時間	
8	小泉 智枝	SLTA「書く」 プロフィール作成	SLTA マニュアルを熟読し、段階評価を行う。各種プロフィールの特徴を理解し、作成する。		1 時間	
9	小泉 智枝	言語機能面における問題点や保たれている箇所の抽出	資料をまとめ、症例の問題点・保たれている点の抽出を行う。		1 時間	
10	小泉 智枝	活動面・参加面における問題点や保たれている箇所の抽出	資料をまとめ、症例の問題点・保たれている点の抽出を行う。		1 時間	
11	小泉 智枝	評価報告書とは	資料をまとめ、報告書を作成する。		1 時間	
12	小泉 智枝	評価報告書作成	資料をまとめ、報告書を作成する。		1 時間	
13	小泉 智枝	掘り下げ検査（TLPA、SALA）	資料をまとめる。		1 時間	
14	小泉 智枝	掘り下げ検査（SLTA-ST、抽象語理解力検査）	資料をまとめる。		1 時間	
教 科 書		「臨床力 up! 動画と音声で学ぶ失語症の症状とアプローチ」森田明子・春原則子著、三輪書店、2017				
参 考 書		「なるほど！失語症の評価と治療 検査結果の解釈から訓練法の立案まで」小嶋知幸編、金原出版株式会社、2010 「失語症臨床標準テキスト」種村純編、医歯薬出版株式会社、2019				
備 考		なし				

科 目 名		失語症学演習Ⅱ		担 当 者	小泉 智枝	
科目ナンバリング		1030442068			常勤	
D P		2,3		教員研究室	1426	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク ☑プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 失語症セラピーに関して、観察、評価結果に基づいた訓練計画の立案を学ぶ。基本的な訓練についての、訓練手技とセラピー効果の測定について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 講義中、講義時間以外の質問に対して適宜解説する。必要に応じて Classroom を使用する。		
【学習の到達目標】 1. 問題点の抽出、障害特徴に応じた訓練目標および訓練プログラムについて根拠を提示して立案し、報告できる。 2. 基本的な訓練が実施できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 失語症のセラピーでは、正しく評価できてこそ訓練計画を立案できる。したがって、評価に関する復習を適宜行うことを求む。また疑問点を解消できるよう積極的に質問することが望ましい。各課題の規定を厳守することが重要である。		
【成績評価方法】 受講態度 10%、課題 50%、実技 40%。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 失語症の臨床に携わるための基本的事項および臨床的態度を身につけることができる。言語聴覚士国家試験出題科目である。		
				【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として失語症の臨床経験を持つ教員が、その経験を活かし、基本的臨床能力及び実務に実用な他の能力についても講義する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	小泉 智枝	オリエンテーション・失語症学演習Ⅰの復習	失語症学演習Ⅰの復習			1 時間
2	小泉 智枝	掘り下げ検査：語音弁別検査 モーラ抽出・分解検査	評価法の概要についてノートにまとめる。			1 時間
3	小泉 智枝	掘り下げ検査：トークンテスト 重度失語症検査	評価法の概要についてノートにまとめる。			1 時間
4	小泉 智枝	語彙訓練	訓練の概要についてノートにまとめる。評価法と訓練法についてノートにまとめる。			1 時間
5	小泉 智枝	発語失行訓練	訓練の概要についてノートにまとめる。			1 時間
6	小泉 智枝	文字訓練	訓練の概要についてノートにまとめる。			1 時間
7	小泉 智枝	掘り下げ検査：失語症構文検査	資料や検査マニュアルを参照し、評価法についてノートにまとめる。			1 時間
8	小泉 智枝	症例検討 構文訓練	失語症構文検査の結果の解釈と構文の理解レベル・表出レベルに合わせた訓練法についてまとめる。			1 時間
9	小泉 智枝	掘り下げ検査：CADL 訓練：PACE	評価法、訓練の概要についてノートにまとめる。			1 時間
10	小泉 智枝	会話訓練 グループ訓練	訓練の概要についてノートにまとめる。			1 時間
11	小泉 智枝	症例検討	SLTA 段階評価を復習する。			1 時間
12	小泉 智枝	報告書作成（ICF の枠組みを用いた 問題点や保たれている箇所の抽出）	情報収集を行い、評価結果などから問題点や保たれている箇所を抽出する。			1 時間
13	小泉 智枝	報告書作成（訓練計画立案まで）	問題点に沿って、訓練計画を立案し、報告書にまとめる。			1 時間
14	小泉 智枝	症例の訓練計画プレゼンテーション	プレゼンテーション後の質疑応答に備え、予習する。			1 時間
教 科 書		① 標準言語聴覚障害学「失語症学―第3 版」藤田有代監修、医学書院、2021 ② 「臨床力 up! 動画と音声で学ぶ失語症の症状とアプローチ」森田明子・春原則子著、三輪書店、2017				
参 考 書		「なるほど！失語症の評価と治療」小嶋知幸編著、金原出版、2010 「失語症臨床標準テキスト」種村純編、医歯薬出版株式会社、2019				
備 考		なし				

科 目 名		高次脳機能障害学Ⅰ			担 当 者	八 嶽 央子	
科目ナンバリング		1030442069				常勤	
D P		1,2			教員研究室		1423
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次		2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート □グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 脳の損傷によって生じる各高次脳機能障害の発症メカニズムや症状、評価・診断、リハビリテーションについて学ぶ。基本概念を理解した後、視覚・聴覚・触覚の認知障害や視空間障害、行為・動作の障害などについて学修する。 【学習の到達目標】 各高次脳機能障害の発症メカニズム、症状、評価・診断、リハビリテーションについて説明できる。 【成績評価方法】 受講態度 10%、小テスト（6 回施行予定）30%、期末試験 60% で評価する。 【課題等のフィードバック方法】 ・講義内容に関する質問は随時受け付ける。 ・小テストは施行した次の回の講義の中で、答え合わせと解説を行う。 ・毎回の講義後にミニツペーパーの提出を求め、内容に応じてコメントを返す。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・講義を欠席する場合は、予め担当教員にメールで連絡すること。 ・講義は主にスライドを使用して進めるが、随時教科書を参照するため、指定の教科書は毎回持参すること。 ・予習（教科書の該当箇所を読む）をして講義に臨むこと。 ・必ず復習を行い、講義で扱った内容の確実な理解に努めること。 ・本講義は、高次脳機能障害学演習Ⅰと並行して開講する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨床で出会う高次脳機能障害の当事者に対し、その症状を理解し、評価・診断を行い、リハビリテーションを提供する基礎を身につけることができる。 【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として病院に勤務した長年の臨床経験を持つ教員が、臨床現場での実践的な視点を加えながら、言語聴覚士が中心的な役割を求められることが多い高次脳機能障害のリハビリテーション全般について講義する。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	八 嶽 央子	総論（基本概念、高次脳機能障害のリハビリテーションなど）	予習：教科書第 1 章を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。 小テストに向けて勉強する。				4 時間
2	八 嶽 央子	視覚認知の障害	予習：教科書第 2 章を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。 小テストに向けて勉強する。				4 時間
3	八 嶽 央子	視空間障害	予習：教科書第 3 章を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。 小テストに向けて勉強する。				4 時間
4	八 嶽 央子	聴覚認知の障害、触覚認知の障害、身体意識・病態認知の障害	予習：教科書第 4 章・第 5 章・第 6 章を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。 小テストに向けて勉強する。				4 時間
5	八 嶽 央子	行為・動作の障害	予習：教科書第 7 章を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。				4 時間
6	八 嶽 央子	行為・動作の障害	予習：教科書第 7 章を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。 小テストに向けて勉強する。				4 時間
7	八 嶽 央子	脳梁離断症状	予習：教科書第 10 章を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。 小テストに向けて勉強する。				4 時間
教 科 書		藤田郁代（シリーズ監修）、阿部晶子・吉村貴子（編集）：標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第 3 版、医学書院、2021.					
参 考 書		・医療情報科学研究所（編集）：病気がみえる vol.7 第 2 版、メディックメディア、2017. ・石合純夫：高次脳機能障害学 第 3 版、医歯薬出版株式会社、2022.					
備 考		特になし					

科 目 名	高次脳機能障害学Ⅱ			担 当 者	八 嶺 央子
科目ナンバリング	1030442070				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	1423
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 高次脳機能障害学Ⅰに引き続き、脳の損傷によって生じる各高次脳機能障害の発症メカニズムや症状、評価・診断、リハビリテーションについて学ぶ。記憶障害、前頭葉症状、認知症、脳外傷による高次脳機能障害について学修する。				【課題等のフィードバック方法】 ・講義内容に関する質問は随時受け付ける。 ・小テストは施行した次の回の講義の中で、答え合わせと解説を行う。 ・毎回講義後にミニツッパーパーの提出を求め、その内容に応じて必要時はコメントを返す。	
【学習の到達目標】 各高次脳機能障害の発症メカニズム、症状、評価・診断、リハビリテーションについて説明できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・講義を欠席する時は担当教員にメールで連絡すること。 ・講義は主にスライドを使用して進めるが、随時教科書を参照するため、指定の教科書は毎回持参すること。 ・必ず復習を行い、講義で扱った内容の確実な理解に努めること。 ・本講義は、高次脳機能障害学演習Ⅱと並行して開講する。	
【成績評価方法】 受講態度 10%、小テスト（4 回施行予定）30%、期末試験 60% で評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨床で出会う高次脳機能障害の当事者に対し、その症状を理解し、評価・診断を行い、リハビリテーションを提供する基礎を身につけることができる。	
				【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として病院に勤務した長年の臨床経験を持つ教員が、臨床現場での実践的な視点を加えながら、言語聴覚士が中心的な役割を求められることが多い高次脳機能障害のリハビリテーション全般について講義する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	八 嶺 央子	記憶の障害	予習：教科書第 8 章を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。		4 時間
2	八 嶺 央子	記憶の障害	予習：教科書第 8 章を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。 小テストに向けて勉強する。		4 時間
3	八 嶺 央子	前頭葉症状	予習：教科書第 9 章を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。		4 時間
4	八 嶺 央子	前頭葉症状	予習：教科書第 9 章を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。 小テストに向けて勉強する。		4 時間
5	八 嶺 央子	認知症	予習：教科書第 11 章と第 13 章の該当箇所を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。		4 時間
6	八 嶺 央子	認知症	予習：教科書第 11 章と第 13 章の該当箇所を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。 小テストに向けて勉強する。		4 時間
7	八 嶺 央子	脳外傷による高次脳機能障害	予習：教科書第 12 章と第 13 章の該当箇所を読む。 復習：教科書を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。 小テストに向けて勉強する。		4 時間
教 科 書		阿部晶子・吉村貴子（編集）：標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学第 3 版，医学書院，2021.			
参 考 書		・医療情報科学研究所（編集）：病気がみえる vol.7 脳・神経 第 2 版，メディックメディア，2017. ・平山和美：高次脳機能障害の理解と診察，中外医学社，2017. ・石合純夫：高次脳機能障害学 第 3 版，医歯薬出版株式会社，2022.			
備 考		なし			

科 目 名		高次脳機能障害学演習 I		担 当 者	八 鋤 央子
科目ナンバリング		1030442071			常勤
D P		2,3		教員研究室	1423
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			2 年次・後期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		必修 1 単位			
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 脳の損傷によって生じる各高次脳機能障害を、どのように正しく評価・診断してリハビリテーションにつなげるかを学ぶ。実技演習を通して、各検査の施行法や結果の採点・分析の方法について学修する。 【学習の到達目標】 各高次脳機能障害の検査を施行し、採点し、結果分析を行うことができる。 【成績評価方法】 受講態度 10%、神経心理学的検査に関する課題 30%、実技試験 60% で評価する。 【課題等のフィードバック方法】 ・質問は随時受け付ける。 ・提出を求めた課題は教員が採点して返却し、次の回の講義の中で、答え合わせと解説を行う。 ・毎回の講義後にミニッツペーパーの提出を求め、内容に応じて必要時はコメントを返す。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・講義を欠席する場合は、予め担当教員にメールで連絡すること。 ・高次脳機能障害学Ⅰの配布資料を毎回持参すること。 ・検査の施行練習はひとりで有効に行うのは難しいため、講義中のグループワークで積極的に行うこと。 ・本講義は、高次脳機能障害学Ⅰと並行して開講する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨床で出会う高次脳機能障害の当事者に対し、有効なりハビリテーションにつなげるための正しい検査の選択・施行・採点・結果分析の方法を身につけることができる。 【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として病院に勤務した長年の臨床経験を持つ教員が、その経験を活かし、各高次脳機能障害の検査施行の基礎のみならず、臨床で臨機応変に対応できる実践的なスキルについても指導を行う。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	八 鋤 央子	インテークとスクリーニング検査	予習：特になし。 復習：配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。		1 時間
2	八 鋤 央子	意識障害の評価 スクリーニング検査	予習：特になし。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。課題（宿題）に取り組む。		1 時間
3	八 鋤 央子	知的機能の検査	予習：特になし。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。		1 時間
4	八 鋤 央子	知的機能の検査	予習：特になし。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。		1 時間
5	八 鋤 央子	知的機能の検査	予習：特になし。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。課題（宿題）に取り組む。		1 時間
6	八 鋤 央子	視覚認知の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅰで学んだ「視覚認知の障害」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。		1 時間
7	八 鋤 央子	視覚認知の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅰで学んだ「視覚認知の障害」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。課題（宿題）に取り組む。		1 時間
8	八 鋤 央子	視空間障害	予習：特になし。 復習：教科書①を参照しながら配布資料を見直し、講義内容を確実に理解する。		1 時間
9	八 鋤 央子	視空間障害の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅰで学んだ「視空間障害」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。		1 時間
10	八 鋤 央子	視空間障害の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅰで学んだ「視空間障害」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。課題（宿題）に取り組む。		1 時間
11	八 鋤 央子	行為・動作の障害の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅰで学んだ「行為・動作の障害」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。		1 時間
12	八 鋤 央子	行為・動作の障害の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅰで学んだ「行為・動作の障害」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。		1 時間
13	八 鋤 央子	実技試験（HDS-R・MMSE-J）	予習：実技試験に向けて検査施行の練習を行う。 復習：スムーズに施行できなかった箇所について確認し、正しい手順を理解する。		1 時間
14	八 鋤 央子	実技試験（HDS-R・MMSE-J）	予習：実技試験に向けて検査施行の練習を行う。 復習：スムーズに施行できなかった箇所について確認し、正しい手順を理解する。		1 時間
教 科 書		①藤田郁代（シリーズ監修）、阿部晶子・吉村貴子（編集）：標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版、医学書院、2021。 ②緑川晶・山口加代子ら（編集）：公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学【神経・生心理心理学】第2版、歯葉出版株式会社、2024。			
参 考 書		なし			
備 考		なし			

科 目 名		高次脳機能障害学演習Ⅱ		担 当 者	八 嶺 央子	
科目ナンバリング		1030442072			常勤	
D	P	2,3		教 員 研 究 室	1423	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 脳の損傷によって生じる各高次脳機能障害を、どのように正しく評価・診断してリハビリテーションにつなげるかを学ぶ。実技演習を通して、各検査の施行法や結果の採点・分析の方法について学修する。 【学習の到達目標】 各高次脳機能障害の検査を施行し、採点し、結果分析を行うことができる。 【成績評価方法】 受講態度 10%、神経心理学的検査に関する課題 30%、期末試験 60% で評価する。 【課題等のフィードバック方法】 ・質問は随時受け付ける。 ・提出を求めた課題は教員が採点して返却し、次の回の講義の中で、答え合わせと解説を行う。 ・毎回講義後にミニツッペーパーの提出を求め、内容に応じて必要時はコメントを返す。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・講義を欠席する場合は、予め担当教員にメールで連絡をすること。 ・高次脳機能障害学Ⅱの配布資料を毎回持参すること。 ・検査の施行練習はひとりで有効に行うのは難しいため、講義中のグループワークで積極的に行うこと。 ・本講義は、高次脳機能障害学Ⅱと並行して開講する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨床で出会う高次脳機能障害の当事者に対し、有効なりハビリテーションにつなげるための正しい検査の選択・施行・採点・結果分析の方法を身につけることができる。 【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として病院に勤務した長年の臨床経験を持つ教員が、その経験を活かし、各高次脳機能障害の検査施行の基礎のみならず、臨床で臨機応変に対応できる実践的なスキルについても指導を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習	学修時間		
1	八 嶺 央子	記憶障害の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅱで学んだ「記憶障害」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。	1 時間		
2	八 嶺 央子	記憶障害の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅱで学んだ「記憶障害」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。課題（宿題）に取り組む。	1 時間		
3	八 嶺 央子	記憶障害の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅱで学んだ「記憶障害」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。	1 時間		
4	八 嶺 央子	記憶障害の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅱで学んだ「記憶障害」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。課題（宿題）に取り組む。	1 時間		
5	八 嶺 央子	前頭葉症状の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅱで学んだ「前頭葉症状」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。	1 時間		
6	八 嶺 央子	前頭葉症状の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅱで学んだ「前頭葉症状」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。課題（宿題）に取り組む。	1 時間		
7	八 嶺 央子	前頭葉症状の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅱで学んだ「前頭葉症状」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。	1 時間		
8	八 嶺 央子	前頭葉症状の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅱで学んだ「前頭葉症状」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。課題（宿題）に取り組む。	1 時間		
9	八 嶺 央子	前頭葉症状の検査	予習：高次脳機能障害学Ⅱで学んだ「前頭葉症状」について見直す。 復習：配布された資料と記録用紙を見直し、学んだ検査について理解する。	1 時間		
10	八 嶺 央子	問題演習	予習：特になし。 復習：わからなかった問題について調べて理解する。課題（宿題）に取り組む。	1 時間		
11	八 嶺 央子	報告書の書き方	予習：特になし。 復習：配布された資料を見直し、報告書の書き方について理解する。	1 時間		
12	八 嶺 央子	報告書の書き方	予習：特になし。 復習：配布された資料を見直し、報告書の書き方について理解する。課題（宿題）に取り組む。	1 時間		
13	八 嶺 央子	問題演習	予習：特になし。 復習：わからなかった問題について調べて理解する。	1 時間		
14	八 嶺 央子	期末試験	予習：これまでに学んだ各神経心理学的検査の目的や対象者などについて知識を整理する。 復習：わからなかった箇所について調べて理解する。	1 時間		
教 科 書		①藤田郁代（シリーズ監修）、阿部晶子・吉村貴子（編集）：標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版、医学書院、2021。 ②緑川晶・山口加代子ら（編集）：公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学【神経・生理心理学】第2版、医歯薬出版株式会社、2024。				
参 考 書		特になし				
備 考		特になし				

科 目 名		言語発達障害学Ⅰ		担 当 者	○藤原加奈江・大伴 潔 柴 玲子
科目ナンバリング		1030442073			常勤・非常勤
D	P	1,2		教員研究室	1428
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 発達障害の障害特徴に基づき鑑別診断のポイントを理解する。言語発達障害の臨床の流れを概観し、生育歴、発達歴、既往歴、家族歴及び環境調査などの間接的情報収集と行動観察及び検査（発達検査、知能検査、言語及びコミュニケーション検査、その他の高次脳機能検査等）など直接的情報収集の方法を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 プレゼンテーション及び小テストの解答解説を通しフィードバックを行う。	
【学習の到達目標】 1. 鑑別診断のポイントを理解する。 2. インテーク面接、発達検査、知能検査、その他の高次脳機能検査、言語検査、コミュニケーション・サンプルなどの目的、構成、適応範囲を理解できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 指定された予習復習を確実に行う。	
【成績評価方法】 ディスカッション 10%、小テスト・レポート提出 20%、定期試験 70%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語発達障害の評価方法が理解できる。	
【実務家教員担当科目】 それぞれの言語発達障害領域の臨床を専門とする教員が事例を挙げて具体的に講義する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	藤原加奈江	言語発達障害の定義とその要因、定型児の言語発達	予習：言語発達障害学の第 1 章を読む。復習：言語を含めた発達を表にまとめる。		4 時間
2	藤原加奈江	インテーク面接	予習：言語発達障害学の 54—58p を読む。復習：インテーク面接用紙の発達基準値を覚える。		4 時間
3	藤原加奈江	発達検査：遠城寺、新版 K 式、津守式	予習：言語発達障害学の 59-62p を読む。復習：各発達検査の適応年齢、下位検査、結果の様式を表にまとめる。		4 時間
4	藤原加奈江	知能検査：田中ビネ、DAM	予習：言語発達障害学の 62-64p を読む。復習：各検査の適応年齢、下位検査、結果の様式を表にまとめる。		4 時間
5	藤原加奈江	知能査：WISC-Ⅳ	復習：WISC-Ⅳの下位検査を表にまとめる。		4 時間
6	大伴 潔	言語査：LC スケール	予習：言語発達障害学の 64-66p を読む。 復習：検査の適応年齢、下位検査、結果の様式を表にまとめる。		4 時間
7	大伴 潔	言語査：LCSA	予習：言語発達障害学の 64-66p を読む。 復習：検査施行のポイントを理解する。		4 時間
8	柴 玲子	言語検査：S-S 法	予習：言語発達障害学の 64-66p を読む。 復習：検査の適応年齢、下位検査、結果の様式を表にまとめる。		4 時間
9	藤原加奈江	言語検査：質問応答関係検査	復習：検査の適応年齢、下位検査、結果の様式を表にまとめる。		4 時間
10	藤原加奈江	言 語 検 査：絵 画 語 い 検 査、ITPA	予習：絵画語い検査のマニュアルを読む。復習：検査の適応年齢、下位検査、結果の様式を表にまとめる。		4 時間
11	柴 玲子	高次脳機能検査：K-ABCⅡ	復習：検査の適応年齢、下位検査、結果の様式を表にまとめる。		4 時間
12	藤原加奈江	高次脳機能検査：DN-CAS、その他	復習：検査の適応年齢、下位検査、結果の様式を表にまとめる。		4 時間
13	藤原加奈江	総合評価：事例検討①	予習：今までの検査の解釈のポイントを読んでくる。復習：複数の検査結果から評価のまとめができるようにする。		4 時間
14	藤原加奈江	総合評価：事例検討②	予習：今までの検査の解釈のポイントを読んでくる。復習：複数の検査結果から評価のまとめができるようにする。		4 時間
教 科 書		言語発達障害学 第 3 版 医学書院			
参 考 書		言語聴覚士のための事例で学ぶことばの発達障害 大石敬子編 医歯薬出版			
備 考		質問等は藤原加奈江まで			

科 目 名		言語発達障害学Ⅱ		担 当 者	○藤原加奈江・大伴 潔 柴 玲子・石坂 郁代
科目ナンバリング		1030442074			常勤
D	P	1,2		教員研究室	1428
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 特異的言語発達障害、広汎性発達障害、知的障害、脳性まひ、学習障害などの定義と障害特徴を学ぶ。発達障害の特徴および各々の言語障害の特徴とその発現メカニズムを理解する。言語・コミュニケーション障害の事例を通し、言語のみならず、運動・感覚、情動、認知、実行機能、社会性などその全体像を評価し、適した訓練法を立案する道筋を学ぶ。 【学習の到達目標】 1. 各言語・コミュニケーション障害の定義と特徴を理解できる。 2. 障害の発現のメカニズムを理解できる。 3. 事例を通し、総合的に評価し、訓練する手順を理解する。 【成績評価方法】 受講態度 10%、小テスト 20%、定期試験 70%					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	藤原加奈江	発達障害と言語コミュニケーション障害	予習：最新言語聴覚学講座第2章、標準言語聴覚障害学 34～37p を授業に先立ち読む。復習：授業で出てきた発達障害の定義をノートにまとめる。		4 時間
2	藤原加奈江	前言語期・語彙獲得期の言語コミュニケーションの発達と言語訓練	予習：最新言語聴覚学 1-10p を授業に先立ち読む。復習：言語の発達表に習ったことをまとめる。		4 時間
3	藤原加奈江	語連鎖・文法の言語コミュニケーションの発達と言語訓練	予習：最新言語聴覚学 11-24p を授業に先立ち読む。復習：言語の発達表に習ったことをまとめる。		4 時間
4	藤原加奈江	読み書きの発達と言語訓練	予習：最新言語聴覚学 25-26p 標準言語聴覚障害学 26-31p を授業に先立ち読む。復習：言語の発達表に習ったことをまとめる。		4 時間
5	大伴 潔	知的障害	予習：最新言語聴覚学 146-154p 標準言語聴覚障害学 141-167p を授業に先立ち読む。復習：定義、発症頻度、原因疾患、評価法、支援法等を表にまとめる。		4 時間
6	大伴 潔	知的障害	予習：最新言語聴覚学 146-154p 標準言語聴覚障害学 141-167p を授業に先立ち読む。復習：定義、発症頻度、原因疾患、評価法、支援法等を表にまとめる。		4 時間
7	柴 玲子	特異的言語発達障害	予習：最新言語聴覚学 120-127p 標準言語聴覚障害学 101-116p を授業に先立ち読む。復習：定義、発症頻度、評価と支援法を表にまとめる。		4 時間
8	藤原加奈江	自閉症スペクトラム	予習：最新言語聴覚学 154-175p を授業に先立ち読む。復習：定義、発症頻度、評価と支援法を表にまとめる。		4 時間
9	藤原加奈江	自閉症スペクトラム	予習：標準言語聴覚障害学 171-193p を授業に先立ち読む。復習：定義、発症頻度評価と支援法を表にまとめる。		4 時間
10	藤原加奈江	注意欠陥／多動性障害	予習：最新言語聴覚学 176-190p を授業に先立ち読む。復習：定義、発症頻度、家族集積性、原因疾患、理論等を表にまとめる。		4 時間
11	柴 玲子	学習障害	予習：最新言語聴覚学 128-141p 標準言語聴覚障害学 118-141p を授業に先立ち読む。復習：定義、発症頻度、家族集積性、原因疾患、理論等を表にまとめる。		4 時間
12	藤原加奈江	発達障害の支援システム	予習：標準言語聴覚障害学 236-263p を授業に先立ち読む。復習：法規の重要な部分を表にまとめる。		4 時間
13	石坂 郁代	脳性まひ	予習：最新言語聴覚学 183-190p を授業に先立ち読む。復習：定義、発症頻度、家族集積性、原因疾患、理論等を表にまとめる。		4 時間
14	石坂 郁代	脳性まひ	予習：標準言語聴覚障害学 203-213p を授業に先立ち読む。復習：定義、発症頻度、家族集積性、原因疾患、理論等を表にまとめる。		4 時間
教 科 書		最新言語聴覚学講座 言語発達障害学 石坂郁代、水戸陽子編著 医歯薬出版 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版 深浦順一他編 医歯薬出版			
参 考 書		分散脳：わたなべみほ他（診断と治療社）			
備 考		質問等は藤原加奈江まで			

科 目 名		言語発達障害学演習 I		担 当 者	○藤原加奈江・柴 玲子	
科目ナンバリング		1030442075			常勤	
D P		2,3		教員研究室	1428	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生育歴、発達歴、既往歴、家族歴、環境調査等の情報収集方法、発達検査、知能検査、言語及びコミュニケーション能力の検査、その他の高次脳機能検査に精通するための演習を行う。また、事例検討を通し検査の解釈を学ぶ。 【学習の到達目標】 1. インテーク面接、鑑別診断、掘り下げ検査を正確に実施できる。 2. 検査結果を正確に解釈できる。 【成績評価方法】 受講態度 10%、レポート 20%、小テスト 70% 【課題等のフィードバック方法】 プレゼンテーション、小テストおよびレポートの解答解説を通して行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 予習：教科書の授業予定箇所を読んで授業に臨む。復習：学んだ検査のマニュアルを読み、検査方法を各自復習しておく。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語発達障害臨床に必要な評価スキルが習得できる。 【実務家教員担当科目】 各言語発達障害領域の臨床を専門とする教員が自験例を交えて講義を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	藤原加奈江	コミュニケーションサンプの分析	予習：発達歴の標準値とコミュニケーション分析を確認。復習：コミュニケーション分析ができるよう確認。			1 時間
2	藤原加奈江	インテーク面接演習	復習：インテーク面接の報告書が書けるようにする。			1 時間
3	藤原加奈江	発達検査：遠城寺式乳幼児分析的発達検査法	予習：各検査の適応年齢、評価領域、結果の様式を確認。復習：結果の出し方及び解釈ができるようにする。			1 時間
4	藤原加奈江	発達検査：新版 K 式発達検査	予習：各検査の適応年齢、評価領域、結果の様式、下位検査の種類を確認。復習：結果の出し方及び解釈ができるようにする。			1 時間
5	藤原加奈江	知能検査：田中ビネー知能検査	予習：検査の適応年齢、結果の様。復習：田中ビネーの知能指数の出し方を確認する。			1 時間
6	藤原加奈江	知能検査：WISC- IV	予習：検査の適応年齢、評価領域、結果の様式、下位検査の種類を確認。復習：結果の出し方及び解釈法を確認する。			1 時間
7	藤原加奈江	言語検査：ITPA	予習：検査の適応年齢、評価領域、結果の様式を確認。復習：結果の出し方及び解釈ができるようにする。			1 時間
8	柴 玲子	言語検査：S-S 法	予習：検査の適応年齢、結果の様式、下位検査の種類を確認。復習：結果の出し方及び解釈ができるようにする。			1 時間
9	藤原加奈江	言語検査：質問応答関係検査	予習：検査の適応年齢、結果の様式、下位検査の種類を確認。復習：結果の出し方及び解釈ができるようにする。			1 時間
10	藤原加奈江	言語検査：絵画語い検査	予習：各検査の適応年齢、結果の様式、下位検査の種類を確認。復習：			1 時間
11	柴 玲子	高次脳機能検査：K-ABC II	予習：検査の適応年齢、結果の様式、下位検査の種類を確認。復習：結果から報告書が書けるようにする。			1 時間
12	藤原加奈江	高次脳機能検査：DN-CAS	予習：検査の適応年齢、対象領域、結果の様式、下位検査の種類を確認。復習：結果の出し方及び解釈ができるようにする。			1 時間
13	藤原加奈江	総合評価	予習：各検査の結果の出し方と解釈を確認。復習：総合的な評価の仕方のポイントをまとめる。			1 時間
14	藤原加奈江	総合評価	予習：各検査の結果の出し方と解釈を確認。復習：総合的な評価の仕方のポイントをまとめる。			1 時間
教 科 書		最新言語聴覚学講座 言語発達障害学 石坂郁代・水戸陽子編著 医歯薬出版				
参 考 書		言語聴覚士のための事例で学ぶことばの発達障害：大石敬子、田中裕美子編著（医歯薬出版）				
備 考		質問は藤原まで。				

科 目 名		言語発達障害学演習Ⅱ		担 当 者	○藤原加奈江・柴 玲子	
科目ナンバリング		1030442076			常勤	
D P		2,3		教員研究室	1428	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 言語聴覚障害学Ⅰで学習した聴覚障害、失語症、高次脳機能障害、言語発達障害などそれぞれの領域の最近の研究について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 プレゼンテーション及びレポートをとおしてフィードバックする。		
【学習の到達目標】 1. 各領域の最近の動向を理解できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業で紹介された文献を読み要約集を作成する。		
【成績評価方法】 受講態度 10%、レポート 90%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語聴覚障害学各領域の最近の動向を広く知ることができる。		
				【実務家教員担当科目】 各領域の臨床経験を有する教員が講義を行う。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高卓 輝	聴覚障害の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
2	高卓 輝	聴覚障害の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
3	高卓 輝	聴覚障害の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
4	藤原加奈江	失語症学の最近の研究	予習：領域のテキストを読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
5	藤原加奈江	失語症学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
6	藤原加奈江	失語症学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
7	藤原加奈江	失語症学の最近の研究	予習：領域のテキストを読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
8	未定	音声障害の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
9	未定	構音障害学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
10	藤原加奈江	高次脳機能障害学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
11	藤原加奈江	高次脳機能障害学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
12	藤原加奈江	高次脳機能障害学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
13	藤原加奈江	高次脳機能障害学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
14	藤原加奈江	高次脳機能障害学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
15	藤原加奈江	言語発達障害（知的障害）の最近の研究	予習：領域のテキストを読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
16	藤原加奈江	言語発達障害（知的障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
17	藤原加奈江	言語発達障害（知的障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
18	藤原加奈江	言語発達障害（特異的言語発達障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
19	藤原加奈江	言語発達障害（特異的言語発達障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
20	藤原加奈江	言語発達障害（特異的言語発達障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
21	藤原加奈江	言語発達障害（特異的言語発達障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
22	藤原加奈江	言語発達障害（自閉症スペクトラム）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
23	藤原加奈江	言語発達障害（自閉症スペクトラム）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
24	藤原加奈江	言語発達障害（自閉症スペクトラム）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
25	藤原加奈江	言語発達障害（自閉症スペクトラム）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
26	藤原加奈江	言語発達障害（自閉症スペクトラム）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
27	藤原加奈江	言語発達障害（読み書き障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
28	藤原加奈江	言語発達障害（読み書き障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			1 時間
教 科 書		各教員が指示。				
参 考 書		各教員が指示。				
備 考		講義スケジュールについての質問は藤原まで。				

科 目 名		音声障害学		担 当 者	○阿部 千佳・渡邊 健一	
科目ナンバリング		1030442077			常勤	
D P		1,3		教員研究室	1441	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 音声障害の分類、病態、検査・評価および治療について学ぶ。音声障害に対する言語聴覚士としての対応と基本的臨床技術を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 レポートの講評、解説を授業内に行う。 講義終了後、質問を受け付け、回答する。		
【学習の到達目標】 音声障害の分類、病態、検査・評価および治療について理解する。言語聴覚士として音声障害の基本的な評価と治療計画の立案が出来る。				【履修上の注意・予習・復習について】 レポートとして、文献を読み特定の音声障害の症状と治療について要約する課題を課す。詳細については初回授業で説明する。 授業内容を復習しノートを整理すること。 授業中の私語、飲食、スマートフォン等の使用は厳禁とする。		
【成績評価方法】 定期試験 90% レポート 10%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 音声障害に対し言語聴覚士として基本的な対応ができるようになる。 言語聴覚士国家試験出題科目である。		
				【実務家教員担当科目】 言語聴覚士と医師の教員がその経験を活かして音声障害に関する基本的知識と治療・支援の流れについて講義する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	阿部 千佳	イントロダクション レポート課題の説明	授業の復習とノート整理 レポート準備（文献を選ぶ）			4 時間
2	阿部 千佳	発声発語器官の解剖と生理	発声発語器官の解剖と生理学を復習し、ノートを整理する レポート準備（文献を読む）			4 時間
3	阿部 千佳	音声障害の治療概論	音声障害の治療概論を復習し、ノートを整理する レポート準備（文献を読む）			4 時間
4	阿部 千佳	声帯の病変による音声障害（1）	声帯の器質的病変について復習し、ノート整理する レポート作成（執筆）			4 時間
5	阿部 千佳	声帯の病変による音声障害（2）	声帯の器質的病変について復習し、ノート整理 レポート作成（執筆）			4 時間
6	阿部 千佳	声帯の運動障害による音声障害	声帯の運動障害による音声障害について復習し、ノートを整理する レポート作成（推敲する）			4 時間
7	阿部 千佳	その他の音声障害（1）	痙攣性発声障害、音声振戦などの音声障害について復習し、ノートを整理する レポート作成（推敲する）			4 時間
8	阿部 千佳	その他の音声障害（2）	機能的音声障害、心因性音声障害などについて復習し、ノートを整理する			4 時間
9	阿部 千佳	無喉頭音声	無喉頭音声の原因と障害について復習し、ノートを整理する			4 時間
10	阿部 千佳	音声障害の検査	音声障害に必要な検査と分析について復習し、ノートを整理する			4 時間
11	阿部 千佳	音声治療	音声治療方法について復習し、ノートを整理する			4 時間
12	渡邊 健一	音声障害の医学的治療（1）	音声障害診療について復習し、ノートを整理する			4 時間
13	渡邊 健一	音声障害の医学的治療（2）	音声障害診療について復習し、ノートを整理する			4 時間
14	渡邊 健一	音声障害の医学的治療（3）	音声障害診療について復習し、ノートを整理する			4 時間
教 科 書		「言語聴覚士のための音声障害学」大森孝一 編集，医歯薬出版，2015				
参 考 書		「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版」医学書院，2021 「新編 声の検査法 第2版」日本音声言語医学会編，医歯薬出版，2024 「動画で見る音声障害 ver2.0」日本音声言語医学会編著，インテルナ出版，2018				
備 考		授業時に資料を配布する。質問等は阿部まで。				

科 目 名	構音障害学Ⅰ			担 当 者	中村 哲也
科目ナンバリング	1030442078				常勤
D P	1,2			教員研究室	1427
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 構音障害学Ⅰでは主に小児の構音障害について学ぶ。明らかな原因疾患に基づかずに生起する機能性構音障害と、発声発語器官の末梢に位置する顎・顔面、口腔、鼻腔の疾患に起因する器質性構音障害を学修する。機能性構音障害ではその症状と発症のメカニズムを知り、検査法、診断法および必要な情報収集の仕方について学び、個々の症例に合った適切な訓練・指導計画を立案し実行するための具体的な方法を理解する。				【課題等のフィードバック方法】 小テストや課題等のフィードバックを実施する。	
【学習の到達目標】 以下の4点が到達目標となる。 1. 機能性および器質性構音障害に関する基礎知識を修得する。 2. 構音検査法および診断法を修得する。 3. 鼻咽腔閉鎖機能と当機能不全に関して十分な知識を持つとともに検査法を理解する。 4. 訓練・指導計画を立案でき、訓練・指導の実際を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業初回に全てのレジュメを配布します。レジュメを見て教科書の該当箇所を読んでおき、空白部分の穴埋めをしておくとういでしょう。異常構音は自分で発音できるように、声に出して練習しましょう。	
【成績評価方法】 定期試験 80%、小テスト 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語聴覚士国家試験対象科目です。	
【実務家教員担当科目】 本科目は「言語聴覚士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	中村 哲也	授業のガイダンス	音声学や音響学の知識の復習をして臨むこと。基本をなす内容となるので、講義で配布する資料を中心に構音器官等の基礎知識の整理に努めること。		4 時間
2	中村 哲也	小児構音障害の鑑別診断と臨床の流れ	構音障害の分類について、復習を特に重視すること。記憶する項目数は少ないが、十分理解し体得すること。		4 時間
3	中村 哲也	構音の健常発達	構音がどのように発達していくのか、構音の健常発達について理解しておくこと。		4 時間
4	中村 哲也	発達過程にみられる構音の誤り	健常発達ではどのような構音の誤りがどの年齢までみられるのかについて理解しておくこと。		4 時間
5	中村 哲也	発達過程にみられない構音の誤り（異常構音）	健常の構音発達ではみられない異常構音について、構音動態を理解し聴覚弁別ができるようにすること。		4 時間
6	中村 哲也	発達過程にみられない構音の誤り（異常構音）	健常の構音発達ではみられない異常構音について、構音動態を理解し聴覚弁別ができるようにすること。		4 時間
7	中村 哲也	発達過程にみられない構音の誤り（異常構音）	健常の構音発達ではみられない異常構音について、構音動態を理解し聴覚弁別ができるようにすること。		4 時間
8	中村 哲也	発達過程にみられない構音の誤り（異常構音） まとめ	健常の構音発達ではみられない異常構音について、構音動態を理解し聴覚弁別ができるようにすること。		4 時間
9	中村 哲也	器質性構音（口蓋裂）の疫学	口唇口蓋裂の疫学について、形成外科などのノートで復習しておくこと。		4 時間
10	中村 哲也	口蓋裂言語の特徴	機能性構音障害と対比させながら基礎知識の整理に努めること。		4 時間
11	中村 哲也	機能性構音障害の評価	機能性構音障害について、評価するべき領域とポイントについて整理し、訓練の適応について判断できること。		4 時間
12	中村 哲也	器質性構音障害の評価	小児の器質構音障害について、評価するべき領域とポイントについて整理すること。		4 時間
13	中村 哲也	小児構音障害の治療	構音障害の治療方法について、音声学の知識と関連付けて整理しておくこと。		4 時間
14	中村 哲也	小児構音障害の治療	構音障害の治療方法について、音声学の知識と関連付けて整理しておくこと。		4 時間
教 科 書		阿部雅子『構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 改訂第2版』金原出版			
参 考 書		大森孝一他編集『言語聴覚士テキスト 第3版』医歯薬出版 藤田郁代監修『発声発語障害学』医学書院 齋藤純男『日本語音声学入門』三省堂			
備 考		特になし			

科 目 名		構音障害学Ⅱ		担 当 者	中村 哲也	
科目ナンバリング		1030442079			常勤	
D P		1,2		教員研究室	1427	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 脳血管疾患等の後遺症による成人の構音障害について学ぶ。運動障害性構音障害の発生メカニズム、構音障害の特徴、検査・評価・分析方法、医学的アプローチ、訓練技法について学ぶ。 【学習の到達目標】 以下の4点が到達目標となる。 1. 構音に関わる解剖学的知識を身につけ、構音のメカニズムについて説明できる 2. 運動障害性構音障害の症状について説明できるとともにタイプ分類できる 3. 検査の種類、特性について説明できる。検査の実施、結果の分析・解釈ができる。 4. 評価結果に基づき訓練プログラムを立案できる 【成績評価方法】 小テスト 20%、定期試験 80% 【課題等のフィードバック方法】 小テストや課題のフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 事前にレジュメを配布するため、事前に講義内容にあたる部分の教科書を読んで授業に臨むと良い。授業で実施する復習問題についてしっかりと覚えておくこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨床においてかかる頻度の高い障害であり、運動障害性構音障害を学ぶことは実用性が高い。言語聴覚士国家試験対象科目である。 【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として臨床での実務経験を持つ常勤教員が講義を担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	中村 哲也	オリエンテーション	運動障害性構音障害の概要を説明する。			4 時間
2	中村 哲也	呼吸器系の基本構造・呼吸運動	呼吸器系の構造・機能・病態について、1 年次で学修したノートを基に復習しておくこと。			4 時間
3	中村 哲也	喉頭の構造機能・音声機能	喉頭の構造・発声機能について、1 年次で学修したノートを基に復習しておくこと。			4 時間
4	中村 哲也	喉頭の構造機能・音声機能	喉頭の構造・発声機能について、1 年次で学修したノートを基に復習しておくこと。			4 時間
5	中村 哲也	口腔器官の構造と機能	口腔器官の構造について、1 年次で学修したノートを基に復習しておくこと。			4 時間
6	中村 哲也	神経系と運動系の構造と機能	神経系の構造・機能・病態について、1 年次で学修したノートを基に復習しておくこと。			4 時間
7	中村 哲也	運動障害性構音障害の概要・評価	運動障害性構音障害の臨床・評価についての概要について説明する。			4 時間
8	中村 哲也	痙性構音障害・一側性上位運動ニューロン系構音障害	痙性構音障害・一側性上位運動ニューロン系構音障害について教科書の該当箇所を読んでおくこと。			4 時間
9	中村 哲也	弛緩性構音障害・運動低下性構音障害	弛緩性構音障害・運動低下性構音障害について教科書の該当箇所を読んでおくこと。			4 時間
10	中村 哲也	運動過多性構音障害・失調性構音障害	運動過多性構音障害・失調性構音障害について教科書の該当箇所を読んでおくこと。			4 時間
11	中村 哲也	混合性構音障害・ALS と意思伝達装置	混合性構音障害・AAC について教科書の該当箇所を読んでおくこと。			4 時間
12	中村 哲也	器質性構音障害：舌ガン	器質性構音障害、主に舌ガンについて取り上げて説明する。参考書などを参照しながら復習しておくこと。			4 時間
13	中村 哲也	機能訓練と発話訓練	構音訓練について、教科書の該当箇所を読んでおくこと。			4 時間
14	中村 哲也	機能訓練と発話訓練	構音訓練について、教科書の該当箇所を読んでおくこと。			4 時間
教 科 書		西尾正輝『ディサースリア 臨床標準テキスト 第2版』医歯薬出版				
参 考 書		廣瀬肇他『言語聴覚士のための運動障害性構音障害学』医歯薬出版社 溝尻源太郎・熊倉勇美『口腔・中咽頭がんのリハビリテーション 構音障害、摂食・嚥下障害』医歯薬出版				
備 考		特になし				

科 目 名		構音障害学演習Ⅰ		担 当 者	中村 哲也	
科目ナンバリング		1030442080			常勤	
D	P	2,3		教員研究室	1427	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 構音機能の評価だけではなく、発声や構音障害の原因となる運動障害、言語障害の評価や病態を理解する。構音検査は、新版 - 構音検査と口蓋裂言語検査を中心に実施する。 検査結果を解釈して診断し、報告書を作成するとともに診断にもとづいた訓練プログラムを立案する方法について学習する。 【学習の到達目標】 以下の3点を到達目標とする。 1. 新版 - 構音検査を実施でき、結果をまとめることができる。 2. 口蓋裂言語検査を実施できる。 3. 構音検査の結果から報告書を作成し、訓練プログラムを立案することができる 【成績評価方法】 レポート 100%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	中村 哲也	異常構音の聞き取り演習	症例を用いて異常構音の聞き取り演習を行う。異常構音の特徴について復習しておくこと。		1 時間	
2	中村 哲也	異常構音の聞き取り演習	症例を用いて異常構音の聞き取り演習を行う。異常構音の特徴について復習しておくこと。		1 時間	
3	中村 哲也	新版－構音検査の実施方法	新版 - 構音検査のマニュアルについて事前に読んでおくこと。 音声学（IPA）の知識が必要となるため、音声学の復習もしておくこと。		1 時間	
4	中村 哲也	新版－構音検査の実施方法	新版 - 構音検査のマニュアルについて事前に読んでおくこと。 音声学（IPA）の知識が必要となるため、音声学の復習もしておくこと。		1 時間	
5	中村 哲也	新版－構音検査のまとめ方	新版 - 構音検査のマニュアルについて事前に読んでおくこと。		1 時間	
6	中村 哲也	新版－構音検査のまとめ方	新版 - 構音検査のマニュアルについて事前に読んでおくこと。		1 時間	
7	中村 哲也	新版－構音検査 症例演習	症例を用いて検査のまとめを行います。新版 - 構音検査のマニュアルを読んで復習しておくこと。		1 時間	
8	中村 哲也	新版－構音検査 症例演習	症例を用いて検査のまとめを行います。新版 - 構音検査のマニュアルを読んで復習しておくこと。		1 時間	
9	中村 哲也	報告書の書き方	報告書の書式や内容について説明するため、構音障害学Ⅰの内容についても復習しておくこと。		1 時間	
10	中村 哲也	報告書の書き方	報告書の書式や内容について説明するため、構音障害学Ⅰの内容についても復習しておくこと。		1 時間	
11	中村 哲也	報告書の書き方 症例演習	症例を用いて報告書作成を行います。報告書の書き方、構音障害学Ⅰの内容について復習しておくこと。		1 時間	
12	中村 哲也	報告書の書き方 症例演習	症例を用いて報告書作成を行います。報告書の書き方、構音障害学Ⅰの内容について復習しておくこと。		1 時間	
13	中村 哲也	症例検討	実際の症例で検査の解釈と報告書の実施を行うため、構音障害学Ⅰの内容についても復習しておくこと。		1 時間	
14	中村 哲也	症例検討	実際の症例で検査の解釈と報告書の実施を行うため、構音障害学Ⅰの内容についても復習しておくこと。		1 時間	
教 科 書		阿部雅子『構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 改訂第2版』金原出版				
参 考 書		大森孝一他編集『言語聴覚士テキスト 第3版』医歯薬出版 藤田郁代監修『発声発語障害学』医学書院				
備 考		特になし				

科 目 名		構音障害学演習Ⅱ		担 当 者	中村 哲也	
科目ナンバリング		1030442081			常勤	
D	P	2,3		教員研究室	1427	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 運動障害性構音障害の評価、訓練・指導について学ぶ。評価においては、標準ディサースリア検査を中心に、SLTA-ST、発話特徴抽出検査など代表的な検査について演習する。 また、検査結果を分析し、報告書の作成や訓練プログラム立案について習得する。						
【学習の到達目標】 次の3点が到達目標である。 1. 運動障害性構音障害で用いられる検査を実施することができる。 2. 検査結果を分析し、病態の分析と問題点について述べるができる。 3. 検査結果に基づいて報告書を作成できる。						
【成績評価方法】 レポート 50%、実技試験 50%						
【課題等のフィードバック方法】 小テストや課題のフィードバックを授業時に行う。						
【履修上の注意・予習・復習について】 実技試験を実施するため、標準ディサースリア検査の実技練習をしておくこと。実技試験では実技だけではなく、服装や言葉遣いなども評価の対象とする。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 運動障害性構音障害は成人系の施設において担当することの多い障害であり、臨床実習に備えても基本的な知識・技術を習得しておく必要がある。						
【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として臨床で実務経験を持つ教員が演習を指導する。						

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	中村 哲也	標準ディサースリア検査の解説・実技	本演習の重要項目の一つなので、配布資料等を基に学習内容を振り返り身につける復習が重要。	1 時間	
2	中村 哲也	標準ディサースリア検査の解説・実技	前回同様、検査手続きを復習すること。臨床実習でも重要視される項目なので、心して取り組むこと。	1 時間	
3	中村 哲也	標準ディサースリア検査の解説・実技	前回に同じ。検査手続きを復習すること。臨床実習でも重要視される項目なので、心して取り組むこと。	1 時間	
4	中村 哲也	標準ディサースリア検査の解説・実技	検査手続きを復習すること。臨床実習でも重要視される項目なので、心して取り組むこと。	1 時間	
5	中村 哲也	標準ディサースリア検査の解説・実技	検査手続きを復習すること。臨床実習でも重要視される項目なので、心して取り組むこと。	1 時間	
6	中村 哲也	SLTA-ST、麻痺性構音障害（短縮版）	標準ディサースリア検査と重なる検査項目も多いが、相違点もあるので、混同せずに学習することが重要。復習が大切。	1 時間	
7	中村 哲也	その他の構音検査	各検査についての資料を Class Room から確認しておくこと。	1 時間	
8	中村 哲也	運動障害性構音障害の発話特徴の聞き取り演習	標準ディサースリア検査の発話特徴のプロフィールを記載するため、各発話特徴を復習して臨むこと。	1 時間	
9	中村 哲也	報告書の書き方	実習における運動障害性構音障害の症例報告書の書き方について説明する。構音障害学Ⅱの知識についても復習が必要。	1 時間	
10	中村 哲也	報告書の書き方	実習における運動障害性構音障害の症例報告書の書き方について説明する。構音障害学Ⅱの知識についても復習が必要。	1 時間	
11	中村 哲也	報告書の書き方 症例検討	症例を基に自分で報告書を作成する。	1 時間	
12	中村 哲也	報告書の書き方 症例検討	症例を基に自分で報告書を作成する。	1 時間	
13	中村 哲也	実技演習（OSCE）	標準ディサースリア検査の実技について確認する。	1 時間	
14	中村 哲也	実技演習（OSCE）	標準ディサースリア検査の実技について確認する。	1 時間	
教 科 書		標準ディサースリア検査 第2版：西尾正輝（インテルナ出版）			
参 考 書		言語聴覚士のための運動障害性構音障害学：廣瀬肇他著（医歯薬出版社）			
備 考		特になし			

科 目 名	吃音学			担 当 者	阿部 千佳
科目ナンバリング	1030442082				常勤
D P	1,3			教員研究室	1441
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 吃音に対し言語聴覚士として適切な検査・評価と治療・支援を行うための知識と技術および態度を習得する。吃音を持つ児・者とその家族の心理的、社会的背景を理解し支援する方法を学ぶ。さらに吃音とその他の流暢性障害との鑑別と各障害に対する治療・支援の概略を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 レポートの解説を授業で行う。	
【学習の到達目標】 吃音を持つ児・者に対し言語聴覚士として適切な態度で接することが出来る。吃音に対する基本的な検査・評価の施行、治療・支援計画の立案が出来る。				【履修上の注意・予習・復習について】 レポートとして文芸作品（小説、自伝、随筆など）の登場人物ににみられる吃音の症状、原因、治療等について論じることを課す。詳細については初回授業で説明する。 授業中の私語、飲食、スマートフォン等の使用は厳禁とする。	
【成績評価方法】 定期試験 90% レポート 10%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 吃音に関する相談に対し、言語聴覚士として適切な初期対応が出来るようになる。吃音と吃音以外の流暢性障害との鑑別および基本的対応ができるようになる。言語聴覚士国家試験出題科目である。	
				【実務家教員担当科目】 言語聴覚士の教員がその経験を活かして吃音に関する基本的知識と治療・支援の流れについて講義する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	阿部 千佳	吃音・流暢性障害とは レポート課題の説明	指示された教科書の箇所と資料を確認し、ノートを整理する 吃音に関連する文芸作品を読む（レポート準備）		4 時間
2	阿部 千佳	吃音の概念と分類	教科書で吃音・流暢性障害の概念や分類を復習し、ノートを整理する 吃音に関連する文芸作品を読む（レポート準備）		4 時間
3	阿部 千佳	吃音の評価と実際	吃音の評価法について復習し、ノートを整理する レポート作成		4 時間
4	阿部 千佳	吃音検査法	吃音検査法について復習し、ノートを整理する レポート作成（推敲する）		4 時間
5	阿部 千佳	幼少時期の発達性吃音の治療	幼少時期の発達性吃音について復習し、ノートを整理する		4 時間
6	阿部 千佳	思春期・成人期の吃音の治療	思春期・成人期の吃音について復習し、ノートを整理する		4 時間
7	阿部 千佳	クラタリングの評価と治療	クラタリングの評価と治療を復習し、ノートを整理する		4 時間
教 科 書		標準言語聴覚障害学「発声発語障害学 第3 版」藤田郁代監修, 医学書院, 2015			
参 考 書		標準言語聴覚障害学「言語聴覚療法評価・診断学」藤田郁代監修, 医学書院, 2020 シリーズきこえことばの発達と支援「特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援」小林宏明・川合紀宗編著, 学苑社, 2007			
備 考		授業時に資料を配布する。質問等は阿部まで。			

科 目 名		摂食嚥下障害学		担 当 者	○長谷川賢一・平野 愛 森山さや香
科目ナンバリング		1030442083			非常勤
D	P	1,2		教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 摂食・嚥下機能にかかわる筋・神経系の構造と作用を知るとともにその障害による病態と症候について学ぶ。また、発達や加齢に伴う嚥下機能の変化、嚥下障害の治療・訓練法を学ぶ。ビデオ等の視聴覚教材を多用し、理解を深めやすいように図る。				【課題等のフィードバック方法】 提出後の直近の講義時間に口頭ならびに参考資料を配布し、フィードバックする。	
【学習の到達目標】 摂食・嚥下のメカニズムについて説明できる。障害タイプ別の症状について説明できる。各種評価法と訓練法の特性と効果について説明できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 1) 授業中の私語は禁止。2) 授業予定部分についてテキストで予習をして授業に臨むこと。3) 授業で学んだ内容を振り返り、要点をノートなどにまとめること。	
【成績評価方法】 定期試験 100%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・摂食・嚥下のメカニズムや症候を知ることにより、病態の分析とリハビリテーションについての技法が立案できる。 ・言語聴覚士国家試験対象科目である。	
				【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として病院での臨床経験や嚥下外来での勤務経験をもつ教員が、摂食嚥下障害の評価、訓練、指導について症例を提示しながら講義する。また、嚥下専門医資格を有する現役耳鼻咽喉科で勤務する医師をお招きし、医学的な側面や手術など、より実際の臨床場面について解説を実施する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	長谷川賢一	摂食・嚥下器官の解剖	口腔、咽頭、喉頭、食道について構造や機能について学習する		4 時間
2	長谷川賢一	摂食・嚥下機能の生理と嚥下モデル	嚥下のメカニズムや呼吸・気道防御について学習する		4 時間
3	長谷川賢一	発達と加齢に伴う嚥下機能の変化と障害	摂食嚥下機能の発達と老化など年齢による変化について学習する		4 時間
4	長谷川賢一	嚥下障害の原因と分類（偽性球麻痺、球麻痺、変性疾患など）	脳血管障害や進行性疾患などによる摂食嚥下障害の病態について学習する		4 時間
5	長谷川賢一	嚥下障害の原因と分類（器質性障害、脳性麻痺など）	口腔癌など器質性疾患による摂食嚥下障害の病態について学習する		4 時間
6	森山さや香	嚥下障害の評価（観察、各種スクリーニング検査）	スクリーニング検査の方法と判定を中心に学習する		4 時間
7	森山さや香	嚥下障害の評価（VF、VE など）	詳細な検査である嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査の方法や判定等について学習する		4 時間
8	森山さや香	嚥下食、栄養管理、チームアプローチ	嚥下食の調整、栄養管理について学ぶとともに関連職種との連携の在り方について学習する		4 時間
9	森山さや香	訓練計画の立案（摂食条件、ゴール設定など）	評価結果から目標設定や訓練計画の立て方について学習する		4 時間
10	長谷川賢一	訓練技法（間接訓練）	食物を用いない間接訓練の各種手技について学習する		4 時間
11	長谷川賢一	訓練技法（直接訓練、代償的アプローチ）	食物を用いて行う各種訓練につて、姿勢や摂食方法などについて学習する		4 時間
12	長谷川賢一	歯科的治療法（口腔衛生、補綴など）	主に PLP や PAP の適応基準や摂食嚥下における効果について学習する		4 時間
13	平野 愛	摂食・嚥下障害とリスク管理	誤嚥・窒息など救急対応の基礎的知識について学習する		4 時間
14	平野 愛	摂食・嚥下障害の外科的対応	嚥下機能改善術と誤嚥防止術など各種の手術手技、カニューレなどについて学習する		4 時間
教 科 書		摂食嚥下障害学 第 2 版（標準言語聴覚障害学）、藤田 郁代（監修）、医学書院 配布資料			
参 考 書		聖隷三方ヶ原病院嚥下チーム：嚥下障害ポケットマニュアル、医歯薬出版 脳卒中の摂食嚥下障害 第 3 版、医歯薬出版			
備 考		外部講師の予定などにより、実際の講義順番が前後することがありますのでご了承ください。 不明な点や講義全体に関する質問は講義時に担当教員にしてください。			

科 目 名		摂食嚥下障害学演習		担 当 者	○長谷川賢一・森山さや香	
科目ナンバリング		1030442084			非常勤	
D P		2,3		教員研究室		非常勤講師室
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次		3 年次・前期
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 各種評価法と訓練技法について学ぶ。評価法では代表的な検査の実施法について理解するとともに、結果の解釈について学ぶ。訓練については基礎的訓練・摂食訓練・代償等の各アプローチにおける訓練技法や対処法の習得を目指す。さらに吸引技法についても学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 レポートや実技試験については提出日から直近の演習時間で口頭や配布資料により行う。課題によってはグループでの課題中や課題後にフィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 スクリーニング検査の実施と結果の解釈ができる。VF 検査や VE 検査の結果を解釈できる。さらに各種訓練技法について目的と効果を説明でき、実施できる。吸引の実施手技とリスク管理について説明できる。グループワークによる症例検討から、教員とディスカッションする中で、摂食嚥下障害の患者についてどのように考え、評価するかについて知る。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・レポートなど提出物の期限を守ること。 ・グループ演習の際は人任せにせず、互いに協力して行うこと。 ・摂食嚥下障害のリハビリテーションは患者の命にかかわることが多いことを念頭において演習に参加すること。症例検討も実際の患者であると考え、関係のない私語は慎み、根拠に基づいた思考や、簡単には答えに辿り着けない問題でもあきらめずに考える姿勢を心がけること。		
【成績評価方法】 定期試験 90%、症例検討と教員とのディスカッション（含む 参加態度）10%。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・嚥下機能について評価、分析ができる。 ・各種評価や訓練技法の適応について理解し、実施できる。 ・吸引手技について習得できる。		
				【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として急性期病院などでの勤務、嚥下外来での臨床経験を活かし、摂食嚥下障害の評価、訓練、指導について症例を提示しながら講義する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	森山さや香	情報収集、臨床的観察、問診の方法とポイント	臨床の流れに基づいた情報収集や臨床観察のポイントについて学習する			1 時間
2	森山さや香	スクリーニング検査（RSST、MWST など）について	反復唾液嚥下検査、改訂水飲み検査、咳テストなどの手技と判定方法について学習する			1 時間
3	森山さや香	スクリーニング検査（頸部聴診法、フードテスト）について	頸部聴診やフードテストの手技と判定方法について学習する			1 時間
4	森山さや香	嚥下内視鏡検査と結果の解釈（VTR 症例）	嚥下内視鏡検査の手順と判定について学習する			1 時間
5	長谷川賢一	嚥下造影検査と結果の解釈①（VTR 症例）	嚥下造影検査の手順と判定について学ぶ。病態別症例の嚥下障害の特徴を学習する			1 時間
6	長谷川賢一	嚥下造影検査と結果の解釈②（VTR 症例）	病態別症例の嚥下障害の特徴を学習する			1 時間
7	長谷川賢一	嚥下造影検査と結果の解釈③（VTR 症例）	病態別症例の嚥下障害の特徴を学習する			1 時間
8	長谷川賢一	間接訓練手技（器官へのアプローチ、呼吸含む）	各種間接訓練における適応症状、実施方法と効果、リスクについて学習する			1 時間
9	長谷川賢一	各種の間接訓練の技法について	各種間接訓練における適応症状、実施法とその効果、リスクについて学習する			1 時間
10	長谷川賢一	直接訓練（開始手順と各種嚥下法）	各種直接訓練における適応症状、実施法とその効果、リスクについて学習する			1 時間
11	長谷川賢一	直接訓練（嚥下食と介助法）	各種直接訓練における適応症状、実施法とその効果、リスクについて学習する			1 時間
12	長谷川賢一	口腔ケア・吸引手技	口腔ケアの重要性と実施方法について学習する。吸引手技について学習する			1 時間
13	長谷川賢一	症例検討（グループワーク・ディスカッション）	模擬症例について、臨床場面で観察するポイント、データに基づいた評価の解釈とそのまとめについて学ぶ			1 時間
14	森山さや香	症例検討（グループワーク・ディスカッション）	模擬症例について、臨床場面で観察するポイント、データに基づいた評価の解釈とそのまとめについて学ぶ			1 時間
教 科 書		摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション（Gakken） 配布資料				
参 考 書		脳卒中の摂食嚥下障害 第3 版（医歯薬出版）、 嚥下障害ポケットマニュアル第4 版				
備 考		食事をするということについて、ただの栄養摂取ではなく、精神的側面、社会的側面、文化的側面、哲学的側面など、複数の要素を含む大きな概念としてとらえられるように、様々な分野の情報も織り交ぜながら紹介します。				

科 目 名		成人聴覚障害学			担 当 者	高卓 輝
科目ナンバリング		1030442085				常勤
D P		1,2			教 員 研 究 室	1424
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 聴覚障害の原因と障害部位は多彩に存在する。本講座では聴覚障害の評価・診断に必要な各種聴覚機能検査と平衡機能検査について詳しく学ぶとともに、聴覚障害の代表的な原因疾患の病態や症候などについても紹介する。 【学習の到達目標】 ・聴覚障害の分類と特徴について説明できる ・各種聴覚検査法を用いた聴覚障害の評価と鑑別診断ができる ・聴覚以外の評価（コミュニケーションストラテジー、読話能力等）ができる ・各種平衡機能検査の原理と臨床意義について理解できる 【成績評価方法】 課題提出 10%、小テスト 20%、定期試験 70% 【課題等のフィードバック方法】 課題と小テストについて時間を確保して解説する 【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業中の私語、携帯電話の使用は禁止する ・講義終了後、質問を受け付け、回答する 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・成人聴覚障害の評価・診断ができるようになる ・聴覚障害の原因疾患の病態と症状がわかるようになる ・国家試験の過去問の解説ができるようになる 【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として臨床経験を持つ教員がその経験を活かして聴覚障害の評価・診断・訓練・指導について講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高卓 輝	聴器の分類と病態	・聴器の病態について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
2	高卓 輝	聴覚機能検査：純音聴力検査（1）（オーディオメータ、音の伝達経路、オーディオグラムの評価）	・オーディオグラムについて調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
3	高卓 輝	聴覚機能検査：純音聴力検査（2）（マスキング）	・マスキングについて調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
4	高卓 輝	聴覚機能検査：自記オーディオメトリー	・Jerger 分類について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
5	高卓 輝	聴覚機能検査：内耳機能検査	・SISI テストについて調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
6	高卓 輝	聴覚機能検査：語音聴力検査	・語音弁別検査について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
7	高卓 輝	他覚的聴力検査：インピーダンスオーディオメトリー	・耳小骨反射について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
8	高卓 輝	他覚的聴力検査：聴性誘発反応（1）	・ABR について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
9	高卓 輝	他覚的聴力検査：聴性誘発反応（2）	・ASSR について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
10	高卓 輝	末梢聴器の疾患：伝音性難聴	・伝音難聴について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
11	高卓 輝	末梢聴器の疾患：感音性難聴	・感音難聴について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
12	高卓 輝	平衡機能検査	・平衡機能について調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
13	高卓 輝	聴覚以外の評価（コミュニケーションストラテジー等の評価）	・コミュニケーションストラテジーについて調べる ・配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
14	高卓 輝	課題の解説	・課題を点検しわからないことについて質問する			4 時間
教 科 書		聴覚障害学 第3版 藤田郁代 監修 医学書院 2021 年				
参 考 書		配布資料				
備 考		特になし				

科 目 名		小児聴覚障害学			担 当 者	小泉 知子
科目ナンバリング		1030442086				非常勤
D P		1,2			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 難聴の原因や発症時期、日常生活への影響を理解し、小児聴覚障害のハビリテーションにおける適切な目標設定やプログラム立案のための知識と方法について学習する。 【学習の到達目標】 小児聴覚障害のハビリテーションにおいて、それぞれのライフステージにおける課題を理解し、根拠に基づき、適切な評価法や指導・支援法を選択、説明できることを目標とする。 【成績評価方法】 中間試験 30%、定期試験 50%、課題提出 20% にて総合的に評価する。 【課題等のフィードバック方法】 必要に応じて、次の講義にて解説、補足説明を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 主に教科書の内容に沿ったスライドを用いて講義を進めるため、教科書を毎回持参すること。講義終了後は、学習内容の定着と以降の講義の理解のために、配布資料の復習が望ましい。配布資料、講義等に関する質問は、講義内に対応する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 小児聴覚障害学は、聴覚障害学を基本とし、音声・言語学、言語発達障害学等の幅広い分野と関連するため、小児聴覚障害のハビリテーションの理解は、専門知識の習得のみならず、これまで学習した知識の整理や活用方法等の理解へとつながる。 【実務家教員担当科目】 小児聴覚障害に携わる言語聴覚士が、小児聴覚障害のハビリテーションに必要な知識とその運用方法について講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	小泉 知子	聴覚障害と発達への影響	教科書 第1章 「聴覚と聴覚障害」			4 時間
2	小泉 知子	原因と種類・特性①	教科書 第3章 「1 聴覚の発生」			4 時間
3	小泉 知子	原因と種類・特性②	教科書 第3章 「3 聴覚の病理 C 遺伝性難聴」			4 時間
4	小泉 知子	小児聴覚検査と種類	教科書 第4章 「5 乳幼児聴力検査」			4 時間
5	小泉 知子	小児聴覚検査の実際	教科書 第4章 「5 乳幼児聴力検査」			4 時間
6	小泉 知子	聴覚補償機器（補聴器）	教科書 第5章 「1 補聴器」			4 時間
7	小泉 知子	聴覚補償機器（人工聴覚機器）	教科書 第5章 「2 人工聴覚機器」「3 補聴援助システム」			4 時間
8	小泉 知子	中間試験	中間試験実施			4 時間
9	小泉 知子	中間試験の解説 小児難聴のハビリテーション	教科書 第7章 「1 小児難聴のリハビリテーションの概要」			4 時間
10	小泉 知子	小児難聴のハビリテーション	教科書 第7章 「2 小児難聴の評価」			4 時間
11	小泉 知子	小児難聴のハビリテーション	教科書 第7章 「3 小児難聴の指導・支援」			4 時間
12	小泉 知子	小児難聴のハビリテーション他	教科書 第7章「4 学校教育における指導と課題」 第8章「7 難聴を伴う重複障害」			4 時間
13	小泉 知子	情報保障	教科書 第9章 「情報保障と社会資源」			4 時間
14	小泉 知子	総まとめ	教科書学習範囲 配布資料			4 時間
教 科 書		『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学』第3版 藤田 郁代 監修 医学書院 2021 年				
参 考 書		『聴覚障害のある子どもの理解と支援』廣田 栄子 編著 学苑社 2021 年 『聴覚検査の実際 改訂第5版』日本聴覚医学会編集 南山堂 『病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科』医療情報科学研究所編 メディックメディア 2021 年				
備 考		提出課題や中間試験の結果により、講義内容の変更・調整を行う場合がある。				

科 目 名		補聴器・人工内耳			担 当 者	○高卓 輝・本蔵 陽平 米澤 裕美
科目ナンバリング		1030442087				常勤・非常勤
D	P	1,2			教 員 研 究 室	1424
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 聴覚補償手段として用いられる補聴器と人工内耳について講義する。講義は補聴器 10 回、人工内耳 4 回で構成される。補聴器については補聴器の基本構造と分類、性能測定、適応判定および適合評価の詳細を、人工内耳については、人工内耳の構造とメカニズム、適応基準（小児と成人）、手術および術後リハビリテーションなどについて学ぶ。 【学習の到達目標】 ・補聴器と人工内耳の構造とメカニズムを理解し適合評価と効果について対象児者またはその家族に対して説明できる ・補聴器と人工内耳を使った基本的な聴覚リハビリテーション方法を習得する 【成績評価方法】 課題提出 10%、小テスト 20%、定期試験 70%					【課題等のフィードバック方法】 課題と小テストについて時間を確保して解説する 【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業中の私語・携帯電話の使用は禁止する ・課題は国家試験対策資料になるので丁寧に作成すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・補聴器・人工内耳の構造と原理がわかる ・補聴器の適合理論と実際、人工内耳のマッピング理論と実際がわかる ・補聴器と人工内耳の装用指導ができる 【実務家教員担当科目】 言語聴覚士等の資格を持つ教員がその経験を活かして聴覚障害の評価・診断・訓練・指導について講義する。	
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高卓 輝	補聴器の構造と機能（1）：補聴器の基本構造と分類	予習：補聴器の基本構造について調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
2	高卓 輝	補聴器の構造と機能（2）：マイクロホンとその指向性	予習：マイクの指向性について調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し課題を解く			4 時間
3	高卓 輝	補聴器の構造と機能（3）：レシーバの基本構造と周波数特性、フィルターの種類	予習：レシーバの構造について調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
4	高卓 輝	補聴器の基本構造と：機能（4）ピーククリッピングと歪み、コンプレッションアンプ	予習：ピーククリップと歪みについて調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
5	高卓 輝	補聴器の特性とその測定法	予習：補聴器の特性装置について調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
6	高卓 輝	補聴器の適合（1）イヤモード、イヤシェル、カップリングシステム	予習：イヤモードについて調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
7	高卓 輝	補聴器の適合（2）（規定選択法、比較選択法）	予習：規定選択法について調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
8	高卓 輝	補聴器適合検査：音場検査と実耳測定	予習：実耳測定について調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
9	高卓 輝	耳型採取方法	予習：耳型採取について調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
10	高卓 輝	特性調整と装用指導	予習：装用指導について調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
11	本蔵 陽平	人工内耳の種類・しくみ・適応基準耳型採取方法（演習）	予習：人工中耳の仕組みについて調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
12	本蔵 陽平	人工内耳の術前検査・手術の詳細・合併症等	予習：人工内耳の合併症について調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
13	米澤 裕美	人工内耳のマッピングと調整	予習：人工内耳のマッピングについて調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
14	米澤 裕美	人工内耳の装用効果の評価	予習：人工内耳の装用訓練について調べる 復習：配布資料やテキストの関連部分を復習し関連国試問題を解く			4 時間
教 科 書		標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版 中村公枝他編 医学書院				
参 考 書		適宜資料配布				
備 考		授業に関する質問、問い合わせ：高卓 輝				

科 目 名	聴覚障害学演習 I			担 当 者	高卓 輝
科目ナンバリング	1030442088				常勤
D P	2,3			教員研究室	1424
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 代表的な聴覚機能検査について演習を行う。検査の目的と実施法、結果の解釈とまとめ方について具体的に学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 ・課題のフィードバックは、発表の際行う。 ・質問事項は随時受け付け、回答する。	
【学習の到達目標】 ・対象者に応じて必要な聴覚検査を選択できる ・演習で取り上げた聴覚検査を正しく実施できる ・検査結果を正しく説明できる				【履修上の注意・予習・復習について】 ・授業中の私語、携帯電話使用は禁止 ・検査道具の数が限られているのでグループ演習では互いに協力すること ・演習で使用する物品・機器の準備は全員協力して行うこと、また使用後は元の場所に戻すこと ・機器備品は丁寧に扱い、欠損、欠品のないようにする	
【成績評価方法】 実技 30%、課題発表 40%、小テスト 30%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 各種聴覚検査法を用いた成人聴覚障害の評価・診断ができる。	
				【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として臨床経験を持つ教員がその経験を活かして聴覚障害の評価・診断・訓練・指導について講義する	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	高卓 輝	オーディオメータの取扱いの注意 純音聴力検査（1）気導聴力検査	・オーディオメータについて予習する ・測定結果の分析を小レポートにまとめる		1 時間
2	高卓 輝	純音聴力検査（2）骨導聴力検査ならびマスキング法	・純音聴力検査について予習する ・測定結果の分析を小レポートにまとめる		1 時間
3	高卓 輝	自記オーディオメトリー：連続周波数記録法と固定周波数記録法	・教科書の関連箇所を予習する ・測定結果の分析を小レポートにまとめる		1 時間
4	高卓 輝	語音聴力検査（1）語音了解閾値検査	・語音了解閾値検査について予習する。 ・測定結果の分析を小レポートにまとめる		1 時間
5	高卓 輝	語音聴力検査（2）語音弁別検査	・言音弁別検査について予習する ・測定結果の分析を小レポートにまとめる		1 時間
6	高卓 輝	中耳機能検査：インピーダンスオーディオメトリー	・ティンパノメトリーについて予習する ・測定結果の分析を小レポートにまとめる		1 時間
7	高卓 輝	まとめた内容の発表と確認テスト	演習で取り上げた検査結果を簡潔にまとめて発表する		1 時間
教 科 書		聴覚検査の実際 改訂第 5 版 日本聴覚医学会（南山堂）			
参 考 書		標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第 3 版 医学書院			
備 考		授業に関する質問、問い合わせ：高卓 輝			

科 目 名		聴覚障害学演習Ⅱ			担 当 者	高卓 輝
科目ナンバリング		1030442089				常勤
D P		2,3			教員研究室	1424
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 代表的な聴覚機能検査、小児聴覚検査、補聴器適合検査について演習を行う。また補聴器特性装置の使い方について説明する。その他外耳道閉鎖効果を検証する実験を行う。 【学習の到達目標】 ・発達年齢に応じた小児聴覚検査法の選択と実施法がわかる ・音場検査による補聴器の適合評価ができる ・聴覚障害者（児）に対して病歴聴取などの情報収集、コミュニケーションと聴覚補償機器の適合状態の評価、課題抽出ができる 【成績評価方法】 レポート 30%、課題発表 30%、テスト 40% 【課題等のフィードバック方法】 課題のフィードバックは随時行う 【履修上の注意・予習・復習について】 ・私語・携帯電話は禁止 ・教科書を熟読し疑問やわからない事項は必ず授業内で質問すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 成人・小児聴覚障害の評価と診断、補聴器・人工内耳の適合評価ができる 【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として臨床経験を持つ教員がその経験を活かして聴覚障害の評価・診断・訓練・指導について講義する						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高卓 輝	演習Ⅰで学んだ純音聴力検査等検査の復習	・純音聴力検査について予習する ・演習した内容をまとめる			1 時間
2	高卓 輝	外耳道閉鎖効果の測定	・外耳道閉鎖効果について調べる ・実験結果をレポート形式にまとめる（目的、方法、結果、考察）			1 時間
3	高卓 輝	語音聴力検査の復習と耳音響放射検査	・語音聴力検査について調べる ・演習した内容をまとめる			1 時間
4	高卓 輝	補聴器特性装置と音場検査	・補聴器適合検査について予習する ・演習した内容をまとめる			1 時間
5	高卓 輝	閾値上聴力検査と乳幼児聴力検査	・補充現象について調べる ・新スクや乳幼児聴力検査に関する知識をまとめる			1 時間
6	高卓 輝	ティンパノメトリーと耳小骨筋反射検査等	・中耳機能を評価する検査を調べる ・演習した内容をまとめる			1 時間
7	高卓 輝	発表とテスト	演習で取り上げた内容のまとめの発表とテスト			1 時間
教 科 書		聴覚検査の実際 改訂第 5 版 日本聴覚医学会 南山堂				
参 考 書		標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第 3 版 医学書院				
備 考		授業に関する質問、問い合わせ：高卓 輝				

科 目 名	視覚聴覚二重障害			担 当 者	菅井 裕行
科目ナンバリング	1030442090				非常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視覚と聴覚の両方の障害を併せ有する場合への支援の方法と実際を学ぶ。講義で取り上げる主な内容は、1) コミュニケーション、2) 空間定位と生活空間の拡大、3) 二重障害がもたらす困難、4) 成長支援の在り方、5) ソーシャル・サポートなどである。				【課題等のフィードバック方法】 授業の中で解説します。	
【学習の到達目標】 視覚と聴覚の両方の障害を併せ有する場合への支援の方法と実際を学ぶ。				【履修上の注意・予習・復習について】 毎回の授業で用いるスライド資料の内容を正確に把握すること。できれば触覚的コミュニケーションの方法（点字や触指文字、触手話など）について事前に調べ概要を把握しておくことと理解に役立ちます。	
【成績評価方法】 授業中の課題およびレポートにより評価します。授業中の課題 40%、レポートの点数 60% で総合的に評価します。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 将来、言語聴覚士として臨床の現場で視覚聴覚二重障害のクライアントに出会った際、その障害独自の困難と障害状態からのアセスメントが出来、支援方法を検討することができます。	
				【実務家教員担当科目】 国立特別支援教育総合研究所附属教育相談施設にて、視覚聴覚二重障害のある人の教育相談を 9 年にわたり担当し、現在も現職場にてこれらの人の教育相談に携わっています。その実践経験から支援の実際について具体的な内容を解説します。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	菅井 裕行	イントロダクション 視覚聴覚二重障害の定義と原因	復習では定義の内容を確認する。特に北欧の定義の意味するところを再確認する。		4 時間
2	菅井 裕行	支援の在り方	事前配布の資料がある場合はその内容を確認する。復習ではこれまでに支援を受けた歴史上の盲ろう者についてスライド資料と配付資料をもとに再確認する。		4 時間
3	菅井 裕行	支援の具体例	日本で最初に支援を受けた全盲ろう事例の取り組みについて、配布資料およびスライド資料によって内容を確認する。		4 時間
4	菅井 裕行	盲ろう者のコミュニケーション (1)	盲ろう者に特有のコミュニケーション方法について、予習では配布資料を確認しておき、復習ではその特徴を再確認する。		4 時間
5	菅井 裕行	盲ろう者のコミュニケーション (2)	盲ろう者に特有のコミュニケーション方法について、予習では配布資料を確認しておき、復習ではその特徴を再確認する。課題が出た場合はその課題についてレポートをまとめる。		4 時間
6	菅井 裕行	盲ろう障害が初期発達に及ぼす影響	予習では定型発達の大筋について関係資料等で確認しておく。復習ではスライド資料等の内容を再確認する。		4 時間
7	菅井 裕行	後天盲ろうへの支援	予習では事前配布資料があれば内容を確認しておく。復習では授業内で視聴した動画の要点を確認する。		4 時間
教 科 書		適宜、資料を配付する予定です。			
参 考 書		授業の中で紹介します。			
備 考		該当なし			

科 目 名	臨床実習 I			担 当 者	○中村 哲也・藤原加奈江 高卓 輝・柴田 寛 八鍬 央子・小泉 智枝 阿部 千佳
科目ナンバリング	1030442091				常勤
D P	2,3			教 員 研 究 室	1427
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	180 時間	単 位	必修 4 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 これまでに学習してきた言語聴覚障害学領域の専門知識と技術を臨床の現場で確認、統合する。各臨床実習施設の指導者による指導の下、実際の症例を通して言語聴覚障害（摂食・嚥下障害含む）臨床における情報収集、検査法の選択・施行、検査結果の解釈、診断および鑑別診断、治療方針策定の過程に参加する。また、臨床現場における言語聴覚士と他職種との連携と協調、さらには社会人、職業人として求められる行動を学び、かつ実践する。				【課題等のフィードバック方法】 実習評価表、提出物、学内発表の成績は各担当教員からフィードバックされる。	
【学習の到達目標】 1. 対象児者に関する情報を収集することができる。 2. 病態に応じた適切な検査を選択、施行することが出来る。 3. 以上に基づき適切な評価、診断および鑑別診断と治療計画の立案が出来る。 4. 以上を報告書にまとめ、口頭で発表することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 実習前に各臨床実習施設の指導者と連絡を取り、実習施設で担当する主要な領域について情報を得ておくこと。これに基づき事前に授業内容の復習を行うとともに、関連する検査および治療手技の練習を十分行っておくことが大切である。実習後に実習内容および担当症例に関する適切な報告ができるよう、実習中は必要な情報収集に努めることが求められる。実習に先立ち日頃から社会人、職業人としての心構えと態度を自覚し養う必要がある。	
【成績評価方法】 各臨床実習施設での実習評価表 50%、提出物（実習概要、デイリーノート、実習報告書）30%、学内発表 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語聴覚士国家試験受験のための必須科目である。大学で学んだ知識が医療・福祉の現場でどのように生かされるのかを知ることが出来る。社会人、職業人としての自らの将来像を展望するとともに、人として成長する機会となる。	
				【実務家教員担当科目】 臨床で実務経験を持つ教員が実習指導者とともに助言・指導する。	
授 業 計 画					
1. 実習内容 ①. 観察・情報収集 ②. 検査の選択・施行 ③. 結果の解釈、診断および鑑別診断 ④. 治療方針の決定、治療プログラムの立案 ⑤. 報告書作成 2. 実習終了後 ①. 実習報告会での口頭発表					
教 科 書	なし				
参 考 書	言語聴覚障害に関する各科目の教科書				
備 考	「臨床実習の手引き」を配布する。 実習担当教員としっかりと報告・連絡・相談を取って進めること。				

科 目 名		臨床実習Ⅱ		担 当 者	○柴田 寛・藤原加奈江 高卓 輝・中村 哲也 八鍬 央子・小泉 智枝 阿部 千佳	
科目ナンバリング		1030442092			常勤	
D P		2,3		教 員 研 究 室		
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	4 年次・前期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	360 時間	単 位	必修 8 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 臨床実習Ⅰの学修をふまえ、言語聴覚障害と嚥下障害の評価・診断、これに基づく訓練・指導・援助等言語聴覚療法の全体像を臨床実習施設で学ぶ。臨床実習指導者の基で実際の症例を通し、情報の収集、検査法の選択と実施、検査結果の解釈と鑑別診断、目標設定、訓練計画の立案とその実践を学ぶ。また、臨床実習Ⅰと同様に、臨床の場における多職種の連携や専門職としての職業倫理を学び、各障害の特徴やそれらに対する取り組みの多様性を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 臨床実習評価表、その他提出物については臨床実習終了後に各担当教員がフィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 1. 対象児者に関する情報を収集し、検査を選択し、実施することができる。2. 検査結果を適切に評価し、訓練の目標設定および計画立案ができる。3. 計画に基づき訓練を実施することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 実習前に検査法とその解釈、訓練法について十分学習しておく必要がある。実習生として適切な態度や、自らの健康管理が出来るよう日頃から心がける。		
【成績評価方法】 臨床実習評価表 50%、臨床実習報告書およびデイリーノート 30%、学内口頭発表 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 今までに学んだ専門知識やスキルを臨床の場でどう活用するかを体験する事ができる。将来、言語聴覚士として働く際に求められるスキル、行動、態度を知る機会となる。		
【実務家教員担当科目】 言語聴覚士として臨床で実務経験を持つ教員が実習指導者とともに助言・指導する。						
授 業 計 画						
1. 実習前学習 ①臨床実習Ⅰの経験を踏まえて足りない知識、スキルの確認と検査実施練習 2. 実習内容 ①観察・情報収集 ②検査の選択と実施 ③検査結果の解釈と問題点の抽出 ④評価および鑑別 ⑤訓練目標の設定 ⑥評価報告書の作成 ⑦訓練プログラムの立案 ⑧訓練の実施 ⑨症例報告書の作成 3. 実習後指導 ①臨床実習報告書およびデイリーノート提出 ②学内口頭発表						
教 科 書		各専門科目の教科書				
参 考 書		特になし				
備 考		問い合わせは八鍬まで				

科 目 名		基礎ゼミナール			担 当 者	○高卓 輝・八鍬 央子 柴田 寛	
科目ナンバリング		1030442093				常勤	
D P		1,3			教員研究室		1424
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次		2 年次・前期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位		必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 言語聴覚士国家試験の出題範囲の中で、1 年次に履修した領域（専門基礎）の国家試験過去問題を使用し、少人数グループで協力して問題の解説（国家試験対策ノート）を作成する。教員が持ち回りで指導する。					【課題等のフィードバック方法】 授業の中で随時行う。		
【学習の到達目標】 1. 国家試験に向けて、専門基礎の知識を定着させる。 2. 自律した学習者としての基本的な学習態度を習得する。 3. 国家試験対策として、様々な書籍の活用の方法を学ぶ。 4. 互いに協力して学習目標を達成するスキルを習得する。					【履修上の注意・予習・復習について】 協調性と主体性をもって積極的に授業に参加すること。		
【成績評価方法】 定期試験 100%					【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家試験に向けて、専門基礎の知識の定着と学習方法の確立を図ることができる。他者と協力し目標を達成するスキルを育むことができる。		
【実務家教員担当科目】 言語聴覚士などの資格を持つ教員がその経験を活かして、言語聴覚士国家資格取得に必要な知識や他者と協働するスキルについて指導する。							
授 業 計 画							
回	担当教員		学修内容		学修課題・必要な学修時間		
					予習・復習		学修時間
1	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ガイダンス		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
2	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ゼミ 1： 国家試験過去問題の解説を、グループのメンバーと協力して作成する。国家試験に向けて準備すべきことについて話し合う。		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
3	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ゼミ 1： 国家試験過去問題の解説を、グループのメンバーと協力して作成する。国家試験に向けて準備すべきことについて話し合う。		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
4	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ゼミ 1： 国家試験過去問題の解説を、グループのメンバーと協力して作成する。国家試験に向けて準備すべきことについて話し合う。		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
5	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ゼミ 2： 国家試験過去問題の解説を、グループのメンバーと協力して作成する。国家試験に向けて準備すべきことについて話し合う。		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
6	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ゼミ 2： 国家試験過去問題の解説を、グループのメンバーと協力して作成する。国家試験に向けて準備すべきことについて話し合う。		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
7	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ゼミ 2： 国家試験過去問題の解説を、グループのメンバーと協力して作成する。国家試験に向けて準備すべきことについて話し合う。		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
8	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ゼミ 3： 国家試験過去問題の解説を、グループのメンバーと協力して作成する。国家試験に向けて準備すべきことについて話し合う。		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
9	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ゼミ 3： 国家試験過去問題の解説を、グループのメンバーと協力して作成する。国家試験に向けて準備すべきことについて話し合う。		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
10	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ゼミ 3： 国家試験過去問題の解説を、グループのメンバーと協力して作成する。国家試験に向けて準備すべきことについて話し合う。		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
11	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ゼミ 4： 国家試験過去問題の解説を、グループのメンバーと協力して作成する。国家試験に向けて準備すべきことについて話し合う。		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
12	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ゼミ 4： 国家試験過去問題の解説を、グループのメンバーと協力して作成する。国家試験に向けて準備すべきことについて話し合う。		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
13	高卓 輝・八鍬 央子、 柴田 寛、藤原加奈江	ゼミ 4： 国家試験過去問題の解説を、グループのメンバーと協力して作成する。国家試験に向けて準備すべきことについて話し合う。		予習・復習： 各教員の指示に従うこと。		1 時間	
14	高卓 輝	最終テストを実施する。		予習： テストに向けて準備する。		1 時間	
教 科 書		ガイダンス時に、各教員が説明する。					
参 考 書		特になし					
備 考		問い合わせ先： 高卓 輝（1424 研究室）					

科 目 名		総合演習		担 当 者	○八鍬 央子・藤原加奈江 高卓 輝・柴田 寛 中村 哲也・小泉 智枝 阿部 千佳・沼田 純希 矢萩 未来・加賀谷 豊 木島 真央・佐々木浩児	
科目ナンバリング		1030442094			常勤	
D P		2,3		教員研究室	1423	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	90 時間	単 位	必修 3 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 臨床実習に向けて基礎知識の整理・定着を行い、臨床に必要な言語聴覚障害領域の評価技術や面接技術を含むコミュニケーション能力を身につける。さらに、臨床現場で必要となる多職種連携や感染対策の知識、医療従事者としてのマナーなどについても学ぶ。 【学習の到達目標】 1. 臨床実習に必要な基礎知識を確実に身につける。 2. 臨床実習で要求される医療技術者としてのコミュニケーションスキルを身につける。 3. 言語聴覚障害領域の各種の評価を的確に行い、結果を分析して訓練計画を立てることができる。 4. 臨床実習のまとめとして要求される症例報告書の書き方を身につける。 5. 立案した訓練計画に基づき、効率的な訓練を行うスキルを身につける。 【成績評価方法】 科目の最終成績は、①受講態度 10% ②症例報告書 10% ③3 種の OSCE 各 20% ずつ ④キーワード確認テスト 20% の割合で評価する。 【課題等のフィードバック方法】 各 OSCE 実施後と症例報告書提出後は、その内容について個別にフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・講義を欠席する場合は、予め当日の担当教員にメールで連絡をすること。 ・講義の内容によって、実習着着用を求めることがある。 ・検査練習は授業の空き時間を利用して積極的に行うこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨床実習に向けてはもちろん、国家資格取得後に臨床現場に出た時にも求められる、知識や実務的な技能を習得できる。 【実務家教員担当科目】 言語聴覚士の資格を持ち、臨床で実務経験がある複数の教員が、臨床経験に基づいて演習を指導する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習	学修時間		
1	八鍬 央子・小泉 智枝	ガイダンス・インタークとスクリーニングについて・医療接遇マナー講座	予習：特になし。 復習：インターク面接時のポイントや臨床観察のポイントを再確認する。	1 時間		
2	専攻教員全員	自由会話練習	予習：模擬患者さんとの自由会話で話題にできることを考える。 復習：録画した自分の自由会話場面の動画をみて、癖や改善点を知る。	1 時間		
3	外部講師（佐々木浩児先生）・八鍬 央子・小泉 智枝	ST 業務と臨床実習について（実習指導者の立場から）	予習：実習指導者の先生に質問したいことを考える。 復習：特になし。	1 時間		
4	加賀谷豊先生・八鍬 央子・小泉 智枝	フィジカルアセスメント	予習：特になし。 復習：特になし。	1 時間		
5	外部講師（木島 真央先生）・八鍬 央子	AAC について	予習：特になし。 復習：特になし。	1 時間		
6	中村 哲也・阿部 千佳	構音障害について	予習：構音障害学で学んだ内容を確認する。 復習：講義で実施した内容について、理解し体得できるまで学ぶ。	1 時間		
7	PT 沼田 純希先生・OT 矢萩 未来先生・八鍬 央子・小泉 智枝	PT 業務について・動作介助の演習・バイタルサイン測定の演習・OT 業務について・学内 OT 施設見学	予習：特になし。 復習：配布された資料で学んだ内容を確認する。	1 時間		
8	八鍬 央子・小泉 智枝	失語症・高次脳機能障害について	予習：失語症学と高次脳機能障害学で学んだ内容を確認する。 復習：講義で実施した内容について、理解し体得できるまで学ぶ。	1 時間		
9	高卓 輝	聴覚障害について	予習：聴覚障害関係の講義で学んだ内容を確認する。 復習：講義で実施した内容について、理解し体得できるまで学ぶ。	1 時間		
10	阿部 千佳・小泉 智枝	嚥下障害について	予習：嚥下障害学の講義で学んだ内容を確認する。 復習：講義で実施した内容について、理解し体得できるまで学ぶ。	1 時間		
11	阿部 千佳	感染対策について	予習：特になし。 復習：実習で実践できるように感染対策について理解する。	1 時間		
12	藤原加奈江	言語発達障害について・脳画像の見方	予習：言語発達障害学の講義で学んだ内容を確認する。 復習：講義で実施した内容について、理解し体得できるまで学ぶ。	1 時間		
13	小泉 智枝・八鍬 央子	症例報告書の書き方	予習：3 年前期までの各科目で学んだ症例報告書の書き方について確認する。 復習：症例報告書作成についての課題に取り組む。	1 時間		
14	柴田 寛・八鍬 央子・小泉 智枝	キーワード確認テスト	予習：予め配布された出題範囲を参考に、基礎知識の整理をしてテストに備える。 復習：わからなかった問題について調べて理解する。	1 時間		
教 科 書		特になし。				
参 考 書		特になし。				
備 考		問い合わせ先：八鍬央子（1423 研究室）・小泉智枝（1426 研究室）				

科 目 名		領域別セミナー I		担 当 者	○中村 哲也・藤原加奈江 高卓 輝・柴田 寛 八欽 央子・小泉 智枝 阿部 千佳	
科目ナンバリング		1030442095			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室	1427	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 臨床実習と国家試験に備え、これまでに学んだ聴覚障害、失語・高次脳機能障害、言語発達障害、音声障害、構音障害、脳・神経系の知識をスモール・グループで再度確認し、系統立てて整理する。授業はグループ単位で実施する。						
【課題等のフィードバック方法】 課題の進め方、各領域の内容について質問を受け付け担当教員が回答する。						
【学習の到達目標】 各専門領域の知識を系統立てて整理することで、臨床の場で活用可能な統合された知識の獲得ができ、また、国家試験に向けての準備をさらに進めることができる。臨床実習および国家試験に必要な知識を自律的・能動的に深めるための学習習慣を身につける。 具体的には次の通りである。①国試過去問に対して正解を選ぶようになる、②国試過去問に対して各選択肢がなぜ正しいのか、なぜ間違っているのか、解説が作成できるようになる、③国試過去問の類似問題でも解説できるように関連知識をまとめられるようになる、④まとめた知識の効果的な覚え方を学ぶ、⑤ほかの人に説明できるようになるまで理解を深める、⑥臨床の場で活用できる知識にする、⑦学習計画を立てて、計画通りに学習を進められるようになる（計画通りにいかない場合も修正できる）、⑧わからない箇所は質問する						
【履修上の注意・予習・復習について】 割り当てられた領域について、これまでの授業で学んだことを予め調べておくこと。 臨床実習や国家試験に深く関わる科目であり、積極的に活動すること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 1、2 年で学んだ専門および専門基礎領域の知識を整理することで、今後の演習や臨床実習、国家試験に向けての準備ができる。						
【実務家教員担当科目】 臨床で実務経験を持つ教員が授業を行う。						
【成績評価方法】 試験 100% 大学既定の出席時間を満たしていること						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	全教員	課題配布、全体ガイダンス、ゼミごとに分かれてガイダンス、課題開始	特になし。		1 時間	
2	全教員	前半①：授業では課題内容を覚えているか、理解できているかを確認する。ほかの人に説明できるようになるまで知識の理解を深める。	前半①：ゼミ担当教員の課題を予習してくる。事前に覚えておくこと。ゼミ担当教員以外の課題も授業以外の時間を使って各自で同じ内容の学習を進めておくこと。わからない箇所は事前に約束をして教員に聞くこと。		1 時間	
3	全教員	前半②：前半①と同じ	前半②：前半①と同じ		1 時間	
4	全教員	前半③：前半①と同じ	前半③：前半①と同じ		1 時間	
5	全教員	前半④：課題と関連した国家試験過去問の解き方、学習方法を学ぶ。正解が選べるようになる。解説できるようになる。	前半④：ゼミ担当教員の課題と関連した国家試験過去問の予習しておく。ゼミ担当教員以外の課題に関連した国家試験過去問も授業外の時間を使って各自で同じ内容の学習を進めておく。不明点は事前に約束をして教員に聞くこと。		1 時間	
6	全教員	前半⑤：前半④と同じ	前半⑤：前半④と同じ		1 時間	
7	全教員	前半⑥：前半④と同じ	前半⑥：前半④と同じ		1 時間	
8	全教員	中間試験、自己採点、ガイダンス	中間試験を行う。		1 時間	
9	全教員	後半①-1：新たなグループ、教員と学習を進める。その他は前半①、④と同じ	後半①-1：新たなグループ、教員と学習を進める。その他は前半①、④と同じ		1 時間	
10	全教員	後半①-2：後半①-1と同じ	後半①-2：後半①-1と同じ		1 時間	
11	全教員	後半①-3：後半①-1と同じ	後半①-3：後半①-1と同じ		1 時間	
12	全教員	後半②-1：新たなグループ、教員と学習を進める。その他は前半①、④と同じ	後半②-1：新たなグループ、教員と学習を進める。その他は前半①、④と同じ		1 時間	
13	全教員	後半②-2：後半②-1と同じ	後半の問題を対象とする。その他は第 2 回と同じ。		1 時間	
14	全教員	後半②-3：後半②-1と同じ	後半②-3：後半②-1と同じ		1 時間	
教 科 書		「言語聴覚士 国家試験マスターノート」上月正博 監修メジカルビュー社				
参 考 書		各教員が紹介する。				
備 考		質問があれば、授業全体については中村、ゼミ単位での課題の進め方については担当教員に連絡すること。				

科 目 名	領域別セミナーⅡ			担 当 者	○柴田 寛・藤原加奈江 高卓 輝・中村 哲也 八嶽 央子・小泉 智枝 阿部 千佳・辻川 寛 戸田 孝史・矢入 聡 西尾 桂子・東ヶ崎祐一
科目ナンバリング	1030442096				常勤・非常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	1413
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	120 時間	単 位	必修 4 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 聴覚障害、失語症・高次脳機能障害、言語発達障害、音声障害、構音障害等の専門領域と専門基礎領域の知識および臨床技術を領域別に系統立てて整理して学ぶ。更に領域を超えて総合的な評価、訓練、支援の方法を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 試験の成績は個別にフィードバックを行う。間違っていた箇所は復習すること。	
【学習の到達目標】 言語聴覚士として臨床業務を行うために必要な専門領域、専門基礎領域の知識を確実なものとし、更にその知識を統合し、総合的な評価・訓練ができるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 各課題は授業前に調べてノートにまとめておくこと。各領域が終了するまでにその領域の知識を系統立ててノートに整理すること。試験の成績がフィードバックされたら必ず復習を行うこと。	
【成績評価方法】 テスト 100% 大学既定の授業出席数を満たしていること				学習する科目の順番はグループによって異なる。講師の都合により授業時間の変更されることがある。さらに、正規の授業時間数を超えて授業が実施されることがある。	
				【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家試験に必要な知識を体系立てて整理して確実なものにすることができる。臨床業務を行うための専門知識、技術を確実なものにすることができる。	
				【実務家教員担当科目】 実務経験者の教員が担当する。	
授 業 計 画					
【学習内容・担当教員】 1～8 回 高次脳機能障害、失語症およびその関連領域（八嶽央子、小泉智枝） 9～16 回 音声障害、構音障害およびその関連領域（中村哲也、阿部千佳） 17～24 回 成人聴覚障害およびその関連領域（高卓輝） 25～32 回 言語発達障害、心理学およびその関連領域（藤原加奈江、柴田寛） 33～38 回 解剖・生理学（辻川寛） 39～40 回 臨床口腔歯科医学（戸田孝史） 41～44 回 言語学（寺嶋大輔） 45～48 回 音響学・聴覚心理学（矢入聡） 49～55 回 基礎医学、臨床医学（西尾桂子） 56 回 脳・神経系（柴田寛） 【予習・復習】 各回とも配布プリントと参考書を用いて授業内容を予習・復習しておくこと 詳細は担当教員の指示に従うこと					
教 科 書	なし				
参 考 書	「言語聴覚士国家試験必修チェック分野別要点マスター」 「言語聴覚士テキスト 第3 版」 「病気がみえる⑦脳・神経 第2 版」 このほか該当科目で用いた教科書と配布資料				
備 考	各科目の質問は担当の教員まで				

科 目 名		言語聴覚学特別講義		担 当 者	○柴田 寛・藤原加奈江 高卓 輝・中村 哲也 八欽 央子・小泉 智枝 阿部 千佳	
科目ナンバリング		1030442097			常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	1413	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 これまでに学んだ言語聴覚士に必要な専門基礎科目ならびに専門科目について、学習内容を振り返りながら各科目の理解度と習得状況を確認する。不十分な科目や内容については計画的に再学習し、言語聴覚療法に関する知識を確固たるものにする。頻回に確認試験を実施し、成績分析を行って学習方法を検討する。 【学習の到達目標】 言語聴覚士に必要な学力を身につける。そのためには、以下が必須条件である。1. 専門基礎科目の内容について理解出来ており、確認試験でも 6 割以上正答できる。2. 専門科目の内容について理解出来ており、確認試験でも 6 割以上正答できる。 【成績評価方法】 テスト 100% 大学既定の授業出席数を満たしていること 【課題等のフィードバック方法】 確認試験の成績は終了後返却される。間違っていた箇所は復習すること。 【履修上の注意・予習・復習について】 予習・復習は必修である。また、講師の都合により授業時間が変更されることがある。さらに、正規の授業時間数を超えて授業が実施されることがある。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語聴覚士の臨床の基礎知識を得る事が出来る極めて重要な授業である。 【実務家教員担当科目】 実務経験者の教員が担当する。						
授 業 計 画						
【学習内容・担当教員】 1 回 脳・神経系、心理学そのほか専門基礎科目（柴田寛） 2 回 聴覚障害およびその関連領域（高卓輝） 3 回 高次脳機能障害およびその関連領域（八欽央子） 4 回 失語症およびその関連領域（小泉智枝） 5 回 言語発達障害およびその関連領域（藤原加奈江） 6 回 音声障害、音響学およびその関連領域（阿部千佳） 7 回 構音障害およびその関連領域（中村哲也） 【予習・復習】 各回とも配布プリントと参考書を用いて授業内容を予習・復習しておくこと 詳細は担当教員の指示に従うこと						
教 科 書		なし				
参 考 書		該当科目で用いた教科書と配布資料				
備 考		各科目の質問は担当の教員まで。				

科 目 名		保健医療福祉概論		担 当 者	森田慎二郎	
科目ナンバリング		1030522099			常勤	
D P		2,4		教 員 研 究 室	3305	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 保健医療福祉専門職は、患者・利用者を支援する際には、関連する諸制度の概要を知っておく必要がある。この講義では、保健・医療・福祉制度の概要、歴史、関連法について概観し、医療保険、介護保険、障害者総合支援法などの仕組みとサービス内容等について学ぶ。 【学習の到達目標】 ・社会保障制度の概要を説明できる。 ・各種保健医療福祉制度の概要とサービス内容について説明できる。 ・専門職として各種制度との関わりを理解することができる。 【成績評価方法】 期末テスト 100% 【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、ミニッツペーパーにより質問を受け付け、次回に回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語厳禁 【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療専門職として活躍するうえで有用な基礎知識が得られる。 【実務家教員担当科目】 該当なし。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		時間（分）	
1	森田慎二郎	オリエンテーション、保健医療福祉の基盤となる考え	復習として教科書で全体像を把握する。		4 時間	
2	森田慎二郎	保健・医療・福祉の諸制度（社会保障制度の概要）	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
3	森田慎二郎	保健・医療・福祉の歴史的展開	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
4	森田慎二郎	現代の保健・医療・福祉を支える関連法、施設体系	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
5	森田慎二郎	社会福祉と公的扶助	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
6	森田慎二郎	医療保険の仕組みと種類①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
7	森田慎二郎	医療保険の仕組みと種類②	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
8	森田慎二郎	年金制度の仕組みと動向	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
9	森田慎二郎	労災保険と雇用保険	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
10	森田慎二郎	介護保険制度の仕組み①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
11	森田慎二郎	介護保険制度の仕組み②	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
12	森田慎二郎	障害者総合支援法と障害者福祉サービス	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
13	森田慎二郎	地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉サービス①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
14	森田慎二郎	地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉サービス②、まとめ	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。		4 時間	
教 科 書		椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		特になし。				

科 目 名		専 門 職 連 携 論		担 当 者	○大黒 一司・大庭 みよ 渡邊 隆夫・伊藤 清世 榎林 雅司・佐藤 尚子 土井 勝幸	
科目ナンバリング		10305220100			常勤	
D P	2,4		教 員 研 究 室		3211	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 疾病を抱えた患者や障害のある人の課題を解決しニーズに応えることは、対象者（利用者）に対して保健医療福祉の各分野の専門家が協働することであると理解できる。各分野の専門職が関わることでより質の高いサービスを提供することが可能になる。保健医療福祉の連携は、各分野の専門職の視点も大切であるが、むしろチームとしての視点が重要になる。しかし、チームとしてのアプローチが各専門職の技術を持ち寄るだけでは十分とは言えない。対象者(利用者)の課題やニーズに対する共通の理解、価値観にも基づいて関わること（連携）が重要である。 専門職連携論では、多職種連携が求められる背景、多職種連携の理念・定義、実践方法、実践事例の学習を通して連携の基盤と方法について学ぶ。 【学習の到達目標】 ・専門職連携が求められる背景について説明できる。 ・専門職連携の理論及び実践方法について理解できる。 【成績評価方法】 授業時のレスポンスペーパー 30% 課題レポート 70%						
【課題等のフィードバック方法】 ・講義終了後、質問を受け付け回答する。 ・レスポンスペーパーによる質問を受け付けと次回授業時に受講者全体に回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 指定された席で受講する。レスポンスペーパーは毎回必ず提出する。 専門職連携セミナー（3 年後期）の履修を希望する者は本科目を必ず履修すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 多職種連携科目を 1 年～3 年で体系的に学びを実践に向けて深めることができる。 【実務家教員担当科目】 病院・施設において多職種連携を実践していた。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習	時間（分）	
1	大黒 一司	1) オリエンテーション 2) 本学における多職種連携教育（IPE）		復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
2	大黒 一司	1) 多職種連携（IPW）とは 2) IPE の経緯と定義、目標		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
3	大黒 一司	1) 多職種のチームにおけるさまざまな連携のありかた 2) 多職種連携における課題		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
4	大黒 一司	多職種連携の実践に必要なコミュニケーション能力		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
5	大黒 一司	チームワークの成り立ち		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
6	大庭 みよ （看護師）	多職種連携における医療福祉連携士の役割		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
7	渡邊 隆夫 （医師）	IPW の実際 1 医療における IPW の実際と医師の役割		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
8	相澤 康弘 （臨床工学技士）	IPW の実際 2 多職種連携における臨床工学技士の役割と実践		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
9	榎林 雅司 （薬剤師）	IPW の実際 3 多職種連携における薬剤師の役割と実践		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
10	伊藤 清世 （管理栄養士）	IPW の実際 4 多職種連携における管理栄養士の役割と実践		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
11	佐藤 尚子 （看護師・診療看護師）	IPW の実際 5 福祉施設における多職種連携の実際		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
12	土井 勝幸 （施設長・作業療法士）	IPW の実際 6 地域包括ケアにおける多職種連携の実際		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
13	大黒 一司、他	グループワーク 多職種連携に必要なこと 事例を通して考える		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
14	大黒 一司、他	グループワーク 多職種連携に必要なこと 事例を通して考える		予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間	
教 科 書		指定教科書は特にない				
参 考 書		必要に応じて図書や文献を紹介する				
備 考		質問等の問い合わせ：大黒一司（リハビリテーション学科作業療法学専攻）				

科 目 名	専門職連携セミナー			担 当 者	大黒 一司
科目ナンバリング	10305220101				常勤
D P	2,4			教員研究室	3211
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 これからの専門職に求められるのは、対象者（利用者）を中心としてその多面的なニーズに的確に応える能力です。そのためには専門職連携という基礎的な素養の上に各々の専門性が確立されなければならない。専門職としての成長と専門職連携教育の融合（trans-disciplinary）により、時代が求める専門職連携の中核になりうる人材育成を目指します。				【課題等のフィードバック方法】 ・グループワーク担当教員（ファシリテーター）が適宜助言する ・発表会に向けて担当教員が助言する	
【学習の到達目標】 ・自分の専門性を他の専門職に説明し、他の専門性を学ぶことができる。 ・対象者（利用者）のニーズを多面的に理解し、考えることができる。 ・専門職間の協働によって解決できる共通の課題と目標を抽出することができる。 ・共通目標達成のために専門職としてのそれぞれの役割を理解し実践できる。 ・専門的立場から事例に内在する課題を見出し、各々の目標と計画を作成することができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 グループワークにより模擬事例の討議するため積極的に参加すること。 本科目の履修要件：専門職連携論を履修し合格していること。	
【成績評価方法】 ・グループワークによる「専門職連携セミナー報告書」「成果報告会プレゼンテーション」70% ・リフレクションシート 30%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 多職種への理解が深まるばかりでなく、自らの専門性を再認識する機会となる。	
				【実務家教員担当科目】 病院・施設において多専門職連携を実践していた。	
授 業 計 画					
1. 専門職連携セミナーの目的と意義、進め方について 2. 連携セミナーにおける学習方法（グループワーク）の理解 3. グループワーク、スケジュール確認、活動計画作成 4. 各職の紹介とこれまでの学び、実習経験など 5. 実習室ツアー 6. 事例について読みあわせと情報の確認 7. 用語について各職種間の共通認識 8. 事例の共通目標検討 9. 共通目標達成に向けた各職種の目標と問題点、問題点解決のための支援策の検討 10. 共通目標達成に向けた目標と問題点、問題点解決のための支援策の共通認識と実現の可能性の検討 11. 発表に向けた準備 12. リフレクション 13. 発表会 14. 発表会					
教 科 書	随時配布する				
参 考 書	講義中に提示する				
備 考	集中講義となるので、講義等スケジュールに注意すること 質問、問い合わせ：作業療法学専攻 大黒一司（3211 研究室）				

科 目 名		認知神経科学			担 当 者	柴田 寛
科目ナンバリング		10305220102				常勤
D	P	1,4			教員研究室	1413
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 認知神経科学では人間の心理や認知、行動を支える脳のメカニズムの解明を目指している。本講義では神経系の構造、人間の認知と脳の働きとの関連性、認知機能に関連した脳活動の測定方法を学び、認知神経科学の知識の理解を深める。						
【課題等のフィードバック方法】 毎回、授業で取り上げた事項についての確認テストを行う。間違いが多かった問題を中心に次の授業で解説を行う。						
【学習の到達目標】 認知神経科学の内容を正しく理解できるようになる。認知神経科学の専門用語を正しく用いることができるようになる。						
【履修上の注意・予習・復習について】 予習：本講義では主に教科書と配布資料の内容に沿って講義を進める。授業計画や授業の進行状況にもとづき、授業内容を事前に予習しておくことが望ましい。復習：確認テストで間違えた個所を中心に講義内容について復習しておくこと。復習により理解の定着を図ること。						
【成績評価方法】 受講態度 10%、小テスト 10%、定期試験 80% ※大学既定の出席数を満たしていること ※毎回の確認テストとは別に小テストを行う						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 人間の認知や行動を脳の働きに基づいて理解する基礎知識が得られる。これは脳損傷者の理解につながる知識にもなるはずである。						
【実務家教員担当科目】 心理学領域の研究、臨床（心理検査）の実務経験を持つ教員が担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			時間（分）
1	柴田 寛	イントロダクション、脳機能の局在性	復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
2	柴田 寛	神経系の分類、神経細胞の構造	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
3	柴田 寛	脳機能の測定方法	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
4	柴田 寛	脳の全体構造	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
5	柴田 寛	視覚（1）	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
6	柴田 寛	視覚（2）	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
7	柴田 寛	聴覚	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
8	柴田 寛	体性感覚	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
9	柴田 寛	味覚・嗅覚	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
10	柴田 寛	小テスト	小テストの範囲は事前に提示するのでここまでの内容をよく復習しておくこと			4 時間
11	柴田 寛	運動（1）	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
12	柴田 寛	運動（2）	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
13	柴田 寛	運動（3）	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
14	柴田 寛	大脳基底核、小脳、そのほか	予習：教科書の該当箇所を読んでおく 復習：理解が不十分だった箇所を中心にノート、プリント、教科書をもう一度見直す、ノートを整理する			4 時間
教 科 書		医療情報科学研究所（編）『病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版』メディックメディア				
参 考 書		嶋田総太郎（著）『認知脳科学』コロナ社				
備 考		なし				

科 目 名	救命救急学			担 当 者	渡邊 隆夫
科目ナンバリング	10305320103				常勤
D P	1,4			教員研究室	4216
学科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人の生命を脅かす様々な緊急事態に際して、その個体の救命あるいは回復には、早急の救急対応が最重要である。医療の一環を担う職域に従事する者として、救命救急処置法を熟知することは肝要である。この科目では様々な緊急事態とその原因、危険因子を挙げ、それらに迅速かつ確実に対応する応急処置法を講義しその技術を体得させる。加えて、日常的に遭遇する代表的な救急疾患について、概略を講義し、現場での超早期診断や初期対応、治療の進め方を講義する。				【課題等のフィードバック方法】 講義課題については原則 2 週間以内に解答例を示しフィードバックを行う。	
【学習の到達目標】 病院や施設、様々な福祉分野で自信を持って働き、患者さんや高齢者の緊急事態に際しても正しく行動できる知識・技能を身につける。必要に応じ補講を行う。				【履修上の注意・予習・復習について】 教科書で予定範囲を通読すること。 授業資料で復讐すること。	
【成績評価方法】 期末試験 80%、授業課題 20% で評価する。なお他教科実習期間は出席を要しないが、補講を行うので必ず出席すること。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 様々な救急病態を正しく評価し冷静・効果的に対応できるようになる。心肺停止などの事態に対しても適格な行動を取れるようになる。医療人・社会人としてのモラルを高めることができ、医療福祉分野業務において自信を持つことが出来る。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
1. 災害医療・トリアージ 2. 外傷、意識障害 3. 外傷と処置 4. 中毒 1 5. 中毒 2・体温異常 6. 感染症 7. 脳卒中 1 8. 脳卒中 2 9. 心筋梗塞 10. 心不全、ショック 11. 心肺蘇生法					
教 科 書	メディカルスタッフのための救急医学、渡邊隆夫編、医学出版社 ISBN 978-4-87055-126-8				
参 考 書	メディカルスタッフのための内科学、森博愛、伊藤進編、医学出版社 ISBN 978-4-87055-125-1、「わたしたちのからだと健康」vol.10 応急手当と健康、ファーストエイド、その理論と実践（医学映像教育センター、DVD：図書館にあります）、「BLS ヘルスケアプロバイダーマニュアル 日本語版—AHA ガイドライン 2005 準拠（大型本）」（American Heart Association：図書館にあります）				
備 考	質問・問い合わせは主担当教員が受け付ける。				

科 目 名		栄養学概論		担 当 者	○小野部 純・平山 和哉 釵明佳代子	
科目ナンバリング		10305320104			常勤	
D P		1,4		教員研究室		3108 研究室
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次		2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 リハビリテーション医療の対象者には食事療法を必要とする症例が多く、栄養素が生命維持や疾病の発生と治療にどのように関わっているか、そして栄養素摂取の具体的方法をも理解しておく必要がある。 そのために、栄養素の種類と役割、摂取すべきその量（食事摂取基準）について知識を深め、食事療法についても学習する。				【課題等のフィードバック方法】 小テストの結果は、次回の授業時に返却し、自己学習を促す 【履修上の注意・予習・復習について】 初回授業時に改めてシラバスの内容を説明する 【受講して得られる効果・メリット、その他】 将来、リハビリテーション医療の現場で活躍する際、必要とさせる栄養・食事に関する基礎知識を身につけることができる。 【実務家教員担当科目】 多種の内部障害系疾患に携わった経験を持つ教員が、リハビリテーション職として病態理解から介入時に知っておくべき栄養の基礎知識を中心に教授する		

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	時間（分）
1	小野部	リハビリテーション栄養の概念 5 大栄養素 1	・ 栄養の必要性の概要を理解する ・ 糖代謝の概要について理解する	4 時間
2	小野部	5 大栄養素 2	・ タンパク質と脂質の代謝の概要について理解する	4 時間
3	小野部	エネルギー代謝	・ 体内で ATP が生成される過程を理解する	4 時間
4	小野部	日常生活活動量の算出	・ METs の概念を理解する ・ 行動記録から、消費エネルギー量を算出する方法を理解する	4 時間
5	平山	栄養と運動	・ 運動（スポーツ）に関わる栄養の知識を理解する	4 時間
6	釵明	疾患と栄養 1	・ リハビリテーション栄養の重要な対象であるサルコペニアとフレイルの概要について理解する	4 時間
7	釵明	疾患と栄養 2	・ 特に代謝性疾患患者を対象とした食事療法の基礎を理解する ・ 栄養学の視点からの運動処方法の基礎を理解する	4 時間
教 科 書		・ 医療情報科学研究所 編集：病気がみえる 3- 糖尿病・代謝・内分泌疾患 - 第 5 版、MEDIC MEDIA.（既に購入済みの場合には、改めての購入は必要ない）		
参 考 書		必要に応じて、その都度紹介する		
備 考		授業詳細は、初回時に改めて説明する		

科 目 名		病態薬理学		担 当 者	○渡邊 隆夫・津田 丈秀 佐藤 秀隆・松谷 幸子 未定	
科目ナンバリング		10305320105			常勤	
D	P	1,4		教 員 研 究 室	4216	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 必要な薬剤について、関連病態と共に講義する。				【課題等のフィードバック方法】 講義課題については原則 2 週間以内に解答例を示しフィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 各種薬剤の代表的な薬物について作用と効能および副作用について理解できることを目標とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業資料および参考書にて復習をすること。		
【成績評価方法】 定期試験 80％、講義課題 20％で評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 業務の中で用いられる薬剤について病態と関連した基礎的な知識を得ることが出来る。		
				【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		時間（分）	
1	渡邊 隆夫	虚血性心疾患 1	テキスト・配付資料		4 時間	
2	渡邊 隆夫	虚血性心疾患 2	テキスト・配付資料		4 時間	
3	渡邊 隆夫	心臓弁膜症	テキスト・配付資料		4 時間	
4	渡邊 隆夫	先天性心疾患	テキスト・配付資料		4 時間	
5	浅野 浩一	感覚器疾患 1	テキスト・配付資料		4 時間	
6	松谷 幸子	感覚器疾患 2	テキスト・配付資料		4 時間	
7	松谷 幸子	感覚器疾患 3	テキスト・配付資料		4 時間	
8	佐藤 秀隆	呼吸器疾患 1	テキスト・配付資料		4 時間	
9	佐藤 秀隆	呼吸器疾患 2	テキスト・配付資料		4 時間	
10	津田 丈秀	中枢神経系疾患 1	テキスト・配付資料		4 時間	
11	津田 丈秀	中枢神経系疾患 2	テキスト・配付資料		4 時間	
12	渡邊 隆夫	血管の疾患	テキスト・配付資料		4 時間	
13	渡邊 隆夫	膠原病	テキスト・配付資料		4 時間	
14	渡邊 隆夫	内分泌疾患	テキスト・配付資料		4 時間	
教 科 書		特に指定しません。				
参 考 書		適宜紹介します。				
備 考		特になし。				

科 目 名		公衆衛生学			担 当 者	吉田 裕人
科目ナンバリング		10305320106				常勤
D P		1,4			教員研究室	1201
学科（専攻）		リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 少子・高齢化の進む我が国では、健康をキーワードとした社会のしくみや安全に生活するための環境について、いままで以上に重要視する状況となっている。このような社会情勢の中、人口構造や疾病構造の変化や社会経済システムの変化に伴い、保健医療の内容も生命倫理から健康づくりの方策まで幅広く理解していく必要がある。本講義では、健康の維持と増進を求めて展開される様々な計画や活動の基本となるものの見方や考え方、具体的な方法を基盤として、個々の状況や問題を理解していくための知識を習得する。 【学習の到達目標】 健康と社会、環境を相互に関連させながら理解できるようになる。具体的には、衣食住、労働環境、家庭、学校、職場、地域、地球全体までの広範囲な「環境」と保健、医療、福祉の「制度とサービス」が相互に関連して成り立っている社会システムが、「健康」とどのような枠組みや組織の中でつながっているのかを理解し、様々な状況変化に対応した評価方法や健康支援が必要な対象者への情報伝達の方法について考えられる基礎的能力を養う。 【成績評価方法】 定期試験 80％ 毎回の課題提出 20%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			時間（分）
1	吉田 裕人	公衆衛生の理念	公衆衛生の意味などについて事前に調べておく。			4 時間
2	吉田 裕人	健康と環境①	大気汚染の実態などを事前に調べておく。			4 時間
3	吉田 裕人	健康と環境②	上水・下水などの語句を事前に調べておく。			4 時間
4	吉田 裕人	日本における社会保障制度および医療制度の改革	日本の医療・介護保険制度の課題などを事前に調べておく。			4 時間
5	吉田 裕人	グローバル化する世界と公衆衛生	国際保健の意味などについて事前に調べておく。			4 時間
6	吉田 裕人	地域保健	健康日本 21 の内容や保健所の役割などを事前に調べておく。			4 時間
7	吉田 裕人	対象別公衆衛生の実践	我が国の成人保健・高齢者保健などを事前に調べておく。			4 時間
教 科 書		シンプル衛生公衆衛生学 2025（鈴木庄亮・他、南江堂）				
参 考 書		なし				
備 考		なし				

科 目 名	地域言語聴覚療法学			担 当 者	佐々木浩児
科目ナンバリング	10305320107				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現役の言語聴覚士による授業。これまで言語聴覚士の業務の対象は急性期～回復期の患者への評価・リハビリが大半だったが、地域包括ケアシステムの推進に伴い、近年は地域リハビリテーションと称される領域での言語聴覚士の需要が増え続けている。今後ますます拡大されるであろう地域リハビリテーションにおける言語聴覚士の活動＝地域言語聴覚療法、の実際について実例に触れながら学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 適宜質問時間を設けて討議、解説を行う 質問ペーパーにて質問を受け付け、次回授業時にフィードバックする	
【学習の到達目標】 地域言語聴覚療法の概念、生活期における評価・支援で重視される点、失語症者向け意思疎通支援事業、介護・フレイル予防、災害時の言語聴覚士の役割、について理解する				【履修上の注意・予習・復習について】 ・講義中の私語は禁止する ・講師が指示した以外の講義中のスマホ操作は禁止する ・講義中の退出は了解を得た上で行うこと	
【成績評価方法】 定期試験 90％ 質問ペーパーの提出状況 10％				【受講して得られる効果・メリット、その他】 生活期リハビリテーションにおける言語聴覚療法のあり方を知り、問題解決能力を身につけることができる	
【実務家教員担当科目】 現役の言語聴覚士が実施している言語聴覚療法に触れながら、地域言語聴覚療法の役割と有効性について学ぶ					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		時間（分）
1	佐々木浩児	地域言語聴覚療法とは何か	復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
2	佐々木浩児	言語聴覚士に関わる制度の実際	予習：事前配布資料を用いて予習する 復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
3	佐々木浩児	地域言語聴覚療法が重視される背景	予習：事前配布資料を用いて予習する 復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
4	佐々木浩児	“その人”が困ることは何か（基礎）	予習：事前配布資料を用いて予習する 復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
5	佐々木浩児	“その人”が困ることは何か（アドバンス）	予習：事前配布資料を用いて予習する 復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
6	佐々木浩児	“その人”を支援するための評価：概論	予習：事前配布資料を用いて予習する 復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
7	佐々木浩児	“その人”を支援するための評価：シミュレーション①	予習：事前配布資料を用いて予習する 復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
8	佐々木浩児	“その人”を支援するための評価：シミュレーション②	予習：事前配布資料を用いて予習する 復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
9	佐々木浩児	“その人”を支援するための評価：シミュレーション③	予習：事前配布資料を用いて予習する 復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
10	佐々木浩児	“その人”を支援した実践例	予習：事前配布資料を用いて予習する 復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
11	佐々木浩児	失語症者向け意思疎通支援事業	予習：事前配布資料を用いて予習する 復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
12	佐々木浩児	介護予防、フレイル予防	予習：事前配布資料を用いて予習する 復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
13	佐々木浩児	災害リハビリテーション	予習：事前配布資料を用いて予習する 復習：配布資料を元に内容を振り返り、要点を整理する		4 時間
14	佐々木浩児	将来の言語聴覚士に向けて今できること	これまでに学んだことの総復習と試験の説明		4 時間
教 科 書	標準言語聴覚障害学「地域言語聴覚療法学」（医学書院）				
参 考 書	なし				
備 考	なし				

科 目 名	言語聴覚学研究			担 当 者	○中村 哲也・藤原加奈江 高卓 輝・柴田 寛 八畝 央子・小泉 智枝 阿部 千佳
科目ナンバリング	10305420108				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	1427
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（言語聴覚学専攻）			配 当 年 次	3 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	120 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 これまでに講義で取り上げられたり、学習した言語聴覚障害および関連領域において、各自が関心を持った事象について調査・研究を行い、言語聴覚障害学について学びを深める。 立案した研究計画に基づきデータの収集、調査または実験を実施し、結果を分析し考察する。得られた研究成果は最終的に論文としてまとめる。これらの一連の過程を通じて研究手法を実際に経験する。				【課題等のフィードバック方法】 個別指導がメインであり、随時討議を重ね議論を通じてフィードバックを行う。	
【学習の到達目標】 ・基本的な言語聴覚学研究の実施方法がわかる。 ・研究計画書に基づいた研究を実施することができる。 ・研究で得られた質的または量的データを解析し考察を加えて論文形式にまとめることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 担当教員の指導のもとに研究を進める。	
【成績評価方法】 研究報告書 100%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 症例研究・実験・調査、データ解析、論文作成という一連の言語聴覚学研究の実際を体験できる。	
【実務家教員担当科目】 臨床、研究で実務経験を持つ教員が受講学生を個別に担当する。					
授 業 計 画					
授業は担当教員の指導の下、以下の各項に沿って進められる。 1. 研究テーマ及び研究計画を確認する。 2. 先行研究の文献を収集し要約する。 3. 研究計画を完成させる。 4. 研究計画に基づきデータを収集し、結果を分析する。 5. 研究結果に考察を加え、報告書として完成させる。					
教 科 書		なし			
参 考 書		担当教員（各研究指導教員）が紹介する。			
備 考		各研究テーマや内容など、研究指導教員と連絡を取って進めること。			

2025 年度入学者用カリキュラム (視覚機能学専攻)

科 目 名	輝ける者			担 当 者	○小野部 純・他
科目ナンバリング	104011251				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	3108
学 科 (専攻)	リハビリテーション学科 (視覚機能学専攻)			配 当 年 次	1 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業は、地元宮城県を支える取り組みを題材とし、次の2つの観点により授業を展開することで、「主体的に考える力」、「コミュニケーション力」、「問題解決力」を高め、「チームワーク・リーダーシップ」、「市民としての社会的責任」に対する基本的態度を育むことを目的とする ① 地元の産業を支えるとは 最前線で活躍している多様なゲストスピーカーの講義により、職業人の社会・地域の発展に対する思いを知ることから、「働くことの意味」を主体的に考える。 ② 地元を支える活動の実践 グループでの地域創生プロジェクトの企画提案を通して、地元の課題を自分自身と結び付けて考え、チームで提案し、地域を巻き込んで実践する。 【学習の到達目標】 社会の中で「輝く」とは何かについて、各自の考えを持つ 「仕事とはなにか」について考え、各自の考えを持つ 【成績評価方法】 ①レポート内容、②各テーマに関する発表内容の2点から総合的に評価する 【課題等のフィードバック方法】 都度、質疑に応答する 【履修上の注意・予習・復習について】 複数時間で実施することが有効な授業内容の場合、土日もしくは長期休業期間に実施することがある 外部との調整の都合上、授業初回時にあらためてスケジュールを提示する 【受講して得られる効果・メリット、その他】 自ら考え、提案し、他者と協働してプロジェクトを実施する力が身につく 【実務家教員担当科目】 地元を支えているゲストスピーカーなどと、質疑・意見交換が可能となっている					
授 業 計 画					
----- 導入編 1. ガイダンス、グループワーク（アイスブレイク） 2～4. キャリア形成 ----- 地元を支える活動の実践 5～12. 多様な働き方を学び、考える ・地元企業を知る（働くとは何か） ・企業と地域（ゲストスピーカー） ・グループワーク（企業へのインタビュー準備） ・多様な働き方（アシスタ仙台）、企業担当者へのインタビュー ----- 地元の産業活動を知る 13～26. 夏休み企画 秋保ワイナリーとマルシェ ・マルシェの企画 ・マルシェ運営 ----- まとめ 27、28. グループ発表					
教 科 書	特に指定しない				
参 考 書	必要に応じて指示する				
備 考	質問や問い合わせは、常勤教員が受け付ける 複数時間で実施することが有効な授業内容の場合、土日もしくは長期休業期間に実施することがある 外部との調整の都合上、授業初回時にあらためてスケジュールを提示する				

科 目 名		生命を考える			担 当 者	○中村 哲也・阿部 玄治 本多ふく代・大庭 みよ 秋本 和宏
科目ナンバリング		104011252				常勤
D	P	2,4			教員研究室	1427
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 21 世紀に入り日本は本格的な長寿社会を迎えた。加えて、人々には人種・性別・年齢・障害の有無に関わらず自分らしく生きられる社会（多様性のある社会）の実現が求められている。本科目では「ヒトの生命」を主たるテーマとし、「生きること」「死ぬこと」「障害と共に生きること」等について講義を受講しつつ、履修者同士で意見交換を行いながら考える。						
【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートなど小課題については適宜集計し、翌週以降の講義時間中ないしクラスルームを通じてフィードバックする。						
【履修上の注意・予習・復習について】 原則として毎回出席することが求められる。各テーマで課される最終レポートを全て提出しなければ成績評価の対象とならない。						
【学習の到達目標】 健康とは何か、「生」そして「死」とは何かについて、他者の意見を踏まえながら自分なりの考えを述べられるようになること。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 より良く生きることの意味について、同年代の学友の多様な意見に触れる機会を得られる。意見交換を経て自分の考えをまとめることによって、今後の生活に対して前向きになることが期待できる。						
【成績評価方法】 ①講義前後の調べ学習、②講義時間中に取り組む小課題、③レポートの 3 点から総合的に評価する。 課題の内容や課される回数、評価方法は担当教員ごとに異なる。						
【実務家教員担当科目】 看護師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の資格を有する担当教員が、実務経験を踏まえた講義をオムニバス形式で行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	中村 哲也	科目ガイダンス	予習：シラバスを読む 復習：指定された資料を確認する			4 時間
2	加賀谷 豊	日常の医療と臨床研究における生命倫理	予習：クラスルームの症例資料を読んでくる 復習：リアクションペーパー、資料を調べる			4 時間
3	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：資料を調べる 復習：リアクションペーパー、発表準備			4 時間
4	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
5	秋本 和宏	病気を抱えている子どもとその家族を通していのちを考える	予習：発表準備 復習：レポート課題			4 時間
6	本多ふく代	子どもを育てることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
7	本多ふく代	障害児を育てることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
8	本多ふく代	人が育てられる、育てられることについて考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題			4 時間
9	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
10	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
11	阿部 玄治	老いることや障害をもつことの疑似体験を通して「生きる」を考える	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題			4 時間
12	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える ー 生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
13	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える ー 生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート・リアクションペーパー			4 時間
14	大庭 みよ	妊娠・出産を通していのちを考える ー 生まれてくる奇跡、生まれてこれなかったいのちなどー	予習：指定された資料を読む 復習：レポート課題			4 時間
教 科 書		指定なし				
参 考 書		玉井真理子・大谷いづみ（編）（2011）. はじめて出会う生命倫理, 有斐閣アルマ 鮫島浩二（著）植野ゆかり（絵）（2003）. わたしがあなたを選びました、主婦の友社 深澤友紀（著）（2018）. 産声のない天使たち、朝日新聞出版				
備 考		講義の実施スケジュールは担当教員の予定により変更される可能性がある。				

科 目 名		現代社会を視る		担 当 者	○山尾 貴則・豊田 正利 野崎 瑞樹・鑑 さやか 山川 樹・小渕 高志 黒沢 麻美・田中 茜	
科目ナンバリング		104011253			常勤	
D P		2,4		教 員 研 究 室	3304	
学 科 (専攻)		リハビリテーション学科 (視覚機能学専攻)		配 当 年 次	1 年次・前期/後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本科目では、現代社会学部の教員が有する専門的な知識や技術を下敷きとして、「現代社会」をさまざまな角度から「視る」。そのことを通して、社会を知る・捉える・理解する力を培う。基本的には講義形式を取るが、多様な媒体に自分で触れたり、現場で活躍する人々と交流するなど、学内外の活動も含む。最終的には、社会で起きている現象を知るだけでなく、体験したり、問題を見つけて解決方法を考えたり、優れた点を発展させる案を考えることなどができるような力を身につけていく。 【学習の到達目標】 受講生が現代社会における諸問題に自ら関心を持ち、人文社会科学的な知識を下敷きとして諸問題に接近し、理解できるようになる。 【成績評価方法】 講義を大きく4つのパートに分け、それぞれのパートにつき、「講義態度、講義への参加の様子」を10点、「3つ課す課題」をそれぞれ5点として5×3＝15点の総点25点とする。4つのパートを合わせて100点満点で評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 Google クラスルームを使用して受講生からの質問等を受け付け、適宜コメントする。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語をしないこと。普段から社会の諸問題に目を向けること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 受講生が現代社会における諸問題に自ら関心を持ち、人文社会科学的な知識を下敷きとして諸問題に接近し、理解できるようになる。 【実務家教員担当科目】 該当なし。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	山尾	ガイダンスー現代社会を「視る」とは	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
2	山川・小渕	現代社会をニュースから視る (1)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
3	山川・小渕	現代社会をニュースから視る (2)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
4	山川・小渕	現代社会をニュースから視る (3)	受講生自らが新聞等で現代社会において生じている社会問題にどのようなものがあるのかを確認する。		4 時間	
5	豊田・鑑	現代の地域を視る (1)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間	
6	豊田・鑑	現代の地域を視る (2)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間	
7	豊田・鑑	現代の地域を視る (3)	受講生自らが自分の住む地域にどのような歴史と課題があるのかを図書館等で調べる。		4 時間	
8	野崎・黒沢	現代の仕事を視る (1)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間	
9	野崎・黒沢	現代の仕事を視る (2)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間	
10	野崎・黒沢	現代の仕事を視る (3)	受講生自らが働くとは何か、社会に出るとはどのようなことかについて考える。		4 時間	
11	田中・山尾	現代の生 (ライフ) を視る (1)	受講生自らが自分自身の人生 (ライフ) をふり返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間	
12	田中・山尾	現代の生 (ライフ) を視る (2)	受講生自らが自分自身の人生 (ライフ) をふり返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間	
13	田中・山尾	現代の生 (ライフ) を視る (3)	受講生自らが自分自身の人生 (ライフ) をふり返り、自分の姿を見つめ直してみる。		4 時間	
14	山尾	ふり返りー現代社会はどう視えたか	講義全体を通して受講生が何を学んだかをまとめる		4 時間	
教 科 書		指定無し。				
参 考 書		講義内で適宜紹介する。				
備 考						

科 目 名	生活の中の科学			担 当 者	○長田 俊明・沈 紅 鈴木 陽一・鈴木 伸夫 八十川 淳・野崎 淳夫 須藤 諭・山本 和恵 川村 広則・一條 佑介 二科 妃里・富山 正幸 相澤 康弘・古林 俊晃 家名田敏昭・浅井 仁 佐藤 秀隆・工藤 剛実 佐々木典子・高橋 るみ 深谷 碧
科目ナンバリング	104011254				常勤
D P	2,4			教 員 研 究 室	1403
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 生活の「安全・安心・便利・豊かさ」をキーワードに、現在の科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているか、また科学技術の将来あるべき姿について学ぶ。 具体的には、生活の中の電気、命を守る AED（自動体外式除細動器）、住まいや都市の安全・安心技術、災害の減災・復旧に有用な施設整備、生活を便利で豊かにする情報技術、等である。授業の半分程度は基礎知識の修得、半分程度がグループワークや実習・フィールドワーク・アイデアソン・ディスカッション等のアクティブラーニングスタイルで進められる。					
【学習の到達目標】 科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているかを理解する。科学技術がもたらす「安全・安心・便利・豊かさ」について、能動的に活用できるようにする。					
【成績評価方法】 毎回のテーマに対するミニレポートと科目全体に対する総合レポート、双方向授業における主体的取り組みを総合して評価する。					
【課題等のフィードバック方法】 授業では、都度質問を受け回答する。ミニレポートや Google Classroom への質問コメントについては、個別あるいは全体コメントにてフィードバックする。					
【履修上の注意・予習・復習について】 授業に関連する資料は、主として Google Classroom を利用して配信する。 全 14 回の授業に出席することが大原則である。やむを得ず出席できなかった授業については、これらの資料や動画・音声データを利用して学習し、次回授業に臨むこと。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 科学技術・工学分野における様々な専門領域における本学の専任教員から、多面的なテーマについて講義・実習指導を受けることができる。 科学技術が如何に我々の日々の生活に役立っているかを理解し、その認識から個々の専門分野において活用することが期待できる。					
【実務家教員担当科目】 科学技術・工学分野における様々な専門領域における本学の実務家教員も担当し具体的指導を行う。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	鈴木（陽）・長田・八十川・相澤	ガイダンス	シラバスの確認、授業の進め方、成績評価の方法		4 時間
2	浅井 仁	生活の中の電気（100V、200V、直流?）	コンセントの交流と電池の直流の違いを調べる。 <ミニレポート>		4 時間
3	家名田敏昭	生活の中での電気（発電所から送電、家庭までの経路）	発電の方法や電気を送る送電線について調べる。 <ミニレポート>		4 時間
4	相澤 康弘	医療で用いられる電気（人体へ作用する電気）	生体電気の種類、生体電気刺激、治療に用いる電気を調べる。<ミニレポート>		4 時間
5	須藤 諭・川村 広則	安全・安心のための都市環境整備技術	身近な省エネルギー、居住地のハザードマップについて調べる。<ミニレポート>		4 時間
6	野崎 淳夫・富山 正幸	安全・安心のための都市と建築	安全・安心のための都市と建築について、自分の身の回りの実例を調べる。<ミニレポート>		4 時間
7	八十川 淳・二科 妃里	災害と水	災害応急用井戸、水害とマチ、避難生活と水について調べる。<ミニレポート>		4 時間
8	臨床教員・建築教員	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習、班別実技演習の準備学習	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習 <ミニレポート>		4 時間
9	臨床教員・建築教員	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習、班別実技演習	AED 正しい使い方演習、災害時避難所設営演習 <ミニレポート>		4 時間
10	知能情報教員	生活を便利で豊かにする情報アプリ：概要、準備学習	情報システム構築の流れを学び、グループごとに準備を行う。<ミニレポート>		4 時間
11	知能情報教員	アイデアソン演習 1：提案アプリの案出と具体化の検討	前週の検討に基づきアプリの機能等の決定とプレゼンの準備を行う。<ミニレポート>		4 時間
12	知能情報教員	アイデアソン演習 2：アプリの設計とプレゼンの準備	前週検討したアプリの機能を実現するアプリの設計とプレゼンの準備を行う。<ミニレポート>		4 時間
13	知能情報教員	生活を便利で豊かにする情報アプリ：成果発表	提案するアプリに関するプレゼンをグループごとに行う。<投票、ミニレポート>		4 時間
14	鈴木（陽）・長田・八十川・相澤	表彰課題の出題と総括	アイデアソンの高評価グループ表彰課題をテーマにレポート作成		4 時間
教 科 書	特に指定しない。				
参 考 書	その都度必要に応じて紹介する				
備 考	なし				

科 目 名		経済・法律・世界を視る		担 当 者	○馬内 里美・田邊 文彦 ウォルグレイヴ イーライ
科目ナンバリング		104011255			常勤・非常勤
D	P	2,4		教員研究室	1229
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式					

科 目 名		社会活動入門		担 当 者	○加藤 由美・石垣 亨 石橋 千賀・他
科目ナンバリング		104011256			常勤・非常勤
D P		2,4		教 員 研 究 室	1301
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期 / 後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この科目では社会活動を「社会貢献を目的として社会に参加または参画して行う活動」と位置づけ、ボランティア活動をはじめ企業の CSR（Corporate Social Responsibility）活動など多様で広範な諸活動を扱う。各学科専攻の教員及び外部講師がそれぞれの切り口で捉えた社会活動について講義する。授業ではグループワーク、プレゼンテーション等を通じて履修生の主体的な学びを促す。				【課題等のフィードバック方法】 授業毎に担当教員が説明する。	
【学習の到達目標】 ①社会活動の今日的意義を理解している ②自身の考えを適切に表現することができる ③自分らしい社会参画の形を具体的に考察できる				【履修上の注意・予習・復習について】 課題の提出期限を厳守すること（原則として期限後の提出は不受理）	
【成績評価方法】 授業毎に到達目標①②③の達成度を評価し（小テスト、小レポート、コメントなど授業によって評価方法は異なる）、それらの平均点を以て科目の成績評価とする。 到達目標の達成度評価の配点は次のとおり。 ①社会活動の今日的意義を理解している（40 点） ②自身の考えを適切に表現することができる（30 点） ③自分らしい社会参画の形を具体的に考察できる（30 点）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会活動の今日的意義を理解し、自分らしい社会参画の形を見出す一助となる。 グループワーク等を通して、他者と協同して物事に取り組む力が育まれる。自身の考えを適切に表現する力が涵養される。	
【実務家教員担当科目】 NPO 法人 COO・経営者・行政・医療福祉系免許所有者など幅広い実務家が、それぞれの立場で社会活動の今日的意義を講義する。					

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	加藤 由美（地域連携センター長）	科目オリエンテーション	予習：シラバスを熟読し、科目概要を理解する。 復習：オリエンテーション内容に即した学修をスタートさせる	4 時間
2	石垣 亨（NPO 法人 H × Imagine）	地域を活性化させる住民主体の社会活動 ～ NPO 法人 H × Imagine の取り組み	予習：住民が主体となって地域の活性化に取り組んでいる事例を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間
3	三木 千栄（医療福祉学部リハ学科理学療法学専攻）	地域の介護予防・健康増進活動をデザインする	予習：地域の介護予防や健康増進の取り組み事例を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間
4	香山 明美（医療福祉学部リハ学科作業療法学専攻）	認知症サポーター養成活動 ～誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられることを皆で支える	予習：認知症サポーターについて調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間
5	高卓 輝、他（医療福祉学部リハ学科言語聴覚学専攻）	事例に基づき、自分たちが取り組みたい社会活動を考える	予習：日本の技術が他国の発展に貢献した事例を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間
6	石川奈津美（医療福祉学部リハ学科視覚機能学専攻）	社会の伸びしろとは？ ～ゆるスポーツの取り組み	予習：ゆるスポーツについて調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間
7	佐藤 大輔（医療福祉学部看護学科）	臓器提供に関する諸活動を考える	予習：臓器提供の種類を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間
8	石橋 千賀（株式会社 KMSI 代表取締役）	誰もがよりよく生きぬける社会への挑戦	予習：自分にとって「よりよく生きぬく」とはどのようなことかを具体的に考える。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間
9	鈴木 陽一（工学部知能情報システム学科）	レジリエントな情報通信技術（ICT） ～災害に強い ICT の社会実装	予習：レジリエンスについて、特に ICT との関連を含めて調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深め、小レポートに取り組む。	4 時間
10	岡 恵介（現代社会学部社会学専攻）	災害救助犬と地域の安心安全 ～災害救助犬の活動	予習：災害救助犬について調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間
11	徳田 律子（現代社会学部社会福祉学専攻）	視覚に障害のある方とアートを楽しむ ～アートミーツケア活動	予習：障害者とアート活動について調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間
12	大野 朝子（経営法学部経営法学科）	学生によるボランティア活動 ～社会にどうコミットするかを考える	予習：興味関心のあるボランティア活動を挙げ、その理由を考える。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間
13	梅岡 恒治（工学部建築環境学科）	建築・都市の分野に関わるまちづくり実践 ～街の将来ビジョンに関わる社会参加のありかた	予習：自身が魅力的だと考える公共空間事例を調べ、魅力的だと考える理由を考察する。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間
14	相澤 康弘（工学部臨床工学科）	臓器移植の現状と課題を考える	予習：我が国の臓器移植の現況を調べる。 復習：授業内容を振り返り、理解を深める。	4 時間
教 科 書		なし		
参 考 書		必要に応じて適宜指示する		
備 考		なし		

科目名		データサイエンス入門			担当者	○辻川 寛・渡邊 晃久	
科目ナンバリング		104021257				常勤・非常勤	
D	P	1,2			教員研究室	4203 (辻川)・非常勤講師室 (渡邊)	
学科 (専攻)		リハビリテーション学科 (視覚機能学専攻)			配当年次	1 年次・前期	
授業形式		講義	授業時間	30 時間	単位	必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
ICT 活用		☒ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 現代の高度な情報社会では、情報技術 (IT) に進化と共に、人工知能 (AI) の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんな AI データ技術が利活用されているのか、データ AI を活用する際に何に留意すべきかを理解する。 授業は大学が定める数理データサイエンス AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI 技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データ AI のリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。 【学習の到達目標】 1) AI によって変化している現実を理解する、2) データ AI がどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データ AI を活用する際に留意すべきことを理解する。 【成績評価方法】 全学共通のルーブリック評価に基づく。					【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom や Google Form で課題出題、提出、採点後返却、質疑応答などを実施する。 【履修上の注意・予習・復習について】 学部・学科・専攻により、授業計画の前半 7 回分 (1～7) と後半 7 回分 (8～14) の前後が入替わることがある。授業では BYOD (自己所有のノートパソコンやタブレット型端末) を使用するの必ず持参すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 数理・データサイエンス・AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて体系的に学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 なし		
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	渡邊 晃久	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習：情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習：AI・データの発展による活用分野を理解すること。				4 時間
2	渡邊 晃久	コンピュータと AI	予習：高校情報 I で既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習：情報技術の発展が AI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。				4 時間
3	渡邊 晃久	社会で活用される AI・データ	予習：AI・データの活用領域の広がりや活用法を捉えておくこと。 復習：AI・データ活用の事例からデータと AI が関わり新たな価値を創出していることを理解すること。				4 時間
4	渡邊 晃久	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習：現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習：社会システムで活用している AI とビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。				4 時間
5	渡邊 晃久	生活の中の生成 AI	予習：生成 AI の利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習：生成 AI の仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。				4 時間
6	渡邊 晃久	生成 AI の活用の今と将来	予習：高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習：生成 AI の利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。				4 時間
7	渡邊 晃久	社会が求めるデータサイエンス	予習：高校情報 I で既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習：AI とデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりや理解すること。				4 時間
8	辻川 寛	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎 1	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。				4 時間
9	辻川 寛	情報処理ツールの基礎 2	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。				4 時間
10	辻川 寛	データの散らばりを読み取る 1	予習：高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。				4 時間
11	辻川 寛	データの散らばりを読み取る 2	予習：高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。				4 時間
12	辻川 寛	データから全体を推測する 1	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。				4 時間
13	辻川 寛	データから全体を推測する 2	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。				4 時間
14	辻川 寛	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習：各専門分野において、高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習：各専門分野における AI・データサイエンスの利活用の事例 (留意事項を含む) を理解しておくこと。				4 時間
教科書		行場、高谷、渡邊共著「人間中心の AI 社会とデータサイエンス - MDASH リテラシーレベル準拠 -」コロナ社					
参考書		適宜紹介する。					
備考		特になし。					

科 目 名	生活の中の化学			担 当 者	堂浦 克美
科目ナンバリング	104021258				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	1206
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現在、多くの物質やそれを利用した製品が次々と生みだされており、これらの物質は、私たちの毎日の暮らしを豊かにし、生活に欠かせないものになっている。本講義では、化学の基礎とその役割について学ぶ。 また、高校化学の学修が十分ではない受講者でも理解できるよう平易な解説を行う。				【課題等のフィードバック方法】 ミニレポートや小テストなどの課題は、授業中またはクラスルームで解説する。	
【学習の到達目標】 生活の中の化学では、身の回りの物質とその用途などを通して、化学の基礎的知識を習得する。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義のふり返しをおこなうので復習をしておくこと。やむを得ない理由で遅刻や欠席の場合は事前事後に関わらず担当教員まで連絡すること。	
【成績評価方法】 ミニレポート：40%、レポート：60% で総合的に評価する。詳細は、授業時に説明する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 日常生活で使われる商品（食品含む）を通して化学に親しみ、延いては化学の視点から自然科学現象を分析する素地を養うことにつながる。	
				【実務家教員担当科目】 該当せず	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	堂浦 克美	ガイダンス		4 時間
2	堂浦 克美	原子と分子	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
3	堂浦 克美	元素の種類と性質	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
4	堂浦 克美	化学結合	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
5	堂浦 克美	物質量とモル	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
6	堂浦 克美	化学反応式	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
7	堂浦 克美	レポート作成	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
8	堂浦 克美	物質の状態変化：気体の性質 / 溶液の性質	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
9	堂浦 克美	酸化と還元	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
10	堂浦 克美	非金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
11	堂浦 克美	典型金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
12	堂浦 克美	遷移金属元素	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
13	堂浦 克美	脂肪族化合物 / 芳香族化合物	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
14	堂浦 克美	レポート作成	予習：教科書の指定範囲（授業で指示） 復習：前回の内容（ミニレポート含む）	4 時間
教 科 書		「商品から学ぶ化学の基礎」 松田勝彦 著、化学同人		
参 考 書		特になし		
備 考		特になし		

科 目 名		生活の中の生物学			担 当 者	戸田 孝史
科目ナンバリング		104021259				常勤
D P		1,2			教 員 研 究 室	1327
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地球という環境の中で生きる我々ヒトが生物学的にどのような存在なのか、そして我々がヒトは生涯を生き抜くために、どのように身体構造と機能を有しているのか、更に、生物としてどのような役割を果たしているのかについて学ぶ 【学習の到達目標】 生物の多様性と共通・ヒトの生物学的特徴・ヒトが生きる役割について修得する 生命の倫理観を理解できる 【成績評価方法】 レポート 60% ミニレポート（小テストに変えることもある） 40% 詳しいことは授業に置いて説明します 【課題等のフィードバック方法】 レポートやミニレポート等の課題は、授業中またはクラスルームで解説する 【履修上の注意・予習・復習について】 予習を重視すること・学修内容を確認しておくこと 復習は資料の整理を怠らないこと 【受講して得られる効果・メリット、その他】 私たちはどのような存在なのかを生物学的に理解し、私たちが生物としてどのような役割を果たしているのかを知ること、人生を健康に生き抜く意義を感じ取ることができる。また人々が健全に生きるための倫理観を習得できる 【実務家教員担当科目】 該当せず						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容			学修課題・必要な学修時間	
					予習・復習	学修時間
1	戸田 孝史	ガイダンス：生物の進化と多様性 ※生物の進化の過程と人の誕生について触れられないか			予習：生物の進化と多様性について調べておく 復習：授業課題の確認	4 時間
2	戸田 孝史	細胞 1：細胞の種類と細胞膜の構造			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
3	戸田 孝史	細胞 2：核と細胞小器官			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
4	戸田 孝史	細胞 3：栄養と代謝とエネルギー			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
5	戸田 孝史	遺伝情報 1：遺伝のメカニズム			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
6	戸田 孝史	遺伝情報 2：遺伝病			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
7	戸田 孝史	細胞分裂 1：分裂の仕方			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
8	戸田 孝史	細胞分裂 2：減数分裂			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
9	戸田 孝史	人体の階層構造 1：組織と器官			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
10	戸田 孝史	人体の階層構想 2：器官系			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
11	戸田 孝史	ホメオスタシス 1：生体の維持のしくみ			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
12	戸田 孝史	生体防御機構と免疫			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
13	戸田 孝史	成長と老化			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
14	戸田 孝史	生命倫理			予習：該当範囲についての確認 復習：授業課題の確認	4 時間
教 科 書		講義時に指示する				
参 考 書		講義時に指示する				
備 考		連絡事項があれば講義時に指示する				

科 目 名		生活の中の物理学		担 当 者	早川 美徳	
科目ナンバリング		1040212510			非常勤	
D P		1,2		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 私たちの身の回りには、様々な機械、電子機器、ヒトをはじめ様々な動物、天体を含む自然など、さまざまな「物」が存在している。これらの物の動きや機能は、物質の基本的な性質や自然現象を解明しようとする科学的な営みである物理学と深く関係している。本講義では、物理学の基本的な概念や考え方を生活に関係した実例を交えながら紹介し、生活の中の様々な現象や物の動きを物理学に基づいて考えるすべを学修する。あわせて、物理学が今後の生活や社会で果たす役割、影響などについて考えていく。				【課題等のフィードバック方法】 毎回、ミニ課題と講義での気づきや意見・質問をミニットペーパー等で提出する。個別の質問への回答は原則として個別に行い、課題については翌週の授業の最初で振り返りを行う。		
【学習の到達目標】 ・物理学が身の回りの現象の理解に役立つだけでなく、生活の各所で応用されていることを具体的な事例を伴って考え、理解する。 ・安全で健康的な生活を営むための判断に必要な物理学的な知識や常識を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 教室での演示実験を行う予定であるので、実施にあたり積極的に協力すること。毎週、前週講義のふり返しをおこなうので復習をしておくこと。やむを得ない理由で遅刻や欠席の場合は事前事後に関わらず担当教員まで連絡すること。		
【成績評価方法】 ミニ課題 40%、ミニットペーパーの記入状況 40%、最終レポート課題 20%の重みで総合評価する。これらの提出が行われていない回は、出席とみなさないで注意すること。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 私たちの身の回りにある様々な機械、電子機器、ヒトや様々な動物などの機能が理解できるようになる。また、物理学を通して自然や社会を眺めることによって、新しい気づきが生まれ、より豊かな発想や想像力を得ることができる。		
				【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	早川 美徳	ガイダンス（授業の進め方の説明）後、物理学とは何かをテーマとして、物理学の対象と研究方法、基本的な物理量とその定義、計測法、単位について学ぶ	当該の講義内容（教科書 1.2.1 項まで）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
2	早川 美徳	「物理量の単位はどう表されるか」をテーマに、物の長さ、面積、体積、質量、位置、速度、加速度などを対象に、それらを表す SI 単位系（国際標準）について学ぶ	講義内容（教科書 1.2.2 項と 2.1 節）について予習する。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
3	早川 美徳	「物はどうのように落ちるか」と「ロケットは何故飛べるか」をテーマに、自由落下と等加速度運動、重力加速度、様々な力とその合成、作用反作用の法則等について学ぶ	講義内容（教科書 2、3 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
4	早川 美徳	「ニュートンは何を見つけたのか」をテーマに、ニュートンの運動方程式、加速度運動等について学ぶ	講義内容（教科書 4 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
5	早川 美徳	「テーブルクロス引きの上達法」をテーマに、摩擦力、慣性の法則等について学ぶ	講義内容（教科書 5 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
6	早川 美徳	「ジェットコースターの設計法」をテーマに、力学エネルギーと仕事、エネルギーの保存等について学ぶ	講義内容（教科書 7 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
7	早川 美徳	前半のまとめ：物理学の対象と研究方法、基本的な物理量とその定義、計測法、単位と、力学と呼ばれる物理学の分野の考え方を整理する	これまで 6 回の講義内容について復習して、疑問点を整理してまとめる。			4 時間
8	早川 美徳	「空の色が青い理由」と「シャボンの膜が虹色に見える理由」をテーマに、波動としての光の性質、スネルの法則等について学ぶ	講義内容（教科書 10、11 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
9	早川 美徳	「楽器の音程はどう決まるのか」と「救急車のサイレンの音が変わする理由」をテーマに、縦波と横波、音速と波長、固有振動、ドップラー効果等について学ぶ	講義内容（教科書 12、13 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
10	早川 美徳	「暑いということとは」と「クーラーは何故涼しいのか」をテーマに、温度の性質と絶対温度、温度による物質の変化、熱と仕事、熱機関の基本原理解等について学ぶ	講義内容（教科書 17、18、19 章）について予習する。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
11	早川 美徳	「冬場に静電気が起こる理由」と「コンパスはなぜ南北を指すのか」をテーマに、電荷と電荷に働く力、磁場等について学ぶ	講義内容（教科書 20 章と 21.1 節）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
12	早川 美徳	「上手に節電するには」をテーマに、磁場と電流の関係、ローレンツ力、電磁誘導と発電・送電の仕組み等について学ぶ	講義内容（教科書 21.2 節と 22 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
13	早川 美徳	「電子レンジで何故食品が温まるのか」と「もし原発事故が起こったら」をテーマに、電磁波の性質、電磁波と物質の相互作用、放射性崩壊と放射線等について学ぶ	講義内容（教科書 23、24 章）について予習しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
14	早川 美徳	「生活の中の事象を不思議に思うこと」を軸に、担当教員の研究紹介も交えつつ、講義全体のまとめを行う	予習として、事前に配布する資料を通読しておく。授業内容と疑問点を整理してまとめる。			4 時間
教 科 書		齊藤 史郎著、日常の中の物理学、学術図書出版社、2019（1600 円＋税）				
参 考 書		真貝 寿明 著、日常の「なぜ」に答える物理学、森北出版、2015（2200 円＋税） その他、必要に応じて適宜紹介する。				
備 考		資料等は Google Classroom あるいは教室で配布する。				

科 目 名		医療情報科学			担 当 者	鈴木 亮二
科目ナンバリング		1040212511				非常勤
D P		1,2			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 医療現場に就職した際に戸惑わないように、医療情報システムと遠隔医療の概要、並びに個人情報保護について学ぶことを目的とする 【学習の到達目標】 ・医療情報システムの概要を知ることができる ・遠隔医療について知ることができる ・個人情報保護について知ることができる 【成績評価方法】 授業参加態度 10%（10 点） レポート 90%（90 点） 【課題等のフィードバック方法】 ・講義終了後、質問を受け付け回答する 【履修上の注意・予習・復習について】 ・飲食、私語の禁止 ・携帯電話禁止 【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療情報システムの概要と個人情報保護の知識を得ることができるので、医療現場に就職した際にシステムに対して理解できる 【実務家教員担当科目】 大学病院に勤務し、医療情報システム更新を 2 回経験した						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	鈴木 亮二	ICT による見守りと医療情報システム更新について	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
2	鈴木 亮二	遠隔医療と服薬支援について	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
3	鈴木 亮二	電子カルテについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
4	鈴木 亮二	医事会計システムについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
5	鈴木 亮二	部門システムについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
6	鈴木 亮二	個人情報保護について	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
7	鈴木 亮二	アクセシビリティについて	予習：専門用語の意味を理解しておくこと 復習：専門用語の意味を再確認し、理解すること			4 時間
教 科 書		保健医療福祉情報システム工業会編、医療情報システム入門 2023、社会保険研究所				
参 考 書		該当なし				
備 考		該当なし				

科 目 名		医療のための基礎数学		担 当 者	坂本 保夫	
科目ナンバリング		1040212512			常勤	
D P		1,2		教員研究室		4205
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次		1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 視覚機能学専攻では、眼球光学系の基本構造と特徴を知り、眼の異常の検査・矯正法を学修する上で、まず視力・屈折・調節・両眼視機能などに関連した重要な計算（式）を学ぶ必要がある。本講義では専門分野の履修のために、入学前教育・数学オリジナルテキスト（第2部）に従って、基本的な数学計算の復習から始め、論理的な思考を身につけるために医療のための基礎数学を学修する。 【学習の到達目標】 1) 眼科臨床検査でも必要な小数・分数・指数・対数・割合・比・三角関数・ベクトルなどの正確かつスピーディーな計算を身につける。 2) 単位変換（角度、距離、速度など）を身につける。3) 命題・推理などから論理的な思考を身につける。4) 眼科診療録にも用いられる図表・グラフ資料の読み取りに強くなる。 【成績評価方法】 （第2部）第1講から第4講は確認テスト（基本数学計算試験：全272問）：40%、第5講以降は予習課題：60%、計100%で成績評価を行う。 【課題等のフィードバック方法】 予習課題の解答と解説は毎回の授業でフィードバックする。詳細な質疑応答は、Google Classroom またはオフィスアワーを利用した個人面談で行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 予習課題は、計算の正確さとスピーディーさを身につけるのに必修である。繰り返し課題を行い、不明な点は即、面談に来て下さい。授業ではコミュニケーションを身につける上でも、遠慮なく質疑応答を行ってください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本講義で得られる医療のための数理基礎知識は、視覚機能検査・訓練に携わるものにとって、最も基本的な能力であり、これを身につけることは眼科臨床においても必要不可欠である。また就職数学系試験の攻略にもつながる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	坂本 保夫	（第2部）第1-4講：基本計算の確認（四則・小数・分数・方程式・分数方程式・割合・比）			4 時間	
2	坂本 保夫	第5講：データの活用（ヒストグラム・散布図・度数と階級・最頻値・中央値）	事前課題：第5講「データの活用」の間1～間5を解答		4 時間	
3	坂本 保夫	第5講：データの活用（平均値・最頻値・データの分散・四分位数・箱ひげ図）	事前課題：第5講「データの活用」の間6～間9を解答		4 時間	
4	坂本 保夫	第6講：平方根・三平方の定理（根号・有理化・直角三角形の辺の長さ）	事前課題：第6講「平方根・三平方の定理」の間1～間8を解答		4 時間	
5	坂本 保夫	第8講：指数・対数関数（指数法則・指数の値・指数の計算・累乗根の計算・累乗根と指数・分数乗・指数関数のグラフ）	事前課題：第8講「指数・対数関数」の間1～間7を解答		4 時間	
6	坂本 保夫	第8講：指数・対数関数（対数の値・指数と対数の関係・対数計算・対数関数のグラフ・対数の大小・対数方程式・音の強さ）	事前課題：第8講「指数・対数関数」の間8～間14を解答		4 時間	
7	坂本 保夫	第9講：ベクトル（定義・和と差・2つのベクトル・なす角・成分表示・計算・大きさ・2点間を結ぶ）	事前課題：第9講「ベクトル」の間1～間11を解答		4 時間	
教 科 書		入学前教育・数学オリジナルテキスト（2025 視覚機能学専攻 / 東北文化学園大学）				
参 考 書		なし				
備 考		問合せ：坂本保夫				

科 目 名		統計解析		担 当 者	西澤 哲	
科目ナンバリング		1040212513			常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	3212	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ① 客観的に表現する方法のひとつとしての統計学の概念を講義する ② 論理的な判断にもとづく検定の概念を講義する 【学習の到達目標】 論理的な判断にもとづいた検定手法を理解する 【成績評価方法】 期末テスト 90%，不定期に行う「講義確認テスト」10% 【課題等のフィードバック方法】 講義確認テストの採点結果 【履修上の注意・予習・復習について】 本講義は積み重ねを重要視する。したがって復習を十分に行うこと 【受講して得られる効果・メリット、その他】 論理的な判断にもとづいた検定手法を得る 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	西澤	統計学とは何か	①リハで統計学を学ぶ意義，②客観性の概念の理解，③本講義のゴール，④ゴールに向かうまでの過程を復習		4 時間	
2	西澤	データ尺度	3 つのデータ尺度を分類する基準を復習		4 時間	
3	西澤	代表値と図 1	2 回目のデータ尺度の特徴を予習 ①間隔尺度の代表値の理解，②間隔尺度の図表の作成を復習		4 時間	
4	西澤	代表値と図 2	2 回目のデータ尺度の特徴を予習 ①順序名義尺度の代表値，②順序名義尺度の図表，③図・表の作成上の形式の復習		4 時間	
5	西澤	演習問題 1（テスト形式で第 2 ～ 4 回の演習問題を行う）	あらかじめ，第 2 ～ 4 回の講義内容を復習しておくこと		4 時間	
6	西澤	対応のあるデータと対応のないデータ 1	対応のあるデータと対応のないデータの区別を復習		4 時間	
7	西澤	対応のあるデータと対応のないデータ 2	パラメトリックデータの相関と回帰の違いの復習		4 時間	
8	西澤	検定 1（検定の基礎の理解）	①検定の証明方法，②有意確率，③有意水準の復習		4 時間	
9	西澤	検定 2（確率密度分布と有意確率の関係）	①確率密度分布の意味，②有意確率を確率密度分布で表す方法，③検定統計量の復習		4 時間	
10	西澤	検定 3（片側検定と両側検定の概念）	①片側検定と両側検定の違い，②帰無仮説の違い，③検定結果の違いの復習		4 時間	
11	西澤	検定 4（t 検定の手順）	① t 検定の手順，② t 検定を行えない場合の復習		4 時間	
12	西澤	演習問題 2（テスト形式で第 6 ～ 11 回の演習問題を行う）	あらかじめ，第 6 ～ 11 回の講義内容を復習しておくこと		4 時間	
13	西澤	総合演習（テスト形式で第 2 ～ 13 回の演習問題を行う）	あらかじめ，もう一度，第 2 回目からの内容を復習すること		4 時間	
14	西澤	総合演習：第 14 回のつづき	あらかじめ，もう一度，第 2 回目からの内容を復習すること		4 時間	
教 科 書		とくになし				
参 考 書		必要に応じて授業中に紹介する				
備 考		とくになし				

科 目 名		スポーツ実技		担 当 者	○犬塚 剛・森田 清美 金田 幸夫・未定
科目ナンバリング		1040212514			常勤・非常勤
D	P	1,4		教員研究室	1304
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	45 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 それぞれのライフスタイルや体力や年齢、目的に応じたスポーツを楽しめるよう、自分に適したスポーツを選択し、理論、技術、方法等について継続的に学習して実力の向上を図り、自分の生涯スポーツにつながる基礎的能力を身につけることを目標とする。 【学習の到達目標】 各自の生涯スポーツ種目を見極め、基本的なルールや技術を身につける。スポーツを通じた体力づくりや健康管理の方法について習得する。 【成績評価方法】 成績は、授業中のゲーム遂行や準備に対する積極的な態度、技能テストなどにより評価する 70%、実技内評価・課題レポート 30% 【課題等のフィードバック方法】 適宜、種目ごとに講義内容の振り返りを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 〈服装〉動きやすいスポーツウエア等を着用し、体育館用シューズと屋外用シューズを明確に区別し使用すること。〈授業見学と公欠〉体調のすぐれない者や怪我等により見学を希望する者は授業開始時に申し出ること。但し長期見学の場合は医師の診断書を持参すること。また、親族の不幸やクラブ活動の競技会等により授業を欠席する場合は原則として公欠とするので届け出ること。〈遅刻および早退〉点呼終了後に授業に参加した場合は遅刻と判断する。また事情により授業を早退する場合は必ず理由等を教員に届けること。無断で授業を早退した場合には授業放棄とみなしその後の授業に出席しても単位を出さないこともあるので注意すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 他学部、他学科の学生が集まりスポーツを通じてコミュニケーションを育むことで社会人基礎力として多様な他者とのコミュニケーション能力やチームワーク、チャレンジする精神力などを養うことができる。 【実務家教員担当科目】 高等学校や大学で競技指導実績を持つ教員らが講義を担当する。					
授 業 計 画					
（実施種目） 屋内種目「球技系（バスケットボール・バレーボール）、ラケット系（バドミントン・卓球&レクリエーション）、フィットネス系（トレーニングなど）」屋外種目「サッカー（フットサル）、ソフトテニス（テニス）」以上の実技種目の中から原則 1 種目を選択する。施設設備のスペースや備品の状況により、種目毎に希望者数の上限を設ける予定である。種目希望者数に大きな偏りが生じる場合は、その状況に鑑み、種目の分散などによる人数調整を行う。なお、履修希望者数の状況等により、開講種目が変更される可能性もある。 1.2：オリエンテーション（種目の選択と講義概要および講義中の諸注意などについて） 3～22：各種目毎の実践・技能テスト・レポート課題の作成等 種目ごとに授業内容は異なるが、各種目とも共通にウォーミングアップの方法、基本的技術動作の習得、ルールの習得、戦術の学習などを通じて、各自が多面的にその種目への理解を深めることやゲーム運営をスムーズにこなせることを目標に授業を進める。					
教 科 書		特になし。			
参 考 書		「ビジュアルスポーツ小百科」 大修館書店 （980 円）			
備 考		※ 諸連絡に関しては、クラスルームへ連絡を入れるので確認を怠らないこと。 ※ 急な変更事項に関しては、クラスルームや体育館入口前に掲示を行うので確認すること。 ※ 種目選択については、施設のスペースや希望者数の偏りを見て、種目選択人数調整が入ります。 問い合わせ教員：犬塚 剛、森田清美			

科 目 名		生命倫理学		担 当 者	高木 大輔	
科目ナンバリング		1040212515			常勤	
D P		1,4		教員研究室	3210	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生命におけるさまざまな倫理的課題について触れ、他者とのディスカッションを通じて理解を深めていく 【学習の到達目標】 生活の質（QOL）の向上を視野に、生命（人生）における倫理的課題、特に健康・医療との関りのなかで生じる課題について考える力を身に付ける 【成績評価方法】 授業内課題によって成績を評価する 【課題等のフィードバック方法】 グループワークの内容を授業の終わりに個別に提出し、次回にそのフィードバックを行う 【履修上の注意・予習・復習について】 授業毎に予習・復習に努めること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 生命（人生）における倫理的な課題に関する様々な考え方を学ぶことができる 【実務家教員担当科目】 リハビリテーション医療に携わってきた教員が授業を担当する						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	高木 大輔	健康、病気、生活の質	予習：「健康、病気、生活の質」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
2	高木 大輔	医療倫理の 4 原則	予習：「医療倫理」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
3	高木 大輔	インフォームド・コンセント	予習：「インフォームド・コンセント」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
4	高木 大輔	在宅医療と家族による看取り	予習：「在宅医療と家族による看取り」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
5	高木 大輔	医療としての正しさと患者の価値観	予習：「医療としての正しさと患者の価値観」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
6	高木 大輔	安楽死と尊厳死	予習：「安楽死と尊厳死」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
7	高木 大輔	健康的に生きるとは	予習：「健康的に生きること」について、自身の考えをまとめてみる 復習：授業資料をもとに、自身の考えを改めて整理してみる		4 時間	
教 科 書		各回、授業資料を配布する				
参 考 書		小林亜津子：QOL って何だろう 医療とケアの生命倫理、ちくまプリマー新書 小林亜津子：はじめて学ぶ生命倫理 「いのち」は誰が決めるのか、ちくまプリマー新書				
備 考		なし				

科 目 名		心理学概論		担 当 者	北川 公路	
科目ナンバリング		1040212516			常勤	
D P		1,4		教員研究室	3204	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 日本の社会的構造の変化に伴い、子どもから高齢者に至る各々の年齢層において、様々な問題が発生しており、臨床心理学に対する関心・期待も高まってきている。そこで本講義では、臨床心理学の歴史背景を踏まえた上で、臨床心理学とは何か、果たすべき課題は何か、どのような貢献ができるかなどについて説明する。また、医療領域において支援を必要とする人々について理解し、適切な支援のための知識について説明する。 【学習の到達目標】 保健医療領域において支援を必要とする人々について理解し、適切な支援の為の知識と実践力を修得する。 【成績評価方法】 定期試験（70%）講義内のグループワーク・個別活動（30%）による総合評価。 【課題等のフィードバック方法】 講義ごとにリアクションペーパーの記載を求めている。次の講義にその提出物を返却をする。質問が記載されていた場合は、次の講義時に受講生全員に対して質問の紹介、回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 【復習】 1 年次に「心理学」を履修した学生は、1 年次に使用した教科書・ノートも併用して勉強すること。また、アセスメントの授業時は各専攻の評価学で学ぶものと重なるところが多いため知識を繋げること。 【遅刻】 原則として遅刻は認めない。 【受講態度】 机上には、筆記用具・臨床心理学の教科書とノートのみをおき、他科目の勉強はしないこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家資格試験科目であることから、国家試験に関連することも説明する。 【実務家教員担当科目】 公認心理師が当該科目を担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	北川 公路	リハビリテーションと臨床心理学	【予習】教科書第 1 章を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
2	北川 公路	心理アセスメント（1）面接・観察	【予習】教科書第 4 章の 1 を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
3	北川 公路	心理アセスメント（2）質問形式の心理検査	【予習】教科書第 4 章 3 の質問紙法を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
4	北川 公路	心理アセスメント（3）作業形式の心理検査	【予習】教科書第 4 章 5 の作業検査法を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
5	北川 公路	心理アセスメント（4）投影法の心理検査	【予習】教科書第 4 章 4 の投影法を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
6	北川 公路	心理アセスメント（5）知能検査	【予習】教科書第 4 章 2 の知能検査を通読する 【復習】教科書とノートを用いて振り返る		4 時間	
7	北川 公路	発達臨床心理学	【予習】教科書第 3 章 3 の発達理論を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
8	北川 公路	心理療法の理論と実際（1）精神分析	【予習】教科書第 3 章 1・2 と第 5 章 2 の 1）を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
9	北川 公路	心理療法の理論と実際（2）行動療法	【予習】教科書第 5 章 2 の 2）を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
10	北川 公路	心理療法の理論と実際（3）認知行動療法	【予習】第 9 回目で配布する資料を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
11	北川 公路	心理療法の理論と実際（4）来談者中心療法	【予習】教科書第 5 章 2 の 3）を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
12	北川 公路	心理療法の理論と実際（5）その他の心理療法	【予習】教科書第 5 章 2 の 4）と 5）を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
13	北川 公路	心理療法の理論と実際（6）その他の心理療法	【予習】教科書第 5 章 4 を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
14	北川 公路	障害の適応と受容	【予習】第 13 回目で配布する資料を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。		4 時間	
教 科 書		こころのケア - 臨床心理学的アプローチ - 池田勝昭・目黒達哉 共著 学術図書出版社				
参 考 書		講義の中で適宜、紹介する。				
備 考		なし。				

科 目 名		アカデミック・スキル演習Ⅰ			担 当 者	○小野 峰子・辻川 寛	
科目ナンバリング		1040212517				常勤	
D P		2,4			教員研究室	4202・4203	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 視能訓練士を目指す学生の情意領域の基礎を培うことを目的に、大学生活に必要なスキルの習得、ディスカッションやグループ学習での他者との交流などを行う。また、それらを通して自立・自律した一人の社会人の基礎を学修する。 【学習の到達目標】 授業を受けていくために必要なスキルの習得、グループ学習成果の発表を行う 【成績評価方法】 ①ディスカッションでの積極性、グループワークへの貢献（20%） ②レポートなど提出物（80%） 【課題等のフィードバック方法】 提出した課題やグループ学習成果のプレゼンテーションの内容や発表の仕方などへのアドバイスを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 グループワークには積極的に参加すること。提出物の期限を守ること。出席すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 授業を受けるうえで必要なアカデミックスキルの基本的な技術（課題設定・調査・議論・プレゼンテーション・レポート作成など）の習得や情意領域を理解することができる。大学の授業にアクティブな姿勢で臨むことができるようになる。 【実務家教員担当科目】 視能訓練士の実務経験のある教員が教授する。							
授 業 計 画							
回	担当教員		学修内容		学修課題・必要な学修時間		
					予習・復習		学修時間
1	小野 峰子、辻川 寛		オリエンテーション、図書館利用方法		配布資料を読み、要点を理解する		1 時間
2	小野 峰子、辻川 寛		大学生活に必要なスキル		メール、コミュニケーションの仕方について		1 時間
3	小野 峰子、辻川 寛		大学生活に必要なスキル		メール、コミュニケーションの仕方、レポート提出の方法について		1 時間
4	小野 峰子、辻川 寛		読解力を養う 眼科領域について知る		「7.5 グラムの奇跡」読書後の感想について話し合う		1 時間
5	小野 峰子、辻川 寛		読解力を養う 眼科領域について知る		「7.5 グラムの奇跡」読書後の感想について話し合う		1 時間
6	小野 峰子、辻川 寛		読解力を養う 眼科領域について知る		「7.5 グラムの奇跡」読書後の感想について話し合う		1 時間
7	小野 峰子、辻川 寛		グループワーク		プレゼンテーションの手順について学ぶ		1 時間
教 科 書			視能学				
参 考 書			授業にて紹介				
備 考			この授業は、14 回 1 単位の科目であるが、通年で毎週開催することを予定している。また、これ以外の授業が開催されることや開催項目が前後することもあるので、Google classroom の確認を行うこと。				

科 目 名	アカデミック・スキル演習Ⅱ			担 当 者	○小野 峰子・辻川 寛	
科目ナンバリング	1040212518				常勤	
D P	2,4			教員研究室	4202・4203	
学科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式	演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 視能訓練士を目指す学生の情意領域の基礎を培うことを目的に、大学生活に必要なスキルの習得、グループ学習での他者との交流、ポートフォリオ作成で未来の視能訓練士像を描くなどを行う。また、それらを通して自立・自律した一人の社会人の基礎を学修する。				【課題等のフィードバック方法】 提出した課題やグループ学習成果のプレゼンテーションの内容や発表の仕方、ポートフォリオ作成の仕方などへのアドバイスをを行う。		
【学習の到達目標】 授業を受けていくために必要なスキルの習得、グループ学習成果の発表、ポートフォリオ作成を行う				【履修上の注意・予習・復習について】 グループワークには積極的に参加すること。提出物の期限を守ること。出席すること。		
【成績評価方法】 ①グループワークへの貢献、ディベートでの積極性（20%） ②グループ学習後のプレゼンテーション、提出物（40%） ③ポートフォリオ作成書提出（40%）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 授業を受けるうえで必要なアカデミックスキルの基本的な技術（課題設定・調査・議論・プレゼンテーション・レポート作成など）の習得や情意領域を理解することができる。大学の授業にアクティブな姿勢で臨むことができるようになる。		
				【実務家教員担当科目】 視能訓練士の実務経験のある教員が教授する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	小野 峰子、辻川 寛	グループワーク	プレゼンテーションの準備をする			1 時間
2	小野 峰子、辻川 寛	グループワーク発表	プレゼンテーション発表他グループの発表を聞く			1 時間
3	小野 峰子、辻川 寛	ビブリオバトルの開催	配布資料を読み、要点を理解する			1 時間
4	小野 峰子、辻川 寛	ディベート開催	配布資料を読み、要点を理解する			1 時間
5	小野 峰子、辻川 寛	ポートフォリオについて	配布資料を読み、要点を理解する			1 時間
6	小野 峰子、辻川 寛	視能訓練士教員の視能訓練士を志した動機を聞く	配布資料を読み、要点を理解する			1 時間
7	小野 峰子、辻川 寛	ポートフォリオ作成	配布資料を読み、要点を理解する			1 時間
教 科 書		視能学				
参 考 書		授業にて紹介				
備 考		この授業は、7 回 1 単位の科目であるが、通年で毎週開催することを予定している。また、これ以外の授業が開催されることや開催項目が前後することもあるので、Google classroom の確認を行うこと。				

科 目 名	英語コミュニケーションⅠ			担 当 者	○大野 朝子・フランク グッチェ	
科目ナンバリング	1040212519				非常勤	
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 この授業では、英語を用いた円滑なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。そのために、英会話での受け答えの練習に加え、トピックを深く理解するための読解力やボキャブラリーの習得、リスニングスキルの向上を図る。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、他者と英語で意見を交換する。				【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業時に学生から質問やコメントを受け、当該授業や次回以降の授業で適宜回答する。		
【学習の到達目標】 様々な文化的背景を持つ海外の人と意見を交換し、互いの文化に対する相互理解を深めるための英語力を身につける。 ・ 日常的な簡単な質問や応答を、口頭でスムーズに行えるようになる。 ・ 他者の発話を聞いて理解し、自らの考えを適切な表現で積極的に伝えることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・ 学生同士の積極的な交流を通じて英語のスキルアップを目指してください。 ・ 全 14 回の授業のうち 10 回以上出席してください。遅刻に関しては、遅延の度合いによって欠席扱いとなります。		
【成績評価方法】 成績評価は以下を総合的に判断する。 ・ 授業中のディスカッションにおける積極的発話 50% ・ 各授業で学んだボキャブラリーの修得実績 30% ・ 授業で行う簡潔なプレゼンテーションのクオリティ 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 基本的な英会話力、教材を読んで内容を詳しく理解するための語彙力、外国人と円滑に意思疎通を図るためのコミュニケーション力が身につく。		
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習		学修時間
1	フランク グッチェ	イントロダクション：授業の目的、進和方法、評価基準を説明する。自己紹介を兼ねた簡単な英会話アクティビティを行う。		予習：自己紹介表現を確認する。 復習：新しいフレーズや語彙を練習する。		1 時間
2	フランク グッチェ	日常会話の基礎（1）：簡単な挨拶や自己紹介の表現を練習し、ペアワークでロールプレイを行う。		予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
3	フランク グッチェ	日常会話の基礎（2）：質問と応答のパターン練習（例：趣味、家族など）を行い、ディスカッション形式で意見交換をする。		予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
4	フランク グッチェ	リスニングスキル向上（1）：日常生活をテーマにした短い英会話音声聞き、内容理解を問うクイズを実施する。		予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
5	フランク グッチェ	リスニングスキル向上（2）：会話音声聞いて詳細な内容を理解し、ペアで要約して相手に説明する。		予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
6	フランク グッチェ	トピックディスカッション（1）：「私の街の紹介」をテーマに短いスピーチを準備し、ペアまたはグループで共有する。質疑応答の練習も行う。		予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
7	フランク グッチェ	トピックディスカッション（2）：「好きな映画や本」をテーマに短いスピーチを準備し、クラス全体でディスカッションと意見交換を行う。		予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
8	フランク グッチェ	読解スキル向上（1）：短い英語の記事を読み、重要な単語やフレーズを確認した後、内容を簡単に要約する。		予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
9	フランク グッチェ	読解スキル向上（2）：意見を問う記事（例：テクノロジーや環境問題）を読み、要約し、自分の意見を書く練習をする。		予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
10	フランク グッチェ	ボキャブラリー強化（1）：日常会話で役立つ英単語や表現を学び、内容理解を問うクイズを実施する。関連する会話練習も行う。		予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
11	フランク グッチェ	ボキャブラリー強化（2）：より高度な単語や表現（例：感情表現や意見の述べ方）を学び、短い会話の中で活用する。		予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
12	フランク グッチェ	プレゼンテーションの準備：自分で選んだトピックについて、3～5分のプレゼンテーションを準備する。構成やスライド作成のポイントを学ぶ。		予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
13	フランク グッチェ	プレゼンテーションの発表：各学生がプレゼンテーションを発表し、クラスメイトと質疑応答を行う。		予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。		1 時間
14	フランク グッチェ	今学期のまとめ：学期全体を振り返り、各スキルの向上度を自己評価する。個別のフィードバックを実施する。		予習：最終日に確認する疑問点をまとめる。 復習：学期中に学んだ英語コミュニケーションスキルを総括する。		1 時間
教 科 書		担当教員の指示に従ってください。				
参 考 書		適宜、授業で指示する。				
備 考		特になし				

科 目 名		英語コミュニケーションⅡ		担 当 者	○大野 朝子・フランク グッチェ		
科目ナンバリング		1040212520			非常勤		
D P		1,4		教員研究室		非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次		1 年次・後期
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 この授業では、「英語コミュニケーションⅠ」で学んだ基本的なスキルに加え、より円滑なコミュニケーション能力を養うために、英会話、読解力、ボキャブラリー、およびリスニングの応用スキルを学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 毎回の授業時に学生から質問やコメントを受け、当該授業や次回以降の授業で適宜回答する。			
【学習の到達目標】 異なる文化的背景を持つ外国人と、円滑かつ継続的にコミュニケーションを図るための英語力を身につける。 ・個人的に興味のあるテーマや社会的トピックについて、キーワードや具体例を用いて意思疎通を図ることができる。 ・聞き返しや言い換え、要約などのコミュニケーションストラテジーを活用し、自分の理解を相手に確認しながら会話を続けることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・学生同士の積極的な交流を通じて英語のスキルアップを目指してください。 ・全 14 回の授業のうち 10 回以上出席してください。遅刻に関しては、遅延の度合いによって欠席扱いとなります。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ある程度の詳細な英会話力、難易度の高い教材を読み解く語彙力、外国人と比較的長く意思疎通を図るためのコミュニケーション力が身につく。			
【成績評価方法】 成績評価は以下を総合的に判断する。 ・授業中のディスカッションにおける積極的発話 50% ・各授業で学んだボキャブラリーの修得実績 30% ・授業で行う簡潔なプレゼンテーションのクオリティー 20%				【実務家教員担当科目】 該当なし			
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	フランク グッチェ	イントロダクション：授業の目的、進和方法、評価基準を説明する。「英語コミュニケーションⅠ」で学んだ内容を振り返り、自己紹介アクティビティを実施する。	予習：自己紹介表現を確認する。 復習：新しいフレーズや語彙を練習する。				1 時間
2	フランク グッチェ	コミュニケーションストラテジー（1）：聞き返し、言い換え、確認の方法を学び、ロールプレイを通じて実践する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
3	フランク グッチェ	コミュニケーションストラテジー（2）：意見の対立や誤解が生じた際の対応スキルを学び、ディスカッションを通じて実践する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
4	フランク グッチェ	リスニング応用スキル（1）：ニュースやインタビューの音声を使い、主旨と詳細を聞き取る練習を行う。重要なフレーズを抜き出して要約する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
5	フランク グッチェ	リスニング応用スキル（2）：長めの英語音声聞き取り、要点とスピーカーの意見を整理する。ペアで音声の内容について議論する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
6	フランク グッチェ	トピックディスカッション（1）：「旅行と異文化体験」をテーマに、各自の経験や考えについてディスカッションを行い、文化的な違いへの気づきを共有する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
7	フランク グッチェ	トピックディスカッション（2）：「グローバルな課題（例：気候変動や国際支援）」をテーマに議論し、自分の立場を明確に示しながら意見を述べる。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
8	フランク グッチェ	読解応用スキル（1）：英語の記事を読み、文脈から単語の意味を推測する練習を行う。内容を要約し、自分の意見を短い文章で表現する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
9	フランク グッチェ	読解応用スキル（2）：社会問題に関する記事（例：環境問題や AI の影響）を読み、グループで意見交換を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
10	フランク グッチェ	ボキャブラリー応用（1）：複雑な感情表現や意見を述べる際に使える語彙を学び、実際の会話で活用する練習を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
11	フランク グッチェ	ボキャブラリー応用（2）：アカデミックなトピックに関連する英単語や表現を学び、リスニングやスピーキングに応用する。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
12	フランク グッチェ	プレゼンテーションの準備：自分で選んだトピックについて、3～5 分のプレゼンテーションを準備する。構成やスライド作成のポイントを学ぶ。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
13	フランク グッチェ	プレゼンテーションの発表：各学生がプレゼンテーションを発表し、クラスメイトと質疑応答を行う。	予習：初めて出会う表現や語彙を調べる。 復習：学んだ表現を使って発話してみる。				1 時間
14	フランク グッチェ	今学期のまとめ：学期全体を振り返り、各スキルの向上度を自己評価する。個別のフィードバックを実施する。	予習：最終日に確認する疑問点をまとめる。 復習：学期中に学んだ英語コミュニケーションスキルを総括する。				1 時間
教 科 書		担当教員の指示に従ってください。					
参 考 書		適宜、授業で指示する。					
備 考		特になし					

科 目 名		韓国語コミュニケーションⅠ		担 当 者	李 恵慶	
科目ナンバリング		1040212521			非常勤	
D P		1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 現代社会を生きる私達に、外国語の必要性は益々増加しつつあります。情報化時代に生き残るためにも、外国語を理解し、そこから必要な情報をゲットする必要もあります。この授業では、韓国語の基礎を学びます。最初は文字の書き方を覚え、読み方と基本語彙の習得をし、「書く」、「読む」ことに重点をおきます。また、すぐ使える基本表現の習得を目指しますが、合わせて生の韓国語に触れるために授業中は話題の韓国ドラマや映画も取り入れて行います。 【学習の到達目標】 この授業は、韓国語を始めて学ぶ基礎からの現代韓国語講座です。まずハングルを学び、その読み書きができるようにするのが第一の目標です。次は日本語と比較しながら基本的な文法事項を理解し、最初は自己紹介文から簡単な会話ができるようにします。名詞文と否定形、指示代名詞と疑問形、その答え方、動詞、形容詞の活用、漢語と固有語の教え方、意志表現、過去形などの文法事項を覚え、その運用能力を養うのがこの授業の到達目標です。 【成績評価方法】 平常点（小テスト・課題など） 50% 期末試験 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	李 恵慶	第九課朝ご飯は食べません。	予習；第九課の語彙と文法 復習；第九課の本文と練習問題			1 時間
2	李 恵慶	第十課どこに住んでいますか。	予習；第十課の語彙と文法 復習；第十課の本文と練習問題			1 時間
3	李 恵慶	第六課から第十課までのまとめ	予習；第六課から第十課までの語彙と文法 復習；第六課から第十課までのまとめ練習問題			1 時間
4	李 恵慶	第十一課今日、忙しいですか。	予習；第十一課の語彙と文法 復習；第十一課の本文と練習問題			1 時間
5	李 恵慶	第十二課先生でしたか。 第十三課何をしましたか。	予習；第十二課、十三課の語彙と文法 復習；第十二課、十三課の本文と練習問題			1 時間
6	李 恵慶	第十四課ご飯食べましたか。	予習；第十四課の語彙と文法 復習；第十四課の本文と練習問題			1 時間
7	李 恵慶	第十五課何をしたいですか。	予習；第十五課の語彙と文法 復習；第十五課の本文と練習問題			1 時間
8	李 恵慶	第十一課から第十五課までのまとめ	予習；第十一課から第十五課までの語彙と文法 復習；第十一課から第十五課までのまとめ練習 問題			1 時間
9	李 恵慶	第十六課安くて美味しいです。	予習；第十六課の語彙と文法 復習；第十六課の本文と練習問題			1 時間
10	李 恵慶	第十七課映画見に行きましようか。	予習；第十七課の語彙と文法 復習；第十七課の本文と練習問題			1 時間
11	李 恵慶	第十八課何をなさいますか。	予習；第十八課の語彙と文法 復習；第十八課の本文と練習問題			1 時間
12	李 恵慶	第十九課コーヒーを飲みます。	予習；第十九課の語彙と文法 復習；第十九課の本文と練習問題			1 時間
13	李 恵慶	第二十課何をする予定ですか。	予習；第二十課の語彙と文法 復習；第二十課の本文と練習問題			1 時間
14	李 恵慶	第十六課から第二十課までのまとめ	予習；第十六課から第二十課までの語彙と文法 復習；第十六課から第二十課までのまとめ練習問題			1 時間
教 科 書		『かんたん！韓国語』 文 慶喆他 朝日出版社				
参 考 書		授業中、その都度紹介する。				
備 考		受講生への要望）授業を休まないこと。声を出して練習すること。				

科 目 名		韓国語コミュニケーションⅡ		担 当 者	李 恵慶	
科目ナンバリング		1040212522			非常勤	
D P		1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 現代社会を生きる私達に、外国語の必要性は益々増加しつつあります。情報化時代に生き残るためにも、外国語を理解し、そこから必要な情報をゲットする必要もあります。この授業では、韓国語の基礎を学びます。最初は文字の書き方を覚え、読み方と基本語彙の習得をし、「書く」、「読む」ことに重点をおきます。また、すぐ使える基本表現の習得を目指しますが、合わせて生の韓国語に触れるために授業中は話題の韓国ドラマや映画も取り入れて行います。 【学習の到達目標】 この授業は、韓国語を始めて学ぶ基礎からの現代韓国語講座です。まずハングルを学び、その読み書きができるようにするのが第一の目標です。次は日本語と比較しながら基本的な文法事項を理解し、最初は自己紹介文から簡単な会話ができるようにします。名詞文と否定形、指示代名詞と疑問形、その答え方、動詞、形容詞の活用、漢語と固有語の数え方、意志表現、過去形などの文法事項を覚え、その運用能力を養うのがこの授業の到達目標です。 【成績評価方法】 平常点（小テスト・課題など） 50% 期末試験 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	李 恵慶	第九課朝ご飯は食べません。	予習；第九課の語彙と文法 復習；第九課の本文と練習問題		1 時間	
2	李 恵慶	第十課どこに住んでいますか。	予習；第十課の語彙と文法 復習；第十課の本文と練習問題		1 時間	
3	李 恵慶	第六課から第十課までのまとめ	予習；第六課から第十課までの語彙と文法 復習；第六課から第十課までのまとめ練習問題		1 時間	
4	李 恵慶	第十一課今日、忙しいですか。	予習；第十一課の語彙と文法 復習；第十一課の本文と練習問題		1 時間	
5	李 恵慶	第十二課先生でしたか。 第十三課何をしましたか。	予習；第十二課、十三課の語彙と文法 復習；第十二課、十三課の本文と練習問題		1 時間	
6	李 恵慶	第十四課ご飯食べましたか。	予習；第十四課の語彙と文法 復習；第十四課の本文と練習問題		1 時間	
7	李 恵慶	第十五課何をしたいですか。	予習；第十五課の語彙と文法 復習；第十五課の本文と練習問題		1 時間	
8	李 恵慶	第十一課から第十五課までのまとめ	予習；第十一課から第十五課までの語彙と文法 復習；第十一課から第十五課までのまとめ練習 問題		1 時間	
9	李 恵慶	第十六課安くて美味しいです。	予習；第十六課の語彙と文法 復習；第十六課の本文と練習問題		1 時間	
10	李 恵慶	第十七課映画見に行きましようか。	予習；第十七課の語彙と文法 復習；第十七課の本文と練習問題		1 時間	
11	李 恵慶	第十八課何をなさいますか。	予習；第十八課の語彙と文法 復習；第十八課の本文と練習問題		1 時間	
12	李 恵慶	第十九課コーヒーを飲みます。	予習；第十九課の語彙と文法 復習；第十九課の本文と練習問題		1 時間	
13	李 恵慶	第二十課何をする予定ですか。	予習；第二十課の語彙と文法 復習；第二十課の本文と練習問題		1 時間	
14	李 恵慶	第十六課から第二十課までのまとめ	予習；第十六課から第二十課までの語彙と文法 復習；第十六課から第二十課までのまとめ練習問題		1 時間	
教 科 書		『かんたん！韓国語』 文 慶喆他 朝日出版社				
参 考 書		授業中、その都度紹介する。				
備 考		受講生への要望）授業を休まないこと。声を出して練習すること。				

科 目 名		中国語コミュニケーションⅠ		担 当 者	王 效紅	
科目ナンバリング		1040212523			非常勤	
D P		1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 正しい発音を身につけることに重点をおく。簡単な文法事項を学習する。 【学習の到達目標】 中国語での簡単な日常会話ができるようになる。 【成績評価方法】 期末試験 70％、小テスト、課題提出、発言・質問および授業に臨む態度 30％。 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、不明な点について、質問を受け、解答する。また出席カードに質問を書いてもらい、多く出た質問に関してはその次の授業の冒頭で取り上げる。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の口頭練習には、大きな声を出して、積極的に参加してください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 簡単な中国語の会話力が身につけられる。文章表現の基礎が固まる。 【実務家教員担当科目】 なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	王 效紅	ガイダンス	中国の国と言葉について再確認する。		1 時間	
2	王 效紅	第 1 課発音	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
3	王 效紅	第 2 課発音	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
4	王 效紅	第 3 課発音	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
5	王 效紅	第 4 課発音・あいさつ言葉	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
6	王 效紅	第 5 課	附属の音声聞き、声を出して練習する。		1 時間	
7	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
8	王 效紅	第 6 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
9	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
10	王 效紅	第 7 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
11	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
12	王 效紅	第 8 課	附属の音声聞き、発音に慣れる。		1 時間	
13	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
14	王 效紅	総復習	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間	
教 科 書		『大学生のための初級中国語 24 回』 杉野元子・黄漢青著（白帝社）				
参 考 書		授業の中で、必要に応じてアドバイスをしていく。				
備 考		なし				

科 目 名	中国語コミュニケーションⅡ			担 当 者	王 效紅
科目ナンバリング	1040212524				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 正しい発音を身につけることに重点をおく。簡単な文法事項を学習する。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、不明な点について、質問を受け、解答する。また出席カードに質問を書いてもらい、多く出た質問に関してはその次の授業の冒頭で取り上げる。	
【学習の到達目標】 中国語での簡単な日常会話ができるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の口頭練習には、大きな声を出して、積極的に参加してください。	
【成績評価方法】 期末試験 70%、小テスト、課題提出、発言・質問および授業に臨む態度 30%。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 簡単な中国語の会話力が身につけられる。文章表現の基礎が固まる。	
				【実務家教員担当科目】 なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	王 效紅	復習（第 1 課～第 8 課）	復習（第 1 課～第 8 課）		1 時間
2	王 效紅	第 9 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。		1 時間
3	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
4	王 效紅	第 10 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。		1 時間
5	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
6	王 效紅	第 11 課	附属の音声を読み、声を出して練習する。		1 時間
7	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
8	王 效紅	第 12 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。		1 時間
9	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
10	王 效紅	第 13 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。		1 時間
11	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
12	王 效紅	第 14 課	附属の音声を読み、発音に慣れる。		1 時間
13	王 效紅	本文を熟読する・練習問題	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
14	王 效紅	総復習	授業で学習した内容を一通り復習する。		1 時間
教 科 書		『大学生のための初級中国語 24 回』杉野元子・黄漢青著（白帝社）			
参 考 書		授業の中で、必要に応じてアドバイスをしていく。			
備 考		なし			

科 目 名		コミュニケーション論		担 当 者	邑本 俊亮	
科目ナンバリング		1040212525			非常勤	
D P		3,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、心理学をベースにコミュニケーションの基礎と応用を学びます。私たちはふだん、あたりまえのように相手が発した情報を理解し、あたりまえのように自分の考えを表現して相手とコミュニケーションを行っています。しかし、そこには私たち人間のきわめて高度な心理メカニズムが働いています。また、コミュニケーションはどんな場面でもうまくゆくとは限りません。その成否はさまざまな要因に左右されます。その要因の1つが、情報の送り手のコミュニケーション能力です。自分の考えを正確に、そして効果的に他者に伝える能力。それはみなさんの今後の人生において、ますます重要なものとなっていくでしょう。この授業を通して、そのような能力を向上させるためのヒントを獲得してもらえれば幸いです。						
【学習の到達目標】 1. 人と人とのコミュニケーションに関する心理学的知識を獲得し、日常生活の中で思い出したり活かしたりできるようになる。 2. 実社会で役立つコミュニケーション能力を向上させるためのきっかけをつかむ。						
【成績評価方法】 提出物 5%、小テスト 45%、定期試験 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	邑本 俊亮	言葉で伝えることの難しさ	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
2	邑本 俊亮	言葉以外のメッセージ（1）	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
3	邑本 俊亮	言葉以外のメッセージ（2）	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
4	邑本 俊亮	まとめと小テスト 1	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。		4 時間	
5	邑本 俊亮	自己とコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
6	邑本 俊亮	会話の成立要件	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
7	邑本 俊亮	言語理解の心理メカニズム	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
8	邑本 俊亮	作文の認知過程	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
9	邑本 俊亮	まとめと小テスト 2	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。		4 時間	
10	邑本 俊亮	好きを生み出すコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
11	邑本 俊亮	見せて伝えるコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
12	邑本 俊亮	実社会でのコミュニケーション	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
13	邑本 俊亮	コミュニケーションクイズ大会	授業内容を復習し、自己関連づけを行う。受講日誌をつける。		4 時間	
14	邑本 俊亮	小テスト 3 と全体のまとめ	ここまでの内容を復習し、小テストに備えて勉強しておく。授業後は、授業内容を復習し、自己関連づけを行う。		4 時間	
教 科 書		邑本俊亮（著）『言葉とコミュニケーション 心理学を日常に活かす』朝倉書店				
参 考 書		なし				
備 考		なし				

科 目 名		海外研修		担 当 者	○増井三千代・立花顕一郎 王 元・鄭 舜玉	
科目ナンバリング		1040212526			常勤	
D	P	2,4		教 員 研 究 室	1328	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・通年	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 以下のいずれかの海外プログラムに参加し、現地の人々との交流を通して、異文化に対する理解を深めると同時にコミュニケーション力の向上を目指す。 (1) 長期休業期間に海外（英語圏、中国、韓国）へ渡航し、現地で実施される短期語学研修に参加するグループ研修プログラム (2) 学生個人による現地実習を含む短期語学・異文化理解プログラム（必須条件：所定の計画書の提出、5 日以上の渡航、研究テーマの設定） 【学習の到達目標】 異文化に対する柔軟性を身につけ、現地の言葉を駆使しながら積極的にコミュニケーションを図る。また、現地の人々の考え方や価値観を通じて、日本を客観的かつ相対的に見る広い視野を身につける。 【成績評価方法】 単位取得には、以下の全ての活動に参加することが求められる。 1. 研修前に行われる事前研修会、勉強会等への参加、取り組み状況 25% 2. 研修先での授業やその他プログラムへの参加、取り組み状況 50% 3. 帰国後の研修報告書提出および報告会での成果発表 25% 【課題等のフィードバック方法】 各プログラムの実施担当教員が随時質問を受け付け、回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 1. 実習に伴う参加費、渡航費用等は自己負担となる。 2. 国際情勢の急激な変化により、研修実施が困難になる場合がある。 3. 詳細な日程や費用等については、事前に開催される説明会に出席して確認する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 グループ研修には引率教員が同行するため、海外未経験、語学に不安でも安心して参加できる。また、異文化交流経験は自分の人生の可能性を大きく広げることに繋がる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
【授業計画】 1～2 事前研修 3～7 実習 1 日目 8～12 実習 2 日目 13～17 実習 3 日目 17～21 実習 4 日目 22～26 実習 5 日目 ※プログラムによっては実習の日数が増える可能性有り 27 報告書作成および報告会準備 28 報告会						
教 科 書		資料を配布する。				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		各プログラムの申込は履修登録期間外に行うため、Global Education Project（GEP）の Google Classroom に必ず登録し、掲載される申請方法に従って申し込むこと。この申請をもって履修登録を行う。なお、授業内容（2）の個人研修型プログラムについては、申請条件を満たさなければ、履修できない場合があることに留意する。 クラスコード 4yvf7eq				

科 目 名		現代国語表現		担 当 者	大泉 浩一	
科目ナンバリング		1040212527			非常勤	
D P		3,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 14 回の授業で毎回作文を書くことによって、人に伝わる文章を作成するための基本技術を学ぶ。あわせて「人に伝わる」とはどういうことかについて、言葉とコミュニケーションの問題を中心に考察する。 作文が不得意でも受講、単位取得にはまったく問題はない。ただし主に作文提出をもって評価する。 【課題等のフィードバック方法】 作文を添削し、改善点を指摘する。 【履修上の注意・予習・復習について】 遅刻・私語等には厳しく対応する。出席不良の場合は評価対象外とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 「学習の到達目標」に同じ。 他の講義や実習で書くレポート、また就職活動で書く履歴書・エントリーシート・小論文試験、卒業後に仕事で書く文章の作成に役立つ。 【実務家教員担当科目】 該当しない						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	大泉 浩一	オリエンテーション	高校までに習った作文・小論文の書き方を確認してくる。講義の内容を確認する。		4 時間	
2	大泉 浩一	説明文の書き方（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
3	大泉 浩一	説明文の書き方（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
4	大泉 浩一	報告文の書き方（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
5	大泉 浩一	報告文の書き方（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
6	大泉 浩一	何を書くか・どう書くか（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
7	大泉 浩一	何を書くか・どう書くか（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
8	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（1）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
9	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（2）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
10	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（3）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
11	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（4）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
12	大泉 浩一	コミュニケーションと言葉（5）	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
13	大泉 浩一	言葉の世界の広がり	講義の内容を確認する。返却された作文を読み直し、反省点を次回に活かす。		4 時間	
14	大泉 浩一	まとめ	返却された作文を読み直し、反省点を次の機会に活かす。		4 時間	
教 科 書		なし				
参 考 書		授業内で随時紹介する。				
備 考		なし				

科 目 名		健康科学		担 当 者	鈴木 誠	
科目ナンバリング		1040212528			常勤	
D P		1,4		教員研究室	3105	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本授業では、自己の健康づくりのために、病気の予防を含む自身の健康管理に欠かせないさまざまな基礎的な知識を具体的かつ広く学ぶ。そして、一人ひとりが幸福でより良い生活を送るために何をすべきなのか、何をすべきでないのかを考える 【学習の到達目標】 疾病予防と健康管理のために必要な知識を身につけ、健康づくりのための具体的方法が実践できるようになる 【成績評価方法】 授業後確認テスト（各回 10 点×全 7 回⇒ 70 点）と最終授業終了後のレポート課題（30 点）にて成績判定を行う 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後質問を受け付け、次回授業の冒頭等で説明する（classroom での説明など） 【履修上の注意・予習・復習について】 ・規定の出席日数に到達しないものは評価対象外とする ・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 疾病予防と健康管理のために必要な知識を身につけることができ、実践する力を養うことができる 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	鈴木 誠	・オリエンテーション ・健康について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
2	鈴木 誠	・感染症について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
3	鈴木 誠	・飲酒について ・危険薬物について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
4	鈴木 誠	・メンタルヘルスについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
5	鈴木 誠	・生活習慣病について ・がんについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
6	鈴木 誠	・喫煙の影響について ・ヒューマンヘルスについて	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
7	鈴木 誠	・運動、栄養、休養について	・事前に配信する講義資料を予習に活用すること ・授業後確認テストの正誤を復習に活用すること			4 時間
教 科 書		授業資料を Google classroom にて配布する				
参 考 書		必要に応じて、各授業時に紹介する				
備 考		不明な点は授業担当者に問い合わせること				

科 目 名		教育学		担 当 者	佐々木真由美	
科目ナンバリング		1040212529			非常勤	
D P		1,4		教員研究室		非常勤講師室
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次		1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 ・本授業は、教育の目的・意義・方法等についての基本的原則や理論的基礎を学び、身近な教育問題を取り上げながら、学習者の成長に寄り添う教育の在り方について考察していく。 【学習の到達目標】 ①教育の目的・意義・方法・内容等についての基本的原則や理論的基礎を理解できる。②教育史、教育行政制度、学校経営等の視点から社会の要請に応える教育の意義を理解できる。③いじめ・不登校対策、教育評価、教員の資質能力等の教育者側の視点から教育を考察することができる。 【成績評価方法】 ・レポート内容及び課題の提出状況・内容を総合的に判断し、評価する。 ・科目の評価項目・基準等を定めたルーブリックに基づいて、評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 ・学習過程に復習の時間を位置付け、解説を加える。・グループワークによる振り返りを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・課題がある。・感染症等の感染状況により、授業方法を変更することがある。・平常時の授業においては、双方向性のある授業となる。・発表がある。・制限のある対面授業では、Classroomに参加し、意見交換をする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・社会から求められている資質・能力の習得につながる。 ・多様な教材と学習方法による学びを通し、学び方が身に付く。 【実務家教員担当科目】 非該当						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	佐々木真由美	オリエンテーション（授業のねらい、授業内容、評価方法等）。アイスブレイク。④ルーブリック	予習：自身の「学び」について振り返る。復習：学習を振り返り。在学中に必要な学びを文字化する。			4 時間
2	佐々木真由美	教育の目的や意義をふまえ、教育格差等について考える。④教育基本法、教育格差	予習：教育の目的について調べる。復習：教育による格差・不平等を取り上げ、解決策を提案する。			4 時間
3	佐々木真由美	事例をもとに、子どもの成長・人間の成長について考える。④発達の最近接領域	予習：心がけている / きた学び方についてまとめる。復習：学友の学び方を参考に、取り組みたい学び方を文字化する。			4 時間
4	佐々木真由美	学びの効果を高める教育方法について考える。④詰め込み教育、ゆとり教育	予習：「教え方がうまい先生とは？」具体的な事例を集める。復習：ゆとり教育の本質をふまえ、成長を促す学びについてまとめる。			4 時間
5	佐々木真由美	義務教育の歴史を踏まえ、教育を受ける権利について考える。④教育勅語	予習：違いを述べる。「この子らに世の光を、この子らを世の光に。」復習：今日の教育問題と解決策を提案する。			4 時間
6	佐々木真由美	教育行政制度を理解し、学びを支える仕組みについて考える。④文部科学省、教育委員会等	予習：給食について経験をまとめる。復習：公教育の学びを支えた仕組みについて振り返る。			4 時間
7	佐々木真由美	居場所となるべき学校の姿を考える。④いじめ防止対策推進法、フリースクール、不登校	予習：いじめ、不登校に関する新聞記事を収集する。復習：子どもたちが社会とつながって学ぶ居場所について提案する。			4 時間
8	佐々木真由美	社会の要請に応える教育課程について考える。④教育課程、ヒドゥンカリキュラム	予習：指導を受け、身に付いた価値観や生き方をまとめる。復習：残しておきたい学習内容(教材)とその理由を整理する。			4 時間
9	佐々木真由美	発達の特性に基づいた教育について考える。④発達障がい、インクルーシブ	予習：発達障がい等に関する新聞記事を収集する。復習：自身ができるインクルーシブな社会をつくる取組をまとめる。			4 時間
10	佐々木真由美	公正な評価、評価方法について考える。④評価規準、評価基準、モデレーション	予習：ルーブリックをもとに自己の学習を評価する。復習：学習を振り返り、今後注力する評価項目を整理する。			4 時間
11	佐々木真由美	教育効果を高める学校経営について考える。④社会に開かれた教育課程	予習：教員以外からの学びを一覧にする。復習：学校外での効果的な学びについてマイプランを作成する。			4 時間
12	佐々木真由美	学び（学習）の本質について考える。④生涯教育	予習：カルチャーセンター等の広告やリーフレットを持ち寄る。復習：「習得・探究」に夢中になる理由をまとめる。			4 時間
13	佐々木真由美	社会から求められる資質・能力について知り、今後の学び方を考える。④主体的・対話的で深い学び	予習：資料について意見を述べる。復習：学友の意見を比較・分析し、学び方を整理する。Society5.0に向けた人材育成。			4 時間
14	佐々木真由美	総括：目指す自分像を実現するための学習方法等を考える。④キャリアデザイン	予習：キャリア形成に関する気付き等をまとめる。復習：社会人1年目の自分に手紙でエールを送る。			4 時間
教 科 書		適宜プリントを配付				
参 考 書		問いからはじめる教育学（有斐閣ストゥディア）、学制百年史（文部科学省）、教育社会学、教育学原論（ミネルヴァ書房）、カリキュラム論（成文堂）、窓ぎわのトットちゃん（講談社）				
備 考		特になし				

科 目 名		哲学		担 当 者	高山 馨	
科目ナンバリング		1040212530			非常勤	
D P		1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 古代から近代までの西洋哲学を、知の形成と変遷の歴史として概観する。また、論理学の基礎と科学的思考を学び、自律的に考えて判断や行為をなすためのリテラシーを学ぶ。						
【学習の到達目標】 (1) 哲学がどのような学的営みであるかを理解できる。(2) 古代から近代までのさまざまな哲学について整理して理解し、知識として定着させることができる。(3) 論理学の基礎と科学的思考を学び、自律的な判断と行為のリテラシーを身につけることができる。						
【成績評価方法】 (a) 課題 50%, (b) 試験 50% 成績評価の基準は「学習の到達目標」(1) ～ (3) への到達度とします。						
【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom や e メールを使用し、提出物や質問などに対して、必要に応じたフィードバックを個別に行います。						
【履修上の注意・予習・復習について】 [重要] Google Classroom や e メールを使用して、履修者全員あるいは個別に連絡をすることがあります。履修者は、常用する PC やスマートフォンなどのデバイスで教員からの連絡を受信できるようにしておいてください。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 古来より、人間、世界、物事などがどのように考えられてきたかを知ることや、自律的な判断と行為のリテラシーを学ぶことは、実生活をよりよく導くためのきっかけを得ることができると思います。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	高山 馨	イントロダクション：哲学と倫理学	[予習] 本科目のシラバスを理解しておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
2	高山 馨	古代哲学 1：ソクラテス	[予習] 知と徳の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
3	高山 馨	古代哲学 2：プラトン、アリストテレス	[予習] 普遍と個別の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
4	高山 馨	中世哲学：アウグスティヌス、トマス・アキナス	[予習] 存在と本質の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
5	高山 馨	近代哲学 1：デカルト、スピノザ	[予習] 観念の由来について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
6	高山 馨	近代哲学 2：ロック、ヒューム	[予習] 経験による知識と信念について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
7	高山 馨	近代哲学 3：カント	[予習] イギリス経験論と大陸合理論についてまとめておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
8	高山 馨	近代哲学 4：啓蒙思想	[予習] 社会契約説について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
9	高山 馨	テーマ別哲学 1：心	[予習] 心と脳について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
10	高山 馨	テーマ別哲学 2：心	[予習] 自由について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
11	高山 馨	テーマ別哲学 3：論理	[予習] 思考について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
12	高山 馨	テーマ別哲学 4：論理	[予習] 演繹について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
13	高山 馨	テーマ別哲学 5：科学	[予習] 帰納について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
14	高山 馨	テーマ別哲学 6：科学	[予習] 科学と社会の関係について考えておく。 [復習] 講義内容を整理して理解し、知識として定着させる。		4 時間	
教 科 書		レジュメに基づいて講義してゆきます。				
参 考 書		講義の中で紹介してゆきます。				
備 考		オフィス・アワーは、初回の講義と Google Classroom で伝えます。				

科 目 名	ジェンダー論			担 当 者	川口かしみ
科目ナンバリング	1040212531				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 この授業では、自分たちが生きていく社会において、他者と尊重し合い、生きやすい社会になるための課題をジェンダーの視点から検討していく。まず、ジェンダーの基礎知識を学習し、次に、現在の日本社会に存在するジェンダー問題とそれに関する法律について学んでいく。					
【課題等のフィードバック方法】 提出された課題内容を翌週の授業内で、フィードバックとして共有することがある。					
【履修上の注意・予習・復習について】 授業中に伝える。					
【学習の到達目標】 (1) ジェンダーとは何かを理解する。 (2) 現在の日本社会に存在するジェンダー問題とそれに関する法律を知る。 (3) 自分たちが生きやすい社会になるための課題をジェンダーの視点から検討する。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 現在の日本社会に存在するジェンダー問題を理解し、それを解決するための方法を考える視点が得られる。自分たちが生きていく社会のために、現在社会が抱え、解決すべきジェンダー問題を分析する力が身に着く。					
【成績評価方法】 毎授業に課す課題（30%）、学期末テスト（70%）により評価する。					
【実務家教員担当科目】 該当なし。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	川口かしみ	イントロダクション/ジェンダーとは何か？	ハンドアウトを復習し、ジェンダー規範とは何かを確認する。		4 時間
2	川口かしみ	公私二元論とジェンダー	予習では、教科書の第 1 章・2 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
3	川口かしみ	日本の制度とジェンダー	予習では、教科書の第 3 章・4 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
4	川口かしみ	平和とジェンダー	予習では、教科書の第 5 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
5	川口かしみ	国際社会における日本のジェンダー平等	予習では、教科書の第 6 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。特に女性差別撤廃条約の内容について復習する。		4 時間
6	川口かしみ	労働とジェンダー	予習では、教科書の第 7 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
7	川口かしみ	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	予習では、教科書の 105 ～ 107 頁を読み、自分の考えをまとめる。復習では、教科書の上記頁を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
8	川口かしみ	LGBTQ+/SOGI	予習では、教科書の 108 ～ 110 頁を読み、自分の考えをまとめる。復習では、教科書の上記頁を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
9	川口かしみ	家族とジェンダー	予習では、教科書の第 9 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
10	川口かしみ	信教/学問とジェンダー	予習では、教科書の第 10 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
11	川口かしみ	ポルノグラフィーとメディア	予習では、教科書の第 11 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
12	川口かしみ	売買春と性的自己決定権	予習では、教科書の第 12 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
13	川口かしみ	社会保障/刑事手続とジェンダー	予習では、教科書の第 13 章・14 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
14	川口かしみ	政治参画とジェンダー	予習では、教科書の第 15 章を読む。復習では、教科書の同章を読み返し、内容の理解を深める。		4 時間
教 科 書		『ジェンダーの視点で学ぶ憲法入門』			
参 考 書		授業中に適宜紹介する。			
備 考		教科書はタイトル通り、憲法を扱ったものであるが、お手に取っていただければ分かるように、ジェンダーについても扱っているものである。この授業ではそのジェンダー問題の部分扱う。			

科 目 名	憲法と法律			担 当 者	淡路 智典
科目ナンバリング	1040212532				常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	1224
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選 択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 憲法とは国の根幹を定める法律である。この授業では憲法の基本的な内容を扱う憲法総論、国家によっても侵害されることのない個人の権利を扱う人権論、国家の基本的な仕組みをさだめる統治機構論をそれぞれ見ていく。できるだけ学生に身近な話題を絡めつつ、憲法の基本的な考え方や条文解釈を説明していく。				【課題等のフィードバック方法】 授業の疑問点を Google classroom に書いてもらい、次の回の授業の冒頭で回答する。	
【学習の到達目標】 憲法という国家の根本法について基礎的な概念を理解し、基本的人権や統治機構のあり方に関して、自己の見解を持てるようにする。				【履修上の注意・予習・復習について】 スライドを授業前に確認し、わからない法律用語の予習。他の受講生の迷惑になることはしないこと。	
【成績評価方法】 期末試験の点数に平常点を加味して決定する。 内訳：期末試験 80%、小テスト 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 憲法に対する理解を深めることによって、憲法改正をはじめとする具体的な憲法問題に関して、主体的に考えられるようになる。個人の侵害されてはならない基本的人権を理解することにより、社会問題に関して一層深く理解することができるようになる。また一票を持つ主権者として必要な知識と自覚を得ることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	淡路 智典	ガイダンス・憲法とは	シラバスの内容確認・教科書（判例集）の読み方を理解する		4 時間
2	淡路 智典	憲法概説	スライドを授業前に確認し、憲法の全体像を掴む		4 時間
3	淡路 智典	幸福追求権と法の下での平等	判例を参考にして、包括的基本権や平等権について理解する		4 時間
4	淡路 智典	精神的自由権（内心の自由）	判例を参考にして、思想・良心の自由や信教の自由について理解する		4 時間
5	淡路 智典	精神的自由権（表現の自由）	判例を参考にして、表現の自由の重要性や限界について理解する		4 時間
6	淡路 智典	経済的自由権	判例を参考にして、職業選択の自由や財産権について理解する		4 時間
7	淡路 智典	人身の自由	判例を参考にして、刑事事件で保障される権利等について理解する		4 時間
8	淡路 智典	国務請求権と参政権	判例を参考にして、裁判を受ける権利や参政権について理解する		4 時間
9	淡路 智典	社会権	判例を参考にして、生存権や教育を受ける権利、労働基本権について理解する		4 時間
10	淡路 智典	権力分立の原理と国会	政治思想や歴史的経緯を参考にして、三権分立の概念を理解する		4 時間
11	淡路 智典	内閣	法制度を参考にして、公務員制度を理解する		4 時間
12	淡路 智典	裁判所	法制度を参考にして、裁判や裁判制度について理解する		4 時間
13	淡路 智典	天皇制、平和主義	憲法の条文を参考に、象徴天皇制や平和主義について理解する		4 時間
14	淡路 智典	憲法の保障	憲法の理念を参考に、硬性憲法について理解する		4 時間
教 科 書		岡田順太 / 淡路智典 / 今井健太郎 編『判例キーポイント憲法』（成文堂、2020 年、ISBN：978-4-7923-0666-3）			
参 考 書		芦部信喜『憲法（第 8 版）』（岩波書店、2023 年、ISBN：9784000616072）			
備 考		特になし。			

科 目 名	東北の歴史			担 当 者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	1040212533				常勤
D P	1,4			教員研究室	1124
学科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 歴史学の基礎講座（3 回程度）に始まり、近世の統治機構と都市構造について学びその地方史観から見た中央政権との関係史にいて学ぶ。 また、人文科学系の学問の基礎となる史（資）料の読み方・使い方についても解説する				【課題等のフィードバック方法】 講義に関する史資料等の把握及び博物館等へも赴くことで歴史学への意識を高めることを希望する	
【学習の到達目標】 従来の中央史観からではなく東北から観た地域史観のもと、人文学的な検証を行うことで、広い視野と新たな切り口で現代の社会を見直す目を養う				【履修上の注意・予習・復習について】 テキストは授業毎のレジュメと PP 資料により行う。なお、エクスカーションを実施（必須）するが、時間割とは別に土曜日等の授業日以外となるので、予め承知すること	
【成績評価方法】 受講記録やレポートの提出（3 回程度）を求め、その内容で評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 地域の歴史・文化等を学ぶことで、近年叫ばれている地域創生の一翼を担う感性を養う	
				【実務家教員担当科目】 なし	
授 業 計 画					
1. 概要と基礎講座Ⅰ（歴史区分と 2. 基礎講座Ⅱ（貨幣の歴史と度量衡） 3. 基礎講座Ⅲ（暦の歴史と元号・時間 4. 近世の統治機構（幕藩体制における大名統治） 5. 近世の都市構造Ⅰ（江戸と江戸城） 6. 近世の都市構造Ⅱ（仙台と仙台城） 7. 近世の都市構造Ⅲ（米沢城下の構築） 8. 近世の都市構造Ⅳ（会津と若松城下） 9. 奥州抗争史の群像Ⅰ（蝦夷征伐と多賀城） 10. 奥州抗争史の群像Ⅱ（奥州藤原氏と奥州合戦） 11. 奥州抗争史の群像Ⅲ（戊辰戦争の真実） 12. 自治体史（誌）の編纂について 13. 史学概論（歴史史料の読み方・使い方） 14. エクスカーション（仙台城址と仙台市博物館）					
教 科 書	エクスカーションを除き、毎回レジュメと PP 資料を使用				
参 考 書	東北各県・市町村の自治体史（誌）の他、授業中に参考文献を指示				
備 考	エクスカーションの実施については、授業時間外の土曜等を予定するので、予め承知すること				

科 目 名	現代史			担 当 者	星野 修
科目ナンバリング	1040212534				非常勤
D P	1,4			教員研究室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 冷戦後の日本と国際社会の変化と現状について、次の 2 つの問題を考察するという講義をします。 一つ目は、「なぜ、日本の政治は、こんなにも面白くないのか」という問題です。近年の国政選挙の投票率は、50% 台前半です。日本の有権者の 4,300 万から 5,000 万人以上が棄権しており、20 代の若者のおよそ 3 人に 1 人しか投票に行きません。日本の投票率の低さ、また若者の政治的関心の低さは、国際的にも群を抜いています。いつから、なぜ、日本の有権者は、政治に関心も期待も持たなくなったのでしょうか。 二つ目の問いは、「国際社会において、民主主義は、なぜ、人気をなくし、専制化する国々が増えているのでしょうか」です。世界の人口の 70% は、現在、専制体制の下で、自由も権利も奪われて生きています。「専制化の第 3 の波」といわれるこの状況は、いつ頃から、またなぜ、生じたのでしょうか。 この 2 つの問いに答えるかたちで、現代史の最も重大な問題を考察していきます。				【課題等のフィードバック方法】 講義の終わりに質問時間を設けて、それに回答すると共に、重要な質問については、受講者全員で討議します。また、講義中の質問も随時受けつけます。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の飲食、また遅刻を厳禁します。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代史の動向・変化を理解することによって、有権者としての基礎知識と判断力とを身につけることができますようになります。 【実務家教員担当科目】 該当しない。	
【学習の到達目標】 日本社会と国際社会の、ここ 30 年間ぐらいの動向・変化を理解するための、基礎的知識と社会・政治理論とを習得することです。					
【成績評価方法】 中間試験（30 点）と期末試験（70 点）の合計で評価します。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	星野 修	1. 現代日本社会と国際社会の現状——講義の概要について——	講義録/配付資料を復習/予習し、また次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
2	星野 修	2. 日本の有権者の投票行動とその変化——国際比較——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
3	星野 修	3. 選挙制度——中選挙区制から小選挙区・比例代表並立制への転換——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
4	星野 修	4. 政党システムの変遷——選挙制度との関連——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
5	星野 修	5. 統治システム——議院内閣制、大統領制、半大統領制——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
6	星野 修	6. 政治体制の分類——民主制と専制——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
7	星野 修	7. ドイツと韓国との比較考察	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
8	星野 修	8. 国際社会の現状と変化——「民主化の第 3 の波」とその終焉——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
9	星野 修	9. 「専制化の第 3 の波」について	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
10	星野 修	10. 専制化の事例①——東欧諸国——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
11	星野 修	11. 専制化の事例②——南アジア——	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
12	星野 修	12. 専制化の歴考察考察	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
13	星野 修	13. 専制化の現状の考察	講義録/配付資料を復習/予習し、次回講義レジュメに記載されている課題に取り組んでおく。		4 時間
14	星野 修	14. 専制化と再民主化の展望	講義録/配付資料を復習し、疑問点をまとめておく。期末試験まえに回答する。		4 時間
教 科 書		用いない。毎回、講義のレジュメと資料を配付します。			
参 考 書		用いない。（ただし、講義中に、参考文献は、随時、紹介します。）			
備 考		自由な参加・討論型の講義にしたいと思っていますので、学生諸君の活発な発言を期待します。また、しばしば教員からも質問します。			

科 目 名		生活と地球科学			担 当 者	千葉 一
科目ナンバリング		1040212535				非常勤
D P		1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人類は経済活動（利潤追求）を優先するあまり、環境や気候変動の問題を半ば放置して来た。しかしその人類の生態は、大きなパラダイムシフトを迫られている。本講義では、人間の活動が地球環境にどのような影響を与えているのかについて、特に地球温暖化を中心に解説して行く。また、そうした諸問題解決のための思考を深めて行く。						
【課題等のフィードバック方法】 提出物やレポートの総括講評を、次の授業で行う。						
【履修上の注意・予習・復習について】 私語・飲食・携帯電話・居眠り・無断退席は禁止する。授業進行に支障をきたす場合は退出してもらう。授業計画のトピックスを参考に資料など情報収集しつつ、授業に臨む。復習を怠らない。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 人類の生命活動のみが大切なのではなく、この地球の営みの中で共に生きる生命活動があって、この地球が存在している。気象や地殻の諸現象や多種多様な生命の絡み合いを理解し、それぞれの存在価値を正しく認識することは、未来の健全な「地球コミュニティ」の在り方にとって必須と考える。						
【実務家教員担当科目】 3.11 震災復興に関連した環境破壊やコミュニティ開発を研究しつつ、自然再生活動や社会開発を実践している教員が、地球規模の環境問題について、自然科学と人文科学の枠を超えて講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間 予習・復習 学修時間			
1	千葉 一	教科に関する説明と授業の進め方を説明する。	次回学習内容を予習。 4 時間			
2	千葉 一	人間という種の特異性と環境問題	自己の生活と環境問題の関連を再考する。次回学習内容を予習。 4 時間			
3	千葉 一	経済活動と地球温暖化	経済活動の過剰性についてまとめる。次回学習内容を予習。 4 時間			
4	千葉 一	地球温暖化のメカニズム	温室効果ガスの削減についてまとめる。次回学習内容を予習。 4 時間			
5	千葉 一	地球温暖化に伴う環境の激変	気候変動枠組み条約についてまとめる。次回学習内容を予習。 4 時間			
6	千葉 一	カーボン・サイクルと石灰岩	炭酸カルシウム形成過程を理解する。次回学習内容を予習。 4 時間			
7	千葉 一	復習と要点・疑問点の整理	前半 6 回の講義内容を理解・整理する。次回学習内容を予習。 4 時間			
8	千葉 一	化石燃料：炭素の固定と解放	その固定と解放の時間差を理解する。次回学習内容を予習。 4 時間			
9	千葉 一	経済成長と自然海岸の破壊	海浜の重要性を認識する。次回学習内容を予習。 4 時間			
10	千葉 一	海洋酸性化と生態系サービス	酸性化メカニズムを理解する。次回学習内容を予習。 4 時間			
11	千葉 一	森林破壊と生態系サービス	急速な森林破壊の現状を理解する。次回学習内容を予習。 4 時間			
12	千葉 一	森のネットワークと生物多様性	森林の社会性を理解する。次回学習内容を予習。 4 時間			
13	千葉 一	砂漠化と多種共生	多自然主義を理解する。次回学習内容を予習。 4 時間			
14	千葉 一	復習と要点・疑問点の整理	後半 6 回の講義内容を理解・整理し、小論文的にまとめる。 4 時間			
教 科 書		特になし。資料を適宜配布する。				
参 考 書		清水美香（編著）2023『レジリエンス－よみがえる力－森・風景・地域・人の交差の中で』、日本評論社。 原慶太郎ほか（編著）2021『自然と歴史を活かした震災復興－持続可能性とレジリエンスを高める景観再生』、東京大学出版会。				
備 考		特になし。				

科 目 名		生活と経済		担 当 者	奥山 忠裕	
科目ナンバリング		1040212536			非常勤	
D P		1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本講義では、生活を取り巻く様々な問題について経済活動を中心に学んでいきます。内容としては、経済の基礎、環境・資源問題、労働、公共政策、まちづくりの思考について学びます。						
【学習の到達目標】 到達目標は以下のとおりです。 ①各テーマでの基礎的な知識を身につける ②各テーマでの社会の課題を理解する ③各テーマの内容を説明できるようになる。						
【成績評価方法】 初回講義の課題を2点、2回目以降の課題が6点×13回＝78点、レポート2回×10点の計100点で評価します。公欠等を除き5回以上の欠席者は単位の取得を認めないことがあります。						
【課題等のフィードバック方法】 適宜質問に応じます。						
【履修上の注意・予習・復習について】 Google Classroom で毎回配布する講義資料を必ず印刷してもってくること。ニュースや新聞を読み、生活を取り巻く問題に関心をもってください。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 経済や環境、労働、公共政策といった日々の暮らしに近い社会課題の基礎を身につけることができます。関連する専門分野の理解が容易になると思います。						
【実務家教員担当科目】 特になし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	奥山 忠裕	ガイダンス、経済の考え方	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習①を行う		4 時間	
2	奥山 忠裕	市場の考え方と需要	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習②を行う		4 時間	
3	奥山 忠裕	供給と均衡の考え方	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習③を行う		4 時間	
4	奥山 忠裕	外部性と環境問題	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習④を行う		4 時間	
5	奥山 忠裕	環境問題の分類	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑤を行う		4 時間	
6	奥山 忠裕	循環型社会とは	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑥を行う		4 時間	
7	奥山 忠裕	公共政策の考え方	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑦を行う		4 時間	
8	奥山 忠裕	公共政策の手段	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑧を行う		4 時間	
9	奥山 忠裕	公共と協働の取り組み	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑨を行う		4 時間	
10	奥山 忠裕	労働市場をみる①	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑩を行う		4 時間	
11	奥山 忠裕	労働市場をみる②	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑪を行う		4 時間	
12	奥山 忠裕	景気と労働	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑫を行う		4 時間	
13	奥山 忠裕	まちづくり～地域再生の事例①	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑬を行う		4 時間	
14	奥山 忠裕	まちづくり～地域再生の事例②	予習：配布資料の事前学習のキーワードを調べる 復習：講義中に提示した事後学習⑭を行う		4 時間	
教 科 書		特になし				
参 考 書		適宜講義中に指示する				
備 考		特になし				

科 目 名		教養としての政治学		担 当 者	王 元	
科目ナンバリング		1040212537			常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	1324	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 人間は社会的動物である。政治は人間の社会的利害を調整するしくみである。人々が生活する社会における秩序を形成し、維持し、修正し、また時には破壊することを通じて実行される活動と手段である。 政治学は古代ギリシアに誕生して以来、長い歴史を刻んできた。しかし、政治行動の判断基準や結論には必ずしも法則性があるとはいえない。むしろ、政治を担う人の個性やイデオロギー、感情、さらには偶然性に左右される側面もある。総合的に知識や手法も駆使して最善の政策決定を促すところに、政治学の目的や妙味がある。 政治学の基礎知識と発想方法を解説する。政治学の面白さと大切さを伝え、政治現象一般を把握する視点を身に付けてもらうことがこの講義のねらいである。講義形式を基本とする。ただし適宜ビデオ教材を利用する。				【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、質問を受け付け、回答します。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語及び携帯電話の使用禁止。 受け身にならず、自ら探究心を持つことが重要だ。 政治問題への関心を抱き、まず新聞を読む習慣を身に付けてほしい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 政治現象を分析するための概念と手法を身につけ、各種の資格試験に必要な政治分野の基礎知識を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし		
【学習の到達目標】 近代社会の特徴、主たる政治思想の歴史、自由主義と民主主義の思想などについて基本的な知識を習得することをめざす。併せて政治現象への洞察力を高め、政治判断の能力を培いたい。						
【成績評価方法】 定期試験（70%）、課題提出、授業での発言・質問など（30%）。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	王 元	ガイダンス：政治学概念と体系	政治とは何か 政治学とは何			4 時間
2	王 元	国家と社会、国力	国家と社会の概念、 市民社会・国民国家の成立と政治的統合、国家の規模と国力			4 時間
3	王 元	主権と権力	主権と権力の性質、支配・権威・リーダーシップ・影響とソフトパワー			4 時間
4	王 元	集権と分権	政治集権と中央・地方の権力関係 地方自治の意義・過疎と過密			4 時間
5	王 元	政治参加と投票行動	代表制の類型と選挙制度、選挙の諸原則、投票行動と政治無関心			4 時間
6	王 元	政党政治	代議制民主主義における政党の機能と組織 議会の機能・審議過程と野党の役割			4 時間
7	王 元	世論と政治	マスメディアと世論の形成 圧力団体発生の原因と活動			4 時間
8	王 元	官僚制	政治と行政 官僚制の概念と官僚制化			4 時間
9	王 元	民主主義と権威主義	政治的意識形態と有効性 民主主義の維持と拡大			4 時間
10	王 元	代表的な政治体制Ⅰ	議院内閣制、大統領制と党国体制 米国、英国、日本などそれぞれの特徴			4 時間
11	王 元	代表的な政治体制Ⅱ	権威主義的な政治体制 中国、ロシアなどそれぞれの特徴			4 時間
12	王 元	国際政治	国際政治と国内政治、グローバルゼーション、国際組織			4 時間
13	王 元	地理政治学	国際競争、地理的な視点から人類政治を巨視的に見る			4 時間
14	王 元	現代政治の課題	福祉国家の成立、維持と発展			4 時間
教 科 書		教科書は用いず、適宜プリントを配布する。				
参 考 書		堀江湛・岡沢憲夫編『現代政治学』（法学書院、2011）。				
備 考		日々の新聞を読み、国内と国際政治情勢の把握に努められたい。				

科 目 名		解剖・生理学概論Ⅰ		担 当 者	辻川 寛
科目ナンバリング		1040322540			常勤
D	P	1,4		教員研究室	4203
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式				単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本授業は、人体の構造と機能（解剖生理学）の基礎を幅広く理解することを目的とする。まず、総論として細胞、組織、人体の区分を学び、その後、骨格系、筋系、神経系、視覚器・聴覚平衡覚器などの感覚器系、および皮膚とその付属器からなる外皮系について学修する。					
【学習の到達目標】 本授業は、医療系学生のみならず、将来の医療従事者として必要とされる人体解剖学および生理学の基本的事項を幅広く理解することを目的とする。特に、視能訓練士や言語聴覚士を目指す学生にとって重要な神経系や感覚器の構造と機能について、上級学年での専門授業を受けるために必要な知識を習得し、確実な理解を深めることを目指す。					
【成績評価方法】 毎回の課題（小テストやレポート、グループワークなど）10%/定期試験 90%					
【課題等のフィードバック方法】 課題（小テストやレポート、グループワークなど）は、翌週返却・解説する。 毎回の授業資料・授業動画を Google Classroom にアップロードする。					
【履修上の注意・予習・復習について】 毎回、履修事項に関する課題（小テストなど）を実施し、理解度を確認する。予習は、授業計画に沿って教科書の該当箇所を事前に把握することが望ましい。復習は、授業で配布したプリントを活用し、十分に行うことが必須である。特に、復習に重点を置き、確実に定着させることが求められる。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 将来の医療職に必要な基礎知識として、人体の解剖生理学の基本を習得する。上級学年での専門分野の理解を深めるための知識と応用力を身につける。また、国家試験に求められる解剖生理学の知識を確実に習得する。					
【実務家教員担当科目】 大学医学部において人体解剖実習を含めた解剖学教育経験のある教員が、その経験を生かして、人体の構造について講義する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	辻川 寛	ガイダンスと総論	教科書 第 1 章		4 時間
2	辻川 寛	細胞と組織	教科書 第 1 章		4 時間
3	辻川 寛	骨格系①（総論）	教科書 第 10 章		4 時間
4	辻川 寛	骨格系②（各論）	教科書 第 10 章		4 時間
5	辻川 寛	骨格系③（各論つづき）/筋系①（総論）	教科書 第 10 章		4 時間
6	辻川 寛	筋系②（総論つづき、各論）	教科書 第 10 章		4 時間
7	辻川 寛	筋系③（各論つづき）/神経系①（総論）	教科書 第 10 章；教科書 第 8 章		4 時間
8	辻川 寛	神経系②（脊髄・脳・脊髄神経）	教科書 第 8 章		4 時間
9	辻川 寛	神経系③（脳神経・自律神経）	教科書 第 8 章；第 7 章 B		4 時間
10	辻川 寛	神経系④（脳のはたらき）	教科書 第 8 章		4 時間
11	辻川 寛	神経系⑤（神経のはたらき・反射・伝導路）	教科書 第 8 章		4 時間
12	辻川 寛	神経系⑥（まとめ）/感覚器①（総論・視覚器）	教科書 第 8 章；第 9 章		4 時間
13	辻川 寛	感覚器系②（聴平衡覚器・嗅覚器・味覚器）	教科書 第 9 章		4 時間
14	辻川 寛	外皮系（皮膚）	教科書 第 9 章		4 時間
教 科 書		なるほどなっとく！解剖生理学 改訂 3 版 多久和典子・多久和陽（著）南山堂			
参 考 書		からだが見えるー人体の構造と機能ー第 1 版 医療情報科学研究所（編）メディックメディア ぜんぶわかる人体解剖図 坂井建雄・橋本尚詩（著）成美堂出版			
備 考		言語聴覚学専攻との合同講義			

科 目 名		解剖・生理学概論Ⅱ			担 当 者	辻川 寛	
科目ナンバリング		1040322541				常勤	
D P		1,4			教員研究室		4203
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次		1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 ☑自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 本授業は、人体の構造と機能の基礎を幅広く理解することを目的とする。前期の解剖・生理学概論Ⅰに続き、呼吸器系、消化器系、血液、循環器系、免疫系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系、人体の発生について、各器官の構造と機能を詳細に学ぶ。 【学習の到達目標】 本授業は、医療系学生のみならず、将来の医療従事者として必要とされる人体解剖学および生理学の基本的事項を幅広く理解することを目的とする。 【成績評価方法】 毎回の課題（小テストやレポート、グループワークなど）10%/ 定期試験 90% 【課題等のフィードバック方法】 課題（小テストやレポート、グループワークなど）は、翌週返却・解説する。 毎回の授業資料・授業動画を Google Classroom にアップロードする。 【履修上の注意・予習・復習について】 毎回、履修事項に関する課題（小テストなど）を実施し、理解度を確認する。予習は、授業計画に沿って教科書の該当箇所を事前に把握することが望ましい。復習は、授業で配布したプリントを活用し、十分に行うことが必須である。特に、復習に重点を置き、確実に定着させることが求められる。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 将来の医療職に必要な基礎知識として、人体の解剖生理学の基本を習得する。上級学年での専門分野の理解を深めるための知識と応用力を身につける。また、国家試験に求められる解剖生理学の知識を確実に習得する。 【実務家教員担当科目】 大学医学部において人体解剖実習を含めた解剖学教育経験のある教員が、その経験を生かして、人体の構造について講義する。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習			学修時間	
1	辻川 寛	呼吸器系（呼吸器の構造と機能）	教科書 第3 章			4 時間	
2	辻川 寛	消化器系①（上部消化管の構造と機能）	教科書 第4 章			4 時間	
3	辻川 寛	消化器系②（下部消化管の構造と機能）	教科書 第4 章			4 時間	
4	辻川 寛	消化器系③（肝臓・膵臓の構造と機能）	教科書 第4 章			4 時間	
5	辻川 寛	血液	教科書 第6 章			4 時間	
6	辻川 寛	循環器系①（心臓の構造と機能）	教科書 第2 章			4 時間	
7	辻川 寛	循環器系②（末梢循環系の構造）	教科書 第2 章			4 時間	
8	辻川 寛	循環器系③（血液の循環の調節とリンパ系）	教科書 第2 章			4 時間	
9	辻川 寛	免疫系	教科書 第6 章			4 時間	
10	辻川 寛	内分泌系	教科書 第7 章 C；D			4 時間	
11	辻川 寛	泌尿器系①（腎臓の構造と機能）	教科書 第5 章			4 時間	
12	辻川 寛	泌尿器系②（排尿路と体液の調節）	教科書 第5 章			4 時間	
13	辻川 寛	生殖器系	教科書 第11 章			4 時間	
14	辻川 寛	人体の発生	教科書 第11 章			4 時間	
教 科 書		なるほどなっとく！解剖生理学 改訂3 版 多久和典子・多久和陽（著）南山堂					
参 考 書		からだが見えるー人体の構造と機能ー第1 版 医療情報科学研究所（編）メディックメディア ぜんぶわかる人体解剖図 坂井建雄・橋本尚詩（著）成美堂出版					
備 考		言語聴覚学専攻との合同講義					

科 目 名	眼の解剖としくみⅠ			担 当 者	浅野 浩一
科目ナンバリング	1040332545				非常勤
D P	1,4			教員研究室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 眼球、視路、眼窩および付属器の解剖学的構造を中心に、眼球運動機能、視覚情報処理機能などを概説する。主要な構造や機能については、随時ディスカッション・ディベートも行っている。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了から随時質問を受けるなどの指導や、次回の講義の中での質疑応答、加えて双方向型授業などにより丁寧に理解度を確認しながら進めている。必要に応じて小テストなども行っている。	
【学習の到達目標】 将来視能訓練士として関わる眼疾患を理解するためには、眼球および付属器の構造と機能を知ることから始まる。本講義で以後の学習の基礎を習得することが到達目標となる。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義の中で、1 人に 2,3 回以上の質問をして、回答してもらう。教室にいないだけの出席点はない。回答するには、復習と教科書の予習が欠かせない。	
【成績評価方法】 定期試験：85%・小テストおよび質疑応答：15%、以上を総合評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 受講のメリットは、本講義の内容を理解することから、これに続く全ての眼科関連教科の授業・演習のスタートラインに立つことが出来ることにある。	
【実務家教員担当科目】 現役の眼科医でもある担当教員が、主要な解剖学的部位とその生理機能の理解を深めるために、関連する眼疾患についても実例をあげるなどして講義する。					

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	浅野 浩一	イントロ：視器の構造とその機能、角膜、強膜	予め角膜、強膜について学習してくる・角膜、強膜についてノートをまとめる		4 時間
2	浅野 浩一	ぶどう膜、水晶体	予めぶどう膜、水晶体について学習してくる・ぶどう膜、水晶体についてノートをまとめる		4 時間
3	浅野 浩一	硝子体、網膜	予め硝子体、網膜について学習してくる・硝子体、網膜についてノートをまとめる		4 時間
4	浅野 浩一	眼瞼および結膜	予め眼瞼、結膜について学習してくる・眼瞼、結膜についてノートをまとめる		4 時間
5	浅野 浩一	涙器・涙道と涙液	予め涙器・涙道と涙液について学習してくる・涙器・涙道と涙液についてノートをまとめる		4 時間
6	浅野 浩一	眼窩の構造	予め眼窩について学習してくる・眼窩についてノートをまとめる		4 時間
7	浅野 浩一	視路の解剖と働き	予め視路について学習してくる・視路についてノートをまとめる		4 時間
教 科 書		視能学（第3 版/小林 義治・他 編/文光堂） 眼科検査ガイド（第3 版/飯田 知弘・他 編/文光堂）			
参 考 書		講義をノートし、教科書とともに理解すれば充分ではあるが、もっと深く学習したい場合は、図書館に整備されている解剖学と生理学領域の図書も参考にすること			
備 考		質問および問い合わせは、直接科目担当の浅野まで			

科 目 名	眼の解剖としくみⅡ			担 当 者	浅野 浩一
科目ナンバリング	1040332546				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 眼球、視路、眼窩および付属器の解剖学的構造を中心に、眼球運動機能、視覚情報処理機能などを概説する。主要な構造や機能については、随時ディスカッション・ディベートも行っている。					
【学習の到達目標】 将来視能訓練士として関わる眼疾患を理解するためには、眼球および付属器の構造と機能を知ることから始まる。本講義で以後の学習の基礎を習得することが到達目標となる。					
【成績評価方法】 定期試験：85%・小テストおよび質疑応答：15%、以上を総合評価する。					
【課題等のフィードバック方法】 講義終了から随時質問を受けるなどの指導や、次回の講義の中での質疑応答、加えて双方向型授業などにより丁寧に理解度を確認しながら進めている。必要に応じて小テストなども行っている。					
【履修上の注意・予習・復習について】 講義の中で、1 人に 2,3 回以上の質問をして、回答してもらう。教室にいないだけの出席点はない。回答するには、復習と教科書の予習が欠かせない。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 受講のメリットは、本講義の内容を理解することから、これに続く全ての眼科関連教科の授業・演習のスタートラインに立つことが出来ることにある。					
【実務家教員担当科目】 現役の眼科医でもある担当教員が、主要な解剖学的部位とその生理機能の理解を深めるために、関連する眼疾患についても実例をあげるなどして講義する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	浅野 浩一	眼球諸組織の計測値	予め眼球の計測値について学習してくる・眼球の計測値についてノートをまとめる		4 時間
2	浅野 浩一	眼球の血管系：（動脈系・静脈系）	予め眼球の血管について学習してくる・眼球の血管についてノートをまとめる		4 時間
3	浅野 浩一	眼球の神経系と中枢（脳、脳神経系）	予め眼球や中枢の神経について学習してくる・眼球や中枢の神経についてノートをまとめる		4 時間
4	浅野 浩一	眼球の自律神経：交感神経	予め眼球の交感神経について学習してくる・眼球の交感神経についてノートをまとめる		4 時間
5	浅野 浩一	眼球の自律神経：副交感神経、瞳孔反応	予め眼球の副交感神経や瞳孔について学習してくる・眼球の副交感神経や瞳孔についてノートをまとめる		4 時間
6	浅野 浩一	近見反応と調節、眼球の運動系	予め近見反応や眼球運動について学習してくる・近見反応や眼球運動についてノートをまとめる		4 時間
7	浅野 浩一	房水産生とその動態、眼圧	予め房水産生や眼圧について学習してくる・房水産生や眼圧についてノートをまとめる		4 時間
教 科 書		視能学（第3版/小林 義治・他 編/文光堂） 眼科検査ガイド（第3版/飯田 知弘・他 編/文光堂）			
参 考 書		講義をノートし、教科書とともに理解すれば充分ではあるが、もっと深く学習したい場合は、図書館に整備されている解剖学と生理学領域の図書も参考にすること。			
備 考		質問および問い合わせは、直接科目担当の浅野まで。			

科 目 名		医学総論		担 当 者	○沼崎 宗夫・浅野 浩一	
科目ナンバリング		1040322547			常勤・非常勤	
D P		1,4		教員研究室	沼崎研究室（3207）	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 視能訓練士に必要な、病気の起こるメカニズムについて、主に病理学的な角度から学ぶ。主要な疾患について随時ディスカッション・ディベートなども加える				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後から随時質問を受けて指導したり、次の講義で質問するなどして、より丁寧に理解度を確認しながら進めている。必要に応じて小テストなども行う。		
【学習の到達目標】 医学という学問体系の概念を把握し、疾病全般の理解の入口となる医学の総論的な基礎知識について習得すること。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義の中で 1 人に 2,3 回以上の質問をし回答してもらう。教室にいるだけの出席点はない。回答するには、復習と教科書での予習が必要とされる。		
【成績評価方法】 定期試験 85%・小テストおよび質疑応答 15%、以上を総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 医学学習の基礎となる考え方、および各種疾病の理解に必要な医学の総論的な知識を習得することができることから、専門課程の視覚機能学を学習する際の大きなメリットになるものと考えられる。		
				【実務家教員担当科目】 医師でもある担当者が、豊富な臨床経験などを活かして、医学全般について平易に講義する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	沼崎 宗夫	イントロダクション、細胞・組織とその障害	予め細胞、組織について学習してくる・細胞、組織についてノートをとめる。			4 時間
2	沼崎 宗夫	再生と修復	予めに再生と修復ついて学習してくる・再生と修復についてノートをとめる。			4 時間
3	沼崎 宗夫	循環障害	予め循環障害について学習してくる・循環障害についてノートをとめる。			4 時間
4	沼崎 宗夫	炎症	予め炎症について学習してくる・炎症についてノートをとめる。			4 時間
5	沼崎 宗夫	免疫・アレルギー	予め免疫、アレルギーについて学習してくる・免疫、アレルギーについてノートをとめる。			4 時間
6	沼崎 宗夫	感染	予め感染について学習してくる・感染および感染症についてノートをとめる。			4 時間
7	沼崎 宗夫	代謝異常	予め代謝異常について学習してくる・代謝異常とその病態についてノートをとめる。			4 時間
8	沼崎 宗夫	老化と老年病	予め老化と老年病について学習してくる・老化と老年病についてノートをとめる。			4 時間
9	沼崎 宗夫	新生児の病理・先天異常	予め新生児の病理、先天異常について学習してくる・新生児の病理や先天異常についてノートをとめる。			4 時間
10	沼崎 宗夫	腫瘍	予め腫瘍について学習してくる・腫瘍全般についてノートをとめる。			4 時間
11	浅野 浩一	眼の炎症性疾患や（角膜）ジストロフィー	予め炎症性疾患やジストロフィーについて学習してくる・炎症性疾患やジストロフィーのノートをとめる。			4 時間
12	浅野 浩一	眼の免疫異常・自己免疫疾患	予め眼の免疫異常・自己免疫疾患について学習してくる・免疫異常・自己免疫疾患のノートをとめる。			4 時間
13	浅野 浩一	眼のアレルギー性疾患やアトピー	予め眼のアレルギー性疾患やアトピーについて学習してくる・アレルギー性疾患やアトピーのノートをとめる。			4 時間
14	浅野 浩一	周辺部角膜潰瘍やぶどう膜炎	予め周辺部角膜潰瘍やぶどう膜炎について学習してくる・周辺部角膜潰瘍やぶどう膜炎のノートをとめる。			4 時間
教 科 書		沼崎：配布プリント 浅野：視能学（第3版）				
参 考 書		岩田隆子編「わかりやすい病理学」南江堂 北村論著「医学概論」中外医学社				
備 考		質問は授業担当の教員に直接行うこと。 沼崎研究室（3207） 浅野には講義担当日に				

科 目 名		生活の中の視覚		担 当 者	○原口 翔太・小野 峰子 安達いづみ・石川奈津美
科目ナンバリング		1040312552			常勤
D	P	1,4		教 員 研 究 室	4104
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式				必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視覚とは、眼で捉えた情報を認識するための感覚であり、視力、屈折、視野、両眼視、色覚などの視機能により成立する。ヒトは外界の情報を光刺激として眼で捉え、眼内の網膜で電気信号に変えられた情報が脳に伝わり、知覚、認知が生じることで情報を認識している。本演習では、視機能と視覚情報処理、視覚機能診断機器について学修し、日常生活と視覚との関連を理解するための知識と方法を身に付ける。				【課題等のフィードバック方法】 演習のレポートおよびグループワークの結果に基づいて理解できていないところをフィードバックする。	
【学習の到達目標】 日常生活と視覚との関連性について説明できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ■ 演習では機器の安全管理を十分行い、事故のないように教員の指示に従うこと。 ■ 基本的には全回出席のこと。やむを得ない理由で欠席する場合には担当教員に連絡をすること。 ■ グループで演習を行うため、原則、遅刻は認めない。授業開始から 20 分経過した場合は遅刻ではなく欠席とし、遅刻 2 回で欠席 1 回としてカウントする。 ■ 受講中の携帯電話の使用、飲食は厳禁。 ■ 個人の受講態度によってはグループ全体の演習を中止する。	
【成績評価方法】 各担当教員レポートおよび小テスト、発表等による総合的評価：100%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科臨床において必要となる知識や技術習得のための入門編であり、グループワークによる考える力の習得と今後の専門基礎・専門科目の学修に繋げるために履修は必須である。	
				【実務家教員担当科目】 視能訓練士の教員がその経験の基に指導する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	原口 翔太	オリエンテーション・視覚とは	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
2	原口 翔太	形態覚と視力の種類	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
3	原口 翔太	屈折異常（遠視・近視・乱視）	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
4	原口 翔太	視力検査法と屈折矯正～理論編～	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
5	原口 翔太	視力検査法と屈折矯正～実験編～	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
6	原口 翔太	眼鏡	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
7	原口 翔太	コンタクトレンズ	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
8	原口 翔太	スポーツと視覚	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
9	石川奈津美	視野	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
10	石川奈津美	色覚異常の世界	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
11	安達いづみ	両眼視を知ろう①	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
12	安達いづみ	両眼視を知ろう②	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
13	小野 峰子	錯視	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
14	小野 峰子	視覚障害者の支援	視能学	および眼科検査ガイド、資料により学習する	1 時間
教 科 書		①視能学（第 3 版 / 小林義治・他 編 / 文光堂） ②眼科検査ガイド（第 3 版 / 飯田知弘・他 編 / 文光堂）			
参 考 書		①錯視のしくみ（北岡明佳 / 朝倉書店） ②病気がみえる vol.12 眼科（医療情報科学研究所 編 / メディックメディア） ③病気がみえる vol.7 脳・神経（医療情報科学研究所 編 / メディックメディア）			
備 考		質問は担当教員へ直接行うこと			

科 目 名	両眼視機能と眼球運動			担 当 者	○石川奈津美・安達いづみ	
科目ナンバリング	1040332553				常勤	
D P	1,2			教 員 研 究 室	4201	
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 両眼視機能と眼球運動の基礎を系統的に学び、それらが関係する疾患や障害を総合的に考えられるよう学修する。				【課題等のフィードバック方法】 小テストの採点、添削、要点の解説		
【学習の到達目標】 両眼視機能と眼球運動の基礎を理解し、病態についての理解力をつける。				【履修上の注意・予習・復習について】 ①教科書および本科目専用のノートを準備し、持参の上受講すること ②講義終了後は復習を必ずすること ③質問は積極的にすること（講義中でも可） ④受講中は携帯電話類をオフにすること		
【成績評価方法】 ①定期試験期間の筆記試験：90% ②授業中の小テスト、課題のレポート提出など：10% 以上を総合評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 視能訓練学の基礎となる両眼視のしくみを理解し、視覚検査のスペシャリストになる上で、今後の各論へ進むための基本を学習する。		
				【実務家教員担当科目】 視能訓練士の実務経験のある教員が教授する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	石川奈津美	眼球運動①	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
2	石川奈津美	眼球運動②	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
3	石川奈津美	眼球運動③	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
4	石川奈津美	眼球運動④	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
5	安達いづみ	両眼視のしくみ①	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
6	安達いづみ	斜視について①	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
7	安達いづみ	弱視について①	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
教 科 書		視能学（第3版 / 小林義治・他 編 / 文光堂）				
参 考 書		できる！斜視検査 両眼視機能がわかるケーススタディでレベルアップ！（杉山能子編集 / 三輪書店） 視能学エキスパート 視能訓練学（シリーズ監修 / 日本視能訓練士協会 / 医学書院）				
備 考		質問は担当教員へ直接行うこと				

科 目 名		リハビリテーション概論			担 当 者	○小野 峰子・坂本 保夫	
科目ナンバリング		1040322558				常勤	
D P		1,4			教員研究室		4202
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次		1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当する
【授業内容】 前世紀の後半から 21 世紀にかけて、公衆衛生及び保健教育の啓発などにより疾病構造は変化し、生か死の急性疾患から、疾病と障害を併存する慢性疾患が多数を占めるようになった。一方、医療技術の進歩は重度障害を負ったままでの長期生存を可能にし、超高齢化社会が加齢に伴う障害の発生をもたらした。このように障害が普遍化した社会にあって、健常者、障害者がともに生活するノーマライゼーション原理に基づくユニバーサル社会が考究されている。本講義では、このような時代にあって、障害を対象とするリハビリテーション専門職として必須のリハビリテーションの理念と基本原理について学修する。 【学習の到達目標】 リハビリテーションの理念と基本原理について理解することを到達目標とする。1) 疾病と障害について説明できる。2) 生活機能について正しく説明できる。3) 医学的リハビリテーションから社会統合までの過程が説明できる。 【成績評価方法】 レポート：20%/ 定期試験：80%							
【課題等のフィードバック方法】 レポート課題はプリントまたは Google Classroom にてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 予習は参考書などを用いて十分に行い、受講前に疑問事項をまとめること。授業で不明な点は授業中または直後に質問し、解決すること。遅刻して授業開始から 20 分を経過した場合は欠席とする。遅刻を 2 回した場合は、欠席とする。 居眠り、授業に差しさわりのある会話、スマートフォンの使用は禁止する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 日常的に使われている「リハビリテーション」という“ことば”を専門用語として明示的に理解できる。 【実務家教員担当科目】 視能障害専門視能訓練士がリハビリテーションの中で視覚障害を中心に講義を行う。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	小野 峰子	リハビリテーションの定義と目的	リハビリテーションとは。参考書 第 1 章 P1-26				4 時間
2	小野 峰子	健康と生活の質・QOL	人間活動と発達・ハビリテーション。参考書 第 3 章 P61-90				4 時間
3	小野 峰子	リハビリテーションの諸段階 (1)	リハビリテーションの諸段階。参考書 第 5 章 P111-158				4 時間
4	小野 峰子	リハビリテーションの諸段階 (2)	リハビリテーションの諸段階。参考書 第 5 章 P111-158				4 時間
5	小野 峰子	病気と障害 (1)	病気・障害や疾患モデル、また患者・障害者について予習・復習。参考書 第 2 章 P29-62				4 時間
6	小野 峰子	病気と障害 (2)	発達と人間活動、ハビリテーション、身体障害、先天異常および精神障害について予習・復習。参考書 第 2 章 P65-93、第 7 章 P227-248				4 時間
7	坂本 保夫	リハビリテーションを支える社会保障制度	障害者総合支援法について予習し、社会保障制度のまとめとして小論文課題に取り組む。				4 時間
教 科 書		プリント配布					
参 考 書		入門リハビリテーション概論・第 7 版増補（中村隆一・佐直信彦 編 / 医歯薬出版）					
備 考		問合せは各授業の担当教員まで					

科 目 名		チーム医療福祉論		担 当 者	大黒 一司	
科目ナンバリング		1040322559			常勤	
D	P	1,2		教員研究室	3211	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 本学では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、社会福祉士、精神保健福祉士、看護師、保健師、臨床工学技士の9の保健医療福祉専門職を養成している。それぞれが専門的知識と技術を習得することは大切である。しかし、将来現場で働く際には、本学において養成している職種に限らず多くの専門職と関わることになる。そこで、この授業では保健医療福祉分野においてチームとして関わる専門職について知ることを目的として、それぞれの専門職の仕事内容、保健医療福祉分野における役割、機能について講義をする。また、多職種連携の実践について実践例の紹介を通して学ぶ。受講する学生が自身の目指す職種について、他の学生に紹介することや他の職種について説明を受ける機会（グループワーク）を通して多職種について理解することができる。 【学習の到達目標】 ・他職種の専門性、業務の概要を知る ・他専攻の学生とかわかる中で自分の目指す専門職について紹介できる 【成績評価方法】 授業時の課題（レスポンスペーパーの提出） 20% グループワークの課題 30% まとめの課題レポート 50% 【課題等のフィードバック方法】 ・講義終了後、質問を受け付け回答する。 ・レスポンスペーパーによる質問を受け付け回答する（クラスルーム）。 ・次回講義時に受講者全体に向けて回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 指定された席で受講する。私語・携帯電話の使用・飲食の禁止 レスポンスペーパーは毎回必ず提出する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 1 年次から他学科・他専攻で学ぶ学生と授業を通して交流することができる。また、自分が目指す職種のことを他者に伝えるために一層理解することができる。 【実務家教員担当科目】 病院・施設において多職種連携を実践していた。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	大黒 一司	保健医療福祉を支える専門職とチームの役割	復習：配布資料を基に授業内容を復習する			4 時間
2	大黒 一司	専門職の理解（紹介）1 医師、歯科医師、薬剤師	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する			4 時間
3	大黒 一司	専門職の理解（紹介）2 (1) 看護師、保健師、管理栄養士、臨床工学技士 (2) グループワーク	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する			4 時間
4	大黒 一司	専門職の理解（紹介）3 (1) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士 (2) グループワーク	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する			4 時間
5	大黒 一司	専門職の理解（紹介）4 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、義肢装具士、ほか	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する			4 時間
6	大黒 一司	多職種連携の実践 (1) 保健医療福祉における多職種連携の実践の紹介 (2) グループワークを通して多職種連携を模倣的に体験する	予習：事前配布資料の次回授業内容（テキストのページ）を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する			4 時間
7	大黒 一司	全体の振り返りとまとめ（課題の実施と提出）	予習：事前配布資料のこれまでの授業内容（テキストのページ）について振り返る 復習：まとめの課題についてテキストで確認する。			4 時間
教 科 書		指定教科書は特になし				
参 考 書		必要に応じて図書や文献を紹介する				
備 考		質問等の問い合わせ：大黒一司（リハビリテーション学科作業療法学専攻）				

科 目 名		重度障がい者自立生活支援演習		担 当 者	○本間 里美・小林 武 傍島 智子・千葉早耶香 千田 香	
科目ナンバリング		1040312567			常勤・非常勤	
D P		4		教員 研 究 室	小林：3103、傍島：1314	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1・2・3・4 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク ☑プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 地域で生活する重度身体障がい者の生活とそれを支える専門職の役割について、講義・演習・実習を通して学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 グループワーク、プレゼンテーション実施後に講評する		
【学習の到達目標】 重度障がい者の地域生活を知る 重度障がい者の地域生活に必要な支援を体験する				【履修上の注意・予習・復習について】 休日、祝・祭日の3連休に開講する（開講日は別途通知する）。		
【成績評価方法】 グループワーク成果物とプレゼンテーションの妥当性を評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 地域で生活する重度身体障がい者の生活とそれを支える専門職の役割を理解・体験できる。		
				【実務家教員担当科目】 重度身体障がい者の地域生活支援に携わっている看護師、理学療法士、ヘルパーが、それに必要な専門的知識・技術を教授するとともに、当事者宅での実習について指導する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	本間	・オリエンテーション ・障がいとは？	復習：「障がい」のもつ多面的な意味をまとめる		1 時間	
2	本間、千田、千葉	・重度身体障がい者用コミュニケーション機器実習 ・透明文字盤実習	予習：自分の意思を伝達する手段を調べておく 復習：実習した内容をまとめる		1 時間	
3	本間、千葉	「地域で生きる・暮らす」「地域で支える」とは？	予習：重度障がい者が地域で暮らすために必要な支援について調べておく 復習：重度障がい者が地域で暮らすために必要な支援についてまとめる		1 時間	
4	本間、千葉	・医療の視点と介助の視点 ・事例をもとに考えよう	予習：重度障がい者の疾病を調べておく 復習：重度障がい者の疾病と障害をまとめる		1 時間	
5	本間、千田	当事者宅での実習説明と準備学習	当事者宅での実習目標、スケジュールを確認しておく		1 時間	
6	本間、千田、傍島、小林	当事者宅での実習	予習：当事者宅での実習に必要な用具、身なりを準備しておく 復習：実習日誌をつける		1 時間	
7	本間、千田、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習日誌をつける		1 時間	
8	本間、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習日誌をつける		1 時間	
9	本間、千葉、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習日誌をつける		1 時間	
10	本間、千葉、傍島、小林	当事者宅での実習	復習：実習内容をまとめておく		1 時間	
11	本間、千田、千葉、傍島、小林	グループワーク 1：実習経験の共有	予習：実習内容を発表できるように準備しておく 復習：共有した他の学生の実習経験をまとめる		1 時間	
12	本間、千田	・実習での体験を振り返る ・改めて考える「障がいとは？」	復習：自分の実習と共有した他の学生の実習内容から、改めて障害の持つ意味を簡単にまとめる		1 時間	
13	本間	障がいって何？ 当たり前の見方を変えてみよう	復習：障がいの多面的な意味を考察しまとめる		1 時間	
14	本間、千田、千葉、傍島、小林	・グループワーク 2：「障がいとは？」について考える ・発表会と総まとめ	復習：授業全体を振り返り、重度障がい者の生活を支援することの意義と専門職としての関わりをまとめる		1 時間	
教 科 書		オリジナルテキスト（¥500）を使用します。初回授業時に購入してもらいます。				
参 考 書		特に指定しない				
備 考		・当事者宅での実習を受け入れていただく当事者の人数が限られていますので、受講者数を最大 20 名に制限します。 ・受講希望者多数の場合は、事前説明会や面接等を通して受講生を決定します。				

科 目 名		同行援護		担 当 者	○小野 峰子・阿部 直子 善 積 有子	
科目ナンバリング		1040332568			常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	4202	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1・2・3・4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 障害者総合支援法において同行援護とは「視覚障害により、移動に著しい困難を有する障害者等につき、外出時において、当該障害者等に同行し移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護その他の厚生労働省令で定める便宜を供与することをいう」とされている。この同行援護サービスの内容、制度、知識、技能の基礎知識を学修する。 【学習の到達目標】 同行援護従事者の養成研修に含まれる講義となる。 同行援護サービスに必要な基礎知識を身につける。 【成績評価方法】 定期または随時試験：50% 実技試験：50% 【課題等のフィードバック方法】 実技小テスト行う その際に各自にフィードバックをする 【履修上の注意・予習・復習について】 予習として同行援護従事者養成研修テキストを読んでくること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 視覚障害者の障害状況の理解が深まり、同行援護サービスの移動支援に必要な基礎知識が身につく。 視能訓練士が接することが多い視覚障害者への支援が有効に実践できるようになる。 またこの講義は、同行援護従事者の養成研修に含まれ、同行援護演習と両方を修了したものには、養成研修修了書を交付する。この研修修了者は、同行援護サービスが提供できる。 【実務家教員担当科目】 小野峰子 専門視能訓練士 看護師 障害科学博士、善積有子 歩行訓練士、 阿部直子 社会福祉士、 西山貴大 視能訓練士 歩行訓練士						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	小野 峰子 阿部 直子	視覚障害者（児）の福祉の制度とサービス	同行援護従事者養成研修テキスト 2-17 を読んで予習および復習		4 時間	
2	小野 峰子 阿部 直子	同行援護の制度と従業者の業務 1	同行援護従事者養成研修テキスト 18-77 を読んで予習および復習		4 時間	
3	小野 峰子 善積 有子	同行援護の制度と従業者の業務 2	同行援護従事者養成研修テキスト 18-77 を読んで予習および復習		4 時間	
4	小野 峰子	障害・疾病の理解 1	同行援護従事者養成研修テキスト 78-92 を読んで予習および復習		4 時間	
5	小野 峰子	障害・疾病の理解 2	同行援護従事者養成研修テキスト 78-92 を読んで予習および復習		4 時間	
6	小野 峰子	障害・疾病の理解 3	同行援護従事者養成研修テキスト 78-92 を読んで予習および復習		4 時間	
7	小野 峰子	障害者（児）の心理 1	同行援護従事者養成研修テキスト 93-98 を読んで予習および復習		4 時間	
8	小野 峰子	障害者（児）の心理 2	同行援護従事者養成研修テキスト 93-98 を読んで予習および復習		4 時間	
9	小野 峰子 善積 有子	情報支援と情報提供 1	同行援護従事者養成研修テキスト 99-103 を読んで予習および復習		4 時間	
10	小野 峰子 善積 有子	情報支援と情報提供 2	同行援護従事者養成研修テキスト 99-103 を読んで予習および復習		4 時間	
11	小野 峰子 善積 有子	代筆・代読の基礎知識 1	同行援護従事者養成研修テキスト 104-124 を読んで予習および復習		4 時間	
12	小野 峰子 善積 有子	代筆・代読の基礎知識 2	同行援護従事者養成研修テキスト 104-124 を読んで予習および復習		4 時間	
13	小野 峰子 善積 有子	同行援護の基礎知識 1	同行援護従事者養成研修テキスト 125-142 を読んで予習および復習		4 時間	
14	小野 峰子 善積 有子	同行援護の基礎知識 2,3	同行援護従事者養成研修テキスト 125-142 を読んで予習および復習		4 時間	
教 科 書		同行援護従事者養成研修テキスト 第 4 版 中央法規				
参 考 書		視能学				
備 考		適宜、資料を配布する。				

科 目 名		同行援護演習		担 当 者	○小野 峰子・善積 有子 西山 貴大
科目ナンバリング		1040332569			常勤
D	P	2,3		教 員 研 究 室	4202
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1・2・3・4年次・後期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位 選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 同行援護の講義で得た知識を基礎に同行援護サービスの内容、技能について演習を行い学修する。基本技能、応用技能、場面別基本技能、場面別応用技能、交通機関の利用の演習を行う。				【課題等のフィードバック方法】 レポート提出、実技試験により個別にフィードバックする。	
【学習の到達目標】 同行援護従事者の養成研修に含まれる演習となる。 同行援護サービスに必要な基礎技能を身につける。				【履修上の注意・予習・復習について】 予習として同行援護従事者養成研修テキストを読んでくること。	
【成績評価方法】 定期または随時試験：50% 実技試験：50%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 視覚障害者の障害状況の理解が深まり、同行援護サービスの移動支援に必要な基本技能が身につく。 視能訓練士が接することが多い視覚障害者への支援が有効に実践できるようになる。 またこの演習は、同行援護従事者の養成研修に含まれ、同行援護演習と両方を修了したのものには、養成研修修了書を交付する。この研修修了者は、同行援護サービスが提供できる。	
				【実務家教員担当科目】 小野峰子；障害科学博士 善積有子；歩行訓練士 阿部直子；社会福祉士	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	小野 峰子 善積 有子他	基本技能1 挨拶から基本姿勢他	同行援護従事者養成研修テキスト 144-161 を読んで予習および復習		1 時間
2	小野 峰子 善積 有子他	基本技能2 歩行、曲がる、階段他	同行援護従事者養成研修テキスト 144-161 を読んで予習および復習		1 時間
3	小野 峰子 善積 有子他	基本技能3 狭い場所の通過、ドアの通過他	同行援護従事者養成研修テキスト 144-161 を読んで予習および復習		1 時間
4	小野 峰子 善積 有子他	応用技能1 環境に応じた歩行他	同行援護従事者養成研修テキスト 162-178 を読んで予習および復習		1 時間
5	小野 峰子 善積 有子他	応用技能2 様々な階段他	同行援護従事者養成研修テキスト 162-178 を読んで予習および復習		1 時間
6	小野 峰子 善積 有子他	応用技能3 エレベーター、エスカレーター他	同行援護従事者養成研修テキスト 162-178 を読んで予習および復習		1 時間
7	小野 峰子 善積 有子他	場面別基本技能1 食事他	同行援護従事者養成研修テキスト 179-202 を読んで予習および復習		1 時間
8	小野 峰子 善積 有子他	場面別基本技能2 トイレ、窓口やカウンター他	同行援護従事者養成研修テキスト 179-202 を読んで予習および復習		1 時間
9	小野 峰子 善積 有子他	場面別基本技能3 買い物他	同行援護従事者養成研修テキスト 179-202 を読んで予習および復習		1 時間
10	小野 峰子 善積 有子他	場面別応用技能1 雪・雨の日 金銭・カード他	同行援護従事者養成研修テキスト 179-202 を読んで予習および復習		1 時間
11	小野 峰子 善積 有子他	場面別応用技能2 盲導犬ユーザーへの対応、車いす利用の視覚障害者への対応他	同行援護従事者養成研修テキスト 179-202 を読んで予習および復習		1 時間
12	小野 峰子 善積 有子他	場面別応用技能3 病院、冠婚葬祭、式典など 交通機関の利用 1	同行援護従事者養成研修テキスト 179-202 を読んで予習および復習		1 時間
13	小野 峰子 善積 有子他	交通機関の利用 2 交通機関の利用の基本、車の乗降他	同行援護従事者養成研修テキスト 162-178 を読んで予習および復習		1 時間
14	小野 峰子 善積 有子他	交通機関の利用 3 電車の乗降、バスの乗降、飛行機の乗降、船の乗降他	同行援護従事者養成研修テキスト 162-178 を読んで予習および復習		1 時間
教 科 書		同行援護従事者養成研修テキスト 第 4 版 中央法規			
参 考 書		視能学			
備 考		適宜、資料を配布する。			

科 目 名		生理光学 I		担 当 者	坂本 保夫	
科目ナンバリング		1040432570			常勤	
D P		1,2		教員研究室	4205	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 眼に入射する光は網膜に達するまでに、角膜、房水、水晶体、硝子体などにより屈折、反射、散乱などを起こす。さらに網膜に投影される像是眼球光学系の収差、瞳孔での回折や調節などに影響される。本講義では眼球光学系の構造・特徴を学び、幾何光学および波動光学の面から屈折・調節異常とその検査・矯正法について学修する。 【学習の到達目標】 屈折異常の概念を理解し、屈折検査・矯正に必要な計算法を修得する。生理光学Ⅰでは以下を行う。1) 幾何光学においてレンズの結像理論を理解し、結像関係式を扱える。2) 近視・遠視・老視の概念を理解する。3) レフラクトメータ、ケラトメータなどの基本検査法を理解する。4) 眼の調節力・明視域について理解し、矯正度数計算が行える。 【成績評価方法】 Classroom による課題：50% / 試験：50% 【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom を使い、課題の添削にてフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 予習・復習は授業の理解度を高める上で非常に重要である。予習は教科書・参考書などを用いて十分に行い、受講前に疑問点をまとめておくこと。不明な点は授業中または直後に必ず質問し、解決すること。遅刻時間に関わらず、あきらめずに受講すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本講義で得られる知識は、視覚機能検査・訓練にたずさわるものにとっては必要不可欠なものであり、国家試験の1分野である。また、最新の医療技術に対応するためにも必須知識である。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	坂本 保夫	A. 生理光学の基礎的知識	復習課題：プリズム・色収差に関する国家試験問題			4 時間
2	坂本 保夫	B-1. レンズの定義	復習課題：レンズの屈折力・面屈折力の計算問題			4 時間
3	坂本 保夫	B-2.Vergence（光の広がり）とレンズ	復習課題：レンズを使った簡単な実験			4 時間
4	坂本 保夫	C-1. 屈折調節異常：近視・遠視	復習課題：屈折異常の国家試験問題			4 時間
5	坂本 保夫	C-2. 屈折調節異常：オートレフ・ケラトメーターの実測	復習課題：実測結果より自分のカルテを作成			4 時間
6	坂本 保夫	C-3. 屈折調節異常：調節とは	復習課題：調節力・明視域の計算問題			4 時間
7	坂本 保夫	C-4. 屈折調節異常：調節計算				4 時間
教 科 書		視能学・第3版（小林義治・他 編 / 文光堂）				
参 考 書		屈折異常とその矯正・改訂第7版（所 敬 / 金原出版） 眼科検査ガイド（第3版 / 飯田知弘・他 編 / 文光堂）				
備 考		問合せ：坂本保夫				

科 目 名		生理光学Ⅱ		担 当 者	坂本 保夫	
科目ナンバリング		1040442571			常勤	
D P		1,2		教員研究室		4205
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次		1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 眼に入射する光は網膜に達するまでに、角膜、房水、水晶体、硝子体などにより屈折、反射、散乱などを起こす。さらに網膜に投影される像は眼球光学系の収差、瞳孔での回折や調節などに影響される。本講義では眼球光学系の構造・特徴を学び、幾何光学および波動光学の面から屈折・調節異常とその検査・矯正法について学修する。 【学習の到達目標】 屈折異常の概念を理解し、屈折検査・矯正に必要な計算法を修得する。生理光学Ⅱでは以下について学習する。1) 屈折異常（正乱視検査）の矯正方法について、2) 眼鏡による矯正法、特に、レンズで生じるプリズム効果について、3) 不正乱視（円錐角膜・収差）について、4) 屈折異常（近視）の予防と治療について理解する。 【成績評価方法】 Classroom による課題：50% / 試験：50% 【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom を用い、課題の添削にてフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 予習・復習は授業の理解度を高める上で非常に重要である。予習は教科書・参考書などを用いて十分に行い、受講前に疑問点をまとめておくこと。不明な点は授業中または直後に必ず質問し、解決すること。遅刻時間に関わらず、あきらめずに受講すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 本講義で得られる知識は、視覚機能検査・訓練にたずさわるものにとっては必要不可欠なものであり、国家試験の1分野である。また、最新の医療技術に対応するためにも必須知識である。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	坂本 保夫	D-1. 乱視：正乱視の分類・自覚的乱視検査	復習課題：正乱視の分類・視力の記載法を簡潔にレポートにまとめる			4 時間
2	坂本 保夫	D-2. 乱視：Optical Power Cross	復習課題：Optical Power Cross によるレンズ度数変換の問題			4 時間
3	坂本 保夫	D-3. 乱視：Optical Power Cross の確認計算				4 時間
4	坂本 保夫	E-1. 眼鏡矯正：眼鏡レンズの種類と矯正効果	復習課題：眼の主点屈折力と角膜頂点屈折力の計算			4 時間
5	坂本 保夫	E-2. 眼鏡矯正：みかけの調節力・レンズで生じるプリズム効果	復習課題：Prentice の公式による計算			4 時間
6	坂本 保夫	F. 不正乱視：円錐角膜・収差	復習課題：角膜形状解析結果によるベルシード角膜辺縁変性と円錐角膜の見極め方についてレポートにまとめる			4 時間
7	坂本 保夫	G. 屈折異常の予防と治療	復習課題：近視の二次予防（進行抑制治療）について簡潔にレポートにまとめる			4 時間
教 科 書		視能学・第3版（小林義治・他 編 / 文光堂）				
参 考 書		屈折異常とその矯正・改訂第7版（所 敬 / 金原出版） 眼科検査ガイド（第3版 / 飯田知弘・他 編 / 文光堂）				
備 考		問合せ：坂本保夫				

科 目 名		社会と医療Ⅰ		担 当 者	○小野 峰子・原口 翔太 安達いづみ・石川奈津美	
科目ナンバリング		1040432572			常勤	
D	P	1,4		教員研究室	4202	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 眼科臨床で働く視能訓練士の仕事を理解し、必要な資質や適性について学ぶ。チーム医療で働く医師、看護師の役割、多職種との連携について学ぶ。 【学習の到達目標】 視能訓練士という専門職の理解が深まる。職場環境、医師、看護師の役割を知ること視能訓練士の役割を知る。 【成績評価方法】 レポート課題 20% 定期試験 80% 【課題等のフィードバック方法】 レポート課題は個人別ディスカッションまたは各コメントでフィードバックする 【履修上の注意・予習・復習について】 予習は教科書・参考書などを用いて十分に行い、受講前に疑問事項をまとめること。授業で不明な点は授業中または直後に質問し、解決すること。 遅刻して授業開始から 20 分を経過した場合は欠席とする。 遅刻を 2 回した場合は、欠席とする。 居眠り、授業に差しさわりのある会話、スマートフォンの使用は禁止する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 専門職としての視能訓練士の役割を知ることができる。 【実務家教員担当科目】 小野峰子 / 専門視能訓練士 安達いづみ / 認定視能訓練士						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	小野 峰子	眼科医療と倫理	視能学 198-206 をよく読む		4 時間	
2	小野 峰子 他	眼科の職場環境と他職種との連携	視能学 198-206 をよく読む		4 時間	
3	小野 峰子 他	アイフレイルと視能訓練士の役割、広がる活躍の場	視能学 198-206 をよく読む		4 時間	
4	石川奈津美 他	視能訓練士の接遇	視能学 198-206 をよく読む		4 時間	
5	石川奈津美 他	視能訓練士に必要なコミュニケーション力	視能学をよく読む		4 時間	
6	安達いづみ 他	視能訓練士と健診	視能学をよく読む		4 時間	
7	小野 峰子 他	視能訓練士に求められる資質と適正	視能学 198-206 をよく読む		4 時間	
教 科 書		視能学				
参 考 書		配布資料				
備 考		質問は随時受け付けます				

科 目 名		基礎眼光学		担 当 者	坂本 保夫	
科目ナンバリング		1040422580			常勤	
D P		1,2		教員研究室		4205
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次		1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 見える範囲のすべての視覚は、通常の状態では光によって惹起される。光の視覚に関係する人体内の状態を考えるのが眼光学である。屈折状態は眼光学の基本ではあるがすべてではない。本講義は、屈折計算を中心とする生理光学ⅠおよびⅡの科目履修の前に、「眼光学の基礎の基礎」として、眼光学の基礎的知識と方法論を学ぶ。 【学習の到達目標】 実際の視覚は、見える範囲のすべての評価である。しかし、すべての評価を単一な数値で表すことができないので、視力検査の値によって代表させているに過ぎない。現実の患者は、見える範囲のすべての障害について眼科医を受診する。本講義は光の視覚に関係する人体内の状態を考える眼光学の基礎を得ることができ、生理光学・演習への一歩となる。 【成績評価方法】 レポート課題：50% / 試験：50% 【課題等のフィードバック方法】 復習課題の解答と解説は毎回の授業でフィードバックする。詳細な質疑応答は、Google Classroom または オフィスアワー を利用した個人面談で行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 復習課題は授業の理解度を高める上で非常に重要である。レポート提出締め切りまでに必ず提出して下さい。また不明な点は授業中または授業直後もしくは Classroom（限定公開コメント）にて必ず質問し、解決すること。遅刻時間に関わらず、あきらめずに受講すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 基礎眼光学の知識は専門科目履修時の重要な基盤となる。視能訓練士として、生体の物理的側面からの理解が重要な局面に正しく対応出来るようになる。特に、最近の臨床においては視覚評価のエビデンスが求められ、本科目受講による定量的理解が効果的である。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	坂本 保夫	視覚とは・視覚系の構造	復習課題：人の視覚とは / 眼光学とは / 視覚系の構造について簡潔にレポートにまとめる			4 時間
2	坂本 保夫	視力検査	復習課題：ランドルト環とは / 視力検査の定義について簡潔にレポートにまとめる			4 時間
3	坂本 保夫	屈折度	復習課題：屈折度の考え方と分類について簡潔にレポートにまとめる			4 時間
4	坂本 保夫	屈折異常の矯正	復習課題：屈折異常の矯正とは / 完全矯正と過矯正の違いについて簡潔にレポートにまとめる			4 時間
5	坂本 保夫	乱視とは	復習課題：正乱視と不正乱視の違いについて簡潔にレポートにまとめる			4 時間
6	坂本 保夫	屈折・調節検査	復習課題：他覚屈折検査と自覚屈折検査の違い、調節力の定義について簡潔にレポートにまとめる			4 時間
7	坂本 保夫	眼鏡・コンタクトレンズ・屈折矯正手術	復習課題：3つの屈折矯正療法（眼鏡・コンタクトレンズ・屈折矯正手術）の特徴について簡潔にレポートにまとめる			4 時間
教 科 書		プリント配布				
参 考 書		新しい眼光学の基礎（西信元嗣・他 / 金原出版） 眼科ケア Vol.21 No.4（2019/MC メディカ出版）				
備 考		問合せ：坂本保夫				

2024 年度入学者用カリキュラム (視覚機能学専攻)

科 目 名	ボランティア探求			担 当 者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	104012247				常勤
D P	2,4			教員研究室	1124
学科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・通年
授 業 形 式	実 習	授 業 時 間	90 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 一年次に地域活動・ボランティアの科目を受講した学生を対象に、系統別ボランティア実践者からのレクチャー及びボランティアの実践実習を行い、それまでの講義・実習を受けて、ワークショップ及び実践実習で得たスキルを報告する 【学習の到達目標】 各種ボランティア活動の実践を通じて、各種ボランティア指導者及び NPO・NGO 実践者・指導者等を目指すことを目的とする 【成績評価方法】 実践実習活動報告（レポート）及び最終報告会のプレゼンにより評価し、認定される単位は認（2 単位）とする 【課題等のフィードバック方法】 実際にボランティア活動を行うことで、社会的課題・検証についても学ぶことができる 【履修上の注意・予習・復習について】 事前に行われるレクチャーを参考に実践実習で求められる活動内容を把握しておくこと また、損害保険の適用を前提とするため、事前に担当教員（単位認定者）へ届出すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 社会の仕組みを色々な角度から学ぶことで、社会的な視野が拡大すると共に社会的な信用が得られる 一年次の地域活動ボランティアの科目で培われたコミュニケーション能力の向上及び地域活動への理解が深くなる 【実務家教員担当科目】 系統別ボランティア実践者からのレクチャー及び各施設等でのボランティアの実践実習を行う					
授 業 計 画					
1. ボランティア活動講座 講義Ⅰ 基礎講座（一年次の講座の確認） 講師：本学専任教員 講義Ⅱ～Ⅵ 系統別実践者からのレクチャー（講義・演習等） 講師：外部講師 環境系・福祉系（高齢・障害者・母子・児童福祉） ・生涯学習系・地域振興系 2. ボランティア活動実践実習 講義Ⅱ～Ⅵから 1・2 箇所選択し、都合 10 時間程度の実習を行い、実習活動報告書（レポート）を提出 3. ボランティア活動総括 ・それまでの講義・実践実習活動に関するワークショップ（連講 2 コマ） ・実践活動の報告会（1 コマ）					
教 科 書	使用しない、必要に応じて資料を配布				
参 考 書	講義時に必要に応じて紹介				
備 考	実践実習を伴うため、事業日以外の日程で実施する場合もあり、特に土日、夏季・冬季の休業期間を充てることも多く、また夜間の活動も含めて考慮すること				

科 目 名		基礎数学		担 当 者	伊藤 朋幸	
科目ナンバリング		1040212411			非常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 大学新入生のための数学入門の第4、5、7章の内容（指数関数、対数関数、微分）について学習する。今後の専門科目を学ぶために最低限必要な数学を学習する。		【課題等のフィードバック方法】 課題（レポート）は提出後、点検して早めに返却する。提出された課題の出来具合を見て解説が必要と思われる部分については、適宜授業の中で解説する。				
【学習の到達目標】 数学的なものの考え方と今後の勉強に必要な数学的处理を身に付けることができる。		【履修上の注意・予習・復習について】 数学はこれから学ぶ様々な学問の基礎である。講義を通して、数学的な考え方や知識の整理の仕方を学ぶ。				
【成績評価方法】 定期テスト（70% 程度）および、提出課題（30% 程度）で総合的に評価する。		【受講して得られる効果・メリット、その他】 これから学ぶ専門科目の基礎となる数学的なものの考え方を学ぶことができる。				
		【実務家教員担当科目】 学校現場における教員経験を活かして、授業内容をかみくだいて説明し指導する。				
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	伊藤 朋幸	ガイダンス 指数と指数法則	シラバスをしっかりと読み、授業概要を確認しておくこと。指数法則について、高校の教科書を確認してくること。授業後は問題演習を通して理解を深めること。		4 時間	
2	伊藤 朋幸	指数の拡張。指数法則を利用した計算。	累乗根、指数の拡張について高校の教科書を確認してくること。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
3	伊藤 朋幸	指数関数とグラフ、その特徴と性質。	指数関数のグラフについて、高校の教科書を調べてくこと。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
4	伊藤 朋幸	ネピア数について。指数から対数への導入。	指数関数とそのグラフについての総合演習。これまでの授業の内容をしっかりと復習してくること。授業後は問題演習を通して理解を深めること。		4 時間	
5	伊藤 朋幸	対数の定義と対数公式。対数公式を利用した計算問題。	対数とは何かを調べてくこと。できれば指数との関係を調べること。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
6	伊藤 朋幸	対数法則とそれを利用した、対数の計算。	対数法則を利用した計算練習をするので、前の時間の授業をしっかりと復習して臨むこと。授業後は充分問題演習をすること。		4 時間	
7	伊藤 朋幸	底の変換公式。自然対数とは。常用対数表を作る。	底の変換公式について調べてくこと。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
8	伊藤 朋幸	対数関数とそのグラフ	対数関数のグラフについてしっかりと復習しておくこと。授業後はなるべくたくさん問題演習をすること。		4 時間	
9	伊藤 朋幸	平均変化率と微分係数の定義およびその問題演習。	微分係数とは何かを調べておくこと。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
10	伊藤 朋幸	導関数の定義と問題演習。	導関数とは何かを調べておく。前回の復習をしっかりとやって授業に臨むこと。授業後は問題演習を通して理解を深めること。		4 時間	
11	伊藤 朋幸	微分の公式とそのもんだい問題演習。接線の方程式。	微分の基本公式と性質について調べておく。しっかりと予習をして授業に臨むこと。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
12	伊藤 朋幸	積・商の微分公式とその演習	積・商の微分公式について調べておくこと。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
13	伊藤 朋幸	関数の増減とそのグラフ	微分の図形的な意味を確認し授業に臨むこと。授業後は問題演習を通して理解を深めること。		4 時間	
14	伊藤 朋幸	総合問題演習	微分の総合演習なので、疑問点を持って授業に臨み疑問点を解決すること。授業後はしっかりと問題演習をすること。		4 時間	
教 科 書		「大学新入生のための数学入門」石村園子著 共立出版（株）				
参 考 書		1. 高校で学んだ教科書 2. 「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版（株）				
備 考		授業を受ける前に該当する項目についてしっかりと教科書を読んで復習し、授業に臨んでほしい。				

科目名		英語Ⅱ		担当者	馬内 里美
科目ナンバリング		1040212421			常勤
D	P	1,4		教員研究室	1229
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配当年次	2年次・通年
授業形式		演習	授業時間	60時間	単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
ICT活用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 コミュニケーション能力をさらに伸ばすことを目指し、以下のことを行う。 ・Listening/Speaking：聞き取り、会話活動を中心に、様々な状況で使われる英語表現力を高める。プレゼンテーション課題もある。 ・Reading/Writing：英文読解力を高めながら、実用に即した語彙力、文法力、英作文能力の強化を図る。 【学習の到達目標】 ・リーディング、ライティング、グループディスカッションを通して、理論立てて説明する方法を学ぶとともに、批判的思考方法を身につける。 ・語彙力を強化する。 ・異文化における価値観や行動様式の多様性を学ぶ。 【成績評価方法】 授業内での課題 40%、授業外での課題 20%、テスト 40%、 【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・出席を重視する。 ・教科書・辞書を持参すること。電子通信機器の使用を禁ずる。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 実践的な英語授業を通して、日常生活からビジネスの場まで対応できる英語基礎運用能力を高められる。 【実務家教員担当科目】 該当者なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	馬内 里美	オリエンテーション	テキストの目次を読み、教科書全体の内容を把握しておく。授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
2	馬内 里美	大意把握から重要語句の確認（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
3	馬内 里美	大意把握から重要語句の確認（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
4	馬内 里美	大意把握から重要語句の確認（3）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
5	馬内 里美	クリティカルリーディングとイディオムの習得（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
6	馬内 里美	クリティカルリーディングとイディオムの習得（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
7	馬内 里美	クリティカルリーディングとイディオムの習得（3）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
8	馬内 里美	情報収集、下書き、訂正、編集のライティングプロセスに慣れる（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
9	馬内 里美	情報収集、下書き、訂正、編集のライティングプロセスに慣れる（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
10	馬内 里美	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
11	馬内 里美	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
12	馬内 里美	センテンスからパラグラフライティングへの基礎演習（3）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
13	馬内 里美	ビジネス英語の構文と表現	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
14	馬内 里美	まとめ	授業で分からなかった部分について教員への質問を考えておく。理解できなかった箇所は重点的に勉強し直す。	1時間	
15	馬内 里美	オリエンテーション 前期の復習	予習：前期の学習内容の復習をする。 復習：重要ポイントを勉強し直す。	1時間	
16	馬内 里美	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
17	馬内 里美	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
18	馬内 里美	問題に対する自分の意見表明、交換、決定のプロセスに慣れる（3）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
19	馬内 里美	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
20	馬内 里美	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
21	馬内 里美	筋道を立てて物事を説明し、意見を述べ、相手との理解を深める（3）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
22	馬内 里美	言い換え（パラフレーズ）のコツ（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
23	馬内 里美	言い換え（パラフレーズ）のコツ（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
24	馬内 里美	受動的ではなく、能動的に聴く方法（1）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
25	馬内 里美	受動的ではなく、能動的に聴く方法（2）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
26	馬内 里美	受動的ではなく、能動的に聴く方法（3）	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
27	馬内 里美	フォーマル、インフォーマルな表現と用法	予習：テキストの次の Unit の単語を調べる。 復習：授業で学習した単語のスペルを覚える。	1時間	
28	馬内 里美	まとめ	授業で分からなかった部分について教員への質問を考えておく。理解できなかった箇所は重点的に勉強し直す。	1時間	
教科書		Campus English（センゲージラーニング）			
参考書		適宜指示する。			
備考		9万語以上の単語を収録した「ジーニアス英和辞典」（大修館）か、それと同等レベルの辞書・電子辞書を用意すること。			

科 目 名	憲法と法律			担 当 者	淡路 智典
科目ナンバリング	1040212427				常勤
D P	1,4			教員研究室	1224
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 憲法とは国の根幹を定める法律である。この授業では憲法の基本的な内容を扱う憲法総論、国家によっても侵害されることのない個人の権利を扱う人権論、国家の基本的な仕組みをさだめる統治機構論をそれぞれ見ていく。できるだけ学生に身近な話題を絡めつつ、憲法の基本的な考え方や条文解釈を説明していく。				【課題等のフィードバック方法】 授業の疑問点を Google classroom に書いてもらい、次の回の授業の冒頭で回答する。	
【学習の到達目標】 憲法という国家の根本法について基礎的な概念を理解し、基本的人権や統治機構のあり方に関して、自己の見解を持てるようにする。				【履修上の注意・予習・復習について】 スライドを授業前に確認し、わからない法律用語の予習。他の受講生の迷惑になることはしないこと。	
【成績評価方法】 期末試験の点数に平常点を加味して決定する。 内訳：期末試験 80%、小テスト 20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 憲法に対する理解を深めることによって、憲法改正をはじめとする具体的な憲法問題に関して、主体的に考えられるようになる。個人の侵害されてはならない基本的人権を理解することにより、社会問題に関して一層深く理解することができるようになる。また一票を持つ主権者として必要な知識と自覚を得ることができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	淡路 智典	ガイダンス・憲法とは	シラバスの内容確認・教科書（判例集）の読み方を理解する		4 時間
2	淡路 智典	憲法概説	スライドを授業前に確認し、憲法の全体像を掴む		4 時間
3	淡路 智典	幸福追求権と法の下での平等	判例を参考にして、包括的基本権や平等権について理解する		4 時間
4	淡路 智典	精神的自由権（内心の自由）	判例を参考にして、思想・良心の自由や信教の自由について理解する		4 時間
5	淡路 智典	精神的自由権（表現の自由）	判例を参考にして、表現の自由の重要性や限界について理解する		4 時間
6	淡路 智典	経済的自由権	判例を参考にして、職業選択の自由や財産権について理解する		4 時間
7	淡路 智典	人身の自由	判例を参考にして、刑事事件で保障される権利等について理解する		4 時間
8	淡路 智典	国務請求権と参政権	判例を参考にして、裁判を受ける権利や参政権について理解する		4 時間
9	淡路 智典	社会権	判例を参考にして、生存権や教育を受ける権利、労働基本権について理解する		4 時間
10	淡路 智典	権力分立の原理と国会	政治思想や歴史的経緯を参考にして、三権分立の概念を理解する		4 時間
11	淡路 智典	内閣	法制度を参考にして、公務員制度を理解する		4 時間
12	淡路 智典	裁判所	法制度を参考にして、裁判や裁判制度について理解する		4 時間
13	淡路 智典	天皇制、平和主義	憲法の条文を参考に、象徴天皇制や平和主義について理解する		4 時間
14	淡路 智典	憲法の保障	憲法の理念を参考に、硬性憲法について理解する		4 時間
教 科 書		岡田順太 / 淡路智典 / 今井健太郎 編『判例キーポイント憲法』（成文堂、2020 年、ISBN：978-4-7923-0666-3）			
参 考 書		芦部信喜『憲法（第 8 版）』（岩波書店、2023 年、ISBN：9784000616072）			
備 考		特になし。			

科 目 名	文化人類学			担 当 者	瀬川 昌久
科目ナンバリング	1040212428				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人類の文化・社会の多様性と普遍性に関する総合的研究分野である文化人類学について概説を行い、異文化理解のための基礎的な枠組みを提供することを目指す。				【課題等のフィードバック方法】 特に必要ない。	
【学習の到達目標】 人類の文化・社会の普遍性と多様性を理解するため、文化人類学の基礎概念と方法論的特色について一定程度理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 特に必要ない。	
【成績評価方法】 試験による。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ノートを丹念にとること。場合によってノートの提出を求めることもある。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	
授 業 計 画					
1. 方法論 / 基礎概念 2. 採集狩猟民社会 (1) 3. 採集狩猟民社会 (2) 4. 牧畜民社会 (1) 5. 牧畜民社会 (2) 6. 農耕民社会 (1) 7. 農耕民社会 (2) 8. 環境適応と文化 9. ジェンダーと生殖 (1) 10. ジェンダーと生殖 (2) 11. 親族関係 (1) 12. 親族関係 (2) 13. 家族 14. 社会組織の日・中比較 15. 民族とアイデンティティー ※授業計画は適宜変更する。					
教 科 書		「文化人類学を学ぶ人のために」 米山俊直・谷泰編 世界思想社			
参 考 書		必要な場合は教室で指示する。			
備 考		文化人類学はすぐに何かに役に立つような学問ではない。即効的なスキルのみを求める者には勧めない。			

科 目 名		日本・東北文化論		担 当 者	栗原伸一郎	
科目ナンバリング		1040212429			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 現在、私たちが生活している東北や仙台は、どのように形成されたのだろうか。東北や仙台は日本のなかでいかなる立場を占め、歴史的・文化的にどのような足跡を残してきたのだろうか。また、それらを明らかにするためには、どのような活動が必要になるのだろうか。本講義では、以上の問題に迫ることを通じて、地域の歴史・文化について考えてみたい。						
【学習の到達目標】 ①東北や仙台の歴史・文化について関心を持ち、理解することができる。 ②地域の歴史・文化を継承する活動について関心を持ち、理解することができる。 ③上記を自分に関わる事柄として受け止め、意味を考えることができる。						
【成績評価方法】 ①毎回提出するコメント 30%（記入内容から理解度と受講態度を評価する。出席点ではない。） ②定期試験 70%（試験内容は事前に通知する）						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	栗原伸一郎	講義の概要	東北地方や仙台の歴史で興味がある分野や人物について、自分で調べてみる。		4 時間	
2	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化①戦国時代と伊達政宗	東北地方の戦国時代や政宗の行動を調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
3	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化②城下町・仙台	仙台城址を見学するとともに、配布プリントを再読する。		4 時間	
4	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化③杜の都・仙台	『仙台市史』の該当部分に目を通し、配布プリントを再読する。		4 時間	
5	栗原伸一郎	仙台の歴史・文化④伊達政宗と現代	書籍やインターネット等で政宗について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
6	栗原伸一郎	仙台藩士の異文化体験①蝦夷地	江戸時代までの東北や北海道の歴史を調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
7	栗原伸一郎	仙台藩士の異文化体験②アメリカ	『仙台市史』で玉虫左太夫について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
8	栗原伸一郎	幕末維新と東北地方①江戸時代の東北	自分の出身地の藩について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
9	栗原伸一郎	幕末維新と東北地方②幕末維新の動乱	『仙台市史』等で戊辰戦争の大まかな流れを確認し、配布プリントを再読する。		4 時間	
10	栗原伸一郎	幕末維新と東北地方③奥羽越列藩同盟	『仙台市史』等で奥羽越列藩同盟について理解を深め、配布プリントを再読する。		4 時間	
11	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承①歴史資料にみる仙台	『仙台市史』（資料編）に目を通し、配布プリントを再読する。		4 時間	
12	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承②歴史資料の現在	自分の出身地にある歴史資料・文化財について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
13	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承③NPO と資料保存	現在住んでいる地域にある歴史資料・文化財について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
14	栗原伸一郎	地域の歴史・文化の継承④災害と資料保存	日本各地の災害と歴史資料・文化財の関係について調べ、配布プリントを再読する。		4 時間	
教 科 書		なし。プリントを配布する。				
参 考 書		『仙台市史』（通史編）。その他、授業のなかで紹介する。				
備 考		高校の歴史の授業と内容が異なるので「日本史」を学んでいなくとも履修可能。授業の進展等によって内容が一部変更になる場合がある。				

科 目 名	日本近代史			担 当 者	渡邊 洋一
科目ナンバリング	1040212430				常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	1124
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 日本が 1854 年の開国以来、明治維新を経て欧米列国と肩を並べていくまでの日本近代史について世相史（医学史・公衆衛生史等含）を交えて解説していく				【課題等のフィードバック方法】 講義に関する史資料の把握及びニュース・報道等を参考にすることで実社会への対応力の醸成を希望	
【学習の到達目標】 その時代時代の事件・事象が社会に及ぼした影響について学ぶことで、将来起こり得ると考えられる事象への洞察力を養う				【履修上の注意・予習・復習について】 講義は授業毎のレジュメと P.P. 資料により行う なお、エクスカッションを実施（必須）するが、時間割とは別に土曜日等の授業日以外となるので、予め承知すること	
【成績評価方法】 受講記録やレポートの提出（2 回程度）を求め、その内容で評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 実社会に出た後に時代の変化に惑わされない感覚を養うが出来る	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

科 目 名		健康科学		担 当 者	○未定・古林 俊晃	
科目ナンバリング		1040212431			常勤	
D P		1,4		教員研究室	1203	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 身体運動を伴う生活場面や肉体労働はますます減少し、生活の利便化、快適化と引き替えに、人間は体力の減退、肥満等の生活習慣病に悩まされることになった。本講義では、今後必要となる自己の健康管理方法に必要な基本的な内容を運動（スポーツ）、疾病、栄養等の側面からわかりやすく講述する。						
【学習の到達目標】 ・健康の維持・増進のために必要な知識を身につけ、生活習慣病などの予防法について理解を深め、実践できるようになる。 ・スポーツが身体・心・社会に及ぼす影響を理解する						
【成績評価方法】 成績は、定期試験（80％）、レポート（20％）により評価する。試験規定により 2/3 以上の出席がなければ定期試験を受けられないので留意すること。						
【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。						
【履修上の注意・予習・復習について】 ・毎回、振り返りを提出すること ・遅刻は本人の責めに帰さない理由以外は認めない。 ・具合が悪いなど、やむを得ず教室を退出する場合は教員の確認を取ること ・授業態度の悪い学生は退室させる。この場合欠席扱いとする。スマートフォンの使用、食事は禁止とする。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・スポーツへの関心を高められる ・生涯にわたる自身の健康管理の知識と方法を身につけ、実践できるようになる。						
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	古林 俊晃	ガイダンス：人間らしさとは	健康に関する内容を確認しておく		4 時間	
2	古林 俊晃	人体の構造と機能：動物的機能（骨格筋と神経系）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
3	古林 俊晃	人体の構造と機能：動物的機能（感覚器系と高次脳機能）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
4	古林 俊晃	人体の構造と機能：植物的機能（栄養とエネルギー）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
5	古林 俊晃	人体の構造と機能：植物的機能（恒常性）	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
6	古林 俊晃	健康：健康と死の考え方	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
7	古林 俊晃	前半の総括 中間試験①	ここまでの内容の振り返りをする。		4 時間	
8	古林 俊晃	加齢：発育発達と老化	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
9	古林 俊晃	トレーニング理論：体力について	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
10	古林 俊晃	トレーニング理論：トレーニングと障害	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
11	古林 俊晃	スポーツ心理学：運動学習	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
12	古林 俊晃	スポーツとメンタル：スポーツの精神的影響	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
13	古林 俊晃	スポーツ倫理学：健全なスポーツとは	予習：学習内容を確認しておくこと 復習：資料の整理と振り返りの提出		4 時間	
14	古林 俊晃	後半の総括 中間試験②	ここまでの内容の振り返りをする		4 時間	
教 科 書		毎回資料を配布する				
参 考 書		健康・スポーツ科学の基礎知識（第3版）、道と書院 イラスト「アダブテッド・スポーツ概論」東京教学社				
備 考		授業の進捗により講義内容の調整を行う場合がある				

科 目 名		教育学 I		担 当 者	三塚 明彦	
科目ナンバリング		1040212432			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 社会の急激な変化に伴い、学校教育をはじめ学ぶ人をいかに導いていくか教育の方法が大きく変わろうとしている。現代教育の課題を把握し、教育学の視点からこれからの学びの方法について考えるとともに現代抱えている社会問題をどう解決するか考察する。 【学習の到達目標】 現代の教育が抱える問題の実態を把握し、解決方法を自分の言葉で述べることができる。 【成績評価方法】 毎回授業中に作成する課題（600 字程度）の内容で評価する。 【課題等のフィードバック方法】 次回の授業で前回提出された課題について講評する。 【履修上の注意・予習・復習について】 毎回、授業のテーマについて講義後に課題を作成し提出してもらう。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代の教育課題について、その実態を把握することができ、その解決方法について自分の考えをまとめることができる。また、現代の社会問題についても確認することができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	三塚 明彦	オリエンテーション	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
2	三塚 明彦	教員不足について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
3	三塚 明彦	少子高齢化と教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
4	三塚 明彦	教育格差について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
5	三塚 明彦	特別支援教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
6	三塚 明彦	いじめ問題について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
7	三塚 明彦	不登校、ひきこもりについて	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
8	三塚 明彦	偏差値重視教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
9	三塚 明彦	ICT 教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
10	三塚 明彦	日本型雇用について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
11	三塚 明彦	主権者教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
12	三塚 明彦	社会教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
13	三塚 明彦	平和教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
14	三塚 明彦	これからの教育について	日ごろから新聞、TV、ネット等のニュースを注視する。		4 時間	
教 科 書		PowerPoint で資料提示し、適宜必要に応じて資料を配布する。				
参 考 書		授業中に紹介する。				
備 考		なし				

科 目 名	感覚器解剖・生理			担 当 者	辻川 寛
科目ナンバリング	1040322441				常勤
D P	1,4			教員研究室	4203
学科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視覚器を中心に、さまざまな感覚器の構造と機能について深く学ぶ。 また、特殊感覚器が集中する頭頸部の解剖と生理についても詳しく学修する。				【課題等のフィードバック方法】 課題（小テストや中間テストなど）は、その後の授業内で解説を行い、理解を深める機会を提供する。	
【学習の到達目標】 視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚などに関する解剖学および生理学の知識を修得し、それぞれの器官の機能的な意義を理解できるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 毎回の講義では、内容に沿ったプリントを配布する。これを活用し、十分な復習を行うことが必須である。	
【成績評価方法】 毎回の課題（小テストやレポート、グループワークなど）10%/定期試験 90%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 1 年次の解剖・生理学概論で得た知識をさらに深め、視覚機能学専攻での専門基礎科目や専門科目を学ぶために必要な基礎知識を確実に身につけることができる。	
				【実務家教員担当科目】 大学医学部において人体解剖実習を含めた解剖学教育の経験を持つ教員が、その知見を活かし、人体の構造について講義を行う。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	辻川 寛	ガイダンス、感覚器総論	教科書 第 9 章 A、プリント		4 時間
2	辻川 寛	視覚器の解剖・生理①	教科書 第 9 章 B、プリント、『視能学』【1】		4 時間
3	辻川 寛	視覚器の解剖・生理②	教科書 第 9 章 B、プリント、『視能学』【1】		4 時間
4	辻川 寛	視覚器の解剖・生理③	教科書 第 9 章 B、プリント、『視能学』【1】		4 時間
5	辻川 寛	聴覚・平衡覚器の解剖・生理①	教科書 第 9 章 C、プリント		4 時間
6	辻川 寛	聴覚・平衡覚器の解剖・生理②/嗅覚器の解剖・生理	教科書 第 9 章 C-D、プリント		4 時間
7	辻川 寛	味覚器の解剖・生理	教科書 第 9 章 E、プリント		4 時間
8	辻川 寛	皮膚感覚など	教科書 第 9 章 F、プリント		4 時間
9	辻川 寛	頭部筋骨格系	教科書 第 10 章 G、プリント		4 時間
10	辻川 寛	感覚器と脈管系	教科書 第 2 章、第 8 章 C、プリント、『視能学』【1】		4 時間
11	辻川 寛	感覚器と神経系①（脳神経）	教科書 第 8 章 E、プリント、『視能学』【1】		4 時間
12	辻川 寛	感覚器と神経系②（自律神経）	教科書 第 7 章 B、プリント、『視能学』【1】		4 時間
13	辻川 寛	感覚器と神経系③（脳）	教科書 第 8 章 B、プリント、『視能学』【1】		4 時間
14	辻川 寛	感覚器と神経系④（伝導路）、眼の発生	教科書 第 8 章 G、プリント、『視能学』【1】		4 時間
教 科 書	なるほどなっとく！解剖生理学 改訂 3 版 多久和典子・多久和陽（著）南山堂				
参 考 書	視能学（第 3 版/小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美編/文光堂）				
備 考	なし				

科 目 名		感覚器解剖・生理演習		担 当 者	辻川 寛	
科目ナンバリング		1040322442			常勤	
D P		1,3		教員研究室	4203	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 ☑自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 視覚器を中心とした感覚器の緻密性、複雑性を、演習を通じて体感する。				【課題等のフィードバック方法】 課題はその後の授業で返却し、解説を行う。		
【学習の到達目標】 演習を通じてマクロ・ミクロレベルでの視覚器を中心とした感覚器、あるいは人体の構造と機能の基本知識を理解できるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 課題の要件（ノルマ）を十分に理解して取り組むこと。		
【成績評価方法】 毎回の課題（スケッチ、レポートなど）で評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 解剖・生理学概論Ⅰ・Ⅱ、感覚器解剖・生理で学んだ構造を立体的に理解することができるようになる。顕微鏡の使い方に習熟することができる。ほぼ毎回スケッチをするので、観察力が上がり、絵が上手くなる（かもしれない）。また、レポート作成を通じて、科学的な文章表現力を向上させることを目指す。		
				【実務家教員担当科目】 大学医学部において人体解剖実習を含めた解剖学教育経験のある教員が、その経験を生かして、人体の構造について講義し演習を行う。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習		学修時間
1	辻川 寛	ガイダンス、顕微鏡の使い方		配布プリントを復習すること		1 時間
2	辻川 寛	組織学実習①		配布プリントを復習すること		1 時間
3	辻川 寛	組織学実習②		配布プリントを復習すること		1 時間
4	辻川 寛	組織学実習③		配布プリントを復習すること		1 時間
5	辻川 寛	骨学実習①		配布プリントを復習すること		1 時間
6	辻川 寛	骨学実習②		配布プリントを復習すること		1 時間
7	辻川 寛	骨学実習③		配布プリントを復習すること		1 時間
8	辻川 寛	人体模型を使った解剖実習		配布プリントを復習すること		1 時間
9	辻川 寛	味覚実験		配布プリントを復習すること		1 時間
10	辻川 寛	ブタ眼球の解剖①		配布プリントを復習すること		1 時間
11	辻川 寛	ブタ眼球の解剖②		配布プリントを復習すること		1 時間
12	辻川 寛	バイタルサイン測定		配布プリントを復習すること		1 時間
13	辻川 寛	視覚器の計測①		配布プリントを復習すること		1 時間
14	辻川 寛	視覚器の計測②		配布プリントを復習すること		1 時間
教 科 書		プリントを配布				
参 考 書		視能学（第3版／小林義治・松岡久美子・臼井千恵・岡真由美編／文光堂） なるほどなっとく！解剖生理学 改訂3版 多久和典子・多久和陽（著）南山堂				
備 考		機器や資料の都合により、演習順は適宜変更することがある。				

科 目 名		人間生涯発達学			担 当 者	○本多ふく代・星 孝	
科目ナンバリング		1040322443				常勤	
D P		1,4			教 員 研 究 室	3202、3104	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本科目では、人間理解の基礎として、誕生から死に至るまでの発達・退行過程における人の生理的、心理的、社会的推移に関する基礎的な知識を、体系的かつ総合的に学ぶ。前半では、発達理論と成長・成熟に伴う構造と諸機能の発達とそれに影響を与える環境について学び、「人が育つこと」について検討する。 後半の授業では、高齢期の身体機能および生理機能の変化について一般的な状況を確認し、機能的変化を踏まえながら老いることへの不安や精神的な価値観について思考し、「人が年を重ねること」について多方面から検討する。					【課題等のフィードバック方法】 課題へのフィードバックを授業内で行う。授業の最後に質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 教科書・参考書を用いて予習復習し、不明な点は積極的に質問すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 発達途上にある子どもや、機能低下する高齢者に対する理解が深まる。		
【学習の到達目標】 各発達期の心身の特徴と変化を理解し、説明できる。高齢期に生じる正常な変化を理解し、疾病や障害との関係を説明できる。					【実務家教員担当科目】 発達障害領域および高齢者領域のリハビリテーション業務の実務に当たった教員が、その経験と知識を生かして、人の生涯発達について当事者の立場を考慮した支援方法を加えた内容を教示する。		
【成績評価方法】 授業出席日数が3分の2に満たない場合は、受験資格を有しない。本多100点と星100点で、2名の合計÷2の点数が科目点となる。60点に満たない場合は不合格とする。							

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	本多	人間発達総論	教科書の熟読	4 時間
2	本多	胎児期・新生児期 / トピック 1	教科書の熟読・復習課題プリントの提出	4 時間
3	本多	乳児期 / トピック 2	教科書の熟読・復習課題プリントの提出	4 時間
4	本多	幼児期前期・後期 / トピック 3	教科書の熟読・復習課題プリントの提出	4 時間
5	本多	学童期 / トピック 4	教科書の熟読・復習課題プリントの提出	4 時間
6	本多	青年期・成人期 / トピック 5	教科書の熟読・復習課題プリントの提出	4 時間
7	本多	前半まとめ / 「生き生きとした大人になるためには、どのような育ちのプロセスが大切か？」について考える。	これまでのまとめ、課題発表	4 時間
8	星	身体・生理機能の変化と見方：四肢（筋・骨・皮膚） / 若者が思う高齢者像	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間
9	星	身体・生理機能の変化と見方：顔（目、耳、口） / 高齢者と生きがいについて	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間
10	星	身体・生理機能の変化と見方：口腔、嚥下 / 高齢者を取り巻く医療環境について	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間
11	星	身体・生理機能の変化と見方：呼吸 / 高齢ドライバーについて	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間
12	星	身体・生理機能の変化と見方：バイタルサイン / 高齢者の自立支援について	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間
13	星	身体・生理機能の変化と見方：心臓、腹部 / 高齢者コミュニケーションを考える	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間
14	星	「高齢期を生き生きと過ごすために」の方法論や対策思考	テーマの予習および講義と配布資料の復習	4 時間
教 科 書		前半は、大城昌平編集「リハビリテーションのための人間発達学第3版」、メディカルプレス、2021 年 後半は、指定する教科書はなく、配布資料とする		
参 考 書		随時紹介する		
備 考		問い合わせ教員：前半本多ふく代、後半星孝		

科 目 名		臨床神経学		担 当 者	津田 丈秀	
科目ナンバリング		1040322446			常勤	
D P		1,2		教員研究室	3206	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 神経疾患患者の診療にあたって必要とする基本的な知識を身につける為 に神経疾患の病因、病態、症候および検査との関連性を追求する。 加えて治療への道筋を学習する。 尚、施行した講義に関し毎回小試験を施行する。 【学習の到達目標】 国家試験に合格することを当面の目標とする。また、視能訓練士の 仕事を行ううえで学習した知識が大いに役立つ内容を講義する。 【成績評価方法】 定期試験 60%（点）、小試験・レポート 40%（点）。 【課題等のフィードバック方法】 小試験問題に関し「振り返り・解説」を行い講義を進めていく。 【履修上の注意・予習・復習について】 ①ストリーム内講義資料は最小限の内容である。この資料については 確実に理解する必要がある。 ②同講義資料は履修内容すべてではないので教科書・参考書などに よる予習・復習を各々 30 分程度を必須とする。特に予習は重要。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 夢が叶えられる。 【実務家教員担当科目】 視覚機能						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	津田 丈秀	脳の構造と脳血管の構造	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
2	津田 丈秀	12 対の脳神経の解剖と生理Ⅰ	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
3	津田 丈秀	12 対の脳神経の解剖と生理Ⅱ	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
4	津田 丈秀	脳梗塞	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
5	津田 丈秀	頭蓋内出血	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
6	津田 丈秀	神経接合部疾患（重症筋無力症を中心に）	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
7	津田 丈秀	多発性硬化症と視神経脊髄炎	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
8	津田 丈秀	パーキンソン病	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 60 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
9	津田 丈秀	筋ジストロフィーとミトコンドリア病	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
10	津田 丈秀	Duane 症候群、外傷	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
11	津田 丈秀	運動ニューロン疾患（ALS を中心に）	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
12	津田 丈秀	小脳の解剖と機能	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
13	津田 丈秀	脊髄小脳変性症	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
14	津田 丈秀	認知症、転換性視覚障害	教科書の該当箇所について予習し、授業で学んだ事項について復習すること。 最低 30 分程度の予習・復習を必須とする。		4 時間	
教 科 書		「神経眼科学を学ぶ人のために」 第 4 版 三村治, 医学書院 2024				
参 考 書		「病気がみえる Vol.7 脳・神経」 監修：尾上尚志、他, メディックメディア 2018				
備 考		e-mail：ttsuda@rehab.tbgu.ac.jp 丸暗記でなく、考え方を理解して学習して下さい。その方が、ずっと臨床に役立ちます。				

科 目 名		臨床医学		担 当 者	○浅野 浩一・佐藤 秀隆 仁尾 栄子	
科目ナンバリング		1040322447			常勤・非常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	佐藤 (1316)	
学 科 (専攻)		リハビリテーション学科 (視覚機能学専攻)		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 眼科で視能訓練士が扱う対象は新生児から高齢者まで年齢層は幅広い。臨床医学では主に眼科に関連のある内科系疾患、小児科系疾患、および耳鼻科系疾患について学修する				【課題等のフィードバック方法】 小テストの解説を行う		
【学習の到達目標】 全身疾患と眼の関連について理解を深める。				【履修上の注意・予習・復習について】 欠席する時は必ず報告する。		
【成績評価方法】 各指導教員（医師）の評価を総合的に判断。居るだけの出席点はない。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 幅広い医学知識が得られる。		
【実務家教員担当科目】 眼科、内科、小児科の専門医が、それぞれの長い臨床経験も交えて講義する						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	仁尾 栄子	小児の成長発達と小児保健	小テスト（授業時間内に行う）の問題中心に復習		4 時間	
2	仁尾 栄子	小児の事故、救急対応、虐待	小テストの問題中心に復習		4 時間	
3	仁尾 栄子	先天異常、神経・筋疾患	小テストの問題中心に復習		4 時間	
4	仁尾 栄子	感染症	小テストの問題中心に復習		4 時間	
5	仁尾 栄子	その他の重要疾患（1）	小テストの問題中心に復習		4 時間	
6	仁尾 栄子	その他の重要疾患（2）	小テストの問題中心に復習		4 時間	
7	佐藤 秀隆	眼科と関連のある循環器系疾患	高血圧、動脈硬化症		4 時間	
8	佐藤 秀隆	眼科と関連のある呼吸器疾患	結核、サルコイドーシス		4 時間	
9	佐藤 秀隆	眼科と関連のある代謝疾患	糖尿病		4 時間	
10	佐藤 秀隆	眼科と関連のある神経疾患	神経変性疾患、血管炎		4 時間	
11	佐藤 秀隆	眼科と関連のある全身疾患	これまでの疾患の復習とまとめ		4 時間	
12	浅野 浩一	眼科と関連のある耳鼻咽喉科領域の解剖と機能	耳、涙道、副鼻腔などの解剖と機能		4 時間	
13	浅野 浩一	眼科と関連のある耳鼻咽喉科領域の検査	難聴、平衡機能の検査		4 時間	
14	浅野 浩一	眼科と関連のある耳鼻咽喉科領域の疾患	眼振、遺伝性疾患他		4 時間	
教 科 書		特に指定していない。				
参 考 書		適宜、担当教員が勧める。				
備 考		なし				

科 目 名		公衆衛生学			担 当 者	吉田 裕人
科目ナンバリング		1040322449				常勤
D P		1			教員研究室	1201
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 少子・高齢化の進む我が国では、健康をキーワードとした社会のしくみや安全に生活するための環境について、いままで以上に重要視する状況となっている。このような社会情勢の中、人口構造や疾病構造の変化や社会経済システムの変化に伴い、保健医療の内容も生命倫理から健康づくりの方策まで幅広く理解していく必要がある。本講義では、健康の維持と増進を求めて展開される様々な計画や活動の基本となるものの見方や考え方、具体的な方法を基盤として、個々の状況や問題を理解していくための知識を習得する。 【学習の到達目標】 健康と社会、環境を相互に関連させながら理解できるようになる。具体的には、衣食住、労働環境、家庭、学校、職場、地域、地球全体までの広範囲な「環境」と保健、医療、福祉の「制度とサービス」が相互に関連して成り立っている社会システムが、「健康」とどのような枠組みや組織の中でつながっているのかを理解し、様々な状況変化に対応した評価方法や健康支援が必要な対象者への情報伝達の方法について考えられる基礎的能力を養う。 【成績評価方法】 定期試験 80% 毎回の課題提出 20% 【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中の私語・飲食・携帯電話操作は厳禁 出欠確認（点呼）終了後の入室は遅刻 授業前に予習（教科書参照）・授業後に復習（教科書・ノート参照） 予習・復習がなされているか授業中に質問をする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療専門職として必要な公衆衛生に関する基礎的知識や考え方を身につけることができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	吉田 裕人	公衆衛生の理念	公衆衛生の意味などについて事前に調べておく。			4 時間
2	吉田 裕人	健康と環境①	大気汚染の実態などを事前に調べておく。			4 時間
3	吉田 裕人	健康と環境②	上水・下水などの語句を事前に調べておく。			4 時間
4	吉田 裕人	日本における社会保障制度および医療制度の改革	日本の医療・介護保険制度の課題などを事前に調べておく。			4 時間
5	吉田 裕人	グローバル化する世界と公衆衛生	国際保健の意味などについて事前に調べておく。			4 時間
6	吉田 裕人	地域保健	健康日本 21 の内容や保健所の役割などを事前に調べておく。			4 時間
7	吉田 裕人	対象別公衆衛生の実践	我が国の成人保健・高齢者保健などを事前に調べておく。			4 時間
教 科 書		シンプル衛生公衆衛生学 2025（鈴木庄亮・他、南江堂）				
参 考 書		なし				
備 考		なし				

科 目 名	視覚機能学概論Ⅱ			担 当 者	門屋 講司
科目ナンバリング	1040322451				非常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視覚を学ぶにあたり、ホメオスタシス、発達、老化および病態、診断の考え方の基本を講義する。				【課題等のフィードバック方法】 課題の採点、添削、要点の教示	
【学習の到達目標】 眼疾病学各論を2 年次・後期において学習するに備え、病態の基礎を学び、症状、診断、治療を理解するための基本的事項の概要を前期に把握することを目標とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 ①教科書および本講義専用のノートを準備し、各回とも持参の上で受講する。 ②復習を重視、課題で解答できなかった部分は自習。 ③受講中は静粛を心がけ、飲食、携帯電話の使用は禁止。	
【成績評価方法】 ①定期試験期間の筆記試験：100%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科学領域で検査のスペシャリストとなるために、病変の基本を学び、眼疾患についての理解を深め、専門性の高い各論を学習するための基礎を築く。	
				【実務家教員担当科目】 元眼科専門医、獨協医大埼玉医療センター眼科非常勤講師、日本医科大学学校視能訓練士科非常勤講師	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	門屋 講司	眼の解剖・生理①	視能学 p2 ～ 23		4 時間
2	門屋 講司	眼の解剖・生理②	現代の眼科学 p1 ～ 25 宿題（国試過去問題）		4 時間
3	門屋 講司	脳と神経	視能学 p24 ～ 29 宿題（国試過去問題）		4 時間
4	門屋 講司	眼と自律神経	視能学 p38 ～ 44 宿題（国試過去問題）		4 時間
5	門屋 講司	眼病理学① 炎症：ブドウ膜炎	視能学 p496 ～ 503 宿題（国試過去問題）		4 時間
6	門屋 講司	眼病理学② 免疫・感染症	宿題（国試過去問題）		4 時間
7	門屋 講司	眼病理学③ 腫瘍	宿題（国試過去問題）		4 時間
8	門屋 講司	緑内障①	現代の眼科学 p244 ～ 258 宿題（国試過去問題）		4 時間
9	門屋 講司	緑内障②	宿題（国試過去問題）		4 時間
10	門屋 講司	網膜硝子体疾患①糖尿病	現代の眼科学 p168 ～ 218 宿題（国試過去問題）		4 時間
11	門屋 講司	網膜硝子体疾患②高血圧・動脈硬化	宿題（国試過去問題）		4 時間
12	門屋 講司	網膜硝子体疾患③網膜剥離・他	宿題（国試過去問題）		4 時間
13	門屋 講司	眼と遺伝・発生①	視能学 p504 ～ 508 宿題（国試過去問題）		4 時間
14	門屋 講司	眼と遺伝・発生②	宿題（国試過去問題）		4 時間
教 科 書		視能学（第2 版 / 丸尾 敏夫 編 / 文光堂） 現代の眼科学（改訂第 13 版所敬監修 / 金原出版）			
参 考 書		図書館蔵書を利用すること			
備 考		必要な場合、適宜に講義資料を配布			

科 目 名		視能検査機器概論Ⅰ		担 当 者	○石川奈津美・小野 峰子 坂本 保夫・安達いづみ 原口 翔太・他	
科目ナンバリング		1040332452			常勤	
D P		1,2		教員研究室	4201	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 眼科一般検査の基本となる視能検査法の概念、検査機器の種類と特徴および基礎知識（機器の構造・原理、データ処理・管理、メンテナンスなど）を学修する。また、視能検査の心理的・社会的側面についての配慮なども学修する。 【学習の到達目標】 眼科一般検査機器とその検査法を知り、検査の流れを理解する。 【成績評価方法】 定期試験＋レポート課題：100% 【課題等のフィードバック方法】 レポート課題、および小テストにより理解できていない点を指導してフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 1 講義終了後は復習を必ずすること 2 質問は積極的に、講義中でも可 3 受講中は携帯電話類をオフにすること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科一般検査のほぼ全容を知ることができる。平行して行われる視能検査機器演習Ⅰには本講義の履修は必修であり、今後の専門科目を履修する上で、最低限必要な基礎知識を習得することが出来る。 【実務家教員担当科目】 視能訓練士・眼科専門医・眼光学者の教員が視能検査法の概念や検査機器の基礎知識を指導する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	石川奈津美	涙液検査	授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
2	原口 翔太	細隙灯顕微鏡による前眼部検査・眼圧測定	授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
3	原口 翔太	細隙灯顕微鏡による中間透光体・眼底検査	授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
4	小野 峰子	直像鏡・倒像鏡による眼底検査	授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
5	原口 翔太	中間透光体・眼底の超音波検査	授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
6	坂本 保夫	視機能検査器のデータ処理と管理	授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
7	坂本 保夫	機器の安全管理とメンテナンス	授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
8	石川奈津美	眼球運動①	授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
9	石川奈津美	眼球運動②	授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
10	石川奈津美	眼球運動③	授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
11	安達いづみ	眼位①	授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
12	安達いづみ	眼位②	視授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
13	安達いづみ	両眼視①	視授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
14	安達いづみ	両眼視②	視授業スライドや資料、および教科書で復習		4 時間	
教 科 書		① 視能学（第3版/小林義治・他 編/文光堂） ② 眼科検査ガイド（第3版/飯田知弘・他 編/文光堂） ③ できる！斜視検査 両眼視機能がわかるケーススタディでレベルアップ！（杉山能子編集/三輪書店）				
参 考 書						
備 考		質問は担当教員へ直接行うこと				

科 目 名		視能検査機器演習Ⅰ			担 当 者	○石川奈津美・小野 峰子 原口 翔太・安達いづみ	
科目ナンバリング		1040332453				常勤	
D	P	1,3			教 員 研 究 室	4201	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 主要な眼科一般検査に触れ、操作法、検査法、検査の流れ、データの記録・記載法などを学習する。					【課題等のフィードバック方法】 演習と合わせたレポート提出、および実技試験により理解できていない点を個別に指導してフィードバックする。		
【学習の到達目標】 眼科一般検査および機器の検査法と検査の流れを理解し、データの記録・記載が正確に行えることを主目的とする。					【履修上の注意・予習・復習について】 ①予習・復習は授業の理解度を深めるために非常に重要である。＊必須 ②演習では機器の安全管理を十分に行い、事故のないように教員の指示に従うこと。 ③演習時はペンライト、三田式万能計測器、ジャコダーを持参し、白衣、内履きなど演習に相応しい服装のこと。 ④演習前は担当教員に確認し機器等の準備を行い、演習が開始できる状態で待つこと ⑤基本的には全日程出席のこと。やむを得ない理由で欠席する場合には担当教員に連絡すること ⑥グループで演習を行うため、原則、遅刻は認めない。 ⑦受講中の携帯の使用、飲食は厳禁。 ⑧個人の受講態度によってはグループ全体の演習を中止する。		
【成績評価方法】 ① レポート課題：50% ② 実技試験：50% ・授業開始から 20 分を経過した場合は、遅刻ではなく欠席とし、遅刻 2 回で欠席 1 回としてカウントする。 ・授業中の態度を評価する（居眠り、授業に差しさわりのある会話、スマートフォン使用の禁止）。					【受講して得られる効果・メリット、その他】 視能検査機器概論Ⅰで学修した眼科一般検査を実体験することにより、その知識を実技で確認することができ、視能検査機器演習Ⅱの履修に繋げる。 【実務家教員担当科目】 視能訓練士の教員がその経験を基に眼科検査法について指導する。		
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	石川奈津美	眼球運動検査①	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
2	石川奈津美	眼球運動検査②	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
3	石川奈津美	眼球運動検査③	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
4	石川奈津美	眼球運動検査④	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
5	石川奈津美	眼球運動検査⑤	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
6	石川奈津美	眼球運動検査⑥	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
7	安達いづみ 他	眼位①	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
8	安達いづみ 他	眼位②	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
9	安達いづみ 他	眼位③	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
10	安達いづみ 他	眼位④	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
11	安達いづみ	両眼視機能検査①	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
12	安達いづみ	両眼視機能検査②	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
13	安達いづみ	両眼視機能検査③	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
14	安達いづみ	両眼視機能検査④	視能検査機器概論Ⅰの授業資料、眼科検査ガイドにて予習復習				1 時間
教 科 書		① 視能学（第 3 版 / 小林義治・他 編 / 文光堂） ② 眼科検査ガイド（第 3 版 / 飯田知弘・他 編 / 文光堂） ③ できる！斜視検査 両眼視機能がわかるケーススタディでレベルアップ！（杉山能子編集 / 三輪書店）					
参 考 書							
備 考		質問は担当教員へ直接行うこと。					

科 目 名		眼科検査基礎演習			担 当 者	○原口 翔太・小野 峰子 安達いづみ・石川奈津美
科目ナンバリング		1040322454				常勤
D	P	1,4			教 員 研 究 室	4104
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 各担当教員が「眼」という器官について様々な方向からアプローチする。グループワークを中心に行い、眼の構造や視覚機能、視覚情報処理、眼科検査機器の操作法、検査法などを学修する。					【課題等のフィードバック方法】 演習のレポートおよびグループワークの結果に基づいて個別に理解できていないところをフィードバックする。	
【学習の到達目標】 視能訓練士は医師の指示のもと検査を実施する。臨床現場では眼科医療チームの一員として、①考え行動すること、②検査結果の信頼性を判断すること、この2つの能力が求められる。本演習では、眼科臨床における知識や検査法などの理解を深めるための先駆けとなる基礎知識と考える力を習得する。					【履修上の注意・予習・復習について】 ■ 演習では機器の安全管理を十分行い、事故のないように教員の指示に従うこと。 ■ 基本的には全回出席のこと。やむを得ない理由で欠席する場合には担当教員に連絡をすること。 ■ グループで演習を行うため、原則、遅刻は認めない。 ■ 受講中の携帯電話の使用、飲食は厳禁。 ■ 個人の受講態度によってはグループ全体の演習を中止する。	
【成績評価方法】 各担当教員レポートおよび小テスト、発表等による総合的評価：100%					【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科臨床において必要となる知識や技術習得のための入門編であり、グループワークによる考える力の習得と今後の専門基礎・専門科目の学修に繋げるために履修は必須である。	
					【実務家教員担当科目】 視能訓練士が眼の眼の構造や視覚機能、視覚情報処理、眼科検査機器の操作法、検査法などを様々な視点からアプローチする。	
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	原口 翔太	オリエンテーション・視覚とは	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
2	原口 翔太	形態覚と視力の種類	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
3	原口 翔太	屈折異常（遠視・近視・乱視）	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
4	原口 翔太	視力検査法と屈折矯正～理論編～	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
5	原口 翔太	視力検査法と屈折矯正～実験編～	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
6	原口 翔太	眼鏡	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
7	原口 翔太	コンタクトレンズ	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
8	原口 翔太	スポーツと視覚	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
9	石川奈津美	視野	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
10	石川奈津美	色覚異常の世界	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
11	安達いづみ	両眼視を知ろう②	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
12	安達いづみ	両眼視を知ろう②	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
13	小野 峰子	錯視	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
14	小野 峰子	視覚障害者の支援	視能学	および眼科検査法ガイド、資料により学習する		1 時間
教 科 書		① 視能学（第3版/小林義治・他 編/文光堂） ② 眼科検査ガイド（第3版/飯田知弘・他 編/文光堂）				
参 考 書		① 錯視のしくみ（北岡明佳/朝倉書店） ② 病気がみえる vol.12 眼科（医療情報科学研究所 編/メディックメディア） ③ 病気がみえる vol.7 脳・神経（医療情報科学研究所 編/メディックメディア）				
備 考		質問は担当教員へ直接行うこと。				

科 目 名		臨床基礎セミナー		担 当 者	○原口 翔太・小野 峰子 安達いづみ・石川奈津美	
科目ナンバリング		1040322455			常勤	
D	P	1,2		教 員 研 究 室	4104	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	2 年次・通年	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 視能訓練士は、眼科検査を開始する前に患者の情報をカルテで収集し、検査に必要な情報を読み取ったうえで検査を実施する。本セミナーでは、眼科のカルテを読むために必要な眼解剖の知識や眼科用語（日本語と英語）、眼科関連論文（和論文と英論文）の読み方を身に付ける。また、臨床で使用する基礎的数式や接遇マナーについても学修する。 【学習の到達目標】 ①眼解剖の知識を獲得する。②眼科用語（日本語と英語）や眼科関連論文（和論文と英論文）の読み方を修得する。③臨床で使用する数式を理解する。④接遇マナーを習得する。 【成績評価方法】 小テスト及び定期試験で評価する *再試験は行わない ・授業開始から 20 分を経過した場合は、遅刻ではなく欠席とする。 ・遅刻を 2 回した場合は、1 回欠席とする。 ・授業中の態度を評価する（居眠り、授業に差しさわりのある会話、スマートフォン使用の禁止）。 【課題等のフィードバック方法】 小テストを行い、その結果と不足部分をフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 小テストに向けての家庭学習が必須となる。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・眼科用語（日本語と英語）を身につけることができる。 ・臨床で必要とされる数式になれ使いこなせるようになる。 ・眼科関連論文（和論文と英論文）の読み方が理解できる。 ・接遇マナーを身に付けることができる。 【実務家教員担当科目】 視能訓練士						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	原口 翔太	オリエンテーション・臨床に必要な数式とその応用①	医療数理基礎の復習		1 時間	
2	原口 翔太	臨床に必要な数式とその応用②	医療数理基礎の復習および小テストの予習		1 時間	
3	原口 翔太	臨床に必要な数式とその応用③	医療数理基礎の復習および小テストの予習		1 時間	
4	原口 翔太	前眼部の構造と機能	前眼部の構造と機能の予習		1 時間	
5	原口 翔太	中間透光体の構造と機能	中間透光体の構造と機能の予習		1 時間	
6	原口 翔太	後眼部の構造と機能	後眼部の構造と機能の予習		1 時間	
7	原口 翔太	視神経と脳の構造と機能	視神経と脳の構造と機能の予習		1 時間	
8	原口 翔太	接遇研修①	配布資料の復習		1 時間	
9	原口 翔太	接遇研修②	配布資料の復習		1 時間	
10	原口 翔太	文献検索と論文の読み方①	小テスト（解剖・屈折・斜視・弱視の英単語と略語）の予習と配布資料の復習		1 時間	
11	原口 翔太	文献検索と論文の読み方②	小テスト（解剖・屈折・斜視・弱視の英単語と略語）の予習と配布資料の復習		1 時間	
12	原口 翔太	和論文の読み方～近視～	小テスト（解剖・屈折・斜視・弱視の英単語と略語）の予習と配布資料の復習		1 時間	
13	小野 峰子	英論文の読み方～屈折～	小テスト（解剖・屈折・斜視・弱視の英単語と略語）の予習と配布資料の復習		1 時間	
14	小野 峰子	英論文の読み方～斜視・弱視～	小テスト（解剖・屈折・斜視・弱視の英単語と略語）の予習と配布資料の復習		1 時間	
教 科 書		①視能学（第 3 版/小林義治・他 編/文光堂） ②現代の眼科学（改訂第 13 版/所 敬 監修/金原出版）				
参 考 書		①図解 PubMed の使い方 インターネットで医学文献を探す（第 8 版/大崎泉 他/日本医学図書館協会） ②わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド（第 2 版/笹谷裕子 他/日本医学図書館協会） ③眼科用語集（第 6 版/公益財団法人 日本眼科医会/同）				
備 考		質問は随時受け付けます。				

科 目 名	保育概論			担 当 者	大沼百合子
科目ナンバリング	1040322457				非常勤
D P	1			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 子どもの心身の発達過程を理解し、より良い発達を支えるための知識や方法と、子どもの遊びや環境について学ぶ。幼稚園や保育園、認定こども園の保育システムを理解し現在の子育て支援の内容を理解する。				【課題等のフィードバック方法】 レポートについて解説を行う。	
【学習の到達目標】 子どもの理解を深め、愛情をもって子どもと接し、発達に応じて適切に対応できる能力を養う。 保育実習に向けての心構えができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 資料を整理するファイルを用意してください。	
【成績評価方法】 試験 60%、レポート 40%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 幼児期の育ちについて学ぶことは、自分自身の理解、他者の理解を深めることにつながります。また、子どもに愛情をもって楽しく関わるができます。	
【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	大沼百合子	保育とは	保育とは何かについて学ぶ。		4 時間
2	大沼百合子	子どもの発達について	子どもの心身の発達について学ぶ		4 時間
3	大沼百合子	子どもを理解する	自分の成長から子ども時代を振り返り子どもを理解する		4 時間
4	大沼百合子	子どもの育ちと遊び	子どもの遊びの意義について学ぶ		4 時間
5	大沼百合子	子どもの育ちと環境	子ども育つ環境について考える		4 時間
6	大沼百合子	子どもを育てる、子育て支援について理解する	子どもを育てる、子育て支援について理解する		4 時間
7	大沼百合子	保育実習の意味・諸注意について	保育実習の意味・諸注意について		4 時間
教 科 書		なし。毎回資料を配布します。			
参 考 書		なし			
備 考		なし			

科 目 名		保健医療福祉概論			担 当 者	森田慎二郎	
科目ナンバリング		1040322460				常勤	
D P		1,2			教 員 研 究 室		3305
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次		2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 保健医療福祉専門職は、患者・利用者を支援する際には、関連する諸制度の概要を知っておく必要がある。この講義では、保健・医療・福祉制度の概要、歴史、関連法について概観し、医療保険、介護保険、障害者総合支援法などの仕組みとサービス内容等について学ぶ。 【学習の到達目標】 ・社会保障制度の概要を説明できる。 ・各種保健医療福祉制度の概要とサービス内容について説明できる。 ・専門職として各種制度との関わりを理解することができる。 【成績評価方法】 期末テスト 100% 【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、ミニッツペーパーにより質問を受け付け、次回に回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 私語厳禁 【受講して得られる効果・メリット、その他】 医療専門職として活躍するうえで有用な基礎知識が得られる。 【実務家教員担当科目】 該当なし。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	森田慎二郎	オリエンテーション、保健医療福祉の基盤となる考え	復習として教科書で全体像を把握する。				4 時間
2	森田慎二郎	保健・医療・福祉の諸制度（社会保障制度の概要）	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
3	森田慎二郎	保健・医療・福祉の歴史的展開	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
4	森田慎二郎	現代の保健・医療・福祉を支える関連法、施設体系	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
5	森田慎二郎	社会福祉と公的扶助	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
6	森田慎二郎	医療保険の仕組みと種類①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
7	森田慎二郎	医療保険の仕組みと種類②	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
8	森田慎二郎	年金制度の仕組みと動向	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
9	森田慎二郎	労災保険と雇用保険	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
10	森田慎二郎	介護保険制度の仕組み①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
11	森田慎二郎	介護保険制度の仕組み②	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
12	森田慎二郎	障害者総合支援法と障害者福祉サービス	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
13	森田慎二郎	地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉サービス①	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
14	森田慎二郎	地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉サービス②、まとめ	教科書、配布資料でキーワード中心に復習する。				4 時間
教 科 書		椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ					
参 考 書		適宜紹介する。					
備 考		特になし。					

科 目 名		看護・保健概論			担 当 者	○作山美智子・瀬戸 初江	
科目ナンバリング		1040322463				常勤	
D P		1			教員研究室	5205	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 1. 保健医療福祉サービスを提供する場と保健医療福祉従事者・保健医療福祉システムの中で機能する看護について理解する。 2. 保健医療福祉サービスを効果的に発揮するためには、多様な職種が必要である。チーム活動の継続性、セルフマネジメントについて学修する。 【学習の到達目標】 1. 保健医療福祉サービスを提供する様々な職種一看護職について理解する。 2. チーム医療に必要なスキルについて学修する。 3. 医療安全の基礎について学修する。 【成績評価方法】 課題レポート 50%、定期試験 50% にて評価する。 【課題等のフィードバック方法】 授業中に指示する。 【履修上の注意・予習・復習について】 1. 授業で使用した資料を復習すること 2. 授業中の私語、授業に関係ないスマホ画面の操作は禁止。 3. 積極的に疑問や意見を述べてください。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 1. 医療保険福祉サービスにおける、さまざまな職種をの役割を理解することができる。 2. 就職後に他職種と協働する場面で、看護職の特徴に関する知識、医療安全の知識が有機的に活用される。 【実務家教員担当科目】 看護師免許を有し、臨床経験と大学教育の経験を十分に活かして授業を行う。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	作山美智子	ガイダンス 看護職について	保健師助産師看護師法・地域保健法・介護保険法について復習する				4 時間
2	作山美智子	健康と生活を支える看護	人間、環境、健康、看護について復習する				4 時間
3	作山美智子	看護における感染対策	感染予防の考え方、対策について復習する				4 時間
4	瀬戸 初江	チーム医療とは	チーム医療とは何かについてまとめる 課題レポート				4 時間
5	瀬戸 初江	チーム医療に必要なスキル 職種の理解	医療に携わる職種についてまとめる 課題レポート				4 時間
6	瀬戸 初江	セルフマネジメントの基礎知識	視覚障害患者の視点から注意することをカード記載し（予習）授業で GW する				4 時間
7	瀬戸 初江	医療安全の基礎知識	眼科に特徴的な医療事故に関する事例を検索し（予習）発表する				4 時間
教 科 書		講義時に毎回資料を配布する。					
参 考 書		適宜紹介する。					
備 考		特になし。					

科 目 名		視能矯正学Ⅱ		担 当 者	丹治 弘子	
科目ナンバリング		1040432468			非常勤	
D	P	1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 視覚発達、両眼視機能、眼球運動、輻湊、開散、眼位、斜視、弱視の成り立ちなどの基本を学習する。 【学習の到達目標】 視機能の基本的理論、特に両眼視機能、眼球運動の仕組みについて理解する。 【成績評価方法】 ①定期試験期間の筆記試験：90% ②授業中の小テスト、課題のレポート提出など：10% ③授業開始から 20 分経過したら欠席とする ④遅刻 2 回で 1 回欠席とする 【課題等のフィードバック方法】 小テストの採点、添削、要点の解説 【履修上の注意・予習・復習について】 ①教科書および本科目専用のノートを準備し、持参の上受講する。 ②復習を中心として、授業中の小テストで解答できなかった部分は再提出。 ③受講中は静粛を保ち、飲食、携帯電話の使用は禁止。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 視能訓練学の基礎となる両眼視機能や眼球運動のしくみを理解し、視覚検査のスペシャリストになる上で、今後の各論へ進むための基本を学習する。 【実務家教員担当科目】 視能訓練士、看護婦の実務経験のある教員が教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	丹治 弘子	視覚について	視覚発達 屈折と矯正の基本		4 時間	
2	丹治 弘子	両眼視のしくみ①	配布資料 視能学第 3 版 169-195		4 時間	
3	丹治 弘子	両眼視のしくみ②	配布資料 視能学第 3 版 169-195		4 時間	
4	丹治 弘子	眼球運動①	外眼筋の運動の仕組みと高次脳		4 時間	
5	丹治 弘子	眼球運動②	外眼筋の運動の仕組みと高次脳		4 時間	
6	丹治 弘子	斜視について	斜視病態・定義		4 時間	
7	丹治 弘子	弱視について	弱視病態・定義		4 時間	
教 科 書		視能学（第 3 版 / 丸尾 敏夫 編 / 文光堂）				
参 考 書		視能学エキスパート、視能訓練学（シリーズ監修 / 日本視能訓練士協会 / 医学書院）				
備 考		必要な場合、適宜に講義資料を配布				

科 目 名		視覚生理学 I		担 当 者	坂本 保夫	
科目ナンバリング		1040432470			常勤	
D P		1,2		教員研究室	4205	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 視能矯正に必要な知識として、視覚の成り立ちと視覚生理の基礎を学修する。まず基礎知識として、視覚系の情報処理機構（眼の光学系、視覚伝導系）を概説し、各感覚・機能の概念と検査法について講義する。				【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom を用い、課題の添削でフィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 視覚の成り立ちを理解し、視機能評価の方法と理論を修得する。 1) 視覚の成り立ちを光学・視覚生理/心理学・神経生理学から理解する。 2) 視力の種類、検査法、影響する因子、網膜対応について理解する。 3) 視野の概念、検査法、視野異常と影響する因子について理解する。 4) 色の性質、色覚の生理、色覚検査法、色覚異常について理解する。 5) 視細胞、視物質、明暗順応、電気生理検査などについて理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 予習・復習は授業の理解度を高める上で非常に重要である。予習は教科書・参考書などを用いて十分に行い、受講前に疑問点をまとめておくこと。不明な点は授業中または直後に必ず質問し、解決すること。遅刻時間に関わらず、あきらめずに受講すること。		
【成績評価方法】 課題：25%/ 定期試験：75%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 本講義は専門基礎科目であり、ここで得られる知識は、視覚機能の検査・評価・訓練に携わる者にとっては必須事項である。最新の医療技術に対応するにも本講義での基礎知識が重要となる。		
【実務家教員担当科目】 認定視能訓練士（CO）と、眼光学研究者の教員が視覚生理の基礎について講義する。						

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	坂本 保夫	A1. 視覚生理の基礎	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：身近な光の現象から一つ選択し、その現象についてレポートにまとめる		4 時間
2	坂本 保夫	A2. 視覚生理の基礎	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：光の明るさ（光度・照度・輝度・網膜照度）と単位についてレポートにまとめる		4 時間
3	坂本 保夫	B1. 視力（形態覚）	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：標準視標としてのランドルト環についてレポートにまとめる		4 時間
4	坂本 保夫	B2. 視力（形態覚）	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：logMAR 値を小数視力に換算する方法について例を示してレポートにまとめる		4 時間
5	坂本 保夫	C1. 視野（視野の概念）	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：Weber の法則と動的視野計測の関係をレポートにまとめる		4 時間
6	坂本 保夫	C2. 視野（動的・静的測定）	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：緑内障性視野障害について進行形式に沿ってレポートにまとめる		4 時間
7	坂本 保夫	C3. 視野（視野異常）	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：視野欠損（狭窄・暗点・半盲）についてレポートにまとめる		4 時間
8	（他）	D. 限界フリッカ値（検査目的・測定原理・他）	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：時間的周波数特性と CFF（限界フリッカ値）の関係グラフについてレポートをまとめる		4 時間
9	坂本 保夫	E1. 色覚（基礎知識）	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：色覚異常の4タイプの名称・原因をレポートにまとめる		4 時間
10	坂本 保夫	E2. 色覚（色覚異常）	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：色覚異常の保因者の遺伝についてレポートにまとめる		4 時間
11	坂本 保夫	E3. 色覚（検査法）	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：パネル D-15 の検査方法についてレポートにまとめる		4 時間
12	（他）	F. 光覚（視細胞・明暗順応・他）	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：明・暗順応についてレポートにまとめる		4 時間
13	（他）	G1. 電気生理学（基礎知識・検査種類・他）	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：眼科領域における電気生理検査の種類と名称についてレポートにまとめる		4 時間
14	（他）	G2. 電気生理学（ERG・VEP・EOG・他）	教科書（視能学・第3版）に従って予習 / 復習課題：ERG の刺激法とその分類についてレポートにまとめる		4 時間
教 科 書		視能学・第3版（小林義治・他 編 / 文光堂）			
参 考 書		眼科検査ガイド（第3版 / 飯田知弘・他 編 / 文光堂） 現代の眼科学（改訂第13版 / 所 敬 監修 / 金原出版）			
備 考		問合せ：各授業担当教員			

科 目 名	臨床心理学			担 当 者	柴田 寛
科目ナンバリング	1040432476				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	1413
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 精神機能や認知機能などの心の働きは人により様々であるが、本講義ではパーソナリティの違いや異常心理など人々の多様な心の特徴や問題について概説する。さらに、臨床心理学的アセスメント、心理療法についても説明する。				【課題等のフィードバック方法】 毎回、授業で取り上げた事項についての確認テストを行う。間違いが多かった問題を中心に次の授業で解説を行う。	
【学習の到達目標】 臨床心理学の基礎的な内容を正しく理解できるようになる。臨床心理学の基本的な用語を正しく使うことができるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義の進め方は初回授業で説明する。毎回、授業で取り上げた事項についての確認テストを行う。確認テストで間違えた箇所を中心に講義内容について復習しておくこと。復習により理解の定着を図ること。	
【成績評価方法】 受講態度 10%、定期試験 90% ※大学既定の出席数を満たしていること				【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家試験の範囲である臨床心理学の領域に関する基礎知識が得られる。多様なパーソナリティや異常心理の特徴を把握して、心理アセスメントや心理療法の考え方を学ぶことは医療の場でも役立つはずである。	
【実務家教員担当科目】 心理学領域の研究、臨床（心理検査）の実務経験を持つ教員が担当する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	柴田 寛	パーソナリティ（1）	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
2	柴田 寛	パーソナリティ（2）	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
3	柴田 寛	発達各期における心理臨床的問題、異常心理（1）	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
4	柴田 寛	異常心理（2）	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
5	柴田 寛	異常心理（3）、心理アセスメント	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
6	柴田 寛	心理療法（1）	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
7	柴田 寛	心理療法（2）	復習：配布プリントを見直す、確認テストで間違ったところを見直す		4 時間
教 科 書		なし			
参 考 書		山田弘幸（編）『言語聴覚士のための心理学 第 2 版』医歯薬出版株式会社			
備 考		言語聴覚学専攻との合同講義			

科 目 名		視能検査機器概論Ⅱ		担 当 者	○原口 翔太・石川奈津美 藤掛 福美	
科目ナンバリング		1040432483			常勤	
D P		1,2		教 員 研 究 室		4104
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次		2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 視能検査機器概論Ⅰで学修した内容に加え、臨床現場において検査頻度の高い項目について学ぶ。検査機器の種類と特徴および検査法の基礎知識を学修する。				【課題等のフィードバック方法】 視能検査機器演習Ⅱと合わせたレポート提出、および小テストにより理解できていない点を個別に指導してフィードバックする。		
【学習の到達目標】 眼科検査機器とその検査法を知り、検査の流れを理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 1 講義終了後は必ず復習すること 2 質問は積極的に、講義中でも可		
【成績評価方法】 定期試験：100% なお、再試験実施の場合は 70 点以上を合格とする。 ・授業開始から 20 分を経過した場合は、遅刻ではなく欠席とする。 ・遅刻を 2 回した場合は、1 回欠席とする。 ・授業中の態度を評価する（居眠り、授業に差しさわりのある会話、スマートフォン使用の禁止）。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科検査のほぼ全容を知ることができる。平行して行われる視能検査機器演習Ⅱには本講義の履修は必修であり、今後の専門科目を履修する上で、最低限必要な基礎知識を習得することが出来る。		
				【実務家教員担当科目】 視能訓練士の教員がその経験を基に眼科検査法について指導する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	原口 翔太 他	他覚的屈折検査	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
2	原口 翔太 他	眼圧	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
3	石川奈津美	視力検査（球面決定①）	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
4	石川奈津美	視力検査（球面決定②）	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
5	石川奈津美	視力検査（球面決定③）	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
6	石川奈津美	視力検査（乱視決定①）	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
7	石川奈津美	視力検査（乱視決定②）	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
8	原口 翔太	レンズメータ①	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
9	原口 翔太	レンズメータ②	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
10	原口 翔太 他	視野総論	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
11	石川奈津美	動的視野計	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
12	原口 翔太	静的視野計	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
13	藤掛 福美	眼底カメラ	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
14	藤掛 福美	光干渉断層計（OCT）	授業スライドや資料、および教科書で復習			4 時間
教 科 書		① 視能学（第 3 版 / 小林義治・他 編 / 文光堂）② 眼科検査ガイド（第 3 版 / 飯田知弘・他 編 / 文光堂）③ 眼科写真撮影 AtoZ（第 1 版 / 木下茂・他 / リプロ・サイエンス）				
参 考 書		① 屈折異常とその矯正（改訂第 5 版 / 所敬 / 金原出版）② 理解を深めよう視野検査（第 1 版補訂版 / 松本長太 監 / 金原出版）				
備 考		質問は担当教員へ直接行い、非常勤講師への質問は講義終了後に行うこと。				

科 目 名		視能検査機器演習Ⅱ		担 当 者		○原口 翔太・小野 峰子 安達いづみ・石川奈津美 藤掛 福美・他	
科目ナンバリング		1040432484				常勤	
D P		1,3		教員研究室		4104	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次		2 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 視能検査機器概論Ⅱの講義内容を踏まえ、機器の操作法、検査法、検査の流れ、データの記録・記載法などを学修する。		【履修上の注意・予習・復習について】 ① 予習・復習は授業の理解度を深めるために非常に重要である。＊必須 ② 演習では機器の安全管理を十分に行い、事故のないように教員の指示に従うこと。 ③ 演習時はペンライト、三田式万能計測器、斜眼子を持参し、白衣、内履きなど演習に相応しい服装で出席すること。 ④ 演習前は機器等の準備を行い、演習が開始できる状態で待機すること。 ⑤ 基本的には全日程出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には担当教員に連絡すること。 ⑥ グループで演習を行うため、原則、遅刻は認めない。 ⑦ 受講中の携帯の使用、飲食は厳禁。 ⑧ 個人の受講態度によってはグループ全体の演習を中止する。					
【学習の到達目標】 眼科検査および機器の検査法と検査の流れを理解し、データの記録・記載が正確に行えることを主目的とする。		【受講して得られる効果・メリット、その他】 視能検査機器概論Ⅱで学修した眼科検査を実体験することにより、その知識を実技で確認することが出来る。今後の専門科目の履修には必須である。					
【成績評価方法】 ① レポート課題：50% ② 実技試験：50% ・授業開始から 20 分を経過した場合は、遅刻ではなく欠席とし、遅刻 2 回で欠席 1 回としてカウントする。 ・授業中の態度を評価する（居眠り、授業に差しさわりのある会話、スマートフォン使用の禁止）。		【実務家教員担当科目】 視能訓練士の教員がその経験を基に眼科検査法について指導する。					
【課題等のフィードバック方法】 演習と合わせたレポート提出、および実技試験により理解できていない点を個別に指導してフィードバックする。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間			
				予習・復習			学修時間
1	原口 翔太 他	他覚的屈折検査①		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
2	原口 翔太 他	他覚的屈折検査②		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
3	原口 翔太 他	眼圧①		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
4	原口 翔太 他	眼圧②		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
5	石川奈津美 他	視力検査①		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
6	石川奈津美 他	視力検査②		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
7	石川奈津美 他	視力検査③		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
8	石川奈津美 他	視力検査④		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
9	石川奈津美 他	視力検査⑤		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
10	石川奈津美 他	視力検査⑥		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
11	石川奈津美 他	視力検査⑦		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
12	石川奈津美 他	視力検査⑧		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
13	石川奈津美 他	視力検査⑨		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
14	石川奈津美 他	視力検査⑩		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
15	石川奈津美 他	視力検査⑪		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
16	石川奈津美 他	視力検査⑫		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
17	原口 翔太	レンズメータ①		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
18	原口 翔太	レンズメータ②		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
19	原口 翔太	レンズメータ③		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
20	原口 翔太	レンズメータ④		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
21	原口 翔太	静的視野検査①		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
22	原口 翔太	静的視野検査②		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
23	原口 翔太	静的視野検査③		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
24	原口 翔太 他	動的視野検査①		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
25	原口 翔太 他	動的視野検査②		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
26	原口 翔太 他	動的視野検査③		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
27	藤掛 福美	眼底カメラ・光干渉断層計（OCT）		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
28	藤掛 福美	眼底カメラ・光干渉断層計（OCT）		視能検査機器概論Ⅱの講義資料 授業スライドや資料、および教科書で復習			1 時間
教 科 書		① 視能学（第3版/小林義治・他 編/文光堂）② 眼科検査ガイド（第3版/廣田知弘・他 編/文光堂）③ 眼科写真撮影 AtoZ（第1版/木下茂・他/リプロ・サイエンス）					
参 考 書		① 屈折異常とその矯正（改訂第7版/所敬/金原出版）② 理解を深めよう視野検査（第1版補訂版/松本長太 監/金原出版）					
備 考		質問は担当教員へ直接行い、非常勤講師への質問は授業終了後に行うこと。					

科 目 名		眼疾病学Ⅰ		担 当 者	浅野 浩一	
科目ナンバリング		1040432485			非常勤	
D	P	1,4		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 専門領域の学習に入るためには、全ての眼疾患を理解しておくことが前提とされる。眼疾病学Ⅰでは解剖学的部位に沿って、眼の疾患を出来る限り平易に網羅して講義を行う。主要疾患についてはディスカッション・ディベートも随時行う。						
【学習の到達目標】 代表的な疾患が中心の講義ではあるが、学習、理解しなければならない疾患数は非常に多く、少なくとも主要な疾患概念は理解して専門科目の学習に臨んでもらう。カルテを理解する上でも、疾患名は日本語だけでなく、英語あるいは他の外国語でも覚える必要がある。						
【成績評価方法】 定期試験：85%・小テストおよび質疑応答：15%、以上を総合評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 講義終了後から、随時質問を受けるなどしての指導、次の講義の中での質疑応答に、双方向型授業も加えて、より理解度を確認しながら進めている。必要に応じて小テストなども行っている。						
【履修上の注意・予習・復習について】 毎回の講義中に、1 人に 2,3 回以上の質問をして回答してもらい、これが平常点となる。教室にいるだけの出席点はない。回答するためには、復習と教科書の予習が欠かせない。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 本講義で学習した全ての疾患を理解しない限り、この後の授業、演習に入ることは極めて難しいことから、受講そのものが臨床への第一歩であり、パスポートであり、メリットと考えている。						
【実務家教員担当科目】 現役の眼科医である担当教員（約 40 年に近い臨床経験を有す）が、代表的な症例や、最新の眼科医療の現状についても講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	浅野 浩一	眼瞼下垂を起こす疾患	予め眼瞼下垂を起こす疾患について学習してくる・眼瞼下垂についてノートをとる		4 時間	
2	浅野 浩一	頻度の多い眼瞼部疾患	予め眼瞼部の疾患について学習してくる・眼瞼部疾患についてノートをとる		4 時間	
3	浅野 浩一	感染の機会の多い結膜疾患を中心に	予め結膜の疾患について学習してくる・結膜疾患についてノートをとる		4 時間	
4	浅野 浩一	代表的な強膜、角膜疾患と角膜移植	予め強膜、特に角膜の疾患と角膜移植について学習してくる・強膜、角膜疾患と角膜移植についてノートをとる		4 時間	
5	浅野 浩一	白内障（その 1）	予め白内障について学習してくる・白内障についてノートをとる		4 時間	
6	浅野 浩一	白内障（その 2）および水晶体疾患	予め水晶体の疾患について学習してくる・水晶体疾患についてノートをとる		4 時間	
7	浅野 浩一	硝子体疾患および網膜疾患（その 1）	予め硝子体の疾患や糖尿病網膜症について学習してくる・硝子体疾患や糖尿病網膜症についてノートをとる		4 時間	
8	浅野 浩一	網膜疾患（その 2）	予め糖尿病以外の網膜疾患や加齢黄斑変性症について学習してくる・加齢黄斑変性症や網膜疾患についてノートをとる		4 時間	
9	浅野 浩一	網膜疾患（その 3）	予め網膜剥離について学習してくる・網膜剥離についてノートをとる		4 時間	
10	浅野 浩一	緑内障の基礎知識（その 1）	予め原発性の緑内障や正常眼圧緑内障について学習してくる・原発性の緑内障や正常眼圧緑内障についてノートをとる		4 時間	
11	浅野 浩一	緑内障の基礎知識（その 2）	予め続発性や特殊な緑内障と、手術を含む治療法について学習してくる・特殊な緑内障や治療法についてノートをとる		4 時間	
12	浅野 浩一	眼球突出を症状とする疾患（甲状腺眼症を含む）	予め甲状腺眼症や眼球突出を呈す疾患について学習してくる・甲状腺眼症や眼球突出を呈す疾患についてノートをとる		4 時間	
13	浅野 浩一	眼窩の腫瘍・蜂巣炎、先天異常疾患	予め眼窩の腫瘍や蜂巣炎などや、先天性眼疾患について学習してくる・眼窩疾患と先天性眼疾患についてノートをとる		4 時間	
14	浅野 浩一	眼外傷一般	予め眼の外傷について学習してくる・眼外傷についてノートをとる		4 時間	
教 科 書		視能学（第 3 版 / 丸尾 敏夫他 編 / 文光堂） 現代の眼科学（改訂第 13 版 / 所 敬他 編 / 金原出版）				
参 考 書		眼疾病についての知識・情報量は、国家試験に対してだけでも、教科書特に「視能学」だけでは余りにも足りないもので、必ず図書館にある各種の眼科学領域の本なども参考にすること。				
備 考		質問および問い合わせは、直接科目担当の浅野まで。				

科 目 名		眼疾病学Ⅱ		担 当 者	門屋 講司	
科目ナンバリング		1040432486			非常勤	
D P		1,2		教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 眼疾病学Ⅰと同様、主たる眼疾患の内容を理解することである。 講義内容は、加齢と視機能、加齢に伴う眼疾患、全身病に伴う特異な眼病変、眼に関する心身症、瞳孔に関連する疾患、眼球運動障害、代表的な眼科手術の紹介、視神経関連疾患、遺伝性眼疾患、スポーツ眼外傷、眼科救急の基礎事項、視能訓練士法および眼科医療に関する法規一般などである				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、質問を受け付け解答する		
【学習の到達目標】 眼疾病学Ⅰとあわせ本科目（眼疾病学Ⅱ）の学習を以って、眼疾患の概要が把握されるはずである。到達目標として欲しい。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・必ず科目専用のノートを準備、持参の上受講すること（チェックあり）。 ・授業計画を参照の上、授業当日の講義の概要を予習して講義に臨みたい。 ・教室の机の上にはノート、教科書、参考書、配布資料以外のものは置かないこと。 ・受講中、携帯電話はオフにすること。		
【成績評価方法】 定期試験：100%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 これからの視能訓練士が目指す仕事の内容は斜視・弱視の検査、治療、ロービジョンケアだけではないことを眼疾患学Ⅰ・Ⅱの学習を通じて理解できるはずである		
				【実務家教員担当科目】 元眼科専門医、獨協医大埼玉医療センター眼科非常勤講師、日本医科学大学校視能訓練士科非常勤講師		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	門屋 講司	加齢に伴う疾患 ①白内障・水晶体	視能学 p278 宿題（国試過去問題）		4 時間	
2	門屋 講司	加齢に伴う疾患 ②加齢黄斑変性	宿題（国試過去問題）		4 時間	
3	門屋 講司	全身病に関連する眼疾患 ①糖尿病・膠原病・甲状腺	視能学 p289 ～ 宿題（国試過去問題）		4 時間	
4	門屋 講司	全身病に関連する眼疾患 ②高血圧・動脈硬化	宿題（国試過去問題）		4 時間	
5	門屋 講司	心因性視能障害	視能学 p453 ～ 宿題（国試過去問題）		4 時間	
6	門屋 講司	瞳孔の異常	視能学 p292 ～ 宿題（国試過去問題）		4 時間	
7	門屋 講司	眼球運動障害	視能学 p378 ～ 宿題（国試過去問題）		4 時間	
8	門屋 講司	視神経・視路の疾患①	視能学 p309 ～ 宿題（国試過去問題）		4 時間	
9	門屋 講司	視神経・視路の疾患②	宿題（国試過去問題）		4 時間	
10	門屋 講司	遺伝性眼疾患①	視能学 p521 ～ 宿題（国試過去問題）		4 時間	
11	門屋 講司	遺伝性眼疾患②	宿題（国試過去問題）		4 時間	
12	門屋 講司	眼窩・眼外傷	視能学 p288 ～ 宿題（国試過去問題）		4 時間	
13	門屋 講司	ぶどう膜炎 網膜・硝子体黄斑疾患	宿題（国試過去問題）		4 時間	
14	門屋 講司	眼の救急疾患			4 時間	
教 科 書		視能学（第2版／丸尾敏夫 編／文光堂） 現代の眼科学（改定第12版／所敬他編／金原出版） 配布資料				
参 考 書		図書館整備の各種眼科教科書を選択してもよい				
備 考		なし				

科 目 名		神経眼科学		担 当 者	竹下 孝之	
科目ナンバリング		1040432487			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 医学眼科学の中の神経眼科学				【課題等のフィードバック方法】 小テストを行い、その後回答を確認する。講義終了後に質問を受け付け、回答する。		
【学習の到達目標】 神経眼科疾患の基本的知識を得る				【履修上の注意・予習・復習について】 授業で配るプリントを二回目以降も持参してもらう		
【成績評価方法】 レポートと試験				【受講して得られる効果・メリット、その他】 視能訓練士の実地の業務に有効な生理学・疾患の知識を得ることができる		
				【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	竹下 孝之	視神経の機能とその疾患	講義領域を視能学の教科書で予習してもらい、授業配布プリントで復習してもらう		4 時間	
2	竹下 孝之	大脳の疾患と神経眼科疾患	講義領域を視能学の教科書で予習してもらい、授業配布プリントで復習してもらう		4 時間	
3	竹下 孝之	瞳孔の生理と疾患	講義領域を視能学の教科書で予習してもらい、授業配布プリントで復習してもらう		4 時間	
4	竹下 孝之	核下性眼球運動障害	講義領域を視能学の教科書で予習してもらい、授業配布プリントで復習してもらう		4 時間	
5	竹下 孝之	核上性眼球運動障害	講義領域を視能学の教科書で予習してもらい、授業配布プリントで復習してもらう		4 時間	
6	竹下 孝之	外眼筋の疾患	講義領域を視能学の教科書で予習してもらい、授業配布プリントで復習してもらう		4 時間	
7	竹下 孝之	神経眼科疾患の鑑別疾患とまとめ	講義領域を視能学の教科書で予習してもらい、授業配布プリントで復習してもらう		4 時間	
教 科 書		なし（「視能学」などすでに購入している教科書をみてもらいます。実際の授業は必要内容をプリントで配布します）				
参 考 書		医学書院「神経眼科学を学ぶ人のために」				
備 考		なし				

科 目 名	眼科薬理学			担 当 者	浅野 浩一
科目ナンバリング	1040432489				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視能訓練士は眼科医の指示の基に眼疾患治療に関わるため、疾患の診断、治療で使用する薬剤に関する豊富な知識が要求される。主要な薬剤については随時ディスカッション・ディベートを行う。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後から、随時質問を受けるなどの指導や、次回の講義の中での質疑応答に、双方向型授業も加えて、より丁寧に理解度を確認しながら進めている。必要に応じて小テストなども行う。	
【学習の到達目標】 視能訓練士として知っておかなければならない眼科薬理学の知識を修得すること。				【履修上の注意・予習・復習について】 毎回の講義中に、1 人毎に 2,3 回以上の質問をして、回答してもらう、これが平常点となる。教室にいるだけの出席点はない。回答には復習と教科書の予習が必要とされる。	
【成績評価方法】 定期試験：85%・小テストおよび質疑応答：15%、以上を総合評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 将来視能訓練士として仕事をする際に、実際に使用することがある眼科薬剤の基礎事項について修得することができる唯一の教科であること。	
				【実務家教員担当科目】 現役の眼科医である担当教員が、主要な眼科薬剤や最新の眼科薬物療法の現状について講義する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	浅野 浩一	自律神経系の薬理（瞳孔反応、調節機序）①	予め自律神経の交感神経系の薬剤について学習してくる・眼科の自律神経薬についてノートをまとめる		4 時間
2	浅野 浩一	自律神経系の薬理②	予め自律神経の副交感神経系の薬剤について学習してくる・眼科の自律神経薬についてノートをまとめる		4 時間
3	浅野 浩一	点眼薬・局所投与法の基礎知識	予め点眼薬や局所投与法について学習してくる・点眼薬や局所投与法についてノートをまとめる		4 時間
4	浅野 浩一	眼科薬剤の副作用	予め眼科薬剤の副作用について学習してくる・眼科薬剤の副作用についてノートをまとめる		4 時間
5	浅野 浩一	眼科に関連する医原性疾患（医薬品による健康被害）	予め眼科領域の医原性疾患や健康被害の学習をしてくる・医原性疾患や健康被害についてノートをまとめる		4 時間
6	浅野 浩一	抗菌薬の投与法と薬剤感受性	予め抗菌薬と薬剤感受性について学習してくる・抗菌療法と薬剤感受性についてノートをまとめる		4 時間
7	浅野 浩一	全身投与と眼球内投与の薬理	予め全身投与や硝子体内投与等について学習してくる・全身投与や硝子体内投与等についてノートをまとめる		4 時間
教 科 書		点眼薬クリニカルブック（第 2 版、庄司純編著、金原出版） 視能学（第 3 版、丸尾敏夫編、文光堂）			
参 考 書		眼科薬剤クイックリファレンス（改訂 2 版、大橋裕一他編、南江堂）			
備 考		質問および問い合わせは、直接科目担当の浅野まで。			

科 目 名		視能訓練学Ⅰ		担 当 者	○安達いづみ・小野 峰子 石川奈津美・他
科目ナンバリング		1040432490			常勤
D	P	1,2		教 員 研 究 室	4201 研究室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視能訓練の基本的知識と技術の概要、斜視の各論および診断に必要な検査（眼位検査・眼球運動検査・両眼視機能検査・網膜対応検査・大型弱視鏡の使用方法和検査）と検査結果の評価法について学修する。				【課題等のフィードバック方法】 小テスト・課題については後日解説を行い、疑問点については講義中、講義後とも質問を受けつけ、回答する。	
【学習の到達目標】 斜視・弱視の検査法を理解し、検査結果の評価が行えることを目標とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 ①当日の講義の概要について把握したうえで、講義に臨むこと。 ②受講中は、静寂を保ち、飲食、スマートフォンの使用は禁止とする。 ③交通機関の遅延等の正当な理由がある場合を除き、授業開始から20分経過しての遅刻は、欠席とみなす。	
【成績評価方法】 ①定期試験期間の筆記試験：90% ②授業中の小テスト、課題等：10% 以上を総合評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 視能訓練の基本的知識と技術が身につく、検査結果の正しい評価および、斜視弱視患者の診断に必要な検査を自分で考えることができるようになる。	
				【実務家教員担当科目】 臨床経験豊富な認定視能訓練士または認定専任教員の資格を持つ教員が講義を行い、斜視や弱視の検査法の理論や手技について臨床に則した指導を行う。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	安達いづみ	眼位検査①（定性・定量）、プリズム、固視検査	「視能学」P327-333、P438-442、「できる！斜視検査」P15-52を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
2	安達いづみ	眼位検査②（回旋の検査）	「視能学」P333-336「できる！斜視検査」P56-59,P62-65を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
3	安達いづみ	眼位検査③（大型弱視鏡による検査）	「視能学」P347-356、「できる！斜視検査」P59-62を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
4	石川奈津美	眼球運動検査①	「視能学」P179-187、P337-341を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
5	石川奈津美	眼球運動検査②	「視能学」P179-187、P337-341を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
6	小野 峰子 他	直像鏡の精密固視検査、眼底検査	「視能学」P438-442を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
7	安達いづみ	眼球運動検査 Hess 赤緑試験①	「視能学」P341-344を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
8	安達いづみ	眼球運動検査 Hess 赤緑試験②	「視能学」P341-344を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
9	安達いづみ	網膜対応検査①	「視能学」P359-364、「できる！斜視検査」P67-77, P110-134を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
10	安達いづみ	網膜対応検査②	「視能学」P359-364、「できる！斜視検査」P67-77, P110-134を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
11	安達いづみ	網膜対応検査③	「視能学」P359-364、「できる！斜視検査」P67-77, P110-134を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
12	安達いづみ	大型弱視鏡検査①	「視能学」P347-355、「できる！斜視検査」P97-109を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
13	安達いづみ	大型弱視鏡検査②	「視能学」P347-355、「できる！斜視検査」P97-109を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
14	安達いづみ	大型弱視鏡検査③	「視能学」P347-355、「できる！斜視検査」P97-109を読んで予習。講義資料および教科書で復習。		4 時間
教 科 書		「視能学」（第3版/小林義治 他編/文光堂） 「できる！斜視検査」（杉山 能子 編/三輪書店）			
参 考 書		「視能学エキスパート 視能訓練学」（若山暁美 他/医学書院） 「斜視と眼球運動異常」（丸尾 敏夫 編/文光堂）			
備 考		その他、参考書は各自で図書館等を利用すること			

科 目 名		視能訓練学演習Ⅰ		担 当 者		○安達いづみ・小野 峰子 原口 翔太・石川奈津美 他	
科目ナンバリング		1040432491				常勤	
D P		2,3		教員研究室		4201 研究室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次		2 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 視能訓練学Ⅰで学んだ斜視の診断に必要な検査、眼位検査・眼球運動検査・網膜対応検査、および大型弱視鏡の使用方法和検査結果の評価法について演習により学修する。				【履修上の注意・予習・復習について】 ①演習時には白衣および演習用シューズを着用し、身だしなみを整えて臨むこと ②遅刻は原則認めない ③演習時間中の飲食・スマートフォンの使用は禁止とする ④その日に行う演習項目について、視能訓練学Ⅰで学んだことを復習し確認した上で演習に臨む ⑤疑問点は演習中に質問するなどして解決し、レポート作成や実技試験に繋げる			
【学習の到達目標】 斜視の検査法を理解し、検査結果の評価ができることを目標とする。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 各項目の検査を検者・被検者として実際に演習を行い各検査法とその評価についての知識・技術を身につけられる。1 年後の隣地実習Ⅰの前段階となる。			
【成績評価方法】 レポート・確認試験：50% 実技評価（実技試験 他）：50%				【実務家教員担当科目】 認定視能訓練士または認定専任教員の資格を持つ臨床経験豊富な教員が、斜視検査の理論や手技について臨床に則した指導を行う。			
【課題等のフィードバック方法】 実技試験を行い、試験終了後に個別に指導してフィードバックを行う。確認試験を行い、理解度を確認し、返却時にコメントで解説する。演習レポートにより理解度を確認し、返却時にコメントまたは口頭で解説する。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間			
				予習・復習			学修時間
1	安達いづみ, 他	眼位検査（定性・定量）		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
2	安達いづみ, 他	眼位検査（定性・定量）		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
3	安達いづみ, 他	眼位検査（定性・定量）		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
4	安達いづみ, 他	眼位検査（定性・定量）		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
5	石川奈津美, 他	眼球運動検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
6	石川奈津美, 他	眼球運動検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
7	石川奈津美, 他	眼球運動検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
8	石川奈津美, 他	眼球運動検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
9	安達いづみ, 他	各種眼位検査、眼位検査の評価、（回旋偏位も含む）		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
10	安達いづみ, 他	各種眼位検査、眼位検査の評価、（回旋偏位も含む）		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
11	安達いづみ, 他	各種眼位検査、眼位検査の評価、（回旋偏位も含む）		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
12	安達いづみ, 他	各種眼位検査、眼位検査の評価、（回旋偏位も含む）		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
13	安達いづみ, 他	各種眼位検査、眼位検査の評価、（回旋偏位も含む）		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
14	安達いづみ, 他	Hess 赤緑試験		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
15	安達いづみ, 他	Hess 赤緑試験		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
16	安達いづみ, 他	Hess 赤緑試験		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
17	安達いづみ, 他	Hess 赤緑試験		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
18	安達いづみ, 他	Hess 赤緑試験		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
19	安達いづみ, 小野 峰子, 他	精密固視検査、眼底検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
20	安達いづみ, 小野 峰子, 他	精密固視検査、眼底検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
21	安達いづみ, 他	網膜対応検査、融像・抑制の検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
22	安達いづみ, 他	網膜対応検査、融像・抑制の検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
23	安達いづみ, 他	網膜対応検査、融像・抑制の検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
24	安達いづみ, 他	網膜対応検査、融像・抑制の検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
25	安達いづみ, 他	大型弱視鏡による眼位検査、両眼視機能検査、網膜対応検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
26	安達いづみ, 他	大型弱視鏡による眼位検査、両眼視機能検査、網膜対応検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
27	安達いづみ, 他	大型弱視鏡による眼位検査、両眼視機能検査、網膜対応検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
28	安達いづみ, 他	大型弱視鏡による眼位検査、両眼視機能検査、網膜対応検査		視能訓練学Ⅰの講義資料、および教科書等にて予習、復習			1 時間
教 科 書		「視能学」（第 3 版 / 小林義治 他編 / 文光堂） 「できる！斜視検査」（杉山能子 編 / 三輪書店） 「眼科検査ガイド」（第 3 版 / 飯田知弘 他 / 文光堂）					
参 考 書		「視能学エキスパート 視能訓練学」（若山曉美 他 / 医学書院） 「眼科検査法ハンドブック」（第 4 版 / 小口芳久・他 / 医学書院）					
備 考		その他、参考書は各自で図書館等を利用すること					

科 目 名	ロービジョン学Ⅰ			担 当 者	小野 峰子
科目ナンバリング	1040432495				常勤
D P	1,4			教員研究室	4202
学科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	2 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】 ロービジョンの定義と概念、視覚障害者のリハビリテーションとハビリテーションについて解説する。視覚障害者を取り巻く現状、公的援助、心的な側面について学修する。 ロービジョンケアを提供する際の基礎知識として必要なことを網羅した授業とする。 【学習の到達目標】 ロービジョンの定義、概念、関連法規を把握する。 ロービジョンケアの現状を把握し、ケア方法と理論を理解する。 【成績評価方法】 定期試験：90% レポート等：10% 【課題等のフィードバック方法】 レポート提出、および試験で理解できていない点を個別に指導してフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 予習・復習は授業の理解度を高める上で非常に重要である。 授業で不明な点は授業中または直後に質問し、解決すること。 遅刻して授業開始から 20 分を経過した場合は欠席とする。 遅刻を 2 回した場合は、欠席とする。 授業中の態度を評価する。 (居眠り、授業に差しさわりのある会話、スマートフォン使用の禁止) 【受講して得られる効果・メリット、その他】 高齢化社会に伴い、視覚障害者へのリハビリテーション（ロービジョンケア）は重要な分野である。身体障害とは、視覚障害とはという概念から、視覚障害者を取りまく現状を知り、ロービジョンケアへとつながる基礎知識を習得する 【実務家教員担当科目】 小野峰子 / 視能障害専門視能訓練士					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	小野 峰子	障害について、リハビリテーションの概念、視覚障害とは	視能学（第 2 版）P477-484 を読む		4 時間
2	小野 峰子	ロービジョンの定義、眼科におけるロービジョンケア	視能学（第 2 版）P477-484 を読む		4 時間
3	小野 峰子	ロービジョンケアにおける視機能検査と評価、概説	視能学（第 2 版）P477-484 を読む		4 時間
4	小野 峰子	ロービジョン者の心理	視能学（第 2 版）P477-484 を読む		4 時間
5	小野 峰子	視覚障害者への公的制度・援助	視能学（第 2 版）P477-484 を読む		4 時間
6	小野 峰子	医療リハビリテーションと連携①	視能学（第 2 版）P477-484 を読む		4 時間
7	小野 峰子	医療以外の施設との連携②	視能学（第 2 版）P477-484 を読む		4 時間
教 科 書		視能学（第 2 版 / 丸尾敏夫・他 編 / 文光堂）			
参 考 書		ロービジョンケアマニュアル ロービジョンケアの実践・専門医のための眼科診療クオリファイ 26（山本修一 編 / 中山書店）			
備 考		なし			

2020～2023 年度入学者用カリキュラム (視覚機能学専攻)

科 目 名		教育学Ⅱ		担 当 者	一柳 貴博
科目ナンバリング		1040222033			非常勤
D	P	1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 不登校やいじめ、精神的不調、障がい等の教育課題をとりあげ、心理学の知見を踏まえた支援方法について学ぶ。また、障がいの有無にかかわらず誰もが生きやすい学校や社会の実現に向けた支援についても考える。					
【課題等のフィードバック方法】 毎回の振り返りコメントの際に授業の感想や質問を受け付け、次の授業の時にそのフィードバック（質問の回答等）を行う。					
【学習の到達目標】 ①心理学的支援について理解し、説明することができる。②様々な教育課題とその支援について理解し、説明することができる。③誰もが生きやすい学校や社会に向けた支援について考え、自らの意見をまとめることができる。					
【履修上の注意・予習・復習について】 授業の中で、授業内容に関するディスカッションやグループワークを行う。積極的に授業に参加すること。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 心理学的支援の方法や多様な子どもたちの姿を知ることができるとともに、学校や社会の在り方について多面的に考える視点を得ることができる。					
【成績評価方法】 毎回の授業中の振り返りコメント（100%）により評価する。評価の基準等については授業内で紹介する。					
【実務家教員担当科目】 該当なし					

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	一柳 貴博	イントロダクション：子どもたちを取り巻く様々な教育課題	予習：子どもたちを取り巻く様々な教育課題を調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、子どもたちを取り巻く教育課題をまとめる。		4 時間
2	一柳 貴博	心理学的支援 1：子どもとの関係形成	予習：他者と信頼関係を築くにはどうすると良いかを考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、子どもを含む他者との信頼関係を築く方法をまとめる。		4 時間
3	一柳 貴博	心理学的支援 2：アセスメント	予習：心理学的支援におけるアセスメントの方法を調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、心理学的支援においてどんなアセスメントの方法があるかをまとめる。		4 時間
4	一柳 貴博	心理学的支援 3：様々な心理的アプローチ	予習：様々な心理的アプローチについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、様々な心理的アプローチの方法をまとめる。		4 時間
5	一柳 貴博	教育課題と支援 1：不登校、いじめ	予習：不登校やいじめに関する課題と支援について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、不登校やいじめに関する課題と支援についてまとめる。		4 時間
6	一柳 貴博	教育課題と支援 2：児童虐待、子どもの貧困	予習：児童虐待や子どもの貧困に関する課題と支援について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、児童虐待や子どもの貧困に関する課題と支援についてまとめる。		4 時間
7	一柳 貴博	教育課題と支援 3：精神的不調を抱える子どもへの支援	予習：精神的な不調について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、精神的不調の内容とその支援方法をまとめる。		4 時間
8	一柳 貴博	教育課題と支援 4：発達障がいのある子どもへの支援	予習：発達障がいについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、発達障がいの内容とその支援方法をまとめる。		4 時間
9	一柳 貴博	教育課題と支援 5：様々な障がいのある子どもへの支援	予習：自分が関心のある障がいについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、様々な障がいの内容とその支援方法をまとめる。		4 時間
10	一柳 貴博	教育課題と支援 6：多様なニーズのある子どもへの支援	予習：多様なニーズのある子どもについて調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、多様なニーズのある子どもの支援方法をまとめる。		4 時間
11	一柳 貴博	誰もが生きやすい学校や社会に向けて 1：インクルーシブ教育と共生社会	予習：インクルーシブ教育と共生社会について調べてくる。 復習：授業内容を振り返り、インクルーシブ教育と共生社会の内容と課題をまとめる。		4 時間
12	一柳 貴博	誰もが生きやすい学校や社会に向けて 2：障がいとは	予習：障がいとは何かを考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、障がいとは何かについて自分の考えを深める。		4 時間
13	一柳 貴博	誰もが生きやすい学校や社会に向けて 3：子どもたちの関係形成	予習：多様な子どもたちが良好な関係を築くためにはどうしたら良いかを考えてくる。 復習：授業内容を振り返り、多様な子どもたちの関係形成に向けた支援について自分の考えを深める。		4 時間
14	一柳 貴博	まとめ：多様な子どもたちへの支援	予習：これまでの授業を振り返り、心理学的支援や様々な教育課題についてまとめる。 復習：これまでの授業を振り返り、誰もが生きやすい学校や社会に向けた支援についての自分の考えをまとめる。		4 時間
教 科 書		教科書は指定しない。適宜プリントを配布する。			
参 考 書		授業の中で指示する。			
備 考		特になし。			

科 目 名	地球の科学			担 当 者	千葉 一
科目ナンバリング	1040222034				非常勤
D P	1,4			教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人類は経済活動を優先するあまり、環境や気候変動の問題を放置して来た。しかしその人類の生態は、大きな転換を迫られている。本講義では、人間の活動が地球環境にどのような影響を与えているのかについて、特に地球温暖化を中心に解説して行く。また、そうした諸問題解決のための思考を深めて行く。				【課題等のフィードバック方法】 提出物やレポートの総括講評を、次の授業で行う。	
【学習の到達目標】 環境破壊や環境問題を正しく理解することで、人間の過剰性の認知と環境へのグローバルな倫理観を養う。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業進行に支障をきたす場合は退出してもらう。授業計画のトピックを参考に資料など情報収集しつつ、授業に臨む。復習を怠らない。	
【成績評価方法】 定期試験による評価と提出物（講義中）で総合評価とする。 評価比率：定期試験 70%・提出物 30%。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 人類の生命活動のみが大切なのではなく、この地球の営みの中で共に生きる生命活動があって、この地球が存在している。気象や地殻の諸現象や多種多様な生命の絡み合いを理解し、それぞれの存在価値を正しく認識することは、未来の健全な「地球コミュニティ」の在り方にとって必須と考える。	
				【実務家教員担当科目】 3.11 震災復興に関連した環境破壊やコミュニティ開発を研究しつつ、自然再生活動や社会開発を実践している教員が、地球規模の環境問題について、自然科学と人文科学の枠を超えて講義する。	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	千葉 一	授業の進め方を説明する。 人間という種の特異性と環境問題	自己の生活と環境問題の関連を再考する。次回学習内容を予習。	4 時間
2	千葉 一	カーボン・サイクルと石灰岩	炭酸カルシウム形成過程を理解する。次回学習内容を予習。	4 時間
3	千葉 一	化石燃料：炭素の固定と解放	その固定と解放の時間差を理解する。次回学習内容を予習。	4 時間
4	千葉 一	海洋酸性化と生態系サービス	酸性化メカニズムを理解する。次回学習内容を予習。	4 時間
5	千葉 一	森のネットワークと生物多様性	森林の社会性を理解する。次回学習内容を予習。	4 時間
6	千葉 一	砂漠化と多種共生	多自然主義を理解する。次回学習内容を予習。	4 時間
7	千葉 一	復習と要点・疑問点の整理	6 回の講義内容を理解・整理し、小論文的にまとめる。	4 時間
教 科 書		特になし。資料を適宜配布する。		
参 考 書		清水美香（編著）2023『レジリエンス－よみがえる力－森・風景・地域・人の交差の中で』、日本評論社。 原慶太郎ほか（編著）2021『自然と歴史を活かした震災復興－持続可能性とレジリエンスを高める景観再生』、東京大学出版会。		
備 考		国家試験等の関連で欠席する場合は、予め申し出ること。		

科 目 名		哲学		担 当 者	高山 馨	
科目ナンバリング		1040222035			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 哲学および倫理学がどのような営みなのかを知することは、時として自らのふるまいを変えることにもつながります。本講義では、主に生命と医療・技術にかかわる哲学的、倫理的、社会的な問題を学ぶことで、医療者としての社会的自己について考えていきます。 【学習の到達目標】 (1) 哲学および倫理学の基礎知識、それらが用いる方法についての基礎知識を身につける。(2) 哲学および倫理学的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。 【成績評価方法】 平常点：60%、期末試験：40% 【課題等のフィードバック方法】 毎回アンケートを取り、講義内で質問に答える。 【履修上の注意・予習・復習について】 適宜復習し、講義内で紹介された参考文献にあたることが望ましい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 生命や医療・技術にかかわるさまざまな問題を理解することは、医療の世界へと進む人の自己形成にとって有益と思います。 【実務家教員担当科目】 該当しない。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	高山 馨	イントロダクション：哲学および倫理学とは何か	〈予習〉 シラバスと配布資料を一読する。 〈復習〉 講義内容を整理して理解する。		4 時間	
2	高山 馨	価値と幸福について（1）	〈予習〉 配布資料を一読し、価値や道徳は人それぞれなのかを考えておく。 〈復習〉 講義内容を整理して理解する。		4 時間	
3	高山 馨	価値と幸福について（2）	〈予習〉 配布資料を一読し、幸福とは何かを考えておく。 〈復習〉 講義内容を整理して理解する。		4 時間	
4	高山 馨	生の始まりと終わりについて（1）	〈予習〉 配布資料を一読し、人生に意味はあるのか、あるとしたらそれは何かを考えておく。 〈復習〉 講義内容を整理して理解する。		4 時間	
5	高山 馨	生の始まりと終わりについて（2）	〈予習〉 配布資料を一読し、死ぬことはその人にとって悪いことなのかを考えておく。 〈復習〉 講義内容を整理して理解する。		4 時間	
6	高山 馨	医療・技術と責任について（1）	〈予習〉 配布資料を一読し、医薬品のための動物実験について考えておく。 〈復習〉 講義内容を整理して理解する。		4 時間	
7	高山 馨	医療・技術と責任について（2）	〈予習〉 配布資料を一読し、医療者としての倫理と社会的責任について考えておく。 〈復習〉 これまでの講義内容を整理して理解する。		4 時間	
教 科 書		プリントを配布するので、教科書は不要です。				
参 考 書		講義内で適宜紹介します。				
備 考		特になし。				

科 目 名	生活と経済			担 当 者	開講時指示
科目ナンバリング	1040222036				
D P	1,4			教員研究室	
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	4 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】				【課題等のフィードバック方法】	
【学習の到達目標】				【履修上の注意・予習・復習について】	
【成績評価方法】				【受講して得られる効果・メリット、その他】	
				【実務家教員担当科目】	
※開講時に指示します。					

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1				4 時間
2				4 時間
3				4 時間
4				4 時間
5				4 時間
6				4 時間
7				4 時間
8				4 時間
9				4 時間
10				4 時間
11				4 時間
12				4 時間
13				4 時間
14				4 時間
教 科 書				
参 考 書				
備 考				

科 目 名		ジェンダー論		担 当 者	妙木 忍	
科目ナンバリング		1040222037			非常勤	
D P		1,4		教 員 研 究 室	非常勤講師室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 この授業では、ジェンダーの視点から社会を考察する。ジェンダー研究の蓄積を紹介するとともに、家族、労働、法など身近な論点を取り上げながら社会の考察を深める（主に日本社会を対象とする）。この授業を通して、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにすればよいのかを、ともに考えていく。 【学習の到達目標】 (1) ジェンダーの概念を理解する。(2) ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。 【成績評価方法】 レスポンス・カードの提出（30%）、課題（30%）、論述試験（40%）により評価する。 【課題等のフィードバック方法】 毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出していただき、質問やコメントを受け取る。その内容を、次の回の冒頭で紹介し、フィードバックをおこなう。 【履修上の注意・予習・復習について】 授業中に伝える。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 自分の問題関心にそって問いを立て、それを解くことができる力を身につけることも目指すため、社会を読み解く力と自分の問いを解く楽しさが得られる。また、社会を相対化する視点や、私たちがいま生きている時代や社会を分析する力が得られる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	妙木 忍	ジェンダーとは何か	レジュメを復習する。ジェンダーの概念が理解できたかどうかを点検する。		4 時間	
2	妙木 忍	家族とジェンダー	レジュメを復習する。近代家族の概念などについて理解できたかどうかを点検する。		4 時間	
3	妙木 忍	労働とジェンダー	レジュメを復習する。配布プリントの中から、労働環境に関するデータを一つ選んで詳しく検討する。		4 時間	
4	妙木 忍	法とジェンダー	レジュメを復習する。関心のある法律と一つ選んで考察する。		4 時間	
5	妙木 忍	ユニバーサルデザインとジェンダー	レジュメを復習する。身近な事例を一つ取り上げて考察する。第 6 回で取り上げる東大祝辞（2019 年）を読んでくる（予習）。		4 時間	
6	妙木 忍	東大祝辞（2019 年、上野千鶴子さん）を読む	ポイントを復習する。授業中に検討した内容をまとめること。		4 時間	
7	妙木 忍	まとめ	これまでの学びをまとめる。		4 時間	
教 科 書		指定しない。レジュメを配布する。				
参 考 書		授業中に適宜紹介する。				
備 考		特になし。				

科 目 名		政治学		担 当 者	王 元			
科目ナンバリング		1040222038			常勤			
D P		1,4			教員研究室		1324	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次		4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	選択 1 単位		
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし						
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 人間は社会的動物である。政治は人間の社会的利害を調整するしくみである。人々が生活する社会における秩序を形成し、維持し、修正し、また時には破壊することを通じて実行される活動と手段である。 政治学は古代ギリシアに誕生して以来、長い歴史を刻んできた。しかし、政治行動の判断基準や結論には必ずしも法則性があるとはいえない。むしろ、政治を担う人の個性やイデオロギー、感情、さらには偶然性に左右される側面もある。総合的に知識や手法も駆使して最善の政策決定を促すところに、政治学の目的や妙味がある。 政治学の基礎知識と発想方法を解説する。政治学の面白さと大切さを伝え、政治現象一般を把握する視点を身に付けてもらうことがこの講義のねらいである。講義形式を基本とする。ただし適宜ビデオ教材を利用する。								
【課題等のフィードバック方法】 授業終了後、質問を受け付け、回答します。								
【履修上の注意・予習・復習について】 私語及び携帯電話の使用禁止。 受け身にならず、自ら探究心を持つことが重要だ。 政治問題への関心を抱き、まず新聞を読む習慣を身に付けてほしい。								
【受講して得られる効果・メリット、その他】 政治現象を分析するための概念と手法を身につけ、各種の資格試験に必要な政治分野の基礎知識を学ぶことができる。								
【実務家教員担当科目】 該当なし								

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	王 元	ガイダンス	政治とは何か 政治学とは何	4 時間
2	王 元	国家統治と主権	主権概念の史的経緯 市民社会・国民国家の成立と政治的統合	4 時間
3	王 元	権力、集権と分権	政治集権と中央・地方の権力関係 地方自治の意義・過疎と過密	4 時間
4	王 元	政治参加	選挙の諸原則 代表制と選挙制度	4 時間
5	王 元	官僚制	政治と行政 官僚制の概念と官僚制化	4 時間
6	王 元	代表的な政治体制	議院内閣制、大統領制と党国体制 米国、英国、日本と中国などそれぞれの特徴	4 時間
7	王 元	国際政治	国際政治と国内政治 グローバルゼーション	4 時間
教 科 書		教科書は用いず、適宜プリントを配布する。		
参 考 書		堀江湛・岡沢憲夫編『現代政治学』（法学書院、2011）。		
備 考		日々の新聞を読み、国内と国際政治情勢の把握に努められたい。		

科 目 名	救命救急学			担 当 者	渡邊 隆夫
科目ナンバリング	1040322050				常勤
D P	1,2			教員研究室	4216
学科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 人の生命を脅かす様々な緊急事態に際して、その個体の救命あるいは回復には、早急の救急対応が最重要である。医療の一環を担う職域に従事する者として、救命救急処置法を熟知することは肝要である。この科目では様々な緊急事態とその原因、危険因子を挙げ、それらに迅速かつ確実に対応する応急処置法を講義しその技術を体得させる。加えて、日常的に遭遇する代表的な救急疾患について、概略を講義し、現場での超早期診断や初期対応、治療の進め方を講義する。 【学習の到達目標】 病院や施設、様々な福祉分野で自信を持って働き、患者さんや高齢者の緊急事態に際しても正しく行動できる知識・技能を身につける。必要に応じ補講を行う。 【成績評価方法】 期末試験 80%、授業課題 20% で評価する。なお他教科実習期間は出席を要しないが、補講を行うので必ず出席すること。 【課題等のフィードバック方法】 講義課題については原則 2 週間以内に解答例を示しフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 教科書で予定範囲を通読すること。 授業資料で復習すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 様々な救急病態を正しく評価し冷静・効果的に対応できるようになる。心肺停止などの事態に対しても適格な行動を取れるようになる。医療人・社会人としてのモラルを高めることができ、医療福祉分野業務において自信を持つことが出来る。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
1. 災害医療・トリアージ 2. 外傷、意識障害 3. 外傷と処置 4. 中毒 1 5. 中毒 2・体温異常 6. 感染症 7. 脳卒中 1 8. 脳卒中 2 9. 心筋梗塞 10. 心不全、ショック 11. 心肺蘇生法					
教 科 書	メディカルスタッフのための救急医学、渡邊隆夫編、医学出版社 ISBN 978-4-87055-126-8				
参 考 書	メディカルスタッフのための内科学、森博愛、伊藤進編、医学出版社 ISBN 978-4-87055-125-1、「わたしたちのからだ と健康」vol.10 応急手当と健康、ファーストエイド、その理論と実践（医学映像教育センター、DVD：図書館にあります）、 「BLS ヘルスケアプロバイダーマニュアル 日本語版—AHA ガイドライン 2005 準拠（大型本）」（American Heart Association：図書館にあります）				
備 考	質問・問い合わせは主担当教員が受け付ける。				

科 目 名	医療福祉関係法規			担 当 者	森田慎二郎
科目ナンバリング	1040322057				常勤
D P	1			教 員 研 究 室	3305
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視能訓練士の国家資格を目指す学生に必要な法学の基礎、視能訓練士法、医療保険その他医療福祉関係法を講義する。				【課題等のフィードバック方法】 授業中に随時行う。	
【学習の到達目標】 視能訓練士の国家試験が解けるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 周りの学生の迷惑になるので私語厳禁	
【成績評価方法】 期末テスト 100%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 視能訓練士国家試験を解く習慣と学力が身につく。	
				【実務家教員担当科目】 該当しない。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間 予習・復習 学修時間		
1	森田慎二郎	法学の基礎	配布資料、過去問を中心に復習する。 4 時間		
2	森田慎二郎	資格法①	配布資料、過去問を中心に復習する。 4 時間		
3	森田慎二郎	資格法②	配布資料、過去問を中心に復習する。 4 時間		
4	森田慎二郎	社会保障全般、保健医療制度	配布資料、過去問を中心に復習する。 4 時間		
5	森田慎二郎	介護保険、生活保護など	配布資料、過去問を中心に復習する。 4 時間		
6	森田慎二郎	学校保健関連法、児童福祉など	配布資料、過去問を中心に復習する。 4 時間		
7	森田慎二郎	障害者法	配布資料、過去問を中心に復習する。 4 時間		
教 科 書		使用しない。			
参 考 書		授業中に指示する。			
備 考		特になし。			

科 目 名		専 門 職 連 携 論		担 当 者	○大黒 一司・大庭 みよ 渡邊 隆夫・伊藤 清世 榊林 雅司・佐藤 尚子 土井 勝幸	
科目ナンバリング		1040322063			常勤	
D P		3,4		教 員 研 究 室	3211	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☑双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 疾病を抱えた患者や障害のある人の課題を解決しニーズに応えることは、対象者（利用者）に対して保健医療福祉の各分野の専門家が協働することであると理解できる。各分野の専門職が関わることでより質の高いサービスを提供することが可能になる。保健医療福祉の連携は、各分野の専門職の視点も大切であるが、むしろチームとしての視点が重要になる。しかし、チームとしてのアプローチが各専門職の技術を持ち寄るだけでは十分とは言えない。対象者(利用者)の課題やニーズに対する共通の理解、価値観にも基づいて関わること（連携）が重要である。 専門職連携論では、多職種連携が求められる背景、多職種連携の理念・定義、実践方法、実践事例の学習を通して連携の基盤と方法について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 ・講義終了後、質問を受け付け回答する。 ・レスポンスペーパーによる質問を受け付けと次回授業時に受講者全体に回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 指定された席で受講する。レスポンスペーパーは毎回必ず提出する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 多職種連携科目を1年～3年で体系的に学びを実践に向けて深めることができる。 【実務家教員担当科目】 病院・施設において多職種連携を実践していた。		
【学習の到達目標】 ・専門職連携が求められる背景について説明できる。 ・専門職連携の理論及び実践方法について理解できる。						
【成績評価方法】 授業時のレスポンスペーパー 30% 課題レポート 70%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習	学修時間		
1	大黒 一司	1) オリエンテーション 2) 本学における多職種連携教育（IPE）	復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
2	大黒 一司	1) 多職種連携（IPW）とは 2) IPE の経緯と定義、目標	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
3	大黒 一司	1) 多職種のチームにおけるさまざまな連携のありかた 2) 多職種連携における課題	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
4	大黒 一司	多職種連携の実践に必要なコミュニケーション能力	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
5	大黒 一司	チームワークの成り立ち	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
6	大庭 みよ（看護師・助産師）	多職種連携における医療福祉連携士の役割	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
7	渡邊 隆夫(医師)	IPW の実際 1 医療における IPW の実際と医師の役割	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
8	相澤 康弘（臨床工学技士）	IPW の実際 2 多職種連携における臨床工学技士の役割と実践	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
9	榊林 雅司（薬剤師）	IPW の実際 3 多職種連携における薬剤師の役割と実践	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
10	伊藤 清世（管理栄養士）	IPW の実際 4 多職種連携における管理栄養士の役割と実践	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
11	佐藤 尚子（看護師・診療看護師）	IPW の実際 5 福祉施設における多職種連携の実際	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
12	土井 勝幸（施設長・作業療法士）	IPW の実際 6 地域包括ケアにおける多職種連携の実際	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
13	大黒 一司、他	グループワーク 多職種連携に必要なこと 事例を通して考える	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
14	大黒 一司、他	グループワーク 多職種連携に必要なこと 事例を通して考える	予習：事前配布資料の授業内容を予習する 復習：配布資料を基に授業内容を復習する。	4 時間		
教 科 書		指定教科書は特になし				
参 考 書		必要に応じて図書や文献を紹介する				
備 考		質問等の問い合わせ：大黒一司（リハビリテーション学科作業療法学専攻）				

科 目 名		専門職連携セミナー		担 当 者	大黒 一司	
科目ナンバリング		1040322064			常勤	
D	P	3,4		教員研究室	3211	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			3 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 これからの専門職に求められるのは、対象者（利用者）を中心としてその多面的なニーズに的確に応える能力です。そのためには専門職連携という基礎的な素養の上に各々の専門性が確立されなければならない。専門職としての成長と専門職連携教育の融合（trans-disciplinary）により、時代が求める専門職連携の中核になりうる人材育成を目指します。 【学習の到達目標】 ・自分の専門性を他の専門職に説明し、他の専門性を学ぶことができる。 ・対象者（利用者）のニーズを多面的に理解し、考えることができる。 ・専門職間の協働によって解決できる共通の課題と目標を抽出することができる。 ・共通目標達成のために専門職としてのそれぞれの役割を理解し実践できる。 ・専門的立場から事例に内在する課題を見出し、各々の目標と計画を作成することができる。 【成績評価方法】 ・グループワークによる「専門職連携セミナー報告書」「成果報告会プレゼンテーション」70% ・リフレクションシート 30%						
【課題等のフィードバック方法】 ・グループワーク担当教員（ファシリテーター）が適宜助言する ・発表会に向けて担当教員が助言する 【履修上の注意・予習・復習について】 グループワークにより模擬事例の討議するため積極的に参加すること。 本科目の履修要件：専門職連携論を履修し合格していること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 多職種への理解が深まるばかりでなく、自らの専門性を再認識する機会となる。 【実務家教員担当科目】 病院・施設において多専門職連携を実践していた。						
授 業 計 画						
1. 専門職連携セミナーの目的と意義、進め方について 2. 連携セミナーにおける学習方法（グループワーク）の理解 3. グループワーク、スケジュール確認、活動計画作成 4. 各職の紹介とこれまでの学び、実習経験など 5. 実習室ツアー 6. 事例について読みあわせと情報の確認 7. 用語について各職種間の共通認識 8. 事例の共通目標検討 9. 共通目標達成に向けた各職種の目標と問題点、問題点解決のための支援策の検討 10. 共通目標達成に向けた目標と問題点、問題点解決のための支援策の共通認識と実現の可能性の検討 11. 発表に向けた準備 12. リフレクション 13. 発表会 14. 発表会						
教 科 書		随時配布する				
参 考 書		講義中に提示する				
備 考		集中講義となるので、講義等スケジュールに注意すること 質問、問い合わせ：作業療法学専攻 大黒一司（3211 研究室）				

科 目 名		介護概論		担 当 者	黒沢 麻美
科目ナンバリング		1040322066			常勤
D	P	1		教員研究室	3313
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 社会福祉の理念と意義をはじめ、社会福祉や介護福祉の歴史や概念などを学び、生活とは何か、生活の構造について考える。その中でも介護とは何か。介護の対象、介護の働き、生活の中でどのような部分を担うのか。介護の歴史を紐解き、社会的課題について学び、次世代に求められる福祉・介護について模索する。 【学習の到達目標】 1. 現代における社会福祉・介護福祉の理念、歴史や対象などの概要を理解できる。 2. 福祉・介護における日常生活支援の基本について理解できるようになる 3. 支援をを必要とする人々（視覚機能障害者・言語聴覚障害者）との基本的な接し方について理解できるようになる 【成績評価方法】 課題の提出 20%、定期試験 80% 【課題等のフィードバック方法】 別途説明する。 【履修上の注意・予習・復習について】 1. 遅刻、飲食・携帯電話は禁止 2. 予習復習に充当する課題を出すのできちんと課題提出すること 3. 2/3 以上の出席をもって受験資格とする 【受講して得られる効果・メリット、その他】 福祉領域の介護とは何か。21 世紀の国民的課題である介護について理解が深まる。 社会の動向について介護を切り札として、考える機会となり、自らの専門である言語聴覚・視覚機能障害領域の対象者理解の深化につながる。 【実務家教員担当科目】 介護福祉士養成課程の資格をもつ教員が講義する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	黒沢 麻美	ガイダンス	予習：シラバスを熟読する。 復習：科目の目標、授業の進め方、評価方法を理解する。		4 時間
2	黒沢 麻美	福祉とは 介護の現状 その 1	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
3	黒沢 麻美	介護の現状 その 2	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
4	黒沢 麻美	介護の誕生、介護福祉の定義	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
5	黒沢 麻美	社会福祉・介護福祉の歴史 1	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
6	黒沢 麻美	社会福祉・介護福祉の歴史 2	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
7	黒沢 麻美	社会福祉の法制度	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
8	黒沢 麻美	認知症の理解 1	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
9	黒沢 麻美	認知症の理解 2	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
10	黒沢 麻美	高齢者を対象とした福祉サービス 1	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
11	黒沢 麻美	高齢者を対象とした福祉サービス 2	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
12	黒沢 麻美	高齢者を対象とした福祉サービス 3	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
13	黒沢 麻美	他職種との連携	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
14	黒沢 麻美	まとめ	予習・復習の内容は、授業毎のテーマに即してその都度指示する。		4 時間
教 科 書		7 訂版 社会福祉概論 中央法規出版			
参 考 書		介護の基本 I 中央法規出版 認知症の理解 中央法規出版			
備 考		特になし			

科 目 名	視能矯正学Ⅲ			担 当 者	○石川奈津美・他
科目ナンバリング	1040442071				常勤
D P	1,4			教員研究室	4201
学科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 臨地実習に向けて、視能訓練士としての職業倫理、コミュニケーション能力、臨床での患者さんへの対応について学修する。さらにチーム医療の一員としての医療連携について学修する。				【課題等のフィードバック方法】 レポート評価、プレゼンテーションのフィードバックは適宜行い、質問には、授業で説明する。	
【学習の到達目標】 臨地実習での円滑なコミュニケーションが取れるようになり、臨床の場での視能訓練士に必要な行動を理解することが出来る。				【履修上の注意・予習・復習について】 配布資料の復習と、ディスカッションの内容についてはよく考え、積極的に発言をすること。授業で不明な点は授業中または直後に質問し、解決すること。 遅刻して授業開始から 20 分を経過した場合は欠席とする。 遅刻を 2 回した場合は、欠席とする。 授業中の態度を評価する。 (居眠り、授業に差しさわりのある会話、スマートフォン使用の禁止)	
【成績評価方法】 定期試験、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポートによる総合評価				【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨地実習に必要な職業倫理、医療連携を考えた行動ができるようになる	
				【実務家教員担当科目】 石川奈津美、その他：臨床経験豊富な視能訓練士	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	石川奈津美・他	視能訓練士の資質と適正①	視能学 p205-206		4 時間
2	石川奈津美・他	視能訓練士の資質と適正②	視能学 p205-206		4 時間
3	石川奈津美	患者及びその家族とのコミュニケーション	配布資料		4 時間
4	石川奈津美	医療従事者とのコミュニケーション	配布資料		4 時間
5	石川奈津美	眼科外来でのマネージメント	配布資料		4 時間
6	石川奈津美	医療連携①	他職種を知るための資料		4 時間
7	石川奈津美	医療連携②	配布資料		4 時間
教 科 書		視能学			
参 考 書		配布資料			
備 考		質問は随時受け付けます			

科 目 名	視覚生理学Ⅱ			担 当 者	石川奈津美
科目ナンバリング	1040442073				常勤
D P	1,2			教員研究室	4201
学科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視覚生理学Ⅰで学修した視野、色覚、光覚、暗順応の基礎知識（概念および検査理論）をより実践的なものとするために、各検査法、機器操作法と検査データに影響する因子についてより詳細に講義をする。また、疾患別の検査データの評価および検査条件の選択なども講義する。 【学習の到達目標】 ①視覚生理に関する検査の意味を理解し、説明することができる。 ②検査に影響する因子について理解し、説明することができる。 ③各疾患における検査の進め方の概要を説明することができる。 ④各疾患における検査結果の特長について理解し、説明することができる。 【成績評価方法】 ①定期試験：90% ②小テスト・レポート：10% 【課題等のフィードバック方法】 ①小テストの解説は次の授業で行う。 ②レポートは、添削し返却する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ①予習・復習は、授業計画を参照し、教科書の該当箇所を読んだ上で授業に臨むこと。 ②受講中の雑談、飲食、携帯電話の使用は禁止する。 ③授業開始から 20 分経過しての遅刻は欠席とする。 ④ 2 回の遅刻で 1 回の欠席とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 実際の臨床では、検査理論と手技の基礎知識のみでは不十分である。視覚生理学Ⅱでは、より詳細な知識の習得および疾患別評価法を習得し、理解を深めることができる。 【実務家教員担当科目】 視能訓練士の実務経験のある教員が教授する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	石川奈津美・他	視野検査① 視野の概念と視野に影響する因子	視能学第 3 版 P64-75 および配布資料を読み、臨床に即した記録法や視野異常に関する評価について予習する		4 時間
2	石川奈津美・他	視野検査② 動的視野測定の実際と視野異常を含む評価	視能学第 3 版 P64-75 および配布資料を読み、臨床に即した記録法や視野異常に関する評価について予習する		4 時間
3	石川奈津美・他	視野検査③ 静的視野測定の実際と視野異常を含む評価	視能学第 3 版 p64-75 および配布資料を読み、視野の概念と視野に影響する因子について予習する		4 時間
4	石川奈津美・他	視野検査④ 静的視野測定の実際と視野異常を含む評価	視能学第 3 版 p64-75 および配布資料を読み、視野の概念と視野に影響する因子について予習する		4 時間
5	石川奈津美・他	視野検査⑤ 中心視野計の実際と視野異常を含む評価	視能学第 3 版 p64-75 および配布資料を読み、視野の概念と視野に影響する因子について予習する		4 時間
6	石川奈津美・他	光覚・暗順応検査	視能学第 3 版 P86-89、配布資料		4 時間
7	石川奈津美	色覚検査 仮性同色表・色相配列検査・アノマロスコープなど	視能学第 3 版 p76-85 および配布資料を読み、色の特性や先天色覚異常について予習する		4 時間
教 科 書		視能学（第 3 版 / 小林義治・他 編 / 文光堂）			
参 考 書		理解を深めよう視野検査（第 2 版 / 監修 松本長太 / 金原出版） 視能学エキスパート 視能検査学（シリーズ監修 / 日本視能訓練士協会 / 医学書院）			
備 考		質問は、授業担当教員に直接すること。			

科 目 名		視覚生理学演習		担 当 者	○石川奈津美・小野 峰子 原口 翔太・安達いづみ	
科目ナンバリング		1040442074			常勤	
D	P	1,3		教 員 研 究 室	4201	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 視覚生理学Ⅱで学修した知識をもとに、視野と色覚検査を中心に、検査機器の取り扱いから検査値の取得まで一連の操作が一人で行えるように演習を行う。 【学習の到達目標】 諸検査の実施とこれより得られる検査値の評価までを独自できることを学習の達成目標とする。 【成績評価方法】 ①実技試験：50%・レポート：50% 【課題等のフィードバック方法】 ①実技試験は、試験終了後にフィードバックを行う。 ②レポートは、添削して返却する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ①学生同士が検者・被検者となり機器演習を行うため、原則遅刻は認めない。 ②受講内容はシラバス参照の上、予習し受講すること。 ③臨地実習に備え、患者さんへの丁寧で分かりやすい説明、正確な検査が行えるよう、繰り返し演習を行うこと。 ④実習室での飲食、携帯電話は使用禁止とし、私語は慎むこと。 ⑤演習時は白衣を着用すること。 ⑥授業開始から 20 分経過しての遅刻は、欠席とする。 ⑦ 2 回の遅刻で 1 回の欠席とする。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 視野検査は、臨床検査において最も基礎的で重要な項目の一つである。講義で習得した知識を実践的な技術にすることができる。本演習の履修は、臨地実習には必須である。 【実務家教員担当科目】 視能訓練士、看護師の実務経験のある教員が教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	石川奈津美・他	動的視野検査①	視能学 P64-75、ハンドブック P146-174、配布資料		1 時間	
2	石川奈津美・他	動的視野検査②	視能学 P64-75、ハンドブック P146-174、配布資料		1 時間	
3	石川奈津美・他	動的視野検査③	視能学 P64-75、ハンドブック P146-174、配布資料		1 時間	
4	原口 翔太・他	静的視野検査①	視能学 P64-75、ハンドブック P146-174、配布資料		1 時間	
5	原口 翔太・他	静的視野検査②	視能学 P64-75、ハンドブック P146-174、配布資料		1 時間	
6	原口 翔太・他	静的視野検査③	視能学 P64-75、ハンドブック P146-174、配布資料		1 時間	
7	原口 翔太・他	静的視野検査④	視能学 P64-75、ハンドブック P146-174、配布資料		1 時間	
8	原口 翔太・他	静的視野検査⑤	視能学 P64-75、ハンドブック P146-174、配布資料		1 時間	
9	石川奈津美・他	中心暗点計	視能学 P64-75、ハンドブック P146-174、配布資料		1 時間	
10	石川奈津美・他	その他の視野検査	視能学 P64-75、ハンドブック P146-174、配布資料		1 時間	
11	石川奈津美・他	その他の視野検査、暗順応検査	視能学 P64-75,86-89 ハンドブック P146-174		1 時間	
12	石川奈津美	仮性同色表検査	視能学 p76-85、ハンドブック p131-143、配布資料		1 時間	
13	石川奈津美	色相配列検査	視能学 p76-85、ハンドブック p131-143、配布資料		1 時間	
14	石川奈津美	アノマロスコープ検査	視能学 p76-85、ハンドブック p131-143、配布資料		1 時間	
教 科 書		視能学（第 3 版 / 小林義治・他 編 / 文光堂）				
参 考 書		理解を深めよう視野検査（第 2 版 / 監修 松本長太 / 金原出版） 視能学エキスパート 視能検査学（シリーズ監修 / 日本視能訓練士協会 / 医学書院）				
備 考		質問は、各担当教員に直接聞くこと。				

科 目 名		生理光学Ⅱ		担 当 者	○原口 翔太・石川奈津美 丹治 弘子	
科目ナンバリング		1040442076			常勤	
D P		1,2		教員研究室	4104	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生理光学Ⅰで学修した基礎知識（屈折・調節検査法と矯正法等）を、より実践的な知識とするために、各検査の流れ、機器の操作法、検査結果の評価と影響する因子等について詳細な演習前の講義を行う。				【課題等のフィードバック方法】 講義終了後、随時質問を受け回答する。生理光学演習のレポートおよび実技試験の結果に基づいて個別に理解できていないところをフィードバックする。		
【学習の到達目標】 生理光学Ⅰで学修した検査理論を確実なものとし、実際の検査の流れ、検査データに影響する因子について理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 ①生理光学Ⅰ、視能検査機器概論Ⅰ・Ⅱを復習すること。②講義終了後は必ず復習すること。③受講中のスマートフォンの使用・飲食厳禁とする。		
【成績評価方法】 定期試験：100% * 再試験実施の場合は 70 点以上を合格ラインとする。 ①授業開始から 20 分を経過した場合は、遅刻ではなく欠席とし、遅刻 2 回で欠席 1 回としてカウントする。②授業中の態度を評価する（居眠り、授業に差しさわりのある会話、スマートフォン使用の禁止）。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 視力・屈折検査は、臨床検査において最も基礎的で重要な項目であり、本講義では実践に則した知識が身に付くとともに、検査結果の評価のコツも習得することができる。なお、本講義の履修は、生理光学演習には必須である。		
【実務家教員担当科目】 視能訓練士がその経験を基に生理光学分野について指導する。						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	石川奈津美	視力検査①	予め視力検査について予習してくる・受講後速やかに復習する	4 時間
2	石川奈津美	視力検査②	予め視力検査について予習してくる・受講後速やかに復習する	4 時間
3	丹治 弘子	調節検査・近見視力検査	予め調節検査・近見視力検査について予習してくる・受講後速やかに復習する	4 時間
4	原口 翔太	検影法	予め検影法について予習してくる・受講後速やかに復習する	4 時間
5	原口 翔太	角膜形状解析検査	予め角膜形状解析検査について予習してくる・受講後速やかに復習する	4 時間
6	原口 翔太	レンズメータ	予めレンズメータについて予習してくる・受講後速やかに復習する	4 時間
7	原口 翔太	コンタクトレンズ検査	予めコンタクトレンズ検査について予習してくる・受講後速やかに復習する	4 時間
教 科 書		① 視能学（第 3 版 / 小林義治・他 編 / 文光堂） ② 眼科検査ガイド（第 3 版 / 飯田知弘・他 編 / 文光堂）		
参 考 書		① 屈折異常とその矯正（改訂第 7 版 / 所 敬 / 金原出版）		
備 考		質問は授業担当教員に直接行うこと。		

科 目 名		生理光学演習		担 当 者	○原口 翔太・小野 峰子 安達いづみ・石川奈津美 丹治 弘子	
科目ナンバリング		1040442077			常勤	
D	P	1,3		教 員 研 究 室	4104	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生理光学Ⅱで学修した知識を基に、屈折・調節の検査・矯正法等の演習を行う。				【課題等のフィードバック方法】 ①実技試験は終了後にフィードバックを行う。②レポートは添削して返却する。また、必要に応じて説明を行う。		
【学習の到達目標】 屈折・調節など検査の流れに沿って正確に行うことができ、得られた検査データの評価が的確に行えることを目的とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 ①予習復習は必ず行うこと。＊必須 ②演習では機器の安全管理を十分行い、事故のないように教員の指示に従うこと。③演習では白衣および内履きを着用すること。三田式万能計測器（ディスタントメータ）、遮眼子、ペンライトは持参すること。④演習前は機器等の準備を行い、演習が開始できる状態で待機すること。⑤グループで演習を行うため、原則、遅刻は認めない。⑥受講中のスマートフォンの使用、飲食は厳禁。		
【成績評価方法】 実技試験：50%+ レポート課題：50% ①授業開始から 20 分を経過した場合は、遅刻ではなく欠席とし、遅刻 2 回で欠席 1 回としてカウントする。②授業中の態度を評価する（居眠り、授業に差しさわりのある会話、スマートフォン使用の禁止）。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 視力・屈折検査は、臨床検査において最も基礎的で重要な項目である。講義で習得した知識を実践的な技術にすることは、臨地実習には必須である。演習は、数名のグループに分けてローテーションで行う。全学生は検者・被検者を体験し検査の進め方、結果の評価、問題点についてグループ内、グループ間で話し合う。		
				【実務家教員担当科目】 視能訓練士の教員がその経験を活かし、検査方法について指導する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	石川奈津美 他	視力検査①	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
2	石川奈津美 他	視力検査②	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
3	石川奈津美 他	視力検査③	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
4	石川奈津美 他	視力検査④	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
5	丹治 弘子	調節検査・近見視力検査①	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
6	丹治 弘子	調節検査・近見視力検査②	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
7	原口 翔太	レンズメータ①	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
8	原口 翔太	レンズメータ②	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
9	原口 翔太	検影法①	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
10	原口 翔太	検影法②	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
11	原口 翔太	角膜形状解析検査①	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
12	原口 翔太	角膜形状解析検査②	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
13	原口 翔太	コンタクトレンズ検査①	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
14	原口 翔太	コンタクトレンズ検査②	生理光学Ⅱで学修したことを基に検査法について予習する		1 時間	
教 科 書		① 視能学（第 3 版 / 小林義治・他 編 / 文光堂） ② 眼科検査ガイド（第 3 版 / 飯田知弘・他 編 / 文光堂）				
参 考 書		① 理解を深めよう 視力検査屈折検査（第 1 版 / 監修 所 敬 / 金原出版） ② 屈折異常とその矯正（改正第 7 版 / 所 敬 / 金沢出版）				
備 考		質問等は演習担当者の教員に直接行うこと。				

科 目 名		視能検査学 I		担 当 者	○坂本 保夫・原口 翔太 石川奈津美	
科目ナンバリング		1040432078			常勤	
D	P	1,2		教員研究室	4205・4104・4201	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 眼科一般検査の基本となる各視能検査の結果の意味とその評価について詳細に説明し、臨床の現場において治療方針決定などに役立つ検査が行えるように、疾患別の検査データ評価、検査条件の選択、検査の組み立て方などについても講義する。また視能検査演習に向けての留意点についても講義する。具体的には、電気生理学的各検査、コントラスト感度検査、対数視力、網膜断層撮影（OCT）、角膜内皮細胞撮影などについて学修する。				【課題等のフィードバック方法】 プリントまたは Google Classroom にて課題の添削でフィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 眼科一般検査の意味を理解し、その検査結果を評価することができる。1) 電気生理学的検査（ERG, VEP, EOG）の検査の基本操作を理解する。2) 角膜内皮細胞の撮影法と解析法の特長を理解する。3) 網膜断層撮影法と得られたデータの意味を理解する。4) コントラスト感度検査の意味を理解する。5) 眼収差計測法と得られるデータの意味を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 予習・復習は授業の理解度を高める上で非常に重要である。予習は教科書・参考書などを用いて十分に行い、受講前に疑問点をまとめておくこと。不明な点は授業中または直後に必ず質問し、解決すること。遅刻時間に関わらず、あきらめずに受講すること。		
【成績評価方法】 課題・小テスト：25% / 定期試験：75%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 各視能検査の仕上げとなる講義であり、平行して行われる演習には必修の授業となる。また本講義で取り上げる項目については、今後の履修科目では単独の項目として取り上げられることはほとんどない。これら検査の最終仕上げといえる。		
【実務家教員担当科目】 認定視能訓練士・眼光学専門（元 Ophthalmic Photographer）の教員が特殊検査機器について講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	坂本 保夫	形態覚の復習	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
2	坂本 保夫	logMAR・コントラスト感度検査（1）	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
3	坂本 保夫	logMAR・コントラスト感度検査（2）	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
4	坂本 保夫	Wave Front Aberration 検査（1）	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
5	坂本 保夫	Wave Front Aberration 検査（2）	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
6	坂本 保夫	Wave Front Aberration 検査（3）	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
7	原口 翔太	OCT 検査（1）	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
8	原口 翔太	OCT 検査（2）	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
9	原口 翔太	OCT 検査（3）	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
10	（他）	電気生理的検査（ERG・VEP）（1）	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
11	（他）	電気生理的検査（ERG・VEP）（2）	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
12	（他）	電気生理的検査（ERG・VEP）（3）	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
13	（他）	電気生理的検査（EOG）	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
14	石川奈津美	スペキュラーマイクロスコープ検査	教科書①②に従って予習・復習		4 時間	
教 科 書		① 視能学・第3 版（小林義治・他 編 / 文光堂） ② 眼科検査ガイド（第3 版 / 飯田知弘・他 編 / 文光堂）				
参 考 書		屈折異常とその矯正・改訂第7 版（所 敬 / 金原出版） 眼科検査 Note（加藤浩晃 / メディカ出版） 専門医のための眼科診療クオリファイ 18 眼底 OCT のすべて（大鹿哲郎・大橋裕一 編 / 中山書店）				
備 考		問合せ：各授業担当教員				

科 目 名		視能検査学演習		担 当 者	○坂本 保夫・原口 翔太 石川奈津美	
科目ナンバリング		1040432079			常勤	
D	P	3,4		教員研究室	4205・4104・4201	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 視能検査学Ⅰの講義で学修した眼科一般検査の技法を習熟することを目的として演習を行う。ここで取り上げる検査は臨地実習Ⅰには必須項目である。授業ではグループに分け、下記の検査を演習し手法を体得する。各グループ内では検者・被検者を体験する。演習後には実技試験またはレポート提出を行う。レポートでは、検査の目的・適応、検査方法、検査結果の評価を行い、検査上の問題点、疑問点について考察する。 < 検査項目 > 1) 網膜電図、2) 視覚誘発電位、3) 眼球電図、4) logMAR 視力、5) コントラスト感度、6) 網膜断層撮影、7) 角膜内皮細胞密度計測 【学習の到達目標】 視能検査学Ⅰで学修した眼科一般検査の操作を正確に行うことができる。また、得られたデータを的確に評価することができる。 【成績評価方法】 実技試験・レポート・口頭試問など：100%						
【課題等のフィードバック方法】 実技試験・口頭試問は終了後、レポート課題はコメントと個別ディスカッションでフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 「視能検査学Ⅰ」の講義資料を十分に復習しておくこと。演習では機器の安全管理を十分行い、事故のないように教員の指示に従うこと。白衣を着用すること。ディスタントメータ、ペンライトは持参すること。グループ演習を行うため、原則、遅刻は認めない。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨地実習Ⅰの前には必ず理解・習得しておかなければならない検査である。 【実務家教員担当科目】 認定視能訓練士・眼光学専門の教員が特殊眼科検査機器について演習する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	他/坂本 保夫	グループ(1)：網膜電図(ERG)/グループ(2)：logMAR・コントラスト感度	(第1回・第2回は連続授業)		1 時間	
2	他/坂本 保夫	グループ(1)：網膜電図(ERG)/グループ(2)：logMAR・コントラスト感度	機器操作法の復習と検査データの整理		1 時間	
3	他/坂本 保夫	グループ(1)：網膜電図(ERG)/グループ(2)：logMAR・コントラスト感度	(第3回・第4回は連続授業)		1 時間	
4	他/坂本 保夫	グループ(1)：網膜電図(ERG)/グループ(2)：logMAR・コントラスト感度	レポート作成（次回提出）		1 時間	
5	他/坂本 保夫	グループ(2)：網膜電図(ERG)/グループ(1)：logMAR・コントラスト感度	(第5回・第6回は連続授業)		1 時間	
6	他/坂本 保夫	グループ(2)：網膜電図(ERG)/グループ(1)：logMAR・コントラスト感度	機器操作法の復習と検査データの整理		1 時間	
7	他/坂本 保夫	グループ(2)：網膜電図(ERG)/グループ(1)：logMAR・コントラスト感度	(第7回・第8回は連続授業)		1 時間	
8	他/坂本 保夫	グループ(2)：網膜電図(ERG)/グループ(1)：logMAR・コントラスト感度	レポート作成（次回提出）		1 時間	
9	石川奈津美/ 原口 翔太	グループ(1)：スペキュラーマイクロスコープ/グループ(2)：OCT	(第9回・第10回は連続授業)		1 時間	
10	石川奈津美/ 原口 翔太	グループ(1)：スペキュラーマイクロスコープ/グループ(2)：OCT	レポート作成（次回提出）		1 時間	
11	石川奈津美/ 原口 翔太	グループ(2)：スペキュラーマイクロスコープ/グループ(1)：OCT	(第11回・第12回は連続授業)		1 時間	
12	石川奈津美/ 原口 翔太	グループ(2)：スペキュラーマイクロスコープ/グループ(1)：OCT	レポート作成（次回提出）		1 時間	
13	他/坂本 保夫	グループ(1)：視覚誘発電位（VEP）/ グループ(2)：Wave Front Analyzer	レポート作成		1 時間	
14	他/坂本 保夫	グループ(2)：視覚誘発電位（VEP）/ グループ(1)：Wave Front Analyzer	レポート作成		1 時間	
教 科 書		視能学・第3版（小林義治・他 編/文光堂） 眼科検査ガイド（第3版/飯田知弘・他 編/文光堂）				
参 考 書		屈折異常とその矯正・改訂第7版（所 敬/金原出版） 専門医のための眼科診療クオリファイ 18 眼底 OCT のすべて（大鹿哲郎・大橋裕一 編/中山書店） 眼科検査の進め方「超実践 手順とポイントが写真でわかる」（坪田一男・根岸一乃/メディカ出版）				
備 考		問合せ・質問：各演習担当教員まで				

科 目 名		視能検査学Ⅱ			担 当 者	○原口 翔太・小野 峰子 石川奈津美・藤掛 福美
科目ナンバリング		1040442080				常勤
D	P	1,2			教員研究室	4104
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	3 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 眼科一般臨床にて行われる検査で後半の外眼部検査、前眼部・透光体検査、眼底検査、眼圧検査、隅角検査、画像検査、眼軸などについて検査方法とその結果の意義と評価について学修する。また、臨床的な視力検査法や疾患別の検査法や治療方針についても学修する。 【学習の到達目標】 眼科一般検査の懸念を理解し、疾患別の検査を組み立てることが出来ることを目標とする。 【成績評価方法】 ①定期試験：100% ②授業開始から 20 分経過しての遅刻は欠席とする。 ③2 回の遅刻で 1 回の欠席とする。 【課題等のフィードバック方法】 ①レポートは、添削して返却する。また、必要なら説明を行う。 ②講義終了後、質問を受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ① 予習・復習は授業の理解度を高める上で非常に重要である。 ② 予習、復習は「視能学」、「眼科検査ガイド」また配布資料を用いて十分に行い受講すること。 ③ 講義室での飲食・スマートフォンの使用は禁止である。私語は慎むこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科一般検査の総まとめとなる講義であり、また、臨地実習に向けて十分に習得されなければならないものである。本講義は平行して行われる視能検査学演習Ⅱには必修である。 【実務家教員担当科目】 視能訓練士、看護師の実務経験のある教員が教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	石川奈津美	疾患と眼科検査について	配布資料			4 時間
2	石川奈津美	疾患と眼科検査について	配布資料			4 時間
3	小野 峰子	眼科診療補助①	配布資料			4 時間
4	小野 峰子	眼科診療補助②	配布資料			4 時間
5	原口 翔太	眼鏡合わせ、不等像視について	視能学 p122-125, 146-147			4 時間
6	原口 翔太 他	ヘルテル・眼圧計	視能学 p216-217, 223-227			4 時間
7	原口 翔太	超音波検査（A モード）	視能学 p238-239			4 時間
8	原口 翔太	眼軸長測定（光学式）	視能学 p154-155, 224			4 時間
9	石川奈津美	フレア検査	眼科検査ガイド p479-481			4 時間
10	藤掛 福美	眼科写真撮影（眼底）①	眼科写真撮影 A to Z（p15-64）			4 時間
11	藤掛 福美	眼科写真撮影（眼底）②	眼科写真撮影 A to Z（p15-64）			4 時間
12	藤掛 福美	眼科写真撮影（前眼部）	眼科写真撮影 A to Z（p170-213）			4 時間
13	小野 峰子	眼底検査（直像鏡・倒像鏡）	視能学 p229-231			4 時間
14	原口 翔太	外眼部、隅角検査、B- モード超音波検査	視能学 p216-220, 227-229, 238-242			4 時間
教 科 書		①視能学（第3版/小林義治・他 編/文光堂） ②眼科検査ガイド（第3版/飯田知弘・他/医学書院） ③眼科写真撮影 AtoZ（第1版日本眼科写真協会/リプロ・サイエンス）				
参 考 書		①視能学エキスパート視能検査学（第2版/和田直子・他 編/医学書院） ②視能学エキスパート光学・眼鏡（第2版/松本富美子・他 編/医学書院）				
備 考		質問は、各担当教員へ聞くこと。				

科 目 名		視能検査学演習Ⅱ		担 当 者	○原口 翔太・小野 峰子 石川奈津美・藤掛 福美	
科目ナンバリング		1040442081			常勤	
D	P	1,3		教 員 研 究 室	4104	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 視能検査学Ⅱで学修した眼科一般検査の知識を基に、検査機器の操作、検査結果の評価が行えるように演習を行い、臨床検査の流れを把握し、習得する。 【学習の到達目標】 眼科臨床における基礎的検査に加え、特殊検査を含めた一連の検査を正確に行うことができ、得られたデータの評価が的確に行えることを目的とする。 【成績評価方法】 ①レポート：100% ②授業開始から 20 分経過しての遅刻は、欠席とする。 ③2 回の遅刻で 1 回の欠席とする。 【課題等のフィードバック方法】 レポートは、添削して返却する。また、必要なら説明を行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 ① 演習では機器の安全管理を十分行い、事故のないように教員の指示に従うこと。 ② 演習では白衣および内履きを着用すること。三田式万能計測器（ディスタントメータ）、ペンライト、遮眼子は持参すること。 ③ 基本的には全回出席のこと。やむを得ない理由で欠席する場合には担当教員に連絡をすること。 ④グループで演習を行うため、原則、遅刻は認めない。 ⑤ 受講中のスマートフォンの使用、飲食は厳禁。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 視力・屈折検査の臨床に即した技術の習得の他、眼軸長・フレア測定など特殊検査の実践的な技術を修得することができる。 演習は、数名のグループに分けてローテーションして行う。全学生は検者・被検者を体験し検査結果・所見を各自評価しレポート提出すること。 【実務家教員担当科目】 視能訓練士、看護師の実務経験のある教員が教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	石川奈津美	疾患と眼科検査①	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
2	石川奈津美	疾患と眼科検査②	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
3	小野 峰子 他	車いす操作、誘導、診療介助等	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
4	小野 峰子 他	眼科診療補助	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
5	原口 翔太	眼鏡合わせ、不等像視検査	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
6	原口 翔太	超音波検査（A モード）	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
7	原口 翔太	眼軸長測定（光学式）	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
8	原口 翔太 他	ヘルテル・眼圧計	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
9	石川奈津美	フレア検査	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
10	藤掛 福美	眼科写真撮影（眼底）①	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
11	藤掛 福美	眼科写真撮影（眼底）②	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
12	藤掛 福美	眼科写真撮影（前眼部）	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
13	小野 峰子	眼底検査（直像鏡、倒像鏡）	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
14	原口 翔太	外眼部、隅角検査、B- モード超音波検査	視能検査学Ⅱを復習しておくこと		1 時間	
教 科 書		①視能学（第3版/小林義治・他 編/文光堂） ②眼科検査ガイド（第3版/飯田知弘・他/医学書院） ③眼科写真撮影 AtoZ（第1版日本眼科写真協会/リプロ・サイエンス）				
参 考 書		①視能学エキスパート視能検査学（第2版/和田直子・他 編/医学書院） ②視能学エキスパート光学・眼鏡（第2版/松本富美子・他 編/医学書院）				
備 考		質問は、各担当の教員に直接聞くこと				

科 目 名		眼科臨床機器学			担 当 者		坂本 保夫	
科目ナンバリング		1040442083					常勤	
D P		1,2			教員研究室		4205	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次		4 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位		必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし						
I C T 活 用		□双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 デジタル画像情報処理技術の普及、新たな光学理論の臨床応用などにより、眼科臨床機器の進化も目覚しい。また視能訓練士法に定める業務の拡大に伴い、これからの視能訓練士は、これら最新臨床機器にも対応していかなければならない。本講義では現在、開発中の機器も含め、可能な限り最新眼科臨床検査機器について解説する。眼科学会の特別講演・シンポジウムなどの最新動画を視聴し、機器の原理、構造、適応、データの評価法などについて学修する。								
【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom を用い課題の添削にてフィードバックを行う。								
【履修上の注意・予習・復習について】 予習は教科書・参考書だけでなく、最新機器のカatalog・使用論文などをメーカーのホームページから調べ、受講前に疑問点をまとめておくこと。不明な点は授業中または直後に必ず質問し、解決すること。遅刻時間に関わらず、あきらめずに受講すること。								
【受講して得られる効果・メリット、その他】 本講義は卒業半年前に開講される。これは臨床の現場に出る前に、できる限り最新の機器に触れることを目的としている。臨床の現場では日々新しい計測法を取り入れた機器が導入され、これらの機器は、臨地実習でも触れる機会は多くない。本講義では最新眼科医療機器の現状、計測法の概念が理解でき、将来必ず役に立つものになる。また講義内では臨床研究データの取り扱い方にも触れるので、卒業研究のまとめ方にも繋がる。								
【成績評価方法】 レポート・プレゼンテーション・ディスカッション：100%								
【実務家教員担当科目】 該当なし								
授 業 計 画								
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間					
			予習・復習					学修時間
1	坂本 保夫	眼科学会動画の視聴（1）	学会抄録集を熟読し、動画視聴の予習を行う					4 時間
2	坂本 保夫	眼科学会動画のディスカッション（1）	動画視聴のディスカッションについて小論文にまとめる					4 時間
3	坂本 保夫	眼科学会動画の視聴（2）	学会抄録集を熟読し、動画視聴の予習を行う					4 時間
4	坂本 保夫	眼科学会動画のディスカッション（2）	動画視聴のディスカッションについて小論文にまとめる					4 時間
5	坂本 保夫	眼科学会動画の視聴（3）	学会抄録集を熟読し、動画視聴の予習を行う					4 時間
6	坂本 保夫	眼科学会動画のディスカッション（3）	動画視聴のディスカッションについて小論文にまとめる					4 時間
7	坂本 保夫	眼科学会動画の視聴（4）	学会抄録集を熟読し、動画視聴の予習を行う					4 時間
8	坂本 保夫	眼科学会動画のディスカッション（4）	動画視聴のディスカッションについて小論文にまとめる					4 時間
9	坂本 保夫	新しい検査機器の読み方（プレゼン1）	機器（器機）のカatalog・使用論文（配布資料）などによる機器の構造・使用法などについて予習・復習（要約）を行う					4 時間
10	坂本 保夫	新しい検査機器の読み方（プレゼン2）	機器（器機）のカatalog・使用論文（配布資料）などによる機器の構造・使用法などについて予習・復習（要約）を行う					4 時間
11	坂本 保夫	新しい検査機器の読み方（プレゼン3）	機器（器機）のカatalog・使用論文（配布資料）などによる機器の構造・使用法などについて予習・復習（要約）を行う					4 時間
12	坂本 保夫	新しい検査機器の読み方（プレゼン4）	機器（器機）のカatalog・使用論文（配布資料）などによる機器の構造・使用法などについて予習・復習（要約）を行う					4 時間
13	坂本 保夫	新しい検査機器の読み方（プレゼン5）	機器（器機）のカatalog・使用論文（配布資料）などによる機器の構造・使用法などについて予習・復習（要約）を行う					4 時間
14	坂本 保夫	新しい検査機器の読み方（プレゼン6）	機器（器機）のカatalog・使用論文（配布資料）などによる機器の構造・使用法などについて予習・復習（要約）を行う					4 時間
教 科 書		プリント配布						
参 考 書		眼科検査ガイド（第3版/飯田知弘・他 編/文光堂） Japanese Journal of Ophthalmology（日本眼科学会） 視覚の科学（日本眼光学学会誌 J-STAGE） IOL&RS（日本白内障屈折矯正手術学会誌：JSCRS）						
備 考		問合せ：坂本保夫						

科 目 名		眼科臨床機器学演習		担 当 者		坂本 保夫	
科目ナンバリング		1040442084				常勤	
D P		2,3		教員研究室		4205	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次		4 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 最新の眼科機器を実際に操作し、機器の特長・構造、検査データの意味、情報処理法とデータ管理システムなどについて学修する。その機器の長所・短所、操作性、測定限界と再現性などを評価する。また眼科学 e-ラーニングにて生理光学の基礎・応用を復習する。				【課題等のフィードバック方法】 レポート課題はコメントでフィードバックを行う。（主に Google Classroom）			
【学習の到達目標】 計測の再現性を検討することにより、検査精度の重要性を知り、関連検査を含め、検査の流れ、臨床研究の進め方を習得する。1) 各検査機器の操作が安全かつ正確に行える。2) 被検者とのコミュニケーションが支障なく行える。3) 各機器のレポートを、効率的にプレゼンテーションが行える。				【履修上の注意・予習・復習について】 「生理光学」の講義資料を十分に復習しておくこと。機器の安全管理を十分行い、事故のないように教員の指示に従うこと。白衣を着用すること。ディスタントメータ、ペンライトは持参すること。グループ演習のため、原則、遅刻は認めない。			
【成績評価方法】 小テスト（e-ラーニング）：40% / レポート（医療機器使用経験）：60%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 最新の臨床機器は自動計測法が多用されているが、得られるデータの良し悪しを最初に評価するのは検査員である。本演習ではその評価のポイント（いわゆるコツ）を知ることができる。疾患の診断・治療方針を決定するには、検査精度の高いデータが要求される。本演習ではこれからの臨床で遭遇する最新機器の精度、特長など詳細な情報が得られる。また最大のメリットは、本演習は最新の機器に触れるチャンスである。			
				【実務家教員担当科目】 該当なし			
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	坂本 保夫	眼光学 e-ラーニング（1）	生理光学の基礎を教科書で復習し、e-ラーニング小テストに備える				1 時間
2	坂本 保夫	眼光学 e-ラーニング（2）	生理光学の基礎を教科書で復習し、e-ラーニング小テストに備える				1 時間
3	坂本 保夫	眼光学 e-ラーニング（3）	生理光学（コンタクトレンズ）を教科書で復習し、e-ラーニング小テストに備える				1 時間
4	坂本 保夫	眼光学 e-ラーニング（4）	生理光学（コンタクトレンズ）を教科書で復習し、e-ラーニング小テストに備える				1 時間
5	坂本 保夫	眼光学 e-ラーニング（5）	生理光学（コンタクトレンズ）を教科書で復習し、e-ラーニング小テストに備える				1 時間
6	坂本 保夫	眼光学 e-ラーニング（6）	生理光学（コンタクトレンズ）を教科書で復習し、e-ラーニング小テストに備える				1 時間
7	坂本 保夫	最新機器の使用体験（1）	演習機器の添付文書（Pmda）を熟読予習し、基本動作となる機器の起動・終了・点検について復習する				1 時間
8	坂本 保夫	最新機器の使用体験（2）	演習機器の添付文書（Pmda）を熟読予習し、基本動作となる機器の起動・終了・点検について復習する				1 時間
9	坂本 保夫	最新機器の使用体験（3）	演習機器の添付文書（Pmda）を熟読予習し、基本動作となる機器の起動・終了・点検について復習する				1 時間
10	坂本 保夫	最新機器の使用体験（4）	演習機器の添付文書（Pmda）を熟読予習し、基本動作となる機器の起動・終了・点検について復習する				1 時間
11	坂本 保夫	最新機器の使用体験（5）	演習機器の添付文書（Pmda）を熟読予習し、基本動作となる機器の起動・終了・点検について復習する				1 時間
12	坂本 保夫	最新機器の使用体験（6）	演習機器の添付文書（Pmda）を熟読予習し、基本動作となる機器の起動・終了・点検について復習する				1 時間
13	坂本 保夫	最新機器の使用体験（7）	演習機器の添付文書（Pmda）を熟読予習し、基本動作となる機器の起動・終了・点検について復習する				1 時間
14	坂本 保夫	最新機器の使用体験（8）	演習機器についてレポートにまとめる				1 時間
教 科 書		配布資料					
参 考 書		眼科検査ガイド（第3版／飯田知弘・他 編／文光堂） OCT アンギオグラフィ コアアトラス（吉村長久 編／医学書院） 視覚の科学（日本眼光学学会誌 J-STAGE）					
備 考		質問・問合せ：坂本保夫					

科 目 名		斜視・弱視		担 当 者	○安達いづみ・小野 峰子 森 隆史・鮫島 智子 稲垣理佐子	
科目ナンバリング		1040432088			常勤・非常勤	
D P		1,2		教員 研 究 室	4201 研究室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 斜視および弱視の定義と概念、分類や病態、病因、治療について学修する。				【課題等のフィードバック方法】 課題および小テストの採点と添削を行い、理解できていない点については解説を加えて指導する。		
【学習の到達目標】 斜視および弱視の病態を理解し、各病因別治療についての理解し、的確な鑑別が可能な知識を身につける。				【履修上の注意・予習・復習について】 ①当日の講義の概要について把握したうえで、講義に臨むこと。 ②受講中は、静寂を保ち、飲食、スマートフォンの使用は禁止とする。 ③交通機関の遅延等の正当な理由がある場合を除き、授業開始から20分経過しての遅刻は、欠席とみなす。		
【成績評価方法】 ①定期試験期間の筆記試験：90% ②授業中の小テスト、課題のレポート等：10% 以上を総合評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 本講義の内容は将来の視能訓練士としての業務の中で中核を成すものである。		
				【実務家教員担当科目】 眼科専門医、認定視能訓練士または認定専任教員の資格を持つ臨床経験豊富な教員および非常勤講師の指導により、斜視や弱視に関する基本から実践までの幅広い知識を得る。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	安達いづみ	斜視の定義および概念・分類・病態	斜視の基本的知識（視能学 P320-326）		4 時間	
2	安達いづみ	斜視の各型	斜視の各型 / 内斜視、外斜視、その他の斜視（視能学 P368-377）		4 時間	
3	安達いづみ	眼振	眼振の分類、生理的眼振・病的眼振（視能学 P456-462）		4 時間	
4	鮫島 智子	弱視の定義・概念	感受性期間のタイムリミットについて		4 時間	
5	鮫島 智子	弱視の原因・病態・分類	不同視弱視、屈折異常弱視、形態覚遮断弱視などについて		4 時間	
6	鮫島 智子	弱視の検査の概要、診断と予後	診断方法について		4 時間	
7	鮫島 智子	弱視治療の原理・方法	屈折矯正、遮閉治療について		4 時間	
8	鮫島 智子	心因性視覚障害	心因性の視力・視野障害について		4 時間	
9	小野 峰子, 他	様々な斜視の治療・手術方法	斜視の手術治療（増強術、減弱術、移動術等）について		4 時間	
10	森 隆史	眼球運動異常の各型	麻痺性斜視、筋原性斜視、機械的斜視、Duane 症候群		4 時間	
11	森 隆史	斜視の観血的治療	斜視手術の実際、斜視型別の手術について		4 時間	
12	稲垣理佐子	斜視症例とそれに対する検査の組み立て①	種々の斜視症例 各症例に必要な検査とその内容、症例に応じた検査の組み立てについて		4 時間	
13	稲垣理佐子	斜視症例とそれに対する検査の組み立て②	種々の斜視症例 各症例に必要な検査とその内容、症例に応じた検査の組み立てについて		4 時間	
14	安達いづみ	斜視のまとめ	斜視に関する知識のまとめ		4 時間	
教 科 書		「視能学」（第3版 / 小林義治 他編 / 文光堂）				
参 考 書		「斜視と眼球運動異常」（丸尾敏夫 編 / 文光堂） 「視能学エキスパート 視能訓練学」（若山曉美 他 / 医学書院）				
備 考		資料は必要と思われる場合に適宜配付する。 その他、参考書は各自で図書館等を利用すること。				

科 目 名	ロービジョン学Ⅱ			担 当 者	○小野 峰子・坂本真由美	
科目ナンバリング	1040442090				常勤	
D P	1,4			教員研究室	4202	
学科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	15 時間	単 位	必修 1 単位	
アクティブ・ラーニング	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用	☑双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 ロービジョンの定義と概念、視覚障害者のリハビリテーションとハビリテーションについて解説する。視覚障害者を取り巻く現状、公的援助、心的側面について学修する。 ロービジョンケアを提供する際の基礎知識として必要なことを網羅した授業とする。				【課題等のフィードバック方法】 レポート提出、および試験で理解できていない点を個別に指導してフィードバックする。		
【学習の到達目標】 ロービジョンの定義、概念、関連法規を把握する。 ロービジョンケアの現状を把握し、ケア方法と理論を理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 予習・復習は授業の理解度を高める上で非常に重要である。 遅刻して授業開始から 20 分を経過した場合は欠席とする。 遅刻を 2 回した場合は、欠席とする。 授業中の態度を評価する（居眠り、授業に差しさわりのある会話、スマートフォン使用の禁止）		
【成績評価方法】 定期試験：90% レポート等：10%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 高齢化社会に伴い、視覚障害者へのリハビリテーション（ロービジョンケア）は重要な分野である。身体障害とは、視覚障害とはという概念から、視覚障害者を取りまく現状を知り、ロービジョンケアへとつながる基礎知識を習得する。		
				【実務家教員担当科目】 小野峰子 / 視能障害専門視能訓練士		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	小野 峰子	障害について、リハビリテーションの概念、視覚障害とは	視能学（第 3 版）P477-484 を読む			4 時間
2	小野 峰子	ロービジョンの定義、眼科におけるロービジョンケア	視能学（第 3 版）P477-484 を読む			4 時間
3	小野 峰子	ロービジョンケアにおける視機能検査と評価、概説	視能学（第 3 版）P477-484 を読む			4 時間
4	小野 峰子	ロービジョン者の心理	視能学（第 3 版）P477-484 を読む			4 時間
5	小野 峰子	視覚障害者への公的制度・援助	視能学（第 3 版）P477-484 を読む			4 時間
6	坂本真由美	点字について①	視能学（第 3 版）P477-484 を読む			4 時間
7	坂本真由美	点字について②	視能学（第 3 版）P477-484 を読む			4 時間
教 科 書		視能学（第 3 版）小林義治・他 編 / 文光堂				
参 考 書		ロービジョンケアマニュアル ロービジョンケアの実践・専門医のための眼科診療クオリファイ 26（山本修一 編 / 中山書店）				
備 考		なし				

科 目 名		ロービジョンリハビリテーション		担 当 者	○小野 峰子・坂本 保夫	
科目ナンバリング		1040442091			常勤	
D P		2,3		教員研究室	4202	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☑双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 ロービジョン者が望む QOL（Quality of Life）の向上のため行うロービジョンケアに必要な視機能評価、補助具等の選定や訓練など、視能訓練士として必要な知識を習得する。さらにロービジョン者の心理的な配慮や視覚障害をどうとらえてケアするかということを考える授業とする。						
【学習の到達目標】 視覚障害疑似体験、ロービジョン関連施設見学と体験を通し、ロービジョンケアの現状と重要性を知る。 ロービジョンケアを的確に行える基礎知識と技術を習得する。 ロービジョン者（児）と支障なくコミュニケーションがとれる。						
【成績評価方法】 定期または随時試験：80% レポート：20%						
【課題等のフィードバック方法】 演習のレポート提出、見学施設のレポート提出により個別にフィードバックする。						
【履修上の注意・予習・復習について】 演習前には、必ずロービジョン概論で学習した事項を十分に復習しておくこと。学外の見学、体験では、実習先の指導者の指示に従うこと。グループによる演習・見学を行うため、原則、遅刻は認めない。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 ロービジョンケアに必要な視機能の評価方法、視覚補助具の特性と選定方法、保有視覚を有効活用するための訓練方法が身につく。ロービジョンケアは包括的なケアであるため眼科医療で完結することは少ない。そのため関係機関との連携は重要で、関連機関について知ること、は、ロービジョンケアの際の広い視点を持つことができるようになるため重要である。						
【実務家教員担当科目】 小野 峰子 / 視能障害専門視能訓練士						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	小野 峰子	包括的なロービジョンケア視機能評価	視能学 472-486 を読んで予習 授業スライドや資料および教科書で復習	4 時間
2	小野 峰子	光学的補助具の選定と指導・EVP/EVD	視能学 472-486 を読んで予習 授業スライドや資料および教科書で復習	4 時間
3	小野 峰子	光学的補助具の選定と指導・ハイパワープラスレンズ 眼鏡	視能学 472-486 を読んで予習 授業スライドや資料および教科書で復習	4 時間
4	小野 峰子	光学的補助具の選定と指導・拡大鏡（手持ち）	視能学 472-486 を読んで予習 授業スライドや資料および教科書で復習	4 時間
5	小野 峰子	光学的補助具の選定と指導・拡大鏡（卓上式）	視能学 472-486 を読んで予習 授業スライドや資料および教科書で復習	4 時間
6	小野 峰子	光学的補助具の選定と指導・単眼鏡	視能学 472-486 を読んで予習 授業スライドや資料および教科書で復習	4 時間
7	小野 峰子	視野障害の理解と偏心視の訓練	視能学 472-486 を読んで予習 授業スライドや資料および教科書で復習	4 時間
8	小野 峰子	CCTV の選定と指導	視能学 472-486 を読んで予習 授業スライドや資料および教科書で復習	4 時間
9	小野 峰子	PC/iPad などの電子機器の活用・日常生活用具の選定と申請	視能学 472-486 を読んで予習 授業スライドや資料および教科書で復習	4 時間
10	小野 峰子	日常生活活動の評価 ADL と QOL ロービジョンケアの帰結評価、専門職との連携	視能学 472-486 を読んで予習 授業スライドや資料および教科書で復習	4 時間
11	小野 峰子	宮城県視覚支援学校 宮城県視覚情報センター見学	視能学 472-486 を読んで予習 見学後のレポートで復習	4 時間
12	小野 峰子	日本盲導犬協会仙台訓練センター見学 アイサポート仙台見学	視能学 472-486 を読んで予習 見学後のレポートで復習	4 時間
13	坂本 保夫	遮光眼鏡①	視能学 472-486	4 時間
14	坂本 保夫	遮光眼鏡②	視能学 472-486	4 時間
教 科 書		視能学（第3版 / 小林義治・他 編 / 文光堂）		
参 考 書		眼科検査法ハンドブック（第4版 / 小口芳久・他 / 医学書院） ロービジョンケアの実際・専門医のための眼科診療クオリファイ 26（山本修一 編 / 中山書店）		
備 考		適宜、演習資料を配布する。		

科 目 名		視能訓練学Ⅱ		担 当 者	○安達いづみ・小野 峰子 石川奈津美
科目ナンバリング		1040442095			常勤
D	P	1,2		教 員 研 究 室	4201 研究室
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	15 時間	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし			
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視能訓練学Ⅰで学修した内容をさらに深め、AC/A 比の検査法とその評価、斜視の観血的視能矯正の適応と方法、量定と手術筋の選択、副作用と合併症、薬理学的視能矯正の適応と方法、副作用、合併症について講義する。また、光学的視能矯正（眼鏡とコンタクトレンズ、プリズム・フィルター）、弱視視能訓練の適応と治療方法について講義する。					【課題等のフィードバック方法】 小テスト・課題の解説は次の授業で行う。 疑問点については講義中、講義後とも質問を受け付け、回答する。
【学習の到達目標】 各症例に応じて斜視・弱視検査の流れを組み立て、得られた結果を正確に評価し、訓練計画を立てることができるようになることを目的としている。					【履修上の注意・予習・復習について】 ①当日の講義の概要について把握したうえで、講義に臨むこと。 ②受講中は、静寂を保ち、飲食、スマートフォンの使用は禁止とする。 ③交通機関の遅延等の正当な理由がある場合を除き、授業開始から20分経過しての遅刻は、欠席とみなす。
【成績評価方法】 ①定期試験期間の筆記試験：90% ②授業中の小テスト、課題等：10% 以上を総合評価する。					【受講して得られる効果・メリット、その他】 各症例に応じて斜視・弱視検査の流れを組み立て、得られた結果を正確に評価し、訓練計画を立てることができるようになる。
【実務家教員担当科目】 認定視能訓練士または認定専任教員の資格を持つ臨床経験豊富な教員が、斜視検査および斜視治療の理論や方法について臨床に則した指導を行う。					

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	石川奈津美	眼球運動検査	視能訓練学Ⅰ（眼球運動検査）で使用した資料にて復習、知識の確認。	4 時間
2	安達いづみ	眼位検査・9 方向眼位撮影	視能訓練学Ⅰ（眼位検査・眼球運動検査）で使用した資料にて復習し、9 方向眼位撮影の要点について確認。	4 時間
3	安達いづみ	AC/A 比	視能学 P188-197 を読んで予習。講義資料および教科書で復習。	4 時間
4	安達いづみ	斜視の検査の進め方	視能訓練学Ⅰ（眼位、眼球運動、両眼視機能、網膜対応検査）で使用した資料にて復習し、検査の流れを確認。症例に応じた斜視検査の選択と進め方について確認。	4 時間
5	小野 峰子	斜視手術の考え方	視能学 P396-406 を読んで予習。講義資料および教科書で復習。	4 時間
6	安達いづみ	小児の視力と弱視訓練	視能学 P59-61,P443-452 を読んで予習。講義資料および教科書で復習。	4 時間
7	安達いづみ 他	斜視の光学的治療	視能学 P409-415 を読んで予習。講義資料および教科書で復習。	4 時間
教 科 書		「視能学」（第3版/小林義治 他編/文光堂） 「眼科検査ガイド」（第3版/飯田知弘 他/文光堂）		
参 考 書		「視能学エキスパート 視能訓練学」（若山暁美 他/医学書院） 「目でみる斜視検査の進めかた」（佐藤美保/金原出版） 「小児の弱視と視機能発達」（三木淳司・荒木俊介 編/三輪書店）		
備 考		その他、参考書は各自で図書館等を利用すること。		

科 目 名		視能訓練学演習Ⅱ		担 当 者	○安達いづみ・小野 峰子 石川奈津美	
科目ナンバリング		1040442096			常勤	
D	P	2,4		教 員 研 究 室	4201 研究室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 視能訓練学Ⅱで学んだ斜視の診断に必要な検査、眼位・眼球運動検査、両眼視機能検査と網膜対応検査、および光学的視能矯正や弱視訓練について演習により学修する。				【課題等のフィードバック方法】 レポート・課題・小テストの解説は授業内または個別のコメントで行う。 疑問点については授業中に質問を受け、回答する。		
【学習の到達目標】 演習を通して、各症例に応じた斜視・弱視検査の流れを組み立て、得られた結果を正確に評価し、訓練計画を立てることができるようになることを目的としている。				【履修上の注意・予習・復習について】 ①授業内容は演習、グループワーク、講義等を組み合わせて行う。 ②授業中は、静寂を保ち、飲食、スマートフォンの使用は禁止とする。 ③交通機関の遅延等の正当な理由がある場合を除き、授業開始から20分経過しての遅刻は、欠席とみなす。		
【成績評価方法】 レポート・課題・小テスト等にて評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 演習を通して、各症例に応じた斜視・弱視検査の流れを組み立て、得られた結果を正確に評価し、訓練計画を立てることができるようになる。		
				【実務家教員担当科目】 認定視能訓練士または認定専任教員の資格を持つ臨床経験豊富な教員が、斜視検査および斜視治療の理論や方法について臨床に則した指導を行う。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	石川奈津美	眼球運動検査①	視能訓練学Ⅰ・Ⅱの講義資料、「視能学」で予習、復習			1 時間
2	石川奈津美	眼球運動検査②	視能訓練学Ⅰ・Ⅱの講義資料、「視能学」で予習、復習			1 時間
3	安達いづみ	眼位検査、9 方向眼位撮影①	視能訓練学Ⅱの講義資料で予習、復習			1 時間
4	安達いづみ	眼位検査、9 方向眼位撮影②	視能訓練学Ⅱの講義資料で予習、復習			1 時間
5	安達いづみ	AC/A 比①	視能訓練学Ⅱの講義資料、「視能学」で予習、復習			1 時間
6	安達いづみ	AC/A 比②	視能訓練学Ⅱの講義資料、「視能学」で予習、復習			1 時間
7	安達いづみ	斜視の検査の進め方①	視能訓練学Ⅱの講義資料、「視能学」で予習、復習			1 時間
8	安達いづみ	斜視の検査の進め方②	視能訓練学Ⅱの講義資料、「視能学」で予習、復習			1 時間
9	小野 峰子	斜視手術の考え方①	視能訓練学Ⅱの講義資料、「視能学」で予習、復習			1 時間
10	小野 峰子	斜視手術の考え方②	視能訓練学Ⅱの講義資料、「視能学」で予習、復習			1 時間
11	安達いづみ	小児の視力と弱視訓練①	視能訓練学Ⅱの講義資料、および「視能学」P443-452 で予習、復習			1 時間
12	安達いづみ	小児の視力と弱視訓練②	視能訓練学Ⅱの講義資料、および「視能学」P443-452 で予習、復習			1 時間
13	安達いづみ	斜視の光学的治療①	視能訓練学Ⅱの講義資料、および「視能学」P409-415 で予習、復習			1 時間
14	安達いづみ	斜視の光学的治療②	視能訓練学Ⅱの講義資料、および「視能学」P409-415 で予習、復習			1 時間
教 科 書		「視能学」（第3版/小林義治 他編/文光堂） 「眼科検査ガイド」（第3版/飯田知弘 他/文光堂）				
参 考 書		「視能学エキスパート 視能訓練学」（若山暁美 他/医学書院） 「目でみる斜視検査の進めかた」（佐藤美保/金原出版） 「眼科検査法ハンドブック」（第4版/小口芳久・他/医学書院）				
備 考		その他、参考書は各自で図書館を利用すること。				

科 目 名		視覚機能学総合演習		担 当 者	○小野 峰子・坂本 保夫 辻川 寛・原口 翔太 安達いづみ・石川奈津美	
科目ナンバリング		1040442097			常勤	
D	P	3,4		教員研究室	4202	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 臨地実習へ出るための眼科的疾患に関する知識、検査方法及び検査手技等の技術面について総合的に演習を行う。 また臨地実習に向けて知識、技術が身につけているか総合演習試験を実施する。 【学習の到達目標】 臨地実習の場で必要な患者さんの安全、そして安心して対応させていただけるような力を身につける。 【成績評価方法】 総合演習実技試験による評価 【課題等のフィードバック方法】 演習の際にフィードバックを行う。さらに総合演習実技試験の際も最終的なフィードバックを各自に行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 欠席は原則しないこと。演習の際は被検者を常に患者さんだと思って接すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨地実習の場での適切な態度、技能が習得できる 【実務家教員担当科目】 小野 峰子、安達いづみ、原口 翔太、石川奈津美：全員が臨床経験豊富な視能訓練士である。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	小野 峰子、安達いづみ、原口 翔太、石川奈津美、他	レフラクトメータからの視力検査①	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
2	小野 峰子、安達いづみ、石川奈津美、原口 翔太、他	レフラクトメータからの視力検査②	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
3	小野 峰子、安達いづみ、原口 翔太、石川奈津美、他	レフラクトメータからの視力検査③	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
4	小野 峰子、安達いづみ、原口 翔太、石川奈津美、他	レフラクトメータからの視力検査④	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
5	安達いづみ、小野 峰子、原口 翔太、石川奈津美、他	眼位・Bagolini SG Test 実技試験①	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
6	安達いづみ、小野 峰子、原口 翔太、石川奈津美、他	眼位・Bagolini SG Test 実技試験②	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
7	原口 翔太、小野 峰子、安達いづみ、石川奈津美、他	眼底検査口答試験①	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
8	原口 翔太、小野 峰子、安達いづみ、石川奈津美、他	眼底検査口答試験①	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
9	小野 峰子、安達いづみ、原口 翔太、石川奈津美、他	問診の実際	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
10	小野 峰子、安達いづみ、原口 翔太、石川奈津美、他	総合演習実技試験①	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
11	小野 峰子、安達いづみ、原口 翔太、石川奈津美、他	総合演習実技試験②	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
12	小野 峰子、安達いづみ、原口 翔太、石川奈津美、他	総合演習実技試験③	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
13	小野 峰子、安達いづみ、原口 翔太、石川奈津美、他	総合演習実技試験④	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
14	小野 峰子、安達いづみ、原口 翔太、石川奈津美、他	総合演習実技試験⑤	視能学、眼科検査法ハンドブック、授業配布資料の復習		1 時間	
教 科 書		視能学 第3版、眼科検査法ハンドブック、眼科検査ガイド 第3版				
参 考 書		理解を深めよう視力検査・屈折検査 理解を深めよう視野検査 第1版補訂版				
備 考		適宜資料を配布する				

科 目 名		視能訓練学Ⅲ		担 当 者	○安達いづみ・小野 峰子 原口 翔太・石川奈津美 他	
科目ナンバリング		1040442098			常勤	
D P		1,2		教員 研 究 室	4201 研究室	
学 科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 斜視・弱視の視能矯正訓練法や家庭訓練法について、その基本を学習する。また、斜視・弱視、その他の疾患を総合的に判断し、臨床での理解を深めるために、症例検討の仕方をロールプレイで学習する。		【課題等のフィードバック方法】 症例検討・ロールプレイの評価を行い、概説する。				
【学習の到達目標】 斜視・弱視の視能矯正訓練法や家庭訓練法を理解する。 症例の検討をロールプレイすることで実践する力を養い、臨地実習で生かせるようにする。		【履修上の注意・予習・復習について】 ①今まで履修した全ての知識を使い、症例検討・ロールプレイを行うこと。 ②受講中は、静寂を保ち、飲食、スマートフォンの使用は禁止。 ③授業開始から 20 分経過しての遅刻は、欠席とする。遅刻 (20 分以内) 2 回で欠席 1 回とする。				
【成績評価方法】 定期試験（小テスト含）50% 症例検討・ロールプレイ、50%		【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨地実習へ向けて、実践的な場面が想定できるようになる。				
【実務家教員担当科目】 視能訓練士、看護師の実務経験のある教員が担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	安達いづみ、他	斜視の視能矯正訓練	「視能学」P416 ～ 426、配布資料		4 時間	
2	安達いづみ、他	斜視の視能矯正訓練	「視能学」P416 ～ 426、配布資料		4 時間	
3	安達いづみ、他	斜視・弱視の家庭訓練	配布資料		4 時間	
4	安達いづみ、他	斜視・弱視の家庭訓練	配布資料		4 時間	
5	安達いづみ、小野 峰子、他	眼科疾患の症例検討（グループワーク、ロールプレイ）	症例提示、グループを発表後グループワーク		4 時間	
6	安達いづみ、小野 峰子、他	眼科疾患の症例検討（グループワーク、ロールプレイ）	グループワーク、ロールプレイ		4 時間	
7	安達いづみ、小野 峰子、他	眼科疾患の症例検討（グループワーク、ロールプレイ）	グループワーク、ロールプレイ		4 時間	
8	安達いづみ、小野 峰子、他	眼科疾患の症例検討（グループワーク、ロールプレイ）	グループワーク、ロールプレイ		4 時間	
9	安達いづみ、小野 峰子、他	眼科疾患の症例検討（グループワーク、ロールプレイ）	グループワーク、ロールプレイ発表		4 時間	
10	安達いづみ、小野 峰子、他	斜視・弱視の症例検討（グループワーク、ロールプレイ）	症例提示、グループを発表後グループワーク		4 時間	
11	安達いづみ、小野 峰子、他	斜視・弱視の症例検討（グループワーク、ロールプレイ）	グループワーク、ロールプレイ		4 時間	
12	安達いづみ、小野 峰子、他	斜視・弱視の症例検討（グループワーク、ロールプレイ）	グループワーク、ロールプレイ		4 時間	
13	安達いづみ、小野 峰子、他	斜視・弱視の症例検討（グループワーク、ロールプレイ）	グループワーク、ロールプレイ		4 時間	
14	安達いづみ、小野 峰子、他	斜視・弱視の症例検討（グループワーク、ロールプレイ）	グループワーク、ロールプレイ発表		4 時間	
教 科 書		「視能学」（第 3 版 / 小林義治 他編 / 文光堂） 「現代の眼科学」（改訂第 13 版 / 所 敬監修 / 金原出版株式会社）				
参 考 書		視能学エキスパート「視能訓練学」（公益社団法人日本視能訓練士協会監修 / 医学書院） 病気がみえる vol12（医療情報科学研究所 / メディックメディア発行）				
備 考		症例検討・ロールプレイについては、各担当教員に質問すること。				

科 目 名		臨地実習Ⅰ		担 当 者	○小野 峰子・坂本 保夫 辻川 寛・原口 翔太 安達いづみ・石川奈津美	
科目ナンバリング		1040442099			常勤	
D	P	1,4		教員研究室	4202	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	315 時間	単 位	必修 7 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 1) 指定病院眼科における臨地の実習とする。 2) 実習内容は、配属された実習施設の指導者の指導計画に従い施設の医師、視能訓練士が行う外来業務の見学と、監督下での実技となる。 3) 医療チームの一員として協調性、独自性を養うとともに、施設で催される通常臨床業務以外の行事（症例検討会、抄読会、研究会他）には、許可が得られる限り、積極的に参加する。 4) 実習学生は、自身の卒業研究テーマに関係する事項についても臨地実習中にその準備を進め、構想を練って帰学する。				【課題等のフィードバック方法】 実習日誌等臨地実習先の指導者より課題が評価され、今後の学習に生かされる。		
【学習の到達目標】 日常眼科診療の中で視能訓練士としての業務を把握し、その流れを身につけ、臨地実習Ⅱに備える。				【履修上の注意・予習・復習について】 臨地実習の手引きに記載されている学生の実習心得を順守する。		
【成績評価方法】 1) 配属された施設の指導者による評価 2) 症例報告会での発表を専任教員が評価 3) 帰学後に提出する実習報告書を専任教員が評価 上記の3評価を以って総合評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 1) 初めての臨床現場での学習となるため、これに続く第2回目の臨地実習への準備にも役立つ。 2) 卒後の国家試験に向けての学習目標など、受験へのメリットはきわめて高い。		
				【実務家教員担当科目】 視能訓練士		
授 業 計 画						
1) 学内および臨地実習施設でのオリエンテーション 2) 実習施設の指導者の計画に従った実習 3) 本専任教員による巡回指導 4) 帰学後の症例報告およびプレゼンテーションに対する評価						
教 科 書		① 視能学（第3版/小林義治他 編/文光堂） ② 眼科検査法ハンドブック（第3版/飯田知弘他 編/文光堂） ③ 本専攻作成プリント 眼科検査ガイド				
参 考 書		配属施設所有の図書				
備 考		なし				

科 目 名		臨地実習Ⅱ		担 当 者	○小野 峰子・坂本 保夫 辻川 寛・原口 翔太 安達いづみ・石川奈津美	
科目ナンバリング		10404420100			常勤	
D P		2,3		教員研究室		4202
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次		4 年次・前期
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	315 時間	単 位	必修 7 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☑双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当する
【授業内容】 最終の学外実習（臨床実習）である。 ① 実習施設は原則、眼科病院・眼科医院とする。② 実習先は原則、指導教員が配置する。③ 実習は実習指導要領に従い、配属先の指導計画で行う。④ 実習内容は下記項目が主となる。1) 医師・視能訓練士の業務見学 2) 基本的な検査の実地練習 3) 勉強会、研究会への参加 4) その他：卒業研究の資料・文献検索 ⑤ 医療チームの一員として協調性、独自性を養う。 【学習の到達目標】 ① 視能訓練士に最低限必要な知識と技能を習得する。 ② 眼科診療の流れを把握し、検査を組み立てることができる。 ③ 社会生活に必要な礼節を身に付ける ④ 患者への適切な対応の仕方を理解し、実践する。 【成績評価方法】 下記により総合評価する。 ① 実習施設の指導者による評価 ② 実習報告書 ③ 実習報告・症例報告会（プレゼンテーション） 【課題等のフィードバック方法】 実習日誌等、臨地実習先の指導者の評価を参考に今後の学習に生かす。 【履修上の注意・予習・復習について】 臨地実習の手引きに記載されている学習の実習心得を順守する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 コミュニケーション能力や視能訓練士国家試験受験に必要な知識と技能が修得できる。 【実務家教員担当科目】 眼科医、視能訓練士						
授 業 計 画						
1) 学内および臨地実習施設でのオリエンテーション 2) 実習施設での指導者の計画に従った臨床実習 3) 本専攻教員による面談、巡回指導 4) 帰学後の症例報告およびプレゼンテーションに対する討論および評価						
教 科 書		① 視能学（第3版/小林義治他 編/文光堂）② 眼科検査ガイド（第3版/飯田知弘他 編/文光堂）③ 本専攻作成プリント				
参 考 書		実習施設所蔵の文献・雑誌				
備 考		なし				

科 目 名	視覚機能学特別セミナー			担 当 者	○小野 峰子・坂本 保夫 辻川 寛・原口 翔太 安達いづみ・石川奈津美
科目ナンバリング	10404420101				常勤
D P	1,2			教 員 研 究 室	4202
学 科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	4 年次・通年
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	60 時間	単 位	必修 4 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】 4 年間の正規授業で、学生が聴講する機会がなかった視覚機能学に関連するトピックスについて、その領域の第一人者によるセミナーを企画し、視能訓練士、視覚機能学専攻者にふさわしい知識・技能を修得させる機会を与える。				【課題等のフィードバック方法】 国家試験対策の実力テストを 10 回計画し、その結果を個別面談でフィードバックをして指導する。 【履修上の注意・予習・復習について】 つねに問題意識をもって学修に取り組むこと。	
【学習の到達目標】 卒後の進路に有用な最新の診断技能にふれ、知識を増す。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 国家試験対策として、視能訓練士に必要な知識の再学習と総合的な知識を評価する。	
【成績評価方法】 出席状況、レポート、実力テスト（10 回実施）他				【実務家教員担当科目】 視覚機能学専攻教員がそれぞれの授業分野、得意分野を再学習する指導を行う。	
授 業 計 画					
実力テストを 10 回計画し、それに向けての勉強の習慣化と、ひいては国家試験合格に必要な知識を総復習する。					

科 目 名		視覚機能学研究法		担 当 者	○小野 峰子・坂本 保夫 辻川 寛・原口 翔太 石川奈津美	
科目ナンバリング		10404420102			常勤	
D P		1,2		教員研究室	4202	
学科（専攻）		リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）		配 当 年 次	3 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	30 時間	単 位	必修 1 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 専門分野が異なる各専攻教員による。視機能学・眼科学分野では、幅広い領域にわたる疾患を扱い、眼には様々な組織があり、その研究にもあらゆる方向（基礎～臨床）から施行されている。本講義では研究方法の基礎として眼科・視機能分野など、これまでの研究論文を利用して、研究の進め方、特に卒業研究の進め方について学修する。 【学習の到達目標】 症例報告、卒業研究さらには大学院進学に繋げる。 【成績評価方法】 主に、レポート・プレゼンテーション 【課題等のフィードバック方法】 各専攻教員による。 【履修上の注意・予習・復習について】 特記事項なし。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 エビデンスに基づいた、論理的思考を身につけ、実際には臨床実習の症例報告および卒業研究のレベルアップが期待できる。 【実務家教員担当科目】 医学博士、工学博士、理学博士による授業						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	小野 峰子	視能訓練士の視点でのテーマ選定・文献検索・研究法	配布資料・文献を読む		1 時間	
2	小野 峰子	研究の倫理的配慮と倫理委員会での承認について	配布資料・文献を読む		1 時間	
3	小野 峰子	臨床研究・症例報告とプレゼンテーションについて	配布資料・文献を読む		1 時間	
4	小野 峰子	原著論文を読む・抄読会	配布資料・文献を読む プロトコルの作成		1 時間	
5	原口 翔太	臨床研究の進め方	臨床研究法を学ぶ		1 時間	
6	石川奈津美	症例報告と発表の技法	参考になる臨床論文を配布		1 時間	
7	石川奈津美	プレゼンテーションの実際	適切な症例を選び発表の準備		1 時間	
8	坂本 保夫	文献データベース（医中誌 Web・メディカルオンライン・MEDLINE 等）による眼光学系の文献検索方法	文献データベースの利用マニュアルを参照		1 時間	
9	坂本 保夫	眼光学系の文献検索と抄録のまとめ方	眼光学分野論文（和文および英文）の検索とプレゼンテーションの準備		1 時間	
10	坂本 保夫 / 原口 翔太	プレゼンテーションとディスカッション（1）	プレゼンテーションの準備		1 時間	
11	坂本 保夫 / 原口 翔太	プレゼンテーションとディスカッション（2）	発表した眼光学分野論文のレポート		1 時間	
12	辻川 寛	研究テーマの発見と実験計画	配布資料の復習と課題		1 時間	
13	辻川 寛	実験の遂行とデータの整理と解析	配布資料の復習と課題		1 時間	
14	辻川 寛	論文・プレゼンテーションの作成	配布資料の復習と課題		1 時間	
教 科 書		特に指定しない、適宜資料を配布する				
参 考 書		各授業担当教員が推薦する学術雑誌				
備 考		問合せ：各授業担当教員				

科 目 名	視覚機能学研究			担 当 者	○小野 峰子・全専攻教員	
科目ナンバリング	10404420103				常勤	
D P	2,4			教員研究室	4202	
学科（専攻）	リハビリテーション学科（視覚機能学専攻）			配 当 年 次	4 年次・通年	
授 業 形 式	実習	授 業 時 間	90 時間	単 位	必修 2 単位	
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当する
【授業内容】 これまでは視覚に関わる広い領域の知識と技術（検査・訓練）を身に付けることを重視した学習であった。卒業研究では、視覚領域において各自が関心・疑問を持つ事象を研究テーマとして採り上げ、より深い知識の探求を行うとともに、「視覚を科学する」ことを通して論理的思考とその実践方法を学修する。4 年間の集大成となる。				【課題等のフィードバック方法】 3 年生以下に研究成果および問題点を研究発表会を通じ知らせる。		
【学習の到達目標】 文献の検索・収集、研究テーマの選定、立案から実行、まとめ（プレゼンテーションと論文作成）まで、研究方法の流れを知り、研究を実行して完結させることを到達点とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 ■ 配属された各研究室の指導教員の指示・方針に従うこと。 ■ 各研究室前のゼミメンバー表などを使用し、常に所在を明らかにすること。 ■ グループ研究となるので、メンバーの迷惑になるような行動は控えること。 ■ 研究上で知り得た個人情報は、慎重に取り扱い、一切、漏洩させてはならない		
【成績評価方法】 ■ 研究への取り組み態度■ プレゼンテーション（質疑応答を含む） ■ 研究論文を総合的に評価。 ・論文の構成、研究方法の正確性、考察の妥当性などを重視 ・研究成果の良し悪しは重視しない				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ■ 科学的な洞察力と論理的な思考力が養われ、今後の実社会で活躍していくためには有用である。 ■ 日々の努力を「継続」する習慣が、卒業研究を通して身につく。		
				【実務家教員担当科目】 眼科医、視能訓練士 工学博士 理学博士		
授 業 計 画						
1) 研究は通年に渡って行う。 2) 3 年次前期開始前に研究グループ分けを行い、専攻内の各研究室に配属。研究グループ分け：各研究室紹介にて提案された研究テーマと配属人数を参考に原則、希望制をとる。 3) 4 年次前期の後半は臨地実習Ⅱが実施されるため、実習前は主に研究の立案、文献検索となる。臨地実習後から本格的な研究（実験・調査など）を開始。 4) 9 月中旬：中間発表（ポスター展示） 5) 10 月初旬：成果発表（口頭発表） 6) 12 月末：論文提出（予定）						

東北文化学園大学

TOHOKU BUNKA GAKUEN UNIVERSITY

教務課

981-8551 仙台市青葉区国見6丁目45-1
TEL 022-233-6116 FAX 022-233-6419
教務課 kyomu@office.tbgu.ac.jp